

ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第01課 段落001 [2012-01-04]

SCIENCE OF LIFE - STUDY COUESE

FIRST LESSON

Analysis of Life - Awareness of Cause

001 This course on the science of life will get deeper as we proceed with the study.

生命の科学－学習コース

第1課

生命の分析－因への気付き

001この生命の科学コースは学習を進めるにつれて次第に深遠なものになるでしょう。

### 【解説】

今回は2007年1月にこの「生命の科学」第1課を始めた訳ですから、あれから5年近くが経過しました。その間、「テレパシー」、「宇宙哲学」と学習を続け、今回再び「生命の科学」に戻って来たという訳です。

再開するに当っては、私としては前回、遠い昔に述べたことを特に参照はせず、新たな気持ちで各章各段落に対峙したいと考えております。

重要なのは、継続的な探求、即ち創造主への探求の道を歩むことだと様々な教師が伝えていることです。もちろん、その継続の中では時に過失を犯しながらも、本来人として望まれている方向に自身を訓練することで、次第に人間性も磨かれて行くものと思われまます。

よくある年齢以上になると、老化防止に健康維持に様々な努力、即ち若者の時代には不要であった努力を続ける傾向がありますが、本来、歩む道は退歩か進歩かのいずれかであり、こうした精進の道が全てのような気がしています。

一方で「生命の科学」は一見、理路整然と記述されているようには思えませんし、そもそも「意識」という特別な言葉の概念が説明もなく出現する訳で、多くの読者はとまどうことも多いように思います。これら「生命の科学」の記述を理解する上でのポイントは、「本文中（第10課段落378）に記述のあったジグゾーパズルのたとえに記されているように思います。決して知識として記憶するための学習書ではなく、各自が心の底から理解した断片を大切に保持し、やがてそれらが多数組み合わせることで、自分自身で全体像が見えて来るようなこと、即ち「悟り」を目的としているように思います。

従って、一度に全てを理解しようと思う必要はありません。一行一行読む中で自分で気付いたポイントを大切に書きとめ、次なる本文に取り組みれば良いのかと思っております。

本講座で学ぶ「生命」とは大宇宙に遍満する宇宙空間を母体とする生命エネルギーを指す訳で、それらが全宇宙空間で同じ源泉、同じ法則によって動かされていることを次々に実感して行く訳ですから、その学習を進めるにつれ、深遠なものとなることは容易にうなずけます。

002 When we speak of life, we mean in every phase of life's expression. In plain -we are going to explore life.

002 私達が生命について語る時、私達は生命が表現するあらゆる側面を意味しています。簡潔に言えば、私達は生命を探究しようとしているのです。

### 【解説】

実は先日、機会があり、友人とトルコ旅行のツアーに参加しました。その中でコンヤというトルコ中部の文化都市で13世紀に活躍したメヴラーナ（正式な名前は「メヴラーナ・ジャラルルッディーン・ルーミー」1207-1273）という以後、トルコの精神的な支えとなる思想家の足跡に触れることが出来ました。

日本では旋舞（回る踊り）の宗教の創始者という何か神秘主義思想のように思われがちな人物ですが、現地トルコではメヴラーナは今もって多くの人々から敬愛されている方で、文字通り人々の心の神の愛、人の愛を蘇らせた人物です。イスラムについて日本ではその中身について知る機会は少なかったのですが、今回のトルコ旅行で、モスクの中にキリスト教時代の壁画やモザイク画が残っている等、イスラムの寛容さについて初めて知ることになりました。

いずれ詳しくご紹介する機会もあると思いますが、その後日本で探し当てた本の中にメヴラーナを評したトルコの詩人クサクレクという言葉があり、本項に関連するため、一つご紹介しておきます。「私は思い知った。真の道とはすなわち神の探求である。これこそが真の技術であり、他は全て児戯に過ぎない」（「神秘と詩の思想家メヴラーナ」丸善プラネット（株）、p.62(2006)）

同様に「生命の科学」においても最も大事なポイントは、私達被創造物の最大の義務は、私達に授けられた創造主からの贈り物をよく観賞し、その内容を学ぶことです。生命を与えられた者は、まずその本当の価値を知っておく必要があります。世に言うように自分の命を粗末にしたり、折角の自分の才能を埋もれさせるなど、もったいない行為は、このご自身の中の宝物に気付こうとしないことに原因がある訳です。

私達、各自の中に潜んでいる才能や知識に気付くことは私達の義務でもある訳です。

003 And in dealing with the religious or spiritual side, one should not be disturbed regardless of his faith. For the Creator whom we call God, created everything that is known and yet to be known. And to know the Father of all creation, one must study His creation and its purpose.

003 また、宗教や精神的な側面を取扱う際には、人は自身の信条がどのようなものであっても妨害を受けるべきではありません。何故なら、私達が神と呼ぶ創造主は、知られている、そして今後知られることとなるあらゆる物を創造したということ。そして、全ての創造物の父を知るために、人は父の創造物とその目的を研究しなければならないからです。

#### 【解説】

本項は私達日本人にとっては著者の意図した背景について十分理解できないかも知れません。西欧においては古来より、宗教戦争が数多く行われて来ました。古くはキリスト教への迫害の時代や十字軍とイスラムの戦い、近年においても中近東やアフガンでの争いは外見上、宗教上の争いとして説明されているところです。

現代においても各々が信奉する宗教の違いによって互いに敵対的になったり、争いが深刻になれば殺し合いになる場合もあることは少し歴史を見れば明らかでしょう。

こうした中、各自にとっての創造主を探求することに対して他人の妨害が有ってはならないと本項は指摘しています。もちろん、現代の私達も、各自それぞれの表現で自分の把握した創造主像を述べることがある訳で、それらは他人を強制するものであってはいけないこととなります。各々が抱く創造主にイメージを互いに尊重し、互いにその優劣を争うよりは、各々の探求の道を歩むことを優先させる必要がある訳です。

私達は同じ山を登っている訳で、どの道を選ぼうとも、頂上では必ず一緒になって、良い眺めを得るに違いありません。

004 We, as his highest creation are intrusted with that responsibility. The study should be no different than a careful observation of a famous painting would be when the artist is not known in person. For the more that it is studied, the better one understands the mind responsible for the painting.

004 最高位の創造物である私達は、その責任を任されています。その研究は画家を個人的に知らない場合に著名な絵画を注意深く観察するのと違いはありません。研究が進むにつれて、人はその絵画を描いた本人の心をより深く理解することになるのです。

### 【解説】

私達が創造物を通じて創造主を知ろうとする態度は、絵画作品を見てその画家を理解するのと似ていると著者は語っています。私達自身について言えば、自分自身を探求する中で、自分をこの世に生み出した根源の存在を知ることにもなる訳です。

自然観察、あるいは社会情勢の分析等により、様々な物体や事象の理解を深める中で、私達は次第にその表面的な結果の背後にある原因や法則性に気付くようになるものと思われます。絵画の場合、具体的な結果物としては各々の絵の具の色とキャンバスでしかありませんが、それらを組み合わせて描かれている全体像は風景であったり、人物描写である等、より深遠な内容があるという訳です。

同様に私達が現象世界にあって、事物を観察する場合、私達はそれらが全体としてどのようなつながりを持っているか、あるいは何故、そのような状態になっているかの法則性等、背後にある創造の原理や製作者の意図を学ぶ必要があります。

005 As we cannot see the Creator the God of the Cosmos in person, we then must study Him through His creation. And this manifests in what we refer to as nature, for it is the embodiment of His Supreme Intelligence.

005 私達は創造主、宇宙の神を個人的人物として見ることはできない以上、私達は創造物を通じて創造主を研究する必要があります。そしてこの創造物は私達が自然と呼ぶものの中に現れているのです。何故なら自然こそが創造主の最高英知の体現であるからです。

### 【解説】

ギリシャやローマの時代、あるいはそれ以前の文明においては様々な名称を持つ神々が設定され、その神々の名が当時の神殿や街路に建立されました。古来から私達は創造主の存在を感じ取っていたと言うことが出来るかも知れません。しかし、このような偶像に囚われ、その像のみに私達の気持を込めることは果たして妥当と言えるでしょうか。この答えは是でもあり、否でもあるのです。

つまりは初学者に創造主の偉大さ、優しさを伝えるには芸術家が描いた（或いは彫った）神の像が有効ですが、それが行き過ぎて本尊への寄進によって自分の罪が許されたり、その本尊のみが力を持つ存在とするのは誤りということでしょう。

一方、これに対し、ことごとく偶像を排するイスラムの場合ですが、先日トルコに行った際の感想としては、私達仏教徒の日本人としては、何か今ひとつ物足りない感じがありました。全くの私見ですが、イスラム以前の各宗教が多くの偶像を拝していたこと、その弊害に対する反省の意図もあったのではないかと考えます。イスタンブールのアヤソフィアという今日ではモスク、以前はキリスト教寺院に残る壁画も国王がキリストにひざまづく等の壁画が描かれており、何か権威を主張するための宗教画であるように思えたからです。

創造主への想いや感謝というものを向ける対象として、私達にとってはより人に近い創造主像を求めがちです。現に宇宙兄弟達も各宇宙船や家庭にそのような絵画が掲げられていると私達は聞いています。それは私達人間が創造主の似姿に造られていることにも根拠があるものと思います。

とは言え、私達にとって真の意味で創造主を知る為に、本文では創造物を通じて創造主を探求せよと解説していることに注意したいものです。各自にとって自分自身も含め、身の回りの人間や草木から足元の小石に至るまでそれらがどのような構造、仕組みによって存在しているのか、あるいは長い年月の間にどのような分子原子が集まってそのような形あるものに集約したかについて、研究しながら、創造主の意図を学ぶ姿勢が重要だということです。

006 As stated, we cannot see Him as a person for he embraces all, and manifested creation is the Effect from His Cause Intelligence.

006 先に述べたように、私達は創造主を個人的人物のように見ることは出来ません。何故なら、創造主が全てを包み込んでおり、創出された創造物は創造主の因なる知性から出た結果物である為です。

### 【解説】

キリスト教や仏教は各々イエスや仏の像を有するのに対し、イスラム寺院では一切の像を展示することはありません。代わりにモスクにおいては多くの場合、アラビア文字等で創造主を称えるメッセージが美しい字体で掲げられています。

イスラムについて知る者ではありませんが、より厳格に創造主に向き合う姿勢であるように思っています。祈りの殿堂であるモスク内部に入ると高い丸天井があり、トルコで見たブルーモスクではドーム一面に青を基調とした美しいタイル模様で装飾されており、何か整然とした「宇宙空間」を表しているような印象を持ちました。1日5回の礼拝の場として、イスラムの人の心の拠り所となっている訳です。

一方で、本来は特別な祈りの場が無くても、各自の自覚次第で同様な心境で日常を送ることは出来る筈です。本文に記されているように、私自身も含め全てを直接、創造主が包み込んでいることを自覚することこそが重要です。原文にあるembraceという言葉には「母親が子供を抱きしめる」というイメージがあります。それを理解していないのは、自我（エゴ）だけなのです。私達がそのことに気付こう、自分を包み支えてくれている創造主に従おうとする気持を起こすことが、先ず最初の一步ということでしょう。心臓の鼓動一つをとっても分かるように、創造主から発せされている生命エネルギーが一瞬一瞬、私達を支えているのです。

007 When one studies to become a doctor he does not study just a man's eyes or nose, but he studies every intricate part of the body. This includes every nerve, muscle, etc., and their purpose or function.

007 人が医者になるために学習している時、人の目や鼻のみを研究することはせず、肉体のあらゆる入り組んだ部分をも学びます。これにはあらゆる神経、筋肉等、及びそれらの目的や機能についても含まれます。

### 【解説】

本項については、この「生命の科学」学習の最初に、何故、医師の話が掲載されているのか、考えて見る必要があると思います。想念や祈り、或いは行動のあり方といったテーマではなく、生物体、とりわけ人間についての問題を修復し更生させる職業人である医師になろうとする場合について、著者は敢えて意図を持って記述しているのではないのでしょうか。

生命の研究対象として何が最も相応しいかと言えば、私達人間であり、またそれも他人ではなく私達自身が最適の研究対象です。最も身近であり、物理手法では捉え切れない心の動きや意思の内容等、自分自身の反応を併せて研究できる等、生命を探求する上では格好の材料と言えるでしょう。

私達はとかく日常をこれら探求とは関わりのない習慣的な暮らしを送っていますが、著者は「汝自身を知れ」の言葉があるように、医師のような冷静で科学的な分析思考で物質面、精神面ともに自分自身に起こっている様々な活動全体を研究せよと言っているように思えます。

008 Some doctors go deeper when studying the manifested form of man and observe him with his consciousness. Thus he perceives the invisible or cause back of the effect. In this way he learns the purpose of every artery, muscle and organ and how each is related to the whole form. Thus when one part is out of order he knows what to do.

008 医者によっては人体の具現化された姿を研究する際、深部まで探究し、自らの意識でその人体を観察します。そうすることで、彼はその結果をもたらす目に見えない、或いは背後にある原因を知覚するのです。このようにして、彼はあらゆる動脈、筋肉そして組織、また各々が如何に全体と関連しているかを学ぶのです。このことにより、身体の一部が乱れた時に何をすべきかが分かるのです。

### 【解説】

優れた医師が患者を観る時、自分の意識を用いて行う場合には、その病気の原因を特定することが出来ることも、本項では示されています。

その場合、本文中の「自分の意識」という所が本項のポイントの一つです。つまりは外見上の症状はあくまで結果であり、その症状の真の原因はここだと直感させるには、どうしても意識の力を必要とする訳です。この意識なるものについて私自身、正確には理解できていませんが、自分の中にある本来的知性、想念波動や創造主からのメッセージを理解するもので、私達が日常、「意識」と表現される「感じ、感覚、覚醒状態」に似た感覚実態を指すものと思っています。その意識を患者の身体内部に染み込ませ、何処に問題があるのかを探すことを指しているように思います。

生命の探求を医師になるための訓練を見なす時、本文にあるように医師が自分が専門とする身体部位の個別機能を学ぶだけでなく、各部の相互関係について学ぶように、私達は生命の探求についても相互関係の視点を持って行う必要があります。

とかく私達の日常は、「おいしい・まずい」、「キレイ・キタナイ」等の2極で判断しがちですが、これらの表層的な裁きを避けて、意識や想念という精緻な面から、自分自身を教材として研究を進めることが重要です。

009 We must follow this same procedure of study in order to know nature and thus be able to free ourselves from the mysteries that have surrounded us and made us an entity separated from our creator. Then we shall come into an understanding of Cause and Effect. And our mental senses will perceive all forms and their purpose. And consciously we will understand the cause back of the manifestation.

009 私達が自然を知るためにはこれと同じ手順に従う必要がありますし、そうすることによって私達を取り囲み、私達を創造主から分離した存在にしていた諸神秘から私達自身を解放することが出来るようになるのです。そうなれば私達は原因と結果の理解に到達することでしょう。私達の心の感覚は全ての形有るものとそれらの目的について気付くようになるでしょう。そして意識的に私達は出現の背後にある原因を理解することになるのです。

### 【解説】

これまで記されていたように、丁度医師になろうとする場合のように、物事の分析と診断、更には全体との関わりを探求して行く中で私達は大きな成長を遂げるとしています。

これは私達自身を学ぶ姿勢でもある訳です。ここで本文に記されている「神秘」について考えたいと思います。

例えば「自分と他者との違いは何処から生まれるのか」「自分の想いがどのようにして相手に伝わるのか」「想念は何処から来るのか」「自分の起源は何処か」「自分の生命の終焉の時に何が起こるのか」「未来が予見できるとはどういうことか」「他の生物はどのようにして意思疎通を行っているのか」等々が思いつきます。これらの「神秘」がこの学習によって解明され、内容がよく理解できるということだと考えますし、そうなれば、楽しい「学び」でもあることが分かります。

とかく「神秘」は浮ついた心の興味本位から取り扱われますが、解明に当っては、先ずそのテーマに真面目に取り組む必要があります。いつまでも神秘のままにしておきたいのは、自我（エゴ）の隠れた願望かも知れませんが、これらを冷静に観察し、因の領域にまで見通す洞察力を育成することが重要な点ではないでしょうか。

010 So we not only are going to develop our minds with the help of consciousness, but also expand our conscious perception at the same time. And in this way we shall see the Creator face to face through the mind and the consciousness as they become one.

010 それゆえ、私達は意識の助けを受けて自らの心を発展させようとしているばかりでなく、同時に私達の意識的な知覚力を広げようとしているのです。そしてこのようにして、私達は一体となった心と意識を通して創造主を面と向って間近に見ることとなるのです。

### 【解説】

創造物という結果の世界を学ぶと同時に私達はその創造の奥義、即ち形ない状態からその形を得るに至った中で作用した大いなる意図の存在について幅広く気付くようになる必要があります。

私達の心はその日常的な暮らしの実態を見ても、他人に語れる程の価値はなく、好き嫌いや各種の欲望、そして怠惰を好むものです。唯一の救いはこれら心を自分自身の中にある意識と呼ばれる要素のアドバイスに従わせて、各自の体験学習を進めることにあります。

また、一方で、その各自の意識も広げる必要があるのだと本項は述べています。つまりは芸術、文化、自然等、様々な分野に触れること、或いは様々な事物を知ることが役立つものと考えます。同乗記には何ヶ月に一度、他惑星人は旅行をすると記されています。自分の目で各地を訪れることも意識を広げ、創造主の意図の偉大さを学ぶことにつながるものと思われま

す。芭蕉も旅をしなかったら、それほど多くの名句を残せなかったのかも知れません。

011 This is the method that the planetarions or space people use in their development.

011 これこそが、惑星人達、スペースピープルが彼らの発達に用いている方法です。

### 【解説】

本項からわかるように、地球人と他惑星人との大きな違いの一つに、「意識」についての認識の相違があるという訳です。

元はといえば、肉体上の差異は、当面、健康であるか不健康であるかにあるかも知れませんが、こと「意識」に関する認識の違いは雲泥の差があるということでしょう。

かく言う私自身、「意識」なるものの存在についてはっきり自覚している訳ではありません。一応のイメージとしては各自の内側にある自分という生命を維持している存在、その存在をアダムスキー氏は「意識Consciousness」と呼んだものと思われます。

しかし、重要なのはその「意識」と表現された以上は、その存在は私達が日常的に「意識」と表現しているものとかかなり類似した存在ではないかと考えられることです。自分で何かを”意識”する時、生じる心の動きの中に類似した存在が見られるのではないかと考えます。それをある想念の塊のようなものとすれば、それは自分自身に内在すると言っても、自由自在に自分の身体の内外、各自の関心の赴くまま自由に移動し、時間も空間も限界にはならないのかも知れません。

こうした中で、より活発な想念がキャッチされ、自分の理解が広がるということかも知れません。

意識については、私自身明確に説明することは出来ませんが、各自各様、自分の手でその手がかりを掴むことが重要ではないかと考えています。まさに、「朝に道を聞かば夕べに死すとも可なり」（論語：「子曰。朝聞道。夕死可矣。」）の心意気です。

012 We must always remember through the entire course that the human mind or the senses have been depending upon effects, while the consciousness does not -- it produces the effects.

012 私達はこの全コースを通じて人間の心、諸感覚は結果に依存していること、一方、意識はそうではなく結果を作り出しているということを常に心に留めておく必要があります。

### 【解説】

私達はもちろん、目に見え、手に触れることが出来る結果物については、その存在を認識することが出来ます。

しかし、その一方で、形として現れることのない存在については、良く分かっていません。

本項で言う心と意識はいわば、私達の内側にある両極の存在なのかも知れません。重要な点は意識が結果を作り出していると本文で述べられていることです。

芸術の分野を例にとれば、私達は個々の作品（結果）については、多くの機会を得て学ぶことが出来、またそれらに価値を設定することさえ行っています。しかし、永続的にそれら作品を生み出す芸術家がそばに居ても、私達はその偉大な魂に何ら注目することなく、ひたすら彼の作品だけを愛でているということではないでしょうか。

重要なのは、次々に作品を生み出そうとしている作家がどのような意図で作品を製作しているかなのですが、私達は作家を愛することなく、無関心で、ひたすら作品集めをしているのみです。

このような創造的エネルギーが各自の中に宿っていること、またそこから絶えることなく、創造的な波動が出ていることに気付くことが、私達の義務なのですが、そのようになれば私達の心は自然に創造的波動の指導に従うようになることは間違いありません。

013 Consciousness speaks in silence, or impressions, which is the language of The Supreme Being know as God, while the mind speaks the language of effects, which is sound.

013 意識は沈黙のまま、即ち印象によって話し掛けます、それは神として知られる最高位の存在の言葉でもあります、一方で心は結果の言葉、音声によって話し掛けます。

### 【解説】

私達自身の内側にある言わば精神的要素である「心」と「意識」の両極について、各々の特徴が本項で述べられており、私達が通常支配されがちな心は「声」を話し、一方で意識は無音の「印象」を語っています。

先ずは心についてですが、自分の心の能力を観察する時、実は心自体はあまり長い物語を考えられないことが分かります。つまり、何か物事を考えたり、考察をまとめる際には必ず文字に内容を記しながらでなければ、考えを進められないということです。更には互いに相対しての会話を通じて、何かのテーマを深めて行くということもあるでしょう。

一方で、自然界の生命活動の全てと繋がっている「意識」なるものは、声に出して語ることはないという訳です。自らの身体の個々の細胞や大自然の様々な要素に生命の息吹を与える「意識」は、心には感知されないような精緻な印象によって、各々の創造物にその指示を与えているという訳です。

よく「口では説明できない」と芸術家が語ることがありますが、言葉として表現できないある種の衝動こそが、個々の原子分子にも容易に伝わり、それらを揺り動かす原動力になるものと思われれます。この衝動の存在と応用を理解できれば、私達は飛躍的に発展することになります。

## ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第01課 段落014 [2012-01-24]

014 So this first lesson is the most important lesson of them all. One should learn through all of the lessons to follow that he is not studying effects alone but also causes, both at the same time. As you read and study the lessons from here on, make sure that you are using your mind and consciousness in full awareness of your study that you may see the effect and the cause behind the effect as a unit. Both are necessary to give us the things that we enjoy.

014 それゆえ、この最初の教科は全ての教科の中でも最も重要です。学習する者は以後に続く全ての教科を通じて自らが結果のみではなく、原因についても同時に研究しているということを学ぶべきです。あなたがこの教科を読み、研究する時は、あなたは御自身の心と意識をあなたの研究に全力で傾注して用いていることを確実にして下さい。そうすればあなたは結果と結果の背後の原因を一体として見る事ができるようになるでしょう。原因と結果の両者ともが私達が享受する物事を私達に授ける為に必要なのです。

### 【解説】

私自身、昔からこの「生命の科学」について読んではおりましたが、その取組姿勢は各年代で様々であったように思われます。いずれにせよ、第1課が最もとっつきにくいように思ってきました。

通常、私達は自身の心の横暴さや抱える問題点等は自分のことなので、良く分かります。しかし、「生命の科学」では心とは別に意識の存在や意識の作用について学ぶことを求めています。従来、知覚出来ていない目に見えない要素に気付くことから、始めなければならない訳です。

本講座から成果を得る為には、私達は著者が言うところの「意識」の存在について、各自の創意工夫をもって知る努力を始める必要があります。本文中にある "in full awareness" とは全身全霊をもってという意図があり、結果物と結果物の背景にある因について学ぶことを要請しています。

この学習講座をどのような姿勢で参加するかは各自に委ねられていますが、成果は各自の取組み姿勢に応じたものになることは確かだと思っています。

015 This will not be easy at first since we have been taught to study with our mind and seldom recognize the consciousness or cosmic impulse behind the thought.

015 これは最初は容易ではないでしょう。私達はこれまで心で研究するように教えられて来た一方、めったに意識すなわち、想念の背後にある宇宙的な衝動については認識して来なかったからです。

### 【解説】

先ずは学習すること自体、怠惰である私達は思うようには進められないのですが、その学習も心によってもっぱら進められてきたという訳です。文字に書き留めながら、少しずつ論理を積み上げて行く、従来心のやり方は結果を拠り所にしてしています。今日の文明はこのような知識の積み重ねと応用から成り立っているとも言えるでしょう。

しかし、これから私達が新たなステージに昇るべく、取り組もうとしているのは、想念の奥にある宇宙的衝動に気付き、その勢いに従うことであるということが重要なのです。

この宇宙的衝動のパワーの実態について私自身は明らかにすることは未だ出来ませんが、少なくとも想念についてより鋭敏になることで、どのような状況で良い想念が生まれ、それらがどのような作用をもたらし、またその背後にどのようなものが存在しているか等、想念への関心を高めることが重要です。当然のことながら、そのような関心を持つと様々なアイデアも湧き起こるようになり、私達の日々の生活も豊かになることは確かです。

016 This awareness will enable a faster growth of understanding when used in everything that is done. And when the full awareness comes it will seem at first that there are two of you. The mental acting and the consciousness directing.

016 この気付きこそが為される全てに用いられるならば、理解力においてこれまで以上の急速な成長をもたらすでしょう。そして完全な気付きに到達した時には、最初の内はあなたが二人いるように思えるでしょう。活動しようとする心と指示する意識の二つです。

### 【解説】

いずれにしても、自分自身が極力、印象に従う姿勢を保つことで、次第に状況は良くなるという訳です。もちろん、私達は何か特別な利益を得ようとして意識の指導に頼るのではなく、言わば損得抜きで現実に対峙することが必要です。そうする中でも状況が必ず好転するのは宇宙空間に流れる意識の力なるものが宇宙全体を動かし生命を支えているからに他なりません。宇宙の中には自然界を統制する圧倒的なパワーが流れており、むしろそれに反抗すること自体、本来的に無理があるということでしょう。

私達はただ、意識の力を応用すれば良く、自ら労苦の末に何かを作り出す必要はないという訳です。本文でも、意識に「気付くこと」を最大限の目標にしていることに注意する必要があります。何ら、自ら生み出す必要はなく、ただそのパワーの存在に気付き、それに同期するだけで良いとしているのです。

017 Do not be afraid of making a mistake. But when you are aware of making a mistake, correct it as soon as possible, for if you do not, it could be a block in your progress. But do not feel badly, for that could cause you to be too cautious. Remember at all times that mistakes are the result of wrong application through which we learn the right procedure. And experience is necessary for the expansion of knowledge.

017 過ちを為すことを恐れなくて下さい。しかし、過ちを為したと気付いた時は、一刻も早くそれを正しなさい。何故なら、そうしないと、それはあなたの進歩の障害になるかも知れないからです。しかし、くよくよ思っははいけません。あなたを余りにも用心深くさせることになるからです。いつも過ちは間違った応用の結果であり、それらを通じて私達は正しい手順を学ぶということを覚えていて下さい。そして体験は知識の拡張に無くてはならないのです。

### 【解説】

本項では私達がしでかす過ちはただ法則の誤用なので、そこから過ちの原因を学び取って、次に生かせば良いと論じています。もちろん、過ちは本人の責任であって、因の責任ではないのですが、決して相手を責めることなく、優しく教えていることに留意すべきでしょう。また、失敗そのものについての姿勢も学ぶところが多いように思います。つまり、過ちの結果の重大性には一瞥も与えず、深刻に考えずに、次なる機会です正しい行動をとるように教えています。

言い換えれば失敗を恐れず、体験を大事にしながら、前進したら良いと説いている訳です。そこには創造主の優しいまなざしがあり、様々な体験を通じて、次第に目的地に近づく者達を見守る存在を感じさせます。

人生の中では一見したところ本人の努力にも拘らず、一向に成果が現れない時期もあろうかと思えます。それはこれまでの各自の歩んだ道程の違い、その他の条件が各自によって異なるからです。しかし、決して悲観的になることなく、気軽に構えて法則の応用の仕方、例えば日常保つ想念の選択や印象への警戒態度について少しずつの工夫を通じて、そこから得られる結果と突き合わせることで法則を学ぶことも出来る筈です。長い人生の中では過失を通じて何を学ぶかが最も重要なのだと考えます。

ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第01課 段落018 [2012-01-30]

018 Remember every act is perfect - be it good or bad - as we classify it. For every action calls for a full coordination of your mind, body and consciousness. So you grow into perfection by action and experience.

018 あらゆる行動は私達の分類によるところの良くも悪くもそれ自身、完全であることを忘れないで下さい。何故なら、あらゆる行動はあなたの心と身体、そして意識の完全なる整合を必要とするからです。ですから、あなたは行動と体験によって完全なるものに成長を遂げるのです。

【解説】

大事なのは行動だということです。行動しなければ体験を得ることはありません。単に考えあぐねているだけでは、行動の結果得られる新しい体験を通じて学ぶことも無い訳です。「宇宙哲学」では私達自身を機織り機の「ひ」（シャトル）のように例えられていました。次々にたて糸の間を通り過ぎる結果として、後から振り返れば美しい模様が布に織り込まれているといった具合です。

また、「とにかくやって見る」という積極姿勢は大切なものだと考えます。行動に踏み出すことで、心の領域を離れ、全てを印象に従う行動様式に入ることになるからです。行動においても私達は自らを客観的に観察することが重要です。今、自分がどのような心境にあるかを記憶し、その心境に対応して得られた結果（体験）を分析することです。どのような心境の時、好ましい結果を得たかを覚えて置くということです。このような成功体験を数多く持つことで、その人は次第に逞しさを増し、この世の中にあっても力強く人生を歩むことになると思われます。

## ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第01課 段落019 [2012-01-31]

019 Even Jesus had to go through many unpleasant experiences and made a mistake when he drove the money changers from the Temple. For he taught, judge not. But when he realized his mistake he knelt in front of the Temple and asked his Father for forgiveness.

019 イエスでさえ多くの不快な体験を経なければなりませんでしたが、あの寺院から両替商を追い出した時は過ちを犯しました。何故なら、彼は裁くなと教えていたからです。しかし、過ちに気付いた時、彼はその寺院の正面にひざまずいて彼の父に許しを請うたのです。

### 【解説】

最も陥り易い過ちが他人を裁くことなのでしょう。本項はイエスでさえも過ちを犯したと告げています。何故、他者を裁き、決め付けること、ひいては相手に怒りの念を起こすことが大きな過ちかを考えてみましょう。実は私達自身、これまで無数の過ち、即ち贈り主にとってはひどい仕打ちを平気で行っていても、贈り主（創造主）からただの一言も不満の印象が寄せられたことが無いのです。

贈られた好意を無にしている、飽くことなく私達には様々な恩典が惜しみなく与えられています。そのお蔭で、私達は命をつないでいるという訳です。その創造主さえ、長年無視され、裏切られた贈り主さえ、私達に一言の非難もない以上、私達が他者を批判する資格など無いのです。

以前、読んだマザー・テレサの本の中に、マザーが戦争反対のデモに加わって呉れませんかと頼まれた時のことが書かれていました。その時、マザーは自分はそのデモに参加出来ないと告げています。戦争反対のデモではなく、平和を祈るデモなら参加しますという内容であったと記憶しています。私達は裁きに代わって、感謝や祈りを生活の中心に据える必要があるのです。

020 We of today have a greater responsibility for we have more to compete with and more temptations than those who lived in the earlier days. So a greater alertness and determination is required if we are to understand and fulfill the purpose for which we were born.

020 今日の私達はより大きな責任を有しています。私達には昔の時代より多くの競争があり、多くの誘惑があるからです。ですから、私達が生まれて来た目的を理解し成就するには、より大きな警戒状態と決意が必要とされるのです。

### 【解説】

古来の生活の糧であった農業や漁猟においては、毎日の作業そのものが大自然の営みの中で行われていた訳で、本講座で学ぶべき生命の息吹の真っ只中での暮らしでありました。しかし、現代では物質的な生活環境は格段に良くなった代わりに、私達は人為的な環境の中に身を置いています。その結果、生活は楽になった反面、求道の道を歩もうとする者にとっては、より困難な状況になっています。エゴの歡心を満たさせる代償として金銭が収奪される仕組みが社会の隅々にまで張り巡らされています。

あえてこれらの例を一つ一つ挙げることはしませんが、皆様ご自身が周囲を見渡せばいくらかでも見つけることが出来る筈です。こうした中であって、本講座を学ぶ皆様には是非とも本来の道を外れることのないよう、毎日の生活を大切に、また志は高く維持して戴きたいと願っています。

かつてアダムスキー氏の著作を読み、グループに参加された多くの方々が居りますが、その後、その方達はその歩みを続けているかと言えば、必ずしもそうでないのが実情でしょう。様々な問題や個人の事情もあったものと思われませんが、それらの困難を乗り越えて、共に歩んで行きたいものだと思っております。

021 There can be no question regarding the fact that we were born for a reason or purpose, and there could be many. If this were not true, there would be no need for human beings.

021 私達が何らかの理由或いは目的の為に生まれて来たという事実に関して何らの疑問はあり得ません。もしそれが真実でないとするなら、人類の必要性は無いことになるからです。

### 【解説】

千葉県佐倉市に国立民族学博物館があります。そこを訪れると石器時代から現代までの人間の生活がどのようなものであったかが展示されています。私達人間、とりわけ日本人の暮らしがそこに再現されています。そこを訪れると人間の生活が時代とともに変化はしていますが、基本的な部分はいつの時代でも差は無いように思えます。

同様に人間本来の存在目的は何かという本項の問いかけに対する答えは、実は今日まで変わるものではないのかも知れません。映画「2001年宇宙の旅」で表現されたように、宇宙の英知に接したことで猿人時代から今日の文明までたちどころに進化したように、私達の創造主は私達人間に期待するところが大きなのではないのでしょうか。

もちろん、人間が居なければ惑星は人為的に環境が汚染されることなく、森羅万象、調和した大自然のまま四季を送る訳で、美しい自然が手付かず存続することでしょう。

しかし、そこに暮らすもの達は、その美しさを果たして実感し、美しいと愛でることが出来ているのでしょうか。自然界の生き物は直接的に自然の指令に従いはしていても、その美しさを鑑賞する能力はないのかも知れないのです。創造主は自らの作品を他者にも喜んで見てもらいたいと思っらっしゃるのかも知れません。そういう役割を人間に期待し、またその人間にも創造主を手本として自らを創造主の活動の発現経路として欲しいと望んでいるように思うのです。

022 The major purpose for man seems to be -- an unlimited Expression of Cosmic Intelligence -- as no other form seems to have that scope of ability. Yet to do this, every phase of creation must be understood. When Jesus instructed his followers to be "about the Father's business" he had reference to this way of life. And in order to do this one must study each manifestation from the lowest to the highest.

022 人間の主な目的は、宇宙英知の限り無い表現であるように思えます。他の形有るものがそのような能力の可能性を持つとは思えないからです。しかし、これを成す為には、創造のあらゆる段階が理解されねばなりません。イエスが弟子に「父の務め」にとりかかるようにと命じた際、彼はこのような生き方との関連で述べたのです。そして、これを成す為には、人は最低位から最高位に至るまでの各々の現れを学ばなければなりません。

### 【解説】

本項で着目したいのは、私達人間は「宇宙英知の限りない表現」だとする中での「限りない」という言葉です。無限の可能性、多様性を私達が有していること、またそれを体現することが私達本来の目的であるということです。

「表現者」とはどのようなことをイメージしているのでしょうか。その点について思い浮かぶのは、舞台役者の場合です。役者をここで言う私達自身とすれば、役者は台本（宇宙の計画）に則り、様々な役柄を演じます。この場合、舞台は地球、衣装は人体であり、演出家の指示は宇宙意識に相当すると言えます。役者にとって舞台や衣装等、この演劇に関する一切は無償で提供されますが、それらは役者の所有物ではありません。しかし、舞台の上では役者は自由にそれらを活用し、演目を盛り立てることが期待されています。

演じられる内容は役者の表現能力が未熟であれば、せっきくの台本も台無しになる一方、優れた表現者になれば、その演目は人々に感銘を与えることができます。

同様に私達は、創造主から各自、舞台や衣装が与えられており、日々の演目を通じて表現の幅を広げ、より高品位な行動が出来ることを期待されています。いずれにせよ、役者が居なければ舞台が始まらない訳で、私達は日々の舞台の上で少しずつであっても表現に磨きを掛ける精進を進めて行くことが期待されています。第1幕の次は第2幕の講演が待っているというものでしょう。

023 We find no two human being that are alike. For the different talents with which each is endowed makes the difference. But like the keys on a piano, when one learns the tone of each and strikes it accordingly a beautiful harmonious melody is the result. The opposite can be brought forth when not understood.

023 私達はそっくりな2人の人間を見つけることはありません。何故なら各々に授けられた異なる才能が相違を作り出しているからです。しかし、ピアノの鍵盤のように、人が各々の音色を学び、適切にそれを打ち鳴らせば、結果として調和のあるメロディーが生まれます。理解されなければ、その反対が引き起こされ得るでしょう。

### 【解説】

人間一人一人の多様性に関するピアノの鍵盤の例えについて、以前は一人一人が一つの鍵盤と解釈していましたが、もう一つの見方として、人間に備わった様々な才能を各鍵盤に例えているという解釈もあります。自分自身がどのような才能、能力を有しているのか、とにかく鍵盤を叩いて音を出して見なければなりません。苦勞なく良い音が出る鍵盤もあれば、綿密な調律をやり直さなければならない所もある筈です。曲を練習しながら、その都度不都合な箇所を見つけ出し、手直しを進める中で究極にはいずれの才能も等しく備わることになるものと思われます。

また、このように各自が調和ある発達を遂げたとしても、各自はそれぞれ特徴があり、人類には多様性が備わっているものと思われます。何故そのような多様性が存在するかについて、分かりやすく言えば、「一人一人に異なる使命があり、異なる才能が授けられている」ということが出来ます。この相違は遺伝物質において、多くの類似点がある一方、相違点も存在することと同様です。

環境を豊かにするのは多様性です。これら異なる存在、様々な才能の存在が創造物世界を豊かなものにしていくのです。

024 So we will endeavor to understand the self by knowing the equipment we have to work with.

024 ですから、私達は私達が日々共に働かなくてはならない道具を知ることによって自分自身を理解するよう努力することにしましょう。

### 【解説】

趣味の話になってしまいますが、先日、35mmと85mmの2本のレンズを購入してしまいました。いずれもN社のF1.4の大口径の高級レンズに相当します。そのレンズで試し撮りをして驚いたのは、いずれも肉眼と同様、あるいはそれ以上に鮮明に撮れているのではないかと思われる程の写りであり、改めて最近の光学機器の性能の良さを実感した次第です。

このレンズやカメラボディは人間の眼に相当します。今日のカメラはこのように優れた光学機器ですが、人体の眼と比べれば比較にならないほど、重くかさばるものに留まっています。同様に人体各部の機能は骨格から神経、筋肉、内臓にいたるまで、精緻に造られており、それらが一体となって全身を機能させている等、改めて考えると私達の考えも及ばない性能を発揮しています。

その性能は、日頃の訓練や成長の過程で増強される等、私達は等しく人体機能の恩恵を受けています。本項ではそれら天与の贈り物を私達自身が未だ十分に把握していない点を指摘しているのです。日頃、私達は様々なマイナス要因や悪習慣から人体にダメージを与え続けており、ある程度の年齢を越えると人体の老朽化が進みます。こうした中、いち早く各自に与えられた知覚機能や肉体機能の素晴らしさを探求して、自らその内なる美しさを発現する経路となることが重要だという訳です。

025 First -- What is a human being ? As we see the body which is an effect, we observe that it is composed of flesh, bone and liquid. And not much different than most animal forms. But that which makes up the form is never seen with the physical sight as it is made of myriads of cells. Each cell is independent yet it blends with all of the others for the common good and maintenance of the form. Just as the three billion people of the earth make up the human family. But because they have not been taught the part which they may play in life, disorder results. This disorder is minor compared to the total order on earth. For if it were not so the planet earth would be in a chaotic state. So now we must try and learn

the cause of disorder.

025 第一に、人間とは何でしょう？ 人体を見ると、それは一つの結果であり、私達はそれが肉と骨、そして体液から構成されていることに気付きます。そしてそれらは大部分の動物の身体と大差が無いことがわかります。しかし、身体を作り上げているものは肉眼では決して見ることは出来ません。なぜならそれは無数の細胞から出来ているからです。一つ一つの細胞は独立していますが、同時にその形有るもの共通の目的や維持の為、他の全てのものと融合しているのです。丁度、地球の30億人の人々が人類家族を作り上げているのと同様です。しかし、人々は生命において果すべき役割を教えられて来なかった為、混乱が生じています。それでもこの混乱は地球の秩序全体と比べれば小さいものです。何故ならもし、そうでなければ、この惑星は渾沌状態になっていることでしょう。ですから、今、私達は混乱の原因を学ぼうと努力しなければならないのです。

#### 【解説】

本項では人体の60兆個あるとされている細胞が人体を構成している一方で、各々の役割がきちんと指示されていない為、混乱が生じていることを指摘しています。また、この細胞と人体との関係は一人一人の人間と地球との関係とも類似しているとしています。

まさに細胞の状況が人体に反映されるように、人間の状態が地球全体に反映しているという相互関係にあることをも示唆しているものと思われます。

さて、人体について言えば、少なくとも私達一人一人は各自の人体をどのような状態に保つかについては一任されており、責任を委ねられています。しかし、私達は自らの細胞群に対し、これまで優しくいたわり或いは人体全体としての調和を保つことの大切さを認識しては来なかった気がします。一部の認識器官でしかない、視覚や味覚の意見やこれまでの個我のプライドを守る為に、人体そのものを苦境に追いやってしまうことが多かったように思います。その結果、各細胞は自由活発な活動を抑制せざるを得ず、元気を失って行ったのです。それを老化と一般には呼んでいるのだと考えます。

これに対して、子供は全てにおいて柔軟であり、適応力があります。細胞一つ一つの存在と人体とが一体化し、成長を目指している関係がそこにあるのではないかと考えています。

026 The average human is a mentalist governed by the ego which is itself an effect of the cause. And as the mind is the process of learning it seeks to guide itself by other material effects and there are many things that it does not understand. And the things that are not understood are feared and disliked. And the things that are pleasing to the senses (or ego mind) are liked. Yet oftimes the likable things become blocks that prevent the individual from progressively learning.

026 普通の人間はそれ自身は因の一つの結果でしかないエゴに支配されている心至上主義者です。そして心は学習の課程にいる為、心は他の物質的結果によって自分を導こうと探し求めますが、心が理解しない多くの事柄があります。そこで、理解されない事柄は恐れられ、嫌われます。また、感覚（或いはエゴの心）を喜ばせるものは好かれるのです。しかも、多くの場合、好まれる物事は進歩的な学習からその者を妨げる障害になるのです。

### 【解説】

このエゴに関して言えば、未だ私達自身、自分がエゴに支配されていることすら、十分には認識できていないようです。エゴによって支配されていることが分かるのは、何かに対して怒っている時、対象物を嫌悪している時、自分の尺度で相手を見下している時です。しかし、そのような場合以外にも、少しでも不安な要素があれば、心は動揺し、最悪の事態を想像しパニック状態に陥るのかも知れません。

このような状況に対して、どのように対処すべきか、本項では直接的には記述しておりませんが、その文脈の中にはいくつかのヒントが含まれているように思います。

その一つが「心」自体は結果物、即ち創造された側のものであり、そこには限界があることをまず認識せよという訳です。何らかの拠り所を心が求めたがる（「しるしを求めたがる」）結果、ますます不安定な袋小路に入り込むとう訳です。そういう意味でも目に見えるものを探すのではなく、目に見えないものを大切に取り扱うことが重要です。もちろん、印象、インスピレーションは裏切ることもない創造主からのメッセージである可能性大です。

また、とかく「心」を喜ばせるものには要注意ということもあります。五感を楽しませるものが必ずしも有益ではなく、有害であることも多いのです。私達が自己を発達させる上では時に自我の羞恥心を克服する訓練も必要です。自分の誇りを捨てて、他者に奉仕する中で得られるものも多いように思われます。自らのエゴとどう対峙して行くか、各自の工夫が求められています。

027 We can observe that life lends itself to all nature without divisions. And it seems that man's free will has separated him from his natural expression of life.

027 私達は生命は分け隔てなく自然全てに自らを貸し与えていることに気付きます。そして、人間の自由意思こそが人間を生命の自然な表現から分離させて来ているのです。

### 【解説】

本文で言うように生命が分け隔て無く万物に等しく自らを貸し与えていることが大切なところです。逆に言えば、その実際を観る為に何か特別な努力は不要であり、身の回りのあらゆるものの中に生命が現れているということです。

その生命の現れの中に私達が目指すべき生命の自然な表現を見ようとするのが大事だということでしょう。季節に応じて各々花をつける草木をはじめ、鳥や虫達の鳴く声は皆、活気ある生命を表現しています。これらの表現が何故万物の頂点に立つ人間だけが出来ないのでしょうか。

過去の悔悟、未来への不安を持たぬその日暮らしの他の生きものには苦悩は分からないという人間も居るでしょう。しかし、それ以上に大切なことはこの生命に対する絶対的な信頼なのだと考えています。「野のユリ」の例えのように、圧倒的に他の生きものは因なる存在に信頼を寄せており、その恵みを素直に享受しているというところでしょう。そうする中で自らを通じて因なる生命を結果の世界に表現する経路としての役割を務め、その姿を創造主は良しとしているのかと考えます。

028 So we must first -- condition the mind which is made up of the senses to not accept the effects as the ultimate answer as it has been doing. But patiently analyze the reason for the effect before coming to any conclusion. It should not make any difference whether it be a personal effect related to one's self, or another person or form of life.

028 ですから、私達は最初に、過去にやって来たように結果を最終的な答として受け入れることの無いよう、諸感覚から成り立っている心を調整しなければなりません。代わって、何らかの結論に到達する前にその結果に対する理由を忍耐強く分析することです。それには御自身の個人的な結果であろうと他の人の或いは他の生命体についてであろうと何ら違いは無いはずで。

### 【解説】

もちろん、これまで私達は自ら誤った想念を長年発して来た訳ですから、身の回りに不本意な結果が満ち溢れてくるのは当然の結果です。従って私達はまず、不本意になってしまった自らの結果について、その原因から結果に至る経過を冷静に分析する必要があります。

また、本文にあるように、それらの結果はたまたま、そのような原因があったために対応して現実化したのであり、別の要因が生まれれば別の結果が現出することになります。つまりは得られた結果は不変のものでないと認識すべきだと筆者は語っています。

このように私達の身の回りに生じる現象は、より奥の原因要素に呼応して現れていると常日頃、認識することが大切で、結果に一喜一憂すべきではない訳です。私達の周囲には自分自身の他にもその学習の教材となる数多くの事例があると本項は指摘しています。

029 As an example we will use the form of a tree and analyze its purpose. As we observe the effect we find that its services are many, both as a living tree and the products that can be made from it. For many useful things are made from the wood of its trunk and it fertilizes the earth by dropping its leaves. But we do not see the energy or life force which emanates from it and without which we would not have the pure air which is found in virgin forests. For it transmutes monoxide gas to oxygen which is essential to life. And all plant life serves in this field.

029 例として、樹木を取り上げることとし、その目的を分析しましょう。私達はその結果を観察すると、私達は生きている樹木及びにそれから作られる製品共に木がもたらす便益は多種に及ぶことを発見します。何故なら、木材からは様々な有用な物が作られますし、その葉を落すことで土壌を肥沃にするからです。しかし、私達は樹木から発せられているエネルギー、生命力は見えていません。その生命力が無ければ、処女林に見られる純粋な空気は生じないでしょう。何故なら、樹木は一酸化炭素ガスを生命に必須である酸素に変えるからです。そして全ての植物生命体はこの分野で務めを果しているのです。

### 【解説】

私達が気付かなければならない因の領域の世界とはどのようなものかを樹木を例に本項は解説しています。

この場合、結果としての樹木は、木材であったり、腐葉土の形成や栄養豊かな種子を通じて森を豊かにし、動物達を養う存在である一方、目に見えないより根本的な機能としては光合成により生きもの全てに必要な酸素を提供するという大きな役割があり、その活動こそが因の領域に属するものだとしています。

目に見え、手に触れることが出来、確認も容易な結果の世界に属するものを下支えしているのが因の領域の諸活動と言える訳です。私達は未だ十分にはこれらの因に属する諸活動について気付いてはおりませんが、早晚これらに気付くことで、大地の奥深く起こっている活動から上空かなたの宇宙で生じようとしている現象についても、やがては把握出来るものと思われます。

その為には前項（028）にあったように、結果を最終的な結論とすることなく、現象界より遥かに精緻な因の生命活動に心を開くことが重要です。

030 In observing the effect of forms we do not see the liquids or life blood, which we call sap in the tree, which flows through it making it a living thing. Nor do we see the roots in the depths of the earth and the work that they do in drawing energy from the earth unto themselves. Nor do we hear the molecules that make the form speak to each other in guiding it to the fulfillment of its purpose. This could be called the cause behind the effect.

030 その形ある結果物を観察する時において、私達は木の中の樹液と呼ぶ液体、生命を支える血液を見ていません。しかし、それは木の中を流れてそれを生き物と成しているのです。私達はまた、地表深くある根を見ることもありませんし、根が木々に土壌からエネルギーを引き出す為に果す仕事を見ていません。また、私達はその形有るものを構成する分子が互いにその形あるものの目的を果すために導く中で、互いに話しをする声を聞くこともありません。これは結果の背後にある因と呼べるものでしょう。

### 【解説】

前項（029）に引き続いて、樹木を例に因の領域についての具体例を解説しています。

このように外見には現れない所で、そのものの本質的な活動が為されていることが重要な所です。

また、同様に、他人から自分が見られる時、他人は私の表面の姿しか見ておらず、木々と同様、私自身の中を流れる血液や肉体の状況、更には現在の心境等、内側のものについてはほとんど知らないまま、外見だけで相手を判断していることとなります。少なくとも多少は自分自身については因なる部分は感じ取ることが出来ますが、他者についてはそのような感性が働いていないということでしょう。

このような事柄を合理主義の米国社会の中で説くことについては、様々な抵抗があったものと思われまます。アダムスキー氏に関する伝記類を見ると、1952年のコンタクト以前から氏は同様の教えを人々に伝える活動をしており、コンタクト以降はそれらの教えを宇宙兄弟達から支持、確認され、その内容を深める上での指導を受けたことが分かります。

このような因への感性は、別名テレパシクな感知能力と呼ばれるものですが、地球でも人間以外の他の創造物は皆、身に付けているものと思われまます。自然界に暮らす多くの生きものが来るべき季節や気象変化に対してたくみに備えるのも、こうした能力によるものでしょう。私達もこれらの能力を身に付ければ、もっと柔軟に生き抜くことが出来るものと思われまます。

031 Now we must school ourselves to see the cause and the effect manifesting as One when we look at an effect. Form, we recognize with our physical sight as an effect to an effect. The mind must become aware of cause through consciousness. The moment that your eyes glance upon a form the consciousness will give the mind an impression of the life within the form. And you become single minded, as Jesus said man should be.

031 そこで、私達は一つの結果を見る時は、原因と結果が一体となって現れていることを見るように自分自身を訓練しなければなりません。私達は形あるものを自分の肉眼という結果に対して一つの結果として認識します。しかし、心は意識を通じて因について気付くようにならなくてはなりません。一つの形有るものをあなたの目が一瞥した瞬間、意識は形有るものの内部にある生命の印象を心に与えるでしょう。そのようにして、あなたはイエスが人はそうあるべきと言ったように二心の無い状態になるのです。

### 【解説】

結果と因の両方を同時に観るように、本項は私達に命じています。その裏には、これまでのように目に見え、手に触れることが出来る結果物にしか相手にしないことはもちろん問題外なのですが、現実世界を無視してひたすら因の世界にのみ関心を向けることも誤りであることをも示唆していることがあります。

しかし、当面は私達は因の領域を印象への感受性を高めることで感じ取り、日常生活に適用することで少しずつ能力を高めて行く必要があります。通常、私達は形あるもの（結果物）を観る時、本当の姿をよく観察するというよりも、ろくに見ないまま自分の判断を下してしまいます。エゴによる長年の習慣から判断（裁き）をしてしまう訳です。これに対し、物を一瞥した際にそれを存在させている陰の生命力に気付くようにせよと本項はアドバイスしているのです。

結果と同時に原因を観ることで、その対象物の真の姿が正しく理解されるようになることは間違いありません。「観音」ということがあります。文字通りに解釈すれば「音」という目に見えない存在を「観る」ということになる訳で、これも従来に感覚を越えた知覚能力を意味する言葉なのかも知れません。

032 When the form is seen with the mind and the consciousness reveals the cause we then see the visible and invisible at the same time. i.e. If you start making a plan for a house by drawing it on paper, you are producing the first effect that comes to the mind by conscious impression. You are using the consciousness and the mind as one. The consciousness alerts the mind what the design is to be. After the plan is drawn you may make many changes due to the experience you have had with houses. Even then the consciousness will point out the improvements that can be made which were not present in the houses you have known.

032 形有るものが心で見られ、意識がその因を漏らす時、私達は目に見えるものと見えないものを同時に見るようになります。即ち、もしあなたが紙に図を描くことによって家を作る計画を立て始めるならば、あなたは意識の印象によって心にやってくる最初の結果を作り上げていることになります。あなたは意識と心をついに用いているからです。意識は心にデザインはどうあるべきかを注意します。計画が図面化された後、あなたは家について得たこれまでの経験に基づき多くの修正を行うかも知れませんが、しかしそれでも、意識はあなたがこれまで知っている家には存在しない改善点があることを指摘するでしょう。

### 【解説】

画家がインスピレーションにより絵を描くのと同様、建築デザインにおいても創造的な作業になることを本項では、意識との関係において説明しています。

家を新築する際の間取りその他を検討する場合、実際にはその「家」自体は結果物になっておらず、因の領域にある訳で、その段階では意識は心に対し印象を与え、心が経験したことのない設計上の改良点や全く新しい要素を提供するとしています。その背景にはデザイン作りの作業を担う心が全くの白紙の状態からイメージを作り上げる必要から、何か目に見えない存在からのインスピレーションを求める姿勢を持つことがある筈です。その受け入れ体制が心の側に出来ると、意識は積極的に心に印象を与えるということでしょう。

その結果、心はそれら意識の声を聞きながら、得た情報を元に紙に家のデザインを書いて行く訳です。もちろん、デザインを仕上げる過程では、多くの試行錯誤がありますが、それも一つのデザインを紙に描いて見て（即ち、一つの結果を出して見て）、心がその結果の評価を行い、修正作業を進めるといった具合の作業になります。

このように何か新たなものを作成する作業には、心と意識の共同作業が必要になる訳で、他の生きものには見られない、創造物の頂点に立つ人間ならではの機能だと言えるのです。そして重要なのは、心が意識の声、即ち印象を感受する為には、まず一切の障壁を捨てて、意識への受容的態度を貫く必要があることです。

033 This could be called the development of the mind in intelligence. There is really nothing that you do that does not have the consciousness behind it. Your mind may change and modify an impression either for good or bad results, depending upon the mind's intelligence or how well it accepts the instructions. To produce good results the mind must have total faith in consciousness and permit itself to be guided by it.

033 これは知性における心の発達と呼んでもよいでしょう。あなたが成すことで背後に意識の無いものはありません。あなたの心は、その心の知性に依存して、あるいは意識の示唆を如何に良く聞き入れるかによって、良い結果となるにせよ悪い結果になるにせよ、印象を変化させ或いは修正するかも知れません。しかし、良い結果をもたらす為には、心は意識に全信頼を持ち、自らが意識によって導かれることを良しとしなければなりません。

### 【解説】

せっかく、意識からの印象が来ても心の理解力に問題があればそれは受けた印象を捻じ曲げてしまうことも多い訳で、いったい正しい印象とはどのように掴むのか等、印象を感じ取る訓練が必要です。その訓練が前項（032）で述べられた「創造的な仕事」を進める際の心の持ち方にあると本項で示唆されています。

つまり、心が未経験の新しい取組みを行う時、心は意識からやって来る印象を頼りに進める他はありません。その際に心は印象との係り方を学ぶということです。

もちろん、印象をどう取り扱うかは心次第であり、中には心が理解出来ないため放置したり、勝手な解釈を加えてしまうこともある訳です。しかし、その場合には良い結果は得られない訳ですから、心は次々に得る体験によって学び取ることが出来ることとなります。

いずれにしても、日常、私達の生活の中で最もいけないことは惰性であり、習慣的な生活です。それに対し新しいことに挑戦する中でこのような意識からの印象（アドバイス）を求める心の姿勢を保ち、なおかつその応用体験を持つことが私達の心の発達にとって大変大事だということです。

034 Here you may say that you do not wish to follow blind faith. Yet to accomplish what you feel down deep within yourself that you can -- you must use it. For what is blind faith? When you were planning your house you were using blind faith for the house was not present as a finished structure of concrete and plaster. Whatever you do in your life is performed with blind faith, for you never know what the results will be in any act. Whether walking or riding or whatever you are doing you hope that all will be well, but you are never sure. In fact 99 % of our life depends upon blind faith. I leave the 1 % to past experiences, but even there you are not sure the results will be the same if repeated.

034 ここにおいてあなたは、盲目的な信頼に従おうとは思わないと言うかも知れません。しかし、あなた自身の中の奥底であなたが出来ると感じていることを達成する為には、あなたはそれを用いなければなりません。何故なら、盲目的な信頼とは何でしょうか？あなたがあなたの家を計画している時、あなたは盲目的な信頼を用いています。その家はコンクリートとシックの仕上げられた構造物として存在していないからです。あなたが人生の中で何を成そうと、それは盲目的な信頼とともに成されます。あなたはいかなる行動においても結果がどのようなになるかはわからないからです。歩いている、或いは乗り物に乗っている時、或いはどのようなことをしているにかかわらず、あなたはすべてはうまく行くように願いますが、確信を得ることはありません。実際には、あなたの人生の99%は盲目的な信頼に頼っているのです。私は残りの1%を過去の体験に残していますが、それでさえ、あなたは仮に繰り返しでであったとしても結果が同じになるかどうかは確かではないのです。

#### 【解説】

本項ではいわゆるBlind Faith（盲目的な信頼）について解説しています。物質的なものでなく、現象界に属さないいわゆる「意識」に絶対的な信頼を寄せることが、どういうことかを述べている訳です。従来、ややもするとFaithを「信念」と訳出して来ましたが、日本語の「信念」の中には、「我武者羅に頑張る」とか「心の意志を強調する」ようなニュアンスが含まれており、違和感があります。本項で著者が言うのは、もっと静かで信頼感を寄せ、何らの不安も感じないような状態、いわば信仰心とも呼べるような状態を意味しているのです。

さて、本文にあるように私達自身、実は日常的に盲目的な信頼感を活用しているところが重要です。つまりは改めて議論するまでもなく、私達は意識による指導を頼りに生きているという訳です。

しかし、そのままでは進歩はありません。日常、私達は改めて結果の世界の背後にある生き生きとした因の領域を感じ取り、そこからもたらされる印象を自分の生活に役立てることが重要です。

その為には、如何なる時も静かに印象を受容するよう心の状態を整え、その持つ意図をはっきり理解すること、またそれに従い応用した結果、得たものをはっきりと関係づけ、記憶することが大切です。どのような場合にどのような結果を得たかを記憶することによって、次なる機会にそれを応用することが可能になるのです。

035 Faith is the foundation of all manifestations. And one without faith is like a ship without a rudder or captain. Once your mind has trust in faith, it will trust the instructions of consciousness, thus allowing the consciousness and mind to work as one. Then the consciousness of God which is the cause, and the sense mind of man which is the effect, have been united. And the biggest Mystery of Life has been dissolved.

035 信頼は全ての創造の現れの基礎です。そして信頼の無い者は舵や船長のいない船のようなものです。ひとたびあなたの心が創造主への信頼に委ねれば、心は意識の指導を信頼するようになり、その結果、意識と心が一体として働くようにさせることとなります。そうすれば因である神の意識と結果である人間の感覚の心が一体となって結びつくのです。そして生命の最大の神秘が氷解することになるのです。

### 【解説】

人間性として最も大事な要素が、このFaith、即ち創造主への信頼ではないかと私は考えます。能力や技量といったものは訓練次第で身に付く訳ですが、このFaith（信頼感）が無いと長い年月には進歩が出来ないように思うのです。実際には人生の間には波風にもさらされ、初期の自分の能力に頼っていると次第にエゴに支配され、次第に本来とは異なる方向に進んでしまうことも多いからです。

その点、創造主へのFaith（信頼）の姿勢を絶えず心の中心に据えていれば、たとえどのような波乱が起きようと、また一時的に流されることがあっても、やがては本来の道に戻ることが出来ます。まさに羅針盤のような基本的姿勢が、意識への信頼、創造主への感謝なのです。

本項ではFaith（信頼）が全創造物の基礎だと明示しています。どんな外乱があっても、落ち着いて自分本来の役目をまっとうしようとする自然界の生物達を見ると、彼らは信頼感において人間を遥かに越える段階を生きているように思います。

036 What is consciousness ? No one definitely knows except that it is a life force that is the creator of all forms. For without consciousness man would not be a living being. And in man the best way that we can describe it is -- a state of alertness. And a state of alertness is a state of feeling or awareness. In the animal it is known as instinct which does not have to depend upon sound. The language of consciousness is the language of the Creator that one feels when he becomes conscious of things not yet experienced. Jesus expressed it in these words -- Blessed are those who see and hear not yet believe. For they shall enter the Kingdom of Heaven. And the kingdom of heaven was used in reference to the realm of Cause, a sea of consciousness or everlasting life. For consciousness proceeds all manifestation.

036 意識とは何でしょう？誰一人、それが全ての形有るものの創造主である生命力であるということ以外、明確には知ってはいません。何故なら意識無くしては、人は生き物とはならないだろうからです。そして人間においてはそれを最も適切に表現するとすれば、それは警戒の状態ということができるでしょう。そして警戒の状態というのは印象もしくは気付きの状態です。動物においてはそれは音声に頼らない本能として知られています。意識の言語は未だ体験していない物事について意識的になる時に感じる創造主の言語なのです。イエスはそれをこのような言葉で表現しました。「見もせず、聞きもしないのに信ずる者は幸いなり。何故なら彼等は天の王国に入るだろうからである。」そしてこの天の王国とは因の領域、即ち意識の海、永続する生命について用いられたのでした。何故なら意識は全ての創造の現れに先立つからです。

#### 【解説】

おそらく「生命の科学」を学ぶ人の全員が、各々「意識」について何らかのイメージを持っておられることでしょう。その「意識」について、本項で著者は明確に解説しています。また、驚くべきことは、この「意識」については2000年以上も前にイエスからも同様な教えが与えられていたという訳です。

即ち、私達が学ぶ「生命の科学」の本質は、宇宙普遍（不変）の真理法則であり、用いられる言語やその伝え手の個性により、表現方法は多少異なることがあっても、皆同一の法則について述べているのです。

さて、その意識なるものは、ある種の状態を指すとしています。ここでは「警戒の状態」と解説されており、その状態が創造主から発せられる印象類を現実化する大きな力を発揮すると解釈されます。これは全くの現時点での私見ですが、そのような状態は印象を活性化する機能があり、各々の分子・原子が呼応して印象に沿った活動を進めて行くのではと考えています。

つまりは、様々な事象が現実化する前には、必ずそれを促す作用が必要であり、その段階で状況をキャッチ出来れば未来は予見出来るということになります。

お知らせ [2012-02-24]

明日から撮影に出かける為、次回の更新は週明け火曜日になるものと思われます。ご承知置き下さい。

037 You see we are like a diamond in the rough. When man first found the substance that turned out to be a diamond, he saw a rock through his physical sense of sight but something inside of him told him that this rock was different from others. It was his consciousness and not his mind that alerted him to the fact that if he would cut and polish it, it would be the most beautiful thing that he had ever seen. Radiating every color conceivable. But this result would require patience and a lot of hard work, even pain at times when cut by the sharp edges. Every man is a diamond in the rough and there are many rough edges that must be removed before he can see the purity of himself.

037 私達は未加工のダイヤモンドのような物です。人が後でダイヤモンドと判明する物を最初に発見した時、人は自分の肉体の視覚を通じては一つの岩を見たに過ぎないのですが、自分の内部の何かが彼にこの岩はその他とは違うと知らせたのです。彼にもしそれをカットとして磨けばありとあらゆる色彩を放ち、これまで見たことのないような最も美しいものになるという事実を警告したのは彼の意識であり、彼の心ではありません。しかし、このような結果に至るには忍耐と努力、更には鋭い刃先でカットされる時の痛みさえ必要とされることでしょう。すべての人間は未加工のダイヤモンドであり、自分自身の純粋さを見い出す為にはそれ以前に多くの粗い角を取り除かなければなりません。

### 【解説】

著者は私達各々が素晴らしい才能を持ち、皆輝く存在となり得る十分な素材を持っていることを、ダイヤモンドの原石に例えて述べています。その本来の輝きを出す為に自分に付いた不要なものを取り除けば、光を受けた際にその光を美しく反射させることが出来るという訳です。身を削る努力がなければ、輝くものとはならないということでしょう。

一方で、その原石は外見からでは他と見分けがつかないものであり、その違いを知るのは各々が持つ因の知覚力です。そのものの本質（中身）を知るのは目や耳の感覚ではなく、私達に本来備わっている意識的な知覚力としています。

石は道の下に敷かれたり、建物の壁や床に貼り付けられたり、その使われ方は様々ですが、最も人々が価値をつけているのが宝石だという訳です。その代表物がダイヤモンドですが、私達一人一人がそれ程、貴重な存在であることを著者は記しているのです。なお、ダイヤモンドは光り輝く美しいものですが、重要なのは宝石自体は輝く機能はなく、外部からの光を受け、その光の美しさを表現する存在であるということでしょう。創造主の意図を身をもって表す故に美しい存在となる訳です。

038 This is not a pleasant process for each removal, in most cases, will cause a pain of one kind or another. But the more pain he is able to endure -- the finer the stone will be.

038 これは多くの場合、心地よい過程ではありません。ひとつひとつの取り除き作業にあれやこれやの痛みをもたらすだろうからです。しかし、その者がより多く痛みを耐えられればそれだけ、よりすばらしい宝石になることでしょう。

### 【解説】

自らの課題に関して様々な機会を捉えて克服努力を行うことが求められています。各自の人生はそうした道程を絶え間なく歩む中で自然と磨かれて行くことでしょう。

一方、私達の自我（エゴ）は、変化・改革を好みません。今までの自己にしがみつき、自己保身のみを主張し、惰眠を好む怠けものです。私達が生きるこの世界は諸法則の下に動いており、入力（原因）に対して得られる出力（結果）が対応しています。これは物理や化学の分野のみならず、想念を含めたあらゆる分野に適用されます。良い原因と作れば、良い結果が得られ、誤りを放置すれば、それに呼応した結末を得るのみです。私達は一つ一つの体験から学ぶ努力を積み重ね、時には痛い思いをしながらも前進することが求められています。

前項（037）の冒頭で、私達はダイヤモンドの原石だと表現されていましたが、こびりついた一つ一つの不要な部分を取り去り、本来の純粹（純真）な部分を輝かせる努力（精進）によって、私達一人一人は輝く存在に十分なり得ることを著者は伝えています。ただの路傍の石でなく、宝石の原石であることが重要で、磨けば誰もが必ず価値を置く宝石となるという訳です。

039 A perfect diamond will reflect pure light from each facet that is cut upon it, and there can be no imperfections if the cosmic frequencies are to manifest in full.

039 完璧なダイヤモンドはカットされた一つ一つの面から純粋な光を反射するでしょうし、宇宙の諸振動が溢れるほどに現わされるなら、欠点などというものはあり得ない筈です。

### 【解説】

ダイヤモンドが他の宝石と異なるのは自分自身には色を持たず、外から照らされる光をそのまま受ける中でキラキラと光輝く物体に自身を表現することです。著者が他の宝石ではなく、ダイヤモンドに例えた背景にはこのようないくつかの理由がある訳です。

類似した教えは先日トルコ旅行で巡り会ったメブラーナ・ルミーも述べているところです。人の中にある価値あるものを宝石に例える教えは時代を超えて伝えられて来たということです。

"There is a soul in your soul, seek that soul; There is a jewel in your body, seek that jewel." (Mawlana Jalal Al-Din Al-Rumi His Life and His Path(2010年) より)。

オーソドックスなダイヤモンドのカット数は58（ブリリアントカットの場合）であり、その一つ一つがいわば人間の才能であるとすれば、輝く人物はそれほど多くの魅力と才気を発揮している存在と言えます。原石の状態から晴れて輝く存在になるまで、注意深く自らを磨く先に、私達は各自の目標を定めるべきと言えるでしょう。

040 Our habits of thinking in relation to past and present teachings in all fields of life are the rough spots that must be removed. Some will be harder to remove than others, but determination of purpose will bring the desired results. Then will come the polishing or establishing of new habits which perhaps will not be easy or pleasant at first. But when all of this is accomplished the Glory of God will manifest through the form once known as man.

040 生命の全ての分野についての過去及び現代の教えに関連した私達の思考習慣は取り除かなければならない荒削りな汚点なのです。ある部分は他より取り除くのがより困難かも知れませんが、目標に向けた決意は望む結果をもたらすでしょう。その後、研摩即ち、最初は容易でも快適でもない新しい習慣が来ることになるのです。しかし、この全てが達成される時、神の栄光が人として知られる形有る者を通じて現われるでしょう。

### 【解説】

太古の昔からこれまで私達は様々な教師から話を聞いて来ました。しかし、そのいずれに対しても正しい受け取り方は出来ず、誤った概念のまま自我の現世利益の対象として勝手に取り扱って来たのではないのでしょうか。

著者アダムスキー氏は度々、イエスの言葉を引用しますが、それはイエスも同じ主旨の発言をされていることを示している訳であり、いつの時代でも教えの本質は変わらないことを意味しています。

これは、地球という問題惑星に派遣される教師に似ています。地球の文明の発達レベルに応じて適切な教師が派遣されているのかも知れませんが、肝心なのは教わる側の私達が、その教師の言葉に対してどれほど真剣に学ぼうとする態度を持っているかでもあります。

仏教もしかりで、お坊様の唱える仏典の言葉をその意味には一顧もなく、只有り難く聞き流している姿が日常的であり、死者をともらう儀典の背景音楽に近い位置づけに近い存在と言えるほどです。

今回、たまたま旅先で知ったトルコにおけるイスラム教の聖人、メブラーナ・ルーミ(1207-1273)の語った言葉を見ると、その内容は本書に通じる面も多く見られます。実は千年に1度かの割合で地球に教師が訪れ、繰り返し生命の科学について私達に教えを説いている一大プロジェクトがあるのかも知れません。

041 It has been said that a rolling stone gathers no moss. But moss used in reference to man's accumulation of things has deterred his growth in cosmic intelligence. But the rolling one becomes polished by striking problems or other rocks and thus the debris is removed.

041 転がる石には苔が付かないと言われています。しかし、人による物事の蓄積に関連して用いられる苔は人の宇宙的知性における成長を遅らせて来ました。しかし、転がる石は諸問題や他の石とぶつかることによって、不要なものが取り除かれるのです。

### 【解説】

河口や海岸にある石は、いずれも丸みを帯び手に包むとその円満な形は温かみや安らぎを感じさせます。しかしこれらの石は最初からその形を成していた訳ではありません。はるか遠い昔、上流の岩が割れて生まれた時には形も鋭く、時には人を寄せ付けぬ鋭さがあったもの達だったことでしょう。

それらが毎年の大雨や洪水などの試練の度に、流され様々なものにぶつかって身を削る体験をしたものと思われます。その結果、たどり着いた先が大洋の波に洗われ、ますます磨かれる環境に身を置くことになったという訳です。

様々な行動を通じて体験を得た結果として、円熟した姿になり更には磨くことを止めない。その結果として石自体の美しさを表現する存在になったという訳です。

一方で現状に留まり、行動を起こさなければ風化は進み、コケに覆われて石そのものの存在も危うくなり、石自身の内部にある美しい結晶は表に現れることなく終わってしまいます。

私達がどちらの道を執るべきかは明らかだと著者は指摘しているのです。

042 The real beauty of man's finer abilities has become covered with moss and lost to his vision. For all that he can see is the moss which is a parasite that lives on the body of another form. This is equivalent to human habits that cover the real man. While the rolling rock may come up against many problems and rocks twice its size and endure pain while bumping against them and losing parts of itself, it keeps on rolling. And finally it is polished to a high degree and shows the colors and minerals of which it is made. And in some rocks beautiful designs are formed when the minerals by the law of affinity adhere to one another.

042 人間の繊細な能力に関する真の美しさは苔に被われ、見失われています。人が見ることができるもの全てはその肉体あるいはその他の形有るものにとりついて生きている寄生生物である苔なのです。これは真実の人間を被う人間の習慣に相当しています。転がる岩は多くの問題やその大きさの2倍もある岩に出くわして、衝突して痛みを堪え、自らの一部を失いながら、それは転がり続けます。そして、最後にはそれは高度に磨き抜かれ、それを造り上げている様々な色彩や鉱物を示すようになるのです。そして岩の中には鉱物が親和の法則によって互にくっつきあうことにより美しい模様を形作られているのです。

### 【解説】

本章037項から、人間をダイヤモンドの原石に例えて来ました。その原石を覆っているのが私達自身の習慣的想念であり、実際にはそれらは原石をも覆い隠すほど、はびこっているという訳です。

これに対し、毎日行動を起こし、新たなる課題にチャレンジする中で、今まで自分を覆っていた汚れが次第に取り除かれ、その者が本来持つ美しさが現れるようになるとしています。

しかし一方では、人間は生誕以来、身体は老化が進み、外見上の姿は次第に老けてしまうのは、所詮は未熟な中で生きている私達にとって、止むを得ないことです。そうした中で自分の原石を磨いて行くということについては、自身の内面の変化を意味しています。おそらくはこの内面の進化こそがその者の次なる人生に引き継がれる筈で、日々の精進とはそのような来世に備える意味があるのかと思っています。もちろん、磨く中では自身の環境もそれに応じて変化して来ますが、環境も肉体も所詮は「結果」の世界のものであり、もっと重要なのは目には見えない「原因」に属する領域での進化、次の人生に格段の影響をもたらす内面の進化であると考えています。

043 It may take ages to do this, but through patience and determination a human can express this beauty in ever increasing fineness. And thus become The Christ in God's Kingdom.

043 このことを成すには年月を要するかも知れません。しかし、忍耐と決心を通じて、人間は永遠に高まる繊細さの中、この美しさを表現することができます。そして、このようにすれば、人間は神の王国におけるキリストになるのです。

### 【解説】

実際には日々の精進と言うことは簡単ですが、実行は容易ではありません。知らず知らずの内に私達は習慣に流されていますし、まして困難にめげずに進歩する道を選択するには、大いなる決心を必要とします。

もちろん、上流には本項に記されているように各自のゴールがある訳ですが、丁度、堰を越えようとするアユの稚魚のように、何度も失敗を重ねながら、あきらめることなく努力を続ける中で、流れを遡ることが出来る訳です。上流に向かって泳ぐことを止めれば、流れと共に下流に流されてしまうことも明らかです。

何度も試行錯誤する中で、体験を学び知恵を身に付けられる訳で、本講座のように特段の導師の居ない中では、私達は各々、自らの毎日の体験から少しずつ何かを学んで必要な知識を身に付けて行く必要があります。

毎日の心の状態をどのようなものに保つと、どのような結果に結びついたか等、精神と物質との相関関係について得た体験を大切に記憶し、自らの知恵とすべきです。その蓄積によってのみ、私達は進化を遂げることになるのだと考えています。

044 So the first thing a student of life should do is to cultivate the ever present awareness of Cause and Effect. Where not only the mind will see the form as it has in the past, but also it will permit the consciousness to reveal the invisible supporter of the form. It will be like driving a car with full awareness of all of its working parts which produces the power, that the sight does not see.

044 ですから、生命の学習者は原因と結果に関する不断の警戒感を養うことを最初にしなければなりません。心がこれまでそうであったように形を見る他に、意識が形有るものの目に見えない後ろだてを明かすことを容認させることです。それは自動車を視覚では見えないその動力をつくり出す作動部品の全てを完全に意識しながら運転することに似ています。

### 【解説】

私達が努力すべき分野は多様ですが、それに共通する事項として心掛けるべきことを、本項で著者は明示しています。つまり、あらゆる行動において目に見える結果と同時に、その背後にある因の要素の活動に気付くことです。このポイントは心が落ち着いて印象に即応できるよう、心が印象に誠実である必要があります。

やって来る印象に対して、それを印象とすら認識しないほど即時に自らの行動をそれに従わせることが重要で、心の介入を無くすことが良い結果を生むように思います。各自が日常の生活の中で心の状態をどのようにしたら、そのような結果を得ることになったかを、じっくり分析することも必要です。

さて、文中にある自動車を運転する事例については、同様な例として、人体が当てはまるように思っています。肉体を制御して日々行動する私達は丁度、自分の車を運転することと似ています。自分の車（肉体）の中でどのような活動が起こっているかを熟知し、問題の有無を張り巡らされた神経ネットワークを駆使して把握しながら、無理の無い範囲内で人体を運用する中で、様々な体験を積むという、ドライブ旅行にも似ています。

045 Just reading this lesson will be of very little value but daily and momentary practice will bring results. When you have questions pertaining to any of the lessons you should write them down. And if you do not find the answer in the forth coming lessons after receiving three, you may send them to me.

045 ただ、この教科を読むだけでは何らの価値にもなりません、日々のそして刻々の実践が結果をもたらすことでしょう。この教科のどの部分についてであれ、疑問がある時は、それらを書きとめて下さい。そしてもし、3課を受取った後もあなたが次ぎに来る教科までに回答を見つけられなければ、それらの疑問を私に送って戴いても構いません。

### 【解説】

本項で第1課が締めくくられる訳ですが、著者はそのまとめのポイントとして、日々の実践の必要性を揚げています。また、読むだけの学習では価値がないとも述べています。

いつも思うことですが、とりわけ、日本においてはアダムスキー哲学は広く知られており、学習者の関心も高いのですが、私も含めとかく従来は頭で理解する、即ち、本の記述内容を記憶しているものの、実践には至っていないケースが多かったように思います。

しかし、本項で指摘されているように、自分が理解した事柄を自ら試し、実行する中で経験を得ることが大切で、実践のない思想は進化の役に立ちません。

また、本項では日々のmomentary（刻々）の実践が重要だとしており、印象を感受する姿勢として瞬間瞬間の対応が図れるような印象への鋭敏さと全面信頼の重要性を伝えています。

これまでの経験からも、地球上では印象感受は実に微妙な感覚であり、それらを感受するには、心を鎮め、感受性を高めておく必要があります。これらは印象への訓練として有効だと考えます。物質世界を生み出す因の作用である印象の潜在力を日々探求することが本項で言う実践の一つです。

ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第02課 段落046 [2012-03-09]

SCIENCE OF LIFE - STUDY COURSE

LESSON TWO

The Mind and Its Component

046 In lesson number one we left you with the idea of driving a car in full conscious awareness of all of its parts.

生命の科学—学習コース

第2課

心とその構成要素

046 第1課ではすべての部品を完全に意識しながら自動車を運転しているという概念で話しを終えました。

#### 【解説】

第1課では、心と肉体と意識について凡その仕組みを学んで来ました。その中で私達は精緻な印象が実は大きな力を有し、現象世界の各原子・分子に作用する力を持っていることや、それら印象等、現象の背後にある創造的な力について、現象を観る際に表面的な現象と同時にそれら因の要素についても感じるようにすることの大切さを教えられました。

この「生命の科学」講座は宇宙兄弟達から授けられたものとされており、その秘められた価値は、私達には十分把握出来てはいないように思われます。

与えられた自然環境や肉体等、他惑星人と地球人との間には大きな違いはありません。まして肉体内部で働く生命力の仕組みなるものは全く同じだと考えます。それに対して、大きく異なるのが心の発達程度です。おそらく想像以上の大差があるでしょうし、私達は自分の心をどう発達させるかが、当面の課題なのです。その為には、先ず自らの心を知る必要があります。研究対象は常に私達とともにあり、遠く調査に出かける必要はありません。四六時中十二分に観察できる環境にある訳で、この「生命の科学」の学習環境に関する限り、私達に不足しているものは何一つありません。後は実施に移すだけの問題です。

047 Now we proceed to analyze the mind, which is made up of the senses. This sense mind is actually in the process of creation through its constant learning. It is like a sensitive plate which receives impressions from its observations of effects. And most of the time its conclusions are not in accord with natural law.

047 これからは、感覚から成り立っている心なるものを分析することにしましょう。この感覚の心は実際にはその絶えざる学習を通じて創造される過程にあります。それは結果の観察から印象を受ける感受性のある板のようなものです。そしてほとんどの場合、その出す結論は自然法則と調和していません。

### 【解説】

具体的に心が肉体内の何処にあるかについても知りたいところではありますが、心の進化発展を目指す上からは、あくまでその運用手法において改良努力が為されなければなりません。それは自動車の各部の機能や能力についてある程度の知識は必要ですが、その車（肉体）の運用（運転）にあたっては、それらの細かい知識は当分の間、必要ではなく、外界との調和や運転技能が重要となることに似ています。

心がどのような反応を示し、どのような特徴を持っているのかを肉体（車）を操作する立場として、把握しコントロールすることの方が遥かに重要です。

本項では心を受感力を持った感光板と表現しています。外界を観察した結果、各感覚が発した印象が表現される機能を持った存在という訳です。通常、これらの現象は自動的に行われる為、それに対する心の反応（判断、裁き）も自動化されているように思います。そのような心の作用を先ずは、分析し、実態を掴むことから始める必要があるとしています。

048 In order to better understand the action of the mind, let us consider it in four parts, like four different people.

048 心の活動をより良く理解する為には、それを4つのパーツ、丁度、4名の異なる人のように考えることにしましょう。

### 【解説】

心が四つの構成、即ち視覚、聴覚、味覚、嗅覚の四感覚からなるとするのが、アダムスキー哲学の大きな特徴の一つです。本項ではそれを4人の異なる人物のように表現しています。つまりは各感覚自体が判断の意志を持つ存在としている訳です。

この状況について、かつてこのように考えたことがありました。つまり、私達は部屋の中央に座って居て、外界に関心があるのですが、4つの窓を通してしか外界を知ることが出来ない状況です。しかも各小窓自身が外界の情報を各々勝手に解釈して中央の本人に伝える為、本人は混乱するという図式です。

そもそも小窓から見える景色はその家を実際に取り囲む大自然に対してあまりにも限られた世界しか写しようが無いのですが、本人がその限界を自覚せず、ひたすら暗い部屋の中から、時々小窓から垣間見る景色に釘付けになっているというのかも知れません。

小窓に依存することなく、自我という囲いの壁を取り去れば、広大が風景が目の前に広がっていることが分かる中で、私達は固執した薄暗い暮らしを続けているのかも知れないのです。

049 The most predominant individual is sight. The next predominant one is hearing. Then taste and smell. You may say here, what about touch? The touch could be called a nerve impulse reaction which is not a sense, but it gives a sense reaction to the mind. As each sense acts independent of the others, oftimes one will disagree with the others. i.e. The sight may perceive a beautiful flower but the aroma is very unpleasant to the sense of smell and it rejects it. So the unity of mind is already divided. The same is true with the other senses, for one may like something and another dislike it. And while this is taking place, as it has for ages, pain and an unpleasant existence is the result.

049 その内、最も支配的な者は視覚です。次ぎに支配的なのは聴覚です。次に味覚と嗅覚になります。あなたはここで、触覚についてはどうしたのかと言うかも知れません。触覚は感覚ではなく、一つの神経パルスの反応と呼ばれるようなものですが、心には感覚のような反応を起こさせるのです。各々の感覚が他と独立して行動する為に、時として一つの感覚が他と意見を相違することが起ります。即ち、視覚は美しい花を認識するでしょうが、その臭いが嗅覚にとっては大変不快であれば、嗅覚はそれを拒絶します。ですから、心の一体性は既に分断されているのです。他の感覚についても同様です。何故なら、ある感覚が何かを好ましく思っても、もう一方がそれを嫌うかも知れないからです。そしてこのことが起っている間、その結果として何世代にわたって、苦痛と不快が存在して来たのです。

### 【解説】

私達は各々自分の体験から、視覚が最大の力を持っていることは理解出来ます。文字や画像から情報を得たり、自分の進路を選択すること等、全て視覚が取り仕切っています。航空機や自動車の運転等、視覚が十分に備わっていなければ実現できないものも数多いものです。

しかし一方では、私達はあまりに視覚に頼りすぎる生活を送っていることも確かです。外見を重視することや他人の視点を意識した行動、更には自分自身の生き方を本来、一感覚に過ぎない視覚に依存する結果になっています。

元来、感覚は得た情報をありのままに伝えるだけの機能でしたが、いつしか感覚自体が十分な知識や経験もないまま、勝手に即断し、対象を裁く立場に自らを增長させて来たことに気付くことが重要です。

感覚は本来、生きる上で生命力に仕える為の存在でしたが、今や人間の主人公になり、横暴さを示していることが問題なのです。先日も電車の中で若者の一団がワイワイと話をしていましたが、彼らの会話が何と薄っぺらで、たわいの無いものであるかに落胆したことがあります。私達が支配されている四感覚の実力と正体を見定める姿勢から取り組む必要がありそうです。

050 Jesus said a double minded man is unsuitable in all of his ways. And it is double minded when one sense likes something and the other does not. So Jesus urged man to be single minded in all of his ways. In other words unite all four senses for the purpose of service and not judgment. And this can only be done by conscious guidance. For in consciousness there are no likes or dislikes, it understands the purpose for all manifestation but the mind does not. All manifestations are conceived in consciousness and born into the world of effects. Just as the mind was conceived in consciousness and born as an effect of that conception. This is why it is so easy for the mind to guide itself by effects. And not having the knowledge and the reason for all of the effects it passes judgment in either likes or dislikes.

050 イエスは二心ある者は全ての道において不向きだと言いました。そしてひとつの感覚がある物を好み、他の感覚が好まない時、二心となるのです。それゆえ、イエスは人に全ての道において心一つになるように求めたのです。言い換えれば、裁きではなく、奉仕の目的の為に4つの感覚を統合せよということです。そしてこれは意識の導きによってのみ為され得るのです。何故なら、意識の中では好きとか嫌いとか無く、全ての創造物（注：manifestation）にとっての目的を理解していますが、心はそうではないからです。全ての創造物は意識の中では生まれ、結果の世界に生まれて来ます。丁度、心が意識の中では生まれ、その結果として生まれるのと同様です。これが心が自分を結果によって導くことをそのように容易になる理由です。そして心は結果物の全てについての知識や理由を知らないが故に、好き嫌いの判定を下しているのです。

#### 【解説】

自身の中でも意志がふらついては、実行力はありません。 「二心ある」者についてのイエスの教えは、本講座にとっては心の中の各感覚の意見の衝突として描かれています。つまりは、基本的な学習事項は2000年前と何一つ変わらないとも言えるでしょう。

この間、私達は、何度かこれらの教えの深遠な要素を学ぶチャンスがあったのですが、再び、この学習コースの中に復活することが出来たという訳です。

一方、私達の心は何故、迷いがあるかについては、因なるもの、創造主や意識の存在等、目に見えず形を持たない存在に信頼を置いていないことが挙げられます。これは本文にあるように、私達の心自体が肉体の感覚という、より肉体（即ち結果）に近い要素である為、結果（現象）に親近感が強く、因に属する存在については、よほど学習しないと、認識できないことに由来するものと思います。

その結果、その行動によってもたらされる結果が確認されない以上、リスクを伴う行動は起こしたくないのです。しかし、そのような状況では「二心」は生じるとしても、物事を実現させる創造力ある力は発揮できません。私達はこれら心による抵抗や心の中の葛藤、恐怖心を捨てて、因の指導に従った行動を積極的に起こすことによって、体験を増やし、その法則性を学ぶ必要があるのです。

051 In time it must retract these opinions if it is to have a pleasant existence. All of the troubles in the world have been so created. And when they become too great, people decide to place them in The Hands of God, which is the All Inclusive Consciousness that created all things with a purpose. Each person will hope that this Great Intelligence will correct the situation. But when the correction is shown in many cases, it is not accepted for it is not understood by the mind which made the mistake in the first place.

051 もし快適な存在を得るのであれば、いずれはこれらの意見を引っ込めなければなりません。世の中のトラブルの全てはそのようにして造り上げられて来ました。そして、それらトラブルが大きくなりすぎると、人々はそれらを万物をひとつの目的で創造した全てを包括する神の御手に委ねることを決意します。各個人はこの偉大な知性が状況を修正してくれることを望むのです。しかし、多くの場合、修正法が示されても、その修正案は受け入れられません。最初に過ちを犯した心によって理解されないからです。

### 【解説】

「心一つに」という言葉は、心の中に浮かぶ様々な意見を先ずは謙虚に整え、自分達は創造物であるとの実感に立って、因なる存在からの指導的印象に従うことに一致団結するという意味なのだと思います。

私達の惑星で日々起こっているいさかいは、皆、心の意見から創り出されていると、本項は指摘しています。自然界では弱肉強食や群れの統率者を巡る争いがあるものの、人間社会が巻き起こす各地の戦争や社会の争いは、もはや地球の寛容の度を越えているように思います。

日本でも弁護士が急増しているように、民事においても争いごとが増えているように思います。

しかし、こうした自己主張の傾向が強まり、社会の調和が薄れると、やがて自然は耐えかねて、身をよじるような変動を行うのではないのでしょうか。かつてのアトランティスやムー大陸等、文明の凋落期に合わせて地球規模の変動が起こったとされています。

私達は、自らの心を注意深く観察し、何処に問題があるかを日々学ぶ必要があります。幸い、まだ寛容の範囲内にあり、学習の機会がある中で、一人一人が心を鎮め、因からやって来る助言を待ち望む態度を貫くことの重要性を知って欲しいと思っています。

052 And oftimes the mind takes the stand of least resistance, a state of inertia, and does nothing. It tries to escape its responsibility instead of having the determination to learn by correction. It has been said that God helps those who help themselves. So the individual must do something in order to correct the undesired results and have the rewards hoped for.

052 そして、しばしば心は最小の抵抗、慣性状態をとり、何もしなくなります。心は修正によって学ぼうと決心する代わりにその責任を逃れようとし、しかし、神は自ら助ける者を助けると言われてきました。ですから、個人は不本意な結末を修正し、望んでいた報酬を得る為には何かを成さねばなりません。

### 【解説】

本当は失敗こそ貴重な学びの機会なのかも知れません。私達は体験を通じて学ぶことができますが、そういう意味でも、その失敗はそれまでの積み重ねが現象化した一例と見なすべきでしょう。私達はその失敗から学ばなければ次には更に大きな現象を誘引することになります。

しかし、私達の心は、多くの場合、失敗の原因をわざわざ分析しようとはせず、他の要因に押し付けてしまいます。真の原因を究明し是正しようとはしないものです。本項にあるように従来通りの生活を続けたいと思いますし、場合によっては「対応不能」として全てを投げ出して、眠ってしまいます。よく精神医学では問題を抱える患者には睡眠薬を処方するようですが、このような心の傾向はパニック状態を回避する一種の自己防衛なのかも知れません。

一方、こうした問題発生時に、心がどのような状態になるのかについて、私達は冷静に心を観察する必要があります。宇宙に流れる生命の法則を信頼し、謙虚に自らの過ちを分析し、改心の歩みを始める必要がある訳です。

053 The pride of the sense mind may find the process painful, but the sense man must learn by experience. And to do this he must school the senses to respect one another. For as it is now they have no respect and as a result a person has no respect for his being. Thereby he has no respect for others, except those who please one or another sense.

053 感覚心のプライドはその過程に苦痛を見い出すかも知れませんが、感覚人は経験によって学ばなければなりません。そしてこれを成すには、各感覚を互いに尊敬しあうよう訓練しなければなりません。何故なら、現在そうであるように、それらには尊敬感が無く、その結果、人は自分の存在に尊敬感を持っていないからです。それ故に、人はいずれかの感覚を喜ばせるもの以外に他に対して尊敬感が無いのです。

### 【解説】

若さが無くなるのは、学習意欲が薄れることに起因します。その遠因には、今更他人に教えを請うとか、自分が知らない事柄があることを表明することに対し、自我（エゴ）がプライドを失うことに抵抗を示すことがあるのです。しかし、自己防衛に走っているのは、いずれまやかしの言い逃れの癖がつくだけで、真の進歩はない訳です。

その点、大事なことはいくつになっても素直さを忘れないことです。とりわけ、創造主に対しては年齢の大小は関係ありません。また、本項にあるように、各感覚も等しく主人公（人間）の行動に役立つよう、各々平等に、また謙虚に互いを尊ぶ必要があります。

このようなことは至極簡単な原理であり、私達に課せられた問題解決に向けた解決策は単純明快です。問題はその実行であり、そのような単純明快なる人生こそ、私達が求めるものと言えるでしょう。アッシジの聖フランチェスコもこうした明快な人生を送る手本を私達に示してくれた人物です。

054 Unless the sense mind disciplines itself and allows the consciousness to govern it, it will continue as it has in the past.

054 感覚心が自身を鍛練し、意識に心の支配を任せるようにしない限り、その状態は過去と同様、引続くことでしょう。

### 【解説】

この生命の科学講座に出てくる学習内容は、万人共通のものであり、その学習は全く個人の選択に委ねられています。個人個人が自らをその方向に仕向け、意識という生命力に自らを委ねることをしない限り、進歩は無く、そのままの状態に留まることになると本項は指摘しています。

私達各自が人生を送る目的の中で最大のものは、この意識なるものに目覚めることなのですが、それらは基本的に各自の選択ということになります。その選択を創造主は長く待ち続けているという訳です。その間、本人は自ら蒔いた種から出た結果を刈り取りながら、結果の世界で格闘することになります。その期間は当然ながら、転生後の次の人生にも及ぶこととなります。

そういう意味で、せっかく出会った貴重な機会と捉えて、長年の懸案であった心の訓練と意識の研究を進め、先を行く宇宙兄弟達が持つ理解力に触れようとする気構えが大変貴重であり、重要ということになります。

従来から、様々な教えがありますが、皆同様なポイントを示しており、ウエイン・ダイヤーの言う「Surrender 降伏」、親鸞の「他力本願」もその例だと思えます。自らの自我・感覚心をより大いなる存在に服従させるという言葉の意味は大きいということです。

055 If a family is to be happy, each individual of the family must respect each other member as he would like to be respected. And each must have trust and faith in the parents that are the guiding hands. And so it is with the senses - they are the family that make up the household of a man. And they must be taught respect, trust and faith in each other. And above all, for the parent which in the consciousness. It will not be easy to rehabilitate the senses due to the many habits that they have cultivated. But this must be done if we are to have a heavenly type of life. There is no other way except through learning and understanding the reason for life.

055 もし家庭が幸せになろうとするならば、その家族の各員が自分がそうされたいように互いを尊敬しなければなりません。そして各々が導き手である両親に信頼と確信を抱かなければなりません。そしてそれは諸感覚についても言えることです。それらは人間という家庭を作り上げている家族なのです。そしてそれらは互いに尊重し、信用し、信頼することを教えられねばなりません。その中でも両親である意識に対しては特にです。それらが養った多くの習慣の為、諸感覚を矯正するのは容易ではないでしょう。しかし、私達が天国のような生活を得ようとするなら、この作業は成されなければなりません。生命の存在理由を学び、理解することを通じて以外に他の道は無いのです。

### 【解説】

本講座に限らず、実は太古の昔から同じ内容が時々の賢者によって私達に伝えられて来たように思われます。言語や表現方法は異なりますが、各々の語る内容はいずれも近いものがあるようです。

その共通しているものが、私達は皆、全能の存在の下に生きているということであり、その存在に依存すると同時に、その存在から絶えず恩寵を受けていることです。そうした中では、当然のことながら、私達は謙虚にその信頼を守り、その全能なる存在の庇護の下、信頼と感謝の気持を持って暮らすことが大切だという訳です。

一方、本講座が特出されるべきは、その謙虚になる為には、私達の心自体の中身を分析し、四感覚が諸々のトラブルの原因となっていることを自ら突き止め、それらを調和統合させよと具体的に例示している点にあります。

心の動きを観察する中で、各感覚が独自の判断を下して、「裁く」状況を作り出すことを確認し、それらを鎮め、感覚を謙虚にさせることが重要です。自らの感覚をコントロールする中で、遥かに大きな「意識」の存在に気付くようになることが求められています。

056 DISCIPLINE OF THE SENSES

How is one to discipline the senses? The sense of sight which guides itself by effects, as it is an effect of consciousness, seldom takes the time to study the cause back of what it sees. And by now if you have learned the first lesson well, there should be a desire to know the purpose for which each form has been created. And this can be revealed to the mind when an effect is viewed with the second sight, so to speak, or with the sight of consciousness. And as stated before single sighted.

056 諸感覚の鍛錬

諸感覚を鍛錬することとはどのようなことを言うのでしょうか？結果によって自身を導く視覚は、意識の結果の一つであるため、めったに自分が見るものの背後の因をじっくり学ぼうとはしません。そしてこれまで、もしあなたが第1課をよく学んでいたら、個々の形有るものが創造された目的を知りたいという願いが湧き起るはずで。そして、これが結果がいわゆる第二の視覚、言い換えれば意識の視覚で見られる時、心に明らかにされるのです。こうしてこれまで述べたように一つの視覚になるのです。

【解説】

先ずは本文中にあるdiscipline（鍛錬、訓練）の意味合いについてです。disciplineとは日本語で鍛錬や訓練とは、トレーニングの意味にもなりますが、何か練習して速く走れるようになったとかという意味のトレーニングではなく、子供や動物に躰けを身に付けさせるような意味合いで用いられます。つまりは、自らの感覚をより繊細、上質なものとすべく、躰けを行えとしている訳です。

しかし一方では、世の中には神秘主義的傾向を持つグループも多くあり、あまり未知なものに憧れ、一足飛びにその世界に飛び込むことには危険も多いのです。中には本物を教えるグループもあるでしょうが、その真偽を見分けること自体、容易ではないからです。その点、自らを実験台にして日々の暮らしの中で各々様々な工夫を行いながら、進める方が着実だと考えているところです。

さて、本項では感覚の鍛錬・訓練がテーマですが、例えば目が対象物を見る際、形ある結果物の内側について気付く以前に、実は通常の視覚自体、十分には対象物を把握していないことが分かります。

例えば、虫のスケッチ一つを描くにしても、私達の描いた画と、昆虫画の細密画家・熊田千佳慕(1911-2009)の絵とは、描写力において雲泥の違いがあります。熊田氏は虫を描く際にも、実に丹念に観察し、その後は対象物を見ることなく、あのような細密な絵を描いたとされています。「不思議なことに八十になってから目がよくなっちゃったんですよ。いままで見えなかったこまかなところが見えてきたのです。それでもものをよく見るようになったんですね。」とは熊田氏87歳の発言です。（「熊田千佳慕 花と語り、虫と遊ぶ」 求龍堂,1998）

創造物一つ一つに対する尊敬と愛情があってはじめて優れた観察が出来るということでしょう。私達の感覚の訓練は同時に、私達の才能を拡げる意義も持っている訳です。

057 A child in a classroom is a good example. A good student follows the instructions of the teacher without having any opinions of his own during the time that the lessons are being given. After this he tests the information given to see if it is correct and where it fits into his own life. While another student will speculate on what a teacher is going to say, thereby he is ahead of what is being said. And he misses important points and has no clear knowledge of the subject. The first student profits from the instructions. The second one does not. In the case of the attentive student he humbled his mind to listen, but the second one became aggressive and lost the valuable points.

057 教室にいる子供が良い例です。良い生徒は教科が教えられている間は如何なる自分の意見を持つことなく、教師の教えに従います。その後、生徒はその与えられた情報が正しいか、そして自分の生活の何処に当てはまるかを知る為、確かめます。一方、もう一人の生徒は先生が何を話そうとしているかについて思いを巡らし、話されていることの先に行っています。彼は重要な要点を見逃し、本題に関する明瞭な知識を得ることがありません。最初の生徒は教えから利益を得ましたが、次ぎの生徒は得られません。傾聴した生徒の場合は、自分の心を謙虚にして聞こうとしたのですが、次ぎの生徒は攻撃的になり、価値ある要点を失ったのです。

### 【解説】

それでは具体的にどのようにして感覚心を鍛錬するのかを示したのが本項です。

私達の心に対する教師は「意識」であり、その教えは印象によってもたらされます。しかし、その教師の存在も、その声もこれまで私達は掴みきれていない所に難しさがあるという訳です。

まずは創造主に対し謙虚に、また自らの実態について客観的に観察することから始まる訳ですが、問題は次に因の領域からの印象を感受した場合にも、注意が必要だということです。

私達の心はせっかちであり、直ちに結果を求めたがります。しかし、与えられる有益な印象は多くの場合、すぐには私達の理解出来ないものも多い為、未だ完全に受信し切れていない間に、心が良否の判断あるいは更にその印象を元に勝手な空想に進むことを厳に慎まなければならないという訳です。

まずは全てを受け入れて、その後、その印象が自分に何を伝えているかを考えることです。

インスピレーションは貴重な機会であり、二度とはやって来ない可能性もある訳で、私達はそのような因からの贈り物を大切にお迎えして、その印象に託された創造主の思いをしっかり受け止めることが重要です。

058 The mind, in order to learn from the consciousness must humble itself to get each point in a clear manner. For this instruction comes only by impressions. Whether observing an object or listening to sounds, impressions will be given independent of the mind. Consciousness is not governed by habits like the mind is. i.e. When I made the first contact with a space person my mind wanted to know many things, especially things that conformed with my habitual life. I had to control my mind and remain silent so that I could receive all that he wished to impress upon my mind. Had I speculated on what was to be given, I would have missed the significant of the meeting.

058 心は意識から学ぶには各々の要点を明瞭に理解する為、自らを謙虚にしなければなりません。何故なら、この教えは印象によってのみもたらされるからです。ある物体を観察する際や音に耳を傾ける際に、印象は心とは無関係にやって来ます。意識は心のように習慣に支配されておられません。ですから、私が最初に宇宙人と会った時、私の心は多くの事柄、特に私の生活習慣に合った事柄を知りたがっておりました。私は自分の心を抑制し、相手が私の心に印象付けたいと思っていたこと全てを受け入れる為に沈黙を続けたのです。もし私に何を与えられるのか考え巡らせていたら、私はその会見の重要ポイントを見失っていたことでしょう。

### 【解説】

印象に従おうとする姿勢は謙虚さを必要とします。私達の心の問題の第一は、結論を急ごうとすることと様々な不安が前面に立って、因からの印象をじっくり受けようとする謙虚さを失いやすいことにあります。

これら心の動きについては、同乗記にアダムスキー氏がブラザーズ（宇宙兄弟達）に市中であった時の模様にも記述されています。コンタクトの際、心の関心事である様々な雑事について尋ねたいとする心を抑えて、ブラザーズの側から伝えようとしている事柄に耳を傾けようとする氏の姿が述べられているのはご案内の通りです。

本項は前項（056）以来続く、「心の鍛錬」の一環の記事内容であり、私達の心を鍛錬するとは、どのようなことであるかを解説しています。

先ずは、因から与えられようとしているメッセージがどのようなものであるか、じっと謙虚に耳を傾ける姿勢を日常生活に取り入れる姿勢が重要であるという訳です。

059 In later contacts when I was given the privilege of asking questions, I did. But in each case I had to wait for that privilege to not interfere with what was being given. Many things did not fit into my way of life at the time but I was patient and trusted the ones who were giving me the knowledge. At first it was like a puzzle but at the end when all parts were put together the picture was clear. Had I been impatient and interrupted the individuals who were giving me the information I would have lost the precious jewels and had nothing but confusion. As I became as a child to the instructor, I was given many privileges and I am now living in the Cosmic Kingdom instead of the world that I did before.

059 その後の会見で私が質問の特権を与えられた時、私は質問しました。しかし、どの場合でも私は与えられている事柄を邪魔しないようその特権を待たなくてはなりません。多くのことが当時の私の生活の仕方に合いませんでしたが、私は忍耐強くまた、その知識を授けてくれる人々を信頼しました。最初、それはパズルのようでしたが、ついに全ての部品が繋ぎあわされた時、その絵は明確なものでした。もし、私がせっかちで、その情報を授けてくれる個人を遮ってしまったら、私は貴重な宝石を失い、また混乱以外何物も得なかったことでしょう。私は教師に対して子供のようになることで、私は多くの恩典を与えられ、今や私はそれまでの世界に代わって宇宙的王国に住んでいます。

### 【解説】

心の躰けのあり方として、本項はアダムスキー氏自身の実体験を語っています。私達がより高次の進化を遂げた他惑星人に会う時、私達はさまざまのことを聞きたいと思う筈です。しかし、そのような心の好奇心を満たすことと、意義ある知識を得ることとのつながりはないことが多いのです。

同様に、何か奇跡を起こす為に努力することも本来の目的とは言えません。私達はとても限られた理解の範囲内で生きている為、そこから解脱することは容易ではありません。先人である教師の実体験から、乗り越え方を一つ一つ教わってはじめて殻を打ち破ることが出来るということでしょう。

その為には、真実の教えを語る人や因なる源泉を信じて、送られてくるメッセージをしっかりと受け止めなければなりません。当初は理解できなくても、何年後かに全体が組み合わされて理解出来るテーマもある訳です。

私達は心を躰ける際、先ず心を素直にさせ、やって来る印象に一切の疑念を挟むことなく素直に受け入れ、その印象が何を意図しているのかを知ろうとすることです。場合によっては、先ずはその印象に従って行動して見てはじめてその印象の意図する所が分かることもある筈です。印象によるメッセージは人から、また因なる創造主から、私達が感受出来る出来ないに関わらず、私達に絶えず寄せられています。

060 The consciousness is a cosmic teacher and unless the student does as I have done in this case, he shall have nothing but confusion in the end.

060 意識こそは宇宙的教師であり、学習者は私がこの事例で行ったようにしない限り、最終的に混乱以外の何物も得ることはないでしょう。

### 【解説】

よく思うことは、この生命の科学講座の記述内容は通常解説書とは異なった書き方が成されているという想いです。従来の地球的な学習書は内容の良否は別として、基礎から応用まで順序立てて記載されていますが、本書に関する限り必ずしもそのような記載になっていません。もちろん、そのような書き方も出来たかと思いますが、そうしなかった理由が最近、多少分かってきた気がするのです。

つまりは本書が伝えたい内容は、これまでの私達の概念や常識を大きく変える程の転機となる為、それらを単に頭の中の知識の一つとして収納させることは、得策ではないと判断されている可能性があるです。

従って、随所に何気ない記述で概念が散りばめられているようで。例えば、本項で言う意識からの指導に従う件についても、世の中にはその他数多くの想念や印象類が様々なレベルのものが流れており、それらの中で、その貴重な印象の出所と絶えず繋がっている為には、その源泉に信頼を寄せて、しっかり周波数を合わせて置く必要があります。成果を遂げる為には、意識と呼ぶその宇宙的源泉への揺るぎない信頼(faith)が重要な訳です。

061 Many people have asked me why I did not ask this or that, trifling things in most cases, but had I done so I would not have the knowledge that I have today. Jesus said, lest you become as a little child you cannot enter the Kingdom of Heaven. Which is the kingdom of cause. And the Bible states that there is nothing hidden that shall not be revealed in time.

061 多くの人々が私にあれこれといった多くの場合、つまらぬことを尋ねなかったのかと聞いてきますが、もし私がそうしていたら、私が今日得ている知識を得ることはなかったでしょう。イエスは言っています、幼子のようにならない限り、天の王国に入ることは出来ないと。それは因の王国でもありません。そして聖書はやがて明らかにならないものは何も無いと述べています。

### 【解説】

アダムスキー氏がデザートセンターで最初にコンタクトしたのが1952年ですから、氏が61歳の時です。その後、同乗記以降、他惑星人との正式な交流が始まる訳ですが、同乗記に記述されているように、氏は他惑星人に対して、実に素直に受け入れる姿勢を貫いています。

ここが大事な所で、年齢に関わりなく私達は宇宙的源泉に対して、全くの受け入れの姿勢を保つことが必要です。もちろん、世の中には偽宇宙人や故意に謝った情報を流して他人をおとしめる勢力も多い訳ですから、私達は受け入れる対象についてはじっくり観察し、真偽を確かめる必要はあります。

その点、各自が各々宇宙的源泉からやって来る印象を感受するについては、何らの心配は不要です。意識の指導に従う生活はより良い方向に私達を導いて呉れることは確かです。少しずつ因の世界の仕組みや法則を理解するにつれて、私達自身の能力（実現力）も高まることでしょう。

そういう意味では、創造主に対して私達は常にその子供であり、創造主の庇護の下に生活していることを忘れてはなりません。

062 Patience and faith are the foundation of such a reward. For those who become impatient become shipwreck.

062 忍耐と信頼はこのような報いの基礎です。短気な者は挫折します。

### 【解説】

マジックショーでもない限り、目に見える結果が私達の想念の変化に対して現れる筈もありません。目に見える段階に到達するには原子・分子が10の何十乗倍もの規模で反応する必要があり、一定規模以上の時間は必要なのです。種が地中で発芽してから地上に若芽を現すまでには、種の内側で起こった変化の時点から、かなりな時間が経過しているところは私達も理解出来るところです。

一方、直ちに結果、即ち目に見える形が現れないからと言って、折角の努力を止めてしまつては、かえつて混乱だけが残ってしまいます。この種の学習には忍耐が必要です。

しかし、一度、良い成果が得られることを学習出来れば、歩む方向はこれで良しということになり、あとは目に見えない創造主に信頼を寄せて歩むことになります。

私達の状況は、自らが作った狭い殻の中にいる自尊心だけが強く、実態は弱弱しい鳥のヒナなのかも知れません。早く光のあたる広い外界に出たいところですが、それには自分でコツコツ殻を壊す必要があり、ヒナの行く末を創造主がそっと待っているのかも知れません。

一方、忍耐強さについては、私達の創造主は驚くべき辛抱強さであり、何度も裏切られながらも、長年月の間、私達が創造主の下に戻ってくるのを待って下さっており、およそ、忍耐に関する限り、創造主に勝るものはありません。

063 The Bible also states that man has many talents. So we will observe the talents with which the Infinite man is endowed. And the important part which each one plays in the cosmic plan where men are equal.

063 聖書はまた、人は多くの才能を持っているとも言っています。ですから私達は無限なる人が授かっている才能を観察することとしましょう。そして人々が等しく存在する宇宙の計画の中で1人1人が担う重要な役割についてもです。

### 【解説】

宇宙においては誰一人、差はなく、皆一人一人が各々の才能を持つと、本項は私達に説いています。次項（064）以降、建築物を建立する際に果たす様々な職種・技能についての記述が続く訳ですが、注目したいのは、何故著者は「心とその構成要素」というテーマの中で、この課題を取り上げているかという点です。

従来の私達は、自我（エゴ）が物質を所有（支配）し、これまでの文明・文化は全て、人間が作り上げて来たと言主張して来ましたが、本講座においては、そのような観念は捨てなければならない訳です。全ての知恵は因に属しており、人がたまたま幸運にもその英知に触れたことにより、達成出来たという訳です。

因から見れば、様々な才能分野に差異はなく、高低の別もありません。一人一人が因に繋がって得た才能を応用することが重要だということでしょう。この講座の当初の目的が各自の自己研鑽とすれば、その先にあるものは、その結果得た才能を各自が発揮して、惑星全体をより良いものにすることが本来の目標ということになります。

064 The construction of a large building can be used as an example of what we mean, especially when it is to be a new type of architecture. The completed building is pictured on the screen of a man's mind by the consciousness. Once the mind sees the picture clearly a blue print of the impressions is drawn in order to retain the design of the structure. As in the drawing of the house plans, this is the first effect of the cause. Then the blue print is placed in talented responsible hands to bring about the manifestation. This individual in turn procures artisans and materials for the construction.

064 大きな建物の建設はこの意味するところの一例として用いることができます。新しいタイプの建築の場合は特にそうです。完成した建物は意識によってある人物の心のスクリーンに描かれます。その人物の心がそのイメージ（姿）を明確に見るとその建物のデザインを保持する為、すぐに印象に基づく青図が引かれます。家の建築計画の作図の時と同様、これが原因の最初の結果です。次に青図はそれを現出させる任務を担う人の手に委ねられます。この人物は次にその建設に必要な職人や材料を手配するので

### 【解説】

私達は、あらゆるものが神の創造物とする時、人の手による建造物はどのように観たらよいのでしょうか。その問題を本項はわかりやすく述べています。

つまりは、人を介して創造物が造られるというルートです。この場合、これまでにない新しいデザインの建物なのですが、それを感じ取ったのはある人間で、その人がそのイメージを紙に描いたのが第一の創造、即ちいままでも形として表に現れて来なかった印象がはじめて物質である紙の上に固定されたということになります。

この物語は更に進展し、建造の責任者の手により、より具体的な形となるよう、詳細な検討が行われ、図面化される訳です。

このように次々に創造の段階は進展し、遂には当初のイメージを具現した建造物が出来上がることになる訳です。

そこで大事な点は、この各段階を担う人の各々がそれぞれの自らの才能を発揮して具現化（即ち、創造）に向けて、役割を果たして行くことであり、それに携われる者全てが、その創造を担っている、あるいはその発現の道具になっているということです。

065 The first workers that he engages are what could be called of the lowest talents. For they will be the ones responsible for the ditch in which the foundation of the building will be laid. And without which the building could not be built.

065 最初に雇う労働者は最も低い才能の者達と呼ばれるかも知れません。何故なら彼等は建物の基礎を置く為の溝を受け持つ人々であるからです。しかし、それ無しでは建物を建てることは出来ません。

### 【解説】

本項で言うところは建物を建立する際には、何処でも見られる光景であり、基礎・土台はその後、その上に立つ建物を支える重要な存在です。考古学ではしばしば、地中の土台しか残っておらず、その礎石の配置や大きさから当時の建物の規模を推定することすら行われます。

しかし、一般にはこれらの仕事は、比較的職業差別の少なくなった日本でも、つい最近までは「3K」職場として嫌われて来ました。諸外国の多くは職業の差別感根強いものがあり、各々の仕事を担う者が完全に分かれている等、仕事の別による差別意識は高いようです。

本項の場合、著者は人間各々の能力（才能）は様々であり得ることは認めたにしても、その意義と価値は皆等しいことを説いています。職業の貴賤無しという意味はそれらが全て創造の御業を担う意味合いに立つことで、はじめて理解できるという訳です。

066 From here on many talents will be employed to complete the structure. The final touch of historic recordings and beauty will be the murals painted upon the inner walls of the entrance. And for this the finest artist will be engaged. But even he with all of his talent cannot produce what is asked of him if the pigments of his paint had not been processed from the pick and shovel man through the various refining steps necessary. And this is true with the brushes and other equipment which he must use. And without these his talent would be of no value.

066 ここからは、多くの才能を持った者が建物を完成させる為に雇われることになります。その歴史的記念と美の最終段階の仕上は入口の内壁上に描かれる壁画となるでしょう。そしてその為に最高級の画家が雇われることでしょう。しかし、彼の才能全てをもってしても、彼の使用する顔料がツルハシとシャベル人夫で取り出されてから必要な精製工程を経て処理されていなければ、依頼されたものを造り出すことは出来ないでしょう。そしてそれは彼が用いる刷毛やその他の道具についても同じく当てはまりません。

### 【解説】

本項で示されているのは、何かの記念館のような建物の例ですが、建築物の最初の発想から具体的に建物が建造されるまで、様々な人の手が関わっていることを、改めて考える必要があります。つまりは、私達はその後、完成した建物を見ますが、それは最終的に形となって現実世界に出現した結果であって、それが創り出される為には、基礎工事から最終的な壁画の仕上げまで、様々な才能の発現があったことに気付く必要があります。しかも、その各々の仕事には貴賤の別は無く、相互に依存した関係にあることも重要なポイントです。

以前、アダムスキー哲学にも造詣が深いある映画関係者から生前、お聞きした話の中に、映画作りの上で最も重要な役割はプロデューサーだという発言がありました。当初のイメージをどのように具現化して行くか、全体を調整し、作品の方向付けを決める役割が重要だという意味であったかと今では考えています。建物の場合も、全体を通じて各役割を調和させ、全体を指揮する存在が重要です。結果物を一瞥する時、このような背景を私達は因として感じ取る必要があるということでしょう。

067 Here you can see that the lowest talent is equal to the highest. From this you should know what the word equality really means. And this is far from the average definition of the word.

067 ここにあなたは最低位の才能が最高位の才能と等しいことがお分かりになるでしょう。ここからあなたは世界の平等というものが実際、どのようなことを意味するかを知らねばなりません。また、これは世の中の平均的定義とはほど遠いものです。

### 【解説】

「等しい」・「平等」の本質的意味を前項（064～066）で示していると著者は説明しています。

「等しい」ということを別な表現をすれば、互いに相互依存し、無くてはならない関係にあるということでしょう。これは建物に限らず、あらゆるものに当てはまります。また、相互依存の関係は植物と動物との関係にも成り立っています。植物が動物に食物を提供する代わりに、種を遠くまで運んでもらう、等々です。花の受粉を助けるミツバチや木の実を食べた鳥が種を遠いところに運ぶ等、その例は枚挙のいとまはありません。

一方、平等感は一切感にも通じるものがあります。「異質なもの」と毛嫌いする姿勢は分離や対立感しか生み出しませんが、平等感や相互依存の自覚は対象物との一体感が生まれます。実はその一体感こそが、相手の意識と融合し、印象によるコミュニケーションを可能にする基礎的な条件ではないかと思っ

068 Another example for the sake of clarity. When King Solomon's Temple was finished he expressed a wish to have the man who had done the most in bringing about its completion, honored in a ceremony and seated in a chair next to his own on the Throne. All of the men of different talents presented themselves in clothing appropriate for the occasion, each hoping for the honor. But a blacksmith entered dressed in his working clothes. A burned apron and dirty hands from the forge, and seated himself in the chair. This caused a stir and complaint among the other men.

068 明確にする為にもう一つ例を挙げましょう。ソロモン王の寺院が完成した時、ソロモン王はその完成に最も貢献した者を式典で表彰し自らの王座の隣に座らせたいという希望を明らかにしました。様々な才能の持ち主が、各々その名誉を期待して、その場面に相応しい身なりで出席しました。しかし、ひとりの鍛冶屋が作業衣のまま入って来ました。仕事場から焼けたエプロンと汚れた両手のまま、その椅子に着席したのです。これは他の者たちの間に騒ぎと不平をもたらしました。

### 【解説】

ソロモン王に関するこの逸話は、私が調べた限り ([http://www.bible.or.jp/vers\\_search/vers\\_search.cgi](http://www.bible.or.jp/vers_search/vers_search.cgi)) では、旧約聖書の本体には、記載されていないようですが、有名な逸話としては伝承 (<http://edwardkarn.com/king-solomon-and-the-blacksmith/>) されています。

とかく職業に差別感を持ちやすい私達に対して、この勇気ある鍛冶工は自分の身の危険を顧みず、自らが考える「平等」について主張したという訳です。

私達は服装や外観から良し悪しを判断しがちです。もし汚れた作業衣を着る者が劣等感を、美しく着飾った者が優越感を持つとしたら、自ら上下の差別、貴賤の差を認めることとなるでしょう。しかし、この逸話は、栄華を誇ったソロモンの時代に寺院建築の下働きを支えた職人に自分の技術に対する誇りを持てる程、技術レベルも上質なものとなったことをも示唆するものと言えます。いわゆる古代の中にあっても、今日に通じる一定レベル以上の文化・技術が当時、既に出来上がっていたことをも意味していると言えるでしょう。

069 The King turned to the blacksmith and asked him by what right he seated himself there. With this the blacksmith arose and questioned the other workmen by saying, "who fashioned your trowel and your compass" ? They replied "you did". Then he said, "could you have built this Temple without these ?" Their answer was "no." Then he said, "the honor belongs to me."

069 ソロモン王はその鍛冶屋に何の権利によってそこに座っているのかと訪ねました。すると、鍛冶屋は立ち上がり、他の者たちにこう訪ねたのです、「誰があなた方のコテやコンパスをこしらえたのか?」。彼らは答えた。「お前だ」。すると彼は言った。「あなた方はこれら無しにこの寺院を建てることのできたらどうか?」。彼らは答えた。「いいえ」。すると彼は言った。「それでは、その栄誉は私のものだ」。

### 【解説】

この場合、もちろん鍛冶屋が作る道具だけでは寺院が建立される筈もありません。各々がそれぞれ事業に貢献しており、その貢献度合に差別はないということです。

私達は日常生活を様々な目に見えない機能 j から恩恵を受けて暮らしています。スイッチを入れれば電気が通じますし、黙っていてもゴミは回収・処理され、蛇口を回せば水は出、排水は処理されています。これらは私達の生活に不可欠なものですが、私達はそれらを当たり前のこととして、その価値を考えることは通常、ありません。

同様に、私達が暮らすこの惑星や太陽の絶え間ない活動も、更には宇宙を貫いて躍動する一大生命力も、それらはあまりに安定し、無償で私達に下さっている故に、私達はその恩恵について普段、考えることすらしないのかも知れません。それらの働きがあってはじめて、私達の生活が成り立っていること、今日の私達の生活がそれらの下支えに依存していることに気付く必要があります。

当たり前のこと、私達が通常、感知しない中に貴重な存在があるということでしょう。

## ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第02課 段落070 [2012-04-13]

070 This equality is lived on Venus and Saturn, for each talent is respected as a Divine gift from the Creator unto creation. And it manifests in ever field of endeavor - sports, art, etc. There is not the feeling of competition that we of earth express. But rather a feeling or desire for a finer quality of expression of individual talents towards the fulfillment of the Divine purpose. It is only the ego mind that desires honors for its accomplishments.

070 この平等さは金星と土星では実行されています。あらゆる才能が創造物に対する創造主からの神聖なる贈り物として尊敬されている為です。そしてそれはスポーツ、芸術等々、努力におけるあらゆる分野に現わされています。地球の我々のような競争意識はありません。むしろ、聖なる目的の達成に向って個個人の才能に関してより精緻な表現を感じたり、望んだりするのです。その達成に対して名誉を求めるのはエゴの心だけです。

### 【解説】

一切の名声を求めないという姿勢は、著者アダムスキー氏自身の言葉によく表れています。先日、別のサイト（「ジョージ・アダムスキー アーカイブズ」 <http://georgeadamski.blog.fc2.com/>）で紹介した氏の書簡の中で、氏が自分の著作物ですら、自分の功績ではないと言明しています。

重要なのは、その理由です。氏は著作をする為には宇宙の中心部に自分が出向いて掘った内容であり、自分はその発現の経路になっただけだとしている点がポイントです。

各自の才能は、各々何らかの宇宙的源泉に到達して、そこから得たものを結果である物質世界に持ち帰ったものだと言明していました。

才能の発揮とは各自がそれぞれの経路を通じて源泉からの流れを現世に反映させたということであり、唯一、功績と呼べるものは、その者がその経路になり得たということだという訳です。

071 Jesus brought this truth to the people when he said that the man who desired honors from earthly men, had none coming in heaven. He also said not to worry about tomorrow, for the sparrow neither sows nor reaps, yet the Father takes care of each of them. But this calls for definite faith in the consciousness. For he also said, "are you not more than the raiment ?" This is the law by which all Venusians live.

071 イエスは地球の人達からの名誉を望んだ者で天国に来る者はないと人々に述べてこの真実を当時の人々に伝えました。彼はまた、明日を思い煩うなスズメは蒔くことも刈ることもしないが父はそれら個々の者を養ってくださっているのだから、とも言いました。しかしこれには意識に対する絶対的な信頼が要請されます。何故なら彼はまた、「あなたは衣服より以上のものではないか」とも言いました。これは全ての金星人が生きている法則です。

### 【解説】

本項からイエスが金星から来た教師であることが分かります。また、今更のことですが、既に2000年以上も前に金星ではこのような生き方が全ての人の基本的姿勢として根付いていたことには驚くばかりです。私達の住む地球との文明のレベルの差が途方も無く大きいことを先ずは認識する必要があります。

しかし、その文明もそこに住む人間に関わる部分だけが違うだけで、自然界の営みは各惑星ともに大差はないのかも知れません。今日この頃（4月上旬）、日本では櫻の季節となっています。幹から伸びた枝の細い先までびっしり花を付けた櫻は見事に自身を通じて生命の美を惜しみなく発揮しており、見る者に感動を与えます。一方、その櫻の木は自らを自然の流れに委ねており、偉ぶったりする様子もありません。そればかりか、鳥達に蜜を与え、時間が来れば花を散らして、次なる活動のステップに移ります。

本項にも記述があるように、鳥達は時々の自然の恵みを享受し、季節を謳歌しているように見えます。桜も鳥もその存在を全て自然に委ねており、決して不安を見せることはありません。外敵や気象の変動に対しても何ら臆することなく、平常心を保ち、楽しく暮らしています。意識への信頼に於いて、身近な野生生物に学ぶ所は多いのです。

072 As you can now see, everyone in his daily life is important in one form or another. The thing that we must do is to learn the importance of each one, as the advanced space people do on their planets. In this way each individual effort is honored as he serves others. Directly or indirectly.

072 今やお分かりのように、あらゆる人はその日常生活の中で何らかの形において重要なのです。進化した宇宙人が彼らの惑星で行っているように、私達が行わなければならないことは各々の重要性を学ぶことです。このようにして、個々人の努力はその者が直接的あるいは間接的に他に奉仕することに対して榮譽を受けるのです。

#### 【解説】

もちろん、自我（エゴ）の突進を制御し、その欠点を観ることは大事なのですが、それだけでは只、問題が多く至らぬだけの存在にしか見えなくなります。しかし、私達は、日々何らかの前進をしていることも確かですし、昔と比較して優れた社会を作りつつあるとも言えるでしょう。そうした中で、私達自身が果たしている役割についてもっと丁寧に観る必要があると本項は説いているのです。

もちろん、他惑星と比べて程度の差は莫大と思われませんが、基本的な部分として各自が他者に役立つ為の努力を行うことは地球でも行われているところです。

各々の個人にはそれぞれ別の才能が天与されており、その働きによって各自が向上するとともに他者の役に立つこと、惑星全体の相互関係が深まることが期待されているように思います。もとより生を受けたからには、生きる目的と社会における役割が期待されている訳で、各々自分の生涯の中で嬉々としてそれら使命の発現発揮にいそしみたいものです。

073 You may say here, what about the people among us who are criminals and those who harm others? These actions could be considered mistakes on the part of the actor since he has been taught to guide himself by effects. And most everyone has been guided by effects, so we have all made mistakes. But if we are wise and desire understanding we shall then learn the reason for our mistakes and make the corrections. And we can be thankful for the experience that taught us a lesson. For without this we would not know the better way.

073 ここで、あなたは私達の中であって犯罪者であったり、他人に危害を与える者についてはどうかと言うかも知れません。これらの行為は結果によってのみ自身を導くように教えられて来たその行為者の側の過ちと見なせるでしょう。そしてほとんどあらゆる人が結果によって導かれており、私達は皆、過ちを犯します。しかしもし、私達が賢明であり理解を望むなら、私達は私達の過ちの理由を学び、修正しなければなりません。そうすれば私達はレッスンを私達に教えてくれたその体験に対して感謝することにも成り得るのです。何故なら、このこと無しにはより良い方法を知ることは無かったからです。

### 【解説】

外観等、いわゆる形あるものは「結果」に過ぎないこと、またそれらは絶えず変貌することを私達は学んでいます。これら変化し、不安定なものに自身を委ねることには問題が多い訳です。

しかし、昨今の社会では結果主義、業績主義が横行し、どのような頑張りでも結果が揃わなければ、評価されない風潮も広がって来ました。いわゆる欧米型の管理の広がりです。実はその結果、短期的に見かけの結果が得られることしか取り組まれず、弊害が多く出ているように思われます。本講座で著者が盛んに「結果」と「原因」の対比を語るのは、結果至上主義の欧米社会に向けた警鐘の一つと言えなくもありません。

私達は様々な過ちを犯しますが、唯一の救いは悔い改めてその失敗の原因を考え、改める勇気を持つことです。この内、最大級の罪は、創造主の存在を無視すること、或いは創造主から日常受けている恩恵を裏切ることだと考えています。その罪さえ犯さなければ、私達にはまだ十分、進歩の芽はあるように思われます。

## ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第02課 段落074 [2012-04-19]

074 History does not necessarily have to be repeated, for it is man's action that make history. We will cover this more thoroughly in the coming lessons but at the moment we will continue with the mind.

074 歴史は必ずしも繰り返される必要はありません。何故なら歴史を作るのは人間の行動であるからです。つぎの課ではより完全に取扱いますが、ここでは心について続けることとしましょう。

### 【解説】

最近のニュースでも、地下深くの地層から、過去にも何度となく津波の痕跡があり、何千年かに一度は今回の東北を襲ったような大津波が繰り返し起こっていたことが分かったとのことでした。地殻変動は繰り返し起こっているということです。

また、人生あるいは転生後の次なる人生についても、私達は因果応報の宇宙法則の下、原因と結果の関係の中で生きている訳で、自ら造った原因に対応して結果を刈り取る仕組みの中に居ます。早ければ瞬時にも結果が現れますし、遅くとも数日、あるいは数年後の自分のところに戻って来るように思われます。

そのような玉突き関係を抜け出て、新しいサイクルに移行する為には、原因と結果の対応関係をしっかり理解する必要がある訳です。今私達の中に取り込む想念が果たして妥当なものなのかをチェックしたり、結果の観察から、それを動かしている原動力となる因を知る等、私達は目に見えない法則の存在を学ぶ必要があるのです

075 We have been taught that the mind is the man as well as the knower. But as the mind is an effect, this statement is far from the truth. Yet within the form of man lives the knower. If the mind would humble itself and become the observer of the form through which it works, it would soon realize how little it does know. i.e. There is no question in our minds that we have brilliant people in the world, for the new inventions in the recent years prove this. In the field of electronics the things that are done could be called miracles. Things like correcting instruments from earth that are many miles out in space, and talking back and forth with a man in a capsule orbiting the earth. These accomplishments only show the potentials of the human mind when it listens to the guidance of consciousness. Yet with all of the knowledge at present there is not one man in the world that can create a human form and have it function as we do. But within the form there is that knowledge which manifests every day in the birth of children. Not to mention the thousands of other form creations.

075 私達はこれまで心こそが人間であり知る者であると教えられて来ました。しかし、心は一つの結果であり、この声明は真実とはかけ離れています。しかし、人体の内側には知る者が生きています。もし心が自らを謙虚にし、その知る者が人体を通じて働く様子の観察者になるならば、心はすぐに心がいかに少ししか分かっていないを自覚することでしょう。つまりこういうことです。世の中には素晴らしい人々が私達の中にいることについては疑問はありません。近年の新たな発明がそれを物語っています。エレクトロニクス分野では為されている物事は奇跡と呼ばれても良いでしょう。宇宙空間に何マイルも離れた装置を地上から修正するようなことや、地球を周回するカプセル内の人間と相互に通信するようなことがそれです。これらの成就した出来事だけでも人間の心が意識の指導に耳を傾けた時に発揮する人間の心の可能性を示しています。しかし、今日の知識の全てをもってしても、世界中に一人として人体を造り出し、それを私達同様に機能させることが出来る人はおりません。しかし、その人体の内部には毎日、赤子の誕生として現出する創造的知識が備わっているのです。その他、何千もの他の創造物についても言うまでもありません。

### 【解説】

私達が通常、「自分」と呼んでいるものの正体は何であるかについて、本項は解説しています。実は、日常、私達の行動を支配している「心」なるものは、大して内容の無い存在で、問題が多いという訳です。それらが人間の主人公で居られるのは、ひとえに身体内部にある英知のお蔭だという訳です。

そして、心自体は発達しなければなりませんし、その発達につれて成し遂げ得る内容は、驚くべき高度なものにすることが出来、その意味では創造主の似姿としての潜在能力を有していることとなります。

一方、私達の心が学ぶべき内容は無限に広がっており、身近に溢れています。つまりは、遠い図書館や離れた導師に逢えなくても、身の回りにはその生きた教材は無尽蔵に提供されています。

野原の花の一つであっても、詳細に観察すると、その形状や色彩、虫達とのつながり等、多くのことを学ぶことが出来、私達が素晴らしい天国に住んでいることを自覚出来ます。これらの生きとし生けるもの達との交流の中から、自分の「心」と生命の本源についての関係を学ぶことです。

076 So the mind does not have to go far to learn. For it can learn from the form through which it works if it humbles itself to the knowledge within the form. We can now see where the saying "man know thyself and you shall know all things" originated, for all creation is governed by this law. And there is no greater truth than this that has ever been spoken.

076 ですから、心は学ぶ為に遠くに行く必要はないのです。何故なら、形あるものの内部にある知識に心自らが謙虚になりさえすれば、心は形あるものの働きを通じて形あるものから学ぶことが出来るからです。私達は今、「汝自身を知れ、そうすれば全てが分かるであろう」という言葉が何処に起原を持つかを知ることができます。何故なら、全ての創造がこの法則に支配されているからです。そしてこれまで語られた中でこれほどに偉大な真実はありません。

### 【解説】

「ご自愛下さい」とは、日本で良く用いられる言葉です。「身体を大切にしてくださいね」という意図で使われる訳ですが、その含む内容には深いものがありそうです。この場合、「自分を愛する」という表現の中には、真の自分の上にあぐらをかくエゴを溺愛するという意味は無く、本項で言う「自分を支えて呉れている肉体、更にはそれを機能させている生命の本源」に対して、感謝し、いとおしむようにと諭しているものと思われます。

表面的な認識力しかない「心」を取り囲むように肉体や意識が存在し、その中に全ての英知が詰まっていることは、細胞一つ一つのDNAが全ての生命に共通する基本配列を有しながら、多様な情報を保持していることから理解出来ます。

それゆえ、私達は周囲に当面の理解者が居なくても、また身近に豊かな自然が無くても、自分一人で自身の肉体細胞と生命の根源である意識と呼ばれる活動的な英知から、いつでも必要な知識を学ぶことが出来るのです。

その為の唯一の前提は自身がそのような贈り物を身近に持っていることに気付くことです。既に十二分に持っているのに、その在庫に気付かず、外にそれを求めて時間や費用を浪費してしまうケースこそ、問題にすべきなのです。

## 077 THE CREATION OF A HUMAN FORM

A pregnant mother knows that a conception has taken place within her being, but her mind does not know what is to be done in the creation of the form. Many times she wonders what is going on. There is not a mind in the world that knows exactly the type of intelligence that is responsible for the growth. It is true that pictures have been taken from conception to birth, but not of the intelligence that brings about the form from moment to moment. This intelligence is superior to the minds of men and that of the mother, for they know not what goes on. This proves that the mind is subject unto a greater intelligence than its own. Yet the mind has the potential of attaining equality if it allows itself to be guided by the higher intelligence.

### 077 人体の創造

妊娠した母親は自分自身の中で妊娠が起ったことは分かりますが、彼女の心は形あるものの創造において何を為すべきかは知りません。何度も彼女は何が起っているのか不思議に思います。しかし、胎児の成長に責任をもっている知性のタイプを正確に知っている心はこの世に一つもありません。妊娠から誕生までの写真が撮られていることは真実ですが、一瞬一瞬人体を形作っている知性について写真に撮られることはありません。この知性は人間の心や母親の心より優れており、それらは何が起っているかを知っています。このことから、心はそのもの自体より大きな知性に支配されていることを示しています。しかしまた、心は自らをそのより高い知性によって導かれることを許すならば、それと同様な能力を持つ可能性を有しています。

#### 【解説】

そもそも私達一人一人が何処から来たのかについて究明する上で、受精卵から赤ん坊の誕生までの経過は重要な点です。文字通り卵子と精子という外見上、「無」から「有」が創り出される過程は、生命体の特徴でもあるのです。

自分というものが何処に起源を持つとなると、肉体の上からは、細胞の一つである受精卵ということになりますが、その後、細胞数60兆個もの構造体にまで発達し、はじめて人体としての機能が果たせるようになります。この間、各細胞は各々自分の担う役割に沿って各部位に成長して行く訳で、そこには人体内に活動を指導する英知の存在とその指導に従う細胞の知性があるのです。

もちろん、このような誕生までの実績やその後の活発なる身体の生育活動から各細胞は今日まで、受精卵からの延長として身体の維持増進に努めていることがわかります。しかし、その一方で、「私」なる存在がこれら肉体の細胞とどのような関係にあるかは、依然未解決です。

何より、私達の心はこれらの生命活動の恩恵を受けながらも、それらについて何らの関心を持たず、惰眠をむさぼっていることが問題だと言えるでしょう。余談ですが、それらの問題の理解について男性と女性のどちらかが勝っているかと言えば、自ら新たな生命体誕生を体験する女性の方が、優位な立場にあると思います。

078 And what is this higher intelligence? Again we have to refer to the consciousness for a definition. For at times it impresses the mother's mind to seek a certain type of food that she does not ordinarily care for, because this chemical is needed in constructing the infant form. And this intelligence causes the movement within the mother's body. No voice of instruction is heard yet the mind of the mother knows that some change has taken place. This is done by impressions for consciousness does not use sound as we know it. It is this consciousness that is the creator or builder of the form as near as we can tell. And this is all done independent of the mind. Even here the mind may interfere by opposing the impressions that come, like the food. Either by not seeking it or not being able to get it, which could bring about an imperfect form.

078 次に、このより高い知性とは何でしょうか？ここで再び定義の為に意識について引用しなければなりません。何故なら時々、胎児の建設に化学物質が必要となる為、それは母親の心に彼女が普段は好まないある種の食べ物を求めさせるからです。そしてこの知性は母親の体内に運動を生じさせます。声に出しての指導は聞こえませんが、母親の心は何らかの変化が起ったことを知ります。意識は私達の知るような音を用いませので、これは印象によって行われます。私達がこの形あるものの創造主あるいは建造者と呼ぶのに近いのはこの意識なのです。しかもこれは心とは全て独立して行われています。ここにおいてもなお、心は食べ物の場合のようにやって来る印象に反対することによって妨害するかも知れません。それを求めることをしないか、摂ることが出来ないことによって、不完全な人体をもたらすことになるかも知れないのです。

#### 【解説】

本項は妊娠中の女性についての話でしたが、同様なことは必要性に応じて一人一人に対しても行われていると言えるでしょう。無言の印象を通じて英知なる存在から各自の心に様々なアドバイスが降り注がれているものと思われます。

これらの印象類は各個人の状況によって異なる訳で、各々に向けた創造主の愛情の現れとも言うことが出来ます。降り注ぐメッセージに対して私達は鈍感であり、時に感受してもそれを無視し続ける等、容易にはそれらを受け入れようとはしません。それと分かる明確な証拠や納得できる理由も無いのに、それら突発的な印象には従えないというのがエゴの言い分でもあるのです。

一方で、目の前でスプーンを曲げたりする「しるし」を見せ、相手のエゴを支配下に置くような所業を為す人々が見られるようになる等、迷える子羊に対する危険性も増しています。それを防ぎ、真に宇宙的本源から来る印象類を指向し、その成就を為すためには、まずは自らを日々高める鍛錬を行い、高次の印象のみを受信するような心の状態を保つことが必要です。私達は結果を求めるのではなく、印象の発信源である創造主に自らを指向する態度が基本に無ければならない訳です。

079 The mother has been used as an example, but people daily ignore impressions that are given to the mind by the consciousness and cause many imperfect acts that could have been avoided. All because the mind has been exalted through the ages and has given no thought to its parent - the consciousness. It supports itself by past acts and repeats history instead of going forward. There is some improvement historically, but actions are still founded on the past, like the destruction of men in war, instead of evolving above the past. The mind has an opportunity to bring newness each day by following the guidance of consciousness.

079 母親の件は一つの例として用いられましたが、人々は日常的に意識から与えられた印象を無視しており、避けることができた多くの不完全な行為を起しています。全ては心が長い時代を通じて誉められ、その両親である意識には何らの配慮も与えて来なかったことに原因があります。心は過去の行動によって自身の拠り所とし、前進する代わりに歴史を繰り返しています。いくつかの進歩も歴史的にはありますが、戦争における人間の破壊のように過去を超えて進化することの代わりに、行為は依然として過去に基礎を置いています。しかし、心は意識の指導に従うことによって、日々新鮮さをもたらす可能性を有しています。

### 【解説】

本項は「日々新たに」という古くからの教えが、本質に繋がる真理を示していることを伝えています。私達の心は実績重視、経験第一としますので、その延長上には長年の習慣や惰性が待ち構えていることになり、やがて進歩とはかけ離れて行くことは否めません。

これに対し、新しいことを指向する姿勢には、当然失敗を恐れる心の抵抗があるでしょうが、新しい道を進む為には、自らの進路を印象に従って選択する必要があり、印象の源を信頼する必要があります。また、「失敗を恐れない」という言葉の中には、「結果を重視しない」という意味合いが含まれています。

このように毎朝すがすがしく迎え、一日を始めることは何よりのことであり、一日毎に進歩の歩みを進めることとなります。一歩前進する中で、また新しい局面に出会い、学ぶ中で人はあらゆる場面で生命の息吹に触れ、それらの力を学ぶ中で進歩を続けられるというものです。

080 The mind acts as it does mostly through fear caused by a lack of knowledge and faith. For if it changes, it knows not what the next moment might be like. Fear is the master of the mind and governs nearly every human being on earth, in one form or another. Very few people realize that fear is a dominant factor for we have been children of its household for centuries and now feel that it is a natural way of life. We do not even know that we fear, yet fear is nothing but a lack of understanding of the laws that govern life. And these laws cannot be learned by studying effects, especially of human experiences. For most of these are the result of fear dictation.

080 心というものはそのほとんどが、知識や信頼の不足が原因で生じる恐怖を通じて行動しています。何故なら、もし変化があった場合、心は次の瞬間にどうなるのか知らないからです。恐怖は心の主人であり、地球上のほとんどの人間をどのような形態にしる支配しています。私達は何世紀の間、そのような（恐怖に支配された）家庭にいる子供であった為、私達の中で恐怖が支配的な要素であるということを知っている人々は極くわずかであり、今やそれが自然の生き方だと思いうようになってきました。私達は私達自身が恐怖していることすら知らないのですが、恐怖は生命を支配する諸法則の理解が欠けていることでしかありません。そしてこれらの諸法則は結果、とりわけ人間の体験を学ぶことによってでは学習することができません。何故なら、これらのほとんどが恐怖による指図の結果だからです。

### 【解説】

テレビのCMに保険会社の宣伝が数多く放映されますが、これらも本項で言う私達が皆、恐怖によって支配されていることを反映したものとと言えます。そして保険会社は人々に多少の安心を与える代わりに利潤を挙げる等、この世の中に適応した企業分野となっています。

昨今では昨年（2011年）の地震や津波の経験から、災害時の備えについても人々の関心事になっています。これについてはもちろん、備えをしておくことは大切なのですが、以前にも紹介したように、地震の翌々日、所用があり千葉房総の海岸沿いを通った時のことは今も忘れられません。目の前には何も無かったような穏やかな春の海が広がっており、人気（ひとけ）の無い海岸にカモメが群れる等、実に平和な光景が広がっていたのです。

車で通り過ぎる私達は、ここに津波が来たらどうするか等、東北の被災が頭から離れず、独り人間達だけが恐怖の中で生きていたような気がしたものです。

結果は、その後1年間、再び津波が来ることはなく、行く末を心配していた人間と春の陽光を満喫していたカモメのどちらが賢かったかの判定は歴然でしょう。因の領域からの印象を理解し、未来についての信頼や予知能力を備えれば、不安は消滅する訳です。

081 F.D.R. expressed it well when he said, "there is nothing to fear but fear itself." For fear promotes fear. Our late President Kennedy made the statement, "Ask not what the Nation can do for you but what you can do for the Nation." I would say it this way ; it is not what God will do for you but what will you do for God? And God is the consciousness of our being. Or we could put it this way, it is not what the consciousness does for the mind, but what the mind can do for the consciousness.

081 F.D.R. (フランクリン・D・ルーズベルト、Franklin Delano Roosevelt)は「恐怖以外に恐怖すべきものは無い」と言ってそれを上手に表現しました。恐怖は恐怖を助長するからです。故ケネディ大統領はこう声明しました。「国家があなたに何を為せるかと問うのではなく、あなたが国家に何を為せるかを問え。」私ならこう言うでしょう。「神があなたに何をしてくれるのではなく、あなたが神に何をなすかである」。そして、神とは私達自身の意識なのです。そこでこういうようにも言えるでしょう。「意識が心に何をなすかではなく、心が意識に何をなすことができるかである」。

### 【解説】

恐怖はそれ自体で増殖します。暗い道を歩いている時、一瞬でも怖いと思う途端、心は次々に恐怖心を倍増させ、結局はありもしない勝手なイメージを作り上げ、自身の行動を左右させようとする訳です。

こうした心の特徴に対して、冷静に心を鎮めよというのが従来 of 教えであったように思います。つまり、恐怖に陥っている心をマイナス状態とするなら、心をニュートラルにせよという訳です。

しかし、本項では更に進んだ取組みをせよと説いています。つまり、ケネディーの言葉を引用しながら、私達が創造主に対してどのような貢献が出来るかを考え求めよとしているのです。求める中においてはそれが果たして与えられるだろうかという心配が起こる可能性もありますが、心が反転攻勢して、自ら進んで因に対してどのような奉仕が出来る経路になるかという姿勢に変わることが出来れば、もはや不安など無くなり、自分が主体的な行動の中心になれることとなります。

恐れへの対処の仕方等、当初、心が恐れを感じてしまった対象に対して、自らがその対象物にどのような役に立てるかと考える姿勢に転じる時、その解決策が生まれるというように理解したいものです。

082 All of our life we have been doing things the hard way. Either in one extreme or another. Now the time has come to settle down into the middle, which is the conscious eternal highway. And stop taking the mental by-ways, for the center balance will make life much easier.

082 私達はこれまで生活のすべてを困難なやり方で物事を行って来ました。ある極端から他の極端のいずれかであったからです。しかし今や、意識的な永遠の大道である中庸に落ち着く時期を迎えています。そして心の横道を取るのを止めるべきです。中央のバランス状態は生活をはるかに容易にすることになるからです。

### 【解説】

とかく私達の心は一方に偏りがちです。一つの方向に邁進したかと思うと今度は一転して何もしなくなる等、不安定な行動パターンを特徴としています。好物を好むあまり、偏食し健康を害することもそうですが、人体にとって大切なのはバランスのとれた食事であることは言うまでもありません。それと同様に心の働きにもバランスが必要だという訳です。

自然界の生きものは悲しみも喜びも表現しますが、よく見ていると人間のように極端に感情を表したり、継続させたりはしないようです。一時期悲しい表情をしますが、次に楽しいことがあると再び楽しい生命の表現者に立ち戻ります。そこには人間のように感情に囚われない、ある意味、淡白さもあるかと思えます。しかし、わが子を守る際には自らの生命を賭けて対峙することもある等、ひとえに生命の源泉から来る指導に従順である様子が分かります。

一方で、中庸とは何もしない静止状態や新しい試みの無い惰性状態とは異なります。ゆったりさせるのは心の状態であり、リラックスする中で様々な分野にチャレンジする勇気が求められています。これまでの自我を脱皮し、新しい自分を開拓する意義は変わることはありません。本項で言う「大道」とは自分の心を広々させる中で思う存分、行動を広げても良いのだという意味も含まれています。

083 On this highway we shall find that all creation expresses a Divine intelligence. For consciousness is the life of even a grain of sand. It lives independent of forms, yet it activates all matter. It speaks the silent language which we call impressions, yet moves with a force far greater than any sound. And you and I are the highest manifestations of it, for without consciousness the mind would be nothing.

083 この大道では、私達はすべての創造物がある一つの神聖な知性を表わしていることに気付かねばなりません。何故なら意識は砂粒一つ生命でもあるのです。意識は形とは独立し、しかも全ての物質を動かしています。意識は私達が印象と呼ぶ無言の言語で話していますが、どんな音よりもはるかに大きな力で揺り動かしています。そしてあなたも私もその意識の最高位の創造物と言えます。何故なら意識無くしては、心は何らのものでもないのです。

### 【解説】

何故、前項（082）以来述べられている大道が広い進歩の道であるか、本項が解説しています。つまり、印象は万物共通の言語であり、印象は他の何よりも大きな実現力を持っていることが、その訳だしています。印象という目に見えず、耳に聞こえない衝動は自然界の鉱物にさえもその意図を伝え、一つ一つの微細な原子に目的を伝え、それらを働かせる力量を持っています。

それ故に仮に時間は必要であるにせよ、物事を実現させる力を有している訳です。私達が求めるべきはこの印象の力を自らの進歩の道に取り入れることであり、宇宙からやって来る印象に素直に従う中で、自由闊達な人生を送れるとされています。唯一の課題はそのような大同があることを自覚する必要があることであり、全てを自身の中の小さな存在である心に全てを委ねてはいけないということだと解釈しています。

084 The mind can be developed to see the pictures in a room that it takes a T.V. to produce. And the sounds and music that are in the air that take an instrument to amplify, and so on with the other senses of the mind, but if consciousness withdraws from the body we consider the form dead. Yet one can lose the functioning of the mind and all of the senses become very dull, but so long as consciousness is there he is a living being. This proves that the consciousness can live independent of the mind which the mind cannot do. Considering the two phases of man we find that they are comparable to two people living in the same house, one depending upon the other. One mental, the other conscious. The conscious part is of the Cosmos, the mental of the world. The wordly must learn to blend with the cosmic before the union with its creator can be realized.

084 心は部屋の中でテレビが造り出すような映像を見るほどに発達させることができます。また、気中にある増幅する装置を必要とする音声や音楽も見聞きできるまでになりますし、このことは心の中の他の感覚についても同様です。しかし、意識が肉体から離れれば、私達はその形有るものを死んだと考えます。しかし、心の機能を失い、全ての感覚が鈍くなったとしても、意識がそこに存在する限り、その者は生きた存在であり続けますが、心はそうは出来ません。このことは意識は心とは独立して存在できることを証明していますが、一方心は意識と離れて存在できません。この人間の2つの側面を考える時、私達はそれらは同じ家に住む2人の人間、一方が他に依存している場合のように例えることができます。一つは心、もう一つは意識です。意識の部分は宇宙的であり、心は世間的です。創造主との結合を実現するまでには、この世間的な部分は宇宙的部分と混じりあうことを学ばねばなりません。

#### 【解説】

生命の本質とはどういうことかについて本項は説いています。形あるものとしては肉体が生命の全てとすることが出来るかも知れませんが、ここで述べられているように真理は異なります。肉体という家の中に意識と心が住んでいると本項ではわかりやすく解説しています。通常、肉体をあやつっているのは心であると心自体は身勝手な思いを持っていますが、実はその心自体も意識による支えが無ければ存続出来ないのです。

ここで人の臨終の時の話をしなければなりません。父の場合に私が体験した事柄です。数年前手術も出来ない病状の中、緩和治療をしばらく続けてきた父も遂に最期の日を迎えることとなりました。その日の朝、落ち着いた様子でしばらく私と途切れ途切れの声でしたが、話をしていましたが、夕刻になり病状が悪化。その日の晩に亡くなりました。次第に目ももうろうとする中、意識が遠のいて行く様子を身体をさすりながら見ていました。父はまさに人の死の一部始終を私に見せて呉れた訳です。

幸い特に痛みを訴える訳でもなく、呼吸が小さくなり、心臓も止まる様子に立ち会った訳ですが、生命の本質に関わる時には、目や耳その他感覚器官は何らの意味を為さないこと、ただ意識のみが身体から引いていくことで、肉体は生命体でなくなることを私自身学んだように思っています。

即ち、仮に肉体に何ら欠陥が無くても、意識が引き下がれば、生命を続けることは出来ません。よく「死んだように寝ていた」という表現がありますが、意識が無くなったような状態は、まさに一時期、死体と化していたのかも知れません。そしてその本人の本質は意識と同行して、いずこの地に移動しているのだと思っています。生命の科学学習講座の第10課は「意識による旅行」というのがタイトルですが、私達が大切に、頼りにすべきは肉体でなく意識の方であることを自覚したいものです。

085 To make the blend it is necessary for an individual to cultivate the habit of having the mind think of the cause behind the action, what ever it may be. And analyze each action to see if it was habitual from the past experiences and purely mental and self centered, or of a cosmic nature, which one must strive to attain.

085 この融合を造り出すには各人は自らの心に行動の背後にある原因についてそれが何であろうと常に考えさせる習慣を養うことが必要になります。そして個々の行動についてそれが過去の体験から来る習慣的なもので単に心によるもの、自己中心のものか、あるいは宇宙的な性質のもの、人が達成しようと励まねばならないものかどうかを見分けるよう分析することです。

### 【解説】

昨日、久し振りにイエスの生涯を描いたビデオの一つ（「キング・オブ・キングス」）を見ましたが、2000年前、民衆に説いたイエスの教えを当時の人々は十分には理解せず、奇跡を求めるばかりでありました。そればかりか、イエスを無理やり罪を押し付けて葬り去ろうとした訳です。真理に対する私達の理解はその後、物質中心への一変する一方、生命の息吹である意識については学ぶことはありませんでした。

本項はその一歩としてまず私達の日常の行動について、それが何に起源を発するかをよく調べよと説いています。この場合、「行動」とは具体的な行為を意味する訳ですが、広く言えば私達の心が瞬間瞬間に抱く想念についても同様に、それが何処に起源を発するものか、何処から来るものかを観察せよと説いていることでもあります。

想念レベルの段階で、それをより良いものに保つことが出来れば、進歩は容易に生まれるものと思われ  
ます。より真理に近い原産からの印象を取り込む中で、その想念に基づく行動の結果、更に新しい体験  
に巡り会う等、私達一人一人が歩むべき道が、前に進む度に示されるという訳です。

お知らせ [2012-05-10]

都合により、次回の更新は5月17日になってしまいますが、ご了承下さい。

086 Regardless of what the expression may be, one should make the mind recognize and respect the consciousness as the life of the expression. Consciousness is not a respecter of forms or persons, it lends itself to all in all acts. For itself knows neither good nor bad, but its guidance is always for what we call the good.

086 その表現物が何であれ、人は自らの心に意識をその表現物の生命体として認識し尊敬させなければなりません。意識は形有るものや人物の尊敬者ではなく、それはありとあらゆる行動に自らを貸し与えています。何故なら、意識自身は善も悪も知ることはなく、それでいてその導きはいつも私達が善と呼ぶものに向っているのです。

### 【解説】

意識自体は意識を理解しているからといって、その者を特別視したり、恩義を与えたりすることはありません。磔刑に遭ったイエスに対しても天の父は特別に助けることはなかったと聖書は伝えています。問題なのは人間の側にあつて人間が自分達が何をしているかを自覚できていないことにある訳です。

意識は全ての形あるものを因の側から支え、その形を維持するよう、必要な情報と指示を与え続けており、その形あるものをどのように使用するかについての責任は人間の側にあるのです。

善人も悪人も平等に生命の支えを与えている意識の中には、善悪の区別はないという訳です。

087 Our misinterpretation of its impressions gives us bad results. For many times the mind does not want to be dictated to and acts on its own. The mind in some cases is like a child who is told that if he touches a hot stove he will be burned. But he does not want to be told, so he burns his hand and it is painful. But he did have the experience even though this is the hard way of learning.

087 そのもたらされる印象への私達の過った解釈は私達に悪い結果をもたらします。何故なら多くの場合、心は指図されることを嫌いますし、自らの判断で行動してしまいます。ある場合には心は熱いストーブに触ると火傷すると教えられている子供のようなものです。しかし、彼は教えられることを嫌って、手に火傷をして痛い思いをするのです。しかし、これが学ぶ上で辛い道であったとしても彼は体験を得た訳です。

### 【解説】

私達を包む意識に対し、私達がそれを知覚する手段は印象を通じてのみ行われます。即ち、私達は意識を理解する為には印象を正しく解釈出来る必要があります。

ところがこの印象に対して私達は自分の都合が良いように解釈したり、理解出来ない印象は無視しがちなのです。幼児の火傷のたてのように意識から警告が発せられているにも拘らず、私達はその忠告を受け入れず多くの不完全な行為を行うことも多いのです。

この場合、解決策はまず私達を包む、本講座で意識と称される生命の息吹を信頼し、時に応じてやってくる印象類（インスピレーション）を大事にして、印象に従った行動をとることです。仮に些細な事でも正しい印象の扱い方を学べば、次回からはより多くの印象を感知でき、日常の行動に活かすことが出来るという訳です。

088 THE WILL OF GOD is a term often used. If you cannot learn by His guidance which is the consciousness, then He lets you learn by your own mental will which brings painful results. So God is not responsible for your experience.

088 神の御意志という言葉がしばしば用いられます。もし、あなたが意識である神の導きによって学ぶことができないなら、神はあなたをあなた自身の心の意志によって学ばせますが、その心の意志は貴方に苦痛をもたらします。ですから、神にはあなたの体験への責任は無いのです。

### 【解説】

何かと私達は様々な自然現象や当人の力ではどうしようもない状況に対して「神の意志」という表現を用いて、それらが人間には何ら責任がない要因から生じているとして来ました。しかし、本項では、実はそれより先に様々な機会を通じて創造主は私達に助言を与えて来たことを示しています。

それら助言に対して、私達の心は鈍感であったり、無視して来た結果、実際の現象が起こり、私達は苦痛を味わう訳ですが、それでもその体験がその後に活用されないとしたら、随分と悲しいことになります。

創造主の適時適切な印象によるアドバイスも、それを意に介さない心であったなら、結局は結果が発現した中で痛い体験を学ぶ他ありません。意識の声は常に発せられていますが、私達はそれを受け入れ、自分の行動に採り入れなければ、創造主の意図は実現されません。宇宙全体が統一された法則性の中で動いている以上、例外なく原因と結果は一對一の対応関係で結びついています。良い原因を作れば良い結果が、誤った原因には誤りの結果が現出するのです。

089 Some reports have come in from the first lesson. And wonderful results are being obtained by those who are really sincere. This is not surprising as every thing that has even taken place is recorded in consciousness, and can be drawn upon when the mind of man becomes attentive.

089 いくつかの報告が第1課から寄せられています。そして実際に誠意ある学習者によって素晴らしい結果が得られています。これは驚くべきことではありません。何故ならかつて起ったあらゆる出来事は意識の中に記録されており、人間の心が敏感になる時、引き出されることになるからです。

### 【解説】

本講座は元来、通信教育としてスタートしており、教材についての質問等は直接、著者の元に寄せられていた模様です。その一つとして、先に出されていた第1課の学習者からの報告がこの第2課の本文執筆時に寄せられていた訳です。つまりは、この生命の科学学習講座は章毎に執筆、配布されていたことを物語っています。

本項で著者が引用する報告がどのような内容であったかは分かりませんが、文脈から言って、学習者が過去の事象について驚く程の状況を印象から知ることが出来たというものであったと思われま

す。前課でも述べられていますが、この学習講座で最も大事なものは第1課であるとしています。心や肉体の他に意識という大きな存在があり、私達の心や肉体は、本来、その意識と呼ばれる無言の存在によって存続されており、この意識の支持がなければ、生命は成立しないということです。その意識のささやきに耳を傾ける為には、心の横暴を押さえ、意識を信頼して印象を受容する誠実さが必要だということでしょう。

090 This is the reason the course has been simplified by the Brothers, and is different than any course of study presented before. In its simplicity it gives the major parts of self that the student must work with.

090 このことがこのコースが宇宙兄弟達によって単純化されて来た理由であり、これまで提示されたいかなる学習コースとも異なる理由です。その単純さの中で、学習者がいっしょにやっ行って行かなければならない自己の主な部分を理解させているからです。

### 【解説】

重要なのは、本項で明記されているように、この生命の科学学習コースが、進化した宇宙兄弟達によって注意深く編纂され、私達地球人の学習用に執筆されたということです。実はこれほどまでに明確に著者アダムスキー氏が著述作品の意図を述べた箇所を私は知りません。それほどまでに他の何よりも増して「生命の科学」が関係者の間で尊ばれるのはこうした背景があるからです。

しかし、本講座で説かれている内容はそう難しい内容ではありません。誰もが一様に理解できる簡明な表現となっています。誰もが自分なりに探求の取っ掛かりを掴める工夫がなされているということも出来ます。

もちろん、一読すればそれなりに納得は可能ですが、私としては本書はそのような一挙に読み下すべき内容ではないと考えています。一段階ずつ著者の意図を探りながら自分で内容を理解して行く中で、各自の日常生活の中で実践しながら、その本旨を身に付けるような取組み姿勢が求められているように思います。

091 The Creator's laws are very simple. If this were not true Jesus would not have said, you must become as a little child. A child is trusting and uncomplicated in its way.

091 創造主の法則はとても単純です。もしこれが本当でなければ、イエスは幼子のようにならなければならないとは言わなかったでしょう。子供は信じ易く、その行動に複雑さはありません。

### 【解説】

因と結果の因果関係は確実なものであり、宇宙が全てその法則下にある通り、例外なく何処でも分け隔てなく成立するものです。各自の努力は必ず成果を導くことを理解し、各自が創造主から愛されていることを知れば、誰もが落ち着いて穏やかな生活を送ることが出来る筈です。

そもそも私達が暮らすこの天体自体、正確無比に宇宙空間を運行しており、その地表は様々な要素が生きものの生存に適した方向に環境が保たれるよう、様々な活動が精妙に調和しています。それらは全て創造主の計らいである訳ですが、水の循環や大気の還流一つをとっても、私達が大いなる自然の中に生きていることが分かります。

イエスの言う幼児は自らが愛されている存在であることを自覚していますし、教師の言うことに従う素直さを有しています。そうした創造主に対する素直さの中ではじめて宇宙の法則の真の姿が見えて来るというものです。

092 Until now, man has been doing everything the hard way with his mind. And has created mystery upon mystery where no mystery exists. And nothing is impossible.

092 今日まで人間は自分の心を用いてあらゆる物事を辛いやり方で行って来ました。そして神秘の無い所に神秘に次ぐ神秘を造り上げて来ました。しかし、不可能なことは何も無いのです。

### 【解説】

前項（091）に反して、私達の心はわざわざ困難な道を選択しているという訳です。それはかつての宗教が人々の生活を縛り付けていた時代に対する反動でもあるのですが、一方で、そのような姿勢は真理からますます私達を離しているように思われます。

自己（自我）の確立こそ、第一歩だと長らく教えられて来ましたが、その一方で心が理解できない現象については神秘を創り出しているという訳です。

昨今の超能力ブームや心霊現象等、心の常識でははかり知れない事柄に対しては、新たな神秘を造り上げており、私達の発達を阻害しています。

このような事態から抜け出て、もっと科学的に現象を分析すること、また創造主や因の領域を含めて、心や物質について統一的な理解を促すことが本講座の目標であるのです。

SCIENCE OF LIFE - STUDY COURSE

LESSON THREE

The Application of Cosmic Law

093 In lesson two we left you with the term, "The Will of God." And the explanation that God is not responsible for your experiences. And to clear this we will use electricity as an example.

生命の科学—学習コース

第3課

宇宙的法則の応用

093 第2課では「神の御意志」という言葉で、そして神はあなたの体験に責任がないという説明で話を終えました。そしてこのことを明確にする為、一例として電気を取扱うことにしましょう。

【解説】

私達が気付いているいないに関わらず、宇宙には一貫した法則が流れています。もし、そうでなかったら、各天体の運行は不規則なものとなり、世界を統合する創造主の意志は揺らいだものになるからです。

同じ事物を見ても、或る人にとってはつまらない物に見える一方、感受性の高い探求者には思いがけない程の発見物や創造の美の極みに見えるものです。この両者とも同じ法則に由来する結果物を見ている訳ですが、どのどちらがより真の姿を捉えているかは明らかでしょう。

私達人間は、全ての創造物の上位に位置するものとして全ての法則を学び応用する能力が与えられています。その法則を本来の目的に沿って活用するか、或いは自我の欲望に従って悪用するかの責任は人間の側にあります。神の法則自体には何らの責任はないのです。

094 An attendant at a power plant that manufactures electricity sends out the current that you may use it for your benefit. He knows what the electricity is capable of doing and how it is to be used. And we are instructed how to use it. When used as instructed, many benefits are derived in many ways. We can even experiment with it providing we follow the law, without being hurt.

094 電気を起こす発電所の係員はあなたが自分の恩恵の為に使うことが出来る電流を送りだしています。彼は電気というものでどのようなことが出来るかや、どのようにして使用されるべきかを知っています。また、私達はその使い方について教えられています。教えられた通り使用する場合は、様々な面で多くの恩恵が引き出されます。私達は法則に従えば怪我をすることなく、電気で実験すらすることができます。

### 【解説】

今日、私達の生活に電気は欠くことの出来ない存在です。昨今の原発問題から計画停電や節電対応を経験して分かるように、私達が電気の恩恵の上に生活している訳です。

目には見えない電気ですが、私達の生活の隅々に関わっており、電気無しには私達の日常生活は成り立ちません。その電気を送り続けているのが発電所ということになります。

ここで著者が何故、発電所の例を引いたかを考えることも必要です。人知れず遠隔地にあっても一人一人に便宜を提供する発電所は丁度、大宇宙に居られる創造主に例えることが出来ると示唆しているのではないのでしょうか。各自が生活を享受出来るよう、一人一人にライフラインを提供してくれている存在が創造主ということになります。

電気と同様、目には見えないものの、その絶大なパワーと圧倒的な恵みの中で、私達は各自の生活を送っているということになります。その恵まれた環境をどう活かすかは私達自身に委ねられているのです。また、更に大事なことは、各自の家のコンセントが直接、発電所と繋がっているように、私達も創造主といつも繋がっていることです。

## ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第03課 段落095 [2012-05-29]

095 i.e. An electric socket is made to hold a light bulb and not for a finger to be placed in it when the current is on. Even when it is not, should one be standing in moisture, he can receive a shock. If one gets hurt or has an unpleasant experience by the misuse of the law, he cannot blame the man that is willingly giving him the power. He can only blame himself, either for ignorance of the law, or aggression on his part.

095 即ち、電球のソケットは電球を固定する為に作られたもので、電流が流れている時に指を入れる為のものではありません。指を入れなくても、湿った場所に立って（ソケットを触った）場合にはショックを受けるかも知れません。仮に法則の誤用によって痛い目に逢ったり、不愉快な体験をしたとしても、電力を喜んで送っている係員を責めることは出来ません。自分自身が法則について無知であったか、自分の無謀な行為について自分自身を責めるべきなのです。

### 【解説】

私達に与えられた様々なパワー（能力）の内、最も注意すべきは想念の使い方でしょう。良いことも悪いことも私達は想念の力として発揮させることが出来ます。想念の力を知って、自らの発達に活用することが出来る反面、それを誤用すれば大きな痛手を負うことになります。

日常、私達が抱く想念こそ、注意を払わなければならず、想念には実現力があることに注意しなければなりません。誤った想念を心に抱くことは、自ら誤った結果を指向しているのと同じで、早晚、その結果を得ることになる訳で、私達は自らの心を通過する想念に絶えず警戒する必要がある訳です。

本文中に述べられている発電所から各家庭に供給されている電気の話は、丁度、私達各人が宇宙の本源から常時、供給を受けているパワーを説明したものです。その正しい使用法、応用方法を学ぶのが私達の人生であるのです。

096 The Creator gives us the power of life, and intelligence through the avenue of consciousness. The personal ego mind can use this in accordance with the law or it can transgress the law and receive either bad or good results, as with the electricity. Every individual has been granted this free will.

096 創造主は私達に意識という大通りを通じて生命の力（パワー）と知性をともに与えています。個人のエゴ（自我）の心は法則に従ってこれを利用できますし、法則を逸脱することも出来ますが、その結果、電気の場合のように良い結末あるいは悪い結末を得ることになります。各自は皆、この自由意志を許されているのです。

### 【解説】

私達の創造主は実に寛容であり、その力を無償で授けて呉れている訳ですが、文中にあるAvenue（大通り）という言葉にも留意すべき点があります。それはAvenueとは小道を指すものではなく、大きな通りを意味するからです。よくエゴに対処する難しさから「狭き道」という表現が用いられますが、それは真実ではありません。創造主は正々堂々、大通りを開けて私達を導いているということに気付く必要があります。

つまりは迷う者は自ら進んで迷いの道を求めているとも言うことが出来るのではないのでしょうか。

さて、この創造主の支援は意識という媒体を通じて私達に絶えず与えられています。言葉には表現出来ない印象の世界や知覚、覚醒状態の中に創造主の意図と支援の力が常に流れているという訳です。

この印象を心が解釈する訳ですが、その解釈をエゴの身勝手、或いは都合の良いように行う結果は、創造主の意図した方向とは違う方向に物事を進めることにもなりかねません。個々の具体的応用力を身に付ける前に、それらの印象をどのように活用するかについてしっかりした見識を身に付ける必要があるのです。

097 We can use the television set again, as a good example. The set in itself has no power or intelligence. But there are instruments in it equivalent to the brain or mind of man which cannot act until the power is turned on. When this is done, intelligent expression follows. Let us say that the intelligence is inhaled into the set through the ether or radio waves which carry the message. And as they come into the set the expression takes place, and not only the message comes through, but the individuals are shown as a living image on the screen. As I understand it, there are 80 different frequency channels in this nation over which programs are carried. Each channel is separated from all the others, yet some are so close that they encroach upon another. This calls for a very fine instrument to keep them separated. All channels use the same power and the same law, but there are sets that can only pick up a few channels. Yet all must depend upon the power and the ether waves to be of service. And they must inhale and exhale the waves to have the continuence of the program.

097 テレビ受像機を再び好例として述べましょう。テレビ自体には電力も知性もありません。しかしその中には電力が入れられない限り行動出来ない人間の脳や心に相当する装置があります。それが為されると、知性的な表現が続いて起るのです。メッセージを運ぶエーテルもしくは電波を通じて知性がその受像機に吸込まれるということにしましょう。そしてそれらが受像機に入るや、表現が起りますし、スクリーンに個人が生きているイメージで映し出されます。私の知る限り国内には番組を放送している80の異なる周波数チャンネルがあります。各々のチャンネルは他と分離されています。この為、それらを分離し続けるにはとても繊細な装置が必要になります。全てのチャンネルは同一の電力と同一の法則を用いていますが、中には数チャンネルしか受信できないテレビもあります。しかし、全ては機能を発揮する為電力とエーテル波に依存しているのです。そしてそれらは番組を継続する為にはこれらの波を吸込み、吐き出す必要があります。

#### 【解説】

人体をテレビに例える本項は、私達が宇宙の生命力や時々印象の感受、表現者としてどのように機能しているかを私達に明示しています。電気店に陳列されているテレビは確かに優れた装置であり、最近では緻密な映像と多数のチャンネルを受信できるようになる等、従来に比べても進化の度合いは目を見張るものがあります。

昔のテレビと比べれば、確かにその能力は進化していると言えるでしょう。しかし、どうテレビが進化しようとも、コンセントから電気が供給され、放送番組が空中に流れていなければ、テレビは番組を再現することは出来ません。人間も同様にいかに肉体が健全であったとしても、肉体に外部から生命の源となるパワーが供給されなければ、生きものとはならない訳です。これは呼吸が関係しているとアダムスキー氏もどこかの講話の中で述べられていたことを思い出します。人体が生けるものとなった後は、電波に類似した印象を呼吸することで必要な英知を表現することになる訳です。

従って価値があるのはテレビではなく、それで表現（再現）されている映像の側にあるのだと思います。私達人間はテレビのように表現者であり、他の者達にその番組の価値を伝えることがその存在意義なのです。数多くの表現（印象）がある中で、どれほど上質の源泉からの印象を体現し、他の者の進化の助けとなるかが肝要なところなのです。

お知らせ [2012-06-01]

いつもご覧いただきありがとうございます。

来週は出張があり、更新が不定期になりますが、ご了承下さい。

098 So it is with man. For he has all the potentials of expression built in, as it were. And he must inhale and exhale the breath of life to be of service. Should he cease breathing he would become a stilled instrument without any motion. Yet to inhale and not exhale the continuous state of life expression would cease. THE BREATH OF LIFE must pass through the form continuously for it to be active. It is comparable to the ether waves that feed the television set. Notice that the breath of life and the ether waves are everywhere and know no barriers, but they need an instrument to express through.

098 それは人間にも当てはまります。何故なら、人は内部に言わば全ての表現力が組み込まれているからです。そして人は役立つ為には、生命の呼吸を吸込み、吐き出さねばなりません。人がもし呼吸を止めたとしたら、何らの行動もしない静止した装置になってしまうでしょう。また、吸込むだけで吐き出さなければ、生命の継続状態は止まってしまうでしょう。「生命の呼吸」は形有る物が活動的である為には絶えず体内を通っていなければなりません。それはテレビを養っているエーテル波に例えることができます。注意して欲しいことは、生命の呼吸もエーテル波も何処にでも存在し、それを妨げるものは無いのですが、それらは表現される為には道具が必要なのです。

### 【解説】

私達は生命の海の中に暮らしています。そこには生命力の源泉と印象波が満ちており、すべての生きものがそれらの発現者として各々の役目を果たしている訳です。

本項で著者はいくつかのポイントを私達に示しています。その第一は私達自身の中に既に、全ての表現分野について潜在的な可能性（能力）を備えていることです。言い換えれば、人生あらゆることにチャレンジして、その分野の才能を開花出来る素養を既に備えているという訳です。

第二はそれらの機能を発揮する為には、生命の呼吸が大事になるということです。通常の呼吸についても古来よりヨガや座禅法等で知られるように様々な呼吸法の研究がありますが、それに類似した意図から、宇宙生命力を積極的に自身の体内に取り入れる要素が必要です。自ら進んで宇宙的生命を受け入れようとする姿勢です。

第三として私達人間は最高位の創造物として、或る意味、宇宙全体からすれば稀有の表現者として創造主から大いなる期待を受けているということです。広大な宇宙空間の中であって地球が貴重な存在であるとの実感はことごとく宇宙飛行士が述べることですが、宇宙全体から見れば私達一人一人は大変貴重な存在と言えるのです。これらを踏まえて私達は日頃、如何に優れた源泉と繋がり、そのメッセージを体現するかがポイントになります。

099 Man's mind could be compared to a detector tube in the T.V. set which cannot function until the power is turned on. And consciousness is the power and intelligence that motivates the mind through the process of the breath of life. And without this breath which we call air, nothing could live. Not even a grain of sand, for everything depends upon it. As it manifests through the various forms it brings forth a complete melody, expressing life in its fullness.

099 人間の心は電力が投入されない限り、機能できないテレビの検波管に例えられることが出来るでしょう。そして意識は生命の呼吸という過程を通じてその心を活性化する力であり知性です。そして私達が空気と呼ぶこの呼吸が無ければ、何物も生きることが出来ません。一粒の砂でさえもです。何故ならあらゆるものがそれに依存しているからです。そしてそれが様々な形あるものを通じて姿を現している為、それは生命を豊かに表現する一つの完璧なメロディをもたらしています。

### 【解説】

ここで心の機能として、検波管に例えている点について着目したいと思います。本項が執筆された当時、放送はアナログ波でした。一般的な説明では、例えばAMラジオの場合、実際放送されている電波は到底音にはならない程、高周波（高振動）の電波なのですが、その揺らぎ幅を取り出して、音として聞こえるような電気信号に変換することを「検波」と言っているようです。

つまりは、耳に聞こえない高度な振動を音に翻訳する機能を検波と言っているのです。

即ち、私達が認識出来ないものの、身の回りには高度精妙な振動に基づく印象類が飛び交っている訳ですが、それを私達が知覚し、内容を把握する為には、検波管に似た心が必要だという訳です。もちろん、この検波管の性能がある方向に片寄っていたり、キャッチした信号に対して独自の解釈を付け加えるようなことがあっては、放送内容を正しく再現することは出来ません。

100 As we observe the harmonious blend in nature, we do not find the same in man. The reason for this that man has a free will and he must learn how to apply the law of the Creator. Through which he will learn the right and wrong usage of it, if he is to become an instrument of full expression. And this is the purpose of his being. He must school his ego sense mind in coordinating all of the senses, as we explained in the previous lesson. This is comparable to a musician tuning the strings of his violin that each may blend with the other, if a harmonious melody is to manifest.

100 私達が自然の中で調和した融合を見る一方で、人間にはそれと同じ（調和）を見ることはありません。この理由は人には自由意志があり、人は創造主の法則を如何にして応用するかを学ばなければならないからです。人は完璧な表現ができる一つの楽器になる為にはその過程を通じて正しいあるいは誤った応用例を学ぶことになるのです。そしてこれこそが、人の存在の理由なのです。前課で述べましたように、人は自分のエゴの感覚心を全ての感覚と調和するよう鍛練しなければなりません。これは調和あるメロディーが現出する為には、音楽家が自分のバイオリンの各弦を各々が他と融合するように調律するのと同様です。

### 【解説】

私達が自然の中に調和した美しさを見るのは、そこに本来の目指すべき姿が見えるからに他なりません。写真や絵画において自然風景や動植物を描く事例が多いのは、その光景の中に私達人間の向かうべき生き方の手本があると感じるからです。

このように美しさを示す自然であり、またその構成員も各自は各々の仕事で精一杯なのですが、その結果として殺伐荒涼とした環境にはならず、調和した美しさを表現するところが創造主の指導たる所以です。

つまりは人間を除く自然の各構成員達は、自分の意志より、創造主の意図を上位に置いており、印象に即応して暮らしているものと思われれます。

その反面、人間は未だ心の取扱い方を十分学んでいない為、問題を多く引き起こして来たという訳です。自然の許容力を超えた汚染物の排出等は、本来、他の構成員からは許しがたい暴挙な訳ですが、これまで人間は勝手に、自分達の利益の為にはどのようなことも行って来たということでしょう。

私達は各々、目標とすべきは自分自身の心の動きであり、それらをより良い方向に調律、訓練する責任があります。私達は創造主の道具にならなければなりません、その道具（instrument, 楽器）は使われる前に、しっかり調律しておく必要があるという訳です。

101 And the ego must learn how to apply the impressions that come from the guidance of the THY WILL which is the conscious will, instead of the will of the mind. If a harmonious life is to be enjoyed, the will of the mind must submit its will to the will of consciousness, then the THY WILL is done. The difference between the two is - the conscious or THY WILL does not force itself. It is kind and mellow in its expression, while the ego will is aggressive, domineering and self-centered. Conscious will knows no fear - the ego will fears all through life and makes many mistakes.

101 そしてエゴは心の意志に代わって意識の意志である「汝の意志」の導きから来る印象をどのようにして応用するかを学ばねばなりません。もし、調和ある生活を謳歌するなら、心の意志は意識の意志にその意志を委ねなければなりませんし、そうすれば汝の意志が行われるでしょう。これら2つの違いは意識あるいは汝の意志はそれ自身を強制しないことにあります。その表現はやさしく、豊潤ですが、一方、エゴの意志は攻撃的で横暴、自己中心的です。意識は恐怖を知りませんが、エゴはその生涯を通じて恐れており、多くの過ちをおかすのです。

### 【解説】

心にやって来る印象に対して何を選択するかが問題です。印象の中には創造主に源泉を置くもののほかに、他の者の心も含めて心自体に由来する印象もある中で、心がどちらを選択するかが重要となります。

通常、印象の内、心に由来するものは、憎しみや悲しみ、或いは戦闘的といった極端なものが多いようです。それらに身を委ねることは大変危険ですし、印象を取り入れ行動に移した結果、更にその感情を増加させ、心身の調和を崩すこととなります。

一方で、温和で冷静、包容力のある印象に従えば、心身は調和し、本来の進歩の歩みを続けられることとなります。

このように各自がどのような印象（想念）を取り入れるかはその後の人生の歩みに影響する重大な分かれ道なのですが、一般にはそれらの事項を教える者は少ないようです。一口に自己責任ということは簡単なのですが、それでは大半の衆生は救われません。正しい人生の向き合い方は、日々刻々の心の観察を通じて、良質の想念・印象に関心を寄せ、それらを応用できるよう、スタンバイすることだと考えております。

102 All nature, with the exception of man, operates by the will of Cosmic Law. In plain, nature lends itself to the law, or the will of the Creator. Yet the form of man operates under the same law that nature does, while the free-will of man operates contrary to it.

102 すべての自然は人間を例外として除けば、宇宙の法則の意志によって動いています。簡単に言えば、自然は自分自身をその法則、創造主の意志に委ねています。一方で人間の身体は自然と同様、同じ法則の下で動きますが、人間の自由意志だけがそれに反して働いているのです。

### 【解説】

先日、ツバメの巣を観察する機会がありました。ある高速道路のサービスエリアのトイレの軒に5羽のヒナが育っていました。土で作った巣にもうすぐ巣立ちかと思われるヒナが親鳥がエサを運んで来るのをじっと待っていました。

自然界の生物達は手近にある環境の中で、巧みにそれらを利用して生活し、身体一つで他に道具や資産を持たない存在でも、逞しく生活を謳歌しています。自然界ではどの生きものも、皆各々の生活を若々しく過ごせる理由は何でありましょうか。

そのような愛らしいツバメのヒナの様子を見るにつけ、独り人間だけが様々な苦難にあえいでいるように思ってしまう。その原因が本項に書かれている人間の心の問題なのです。

私達の肉体も、心の余計な干渉がなければ、平穩に機能しているものを、要らぬ心配や過度な欲望、あるいは恐怖から自身の身体を痛めつけているという訳です。

その問題を解決することが私達一人一人の長年の課題なのですが、その目指すお手本は身近な自然の中にあるようです。

103 The Divine Will always expresses in perfect harmony and causes no distortion in any manifestation. That is why the human form under this will manifests so well. And yet it is abused more than any other form known, by the free-will or will of the ego. i.e. When one eats a meal, the mind or the will of man knows not what is to happen to the food in the body. And if the ego is in a happy harmonious state the food will be beneficial to the body. On the other hand, if the ego is disturbed, confused or tensed and out of harmony with the law, or consciousness, indigestion is bound to follow causing gas around the heart and constipation. Proving the Divine Will, will not lend itself to the distorted will of man. So man pays the price for the distortion through pain and suffering. And this is the only way that some people can learn.

103 聖なる意志はどの創造物においても常に完全な調和をもって表現し、如何なる歪みも生じさせません。それがこの下にある人体がかくも申し分無く現出している理由です。それに加えて人体はエゴの自由意志、つまりは意志によって他の如何なるものよりも酷使されています。即ち、人が食事を摂る時、心や人の意志は肉体の中で食物がどのようになるか知りません。もし、エゴが幸せな調和ある状態であれば、食物は肉体にとって有益なものになるでしょう。他方、もしエゴが掻き乱され、混乱しあるいは緊張して法則や意識と調和出来なくなっている場合には、消化不良になり、心臓の周囲にガスを発生させたり、便秘を引き起こします。聖なる意志は人間のねじれた心にはご自身をお委ねにはならないとしましょう。そうであれば、人は痛みや苦痛を通じてこのねじれに対して代償を支払うこととなります。そしてこれこそが、ある種の人々が学べる唯一の方法なのです。

#### 【解説】

私達は自身の経験上、ストレスその他の精神上の原因から胃痛その他の消化器トラブルをはじめとする様々な体調不良が生じることを知っています。おそらく人間の疾病の大半がそのような私達の精神面の問題に起因するものではないでしょうか。

実は、その精神面の問題の本質が本項で言うエゴ（自我）の意志に起因した人体のダメージだという訳です。本来は肉体の各細胞は創造主の意志に従い、調和ある状態にあるのですが、時折、肉体を支配しているもう一方の主人である個我の発する不協和音が自身の肉体に損傷を与えているというのです。

本来は個我の望みは、自己の永続と進化の筈で、それには若々しい肉体が必要な筈ですが、そこに気付くことなく、感情を優先させる結果、肉体を自ら痛めつけている訳で、何とも皮肉な結びつきになっています。

しかし、しずれにせよ、私達の個我は各々痛い思いをした後は、その体験から学び取る智恵が必要であり、各自の体験を踏まえて自らの心の動きを統制することの重要性に気付く必要があります。

104 Fortunately there is a harmonious law that works through the body independent of the mind, or the body would not last the years that it does.

104 幸いなことに、身体の中には心から独立して働く調和ある法則があります。そうでなければ、人体はそのように何年も持続することは無いでしょう。

### 【解説】

人間の諸活動に伴い発生させている環境汚染も、その多くは自然自らの浄化機能によって大いに助けられている訳です。大気汚染も時々降雨や嵐によって翌日は見違える程、キレイな青空になることは誰もが気付いている筈です。

しかし、このような自然の恩恵にも限度がある訳で、それら自然の持つ浄化能力を超える汚濁負荷はやがて深刻な環境問題を引き起こし、人間自身の健康被害として行き着くことは、今日誰もが自覚している所でしょう。

人体についても一定程度は肉体自体の回復能力がありますが、その肉体も長時間、あるいは過度な負担には耐えられないという訳です。私達は自らの心の問題とは言いながらも、各自どのように心を良好な状態に統制しながら生きるかについて工夫しなければなりません。

日常、心の持ち方を工夫して得た成功体験は発展させ、問題があったケースは反省する等して、自らの心を育成することが必要です。また、その過程において、しばし休養を取り、心と肉体を日頃の苦難から解放し、再び立ち向かう英気を養うことも生活の智恵かと思えます。

105 This shows that there are two stages of intelligence in the human form. One the Cosmic - directing the functioning of the body. And the other - mental opposition that causes the suffering in the body. A Clergyman expressed this well when he said that humanity has become Un-Godly. This is true, for people no longer look to the Creator for guidance, and they do not have faith in the giver of life. And as a result, they exercise their free-will to the full extreme under the master of fear. So greed has taken over, and it is like a cancer which is bound to destroy this civilization if it continues. These are the fruits of the free-will, where one Will does not trust another. But how can it when the will of man does not trust the Will Of The Creator or consciousness?

105 このことは人体は知性において二つの段階があることを示しています。一つは人体の機能を指揮している宇宙的な存在、そして他は人体に苦痛をもたらしている心の反抗です。ある牧師はこれを人類は神を敬わなくなってしまったと言ってこのことを良く表現しました。これは導きをもはや創造主に求めない人々にとっては真実ですし、彼等は生命の贈与者に信頼していません。その結果、彼等は恐怖の主人の下、最大限まで自分達の自由意志を行使するのです。そのため、貪欲が支配するようになりましたが、それはもし続いたらこの文明を滅ぼすことになる癌のようなものです。これは一つの意志が他を信用しない所に突る自由意志の結実の結果です。しかし、人間の意志が創造主の意志、あるいは意識を信頼しないとしたら、どうなってしまうことでしょうか。

#### 【解説】

自然界において野生動物は必要以上のエサを得ようとはしません。一方、人間社会においては「ビジネス」という名の下に利益を上げようと貪欲さを発揮し、その結果、多くの国家規模の争いを生み出し、彼らが住む地上を荒廃させて来ました。

本項はその貪欲さの主因が恐怖心に由来していることを示唆しています。

日本国内にいとあまり実感が湧きませんが、海外に出ると私達人間の貪欲さが社会全体を貫いていることが分かります。その中ではおとなしくしていると相手につけこまれ、或いは利用されるだけの存在になる以上は、常に感覚を研ぎ澄ませて、ビジネスチャンスを窺うような姿勢が生まれるのは当然でしょう。

それに対し、本項は第一に創造主への信頼を求めることを求めています。本来は宇宙的源泉からのアドバイスが生きもの達に与えられ、彼らはそれに従い生命を享受しています。私達人間には心というもう一つの知性があり、それが人間を牛耳っている為、穏やかな人生を送れないでいるのです。そして心自らがその意志を創造主のものに従わせない限りは過酷な状況は続くことになる訳で、まずはこの自分から創造主を信頼する生き方を始めて周囲の者に影響を与えることが期待されているのです。

106 We can see the results, for the whole world is living under the cloud of fear one against the other. And no one trusts another human being.

106 私達はその結末を見ることが出来ます。何故なら、全世界が相互に対する恐怖の雲の下で生きているからです。そして誰一人として他人を信用してはいないのです。

### 【解説】

残念ながら、海外での生活やビジネスにおいては特に本項で述べられている「互いに信用ならない」状況は一般的です。その中で自分の身を守り、事業を運営する訳ですから、心の消耗は著しいとも言えるでしょう。また、互いの約束事をあらゆる側面から守らせるよう文書で取り決めを行う契約書による合意も不可欠なものとなっています。

これらは基本的には相手を信用ならないことから生み出された対策であり、極端な例ではユダヤ教の神との契約という表現もあるほどです。

一方、人々の貪欲さの原動力が自身の醜い欲望や保身上の恐怖から出発していることを知るにつけて、私達は時として何故そのように強欲なのか不思議に思うことさえあります。そして強欲者は容易に別の強欲者の餌食に成り易いことも知っています。このような社会は、お金にならない問題に対しては解決は遅れがちになる訳で、大気汚染や水質汚濁等、大変なレベルになるまで、放置されがちなのが実状です。

107 You may say here, it is a mess. Yet it is the product of the exalted ego or human mind. For it no longer allows itself to be guided by the consciousness or creator.

107 ここであなたは、それを乱れと言うかも知れません。しかし、それは増長したエゴ、即ち人間の心の造り上げた所産です。何故なら、エゴはそれ自身を意識あるいは創造主によって導かれるものとはしていないからです。

### 【解説】

大自然の中で、風景や動植物に囲まれてくつろぐひと時が安らぐのは、そこに本来の調和した姿が現れているからでしょう。それに引き換え、街の雑踏の中では、騒がしさとゴミの散乱、慌しく動き回る車両等、本項で言う混乱、乱れが生じています。

人間社会だけが落ち着きの無い世界を作り上げているようです。

この原因は人間が各自の自我だけで、つまりは自我の欲望のままに生きていることに起因しています。本来は創造主の声とも言うべき「意識」状態から来る指導的印象に従うべきなのですが、人間はその大切さを学んでいないのです。

本講座を通じて、著者は繰り返し、意識の指導の重要性について述べています。私達が各々毎日の生活の中で少しずつでも著者の言う「意識」についての概念を身に付けられることを願うばかりです。人間を除く自然界のあらゆる生きものがその「意識」に気付いており、それを大切に扱っていることに私達は留意しなければなりません。

108 Perhaps you feel that I use the word consciousness a great deal and place emphasis on it. And you may wonder, why? It is because the consciousness has been neglected through the ages while the mind has been exalted. And did Jesus not say that we are the Temples of the Living God? It could be said in this way, know ye not that ye are the embodiment of the living consciousness?

108 おそらく、貴方は私が意識という言葉を変多く使用し、それに力点を置いているとお思になるでしょう。そして何故だと思ふかも知れません。それは何世代にわたり心が増長して来た一方で、意識は無視されて来たからなのです。そしてイエスは私達は生ける神の社であると言わなかったでしょうか？それはまたこのように言うことが出来ます。貴方は自分が生ける意識を体現したものであることを知らないのかと。

### 【解説】

アダムスキー氏が伝えた他惑星社会における人々の内面理解における最も重要な点は、この「意識」という概念ではないでしょうか。とかく従来は、アダムスキー哲学に初めて触れた方にとって、この意識とは何か特別な神秘力のように捉えられがちです。その結果、勝手に「意識と一体化する！」等の念仏のような唱文によって、何らかの奇跡が起こることを願う場合もある程です。

しかし、本講座の学習者には、もっと客観的に何故、アダムスキー氏が「意識」という表現を用いたかを改めて考えて見る必要があります。それは、その存在が私達が通常、「意識」と表現するような状態に近い存在の中に宇宙英知があることを意味しているからです。

空間上に、何か塊として存在するのではなく、あらゆる場所に偏在し、全てを知る知性が意識であり、私達とは印象によって交流することが出来るものであると考えています。心静かに澄ませば、これらの源泉から印象は容易に湧き起こり、適時適切にアドバイスが与えられます。それは丁度、親がわが子を見守るように私達を支援する創造主の姿に似ています。言い換えれば、私達はその「意識」を体現すべき存在だとも言えるでしょう。

109 The Breath Of Life is proof of that, and it is given freely to all forms of life. For was not the first clay form of man activated into life by THE BREATH OF LIFE, breathed into its nostrils by the Creator? And it became a living soul, or a conscious being. A new born child is slapped on the buttocks and made to take the first breath, or it would not be alive. And notice here, the mind is only partially active, yet the baby is consciously alive. We know that a young mind knows no fear until fear is imposed upon it. Or until it begins to act with the mind and gets hurt, then fear takes over.

109 生命の呼吸はその証しですし、それは生命のすべての形有るものに無償で与えられています。人間に形取られた最初の粘土が創造主によって鼻から息を吹き込まれ、生命の呼吸によって生けるものになったのではありませんか。そしてそれは生ける魂、意識ある存在になったのです。生まれたばかりの赤ん坊がおしりを叩かれて、最初の呼吸をさせられますが、そうしなかったら、生けるものとはならないでしょう。そして、ここで注意して欲しいのは、赤ん坊の心は一部しか生きていませんが、赤ん坊は意識的には生きています。若い心は恐怖が押し付けられない限り、恐怖を知らないことを私達には分っています。あるいは赤ん坊が心といっしょに行動し、痛みを得るとその時から恐怖が支配するようになるのです。

#### 【解説】

私達がアダムスキー氏の言う「意識」が分からないと言う問いかけに対して、氏は私達が死ぬまで止むことなく続けている呼吸こそ生命の呼吸であり、その証拠であると説いています。私の記憶では氏の別の講演の中でも「どんな大男でも呼吸が止まれば死者に化す」と述べていたことを思い出します。

誰にも無償で与えられる呼吸が、そもそも創世記の記述のように創造主から土（原子・分子）から創られた人間に与えられた生命力だと分かれば、誰もが自分達が生命の息に支えられ、創造主によって生かされていることが分かるというものです。

さて、本文ではもう一つ、人間が誕生した段階では何の恐れもなく、先入観を持っていないことを述べています。転生が真実だとすると、心はリセットされ、再び新しい人生を歩む訳ですが、心が疲れきって、肉体の維持もどうしようもなくなって最期を迎えた後、新たに人生が用意されるとすれば、死は悲しむべきものでなく、喜ばしいイベントであることが分かります。自然界において、個別に経過を追いかけると、生き物には生涯時間の限度はありますが、日々再生・復活が行なわれている為、常に生き生きとした生命活動だけが、世界中を卓越しているということでしょう。

110 This shows that consciousness knows no fear - for it is the possessor of all knowledge. The mind does not have the knowledge and lives in fear. And as a result it has promoted all kinds of mysteries in relationship to life and its continuance.

110 このことは、意識は如何なる恐怖も知らないことを示しています。何故ならそれはすべての知識の持ち主であるからです。一方、心はその知識を持ちませんし、恐怖の中に生きているのです。そしてその結果、心は生命とその存続に関連してあらゆる種類の神秘を助長させて来ているのです。

### 【解説】

本項をはじめとして「意識」は恐れを知らず、又全ての知識を持っている存在として説かれています。「意識」をどのようにして認識出来るようになるかについては、実に各自の工夫が必要です。長年、私達はこの意識の分野を無視して来ましたので、初めは手探りで求めるものを探す訳で、とにかく何らかのキッカケを自分なりに掴む必要があります。本項で説かれていることをヒントにするとすれば、まず、「恐れを知らない」存在、「全ての知識を有する」存在について、自身を含めて空間全域にこうした存在があることを自覚するように心がけ、その存在に感覚を研ぎ澄ますことが重要ではないかと考えています。

やがてその関心は、意識との交流の糸口を見つけ出し、日々の体験を通じて創造主のささやきを知覚出来るようになるものと思われまます。

111 We are now in the third lesson and I have not asked any one to concentrate or meditate, as taught in other fields. If anything, these ancient methods have brought the unpleasant conditions that we today face in the world.

111 私達は今や第3課に入っており、私はこれまで誰一人にも他の分野で教えられているように精神集中や瞑想をするようにとは言って来ませんでした。むしろ、これら古代の手法は今日私達が世界で直面している不愉快な状況をもたらして来たのです。

### 【解説】

意識との融合を目指す上で、従来の瞑想法は有効ではないと本項は説いています。つまりは瞑想を行っていても意識を知覚するような覚醒は得られないという訳です。

瞑想は心を鎮める効果はあると思いますが、その状態はあまりに非活動的である為、本来の生き生きとした生命波動とはかけ離れていると説いているのではないかと考えます。

その一方で、自らの心をどのようにして目覚めさせるのかは一大仕事であり、各自各様のやり方を編み出す必要があります。

意識は自然界において盛大に表現されている訳ですから、意識を知る最も適した場所は大自然の中にあるとも言えると考えます。山野を巡る修験者は人里から離れるというよりは、自然の中に息づく意識の波動を感じ取ろうとする修行なのかも知れません。太古より、日本には山川草木、神宿るとし、長年月を生きた大木にはしめ縄を掛け、敬って来ました。そうした感性は、ここで言う自然界に意識の現われを見る心境に近いものだと考えます。心を目覚めさせる為には、日々の活動（行動・精進）を通じて、背景にある英知に気付く必要があります。

112 The thing that we ask you to do is - become aware of your real self, the eternal part of God, or The Creator. Let your mind become conscious of consciousness as your guide in everything that you do. Then the admonition "Man know thyself and you shall know all things," will be your reward. But the mind must learn to trust the consciousness at all times.

112 私達が貴方に実行して欲しいとお願いしたいことは、貴方の真実の自我、神の永遠なる部分、創造主に気付くようにすることです。貴方の心を貴方が為す全てにおけるガイドとして意識を意識するようにさせて下さい。そうすれば、訓戒「汝自身を知れ、そうすれば全てを知るだろう」を褒美として受け取ることになります。しかしその為には、心は意識を如何なる時も信頼することを学ばなければなりません。

### 【解説】

著者は意識に関する問題の解決策として最終的に、意識を道しるべとして前進せよと説いています。

私も含めて多くの皆様が未だ存在を実感出来ないものを頼りに、人生を歩める筈もないと思うかも知れませんが、第一歩とはそうした踏み出す勇気が必要だという訳です。しかし、一度体験を持てば、自分の進む方向に誤りはないことが分かる訳で、それまでは盲目的な信頼が必要になります。実にこの分野の教師は、その入口部分の導きが大切ということになります。

意識とともに歩むというイメージは、日本ではお遍路さんの笠に書かれている「同行二人」（どうぎょうにん）の文字が、そのことを良く表しています。自分を支えてくれ、全ての知識を有する目に見えない存在と語り合いながら、人生を歩むことを著者は説いているのです。

113 Also notice that we did not forbid you to live a normal life. All that is asked of you is - live a conscious life and not a mental one. And do, and use, all things in moderation. That is all that is necessary to fulfill the purpose of life. This is how our space brothers have grown in knowledge and live a heavenly way of life.

113 また、私達が貴方に普通の生活を送ることを禁じていなかったことにも注意して下さい。貴方に求められていることの全ては、心による生活でなく、意識による生活を送ることです。そして全ての物事を適度に行い、また用いなさいということです。それが生命の目的を成就する上で必要なことの全てです。この方法によって私達の宇宙兄弟達が知識において成長でき、今、天上の生活を送っているのです。

#### 【解説】

唯一私達に求められていることは、心による生活でなく、意識による生活を送ることだと、本項は説いています。何か特殊な行をしたり、座って終日、瞑想する必要は無いという訳です。

一方、心による生活でなく、意識による生活とはどのようなものなのでしょうか。それは「心」を頼りとせず、「意識」を頼りにする生き方だと私は考えています。つまり、日常の生活の中で、心の成分とされる眼や耳、鼻や舌から来る「良し悪しの判断」を退け、それらに一片の重きを置かずに、更にそれら感覚の奥にある不可視、無音の源泉から来る印象（インスピレーション）を大切に、日々の生活を送ることかとイメージしています。

実はそのような既存の感覚の奥深く存在する知性状態が、アダムスキー氏が説く「意識」の実態なのかも知れません。

いずれにしても、各々が自分なりにその世界を探求し、各自の生活をエンジョイする所に、この哲学を学ぶ醍醐味があるのです。

114 And remember you cannot have a manifestation or good results if you do not use both sides of the law. The objective and the subjective, or the negative and positive - male and female. You cannot use one and exclude the other and expect good results. Let us go back to electricity for an example. Electricity is one power consisting of two phases, negative and positive. One phase cannot be used in the absence of the other and give useful power. But when they are combined and balanced the manifestation is perfect.

114 ここで覚えていて欲しいのは貴方は法則の両面を用いなければ、創造の現れや良い成果は得られないということです。主観と客観、積極性と消極性、男性と女性がそれです。一方を用いて他方を排除しては良い結果は望めません。一例として電気について振り返ってみましょう。電気は2つの側面、マイナスとプラスからなる一つの力です。他方無しで片方を用い、有益な電力を得ることはできません。しかし、それらが統合されバランスがとられた時、そのもたらす創造の現れは完全になります。

### 【解説】

東洋的言葉で言えば、「陰陽」併せ持つということでしょう。しかし、本項は私にとっては難解な内容となっています。

もちろん、物事全てにおいてプラスの思考もマイナスの思考も大事という主旨は分かります。問題はどこまでの変動幅まで自分で受け入れられるかだと思っています。それを広げることが私達の課題でもあります。

自然界の生活のほとんどが、プラスとマイナスの両面から成り立っていることは、私達も知っている所です。プラスの原子核を中心にマイナスの電子の荷電が全体を相殺し、物質を安定させる訳ですし、男女の両性があることで、人生を楽しく、豊かなものにすることが出来る訳です。

一方で、私達が目にする自然界の活動の中には、時として人間社会を滅ぼすような大地震や火山噴火が起こっている訳ですが、これもその一面をみればもちろん、マイナス色ですが、別の見方をすれば、それによって更に大きな地殻変動を防止した功績もあるのではと考えられます。

同様に、毎日の暮らしの中にあっても、海に泳ぐプランクトンが小魚に食べられ、またその小魚が大きな魚の餌食となり、最終的には私達の夕餉の食卓に上る煮魚へと繋がる生命の相互関係等は、決して一方的な見方では全体像を理解できない筈です。

私達の身の回りで起こる様々な出来事の背景には、必ず陰陽の2つの側面があり、その両面を等しく受け入れ、先入観なしに理解しようとするのが重要だということかと考えます。

115 So it is with the law of the Cosmos. Positive Thinking, that you may have heard about, has hurt more people than it did good. God's purpose cannot be divided and give good results. Nor can one judge His laws and omit parts of them, be it through lack of understanding or egotistical aggression, which has been done through the ages. People judge the Creator's creation without knowing the reason for each part. And in this way they have been judging the Creator and exalting the ego mind above His Intelligence.

115 ですから、それは宇宙の法則についても言えることです。陽的思考は、貴方が聞いたことがあるかも知れませんが、それが為す良い事以上に多くの人々を傷つけて来ました。神の目的は二分されて良い結果をもたらすことは出来ません。人は理解力の不足に由来するにせよエゴの侵略行動に由来するにせよ、神の諸法則を裁いてその一部を除くことをしてはならないのですが、それを長年行って来ました。人々は創造主の創造物を各々の部分の存在理由等を知らないまま、裁いて来ました。そしてこのようにして、人々は創造主を裁き、自らの自我の心を創造主の知性の上位に置き増長させて来ているのです。

### 【解説】

本項で言うPositive Thinkingとは、今日日本語で言う「プラス思考」、「肯定的思考」更には、「断定的考え」等々を指すものと思われます。これら一般には望ましいとされる思考パターンには、問題があるとアダムスキー氏は説いているのです。講演でもアダムスキー氏は、このPositive Thinkingの典型例がヒトラーであったと述べています。そのもたらした結果が、如何に無残なものであったかについて、私達は十分に心して置かねばなりません。

その最大の要素が、他者を批判することによるエゴの増長です。かつてのナチスの演説は、人々を魅了し、戦争への突き進める原動力になった訳ですから、大衆操作には十分な注意が必要です。

このような一方に片寄った思考には問題があり、決して良い結果は得られないことを繰り返し、著者は読者に対して指摘しています。思考の両極端はエゴの不安定さを反映しており、私達は努めてそれを避け、常に心静かな状態を保つ必要があるという訳です。また、その姿勢は意識に従い、感情に左右されない心構えでもあるのです。

お知らせ [2012-06-27]

読者の皆様へ

いつもご覧戴き、ありがとうございます。

申し訳ありませんが、都合により明日の更新はお休みします。

116 And we have become lost in our own mis-creations by separating ourselves from our consciousness which is of the Creator. We have become intellectual giants, but moral morons from a conscious point of view.

116 そして私達は創造主である私達の意識から自分自身を分離することによって私達自身が造り出した誤った創造の諸物の中で迷子になってしまっているのです。私達は知的には巨人になっていますが、意識の観点からは倫理上、低能に成り下がっています。

### 【解説】

昔から私達が憧れる「悟りの境地」については、その会得を求めて自ら精進される方がいらっしゃる一方で、一般的にはほとんどの人は、世間一般の世の中の暮らしの中で、苦惱しています。

私達はそもそも本項で言う「意識」の存在についてこれまで教わることもなく、生まれ落ちたこの惑星の決まり事の中でエゴを増長させながら生活して来ました。その結果はどうかといえば、やがて死を迎える年頃になっても、生命に関する真実について自ら学ぶ経験もないまま、既存の社会の仕組みの中で、生きる意欲を失って行くのではないのでしょうか。

私達は本項に記されているように知識を積み重ね、自らを滅ぼすことが出来る程の武器も開発出来、昨今では自分は負傷することなく敵を攻撃できる無人機兵器も開発されているようです。

しかし、如何に知識を増やし、技術を進歩させたとしても、私達自身の生命を支える意識について理解が得られなければ、私達は生涯、エゴの支配下に停滞し、他の生きもの達のような調和ある精神生活は望めないとと言えるでしょう。

117 Instead of gathering all form life into the sea of consciousness we have divided and separated, and this is why we cannot see God's life manifesting through us and all form life, as our space brothers do. For when they look upon a form, be it of man or any other expression, they do not see just the form, they see the consciousness that supports the form. This is seeing the Creator expressing through the form when the THY WILL and not the mind will is done. Their world and all life on it are conscious manifestations of the Creator, and are so honored.

117 すべての形有る生命を意識の海の中に集めることをせず、私達はそれらを分割し分離して来ましたが、これが私達の宇宙兄弟達がしているように私達やすべての形有る生命を通じて神の命を見ることができない理由です。何故なら、彼等が形有るものを見る時、それが人間であれ、他のどのような表現物であれ、彼等は単に形だけを見ることはなく、彼等はその形有るものを支えている意識を見るのです。これが心の意志でなく汝の意志が行われている時、形あるものを通じて創造主を見ているということです。それらの世界とそれの上に成り立つすべての生命は創造主の意識の現出であり、そのように榮譽を受けているのです。

### 【解説】

意識を知ろうとする為に、これまでどれ程の努力が為されたかは知りません。しかし、結論的に言えば、イエスの時代から今日まで、私達地球人はこの面においてあまり進歩して来なかったのではないでしょう。

東洋では「悟り」と表現され、覚醒とも言われる心境は、万物の内面にある活動する本体、即ち意識を知覚する状態ですが、いずれも各自が生涯を通じて自己開拓すべきテーマとなっています。

私達は自身の身体の中については、自在に意識を移動させ、また思い通りの運動を表現することが出来ますし、ある程度その「意識」について自覚することも出来ます。しかし、その一方で自分以外の創造物の内側についてはそのような目に見えない活動を感知することはほとんどありません。日常的には、目による外観の判定やその他感覚の判断から自分にとっての好き嫌いの対象物と見なしています。

本項は、意識を知ろうとする場合、相手の外形以外にその内部にある意識的な活動を同時に見抜くよう求めています。同乗記にも記述があるように、進化した他惑星人の感性はそうした物体の奥に流れる不可視なエネルギーについても知覚できるところに進化の源があるという訳です。

118 As you can now see, man or his mind is in the process of creation, working towards a perfect manifestation by learning. And time is not involved, for there is no time in Eternity. So it then behoves us to study the various phases of creation that we may learn its reason for being. Then we will not judge our Creator, as we have in the past through lack of knowledge. For truthfully no man can judge his Creator or any of His creation. When man makes a thorough study of Life's purpose, understanding replaces judgment. For then man as the highest expression, becomes one with his Creator. And his intelligence is in line with the Creator's intelligence.

118 今やおわかりのように、人、すなわち人の心は学習を通じて完全なる創造の現出に向かって努力している創造の過程にあります。そして時間は関係ありません、永遠には時間が無いからです。ですから私達はその存在の理由を学ぶことが出来るよう、様々な創造の段階を学ぶことは私達にとっての義務なのです。そうすれば、かつては知識の不足から行って来ましたが、私達は私達の創造主を裁くことはしなくなるでしょう。何故なら、本当に人は自分の神や神の如何なる創造物をも裁くことは出来ないのです。人が生命の目的を徹底して研究する時、理解が裁きに置き換わります。そうなれば、人は最高位の表現者としてその創造主と一体になるのです。そしてその知性は創造主の知性と一致します。

### 【解説】

本項は私達各自に安らぎを与えてくれます。進歩に時間は関係ないという著者の教えは、前進する限り、私達は確実に目標に近づくことを示しているからです。

どのようにしたら良いのかについて、著者は身の回りにある様々な創造の王国を観察、探求することだとポイントを示しています。それも単に自然を楽しめとするのでなく、自然の中に如何に創造主の意図や法則が流れているか、また創造物がそれに従っているかを見るように説いています。

このように自然や宇宙を探求する中では、それらを創りだした創造主を先ず受け入れることが第一歩でしょう。この広大な事物を統括する存在や法則の偉大さを認識するにつれ、私達は各自、具体的な創造主のイメージを持つようになり、遂には「父」とも呼べる存在にまで認識出来るようになるものと思われれます。

私達各自は世の中に同一人物が居らず、各自各様の才能が授与されています。その才能を開花することで、宇宙は更に豊かになる訳で、創造主はその開花を楽しみに待っているような気がします。

119 You may ask, how do we classify intelligence. Man classifies it as the result of actions or expressions. If we use this same classification, then we must admit that we are living in a sea of intelligence. All forms that live and express are using certain phases of it, and fulfill the purpose for which they were created. All of these lesser forms act automatically under the guidance of nature. Or we could say, by direct guidance of the Creator.

119 知性についてはどのように分類するのかと貴方は問うかも知れません。人はそれを行動や表現の結果から分類しています。もし私達が同様の分類をするなら、私達は自分達が知性の海の中に生きていることを認めざるを得ません。生きそして表現する形有るものは皆、その（訳注：知性の海）何らかの側面を活用しており、それらが創造された目的を達成しています。これら（訳注：人より）下位の形有るもの達は自然の導きの下、自動的に行動しているのです。言い換えれば、創造主の直接の指導によっていると言えるでしょう。

### 【解説】

本項冒頭に知性の分類法について、よくある質問例として記されていますが、私達はそれ程に目の前のあらゆるものを分類し、名前を付けたがるものです。そのことの良し悪しは別として、研究の過程で私達が見出すことは、あらゆるものに英知が宿っており、私達はあたかも英知の海の中という大変に恵まれた環境の中に暮らしていることが分かってしています。

そして、自然界の生きもの達は皆、それぞれ自らの目的を達成し、自然の調和に寄与しているという訳です。その背景には人間以外の生きもの達は自らの意思を持たず、いわばかたくなに創造主の指導の通りに行動していることが上げられ、その従い振りは実に従順で大変な場面でも自分の意思を出さず、大自然を流れる英知に身を委ねるのです。

何千キロに及ぶ鳥の渡り等、自らの肉体だけの装備で、地球規模の活動をするもの等、その活動の幅の大きさには感服させられます。同様に生きもの達の行動の一つ一つに隠れた英知の案内があり、彼らはその案内に従っているという訳です。自分の意思を完全に創造主の意思に委ねる中で、苦しみや悩みもなく、本来、その者に託された使命を達成しているということでしょう。

120 When we say Nature, it is used as a representative of The Mother Principle of Divinity. For she is the one through which forms are born. This is the feminine side of life, while the Supreme Intelligence is the masculine. And the two are working as one to bring forth the many manifestations.

120 私達が自然と言う時、それは神の内の母性原理を代表するものとして用いられています。何故なら、そこから形有るものが産まれるからです。これは生命の内の女性的な面を示しており、一方で至上なる英知は男性面を表わしています。そして両者は多くの創造物をもたらす為、一体となって働いているのです。

#### 【解説】

「母なる大地」という表現の通り、私達は大地（惑星）から生まれた者、私達の肉体の構成要素は全てこの惑星の原子です。

従って、この地球を去る時は、それらを大地に返す必要があるということでしょう。

大地の子である私達は、同時に宇宙の英知の導きによって具体的な形と機能を授与されています。それを本項では父なる至上の英知と表現しています。その父母が融合する中で、私達創造物が誕生し、生命を長らえられているという訳です。

私達は、この融合状態を自分自身や大自然を観察する中で見るよう努力しなければなりません。物質自体への感謝とともに、それとは別に目に見えない英知の働きがあることも忘れてはならないのです。

121 Ninety per cent of life as we see it is governed by the law of direct guidance. The 10% which is man, has separated himself from the law by using his free-will.

121 私達が見るところ生命の内90%が直接の指導によって治められています。残り10%の部分が人間については、自分の自由意志を使って法則から自分自身を分離させて来ているのです。

### 【解説】

(実は、原文の「10%」の対象を生命全体と解釈すべきか、人体とすべきか、迷うところではありません。原文を素直に読むと、「生命全体の10%が人間でその問題を」と解釈出来るのですが、今回の見直しで「人体の10%」をエゴが支配しているとした方が良いのではないかと考えました。以下はその解釈による解説です)

人体の内、10%の部分がその自由意志により、エゴが自然法則から離れて分離支配していると説いています。もちろん人体を維持しているのは、宇宙を貫く創造主の法則なのですが、それによって維持された人体をエゴの勝手な判断で支配しようとしているのが私達の実情です。

私達は人生を生きて行く上で、何度も過ちを犯しますが、その結果を次に生かすことが出来れば、着実に前進する訳ですが、往々にして同じ過ちを繰り返す傾向があるのです。その原因はエゴの習慣性にあるものと言えますし、無理解や知識の無さもあるでしょう。

この残り10%を宇宙的にすれば良いわけで、通常考えれば、9割方うまく行けば成功したも同様なのですが、山登りの場合には9号目から先に君臨する頂に登るのが大変だとされており、エゴの克服も同じ道程かと思えます。

人生を掛けてこの10%を宇宙的なものに変質させる為、休まず登り詰めない限り、ゴールに到達することは出来ないのではないのでしょうか。

122 Let us assume that, the first man on earth did not have a teacher to guide him along the path of life, so he had to use nature as a teacher. i.e. As he listened to the winds passing through the trees with their varying types of leaves, he noticed that each produced a different sound. And as he listened to the birds and the rushing waters of the brooks and rivers, and other sounds that nature produces, he desired to reproduce the sounds. So he made a flute type whistle and later other instruments. Man innately desires to become as his Creator. So nature has been his greatest teacher.

122 ここで地球上の最初の人間が人生の道程を導く教師を持たず、自然を教師とせざるを得なかったと仮定しましょう。即ち彼は様々な形の葉を持つ木々の間を通り過ぎる風に耳を傾ける時、各々が異なる音を発することに気付きました。そして鳥達や溪流や川の水の流れやその他、自然が造り出す音に耳を傾ける時、彼はそれらの音を再現したいと思ったものです。そこで彼はフルートの形式の笛、そして後には他の楽器を作ったのです。人間は生来、自分を創造した創造主のようになりたいと願っているのです。ですから自然は彼の最も偉大なる教師であったのです。

### 【解説】

宇宙創造の歴史について私達の知識は皆無です。ビックバン説等、諸説はありますが、人間がどのようにして誕生したのかについて、未知の世界が広がっています。仮に猿人からの進化の産物であったとするにせよ、生命の大本に辿り着かない限り、私達は正しく自分自身を理解出来ないのではないのでしょうか。

生命を観るに当って、私達は自身のDNA分子に潜む、膨大な過去の経験も活用出来るでしょうし、絶え間なくやって来る因からの印象も掴むことが出来るでしょう。そうする中で、私達は自身の身の回りの改善を進め、本来、私達に期待されている役割を果たすことが出来るというものです。

創世記のアダム誕生の記述がそのままの事実とは思われませんが、仮に他惑星の文明からの支援が無くても、大自然から学ぶことで私達は進化の道を歩むことが出来ますし、最大の教師は自然であると本項は解説しています。

123 Even today man is going into the depths of the ocean and into space, only to learn from nature.

123 今日でさえ、人間は海洋深く潜ったり、宇宙に進出していますが、それらはただ自然から学ぶ目的からです。

【解説】

経験上、人間が関与しない手付かずの自然は美しいことが分かります。また、どのようなものでも細部を詳細に観察する中で、私達が肉眼の視界を越えて顕微鏡下の世界に入るや、そこには別世界が広がっています。多くの微生物が活動する世界がそこにあります。

また、宇宙についても望遠鏡を用いてより遠くを見る時、遠くを覗く程、新しい星が出現し、際限のない宇宙の広がりを自覚するものです。

このように私達は私達の身の回りの自然から、多くを学びますし、また学ばなければなりません。自然を通じて表現されている宇宙的英知を学ぶことは私達を含めて、この世界にはそのような創造的法則が流れていることを知ることであり、それら諸法則を自身へ応用することを学ぶきっかけになるからです。

124 The most unfortunate part of man's learning is that his ego is impatient and tries to exalt itself above his teacher or Creator. And it is here that he makes his biggest mistakes, for he applies his will instead of Thy Will, and thus complicates things instead of simplifying them. He follows his mind which should be a pupil, instead of the consciousness which is the teacher and the life of every form. And yet his only salvation is to return back to Nature's guidance. For he can never become independent of it no matter how much he learns or how old he becomes. It will have to be nature by which he evaluates his knowledge.

124 人間の学習における最大の不幸は、人間のエゴが短気で自らを自分の教師である創造主の上に増長させようとするにあります。そして人間がその最大の過ちを犯すのがここなのです。何故なら人間は「汝の意志」の代わりに自分の意志を用い、そうして物事を単純化する代わりに複雑化しようとするからです。人間は形有るあらゆるものの教師であり、生命である意識の代わりに、生徒であるべき自分の心に従っています。そして人間の唯一の救いは自然の導きに立ち返ることです。何故なら人間は如何に多くを学び、如何に年老いても自然から独立することは決して出来ません。人間が自分の知識を評価するのは自然によらざるを得ないのです。

### 【解説】

年を取るに従い、心の柔軟性は失われがちです。些細な事に腹を立てたり、文句を言う等の現象は、長年、本項で言う心による生活をして来た結末の姿だと言うことが出来るでしょう。

人生の終りに近づく中で、その人がどのような心境になるかは、それまでどのような心構えで毎日を暮らしてきたかを反映するものです。そして本項で言う心が短気であることが多くの失敗や過ちの原因であることは、各自心して置く必要があるでしょう。

直ちに結果を求めることなく、深く因の世界でそのアイデアが熟成し、諸々の原子達にその実現に向けてのメッセージを伝達し、物質世界に現出する為には、時間が必要なのです。それまでの間、創造主への信頼を保持することは、夢を実現する為の秘訣なのかも知れません。

一方、こうして得た体験の積み重ねが、本人の価値を高める要素となりますが、重要なのは、これら最終的な値打ちの評価 (evaluation)は自然において為されるべきもの、即ち価値は自然界の関連の中で評価されるものだと言っていることです。

125 Today we have scholars and learned men in all fields of endeavor, but all of them have to depend upon nature for their knowledge by studying nature's material and production of form life. And since man must depend upon nature for life itself, then it behoves him to let nature, rather than his ego, guide him. Or let his consciousness be his guide instead of his mind.

125 今日、私達の回りにはあらゆる努力分野において学者や知識人がいますが、彼等全ては自然界の物質や生命体の産生を学ぶことによって彼等の知識を自然に依存しなければなりません。そして人間は生命自体を自然に依存している以上、人間には自分のエゴよりは自然をして自分を導くようにする義務があるのです。言い換えれば自分の心に替えて、自分の意識を自らの導き手とすることです。

### 【解説】

専門の研究者でなくても、私達は日々の暮らしの中で様々な問題に直面し、その解決策を模索するものです。その場合、何かの不安や悩みに志向したがるのは心ですし、疲れた心を時に癒す必要があるように、心だけでは解決に至らないケースも多いものです。

一方、真の問題の原因を見つけ出し、対策のヒントを得る時、私達は心よりは意識を使用していることが分かります。何らかの解決策につながるような印象の多くは心もたらしたものではなく、意識が洩らした情報だと思っています。いわゆるインスピレーションは発見や発明の源であり、それらは全て自我が隠し持っていたようなものではなく、自然界が持っている情報な訳です。

優れた業績を残す人は、このような知識の泉に容易にアクセスすることが出来る者であり、知識を自然に委ねている人です。私達は自然を見る時、自然にはそのような豊富な知識が隠されており、それらに親しむことが重要だと自覚することが必要です。

126 From experience we know that nature is governed by the Supreme Intelligence.

126 経験上、私達は自然が至上なる英知によって治められていることを知っています。

【解説】

私達の生活の全ては、母なる自然に依存していることが前項で述べられました。しかし、その自然自体、至上なる英知に支配されているのだと本項は述べています。

私達が言う自然とは、究極の意味としては物質ということかと考えます。突き詰めれば分子・原子ということであり、私達は自分達が暮らす惑星の産物にその全てを頼っていることは言うまでもありません。

しかし、その自然自体は、その活動の源泉は本項で言う至上なる英知に由来しており、これら物質界の全てが宇宙的英知とも言うべきものの指示に従っているということになります。

季節の変化や日々の潮汐、波の一つ一つも、実は自然の気ままな運動が現れているのではなく、ある種の絶対的法則に従った自然の従順な動きとすることが出来ます。

もちろん、自然は時に大雨や火山の噴火、地震や津波等、自然にすぎって生きるもの達に過酷な運命をもたらしますが、それも宇宙規模の法則、ある意味人間には計り及ばない法則性の結果として受け入れる必要があるように思います。

127 So let us go back to the word intelligence; We may look upon a man that from all appearances represents intelligence, yet when he expresses himself we realize our mistake. Yet when looking upon an unassuming, unimposing man we find from his expression that he is quite intelligent. So we do classify intelligence by expression or action.

127 そこで知性という言葉について立ち返ってみることにしましょう。私達はすべての外見要素から知性そのものであるような一人の人間を見かけたとします。しかし、彼が自分自身を表現した時、私達は自分達が間違っていたことを思い知ります。しかし一方、謙虚で出しゃばらない人間を見るとき、私達はこのような彼の表現からその者がまったく知性的な人物であることに気がきます。ですから、私達は表現や行動によって、実際、知性を分類しているのです。

### 【解説】

本項では英知は行動（活動）によって初めて表されるとしています。人物は発する言葉を含めてその行動によって内部の知性レベルが分かるとも指摘しています。

私達が自然を観察し、その内部にある英知（知性）を知るようにと、何度となく聞かされて来ましたが、その自然観察もただ漫然と自然風景を眺めるのではなく、常に動的な側面から観察せよと説いていることとなります。つまりは植物や動物の成長や行動、季節の諸変化に対する対応について注視するということでしょう。

よく知られているように、木々は冬を迎える前に翌年の春に芽吹く下準備を終えて冬を迎えます。彼らはどのようにしてやがて来る冬を察知するのか、また、夏には葉によって木陰を作り、葉を落とすことで周囲のものに冬の貴重な日照を与える等、一つ一つ感動する事柄も多いものです。これらは英知という言葉が与えられてしかるべき内容です。

同様に私達一人一人の価値も、その行動や表現活動によって評価されるべきであるという訳です。即ち、良い想念を抱く段階からそれを表現し、行動に移す中に人の値打ちが生まれるということでしょう。

128 All nature is expressing intelligence in varying degrees, for there is not a form, even a grain of sand, that does not express the purpose for which it was created, even better than man. A blade of grass as a tender shoot will come through the hard crust of the earth as it uses the power of the cosmos and obeys the intelligence that directs it. Yet man finds it difficult to penetrate a hard surface.

128 全て自然は様々な程度に知性を表現しています。何故なら形有るものはどれ一つ、砂粒一つでさえ、それが創造された目的を表現していないものはおらず、人間以上に良く表現しているものさえいます。一枚の草の葉は、柔らかな若葉の時、地面の硬い塊を貫いて現れますが、それは宇宙のパワーを用い、それを導く知性に従っているのです。しかも人間には硬い地表を貫くなどということは困難であることが分かります。

### 【解説】

実は多くの場合、自然界においては人間以上にそのものの美しさを表し、機能を発揮している多くの生きものの方が多いという訳です。自由意志を持たず、いわば自動的に神の意思に従順に生きている生きもの達には迷いや悩みはありません。また、いとも簡単に自然の英知を活用して、毎日のように飛躍的な行動を遂げる姿を私達は観ることが出来ます。

本来は創造の最高位に位置する人間については未だその段階には至っておらず、迷いの道の途上にあるという訳です。

前項で英知は行動の中に表現されているとありましたが、私達も草の葉1枚にならって、本来の潜在力を発揮しないで終わるべきではありません。因の英知を信頼することが全ての出発点であり、私達自身の中に埋もれたままになっている諸々の才能を目覚めさせることも父なる創造主は待ち望んでいることでしょう。

129 With all of the intelligence we have today, no man can give the exact answer of how an apple or any fruit became such from a flower. This shows us that as great as man's intelligence is, it is still puny compared to what is manifesting in nature, the expression of the Creator.

129 今日、私達が持つ知性の全てをもってしても、誰一人として一つの花からりんご、あるいは何らかの果物がどのようにしてそのように成るのか正確な答えを出せる者はいません。このことは人間の知性が偉大だとしても、創造主による表現、自然における現れと比べればそれは依然としてちっぽけなものであることを示しています。

### 【解説】

一粒の種が発芽し、若葉や花を咲かせ、やがて実を結ぶまでの数ヶ月という短い時間の中に大きな変化を見せてくれる植物の成長は、一つ一つ細かく見ると脅威の現象と言う他ありません。農業の魅力は自然界の生命活動を日々目撃し、その恩恵を得ることを生業にすることに由来します。多くの人が家庭菜園に魅力を感じるのも自分の目でこれら自然の働きに立ち会えること、また更には大地の恵みを味わうことが出来ることに他なりません。

確かに人間は一瞬にして鉄をも溶かす高温を発生させたり、空高く飛ぶ技術を開発していますが、それらも他の者を殺戮する道具に使う等、自然の営みとはかけ離れた方向に向かっています。

また、一方では、最近の遺伝子工学の技術では細胞の遺伝分子を操作して、人間にとって都合の良い種を作り出すまでになっています。いわば自然の法則を利用して利益を得ようとするものであり、本来のあるべき探求の姿とは異なるように思えてなりません。

私達が目指すべきは、先ずは法則の探求、解明であり、他の創造物との関連性についての理解です。その上で妥当な範囲内、即ち最高位の創造物としての責任において許容される範囲で、その法則を応用することだと思ふものです。

130 Luther Burbank expressed himself well when he said that nature gave him the knowledge of how to improve upon vegetation. He stated that he was working with the Creator, and through His creation he saw Him face to face. Man will never be free from the drudgery he now is enduring, and the confusion in which he finds himself, until he returns unto the true teacher, the conscious director of all creation. We live in and are a part of its manifestation.

130 ルーサー・バーバンクは、自然が自分に植物に対する改良の仕方の知識を与えてくれたと言ってその実態を良く表現しました。彼は創造主と共に働いていることや、創造主の創造を通じて彼は創造主を間近に見ているとも述べていました。人間は真実の教師、すべての創造物の意識の指揮者の元に帰らない内は、現在耐え忍んでいる骨折り仕事や自分自身の混乱から決して自由になることは無いでしょう。私達は創造の現れの中に生き、その一部であるからです。

### 【解説】

以前、機会があり、カリフォルニア州サンタローザのルーサー・バーバンクの記念館を訪れたことがあります。同所は生前バーバンクが暮らし、品種改良の農場として使用していた所が記念館として保存されている所で、現在も運営されています。

ご存知の方も多いと思いますが、エジソンやフォードと同時代に生き、米国が世界をリードする時代の一翼を担った人物です。

様々な伝記にも記されているように、バーバンクは多品種の交配による品種改良を手掛けて成果を世に出した人物ですが、その手法については本人のインスピレーションに従った選択手法であったようで、今日の科学的手法ではないようです。バーバンクは畑の見回りをしながら、自然と手が伸びて多くの中から選択すべき種を選び出すという具合に品種改良を進めたと言われていています。また、サボテンに話しかけてトゲの出ない品種を作り上げたとも言われているところです。このトゲ無しサボテンは現地でも有名で、改良前の原種と改良後のトゲの無いサボテンが対比して植えられていたことを思い出します。

大自然に生きるもの達が皆、無駄な努力をすることなく、各々合理的に物事を進め、自然からの恩恵だけで生きて行く上でインスピレーションが重要なカギになっていることは間違えありません。そのインスピレーションは「本能」と表現されていますが、自らの意思を大自然の指導に従わせる中で得られるものだと思います。結果を恐れず、まずは印象に従う生活を始めること、エゴを空しくすること、他の動植物を手本とすることが良いように思われます。

131 It is not the prayers, the mantrums or the meditations that will bring this to us. But a re-birth into a fully conscious being of cause instead of the mental effect. In other words we must reverse the process of our learning. Instead of being mentally aware as an ego of the mind the mind must become aware of consciousness, as it has in the past of itself. For conscious awareness is the key that unlocks the storehouse of knowledge to the mind. It is the link between the Creator and creation.

131 このことを私達にもたらすのは祈りでもマントラでも瞑想ではなく、心による結果に代わって因による完全に意識的存在への生まれ変わることなのです。言い換えれば、私達は自分達の学習の過程を逆転させなければなりません。即ちそれまでの自分自身のように、心に属する自我として認識するのではなく、心は意識に気付く必要があるのです。何故なら意識への気付きは心に知識の貯蔵庫を開く鍵であるからです。それは創造主と創造物との間をつなぐ環（きずな）なのです。

### 【解説】

私達がルーサー・バーバンクのように真に自然から学ぶようになる為に必要なことは、従来の祈りや瞑想などではないと本項で著者が断定していることは注目すべきポイントです。

これら祈りや瞑想では問題を解決出来ない所に「生命の科学」学習の難しさがあるとも言えますし、何処に取っ掛かりを持てば良いか、悩まれる方も多いのではと思うものです。

各自のエゴの克服は、それほどに大きな難事業とすることが出来ます。しかし、その一方で、イエスは幼子は容易にその問題をクリアーしているとも述べています。

本項では、それを「意識への気付き」(conscious awareness)と表現しています。目の前の事物を観る時、それを創造物と認め、それを生み出した英知に気付こうとする姿勢が重要だという訳です。この気付きが諸々の生活の場面で応用される時、人は意識を自覚するようになり、本文で言う創造主との絆を深めることが出来るようになります。

132 Once man realizes this and makes daily use of it, he will no longer complicate things and he will feel himself one with his creator.

132 一度、人がこのことを悟り、それを日々活用すれば、以後は物事を複雑化したりすることはなく、自分自身が創造主と一体になっているように感じることでしょう。

### 【解説】

意識が少しでも感知出来れば、後はそれを糸口に日々実践することによって、未来が開けることになり  
ます。言い換えれば、万物が同一の原動力で機能していることを自覚出来れば、後はその方向に進むだ  
けということです。

大事なことは出発点であり、自分の目指す方向です。何しろ目に見えない存在を知覚し、理解すること  
であり、その為にはその方向の感受性を高める他ありません。何故虫達は疲れを知らないように動き回  
れるのか、皆生き生きと各々の生涯を謳歌してられるのか、等、自然観察の中で日常あらゆる生きも  
のが自らの使命を全うしようとしている事実やそれらの背景に働く宇宙的な源泉の存在については容易  
に理解出来ることでしょう。そうした中で何故、最高位の創造物である人間だけが他の生きもの達のよ  
うな知覚が出来ていないのか、障害になっているものは何かについて、突き詰めて考えてみる必要もあ  
りそうです。

お知らせ [2012-07-24]

今週は、出張がちになり、更新が出来ない日もあるかと思いますが、ご了承下さい。

133 The Venusians and others have done this, thus enabling them to advance as they have. They do not fight nature - but blend with it by understanding its laws. For this reason they honor all manifestations including their planet, as a Divine creation. They live the thought that a creator could not create anything lesser than himself. And with this feeling towards all nature they see Divinity expressing everywhere.

133 金星人や他の人々はこのことを既に達成しており、このことがそのように進化することを可能にしています。彼等は自然と戦うことはせず、その諸法則を理解することによって自然と溶け込むのです。この理由から、彼等は彼等の惑星をも含め全ての創造物を神聖なる創造作用の一つの現れとして敬います。彼等は創造主は自分より劣ったものを創造できないとする思想を実践しています。そして全ての自然に対しこの感覚を持つことで、彼等はあらゆる所に神聖の現れを見るのです。

### 【解説】

私達はこれまで「自然と闘い」、「自然を征服する」ことが文明の成果だとして来ました。そこには人間の思うがままに自然を利用することを文明の目的として来た背景があります。必要な鉱物を採取し、選別した後に不要となった成分は廃棄物として環境に捨てて来た結果は公害の原点となりました。また最近では、より深刻な問題として、原子力発電で生成され、災害で放出された放射性物質への対策が急務になっています。

私達地球の科学技術は、それが採算性に合えば、つまり利益を当事者にもたらすことが判明すれば、後先のことを考えることなく、巨大化させて行く傾向にあります。その為、問題が発覚するや大きな問題になる訳です。

一方、他惑星人は自然と一体化した生き方をしており、当然、その科学技術も異なったものであると思われれます。宇宙船一つをとっても、未だ地球人が気付いていない原理によることは明らかですし、私達が他惑星人との交流を望むのも、同じ人間、同じような惑星環境の中であって、かくも相違する文明にまで差が広がって行ってしまったのか、深くその原因を学びたいからに他なりません。

万物いたるところに神を見るという彼らの心境こそ、私達が目指すところであるべきです。

134 As Luther Burbank said, they see the Creator face to face. Thus they learn the relationship and purpose of all manifestations serving each other and thereby serving the creator.

134 ルーサー・バーバンクが言ったように、彼らは創造主に直接対面しています。彼らはそのようにして互いに奉仕し合い、そうすることで創造主に仕えている全ての創造物の相互関係と目的を学ぶのです。

### 【解説】

私達はあらゆるものに見え隠れする創造主の面影、片鱗に気付き、具体的な事物よりは、それら要素に注目して行かなければならないということでしょう。私達が鋭敏になるにつれて、それら印象の送り手である創造主をより身近に感じられるようになる筈です。そうすると、本文に記述のあるように創造主と直接、対面しているような心境にも到達するものかと思われま

す。各創造物が本来の役割を全うする為には、個々の意欲を超えて、全体の調和の上から指導を与えてくれる宇宙的印象に従うことが必要です。これにより季節毎に一斉に花々が咲き、季節を彩る訳ですが、そうしたことも動植物が自然から来る指導的印象に従順となることで自らを繁栄させていることでもあります。

私達が創造主への志向を強めるにつれて、自ずと創造主は身近な存在として感じられることになりま

す。

ここで、最近インターネット上にルーサー・バーバンクの紹介ビデオを見つけましたので、以下にご紹介します。

[http://www.youtube.com/watch?v=UEPMwLjR\\_So](http://www.youtube.com/watch?v=UEPMwLjR_So)

<http://www.youtube.com/watch?v=ZQYPLQR1bmg>

<http://www.youtube.com/watch?v=zZrxpVuxi68&feature=related>

135 In the next lesson we will explain this relationship. It is important to understand if confusion is to be eliminated. All that is asked of any one is to become more and more conscious of consciousness which is the true self behind every act or thought. In plain, give the consciousness the recognition you have been giving the ego mind, in everything you do or see. Be aware of the invisible intelligence behind every act and word. By doing this it will eventually become automatic for you.

135 次の教課ではこの関係を説明しましょう。混乱を取り除く為にはそのことを理解することが大切なのです。誰に依らず求められていることのすべては、あらゆる行動や考えの背後にある真実の自己である意識をもっともっと意識するようになることです。平たく言えば、あなたがこれまであなたが行ったり見たりするすべてにおいて、エゴの心に与えていた認識を意識に与えよということです。あらゆる行為と言葉の背後にある目に見えない知性に気付きなさい。こうすることによって遂にはあなたはそれを自動的に行えるようになるでしょう。

### 【解説】

要は日常の指針を何に託すかであろうと考えます。これまでのように、甚だ不安定で対処力の無い自分自身に置くのではなく、自身の中にもある「意識」に拠ることが極めて重要なのだと本項は説いています。無言であり、目に見える姿を現すことの無い「意識」に気付けと説いている訳で、私達にとっては大変、難しい課題であることは確かです。

また、本文では今まで存在を認めていた自我（エゴ）、即ちその存在があって当然として来た「エゴ」に対して、今度は同様な意味で自身の中の「意識」の存在を認めよと言う訳です。

もとより自分自身は何者かという問いに対して、私達は常に明確な答えを用意している訳でもなく、ただ漠然とエゴを野放しにしている訳ですが、本項は今度は「意識」の存在を同等以上に自身の想念や行動の原因者として認めるよう求めています。

目に見えない存在を知覚出来るかどうか、万物を観る際、その背後に存在する宇宙的意識の存在に気付くことが、新しい生活を始める上で極めて重要だと説いているのです。

136 When you begin to enjoy and understand a broader field of life you will know that you are progressing. And ideas and thought will be coming faster than you have ever known before. Do not question anything from the standpoint of disbelief, but make an analysis of every thought and act to see if it was a premeditated mental reaction or a conscious one. And where it fits into your life in relationship to others.

136 あなたは自分がより広い生命の分野を楽しみ、理解し始めていけば、自分が進歩しつつあることが分かるでしょう。そしてアイデアや考えがこれまでに無い程、速く浮かんで来ることでしょう。何事にも不審の念に立って疑問を投げかけてはならず、あらゆる想念や行動をそれが前もって考え出された心の反応なのか、意識によるものなのか、他との関連においてあなたの生活の何処に当てはまるかについて分析することです。

### 【解説】

どのようにしてそうなったかは分からないながらも、本講座を学ぶ多くの方々には、知らず知らずの内に身の回りの出来事がうまく回りはじめたり、人生がより活発になっていることを自覚されているのではないかと思います。

印象に従う生活は恵みが多いことも確かです。

その背景には、将来に起こる事象を事前に察知して、いち早く対応することや課題に対する解決策に気付く能力が高まること等のことがあるものと思われます。私達の進歩はただか数十年の学習でしかありませんが、他惑星人は恵まれた環境の中、肉体が有する最大限の能力を発揮させて数千年を過ごしていることを考えれば、地球人とは、もはや神と人ほどの差があるものと思われます。

それに対し、私達は様々な問題を有するこの惑星の上で、真の自己開発に取り組む訳ですから、成果を上げるには相当の注意深さと決意を必要とします。本項で言うように、いささかの疑念も許すことなく、意識の存在に注視し、やって来る印象を全面的に信頼することが必要です。誰も相手から信頼されていると気付けば、その者に好意を抱くものです。それは創造主とて同じ事。創造主を信頼することは創造主から与えられる印象もより恵み多いものになる筈です。

137 Keep your mind as much as possible on the finer qualities of life, as you would on a fine quality of music. And if you do this daily you cannot help but make progress.

137 あなたの心を精緻な音楽に耳を傾けるように、生命のより精妙さに関心を持ち続けさせなさい。毎日これを行えばあなたは進歩せざるを得なくなります。

### 【解説】

何事によらず鈍感であってはいけないという訳です。気付きがなければそもそも「良いもの」、「優れたもの」が分からないということです。また、深遠なるものの存在を日常的に感じ取る者が尊ばれる所以です。

そういう意味でも想念や印象の感知能力については、他惑星人ははるかに進んでおり、同乗記に記述のあるようにもはや言葉も不要になるほどの段階に到達していることとなります。

私達も、より繊細な因からの印象に関心を維持して行けば、遠からずその進歩の道を歩むことになるものと思われます。次回は第4課に入ります。

SCIENCE OF LIFE - STUDY COURSE

LESSON FOUR

The Relationship of All Creation

138 In the last lesson we stated that we would explain the relationship of all creation as simply as possible in order to eliminate confusion. We will deal with the many kingdoms that serve man. For without each he could not live and the Cosmic Plan would not be complete.

生命の科学－学習コース

第4課

創造物すべての関連性

138 前課では混乱を取り除く為に出来る限り単純に創造物すべての関連性を説明しようとして述べました。私達は人間に奉仕する数多くの王国について取扱うこととなります。何故なら、各々の王国が無ければ人は生きることが出来ませんし、宇宙の計画も完全にはならないからです。

【解説】

本項ではあらゆる創造物間の関係について簡潔に理解することを目的とすると述べています。もちろん細部の研究も必要ですが、まずは全体の理解から灰って行くべきだとしているのです。即ち、最初は一見したところあまりに単純だと思われていたものが、細部を研究すると意外な事実も判明して来ます。しかしそれらを更に別の角度から見ると、より壮大な原理と法則が見えてきて、遂には当初の簡潔な法則に帰着することも多いように思います。

その際、重要なのは、個別のテーマの関心以上に、その法則の目的、意図を見ることだと思っております。

また、同時に自然観察する時、多くの王国 (Kingdom) が人間の役にたっていると本項で明示されていることです。この場合、王国とは、分類学で言う「界」のことで、動物界、植物界と言われるようにその種の生きものの暮らす生活圏全体を示しています。言うまでも無く、人間を支えているのはこれらの王国です。食料や原材料の全てを人間に提供している訳で、これらの王国との関係を私達は身近に感じなければなりません。今日では生態学 (Ecology) という言葉が定着していますが、こうしたことも創造物間の関係を研究する学問分野ということが出来ます。

139 It is man's duty as the highest expression of intelligence to understand all of life's phases in relation to himself.

139 英知の最高位の表現物として自分自身との関連におけるあらゆる生命の側面を理解することは人間の義務です。

### 【解説】

万物における最高位の創造物である人間に対して、課せられている義務は「労」に汗することではなく、あらゆる事物、あらゆる生命諸相を理解することだと説いています。つまりは私達人間は他の様々な創造物から恩恵を受けて生きている訳ですが、先ずはそれら様々な創造物について学び、その生命活動を理解することが必要だということです。

その為には各々の生きもの達がそのような生活を送り、他のもの達と相互依存の関係にあるか等々、私達の暮らしと関係づけて理解することが必要です。その点について、日本人は飛びぬけて優れた感性を有しているように思います。先日、四国松山を訪れる機会がありましたが、正岡子規をはじめとする近代俳句の中で写生（自然観察）が尊ばれたことを知りました。日常的な自然観察の中で自分達の暮らしと気象を含めたあらゆる創造物を理解する心境の表れの一つに俳句があるように思われます。

この姿勢には目標の為にガムシャラに働くことや自らの願いを実現すべく一心に祈るような姿は含まれていないように思われます。それらの欲求はしばし脇に置いて、目の前の自然を理解することを最優先に人生を歩めと言っているように私には思えます。

140 For analysis we will start with the invisible gases which seem to our understanding almost nothing. But within this kingdom are groups that vary in consistency and purpose. And from these come the many forms, as they solidify

140 分析の為、私達の理解にはほとんど何も無いように思える目に見えないガス類から話しを始めることにしましょう。しかし、この王国の中にはその密度や目的を変化させるグループもあります。そしてこれらが凝固する際、それらの中から数多くの形が現れます。

### 【解説】

目に見えるもののみを前提として暮らしている私達は、身の回りにある気体、大気について普段気にとめることはありません。しかし、本項で述べられているように、この目に見えない世界こそ、基本的な世界（王国）とすることが出来る訳です。

「八雲立つ」の例を引くまでもなく、ひとたび目に見えない気体の世界から、水蒸気の凝結が起これば雲が生じ、更には地上に雨や雪をもたらします。夏空に湧く様々な形を見せる雲は最もわかり易い創造作用の一つではないでしょうか。大地と大気の水の循環等、私達にとってかけがえのない働きを担っているのが、他でもない大気層、即ち気体の王国ということになります。

私達はこの大気層を日常、意識することなく過ごしていますが、化学を学んだ人はご存知のように、1立方メートルで約1キロもの質量を持っている等、私達の身の回りの空気は「重い」存在でもあるのです。その証拠に熱気球はバルーンに熱せられ比重が小さくなった空気を溜めて、10名以上を載せたゴンドラを空高く浮き上げさせる程の浮力を生じさせることが出来る訳です。

即ち、私達の身の回りの大気、更には宇宙空間に広がる気層には私達の想像を超える様々な分子・原子が濃密に存在し、活発に活動している訳で、先ずはその活動に気付くことが必要となります。

141 In the gaseous state the highest activity exists. And the gases continuously combine and separate to bring forth the different combinations within the kingdom. Some combine and slow up their action and continue to do so until they become a form. In the first part of the slowing stage they become liquids which we classify as chemical elements. Thus in the liquid stage one chemical element mixes with another and creates phases that are different than they were originally.

141 気体の状態の中に最高レベルの活動が存在します。そして気体達はその王国の中で常に結合し分裂して異なる結合をもたらします。あるものは結合しそれらの行動を緩め、それを続けることによって遂には一つの形あるものになります。緩やかになる最初の部分では、私達が化学の要素で分類するところの液体になります。このように液体の段階で化学要素は互いに混じり合う結果、それらが元にあったとは異なる諸側面をつくり出します。

### 【解説】

大気圏内ばかりでなく、宇宙空間においてガス状物質が創造作用の最初の段階を担っていることは明らかです。文字通り、万物は微細なチリと称せられる最小の構成要素から創られることになります。

私達は気付きませんが、気体が最も分子が活発に活動していることは物理化学で学んでいるところです。これら分子達が結合、凝縮して液体になったり、生命体に取り込まれる等して、形あるものを構成する訳です。私達が刻々と呼吸を通じて体内に取り込んでいる酸素は、やがて体内の炭素と化合した二酸化炭素の形で同じ呼吸から排出されています。

この呼吸が止まれば、生命の継続が出来ないように、私達は実に気体の王国の中に生き、気体に依存していることになります。そういう意味からも、隣国の中国その他の経済発展著しい新興国において依然として深刻な大気汚染が続く中、大気を清浄に保つことは非常に大事なことであると痛感するものです。

142 Through this mixing process extreme heat and extreme cold and the many variations between result as the action continues. And some combinations of gases and liquids cause mild or violent combustions. But out of these come the solidification of liquids that are composed of gases and parts of matter. But they are so fine that we have not as yet been able to make a microscope or instruments able to detect them. Yet they are there, and have to be in order to produce what we know exists on this planet.

142 この混合の過程を通じてその活動が継続するにつれて、極端な高温と極端な低温、そして様々な中間領域が産み出されます。そして気体と液体の内、いくつかのものの組み合わせによっては、穏やかな、あるいは荒々しい燃焼を引き起こします。しかし、これらから気体と物質の一部からなる液体の固化が起ります。しかし、それらはとても微細な為、私達はそれらを検知できる顕微鏡や装置を作り上げることは未だ出来ていません。それでもそれらはそこに存在しており、この惑星で私達が知る存在するものを造り出す為にはなくてはならないのです。

### 【解説】

本項に関する最も身近な例は、夏の青空に突如出現する雲とそこから生まれる雨粒であるように思います。

空気は文字通り、肉眼からは無の世界と思いがちですが、本項で説かれている内容を当てはめれば、実は絶え間ない気流の流れと冷却・加温の諸作用が目まぐるしく生じている活動的な世界ということが分かります。

肉眼では察知できないものの、空気層の中では互いに反応し、混合する活発な気流が存在し、その活動の結果、微小な水滴粒子の集団である雲が生まれ、上層まで上り詰めた気体の塊は冷却されて氷の粒子に変化します。地表の熱い空気の塊が上昇して雲に形を変える中で、目には見えない微細な粒子間で、活発な変化が起こっていることに驚かされます。

これら微細な粒子が創造作用を担っていることに気付こうとする姿勢が重要だと本項は説いています。肉眼に頼らず、細部の活動にも気付いて行こうとする志向が大切だということです。

143 So we naturally assume that all planets and forms are made of very much the same materials. And they vary only in size and fineness or coarseness of structure.

143 ですから、私達はおのずと全ての惑星や形有るものはとても似た物質から成り立っているものと考えています。それらは構造における大きさ、繊細さや粗さが異なっているに過ぎません。

### 【解説】

私達は既に、物質は全て分子・原子の微小成分から成り立っていることを学んでおりますし、その分子・原子の由来が宇宙空間のガス状物質であることを知れば、結果として見えてくるものは何でしょうか。

それは宇宙万物に対する親近感であり、一体感です。自分と宇宙、更には他の生物全てがこの同じルーツから生まれ、生かされているということ。全てのものが自分と兄弟姉妹の関係にあるという訳です。

この事実は決して新しい発見でもなく、少し考えれば誰でも思いつく概念です。それを長年月妨げて来たのは自分は他人とは異なるとか、物事を区別して違いだけを注目して来た私達の姿勢に原因があります。

本講座を学ぶ私達は、あらゆるものに寄り添い、一体感を持って接し、想念レベルに至る交流を進められるよう、心を寛容的、受容的に保つ必要があります。

144 At this point let us go back and analyze, or speculate on what the steps would be to build a form embodying all of the elements necessary for self reproduction.

144 ここで自己再生に必要な要素全てを体現する形有るものを作り上げるのにどのような段階があるかについて振り返って分析し、また考察して見ましょう。

### 【解説】

目に見えないからと言って、その存在を認めて来なかった私達ですが、本講座を通じて、私達は目に見えるもの、形ある創造物と目には見えず創造を支える因なるものをはじめとする存在に対しても、十二分に尊ぶことを求められています。

気体はそういう意味では、因の作用に直結する分子・原子達の集まりと言えるでしょう。

私達は自らの命の拠り所である空気について、日頃、認識することなく、タダでそれを利用しており、その存在に感謝することはありませんでした。まさに空気のような存在としていた訳です。夏の日照りの最中、木陰で涼しい風が頬を伝う時、私達ははじめて空気存在を自覚し、自らが自然から慈しみを受けていることを知ります。

気体は通常、無色透明ではありますが、以前述べましたように、多くの分子・原子が存在する活発なる世界です。それは空高くまで拡がり、宇宙本体との境はありません。創造の第一段階はこれら気体の分子・原子群が思念に呼応して反応することは間違いありません。その作用が宇宙空間にまで広がり、創造作用が発揮される時、空間から物質が出現することになるということだと考えています。

目に前の空間、気体分子の充満する領域（王国）の中に、あらゆる可能性があるということかと考えます。

145 One of the planets of our system would be a good place to start. As it represents one of billions of planets which in turn produce the many forms borne upon it

145 私達の太陽系の中の一つの惑星は話しを始めるのに良い例となるでしょう。何故ならそれは、何十億もの惑星を代表しており、その後はその上に多くの形有るものを産み出すものだからです。

### 【解説】

これまで私達地球人は、人間が独力で今日の文明を築き、他の自然に対して君臨して来ました。その傲慢さは人間が地上の全てを支配できるとし、その活動に伴って排出する廃棄物を空や水、大地に撒き散らしています。しかし、人間自身の肉体はもとより、文明の青果物である建物や機械その他に至るまで実は使用するエネルギー源も含め、その全てはこの惑星が提供したものです。

私達は未だ正確にはこの星（地球）がどのようにして誕生したのか、分かっておりません。しかし、少し自然を観察すれば、大地に強大な力が加わって地層が歪み、山や谷が出来たことは地層の歪みから分かりますし、地下深い地層から石炭が出土することで、かつてその地層が地表面に現れていた時、植物が生い茂っていたことが分かります。

この惑星がどのようにして今日の姿に至ったかを知ろうとするには、天地創造の真義を学ぶ大きな意義があります。私達が拠り所とする地球がどのように誕生し、生物が生まれたかを知ろうとすることは、この惑星を預かる者としての義務でもある訳です。

146 Now let us visualize the steps of creation into form when the liquids begin to solidify by slowing up their action within the liquid kingdom as the gases did to form the liquids. For once the liquids begin to solidify they vanish just as the gases did. Even though they are ever active in the pattern of creation.

146 さて、気体が液体を形成したように、液体の王国の中でその活動を緩慢にし液体が固化し始める際の形有るものに至る創造の歩みを思い描いて見ましょう。何故なら、一端、液体が固化し始めるとそれら液体はガスの場合と同様に消滅するからです。しかしそれでも、それらは創造の形式の中では依然として活動を続けているのです。

#### 【解説】

形あるものへの創造の過程として最も身近な液体から個体への変化する例は、水が氷になる過程ではないでしょうか。もちろん、水が冷えれば氷になることは誰でも知っている訳ですが、本講の学習の中ではより深い観察が必要です。

誰でも真冬に空から舞い降りる雪の結晶の顕微鏡写真をご覧になったことがあると思います。雪の結晶の研究については中谷宇吉郎が有名ですが、雪粒子が多くの研究者を魅了するほどに美しく、奥が深いものであることに私達は気付く必要があります。

雪の結晶の美しさは創造作用という宇宙普遍の法則が単なる機能主義でなく、芸術性にも富んだものであることを示しています。

よく私が申し上げることですが、自然物というものは、クローズアップしてどんどん細部を覗くにつれて、美しさが増してくることに驚かされます。この点については、例外は一切ありません。つまりは創造の作用が働くミクロの世界においては、美しさが支配しているということも出来るでしょう。

これは水の例ですが、更により複雑な分子や構造体の生成に当っては、更に高度な創造作用が起こっているに違いありません。

147 This is a good example of what takes place : When we look into a beautiful clear sky, we do not see anything but the sky. Yet we know that between us and the blue are layers and layers of gases such as oxygen and hydrogen, etc., that we do not see. But once they slow up their activity a cloud will appear. And once it slows up its activity it may then reactivate itself and become totally invisible as it returns to its invisible gas. Yet even here we may speculate that some change has taken place among the original gases.

147 起っていることの良い例がこれです。私達が美しく澄んだ空を見入ったとしても、私達にはその空しか見えません。しかし、私達は私達とその青い空の間には私達には見えない酸素や水素等のガスの幾重もの層があることを知っています。しかし、一旦それらが活動を弱めれば、雲が発生することでしょう。そしてその雲も活動を弱めれば目に見えない気体へと変化する為、完全に目に見えなくなってしまう。しかしながら、私達はその元の気体の間で何らかの変化が起ったと考えるかも知れません。

### 【解説】

青空で雲が生成したかと思うとやがて消失することは、私達もよく目にすることです。これら雲の出現も惑星上で起こっている創造作用の一つであると本項は述べています。

その雲の生成に対し、そのような視点で望んでいるかが問題なのです。つまり、私達に創造作用の現れとして目に見せてくれているのが、大空における雲の生成と消失であり、私達はその中で行なわれている活動を創造主の働きとして認識しなければなりません。

実は身の回りには創造主の働きの典型となる事例は山とある筈であり、それに気付いていない人間の鈍感さこそが問題とされねばならない訳です。周囲で日々起こっている事象の中に神の働きを自然と見ることが出来るようになれば、人生は素晴らしいものになることは間違いありません。

148 But should the cloud get heavier by continued slowing up of its action the atmosphere will begin to feel moist for now the gases are coming into a liquid state and moisture will start dropping to earth, which is the second kingdom in action.

148 しかし、雲がその活動を減じ続けることによって濃密になって行けば、大気は湿気を感じるようになるでしょう。何故なら今や、ガス類は液体状態になりつつ有り、水分はやがて地上に落下しはじめることでしょう。それは活動する第二の王国のはじまりなのです。

### 【解説】

分子・原子の活動は気体である時が最も活発であり、動く速度も大きい訳です。それが活動を減じる中で各分子・原子が集合して液体に形を変える状況を本項では述べています。

いわば形の無い状態が最も活動性が高く、活動性が低下するにつれて形あるものになって行く訳です。これは私達創造物、即ち形あるものは、その全てが形の無いもの、目に見えない非常に活発な活動状態にあるものが、次第に目指す形を創り出すべく、その波動を下げて物質化したというような創造の過程を暗に示しているように思えます。

言い換えれば、自分自身も含めて、あらゆる形あるものの由来は、混沌とした原始のガス状物質にその源があるということでしょう。一つ一つの分子・原子はあるいはそれらを構成する素粒子が、それらを導く創造主の意図を十分に把握して、各々の務めとして形あるものの形成に参画したということになります。

149 In order to clarify what we mean we can use the illustration of the creation of form when liquids transform into solids. A drop of water placed on dust will absorb the dust unto itself. And if a small amount of water is allowed to move slowly over dust it will absorb so much that the liquid vanishes and a mud ball takes its place. It is no longer liquid, but moisture that holds the dust together to form a sphere. Should there be enough liquid to absorb all of the dust that might be available there is no saying how large this sphere could become.

149 私達の意味するところをはっきりさせる為、液体が固体に変容する際の形あるものの創造についての例を用いることにしましょう。塵の上に載せられた一粒の水はその上に塵を吸収させます。そしてもし、小さな水玉が塵の上をゆっくり移動するようにさせたら、それは塵を最後には液体が見えなくなるまで吸収し、遂にはそれに代わってひとつの泥玉ができることでしょう。それはもはや液体ではなく、球体を形作る為塵を繋ぎ止めている水分なのです。もしすべての塵を吸収するに十分な液体があれば、この球体が何処まで大きくなるか誰も発言することは出来ません。

### 【解説】

この項では、乾いた地面に滴下された水が泥玉の形成に利用される様子を示しています。個々の泥の微粒子を一つの泥玉の形にまとめあげているのが水ということになります。

ここで、これまでの講演記録等から分かるように、アダムスキー氏がこの泥玉 (mud ball) という際には、実はこの泥玉に対し特別な意味を持って話されていることについて、申し上げねばなりません。

その内容は、この泥玉こそ、私達人間のエゴを象徴しているのです。つまり、自らは乾燥し、こま切れになった泥の塵でしかなかったものが、内部に「水」を持つことによって形あるものとなり、どんどん、その大きさを増長させて来たという訳です。

その結果、泥玉は自らが最初から大きな泥玉であったと勘違いして、自我を増長させ、自分は他の者とは違う存在だと主張しはじめることになるというものです。

このように、私達自身の出所を深く考えることによって、私達と他の存在との間にはほとんど大きな差異はなく、共通の結合力を持つ、創造主に起因する存在が働いていることを知ることがポイントです。

150 All of the particles of dust are made up of various gases which are capable of producing minerals as well as germs or seeds. And these can produce other forms once the proper conditions prevail. From the first kingdom to the present, activity continues in varying degrees that produces the changes.

150 塵の全ての粒子は様々なガス状物質から成り立っており、そのガス状物質は鉱物や胚や種子等を造り出す可能性を持っています。そしてこれらはひとたび適当な条件が広がれば、他の形有るものをも造り出すことができます。この最初の王国から今日まで、変化を造り出す活動が様々な度合に続いているのです。

#### 【解説】

目の前にある土の粒子が源はガス状物質から生まれたものであり、それらのガス状物質は条件が整えば、他の形あるものを創り出すことに再び利用されるという訳です。仏教で言う「無常」、即ち、万物が絶えず変化、変遷、流転の過程にあり、決して一箇所に留まるものではないという意味に通じる説明かと思えます。

天文学で言う星間のガス状物質が天体誕生の場とされているようですが、同じ状況が私達の身近にも起こっていると考えべきかと思えます。私達は創造作用の場の中に日常的に生きている訳です。

実は私達自身の肉体も死後は火葬にされ、一部の残留物を除いて、そのかつての構成元素の大部分はガス状物質となって再び気体の王国に帰還しており、再び何処かで形あるものの形成に役立つこととなります。

151 We know that wherever there is activity from any source, energy is the result. We classify this energy as friction, static electricity, or kinetic. And it can be seen when clouds are forming and moving at a good rate of speed and take on what we call static electricity. And when they have a full charge they discharge this force in the form of lightning. If there are two or more clouds discharging towards each other and cross lines of force like two electric wires, at the point of crossing they produce a flash and an explosion. And at this point a lightning bolt may be created. This bolt contains most of the minerals known on earth. Prior to the discharging of the clouds there was apparently nothing but empty space between them, yet there must have been something there at the point of crossing to, create a lightning bolt. The necessary elements were there and only needed the proper conditions to solidify them into the form we call a lightning bolt.

151 私達は如何なる源泉からにせよ、活動がある所には、エネルギーが結果として生まれます。私達はこのエネルギーを摩擦や静電気、あるいは運動エネルギーに分類します。そして雲が形成され高速度で移動していわゆる静電気を取り込んでいる時、それを目で見ることができます。そして満杯まで充電されると、それらは電光の形でこの力を放出するのです。もし二つ以上の雲が互いに放電しあい、2本の電線のように力線を交叉させている場合、交叉する点において、それらは電光と爆発を生じさせます。そしてこの時点で稲妻が造り出されるでしょう。この稲妻は地球上で知られているほとんどの鉱物を含んでいます。雲からの放電の以前にはそれら（雲）の間には見掛け上からっぽの空間があるだけでしたが、それでも交叉する時点で稲妻を造り出す何かがあった筈です。必要な要素はそこにあり、稲妻と呼ぶ形態にそれらを固化する為の適当な条件だけが必要だったのです。

#### 【解説】

稲妻が原始の地球において無機物の気体から有機物を生成する役割を担ったことは、以前、お話を聞いたことがあります。ガス状の窒素からアミノ酸が生成することが密封されたガラス容器の中を放電させることで確認されたのです。

このように稲妻（電光）は強烈なエネルギーを気中の分子・原子に与える中で、それらが反応性を高め、様々な活動が見られるということでしょう。

一方、私達が未だ十分に知らない事柄の中に、大気中には多くの金属元素があると本項で明かされていることがあります。稲妻が通過した所には、様々な金属元素が認められると本項では説いています。通常、私達が考えるのは、これら金属は通常、固体の形態でしかないと考えがちですが、水銀やよう素の蒸気の例のように、気体として存在することもあり得るのではないかと思う次第です。昨今の原発事故以来、放射性セシウムの拡散が問題となっていますが、それらは固体の微粒子と言うよりは、分子・原子に近い大きさとなって大気中に漂い、広範囲な地域に拡散しているのではないのでしょうか。

金属・鉱物も目に見えない空間に多量に存在しており、創造に掻きたてられるエネルギーの供給を待っているということかも知れません。

152 This alone is proof that space is made of the elements which produce the many forms known to man that depend only upon the combination of the elements. As stated before, it can be said that the birthplace of forms is in space. And the miraculous part is that the law known as disintegration can also be called the law of birth. For when disintegration takes place, regardless of the form, the elements of which it was made return to the original state.

152 このことだけでも空間が人間に知られている多くの形有るものを作る元素から成り立っており、それら形有るものはその元素の組み合わせのみに依存しているということの証しとなります。以前に述べたように、形有るものの誕生の地は空間にあると言えるでしょう。そして分解として知られる法則はまた、誕生の法則として呼ばれるべきであることは奇跡的なところです。何故なら、形有るものに関わらず、分解が生じる時、それを作っていた元素が元の状態に回帰するからです。

### 【解説】

普通、私達は形あるものが分解し、気体に還るのを見届ける際、大気に戻ると同時に、それらが再び元に戻ることはない分散の状態に移行すると観て来ました。その延長線上の概念として、一滴の水が大海に戻るように、二度と再び相揃うことのない、別離として受け止めて来ました。

しかし、本項では、このような分解の過程を、新たな創造の過程の始まりとして、積極的に捉えていることに留意しなければなりません。

言い換えれば、原子は破壊されることなく永続する訳で、その分解・解散の過程は、新たな誕生への一歩とも言えます。もちろん、そこにはもはや同じ原子の組み合わせはなく、新しい形あるものの形成、新しい体験が生まれる訳です。

こうしたいわば物質の大きな循環の過程において、私達の正体はどのようになっているのが、次なる問題と言えるでしょう。

私達が丁度、母なる海のように、これら万物誕生の場である気体の王国に取り囲まれて過ごしていることは、意識の海に暮らすこととも類似しており、創造主の見守りの中に息をつないでいることにも繋がる概念ではないでしょうか。

153 All gases contain the potential of repeating the cycle again and again. Everything in nature seems to be doing this. Which means that the gases in their original state seem to be constant, while the forms come and go. All of this takes place in a continuous state of action in varying degrees which we could call speeds or frequencies.

153 すべてのガス成分はその循環を何度も何度も繰り返せる能力を有しています。自然におけるあらゆるものがこうしているように見えます。つまり、形が行き来する一方でガス成分の元々の状態は変わらないように見えることを意味します。これら全ては私達が速度や周波数と呼ぶような様々な度合いの中、連続した活動状態として起っているのです。

#### 【解説】

一つ一つの創造物は結果物であり、個体としてはある一定程度の期間しかその形を保持することは出来ません。どのようなものであっても、時間の経過とともに形は移ろうものです。

これは私達自身についてのみならず、創造物を育んできた惑星自体も同様です。太陽や星の寿命の話の中には、最後は超新星となって爆発し、再びガス状物質となって宇宙空間に拡がって行くと言われてい

ます。こうしたガス状物質が実は万物の基本的状態なのだとは本項では解説しています。つまりはその宇宙における気体の王国においては全てが永続し、創造主の意図に直ちに対応する分子達が次なる発現のチャンスを待っているのです。

154 The primal force of creation, the Cause, or purpose, is constant. While the manifestations or effects of the cause are transitory. All of this is governed by varying vibrations, speeds or frequencies, which in their change constantly produce new effects. And each is important to the other, for no part could perform as it does in the absence of the others.

154 創造の主なる力、因、あるいは目的は不変です。一方、形の現れや因の結果はつかの間のものです。それらすべては振動や速度、周波数の変化に支配されており、それらの変化にあたって、絶えず新しい結果を生み出しているのです。そしてそれぞれは、他にとって重要であり、いかなる部分も他の存在無しには自らの任務を果たすことができません。

### 【解説】

話は少し横道にそれますが、先日（8月中旬）尾瀬檜枝岐を訪れた時のことです。実はその年の2月、冬景色の写真を撮りに行った所でもあります。冬に撮影した同じ場所に行って、冬と夏の自然の姿を対比した写真を撮りたいと思ったことが、旅の主な目的でした。

冬と同じルートを当時撮影した写真のプリントを見比べながら進む訳ですが、実はあまりの状況の違いに同じ場所を特定する作業は難しいものとなりました。理由の一つが冬、雪道を歩いていた時は、本来の道路面から何mも高く積もった雪の上を歩いていたため、視点の高さが異なること、更に冬、幹と枝ばかりであった木々が、夏は枝も伸び、葉も繁らせて一回りも二回りも大きくなっていたからです。場所によっては、山の稜線も変わったのではないかと思われる所もありました。それに引き換え、道の看板その他、無生物については、容易に発見することが出来、改めて生命活動が力強いものであることを実感した次第です。

155 I trust that we now have some light or understanding of the first kingdoms, and how it may have been possible for creation to take place from what appeared to be nothingness, into form manifestation. Yet we may go a little further and ask, where did the gases come from in the beginning? And what, or who, set the law of attraction and repulsion in action where the various gases either combine with or repel one another ?

155 私達は今や第一の王国について、また、どのようにして一見何も無いように見える所から形有るものに創造が起こり得るのかについて、いくらかの光明あるいは理解を得ているものと信じています。私達は更に進んで最初にガス成分は何処から来たのかと尋ねるかも知れません。そして何が、あるいは誰が様々な気体が互いに結合したり反発したりする活動に親和や反発の法則を設けたのかと。

### 【解説】

前項に引き続き、尾瀬での話です。夏の山の天気は午後になると雷雨になることが多いようです。

先日も、午前中は夏雲の湧く快適な天候でしたが、昼過ぎからは急に灰色の雲が出現し、雷鳴とともに大粒の雨が降り出しました。幸い早めのコース変更により、私自身は大雨に遭わずに済んだのですが、多くの方がずぶ濡れで山小屋に到着される事態になりました。その時も雨粒が落ちてくる前に、雨が来ることを想定して先を急ぐ中、空の変化に頓着なく、歓談している多くのグループを見ましたが、こちらも何と云ってよいか困ったものです。

一方では、鳥達はしっかり森の中の大木の枝下で既に待機していました。その鳥達の姿を見て、改めて自分の直感が正しいことを確認し、事実、そのようになりました。

さて、この雨ですが、何処から来たかを考えれば、上空の大気、ガス体はその由来であることは間違えありません。その大気の中の水蒸気（気体）が冷やされて凝縮したのが雨粒になって地上に落下すると一般には解説されています。

しかし、地表に降る雨粒になるまでに、そのような変化が起こっているのか、私達は良くわかっていないのではないのでしょうか。実験室で水蒸気を溜めた大きな袋を冷やしたからといって雨を降らすことは出来ません。水の分子が霧の粒子のような微細な塊になり、更にはそれらが急速に成長して落下する等、様々な現象が起こっている筈です。

この例は雨の場合でしたが、雷や風、気温その他、気象現象は私達の生活に大きな影響をもたらしていますが、それら全てが気体の王国の活動である訳です。

その気体の王国で行われている諸活動、更には元来の気体成分がどのように産み出されて来たのか、創造の根源に関する課題の探求が次に必要になります。

156 In the first two stages we find that some kind of intelligence as we call it, was the director behind the scenes.

156 この最初の二つの段階の中、私達がある種の知性と呼ぶものがそれらの光景の背後の指導者であったことに気がきます。

### 【解説】

先ず、本文で言う「最初の二つの段階」が何を指すかについては、前出の（141）と（146）をはじめとする二つの段階を指すものと考えます。つまりは、ガス状物質の活動の変化による微細な液滴の生成、更には液体から固体の生成の二つです。その変化の中に創造主の指令を見ると著者は語っているのです。

私自身、昔、類似した体験を持ったことがあります。具体的に何の液体であったかは忘れましたが、過飽和、あるいは過冷却の液体がビーカーに入っており、通常、何もしなければビーカーの中の液体はそのままの形を維持しているのですが、そこを揺らすか何かの刺激を与えた途端、ビーカーのガラスの壁面に見る見る内に結晶が生成されて行く様を見たことがあります。

実はこの場合、分子・原子のレベルでは猛烈な速度の反応がビーカー内の液体分子に起こっており、分子・原子は一斉に共通した目的に向かって動いていたことになります。

何より印象深いのは、その結晶の模様が美しかったことですが、その結晶の形についても突き詰めれば分子・原子の形状を反映したものであると言われており、微細な構成要素から目に見える段階での結晶の形が関連する等、創造主の指導は終始一貫していることに驚きます。更には、各々の分子が一斉に形を作り上げるべく、驚くべきスピードで整列を始め、誰一つ不協和音を唱えることなく、完全な結晶体を造り上げて行く光景からは、これら指導を理解する素直な分子・原子達がいとおしく思える程に賢いものであることが分かります。

157 Do we not classify intelligence on a basis of an expression or manifestation? Isn't it true that we judge a man's intelligence by how well he expresses himself or how well he produces something or behaves? And if he does not come up to the standards of society he is called a moron. Doesn't this manifestation which appears to be more orderly in bringing forth results, baffle men representing intelligence? I would say that it does, and we will notice this more as we go on. It shows that there is an overall Cosmic Intelligence as well as Cosmic laws that governs all creation. And this intelligence does not need a form as it embodies itself in all forms for various purposes. And all manifestations through the gases and mineral kingdoms will themselves to this intelligence except man.

157 私達は知性を表現や創作を基礎に分類していないのでしょうか。私達はその者が如何に上手に自らを表現するかとか、如何に上手に何かを造り上げるとか振舞うとかによって、その者の知性を査定しているということではないのでしょうか。そしてもしその者が社会の標準に達していない場合、その者はまぬけと呼ばれます。そういう意味では、はるかに整然と結果をもたらしているように見えるこの創造作用は知性を代表する人間を当惑させてはいないのでしょうか。私はそうだと思いますし、私達は先に進むにつれてそのことに気付くことになることでしょうか。全ての創造物を支配する宇宙の法則とともに総体的な宇宙の知性が存在するのです。そしてこの知性は様々な目的の万物の中に自らを体現している為、ひとつの形を持つ必要はありません。そして気体や鉱物の王国の中のすべての創造物は、人間を除いてこの知性に自らを委ねているのです。

#### 【解説】

私達は結局は自然の中で生かされています。毎朝、見上げる青空には様々な形をした雲が湧き、ゆっくりと流れており、川や山等、全てが季節の流れに沿って各々の生命を発現させています。これらの一連の活動が、ある共通の知性の下に動かされているとしたら、その知性は私達がひれ伏す程の偉大な存在であることであることは容易に分かります。

本項はその知性が存在し、しかもそれは全てのものの中にくまなく存在していると述べています。もちろん、浅はかな私達とは比べようもない大きな存在であり、ガス状の分子・原子達はその知性に従って創造活動に参画しているという訳です。

これら全てのものが頼りにしている知的な存在に私達人間もいち早く気づき、そこから惜しみなく与えられるアドバイスに喜んで従うことがポイントとなります。人間の世界にはこれまで人間が作り上げてしまった諸々の問題もあるでしょうし、過失による償いが必要とされているケースもあるかも知れません。しかし、多くの問題を抱えている私達にとって必要なことは、青空の下、次々に真っ白い雲が湧き上がる様を見上げる中で、私達がこれら美しい環境の中に置かれ、他のもの達に役立つよう、各々の才能を発揮することが望まれていることに気付くことです。

158 We have the evidence that all matter that does lend itself, is in a constant state of existence. And is everlastingly being refined into a higher state of expression or service to all parts, fulfilling the Cosmic Purpose. We know this to be true for the earth made of matter has existed for billions of years and has gone through many changes. Yet human civilizations have come and gone. One continues under the will of a creator, while the other ends through the will of the mind. This does not mean that the matter of which man is made ends. Nor does it mean that the consciousness ends. But the ego mind has an end when it insists on acting independent of the Cosmic Intelligence. For the only things that continue on are Cosmic Consciousness and matter, through the process of constant action and newness.

158 私達には自らを貸し与えているすべての物質が常に変わらぬ生存状態にある証拠があります。そしてそれは宇宙的目的を成就する為、より高い表現状態やすべての部分に奉仕する中で、永続的に洗練されているのです。物質から出来た地球が何十億年も存在し、多くの変化を経て来たことにより、私達はこれが真実であることを知っています。しかし、人類の文明はこの間、去来して来ました。ある文明は創造主の意志の下、続きましたが、他は心の意志を経た結果、終わっています。このことは人間を作っている物質が終りになるということの意味するものではありません。また、その意識が終ることを意味するものでもないのです。エゴの心が宇宙的英知から独立して行動することを主張する時、終末を迎えるのです。何故なら、永続する唯一のものは永続的な活動と新鮮さの過程を通じた宇宙意識と物質であるからです。

#### 【解説】

私と同様、本講座を学ばれている方は、本項で言う「心」を本来の有り方に改めて行こうと決心されている方だと思います。問題は本項で指摘する心の離反問題がどの程度のことを言っているのかということかと思っています。一人一人の人間は、その生涯はとりあえずは一定程度、有限であり、その与えられた期間で期待された成果が得られなければ消滅することは止むを得ないということでしょう。

一方で、文明が存続できるか否かについては、個人の問題を超えたはるかに大きな問題です。本項はかつての古代文明、ムーやアトランティスが高度に文明を発展させた後、この心の問題が主因となって滅びたとしています。

そういう意味では、昨今の世の中は次第に世情は悪質になり、他人を利用し、騙して利益を得ようとするような風潮も見られるようになりました。これらは厳しさを増す経済情勢も要因ではあるものの、結局は心（マインド）の問題に帰着するものと言えます。

この文明を本来の道を進めるよう、各自が出来ることを行動することが大切です。それは具体的な行動でなくても、想念のレベルの支援でも十分効果を持つものと考えます。私達は常に援助の手を差し伸べてくれる意識と私達の想念に呼応する分子・原子達と一緒に生活して行くことを考えれば、それはほんの少しの心の転換で始められることでもあると本項は教えています。

159 Yet even the human form has evolved because matter lends itself unto the Cosmic Will and keeps progressing. And the matter of which the human form is made has a certain influence upon the mind or ego. So the mind has progressed also to a small degree. Not because of its own will but because of the part that the body intelligence plays upon it.

159 しかもこの人体ですら、物質が自らを宇宙の意志に委ね、進歩を続けているが故に進歩して来ました。そして人体を構成する物質が心或いはエゴに幾分かの影響を与えています。その為、心もまた、わずかながら進歩してきました。心自身の意志の故でなく、肉体の知性が作用する部分の故にです。

### 【解説】

地球人の祖先が何処から来たのかは知りませんが、私達の人体自身もその構成成分自体が進化している為に、その恩恵を受けているという訳です。確かに人間の寿命も伸びていますし、人々の顔付きも昔の人間と比べて進化しているように思えます。また、ダーウィンの進化論のように、必要性に対応した進化というものも人間に起こっているのかも知れません。

しかし、より重要な点は、これら物質上はゆるやかなりとも進化の道を歩んでいるのに対し、心の状態は古来と大差はない、或いは逆に低下しているのかも知れないのです。ほんの些細な事柄に怒りを覚えたり、他人を騙したりする事例は、近年増える傾向にあることは残念なことです。手にした科学技術に相応しい知性を持たないことが最大の課題なのです。各地で起こる戦闘行為ほど、この問題を反映しているものはありません。

状況を打開する為には、各自が自らの心の状態を冷静に評価して、この心の訓練、開発にいそしむことが重要です。

160 i.e. Scientists have recently discovered that the memory of life's experiences are recorded within each molecule within the cells of a form. And each form of man is made of trillions of cells. And each cell in turn is made of thousands of molecules which carry a memory pattern of past and present action and a pattern for future action. These molecules are grouped for service to the many parts of the body according to the function of the part but all are interrelated. They not only carry the memory of the progress that an individual form and mind has made, but also the progress of all matter from the lowest conceivable stage to the present. This could be called the foundation of form growth guided by the memory molecules known as consciousness. This gives us a clue how a consciously alerted person who has learned to submit his critical mind to the obedience of conscious impressions that are given steadily by the molecules, can receive much information.

160 即ち、科学者は生命における体験の記憶はその身体の細胞内に記録されることを最近発見しています。そして人体は何兆もの細胞からなっているのです。そして個々の細胞は過去と現在の行動や未来の行動に関する記憶パターンとを運ぶ何千もの分子から構成されています。これらの分子群は肉体の多くの部分の機能に応じて各部に奉仕するようグループ化されていますが、皆相互に関連しています。それらは個々の肉体や心が成した進歩の記憶だけでなく、認識できる最も低次の段階から今日にいたるまでの全ての物質の進歩をも運んでいます。これは一つの意識として知られる記憶分子達に導かれた形有るものの成長の土台と呼ばれるべきものです。これは意識的に警戒状態にある人がこれら分子達によって絶えず与えられている意識的印象に自身の批判的な心を解き放つことによって、如何に多くの情報を得られるかがカギとなっています。

#### 【解説】

おそらく本項はこの一連の講座の中で最も重要なポイントの一つになるものと思われます。

私達が何故恵まれているかと言えば、各自を生かし支えてくれる人体の細胞自体が知性を持ち、記憶を運び、絶えず進化する道を歩んでいる中で、その身体を任されているからです。人体の細胞とそれを構成する分子・原子が太古に及ぶ記憶を有しており、私達はそれらの知識を所蔵した図書館を携行しているようなものです。

この記憶分子 (the memory molecules) について、本項では具体的には明かされていませんが、今日的にはDNAを中心とする遺伝情報を運ぶ分子群のことを示すものと思われます。

もちろん、私達の日常は人間が作り出した様々な問題があり、蒔いた種を刈り取るように私達はそれらを解決して行かねばなりません。それでも容易に解決を見ないからと言って、悲観すべきではありません。大自然は進化発展の途上にあり、私達自身、その大きな流れの中でゆっくりながらも進化はしている訳で、自然の流れに沿うだけでも解決に至る場合も多いように思います。

何よりも重要なことは、各自が自由に出来るこの身体に全ての必要物が備わっていて、私達は只、自らの心を落ち着かせて、細胞や分子原子からのささやきを受け入れることだけで良く、これら全てを与える創造主に感謝することです。まさに「ご自愛」下さいという訳です。

161 We know something about psychometry that permits a person to hold a ring or a watch belonging to another and give the owner a reading. These people have schooled themselves to accept impressions that come, without any feeling of doubt. And these impressions come in vibrations from the molecules that have had the experience.

161 私達はある人物に他の者に属する指輪や腕時計を握らせ、その持ち主にリーディングを与える精神測定（サイコメトリー）について幾分か知っています。これらのことが出来る人々は如何なる疑問の感じを持たずにやって来る印象類を受け入れるよう自分自身を訓練して来ました。そしてこれらの印象はその体験を持った分子から振動としてやって来るのです。

### 【解説】

各自の身の回りのものにも、その人の体験、即ち発した想念や同調した波動が残るという訳です。

その原理は何も神秘的な要素はなく、各原子の持つ波動に組み込まれた後、原子がその後、その振動を持ち運ぶということでしょう。このことは、私達の日常の想念が、周囲の者にも実質的に浸透し、影響を及ぼしていることをも示すものです。

時々刻々、私達がどのような体験を積み重ねているかは、このようにして自分の身体だけでなく、周囲の環境にも影響を及ぼしています。良い想念を抱くことが如何に大切かが分かります。

かつて地球には多くの偉大な魂が人々の救済の為に訪れており、その方々の痕跡は今も各地に残っていると思われます。これら偉大な魂を慕う人々は、それらの教師が残した書や身の回りの物を大切に受け継ぎ、師を懐かしみ、遺志を新たに自覚しようとするでしょう。先々、私達が本項で言う能力を身に付けた時、重要なのは、地球には山とある問題ばかりに志向することではなく、私達の進歩に必要な高次の想念を受け入れることです。

162 We can say that these tiny memory molecules are actually conscious entities capable of maintaining the form and guiding the mind if the ego allows it to do so. They are the knowers of all that has ever been or is. This proves that the human mind once properly schooled can commune with all forms in nature. And mysteries regarding life would not longer prevail. And secrets and guess work would cease to be, for these tiny memory molecules have recorded all action.

162 私達はこれら小さな記憶分子達が実際、形有るものを保ち、もしエゴがそれを許すなら心を導くことができる意識的な実体であると言えます。彼等はかつて存在したあるいは現在存在する全てのものを知る者です。このことは人間の心は一旦適切に訓練されれば、自然にある全ての形有るものと親しく語り合うことが出来ることを意味しています。そうなれば、生命に関する神秘はもはやはびこることはないでしょう。また秘密や憶測の作業は終わりを遂げることでしょう。何故ならこれら小さな記憶分子群は全ての行動を記録しているからです。

### 【解説】

微細で文字通り数え切れない数の分子によって記憶が保存され、運ばれており、それらの分子達と交流することで無尽蔵の知見を得ると本項は伝えています。

これについては、細胞内のDNAという遺伝情報を司る分子は、それを構成するアミノ酸配列によって必要な情報を次の個体あるいは新しい細胞に伝えることは既に私達も知るところとなっています。

しかし、ここでは私自身の現時点でも個人的な発想として、これらDNA等の分子・原子の内、各々の原子核の周りを回る電子の振動に想念波動が作用しているのではないかと考えています。一般に振動は様々な波が合成して作られるように、様々な波動を受け入れることが出来、この電子の波動に時々想念波動が組み込まれるようなイメージを持っている訳です。

以前、時間変動する流速の測定結果をフーリエ解析という手法で解析したことがありますが、変動する現象を様々な波の合成と見立てて各波長毎の大きさをスペクトルとして見る手法を試みた訳です。私達の想念波もこのように、体内の原子の波動に取り込まれ、記憶として原子に運ばれて行くということかと思われます。プラスの想念、マイナスの想念など、様々なパターンを各原子がスペクトルのように記憶して行くということかも知れません。

163 This is the true Cosmic Self. This discovery has been made with the help of our space brothers many years ago, but not until now do our scientists realize its value and potential. And they named it DNA and RNA. Yet the space brothers have been using this knowledge for thousands of years. And they have applied it in their daily life by schooling their minds to be obedient to impressions coming from these memory carriers.

163 これこそが真実の宇宙的自我というものです。その発見は何年も前に宇宙兄弟達の支援によって成されましたが、最近まで私達の科学者達はその価値と潜在能力について認識して来ませんでした。それで科学者達はそれをDNAやRNAと名付けました。しかし、宇宙兄弟達は何千年もの間、この知識を活用し続けています。そして彼等はこれら記憶の運び手からやって来る印象類に従うよう自らの心を訓練することによって自分達の日常生活にそれを応用して来たのです。

### 【解説】

多くの方がご存知のようにDNAが二重ラセンの構造であることは1953年米国で発見されましたが、その発見に宇宙兄弟達の援助があったと本項は明かしています。今日では個人を特定出来る程、DNA分子の解析技術も高まって来ましたが、これらDNA分子に私達の想念体験が記憶されるというレベルまでには、私達の科学レベルは到達していません。

しかし、本項にあるように、他惑星人がその発見を支援したのは、それだけの理由があったことに私達は気付く必要があります。

即ち、電気が私達の生活に無くてはならない要素であるのと同様、これら微細な分子達と意思を交流することが、これからの私達の進化の拠り所になるということを、本項は示唆しているのです。

これから私達が相手にしなければならないのは、顕微鏡でも見る事が出来ない微小なる英知集団と印象を通じて交流することだと本項は説いており、その為の心の態勢を整えること、妙なる印象に気付くよう、自らの身体内で日々活動するこれら微細なる英知者に対して心を鋭敏にすることが重要となっています。

164 DNA according to scientists is a master blue print which carries instructions of life. And anyone who has given thought to the creation of form life, whether of man or an insect, must admit that there is some kind of intelligence that directs the structure of the form. As there are no two identical forms, this suggests that there are minor changes in each case. And that the matter which is used in making the form must have a certain kind of intelligence in order to receive directions.

164 科学者達によればDNAは生命の指令を運ぶ設計原図であるとのこと。そして人間であれ昆虫であれ、生命体の創造に考えを寄せた者は誰でもその形ある者の構造を指揮するある種の知性が存在することを認めなければならないでしょう。また、全く同一な形が無い以上、各々の場合においてわずかな変化があることが分かります。そして形有るものを造る中で用いられた物質もまた、指示を受ける為にある種の知性を持っている必要があるのです。

### 【解説】

今日では、このDNAと称される遺伝情報を司る分子が、あらゆる生命体の細胞中であって、その生きものの再生や分化を支配していることは、広く知られるようになりました。

一方で、分子生物学の発達により、生物種の分類手法にも遺伝子解析技術として活用されるようになったり、特定の条件に強い作物の品種改良にも用いられているようです。このように現状の私達地球人は自らの都合の良いように、他の生命体を利用することのみに関心を持っている訳で、何とも利己的な存在であることが分かります。

本来、あらゆる生きものに共通の遺伝分子が存在すること自体、驚異的な事実であり、私達はこのことの意味を深く考える必要があります。また、よく言われることに、この遺伝情報のお蔭で、親子が良く似ることも実感する所です。

例えば、このこと一つをとっても、聖書に言うように、神の似姿を持つものとして人間が創造されたとされていますが、そもそも私達はDNAを創造主から授かり、似姿となっている訳で、自らの姿に似た要素を多く持つ人間に対して、創造主は愛らしく思う筈です。

既に私達の体内隅々に必要な知識は備わっていることになれば、後はじっくりその内容を噛みしめて与えられた恩恵に感謝しつつ、期待の行動をとるだけということになります。

165 In the study of life, on other planets, half of the DNA would be considered the feminine part, and the other half the masculine. And there is constant relationship going on between the two parts which produces the messenger called RNA. And this carries the information of heredity or specific instructions, depending upon the type of a form. And as you can now see, there is a trinity involved. Two phases of DNA and one of RNA. You can also see that the two parts of DNA manufacture the RNA with a specific message.

165 他の惑星における生命の学習では、DNAの半分は女性部分、残りの半分は男性部分と考えられていることでしょう。そして、それら二つの間にはRNAと呼ばれるメッセンジャーを造り出す不断の関係があります。また、これ（メッセンジャー）は生命体のタイプによって異なる遺伝の情報や個別の指令を運びます。そうすると、既にお分かりのように、三位一体がそこに関連されています。DNAの二つの側面と一つのRNAです。そしてあなたは、二つのDNAの部分が特定のメッセージを携えたRNAを造り出していることも見るすることができます。

### 【解説】

本項から、当時既に著者はDNA分子の作用と構造について相当の知識を有していたことが分かります。もちろん、その背景にはこれまで述べられて来たようにDNA分子の持つ重要性について他惑星では良く知られており、更に深く日常的な概念の中に生かされていたことがあります。

私達はDNAの二重らせん構造を単に形のユニークさとしか見ませんでした。他惑星人はこれを男性面と女性面の融合と見ていると本項では解説しています。丁度、日本神道のしめ縄のように複数の要素が密接に絡み合った姿は宇宙における普遍的なシンボルなのかも知れません。

問題はこれらDNA分子が単に新しい個体の誕生に関わっていることのみでなく、日々の記憶までも次なる個体に脈々と伝えているということです。いわゆる民族性その他の特質もこのような要因から確立してくるかも知れません。

しかし、所詮は地球人の歴史の範囲内では、ともに大同小異のレベルであることは間違えありません。私達は必ずしも自らの過去の体験に頼る必要はなく、積極的に新しいアイデア、新しい世界にこそ活路を見出す必要があるように思っています。

166 Protons in a form are very important for the creation of a messenger. The germ called E in science, or COLI flourishes in the intestinal tract of any form, and is referred to as ribson. As every form must feed on something, the food must be converted into protons and other needs. The whole procedure is chemical, and apparently according to science, the ribson acts as a universal translator.

166 メッセンジャーを造り出すのにその生物体の中の蛋白質が大変重要になります。科学でE或いはC O L I と呼ばれる細菌（訳者注："Escherichia coli"、略称"E.coli"と呼ばれている"大腸菌"のこと）はどのような生物体でも腸管に繁殖し、リボゾームに関連し言及されています。あらゆる生物体は何らかのものを食する必要があり、食物は蛋白質やその他の必要物に転換されなければなりません。すべての手順は化学的であり、科学によればそのリボゾームは普遍的な翻訳者として活動しているとされています。

（訳者注：原文の"Protons"は"Proteins(蛋白質)"、原文の"ribson"は"ribosome (リボゾーム)"の綴り誤記と解釈しています）

### 【解説】

本項の内容について、私自身十分な知見を持っていませんが、実際、細胞の合成には蛋白質が必要であることと、その蛋白質自身が様々な機能を持っていることが重要だということでしょう。また、一般には糞便中の主要細菌として嫌われる大腸菌ですが、腸の中では食物を分解し蛋白質を合成する際の重要な機能を果たしていると指摘しています。つまりは、これまで単に余剰の摂取物を分解しているだけの存在とされて来た大腸菌が大きな役割を果たしているという興味深い指摘を行っています。

これら一連の蛋白質の合成はリボゾームと呼ばれる細胞内の部位で行われる訳ですが、本項はDNAから発せられた伝令が具体的な創造作用を指揮する部分に働きかけ、それを実現させる仕組みについて解説しています。

このように様々な活動が私達の細胞に刻々起こっており、私達に静止という状態は無いという訳です。

167 Cells in a form are grouped for specific purposes. i.e. The cells used to make a heart could not be used to make a brain, etc. But each group is in harmony with the others to produce a manifestation of a perfect form for a specific purpose.

167 体内の細胞達は特定の目的毎にグループ化されています。即ち、心臓を造り上げる細胞達は脳やその他を造るのに用いられることはありません。しかし、各々のグループは特定の目的の為、完全なる肉体を現出させる為に、他と調和しています。

### 【解説】

これまでは、全ての生きもの、あらゆる細胞に共通する仕組みとして、DNAその他の基本的な要素について説明されて来ました。しかし、全ての細胞が全く同じになってしまったら、生きものは皆、単なる細胞の塊にしかなり得ません。そこには細胞の分化が起こり、個別の諸器官が形成されることで複雑な生命体の構造が成立します。

細胞レベルについては、各器官毎にその機能に合った特有の形や構造になっている訳です。各細胞は与えられた指令に忠実であり、自分の任務を果たしているという訳です。

重要な点は、身体を構成する器官毎に細胞は異なる形態になっていますが、それだからと言って各器官が他の器官と全く交流なく存続することはないということです。場所も異なり、形や機能も違う存在ではありますが、一つの生命体を維持する為には、これらの諸器官が文字通り有機的に調和しなければなりません。更に言えば、遠く離れた他の生命体も、その源となる細胞や原子に視点を戻せば、皆相互に関連し合うという言わば兄弟姉妹の関係にあることが分かります。私達は万物の一体感が湧く根本的な原因についても深く学ぶ必要があるのです。

168 I use this portion of scientific discovery in relation to memory and heredity to show that this type of intelligence operates independent of the mind. But the mind must learn about it in order to cooperate. And in this way the mind will know what has transpired in the past and what is taking place in the present.

168 私は記憶と承継に関係するこの部分の科学的発見をこの種の知性が心とは独立して作用していることを示す為に用いました。しかし、心は協力する為にはそのことを学ばなければなりません。そしてこのようにして、心は過去に何が起ったのか、現在何が起っているのかを知ることでしょう。

### 【解説】

正確なところはよく分かりませんが、私達の心は記憶に関して、極めて貧弱な能力しかないことは確かです。まして何年、何十年も前の記憶は曖昧となります。その為、私達は文字で記憶を残そうとする訳ですが、その記録の保存継承も容易なことではなく、事実、多くの史実さえ年月の経過とともに忘れ去られてしまうのです。

しかし、本項で言う、いわば宇宙的記憶は脈々と分子・原子に受け継がれ、次々に新しい事象や想念が記憶されて行く訳ですから、そこに近づくことが出来れば一瞬にしてこれまでの歴史を知り得ることになります。

その為には、本文にあるように、心が自ら進んでこれら記憶分子を受け入れ、同調することが必要です。既に自身の身体の中に60兆もの細胞があり、それら一つ一つの記憶分子が膨大な知識を持っているとすれば、後は自らの内側にあるこれら無尽蔵の図書館から必要な知識を得るだけのことです。その為に必要なことは自身の心を調教することだと本項は説いています。

169 Now let me describe what I have seen on instruments and diagrams that the space people study on this subject. Their method is simplified and easier to understand than the way our scientists are presenting their findings. As an illustration let us use two parallel lines, one white, the other black. One is masculine and the other feminine and at certain intervals they cross each other in the form of a figure 8. And they are constantly active. Within the figure 8 they produce from seven to nine different combinations depending upon the purpose. After reaching nine such loops the messenger is born with a specific message. And it carries the blue print of what the next step is going to be but it does not separate itself from the past. This is where the memory is carried on. And memory is the only part of man or any form that becomes eternal. For as we know, man is not a man without a memory. And you can see that by this process the memory of the past is steadily connected with the experiences of the present. And all of this takes place independent of the world of man.

169 ここで宇宙人がこのテーマについて学ぶ際の装置や図表について私が見たものを説明したいと思います。彼等の方法は私達の科学者達はその発見を発表するやり方より、単純化され平易です。実例として2本の平行線を用います。一方は白、他方は黒とします。一つは男性、もう一つは女性であり、ある時間間隔でそれらは8の字の形に交わります。またそれらは絶えず活動的です。その8の字の形でいる間に、それらは目的に応じて7~9の異なる結合を作り出します。そのような9種の輪が出来た後、ある特定の伝言を携えたメッセンジャーが誕生します。そしてそれは次の段階は何が為されるかの青写真を携えています。それは過去から分離したものとはなっていません。ここが記憶が受け継がれる場所であるからです。そして記憶こそが人間であれ、いかなる形有るものが永続する唯一の部分です。何故なら私達は人間は記憶無くして人間ではないことを知っています。これで皆さんは、この過程により過去に対する記憶は現在の体験と常に繋がっていることが分かるでしょう。そしてこの全ては人間の世界とは独立して起っているのです。

### 【解説】

本項では具体的に著者がDNAに関して他惑星人から受けた説明の内容が明かされています。光学顕微鏡では見えない分子の世界を他惑星人は詳細に把握し、活動状況を理解しているようです。本文中にも7~9パターン等、具体的な数値が示されています。これについては、現在地球の科学レベルでは、DNAから作られるRNAを、「メッセンジャーRNA」、「トランスファーRNA」、「リボソームRNA」、「ノンコーディングRNA」等と分類していることと関連するのもかも知れません。

私自身、この分野の現状の研究レベルは知りませんが、このような分子レベルの活動描写は、今後の研究にも大いに参考になるものと思われます。

また、注目すべきは、DNAからメッセンジャー(RNA)が誕生する過程で、記憶が伝達されると説かれていることです。日々の記憶や印象がこれらメッセンジャー分子によって継承されて行くことが大切なところです。遺伝分子の中に脈々と記憶が伝わって行く仕組みは、実に良く出来ています。創造主の御業は実に緻密で無駄がありません。

170 This is the reason that the Will of man must will itself to the Will of this process if it is to know what it has been and its reason for being. We bring this to you in relation to our present science which is only on the brink of this knowledge. And as stated before, the space people have known and used it for thousands of years. And if man is ever to know his true self, this knowledge is very essential. For within it lies the absolute certainty of life.

170 これが人間が過去どうであったか、またその存在の理由を知りたいとするならば、人間の意志は自らをこの過程の意志に従わせようとしなければなりません。私達はこのことをこの知識のふちにいるだけの私達の現在の科学に関連してあなた方に授けているのです。そして以前述べたように、宇宙人達はこのことを何千年も以前から知っており、活用しています。そしてもし、人間が自分の真の自己を知るのであれば、この知識はとても必須なものです。何故ならその中に生命の絶対的な確実さがあるからです。

### 【解説】

これらいわゆる遺伝分子の知識ことが、本質的なものであり、私達はこれら微小なる存在者の助けを借りなければ真の自己と自らの存在の目的を学ぶことは出来ないと説かれています。

このことは、一方では私達は既にその学ぶべき教材資料も、またその手段も60兆個もの図書館という膨大な資産が与えられ、それらは利用者を待っている訳ですから、実に恵まれた存在と言うことが出来ます。

一方、私達の進路を常に仕切ろうとする心は、本質的には何も学ぶ姿勢は無く、全てを自分の良し悪しの判断で裁定し、浮ついた生活を送るばかりで、その本質に向かおうとする気はありません。

いくら恵まれた身体と言っても、長年、過酷な状況に置かれれば、やがては耐え切れず死を迎えるのが私達の現実です。自らの細胞がささやく助言を承るためには、心自体がそれら生命の深遠者を指導者として仰ぎ、助言を受け入れることから始めなければなりません。数千年を先に行く他惑星人に少しでも近づくと為に、進むべき道程はとても長いのですが、何事も最初の一步が重要なカギになる筈です。

ご連絡 [2012-09-14]

本講座をご覧戴き、ありがとうございます。

都合により、次回の更新は9月19日になりますので、ご了承下さい。

171 We all must admit that as mentalists we know little about what is going on in our bodies. But we do know that a certain kind of knowledge is operating through the body that knows what to do when the mind does not. So the mind has been accepting this on blind faith as an established fact. Yet it is the duty and privilege of the mind to learn all that takes place within the form if it is ever to have a peaceful existence. And thus fulfill the purpose for which it was created and eliminate the conditions brought on by confusion and fear caused by uncertainties. Then the mind would not repeat mistakes as it does today.

171 私達は皆、心至上主義者の私達は自分の身体で何が起っているのかほとんど知らないでいることを認めなければなりません。しかし、私達は心が知らなくても身体を通して何を為すべきかを知っているある種の知識が作用していることは分っているのです。ですから、心はこのことを確立された事実として盲目的信仰の上に受け入れて来たのです。しかし、心が平安な存在であり続けたいのであれば、形有るものの中で起っているすべてを心が学ぶことが心の義務でもあり、また特権でもあるのです。そしてこのようにすることが、その形有るものが創造された目的を成就させ、不安状態による混乱や恐怖によってもたらされた状態を取り除くことになるのです。そうなれば、心は今日のように誤りを繰り返すことはなくなるでしょう。

#### 【解説】

生命の科学は本項に明示されているように、私達が各々自らの身体の働きを自ら知ろうとすること、学ぶことです。科学の実験や研究によって様々な事柄が分かって来ていますが、私達自らがそれを自らの観察や探求によって、何らかの形で知覚することが大事なところです。

それはデータでなく、私達の感覚がそれら微細な活動状況を察知出来ること、更にはこれら小さい英知者と意思の疎通が図れるよう、想念や印象の感性を高めることを必要としています。

古来より、修験者達は山に籠り、これらの能力を高めようと修行して来た訳ですが、今日、本講座を学ぶ私達は生命に関わる科学的手法として、その原理を学び、実生活で応用しようとしています。

これら学習の効用について一つ一つを指摘することは、はばかられますが、私自身の例で言えば、身体がより健康になったり、アイデアが湧くようになったりと、恩恵をより多く受けるようになったことは自信を持って申し上げることが出来ます。

172 You can see that the mind is seldom aware of the conscious intelligent operation within the form. For when we sleep the consciousness operates the form while the mind knows nothing. Thus proving that there is a form of intelligence which never rests. And the mind must unite with this intelligence in order to be the knower. Once this is done man will eliminate all the unpleasant ways of life he now endures. And he will know what goes on in every form known, and its purpose. And divisions will no longer cause mysteries.

172 あなたには心は身体の中の意識的知性活動についてまれにしか気付かないことが分かるでしょう。何故なら、私達が寝ている時も意識は心が何も知らない間にその身体を運営しているからです。このことは決して休むことのないある知性体が存在していることを示しています。そして心を知る者となる為にはこの知性と結びつかなければなりません。ひとたび、これが為されると、人は現在耐えているあらゆる不愉快な人生を取り去ることでしょう。そして全ての形有るものの中で起っていることやその目的を知るでしょう。そうなればもはや分裂が神秘をもたらすようなことはなくなります。

### 【解説】

そもそも創造の初めから今日のような状態にあったかは疑問なところですが。創造主が万物を創造した時には、当然、良い出来栄の作品として創造の作業を完結させた筈です。それは、作品の製作に取り組む芸術家のように脱稿する時は、これで良しと作者が納得したからに他なりません。

しかし、数ある創造物の内、どうやら人間だけがその本来の生き方を歩んでいないことが分かって来ました。その最大の違いが本項にあるように自らの内部の意識ある知性との交流が出来ていないことです。一般には軽く、本能と呼ばれてしまうこの知性は、様々な可能性を本来、人間に与えることが出来るのですが、私達はこれまでそれに気付くことはありませんでした。

おそらくは知恵の木の実を食べたと伝えられるように、人間の心が浅知恵を持つようになり、本来の内部の知性を押しつけて自らを自己の支配者と宣言した時に、この問題の起源があるのかも知れません。

いずれにせよ、誤りは正さなければなりません。私達はこれまでの習慣を捨てて、新たな気持で自身の生命活動の証や他の生きものの生き方を観察し、学ぶことです。毎秒の自身の心臓の鼓動からも、自分が宇宙を貫く生命力に生かされ、一人の構成員として存在していることが分かります。

173 The method that the space people use in working with this great intelligence is, to observe all forms with their consciousness instead of the mind. In plain they become conscious of the form as though they were the form, which they really are for nothing is separated from the whole. And in this way man as a mind blends with the whole

173 この偉大な知性とともに関く上で宇宙人達が用いている方法は、心に代わって意識で全ての形有るものを観察するという事です。平易に言えば、彼等はあたかも彼等がそのものになったかのようにその形あるものを意識するようにするという事であり、実際、彼等はそのもの自身になります。何故なら何物も全体から分離することがないからです。またこのようにして心としての人間は全体と混和するのです。

### 【解説】

この生命の科学学習講座でよく言われる言葉に「意識でものを見る」という表現があります。実はその内容は従来の哲学書や宗教書に無い新しい概念であり、最も重要なところですが、実はあまり解説されて来なかったように思います。

私達はこれまで、心の横暴さ加減や不安定さを解消する為、心をバランスを保つよう訓練することを求めてきました。しかし、それだけでは片手落ちである訳です。他の惑星人達は、心に代わって意識を抛り所として生きていることを本項では明らかにしています。

つまり、これまで私達は目や耳、鼻や舌が訴える声を抛り所としていましたが、これからは意識を頼りに生きて行くべきだということです。即ち、真っ暗な中でも虫達はその長い触角を使って目の前の相手の素性を探るように、私達は意識を積極的に生活に活用しようという訳です。

本項では、その意識の使い方について、先ずは相手に自分の意識を融合して印象を得ることを例として説いています。対象物と一体になることで相手を理解しようとする姿勢は、相手を受け入れる姿勢でもあります。同乗記に記載されているように他惑星人は相手の想念を読み取る能力に優れている訳ですが、それもこの意識を自由に用いることで容易になるものです。長らく地球人には忘れ去られていた意識の存在を知覚することは容易ではありませんが、私達の最終ゴールがそこにあることは間違いありません。

174 There is no specific pattern that can be given by which man must work, as there are no two people alike. So no set formula is given in this course as in others. Just become awakened or aware of the conscious intelligence that is operating within your being. And eventually this will become habitual to the mind's way of thinking. And the mind and the intelligence will become a unit instead of two separate parts as they are today. This is the way the space people have developed and they now can commune with any form without words.

174 人がそれに基づいて取組まなければならないような特定の行動形式というものは授けられるものではありません。二人として同じ人間はいないからです。それ故、この講座においても他と同様、定められた形式は与えられません。只、貴方の中で作用している意識的知性について目覚め、気付くようになることです。そうすれば、遂にはこれが心が考える際の習慣になることでしょう。そして心と知性は今日そうであるような二つの分離した部分から一つの一体物になることでしょう。これが宇宙人達が発達させてきた方法であり、彼等は今やいかなる形有るものとも言葉によらず交流できるようになっているのです。

### 【解説】

一人一人のこれまでの歩みや体験、更には心の傾向（性質）等、皆異なる訳で、その取組み方法について具体的にこうすればという正解はないと本項では断定しています。実はそれ程に私達を苦悩の中から救い上げる仕事は容易でないという訳でしょう。

しかし、逆に言えば、本講座で教えられている事項が拠り所として十分機能出来る内容であり、各自はこれをベースに自分に合った方法で応用すれば良いということになります。

私達地球人を救済すべく、多くの魂が地球を訪れ、同じ真理を伝えた訳ですが、これまでの宗教戦争の歴史を見ても分かるように、自らの主義を唯一のものとして、他を排除する動きに走ってしまう現状では、従来の宗教的アプローチの限界を感じさせます。その点、本講座は科学的アプローチを進めるところが従来と異なる存在であり、他惑星人が与えた新しい時代に相応しいテキストと言えるものと思います。

各自が一生をかけて取り組むに足る内容として、自らの進化、同胞への支援、更には社会の進歩にこの学んでいる知識を生かして行きたいものです。

175 If we are to know what we feel that we should - who we are - and what we have been, then we must use the same method that they have used. There is one thing that we must remember, we cannot judge and divide and discriminate, or resent, according to likes and dislikes and have this knowledge. For once you get impressions coming from the memory buds there will be all kinds. And some you will have a tendency to dislike or even be frightened by them. For remember here on earth there are very low stages of life's manifestation that the ego might not like. But without these manifestations life would not be complete, for all phases are necessary. But once they are understood the judgment against them ceases. Like a drama on the stage where cruelty is resented, yet without it the phases of life would not be truly expressed.

175 もし私達を知るべきだと感じている私達が誰で、また何であったかを知る為には彼等が用いて来たのと同じ方法を用いなければなりません。ここで覚えておかなければならないことは、私達はこの知識を持った上で、好き嫌いによって裁いたり、分割したり、差別したり、腹をたててはならないということです。何故なら、ひとたび記憶の芽からやって来る印象類を捕捉するや、あらゆる種類のものがやって来ます。そしてあるものについては、あなたは嫌う傾向になるでしょうし、恐怖すら覚えることでしょう。何故なら、地球ではエゴが好まないようなとても低い段階の生命の現れがあるからです。しかし、これらの現れが無くては生命は完全にはなりません。全ての側面が必要なのです。しかし、一度それらが理解されれば、それらに対する裁きの気持は消えてしまいます。残忍さに憤りが湧く舞台の上の劇のように、それがなければ生命の側面が真に現されているとは言えないのです。

#### 【解説】

本項を読んで、若い頃、当時或るアダムスキー哲学の学習会で、経験豊かなある年長の方が、テレパシー等のテクニックの訓練に走ることを戒める発現を繰り返されていたことを思い出しました。当時、私にはその本当の意味が理解出来ていなかったのかも知れません。単なる貴重なアドバイスとして心に銘じて置いた訳です。それから40年近く経過して、ようやくその真意が分かった気がします。それが本項に書かれている内容です。

私達は十分な土台が出来ていない内に、技能だけが発育してしまうと折角育てたテレパシー能力を本来の方向に発展させることが出来ず、却って裁きや恐怖が増えてしまうこともあり得るのです。当に知らぬが仏ということでしょう。

しかし、本来の道を歩むとなれば、この地球社会の現実や過去の歩みに目をそむけることは出来ません。その中に誤りを見つけ、求める人達に救いの手を差し伸べることが私達本来の役割です。

一歩進む度に、新たな問題が見え、それを克服する一つ一つの積み重ねが必要だと考えています。

176 It seems cruel to us to see a big fish swallow another, but it is just as cruel to see a man eat a carrot. For it is a living thing made of molecules just as you or I, or the fish. And the memory carriers do have records of all phases of life, from what we might call the cruelest to the highest.

176 大きな魚が他の魚を飲み込むのを見ると残酷に思えますが、それは人間が人参をかじるのを見て残酷と思うのと同じです。何故ならそれはあなたや私、或いは魚と同じ分子群からなる生き物であるからです。そしてその記憶を運び手は私達が最も残酷と呼ぶものから最高位のものまでの生命のあらゆる側面の記録を持っているのです。

### 【解説】

私達生物が生きて行く上で、日々の食物が必要な訳ですが、それを他の生物に依存している中で、本項の内容に気付く人もあるものと思います。自然科学ではこれを物質循環の環として表し、物質（原子）を通じての互いの依存関係を表すことが多いようです。

また、本項で示唆する内容は、東洋的な響きがあるように思います。物質（原子）を通じての記憶の伝達は、輪廻転生にも関連し、死を境とする断絶が存在しないことをも暗示しています。

もちろん、どのような場合も、生命体に対し、私達は最高位の礼を尽くすべきであり、仮にそれらを手を掛けて食とする時も、手を合わせて頂戴したいものです。

最高位の創造物である人間は他の生きもの達の餌となることはありませんが、それほどに他の生きものから世話になるばかりであることを自覚しなければなりません。

普段私達が何気なく行っている食事やその他の行動の中に、この文明の本質的な問題が含まれており、その解決に向けて各自が問題点の整理と考察を行うことが求められています。

177 This is where duality sometimes comes in. For you may love someone dearly and yet you do injury to them. This conflict is caused by memory cells of a lower nature, and those of a higher nature. If we knew something about our self we would combine these memories in relation to each other instead of the extremes with nothing between to support either of them. This lack of understanding is the cause of mysteries and misunderstandings. And when we hurt anyone we hurt ourself for we are all the same. We do this because our mind has not been trained to act as a good catalysis. This can only be done when the mind knows the reason for life.

177 ここが二重性が入り込む所以です。何故ならあなたは誰かを愛おしく愛しているかも知れませんが、それでもあなたはそれらを傷つけるかも知れません。この矛盾は低次な記憶細胞と高次な記憶細胞とによって引き起こされているのです。もし私達が私達自身についてなにがしかを知っていれば、私達はこれらの記憶を相互に補完することなく極端に走ることを止めて互いに関連づけてこれらの記憶を統合させることでしょう。この理解不足こそが神秘と誤解の原因なのです。また、私達が誰かを傷つける時は私達は自らをも傷つけることとなります。何故なら私達はすべて同じ存在だからです。私達の心が良い触媒として行動するよう訓練を受けていないが故に私達はこのようなことを起こしているのです。その心の行動は心が生きて行くことの原因を知るようになる時にはじめて実現することとなります。

#### 【解説】

今回、本項で着目したいのは心を「触媒」と表現している点です。

多くの想念が記憶分子によって個体から個体への受け継がれることを私達はこれまで学んで来ました。そこにはいわゆる高次低次様々なレベルの想念（印象）が含まれる訳です。本項では明言されていませんが、多くの場合がそれらの想念（印象）の出力レベルは（あくまで相対的な意味ですが）、小さいのではないかと思っています。

そのような妙なる想念（印象）を元に、人が行動を起こすに至る出力を持たせる為には、何らかの増幅が必要になることにもなります。その役割を果たすのが「心」ではないかと思う訳です。

心は想念を人の行動にまで増幅する機能がある反面、誤った想念を増幅してしまえば、人体は混乱し、他への悪影響も甚だしいものとなります。そういう意味でもこれら心の反応については、先ずは落ち着かせて、全体のビジョンを見ることからスタートしなければなりません。

178 For if we desire to be as our creator we must face all phases of life without being disturbed. The Creator faces his creation without discrimination. For should he like one and dislike another he would be dividing himself, and thus do no better than man. But all phases of creation are loved by its creator for its purpose is known. It is a human trait to discriminate and through this many hurts are received because the ego mind separates itself from the whole.

178 もし私達が創造主のようになりたいと望むなら、私達は心を乱されることなく生命のあらゆる側面を直視しなければなりません。創造主は自らの創造物を差別なく直視しています。何故ならもし創造主があるものを好み、他のものを嫌うならば、創造主は自らを切り裂くことになり、人間よりましなことができなくなるからです。しかし創造のあらゆる側面はその目的が知られているが故にその創造主によって愛されています。区別するのは人間の特徴であり、エゴの心が自身を全体から分離してしまう為、この過程を通じて多くの痛みを受けることとなります。

### 【解説】

万物・万象の活動を認めるということかと思われます。よく慈悲という表現がありますが、その意図するところは何も、哀れみのみでなく、全てのものを等しく認め、その存在を愛おしむ姿勢があるものと考えます。

一方で私達は何故、このような当たり前とされそうな注意事項が、この場所で述べられているかについて考える必要があるかと思ひます。

とかく観察力や感受性が高まると、それまで観えて来なかった様々な要素も分かってしまうこととなります。観察眼が鋭敏になることで、相手の真意が分かったり、世の中の仕組みが見えてしまったりすることでしょう。

これに対して、一つ一つ非難したり、毛嫌いの気持が湧くことも考えられます。しかし、そのであってはいけないと著者は言及しているのです。仮に現実はそのであって私達は創造主がじっと見守ることを続けるように、裁きを行うことなく、等しく見守ることが大事だと述べている訳です。私達が好き嫌いを基準に個々の事例を裁くことをすれば、それは再び心に判断を委ねることを意味するからです。

ある意味、問題のルツボと化している地球で、より良い生き方を目指すのは容易ではないわけですが、先ずは全てを現実のもの、創造の低次な姿として受け入れ、次にその進化の為に自分は何をすべきかを考えるということでしょう。

ご連絡 [2012-09-28]

いつもご覧戴いている皆様へのご連絡です。

この度、都合により、次回の更新は10月3日以降になりそうです。

また、以降の更新についてもしばらくは不規則になるかと思いますが、ご了承願います。

179 The apple is made of matter and supported by conscious life the same as we are yet it does not scream when we bit into it. Why? Because it does not have the kind of mind that man has, endowed with a free will which is in constant opposition to Cosmic law.

179 りんごは私達と同じ物質から成り立っており、意識ある生命によって支えられていますが、私達が噛み付いても悲鳴を上げることはありません。何故でしょうか？それは人間が持つような、宇宙の法則に常に反対している自由意志を授けられているような心を持っていないからです。

### 【解説】

リンゴは私達人間とは違って、痛みや苦しみに対し、叫びを発するような反応を示さないからといって、人間に比較して鈍感であるとか、知性が無いという話ではありません。

本項で著者が言いたいのは、そのような苦痛を訴える、人間のような意志を持ち合わせていないということです。人間は自分の身を守ることに汲々としており、わずかな痛みも本人の関心を集中させる程です。しかし、リンゴはただ黙って身を任せ、他の生きものに役立つことを良しとしています。

植物一般にそうなのですが、与えられた環境の中で、最大限の努力をし、自らを成長させますが、その成果（果実）は自ら享受することなく、他者に役立つ道を選びます。稔りの時期には人はもとより、鳥や獣等、多くの生きものが植物の実を生きる糧とすべく集まって来ます。奉仕する者の周りに人々が集まるのと似ています。

人も同じこと、人生の稔りの時期を迎えた後は、その成果を多くの人々に分かち与え、やがて寿命を終える時まで、役立つ存在であり続けたいものです。

180 Can a man become immune to pain? Yes, we hear of those who can walk on hot coals without pain. But they have learned how to discipline their mind, and the mind had to be willing in order to be disciplined. This shows that whatever unpleasant conditions the mind faces, it is of its own creation through misapplication of the law. So it behooves the mind to become a willing student of cosmic principle if it is going to enjoy the blessings that life offers. This is where the memories from the past can serve man in recalling values he has gained through experiences he has had.

180 人間は痛みを感じなくなる事が出来るのでしょうか？ もちろんです。私達は痛みを感じることなく、焼けた炭の上を歩ける人々について聞いています。しかし、彼等は彼等の心を如何に訓練するかを学んで来ており、心は訓練されることを喜んで応じなければなりません。このことは、例えどのような不愉快な状況に心が直面しようとも、それは法則の誤用によりそれ自身が造り上げたことを意味しています。ですからもし心が生命が提供する祝福を享受しようとするなら、心は宇宙の諸法則について喜んで学ぶ学生にならなければなりません。ここがこれまで体験を通じて得た貴重なものを人間に思い出させる過去の記憶が役立つところなのです。

### 【解説】

もちろん本項の真意は痛みを克服することにある訳ではありません。確かに苦痛を訴える心に対し、その心の反応を和らげ消すことは可能ですし、バランスのとれた精神状態を維持する為には重要な点です。

しかし、病気を治し痛みを和らげ取り去ることは、いわゆる対症療法であり、限界があるとも言えるでしょう。何よりもそのような不快な状態が起こった原因に遡っての内観が必要であるからです。

私達が目指しているのは、その根本部分であるべきで、膨大な身体維持の作用にも拘らず、そのような事態に至った所に問題の本質があると見るべきでしょう。そういう意味では、苦痛は私達にそのような問題の存在を気付く機会を与えている訳で、私達はその苦痛に甘んじ、その場から何がしかのポイントを掴む気概も必要です。転んでもただでは起きないの心境でしょうか。

その上で心が謙虚になり、意識に耳を傾けるようになれば、本項で書かれているように、分子原子達が保持している宇宙創生以来の過去の記憶にもアクセス出来るようになると、著者は述べているのです。

181 We are actually living in an invisible sea of life. And as I have said before, we should school ourselves to become aware of the visible and invisible at the same time. For today we are only mentally aware of the visible forms with which we have contact. Yet all forms rise from the lowest upwards, looking so to speak into invisible space. And why should this be so? Does not all creation look to its creator as a child looks to the mother for guidance? And as space is the birthplace of all forms, they look to and live within the household of their birth.

## 生命の科学学習コース

### 第5課

#### 意識、即ち全生命の知性と力

181 私達は実際には生命の目に見えない海の中で生きています。そして以前にも述べたように、私達は私達自身を目に見えるものと見えないものとを同時に気付くように訓練すべきなのです。何故なら今日、私達は私達が接する目に見える形あるものだけに気付いているからです。しかし、すべての形有るものは最下位から上部を目指して、言わば目に見えない宇宙に向けて昇っています。そして何故、このようなことが起るのでしょうか？全ての創造物は丁度、子供が母親に導きを求めるように、創造主を求めているのではないのでしょうか。そして宇宙は全ての形有るものの生誕の地であり、それらの生まれた家庭を見つめその中で生きています。

#### 【解説】

第5課からは本講座で着目している意識についての解説が為されます。

私達はとかく目の前の現象に目を奪われがちで、多くは混乱した毎日を送っています。この状況を改善する為にはこれまで繰り返し述べられて来たように心をコントロールする必要があります。しかしそれだけでなく、意識そのものについて理解を深めることがそれ以上に重要となります。

その意識に対する正しい姿勢について、著者は幼子が母親を頼りにするような態度であれと指導しています。全ての創造の知識を内在し、全ての創造物を指導する存在に対し、つつしみ敬う気持は当然と言えます。

その上で、私達は各自の体験から、意識が私達を常に見守り、また惜しみなく助けてくれていることを実感しなければなりません。一つ一つの個人的体験を経て、私達は意識への信頼を増すことになれば、その人の進歩は顕著なものになるものと思われれます。

182 Living as we do, guiding ourselves by other effect no different than ourselves, we remain close to the form life of earth. Which is in itself only an expression from its lowest state of awareness.

182 私達は自分達と何ら変わらない他の結果物に頼って自らを導いて生活している以上、地上の生物体に近いまま留まっています。それらはそれ自身、悟りの最も低位な状態から来る表現でしかありません。

### 【解説】

本項は私達が意識に向き合う際の基本的な姿勢を説いていると言えるでしょう。

私達はこれまで結果の世界に生きて来たと言われて来ました。私達は自身の相談相手を自分と同類の人間に、或いは財産等を頼りとして生きてきたのです。

しかし、その結果はどうでしょうか。信じた相手は私達と同様のレベルの人間である以上、不安定であり、時の経過と共に不仲になったり、利害で対立することも有り得るのです。また財産にしても経済情勢の変化の前に、所定の価値を保ち続けることは困難なのです。

その結果、私達は頼れる存在を求めて右往左往しているのではないのでしょうか。

本項はそれらの状況について、私達が形を求めるあまり、結果の世界に埋没していることを戒めています。そのような変化する対象ではなく、恒久的に存在価値が不変な高次なる存在にこそ、根本を置けと述べているのです。

183 Even some marine life strives to see the light above the water. And the liquid of water would not be if it were not for the essence of hydrogen and oxygen which are invisible. In this invisible state the prime of life cannot be seen with the sense of sight of the human mind. But it can be known to the mind through consciousness. For consciousness is the intelligence and power that is independent of the forms, yet it activates all forms when it acts through them. Consciousness knows no light or darkness as man classifies these frequencies. Nor does it know good or bad for these are classifications of the mind through misapplication of the law.

183 ある種の海洋生物でさえ水面上の光を見ようと努力します。また液体である水は目に見えない水素と酸素の基本化合物が無ければ存在しないでしょう。この目に見えない状態の中では生命の本源は人間の心の視覚では見ることは出来ません。しかし、意識を通じて心に知られることは可能です。何故なら意識は形有るものから独立している知性であり力であり、それを通じて働く全てのものを活性化するからです。意識は人がこれらの振動を分類するように光とか闇とかを区別することはありません。また、善悪も知ることはありません。これらは法則の誤用を通じた心の分類だからです。

### 【解説】

若い頃の職場の上司が居を移している関係で、何度となく伊豆七島の三宅島に行ったことがあります。その三宅島からの帰りの船ではよく海を眺めてひと時を過ごすのですが、ある時、船の前方の水面の上をトビウオが滑空するのを目撃しました。本項の冒頭はそのような海の中に生きるもの達が空に憧れる振舞いを称しているのです。

同様に、私達人間も本来は地上に生きるものですが、空や宇宙に多くの人達が関心を持ち、星やオーロラに憧れを持つということがあります。その本当の意味は私達がより高次元な存在、目に見える存在を超えた所を志向しているからかも知れません。

著者はまた、このように目に見えない知性の存在は地上の全ての物質・物体を構成している元素についても同様であり、それらも目には見えないものだと説いています。

私達が第5課で取り組もうとしているのは、意識と呼ばれる物質の指導者が行なっている統合させる力の存在に気付くことです。善悪の裁きや恐怖で毎日を送るレベルから少しでも抜け出して、他の生きもの達が頼りとしている意識の存在をどうにか知覚出来るように努力する姿は、水面を滑空するトビウオに似ていると言えるようです。

184 No form or mind can live independent of consciousness. For outside of it, if there were any, would be absolute nothingness. So it is up to man to strive to have his mind listen to the teacher, the parent of all creation.

184 如何なる形有るものも、また心も意識と独立して生きることは出来ません。何故なら、その外側というものがもしあったとしても、そこは、絶対的な無であろうだからです。ですから、自らの心をすべての創造物の教師、両親に耳を傾けさせようと努力することが人間の義務なのです。

### 【解説】

確かに私達の心は自分の身体を丁度、自動車を運転するように自由に操ることが出来ます。しかし、そのドライバーのほとんどが単にアクセルとブレーキの操作が出来るというだけで、自動車の各部品がどのように機能し、エンジンが作動して具体的な動きに繋がっているかは知る由もありません。

私達の身体も同じこと。これを支えているのは私達の心ではありません。その心なるものはわずかな記憶でさえ、持ち合わせていないことが分かります。老化が進み、心が少しでも衰えると少し前の事柄も覚えていことが出来なくなることは良く知る通りです。

結局、心自体は大した能力も無いことを自覚することから始める必要があります。その上で、万物を支える意識の存在を頼りにすること、それを信頼することから始める必要がある訳です。自分の中にあるその全知性に全信頼を寄せること、創造主が授けるヒントを受け入れようとするオープンな姿勢がまず必要ということです。

185 Let us now place the mind in relationship to consciousness as an observer of conscious action. And for this the shore of the ocean can be used as an example. For as we gaze out over the vast stretches of water we know that there is untold life within its body. So let us become consciously aware of the activity that is taking place within its depths that the sense mind does not see. We should now become consciously aware through impressions of the many active forms and see those as small as a grain of sand searching the bottom of the ocean for food. And millions of kinds of form life from the bottom to the surface doing the same thing. Some never rise from the bottom to see the light near the surface, while others do.

185 それでは意識に関連して心を意識的活動の観察者の立場に置いてみましょう。そしてこの為には、例として大洋の岸辺を用いることが出来ます。何故なら、私達が水の広大な広がりの方を見つめる時、私達はその中に人知れぬ生命があることを知っているからです。ですから感覚の心が見ることのない海中深く起っている活動について意識的に気付くようになりましょう。私達は今や、多くの活動する形有るものの印象を通じて意識的に気付くよう、また大洋の底を食物を探している砂粒ほどの生き物を見るようにならなければなりません。しかも海底から水面まで何百万もの種類の生命が同様なことを行っています。あるものは決して水面近くの光を見る為に海底から浮かび上がることはありませんが、そうするものもいます。

#### 【解説】

日常生活の慌しさの中で、私達はとにかく意識的知覚状態を維持して行くことは難しいものです。しかし、それに取り組まなければこの講座の意味も単に他人の話であったり、単なる理論に終わってしまいます。

本項では具体的に私達が為すべきことは、まず第一に意識的行動の観察者になれと説いています。視覚や聴覚が教えてくれない現象の背後に生き生きと活動する多くの生き物の諸活動に気付くようになれば、それは自身の意識を使い始めているということだと説いているものと思われます。

使い始めなければその先には行けない訳で、まずはご自身の意識の膨大な力量を信頼して、意識の活動を良く観察し、自らの生き方を任せるようになれば素晴らしいことです。

海を眺めることは好きですが、その絶え間ない波の動きの不思議と共に海中に生きる無数の生物と意識を通わせるような時間を持つことが大事だとも言えます。

186 The whale, although there are others, masters the pressures and elements of the sea, for it is able to go to great depths yet it can swim on the surface of the water and partake of the invisible gases from space that enshroud the earth. And there are some like the flying fish that leave the liquids for an experience in the sea of gases. Thus they have experience in two different kingdoms. The liquid of the water and the gases of which the liquid it made.

186 クジラは、他の者もいますが、海の様々な圧力や要素をマスターしています。何故なら海中深くまで潜ることが出来ますし、水面付近で泳ぎ地球を覆っている宇宙から目に見えないガス類を取り込むことが出来るからです。そしてトビウオのようにガスの海での体験を求めて液体を離れる者もいます。そのようにして彼等は二つの異なる王国での体験を持つのです。液体としての水とその液体を造ったガスの二つです。

### 【解説】

心が自分の殻に閉じこもっていようとすれば、半ば永遠に外の素晴らしい世界を知らないまま生涯を終わることにもなりかねません。私達は本来の可能性を引き出す為にも、努めて印象が行き来する、いわゆる因の世界を知るようにしなければなりません。

しかし、これは決して従来の「霊界」とか「心霊」のような神秘・オカルトの世界を指すものではありません。その辺の識別が大事な所なのですが、ポイントは決して他人の言う事柄をそのまま信じるのではなく、自分の体験を通じて、印象の感受とその応用姿勢について自ら自分のやり方を作り出すことだと考えています。

つまり、ご自身で何か「印象に基づいて行動する」とはこういう心持ちの時であったとか、その時の心はどうであったかを、しっかり覚えておき、同様な心境を持ち続けよう、印象に対する受容的姿勢を維持しようとする事が重要です。

その上で少しでも本講座で言う、「意識に対する知覚力」を持てれば、従来、自分の心が暮らしていた世界の他に、同時により高次な世界が並存することを垣間見ることが出来るかも知れません。丁度、クジラやシャチが海中を住処としていても、その海は大気に囲まれ、上には別の世界が広がっていることを確認するようなものです。

187 Man should become aware of living two different experiences at the same time, for he is living on top of the earth of three dimensions, yet depending and living in the fourth dimension. For from the crust of the earth towards the sky is the invisible fourth dimension which we call space. Outside of it we could not live any more than the fish that cannot live out of the water. No form could live without the support of the fourth dimension for it is the air which we call atmosphere in which earth forms live and breath. And if it were withdrawn no form could live, not even the earth.

187 人は同時に二つの異なる体験を生きていることに気付くべきです。何故なら人は3次元である地上の頂上に生き、かつ4次元に依存しその中で生きているからです。地上の塊から大空に向かって私達が宇宙と呼ぶ目に見えない4次元が広がっています。魚が水無しでは生きて行けないのと同様、私達はその外側では生きて行けません。如何なる形有るものも4次元の支援が無ければ生きられません。何故なら地上の形有るものが生き、呼吸する私達が大气と呼ぶ空気が無ければ如何なるものも生きては行けないからです。そしてもし、大気が取り去られたら、如何なるもの、地球でさえも生きることはできません。

### 【解説】

実際には私達は宇宙に包まれた存在であることを自覚する必要があります。私達を包む空間こそ、意識の世界だと本項は説いています。つまりは、日常的には私達は三次元世界に生きていますが、実はそれを包むように意識が支えている領域があり、そのお蔭で私達が生存するとしています。

これが、私達が自然と天空に憧れ、星々を眺める真の原因となっているのかも知れません。普段の生活を行ないながら、実は別の世界のこと意識しているということになることを、本項は示唆しています。

その為には、意識からのささやきに絶えずアンテナを張って、もらさず聴こうとすることや、その意識の印象のレベルと比較して日常の心のありようがそれで良いかを絶えずチェックすることが特に重要となるでしょう。

地球自体も含めて、あらゆるものを支える意識の力は、私達の想像を超える英知であり、それに触れることは、本人の劇的な進化を意味することでしょう。「2001年宇宙の旅」の中の原人達のように、意識が導く未来は大いなるものがあると期待できます。

188 Man's troubles begin in the fourth dimension. For he as a sense mind operates in the three dimensions, an effect of the cause. So he gives much time to the world of effects and understands it fairly well. But he has trouble associating the invisible world around him with the world in which he lives. And when he uses his mind instead of his consciousness to try and understand the fourth dimension, he becomes confused. And the great difference which exists in the invisible fourth dimension which is cause, makes it still harder for him to understand, as he has been taught in the three dimensions for centuries. Even the ancients did not understand the fourth dimension, for had they done so they would not have divided heaven and earth. Or cause and effect.

188 人間の諸問題は4次元で起ります。何故なら、感覚の心としての人は原因の一結果である三次元で働いているからです。その為、人は結果の世界に多くの時間を費やしており、その世界をかなり良く理解しています。しかし、人は自分が住む世界と自分の回りの目に見えない世界に関しては悩みを持っているのです。そして人が4次元を理解しようとする時、自らの意識を使う代わりに心を使う為、混乱するようになるのです。そして因である目に見えない4次元に存在する大きな違いは更に理解を難しくしています。何世紀もの間、人は3次元世界の中で教えられて来たからです。古代人達も4次元を理解していませんでした。もし理解していたら、彼等は天と地、あるいは原因と結果に分割しなかったであろうからです。

#### 【解説】

以前聞いたウエイン・ダイヤーの講演CDの中に「貴方の悩みは何処にあるのか」というような発言があったように記憶しています。「物質世界の何処にも貴方の悩みは無く、悩んでいるのは貴方の心だけだ」というような主旨の説教であったかと思えます。

私達の問題は、外の世界にではなく、自身の心の中にのみ存在するということでしょう。

その問題の出所は、私達の心が本質の意味を把握出来ないままに、混乱しているということですが、更に遡れば、本章（第5課）で言う四次元世界を理解できていないことだと本項は説いています。私達が心を用いて様々な事柄を理解しようとする所に混乱の原因がある訳で、心の代わりにご自身の意識を用いよとしている所が大事なところですよ。

学習を進めるにつれて、私達もこの四次元世界に気付くようになる訳ですが、そこでも従来型の心の持ち方では問題が生じる訳で、努めて意識を働かせる中で初めて全体像が見えて来るということだと考えます。

189 Since the beginning of time man has schooled himself to want concrete facts which are three dimensional like himself. He left the fourth dimension to mysteries and theories. And only here and there an individual could see the relationship of all dimensions. And when he would express his analysis he usually had very few followers.

189 時のはじまり以来、人は自分と同じ三次元の具体的な事実を求めるよう自分自身をしつけて来ました。人は四次元を神秘や理論に置き去りにしてきました。また、そこここでわずかながら、すべての次元世界の関連性を見る事が出来た者がいました。それでも、その者が自らの分析結果を表現する時、彼にはいつもほんのわずかの追従者しかいませんでした。

#### 【解説】

人は真理を結果の世界に求めていた為に、依然として本質を掴めず、不安定な状態にあるということでしょう。一見して物質は揺るぎないもののようですが、歳月とともに変化する訳で、人間の棲む世の中では、10年もすれば人々の記憶も薄れ、事物も変遷することは避けられません。

しかし、こうした変化する現象の中にあっても、意識が作用する世界は変わることなく永続しています。創造主の意思は時間には係り無く作用し、宇宙全体が距離に係り無くその鼓動の元で動いている訳です。

私達は結果こそが永遠なるものとして根拠を置けると考えていましたが、実はそれは誤りで、意識が作用する世界にこそ私達の立つ拠り所とすべきだと本項は説いています。

190 Jesus for one tried to explain the fourth dimension, but even today his teachings are not understood. As a result the fourth dimension has been placed in the abstract side of life with the hope that it will be understood in the hereafter. But how could one ever understand if he did not have some comprehension of it here? One must learn the next step to be taken before he can understand the reason for it.

190 一例として言えば、イエスはこの四次元を説明しようと努力しましたが、今日になってもその教えは理解されていません。その結果、四次元は今後理解されるだろうとする希望と共に生命の抽象的な側に置かれて来てしまいました。しかし、人がそれを今ここで何らかの会得をしない限り、これから先どのようにして理解できるというのでしょうか。人は進むべき次の一步を学んだ後にその理由を理解することが出来ることを学ばなければなりません。

### 【解説】

聖書にはイエスが弟子達に「神の国」について語った箇所が数多くあります。その時、イエスは本項で言う「四次元」世界を指して語っていた訳ですが、その内容を理解できないでいる私達は2000年前から大きな進歩はないようです。その後、地球人は力点を物質に置き、紆余曲折もありましたが、今日まで生活面では格段の向上を成し遂げて来ました。

しかし、ことイエスの言われた「神の国」の内容についての理解は進んでいないようです。

本項では、この四次元世界というものが、長らく抽象的、概念的なものだとして来た点に問題があるとも指摘しています。実際には、意識の世界ははるかに現実的であり、一部の人達がそれを知る時、多くは人生観を変え、奇跡的とされるような業績を上げることになるものと思われます。

しかし、意識について皆目知覚出来ない私達にとって、必要なのは、先ずその世界を知ることであり、その後に初めてその意義を知るだとうと本項は説いているのです。

191 The wealth of time could not be as great as an understanding that man must have before his future is secure. For without it he cannot hope to have the knowledge that our space brothers have.

191 時間の豊かさは人が自分の未来を確実にする前に会得していなければならない理解以上に偉大ではありません。何故ならその理解なしには私達の宇宙兄弟達が得ている知識を持つことは望めないからです。

### 【解説】

何年かかっても、その理解が無い限り、私達は次のステップには進めないことを本項では示唆しています。人によっては何千年もの人生を歩む中で、その理解を掴めないでいることもあるかも知れません。

もちろん、私達には十分な時間は与えられている訳ですが、人の人生にもとりあえずには限りがあることも確かです。

従って、本講座のような理解を得るチャンスを逃がさず、各自、著者が訴えている内容を自分から掴む工夫をすべきであり、その努力は大いに報われる結果をもたらす筈です。

同じ肉体、同様な実生活を送っていたとしても、他惑星人と私達の間には、意識の世界についての理解と知覚力については莫大なる差があるものと思われます。また、相手を見て、本人の実体を見抜く等、外見によらない知覚力についても見習う事柄が多いように思われます。

192 Man has learned much about the three dimensional world and now it is time for him to blend his knowledge with the four dimensional invisible world around him. That is if he is to do away with the mysteries that he has been governed by all of this time. And this can only be done by the mind, the effect, humbling itself to the consciousness - the cause, and thus allow it to explain the relationship of the two. Only consciousness can do this as it is the fourth dimension that knows no limitations.

192 人は三次元世界については既に多くを学んでおり、今はその知識を自分の周囲にある目に見えない四次元世界と融合させる時です。それは人が常日頃、支配されている諸神秘を取り去ろうとするならばです。そしてそれは、結果である心が自身を因である意識に謙虚にすることによってのみ可能となりますし、そうすることで意識に両者の関係を説かせることが出来るようになります。限界を知らない四次元である故に意識のみがこのことを為し得るのです。

### 【解説】

ここで言う「四次元」とは、時間や場所を越えて成立する世界、物質を生み出す因の世界、あるいは創造の世界ということではないかと考えています。それはイエスの言った「神の国」と同義語で、2000年以上も経った今日、再び私達はその因の世界を学ぼうとしている訳です。

私達は、物事の結果を重視し過ぎた結果、皆目この因の世界に気付くことは無くなってしまったようです。自分の目標以外は目に入らなくなっているとも言えるでしょう。しかしそれでは真の生活をエンジョイするどころではなく、慌しく短い人生を終えるだけになるかも知れません。

私達が因の世界を知る為には、まず私達の心が自らの限界と課題を十分に認識し、従来からそっと支援の手を差し伸べてくれている因の存在に感謝し、その四次元世界から学ぼうと決心する他に方法はないのです。いくら援助したくても、本人がそれを拒めばそれ以上のことは出来ないのと一緒です。

従って、先ずはこれまでの怠惰で貪欲な私達の心を反省しつつ、実は自分の身の回りはより精妙なる因の世界に包まれていることを知覚しようと努力することがポイントかと思っています。

193 The three dimensional effects are the coarser part of its expression, like sound which is produced through a low state of friction or conflict among the elements. But consciousness in its fourth dimension does not produce sound as we know it. Its method of communication is through the feeling awareness given in the form of impressions.

193 三次元世界の結果物は丁度、粗いレベルの摩擦や各要素類の間における争いを通じて造り出される音のように表現の内でもより粗雑な部分でしかありません。しかし、意識は四次元世界にあって私達が知っている音を造り出すことはしません。その意思疎通の方法は印象の形態における感じによる気付きを通じて行われます。

#### 【解説】

四次元世界とは印象が行きかう世界であると本項は説明しています。いわば言葉が不要な世界であり、当然、文字も不要ということになります。

そうした因の世界、仏の世界では、言葉に比べてはるかに容易に内容の詰まった知識が距離にかかわらず、瞬時に伝わるという訳でしょう。

本講座の3部作の中に「テレパシー」がありますが、そこでも水面の波紋のように宇宙の果てまで伝わって行く状況が説明されていましたが、そのような印象波動が驚くべき速さで伝わり、対象に対して作用するものと思われま

そう考えると同じ原理を応用している私達は、粗雑な想念を因の世界に放っていることになり、迷惑者になっている可能性もある訳です。一人一人が清い想念の発信者になることが大切なところです。

194 So in order to unite that which is now divided in man, the mind must be willing to be taught by consciousness. And remember, consciousness is the soul of any form which makes life possible.

194 ですから人の中で分断されているものを統合する為に、心は喜んで意識によって教わるようにならなければなりません。そして覚えておいて欲しいのは、意識はあらゆる形あるものを生命たらしめている魂であることです。

### 【解説】

「心の中で分断されている状態」については、以前、本項188でウエイン・ダイヤーの言葉としてご紹介したことと同じです。私達の問題は自身の身体や環境にあるのではなく、自分の心の中にのみ存在するという事です。

しかし、その問題は自身の内部には心なるものの他に生命を支える意識が既に在る訳で、その両者を如何に強調、融合させるかが重要になります。意識は常に沈黙を保ちながらも身体を支え、助言を無償で与え続けている訳ですが、身体を操る心は傍若無人に振舞って、その結果、痛い思いをしているという構図です。

私達はこうして悟りを求めている訳ですが、その求める相手は、ご自身の内側に既に在ると言っている訳で、私達はそのことに気付くことから始める必要があります。

195 That we may understand more clearly let us become aware of the rim of the earth, as we did the shore of the ocean. And let the conscious messenger reveal to the mind the things in space, beginning with the fourth dimension. First, we will give you some idea of what is there in this invisible state. And as stated before it begins with the crust of the earth.

195 よりはっきり理解できるよう、以前大洋の岸辺で私達が行ったように、地球のふちに気付くようになりましょう。そして意識の配達人に四次元が始まる宇宙での物事を明かせましょう。先ず最初に私達は皆さんにこの目に見えない状態の中に何が存在するのかについていくらかの概念を授けましょう。そしてそれは以前述べたようにまず地殻から始まります。

### 【解説】

本項に続いて次項（196）以降、具体的な説明がなされますが、意識の世界と私達とはどのように繋がっているかをここから説明しています。

以前の記述に海岸で海を見ている時、寄せ来る波の奥には海底や海中で暮らす多くの生き物が居ることに気付くのは、目ではなく印象であるとありました。丁度そのように私達が宇宙を見る時、そこには無限に広がる宇宙空間があり、多くの惑星や星々があり、無数の仏国土に人々や多様な生きものが暮らしていることを感じさせるのは意識から来る印象だということでしょう。

私達が当面、拠って立つ所は地殻であり、肉体である訳ですが、私達の本質はそれ（結果である物質）とは異なる非物質の部分、いわば魂の部分であり、それはこの宇宙に拡がる意識の世界と常時、溶け合っているということではないでしょうか。

196 Scientists know of various kinds of gases that proceed into space. The word gas does not mean much but the component parts of which gases are made, does. For in these is the food that the three dimensional world must have in order to live. As an illustration we will use this manifestation that has been used elsewhere in the lessons. When we gaze into a clear blue sky we see nothing, yet under proper conditions a lightning bolt is created in that space, which is made of minerals well known on earth. This shows that the component parts of what we call gas has substance that can produce solids. This is not the only proof for we have others. Many meteorites have landed on earth in various sizes, and when examined they contained the minerals known on earth. I am sure that these meteorites have not been thrown off of the earth and then returned. For they have dropped on the moon and other planets, so they must have been made in space as the lightning bolt is. This tends to prove that all elements known on earth in a coarser form have had their origin in a refined state in space. And as stated before, space is an incubator of forms in which planets and all forms are born and have their being.

196 科学者達は宇宙に向かって進む様々な種類のガスについて知っています。ここでガスという言葉はあまり意味はなく、ガスを構成している成分が重要なのです。何故なら、これらの中に三次元世界が生きて行く上で必要な食物があるからです。実例としてこれまでこの講座の何処かで用いられて来た創造作用を示しましょう。私達が晴れ上がった青空を見詰めても何も見えませんが、ある適した条件のもとでは稲妻がその空間に形成されますし、その稲妻は地球でよく知られている鉱物群から造られています。このことは私達がガスと呼ぶ成分には固体を作り出すことができる物質があることを示しています。これは唯一の証拠ではありません、私達には他にも証拠があるからです。多くの隕石は様々な大きさで地上に着地しますが、調査するとそれらは地上で知られている鉱物を含んでいることが分かります。私はこれらの隕石が地球から投げられて再び戻って来たものではないことを確信しています。何故なら、それらは月や他の惑星にも落下していますし、それゆえ、それらは稲妻のように宇宙で造られたに違いないのです。このことは、地上で知られている粗い形態にある全ての元素は、宇宙空間に精化された起源を持っていたことを示すものと言えるでしょう。そして、先に述べたように、宇宙は惑星やすべての形有るものが生まれ、そして存在する孵卵器なのです。

#### 【解説】

本項は宇宙に拡がるガス状物質（気体）の中に全ての物質の元があると解説しています。私達を取り囲む空気は何も無いように見えますが、化学の教科で学んだように1リットル当り10の23乗個もの分子・原子に満ちています。また、本項で著者が明かしているように大気層の中には鉄その他の鉱物元素も多く含まれているということです。

以前にも何処かでお話したことがあります。隕石のカット断面をご覧になった方は分かると思いますが、隕石の内部には多くは鉄の結晶が見えるものです。まさに宇宙空間でこれら元素が精製されていることを物語るものです。

また、本項で記されているように電光の中には鉱物があるということは、他で聞いたことはありませんが、また、私達が知らない真相が数多くあるものと理解しています。

大事なことは、これらの私達の目では皆目分らない様々な活動が頭上や私達の周囲に広がる空間で起きていることであり、それらの活動は意識の意思と指導が一括して支えているということです。

197 If the planet earth has produced out of its own body all that is upon it, and itself was born from the elements of space, then this should be a good proof that all planets are humming with life in varying degrees of development.

197 もし地球という惑星がそれ自身の体内から地上にある全てを作り出す一方、それ自身は宇宙にある諸元素から生まれたとすれば、すべての惑星は様々な発達程度の生命で活気溢れているという良い証拠になるはずで

### 【解説】

最近の天文学ではどうなっているのかは知りませんが、同じ宇宙空間にあって、同様な惑星には多少の差はあっても同じような生きものが棲息しているように考えるのは自然です。これまで地球だけが奇跡的に生命が誕生したとする学説は、丁度、地球を中心に太陽や星々が巡るとする中世の天動説に似た考えであり、実際には宇宙には無限の生命活動があるものと考えerべきでしょう。

最近、出張で仕事をする機会が増えてしまいましたが、各地の風景は場所によって異なり、特に国外に出ると自然も違った雰囲気があります。おそらくは長年月経過した歴史の中で峰の形や風土、植生が造りだす自然の造形だどつくづく感じてしまいます。

私達の頭上には、このような宇宙空間が広がっていることに気付くだけでも、心にゆとりが生まれ、目前にしている環境が宇宙に浮かぶ惑星の一つに過ぎないことを知ることになります。

198 Even though great distances exist between planets and there is no established communication with them, this does not prevent one from knowing what is going on upon them. But to do this the mind must be trained to listen and be taught by the conscious messengers, without questioning the impressions while they are being given. Some will come in the form of thoughts and some with thoughts and pictures

198 惑星間に長い距離が存在し、相互に確立された通信手段が無くても、それは人がそれら惑星上で何が起っているのかを知ることを妨げるものではありません。しかし、これを為すには心は与えられている間、その印象類に疑問を挟むこと無く、意識の伝達人に耳を傾け教えを受けるよう訓練されなければなりません。それらの内、あるものは考えとして、またあるものは考えと画像の形でやって来ることでしょう。

### 【解説】

真のテレパシーの原理について、ここでは解説しています。印象の行き来には距離は関係なく、瞬時に全宇宙空間に同時に湧き起こるようなものかも知れません。

それらを受感する為には、私達自身が従来心が作り上げてきた殻を脱ぎ捨てて、如何なる印象（想念）が来ようと、それを先ずは受け入れ、リラックスした感受性の高い状況を維持して待ち構えておく必要があります。

何分、長年月、私達はそのような訓練を受けておりませんので、印象に敏感になる態勢をつくることは難しい訳ですが、少しずつ自分で開拓する他はたい訳です。

しかし、このように宇宙の根源に係る源泉に触れることが出来れば、後はその体験を元に望ましい方向に進むことが出来ます。

199 When thinking of this let your mind be attentive as it was while viewing the ocean. And while the ocean has boundaries, space has none. This phase of development is very important, even when we begin to travel in space ships. For had I not developed along this line to some degree, my trips in space crafts taken bodily would have been of little value. Because there were many things on the ships and in space that my mind did not understand. But my consciousness revealed them to me. And later my understanding was verified. The language barrier was not present for in some cases I exchanged ideas with the space brothers consciously. This would have been impossible mentally.

199 このことを考える際、貴方の心を大洋を眺める時のように注意深い状態にさせることです。大洋には境がある一方、宇宙にはそれはありません。私達が宇宙船で旅行するようになった時でさえ、この発達の段階は大変重要です。何故なら、もし私がこの線に沿って幾分かの発達を遂げていなかったら、肉体を伴った宇宙船に乗っての私の宇宙旅行は大した意味を持たないものとなっていたことでしょう。何故なら、宇宙船や宇宙には私の心が理解しない多くの物事がありました。しかし、私の意識がそれらを私に明かしてくれたのです。そして後になって、私の理解は確認されました。言語の障壁は有りませんでした。ある場合には私は意識的に宇宙兄弟とアイデアを交換したからです。これは心では不可能なことでした。

#### 【解説】

自分が何らかの判断をしようとする気持ちを鎮めて、先ずは何処から来る印象に心を開いていることが重要なポイントです。

本項では宇宙に関心を持って、その広大な空間と自らの意識を通わせるような態勢を保つことで、印象に敏感になれるような訓練を各自行なうことを薦めています。

このように印象に鋭敏になることが、本人をより繊細、精緻な存在に高めることに繋がるということでもあります。印象を感知して遠隔地の出来事を知ったり、言葉が異なっても相手との意思疎通が出来る等、この能力開発についての効能は多大です。

他惑星の兄弟達はこの能力に優れている訳で、その文明のレベルと生活振りは私達の想像を超えるものであることは間違いありません。

200 The schooling of the mind is not an easy problem, but it is worth the effort even though it takes years to accomplish as it did for me. There is not a person on earth that does not receive impressions either from the earth, the inhabitants upon it or from other planets as well as the Cosmos. But there is a difference between the human and the cosmic impressions. For a mind is a mind whether on this planet or elsewhere and it has a tendency to confuse impressions and misapply them to suit the personal desire. Oftimes the mind permits the imaginary faculty to run away with it. The imagination is like a screen or a slate upon which the pictures are drawn and the human has a tendency to distort them.

200 心の訓練は容易な課題ではありませんが、それは私についてもそうであったように、達成に何年も要したとしても努力する価値があります。地球にいる人間で地球から、またその住人から、あるいは宇宙と同様に他の惑星から印象を受けてない人はいません。しかし、人間から来る印象と宇宙の印象とは違いがあります。何故なら心というものはこの惑星上の場合も他の場所でも同様で、印象類を混乱させ、個人的な願望に合うように不正に使用する傾向があるからです。しばしば、心はその想像力にその印象といっしょになっての暴走を許します。人の想像力とはその上に絵が描かれるスクリーンや石板のようなもので、人間はそれらを歪める傾向があるのです。

### 【解説】

私達が何を精進し、何処を相手に取り組むかと言えば、それは自分の心を対象とすべきなのでしょう。古今東西、宗教や哲学の対象は常にこの一点に尽きるものです。

自分の心を如何に訓練し、本来のあるべき姿に戻すかは、本項に記されているように長年月を要する、根気の要る仕事です。しかし、著者も言うようにそれは何年かかろうとそれだけの価値のある取り組みなのです。

しかし、仮に印象類に敏感になったとしても油断は禁物です。類は類を呼ぶの通り、自分と同じレベルの他の者の心が発した印象が当初は多いことでしょうし、宇宙本源からの印象は極く少ないものと考えべきでしょう。また貴重なる印象を感受したとしても、私達はそれを元に勝手な想像を膨らませ、舞い上がってしまうこともありえるのです。

そういう意味では、感受した印象を心に判断させないようにして、率直に受け取り、後でその意味を考えるというような姿勢が必要ではないかと考えています。まずは自分がどのような方向の印象を求めているかを明らかにして、しっかりその方向にアンテナを張って宇宙本源からやって来る印象を求め続けることが大切です。

201 i.e. The imagination can mate a flea with a dog on the slate but this can never be done in the cosmic plan. The picture would represent a misplacement of the law and this is where one must be very careful if we are to have the truth. There is so much of this going on now, and that is why we get so much confusion regarding our space brothers. This is caused by misapplication of the true law in order to satisfy the individual ego. And the un-natural stories come from this source.

201 すなわち、想像では石板の上でノミと犬をつがいにすることが出来ますが、宇宙の計画ではそれは決して起りません。その絵は法則の履き違いであり、これは私達が真理を得る上でとても気をつけなければならない所です。このようなことは今、多く起っており、それが私達の宇宙兄弟達に関してこれ程、私達が混乱している理由です。このことは私達各自のエゴを満足させる為に真の法則を誤用することによって起ります。また、不自然な物語がここを源としてもたらされます。

### 【解説】

恐らく心が判断出来そうにない印象を受けた時、何かつじつまを合わせる為に、心は勝手なイメージを作り上げてしまうということでしょう。

折角の印象がこうして心の作用により歪められることを、本項では特に注意しているように思われます。実際の例は個々により異なる訳で一概には例示出来ませんが、当面、「何か分からない」ようなものを感知しても、それを性急に解釈しようとせず、大切にしまっておくような気持ちが良いのではないかと考えています。やがて時期が来て、理解できるようになった時、その時の印象を正しく解釈出来るものと思われま

大事なことは、仮に漠然とした印象でも、何かそのような感じを持ったということを記憶して置くことではないでしょうか。「あの時、あそこで、何かそのような印象を持った」ということを大切に覚えて置くことだと考えています。

202 To guard oneself against such wild impressions, remember that a human form is always a human form even on another system. For the pattern for man is cosmic. The difference would be in the refinement of the form and the expansion of knowledge in different fields of expression. Yet the similarity from the lowest to the highest will be present for there are no blanks in the cosmic plan. In the field of service he who is guided by cosmic consciousness recognizes no divisions but blends all phases of manifestations in relationship to all others. No discrimination or judgment exists for one who has an understanding. Analysis for the purpose of correction and understanding of the misapplication of the law is ever present.

202 このような粗野な印象類から自分を守る為には、人間という形態は他の太陽系においても常に人間の形であることを覚えておいて下さい。人の為のパターンは宇宙的だからです。違いがあるとすれば、その形の精緻さと様々な表現分野における知識の広がりにあるでしょう。しかし、最低位から最高位の間には類似性が存在し続けています。何故なら宇宙の計画に空白は無いからです。奉仕の分野において宇宙意識によって導かれている者は如何なる分断を観ることはなく、それらすべての創造の現れの側面を他のすべてとの関連において融合させます。理解を得ている者に差別や裁きはありません。法則の誤用に対する修正と理解を目的とする分析が永劫に存在するだけです。

#### 【解説】

印象を感受し易くなった後に注意したい点を前項（201）に引き続き説明しています。

心の想像力はたくみであり、とかく印象を自分が分かり易いように、あるいは自分の都合の良いように歪めることに注意せよと言う訳です。その為には、全宇宙を通じて何か特別な生命体が存在することはなく、他の太陽系であっても私達人間という存在の基本的形は共通していることに留意すべきです。

様々な段階の人間が宇宙に存在する中で、私達のもの一角を占めているということでしょう。仏教では宇宙には無数の仏国土があると言っており、キリスト教では天には多くの館があると説明しています。これらの惑星社会の多くは地球よりは格段に優れた所も多い筈で、私達はそれらの人達に学びたいと思う訳です。しかし、これらの人達も基本的には私達と同じ道を歩いて来たことは明らかです。本文最後のくだりに、法則の誤用に対して正すこと、法則を理解する為、絶えず分析することは永遠に行われることだと述べているからです。

203 One can be fairly sure of being right in what is received through consciousness providing the mind does not indulge in wild imagination or judgment. Even though the impressions may not be understood at the moment, for oftimes patience is required. But the fact that there is a revelation should give you the assurance that it will fit in someplace when the time is right.

203 人は心が乱れた想像や裁きに耽らないならば、意識を通じて受け取るものについては十分正しいものと確信して良いでしょう。その印象が例えその時理解できなくてもです。多くの場合、忍耐が必要なのです。しかし、啓示というものがあるという事実は、貴方にそれがいつか時が正しい時に何処かで当てはまるだろうという確信をもたらす筈です。

### 【解説】

結論から言えば、印象は正しいということでしょう。また、いわゆるアイデアというものもその一つです。従って、印象への感受力が高まれば、どのような場合でもそれに対応したアイデアが無尽蔵に湧き上がることも容易に理解出来ます。

この生命という精緻な活動を支えている宇宙の意識には、これらアイデア以上に膨大な量の知性を現象世界に降り注いでいるということでしょう。

私達はまだ、それらの一片に触れるだけの段階ですが、間違いなくその印象は私達の何処かに役立つ内容を持っている筈です。その意味では何かの印象・アイデアを感受した場合は、それを大切に記憶し、何処に当てはまるのか、大切に扱うことが必要です。

これら宝石とも言える解決策を与え下さる創造主には感謝すべきことは言うまでもありません。

204 Never allow the mind to become emotionally affected to the point where it wants to tell the world what has been revealed to it. For when the time of revelation does come - it will be given calmly and modestly. The tricks that the mind has cultivated and accumulated will appear from time to time and try to show the other fellow how much it knows. This is definitely wrong and should this occur it is time to remember - do unto others as you would have them do unto you. The mind has been dwelling in untruthful things for ages and when the real truth is brought to it, it does not like to accept for it built its foundation on mistakes and does not like to have them disturbed. And as said before, this does not mean that mistakes are of no value, for they show us the right way to act. But one mistake is not to be covered up with other mistakes. It is to be corrected immediately.

204 決して心に明かされたことを世間に告げようというところまで心が感情に動かされるのを許してはなりません。何故なら啓示がやって来る時、それは静かにそして控えめに与えられるからです。長年心が培い蓄積して来たたくらみが時折現れて、同僚に如何に自分が知っているかを示そうとします。これは絶対によくないことであり、万一起こった時は、次のことを思い出して下さい。汝が他人にしてもらいたいと思うことを他人に為せです。心は長い年月、嘘で固めた中で生きて来ているので、実際の真理がやって来た時、過ちの上に基礎を置いており、混乱されたくない為にそれを受け入れたくないと思うのです。しかし、以前申し上げたように、その過ちは価値が無いとしているではありません。何故なら、それは行動すべき正しい道を私達に示してくれるからです。しかし、ひとつの過ちは他の過ちによって包み隠されてはなりません。直ちに直されねばならないのです。

#### 【解説】

心は知ったかぶりをしたがるものです。しかし、こと印象に関する限り、厳に慎まなければならないことを本項では、特に戒めています。自分だけが知っていることを他の者に喋って自らが他よりも物知りだと自慢したいというレベルが私達の心な訳です。

しかし、大切な知識を含むその印象は大事に取り扱われるべきで、それが最適に活用される状況が整った上で応用されるべきことは言うまでもありません。同じアイデアは武器の製造や相手を支配する道具にも利用され得ることにも注意しなければなりません。

感受した印象をそのまま口にするのではなく、適切な時期に心がそれを十分理解出来る状況になった時に応用されるべきな訳です。

いずれにしても、私達は失敗を繰り返しながら、前進する訳で、例え失敗したからと言って、その原因を分析し、次に活かせられれば、その失敗は役立つ経験の一つにすることが出来ます。印象感受についても同じこと。私達は感受ばかりでなく、その後の活用方法についても学ばなければなりません。

205 If you are not sure whether a mistake has been made or not, make a careful analysis of the effect. If you feel that you have, the way to make the correction will be shown. And if the action is against another human being, become that person, and you will know what is to be done without loss of time. For every mistake cuts one off from cosmic impressions and creates a condition like a vacuum or gap between two points. It is no different than being disconnected while talking on the telephone. If this is caused by a break in the line, and the one making the call is unaware of the break, he continues to talk but the receiver is not getting the impressions. And he will not until the correction is made. So the intervening conversation is lost to the receiver, and the gap is filled with confusion and wondering what was to have been said. And in this way, what would have been received is distorted.

205 もし貴方が過ちをしたかどうか不確かな場合は、結果について注意深い分析をすることです。もし過ちを犯したとを感じるなら、修正を行う方法が示されるでしょう。そしてその行為が他の人間に対するものなら、その人間になって見なさい。そうすれば時間の無駄なく何を為すべきかが分かるでしょう。何故なら、あらゆる過ちは宇宙的印象類から本人を切り離してしまい、2点間に真空或いはすき間のような状況を造り上げます。それは電話で話をしている間に電話を切られた時の状態と違いはありません。もしこの状態が通話中に起り、電話を掛けている一方がその断絶に気がつかない場合は、彼は話しを続けますが、受信者はその印象を受取っていません。線の復旧が行われるまで彼は受信できないままです。その為、受信者にとってその間の会話内容が失われ、そのすき間は混乱とその間に何が話されたかについての好奇心で埋められることとなります。そしてこのように、受信された筈の事柄が歪められるのです。

#### 【解説】

印象への理解が合っているか否かは、結果を分析すれば容易に分かるという訳です。また、もし間違っていれば解決法も示されるとしています。

意識による教えは、このように全て正解を伝えてくれており、そもそもが真理の法則である訳で、私達は先ずこの点を明確にして臨む必要があります。

しかし、ミスを犯したとあって、急に印象の流れを取り止めることは良くないと本項では説明しています。せつかく繋がった意識とのパイプですし、その印象の出所とはパイプを継続しておく必要があります。今回はたまたま解釈を誤っただけで、次回はしっかり応用できると思うからです。

このような時、大事なのは、どのような心の持ち方をしている、そのようなアイデアが湧いたのかを自覚することと、それらの印象の贈り主に改めて感謝する気持ちではないかと考えています。

206 In the case of an uncorrected mistake against another, a mystery is created that may never be solved. And if it is done after a lapse of time the feeling will never be the same again. So there is a loss through the neglect of correction. And yet the correction even under these conditions is very important in order to carry on. For somewhere along the line the lost words or impressions will repeat themselves, even if for another reason, and he who has the knowledge can use these words to fill in the gap. It is no different than a window pane that will fit into a number of places.

206 ひとつの修正されない過ちに対して更に修正されない過ちが起る場合には、決して解決しない神秘が造り出されてしまいます。そしてもし、時間経過の後に為される場合には、その感じはもはや同じにはなりません。ですから修正を無視したことで損失が生まれるのです。しかもこれらの状況の中であっても修正はめげずに続けて行く為にはとても重要です。何故なら、その線に沿った何処かでその失った言葉や印象類は、他の理由からであっても再現するでしょうし、その知識をもつ者はそのすき間を埋める為これらの言葉を用いることができるからです。それは数多くの場所に当てはまる窓ガラスと何ら変わるものではありません。

### 【解説】

印象への取扱いの誤りが何度も続くことの問題について本項は述べています。

未熟な私達は仮に意識からの印象が来ても、心が理解しない為に正しい対応が出来ないことが多い訳です。しかし、印象が来たということは、本人とその印象の経路が一時的にせよ繋がったことを意味するように思います。その結果、本来その経路を維持できれば様々な知識や情報が流れ込んで来る筈ですが、本人の心が柔軟な対応が出来ない為に、途中で遮断し、その経路を意図的に外してしまう結果、本来のイメージが掴めないまま、終了し、訳の分からない神秘が生まれるとしています。

私達の日常は慌しく、折角の印象も日常の雑事に紛れてしまうと同様な事態になる可能性もあります。しかし、印象は私達の生活を豊かにして呉れますし、本人の必要な時、必要な援助、助言をして呉れる点で、先ず第一に大切にしたいものです。そしてその援助の手はいつも優しく差し伸べられており、私達はひたすらその声に耳を澄ますことが大切なポイントです。

207 One must not be overly cautious in avoiding mistakes. For then he would be doing nothing - this has no value. The important thing is to realize and correct mistakes as soon as possible. For when one misses something that was meant for him, either by word or association, it sometimes takes years or even centuries to find it. I have known people who were searching for something all of their present life time. Sometimes they know what they are looking for and sometimes they don't. But they do know when they find it for the uncertain nervous feeling vanishes and they emanate a warm pleasant feeling and seem to enjoy everything that they do. They are not concerned with the future and seem content and happy to live from day to day. But they have a hunger to learn all that they can, and seek association with those whom they feel have what they want. This is usually a good indication that they are filling a gap - a something lost somewhere in life.

207 人は過ちを避ける為に過度に用心深くなつてはなりません。何故なら、そうすることで彼は何もしなくなるからです、これでは価値がありません。重要なことはできる限り速く過ちを自覚し修正することです。何故なら、人はその者にとって意味のある何かを失った場合、それが言葉によってか、あるいは人間関係によってかを問わず、それを見つけ出すには何年も、場合によっては何世紀もかかるからです。私はある人々が彼等の生涯の全てにおいて何かを探し続けているのを知っています。ある時は彼等は自分達が何を探しているかを知っていますが、わからないでいる場合もあります。しかし、彼等はそれを見つけるや否やそれがわかります。不安定で神経質な感じが消え失せ、暖かな楽しい感じが発せられますし、彼等が為すことすべてを楽しんでいるように見えるからです。彼等は未来には関心がなく、日々生きていることに幸せを感じています。しかし、彼等は学べるもの全てに渴望しており、彼等が求めるものを持っていると感じる者との繋がりを求めています。これは通常、彼等が人生の何処かで無くした何らかのすき間を埋めている良い兆候なのです。

#### 【解説】

この項の語る意味は大きいものがあります。私達が生きる目的とも言える事柄が、本項に込められているように思うからです。

私達は各々、何らかの道を求めて歩いて来ていることは確かです。その求める内容は各人によって異なるものと思いますが、それは実勢、本人にとって埋めるべき内容である訳です。どこかで中断して十分理解できないでいた事柄の続きを学べることで、本人にとって真の安らぎが得られるものと思われま

す。そうした体験を得る為にも、私達は絶えず新しい試みをし、新しい分野を体験することで探し求めていたものに再会出来るということでしょう。

失敗を恐れず、自由に活動する中で、様々な人や言葉と出会ったり、貴重なる体験を積み重ねることが出来るというものです。

ご連絡 [2012-11-12]

いつもご覧戴いている皆様へのご連絡です。

都合により、次回の更新は11月16日以降になる見込みですので、ご了承下さい。

208 Yet some individuals after finding this go astray. And there are millions of such. But when this happens more than one gap is made and sometimes these are almost impossible to fill as the human mind in many cases is lazy and seeks the highway of least resistance. Thus it creates many gaps through its span of life. And this majority never know true happiness, peace and contentment. And the indications are that they are off the beam of life which is of cosmic nature. For they are easily irritated, hard to satisfy, fault finding and display very poor sportsmanship. They constantly seek new friends which are not stable, but of the same nature.

208 それでも人によってはこれを見出した後も、道に迷う者もいます。しかもこのような例は何百万もあるのです。しかし、これが起った後は、出来るすき間は一箇所に留まらず、時として埋めることがほとんど困難になってしまいます。何故なら人間の心は多くの場合、怠け者であり、最小限の抵抗という常道を求めるからです。このようにして心はその生涯を通じて数多くのすき間を造り出すのです。そしてこの多数派は真実の幸福や平和、満足を知ることはありません。そしてその兆候は彼等が宇宙的性質である生命の光線とは離れていることを示しています。何故なら、彼等は容易にイライラして、満ち足りることが無く、あら探しをし、とても貧しいスポーツマン精神を表わすからです。彼等は常に新しい友人を求めますが、それらは不安定であり、また同類の者達です。

#### 【解説】

残念ながら、街を歩いている多くの人達が、本項に記載されているような人生を歩んでいるのかも知れません。私達も絶えず同様な脇道に陥らないよう、心を監視する必要があります。

おそらく本項で記述されている事柄は容易に皆様にも理解出来るものと思われます。それほどに心の性質は共通しているとも言える訳です。怠け者であり、不安の中に生き、他人の欠点にのみ鋭敏である等々、本来の自らの課題について省みないのが問題であることに気付いていないということでしょう。

一方、人間以外の生きものは、実に平穏な暮らしをしています。最近海外でまだ貧しい暮らしの中で生活している地域を目にする機会も多いのですが、子供達は元気で遊んでいますし、犬達ものんびり日光浴を楽しんでいる姿を見ると、ほっとするものがあります。

当面、本人の力ではどうすることも出来ない厳しい環境の中にあっても、宇宙の生命の息吹を感じて、満ち足りた一日を送ることが如何に大切かということでしょう。

209 These people are like a man lost in a heavily wooded forest where the congested growth hides the sun and the vision of heaven that could lead him in the right direction. The timbers could be likened to personal opinions that blocks the vision of light that could show the way. A person may even die in this state and never know the true purpose of life. We have people who have everything that the world has to offer, even security beyond their needs, but they are very unhappy within themselves. They have searched all of their lives for something they did not understand. They sought wealth and fame for security but after having this, the happiness they longed for was not there because they had never left the timber land of self opinions. And their values of life are out of line with the cosmos.

209 これらの人々は生い茂った木々の成長が正しい方向を示してくれる太陽と天の視界を隠しているうっそうと茂った森の中で道に迷った人間のようなものです。木々は道を示すことができる光の視覚を遮る個人的な意見に似ていると言えるでしょう。人によってはこの状況の中で亡くなり、人生の真実の目的を知ることはありません。私達はこの世が提供できるあらゆるもの、そして自分が必要とする以上の安全さえも手に入れ、それでも自分自身の内面ではとても不幸である人々を知っています。彼らは自分の生涯の全てを自分ではわからない何物かを求めて来ているのです。彼らは安心のために富や名声を追い求めて来ましたが、それを得た後は、願っていた幸せはそこには無かったのです。何故なら彼らは自己の意見という森林を離れることはなかったからです。そして彼らの人生の価値というものは、宇宙の方向からは外れています。

#### 【解説】

人間の生きる道とは何であるかを示した内容です。

私達は実に自分の殻という狭い森の中に居るという訳です。オリジナルの「宇宙哲学」の原書の表紙にはタイマツのイラストが描かれていますが、その暗い森を通過する者に必要な知識がこれであると表現していることに、本項を読んで気付きました。

この暗闇の中では、人は迷うばかりで、そのタイマツを頼りに一歩一歩切り込み、光明の世界に抜け出た後で、後を振り返れば、何と小さな繁みであったかと思うものかも知れません。

もちろん、進む道は上へと続いている訳ですが、当面、山麓の藪を越えることが私達の課題になる訳です。

210 Little did they know that what they were searching for was the other half of themselves which was not to be found in the darkness of their own opinions. For this is found in the light of consciousness which they never did enjoy. Yet it was always there, for every now and then the light would penetrate the darkness of the wooded country, but they failed to see and understand it. There are those who have followed the light of consciousness and found the way out and felt and enjoyed the freedom of the open country. And thus they experienced a lasting security that was never known before. Yet others not realizing what they had found, returned back into the darkened land only to be lost again. And they continue to create forests of darkness through which it will be harder to find the way as time goes on.

210 彼等は自分達が求めているものが自己の意見という暗闇の中では見出せない自分自身の半身であることが少しも分からないのです。何故なら、これは彼等が決して享受したことのない意識の光の中において発見されるものだからです。それでも、それはそこにいつもあります。何故なら時として光は木々に覆われた土地を貫くことがあります。彼等はそれを見落とし、理解し損じるからです。また、意識の光に従って外に通じる道を見出し、広がった大地の自由さを感じ、楽しむ者もいます。そしてこのように彼等はこれまで経験したことのない永続する安心感を体験するのです。それでも他の者達は自分達が何を発見したのかを自覚せず、再び暗い土地に戻って行き、ただ再び道に迷います。そして彼等は時間が経つにつれ見出すのをますます困難にさせる暗黒の力を造り続けるのです。

#### 【解説】

飛行機に乗るといつも思うことは、地上では厚い雲に覆われていても、上空は太陽が燦燦と輝いており、光を地上に投げかけているということです。私達は自分の意思で自らの道を暗くしているということです。

更には、仮にこの光明を知った後にも、再び元に戻ってしまう者も多いと本文では記しています。

折角の光明の一筋を見つけた時に、その価値を十分理解していなかったことが問題であり、価値が十分に分かっていなければ、たとえ一時的に光悦感に浸っただけで、長続きはしないのではないかと思います。

具体的な効果（結果）を優先することなく、仕組みや原理についてよく理解した上で、体験を得ることが大切で、単に能力が一時的に高まることだけでは、本人の救いにはならないものと思われます。

第5課では意識について学んで来ましたが、この無言の知性について理解した上で、ご自身に受け入れるためには、心をどのような態勢に保つべきかについて、各自の工夫が求められています。

211 This recalls an incident which happened to my wife Mary, who has since passed away, when she became lost at night fall in a jungle of high wild lilac which covered only a half acre of land. She became frightened and called for help, even though she was only about 500 yards from home. This is used only as an example to show how easily one can become lost in a jungle of self opinions which are contrary to cosmic purpose

211 このことはずっと前に亡くなった私の妻メアリーに起こったある出来事を思い出させます。それは彼女がわずか半エーカーの土地を覆っていた野生の背の高いライラックのジャングルに夕暮れ、道に迷った時に起こりました。彼女は恐ろしくなって助けを呼んだのです。家からわずか500ヤード足らずの所に居たにもかかわらずです。この事例は宇宙的目的に正反対な個人的意見というジャングルで人は如何に簡単に道に迷ってしまうかを示す例として用いているにすぎません

### 【解説】

私達一人一人は各自、小さな自分の藪の中におびえて暮らしているということでしょう。大自然の芝生が日差しに映える広大な土地にあっても、自らの藪の中で助けを叫びながら狭い殻の中にうずくまっているのが私達という訳です。

これを打破するには、自らその視野を妨げている心の殻を取り去る必要があります、先ずは、実際には光が満ち溢れている世界の中に生きていることを学ぶこと、自らの視界を妨げている正体を知ることが必要です。

何年間かの取組みの中では、殻の外の世界を垣間見る機会もある訳で、そもそもの日常を見直す中で、著者が伝えようとしているイメージを掴むことも出来るものと思われれます。

決して、現状に妥協し、安直なる惰性の道を歩むのではなく、絶えずやって来る印象の到来に耳を済ませることによって、少しでもその殻が消滅させる日を早めることが重要です。

212 It is unfortunate that 99% of the human kind are living in this kind of a jungle of the mind. When they could enjoy the consciousness, the other part of themselves that has everything that the human will ever need. For they could enjoy a life free from fear, with which the mind is shackled. There is one thing we can say for the noble space people, their minds follow the consciousness of the cosmos. And even though they are not perfect in its execution, they will be in time for they follow the guidance of consciousness.

212 残念なことに人類の99%が心のこの種のジャングルの中に生きています。彼らが人間が欲するあらゆるものを持っている意識すなわち、自身のもう一方の半身を享受することが出来るのにもかかわらずです。何故なら心が鎖で繋がれた恐怖から自由になれば生命を楽しめるようになるからです。高貴な宇宙人達について一つ言えることがあります。彼らの心は宇宙の意識に従うということです。そして彼らはその実行において例え完全ではなくても、彼らはいずれそうなるでしょう。彼らは意識の導きに従っているからです。

### 【解説】

私達それぞれは自分の心に支配され、わずかばかりの藪の中で一生を送っていることは残念でないと著者は説いています。意識に従えば、あらゆるものが容易に手に入り、本来の創造主が用意して呉れている進化の道を歩めるというのに、私達はそれすら気付いていないという訳です。

古今東西、様々な哲人、知者がそのことを伝えて来ました。しかし、それをどのように実現して行くかの過程についてまでは整理されていなかったのかも知れません。また、人間が怠惰である故に、新しい生き方を好まないことも進化の道を歩めない要因でしょう。

それに対して、宇宙兄弟達は積極的に宇宙意識を自身に取り込み、実生活に活かすことを続けてきました。その結果、今日では私達が想像できない程の文明を構築するまでに至っています。私達にとって彼らは格好なお手本であり、またそのように彼らの生き方を見習う必要があります。アダムスキー氏と会った宇宙兄弟達は、実に必要な事項のみアダムスキー氏に授けたと聞いています。本人が必要としている知識を的確に伝えること、相手のニーズに合わせた情報提供が大事なことは言うまでもありません。

213 In the next lesson I will explain the importance of newness in order to maintain a youthful body.

213 次の課では若さあふれる身体を維持する為に新しさの重要性について説明しましょう。

### 【解説】

進化の道は常に生命の源泉に回帰する道程かと思えます。

私達が宇宙開発、宇宙探検の旅に出るのも、新しい発見を通じて私達自身への理解を深めることに繋がることが醍醐味でもあるのです。そして進化の道は私達の思いもよらないスピードで進展するのではないかと考えています。

実は先日、ある仕事で「エアバスA380」という総二階のジェット旅客機に搭乗する機会がありました。9000 km、12時間以上のフライトでしたが、座席はゆったりしており、シートが水平になる等、快適に過ごすことが出来ました。また、座席正面のテレビには好きな映画を見られるようになっており、その中に「2001年宇宙の旅」があり、それを見ることにしました。

そこではたと気が付いたのは、これらの座席や天井等機内のつくりは「2001年宇宙の旅」の映画に出てくるキャビンそっくりであったことです。もちろん、映画での宇宙空間と地上1万メートルの違い、あるいは重力圏の違いはありますが、当時、夢のように見えた光景も今日では極く普通に実現しているのです。映画を見ながら、窓を通して暗い空に遠く星が見える中、飛行を続ける船内にあって、つくづく進化の歩みの尊さに感じ入ったものです。

ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第06課 段落214 [2012-11-26]

SCIENCE OF LIFE - STUDY COURSE

LESSON SIX

Newness, The Rejuvenator Of The Mind

214 In lesson five we showed you how the mind can get lost in the jungle of opinions.

生命の科学—学習コース

第6課

新しさ、すなわち心の若返りの推進役

214 第5課では私達は皆さんに心が意見というジャングルの中で如何にして道に迷ってしまうかを示しました。

#### 【解説】

第5課では私達は意識を受け入れる以前に、自らの心の呪縛という藪の中で、先の見えない手探りの暮らしを続けていることを学んで来ました。

その問題をどのように解決して行くべきかを学ぶのが、第6課ではないかと考えます。

教課のタイトルにあるように、新鮮さの意義について本課で学んで行くことになります。

何事によらず、よどみや停滞は退化を意味します。私達は季節の顕著な地域に暮らしていますが、目の前の木々が目下は紅葉、やがて落葉の時を迎える一方、早春には再び芽吹き、夏には葉を繁らせ木陰を作ります。一見して動きの無い植物ですが、実際には絶えず変化し、日々新しい活動の途上にあると言えるでしょう。

とかく惰性に陥りやすい中で、努めて新しい側面に挑戦することが如何に大切か、またそうすることが若さの秘訣となり、生命の本質的特性と言えるのです。

215 You see the body is on one hand independent of the mind, yet on the other hand there are certain cell groups that are related to the mind and obedient to it. This is the cause of the conflict that a human finds himself in daily. The mind is inclined to be habitual and lazy. It would rather travel the road of least resistance than the road of progress that calls for steps yet unknown. This is why we are plagued with tradition and conventions of ancient times that no longer fit into our present way of life. But despite this, the mind must accept things from time to time whether it likes it or not.

215 おわかりのように肉体は一方では心からは独立していますが、他方では心と関係を持ち、心に従順な或る細胞群もあります。これが人間が日常、自分自身に葛藤を感じる原因です。心は習慣的で怠惰になる傾向があります。それは未知なる階段を必要とする進歩の道よりも最小限の抵抗しか無い道を歩むことを常としていました。これが私達が今日的生活方法にはもはや当てはまらない古来の伝統や因習に患っている理由です。しかし、これにも拘わらず、心は時としてその好き嫌いによらず物事を受け入れなければならないのです。

### 【解説】

惰性に流されたい自分と、新しさを求めて探求しようとする意思のどちらを採り入れるかが問われています。とかく私達は安直で努力を要しない道のみを選択してしましますが、それでは進歩から遠のく他はありません。

必要なのは困難であるように見えても新たな心境をもたらすような体験です。その為にはそれまでの自分の心に意識を信頼させ、自分より遥かに優れた存在があることを認めさせるような感動を与えることだと考えます。

大自然の美しさや偉大な人物の言葉をかみ締める中で、私達の心を宇宙意識を信奉させ、そこからやって来る印象に気付きたいと思わせることから始めなければなりません。

実際、私達の心の方に帰依している細胞がどの部分であるか等、詳細の所は不明ですが、少しずつでもこれらの細胞を本来の方向を志向するよう仕向けなければならないという訳です。そうすれば、次第に身体浄化も進むというものです。

216 We can be thankful for the small minority of people in the world that are constantly looking for something new, not satisfied to live the doctrines of the old. It is this class of people that keep agitating the majority of the minds towards the better way of life without violence but with an understanding. The masses move very slowly and if it were not for this class of people that make them listen to the new phases, they would have been extinct long ago. Decayed by the law of monotony. But the newness that the few bring to the attention of the masses keeps them going. Slowly but surely.

216 私達は昔からの教義に満足せず常に何か新しいことを探し求めている少数の人々に感謝すべきかも知れませんが、暴力によらず共感をもって大半の人々の心をより良い生活の方向に進むよう促し続けるのはこの部類の人々です。大衆はとてもゆっくり動くものですし、もし新しい側面について耳を傾けるよう促すこの部類の人々がいなかったら、彼等はとうの昔に消滅していたであらうでしょう。退屈の法則によって朽ち果ててです。しかし、大衆の注目を引き付ける新しいものは、彼等を歩み続けさせます。ゆっくりですが、確実にです。

### 【解説】

かつての人々より、現代人は長生きになっています。もちろん、医療技術の進歩、栄養摂取量の違いも大きいものと思いますが、何よりも毎日伝えられるニュースや新しい発見、次々に生み出される新製品等が老化を抑制しているものと思われる。

また、老化は個人によっても異なります。早くから老ける方もいますし、いつまでも若々しさを保っている者も、皆様の周囲に居られるものと思われる。

宇宙兄弟達の寿命は千年にも及ぶとされていることを考えれば、私達はこの肉体が本来の機能を大切に保持するよう努めれば、今まで考えられない程、長寿を維持出来る能力を有していることが分かります。

宇宙を貫く意識本体は絶え間ない生命の鼓動を伝えており、現象界にあってもそれと呼応する限り、疲れを知らず、老化も無い生命を永続させることが出来るという訳です。

217 Newness is youth as well as progress. And there is some evidence today of the effect that newness has on society. For we can observe increasingly large numbers of people who do not show their age as they did in the past because in these days of scientific discovery something new is brought to their attention almost daily. Whether they understand or not the effects are there. Since man is nothing but a thought in action, any new thought, especially of cosmic nature, will have an effect upon his body.

217 新しさは若さであり、進歩でもあります。そして今日では新しさが社会にもたらしている効果についていくつかの証拠があります。何故なら私達は今日の科学の発見の時代にはほとんど毎日のように何か新しいものが注目される為、かつてのように年令を思わせない多数の人々がだんだん増えているのを見ることが出来るからです。彼等が理解しているかいないかは別としてその効果はそこに出ているのです。人は行動する想念以外の何物でもない為に、如何なる新しい想念であれ、とりわけ宇宙的性質を帯びたものは、その肉体に効果をもたらすことでしょう。

### 【解説】

いつの時代も若者が新しい世の中を切り開くと言われていています。現状の高齢化した我が国にあって、何が問題かと言うと、それは新しいものへの意欲が薄れることではないかと考えています。

しかし、こと肉体について言えば、ごく表層の皮膚を除けば、人間の肉体は最後の時まで、実は皆、活発に活動して生き生きとした状態を保っているのではないかと考えています。つまり人間の死は肉体の本来の活動がほんのわずか立ち行かない不都合が生じた時に起こるもので、それまでは活発なる動きをしている、それによって生命が保たれているように思うのです。

逆に言えば、肉体は本来の生命活動を維持しているのに、心が「あきらめ」や「無気力」の状態に陥り、そのことが自身の肉体に悪影響を与えてしまっているという構図です。

これに対し自然界においては、常に新しいものが自然を支配し、繁栄していますし、自然界の生き物の中に衰えを見ることはあまりありません。旺盛なる生命力を表現するもののみが生存し、少しでも老化し、意欲を失ったものは他のものの生きる糧となったり、朽ちる等して、自然界から速やかに退場しているように思います。

生きものを観察する中では、皆誕生した頃が最も生命を良く表現しているように思えます。イエスやアダムスキー氏が述べたように、私達はこの宇宙意識によって生み出された存在達から、多くを学ぶべきで、幼児の素直さや、やがて出る若芽や若葉のはつらつとした姿の中に生命の源泉の姿をしっかりと理解することが重要です。

218 Let me clear the point of man being a thought. To create a form like that of man or any other, whatever is responsible for creating the form had to have a thought pattern of the form before it could be created. Man is a thinking being, for if he did not think he would not be what he is as thought is the motivating force of his being. He has to think before he can walk or eat and no matter what he does he has to have a thought as a director. And these thoughts come to him either as a combination of past experiences, associations with others, or as cosmic impressions.

218 人が想念であるという要点について明確にして置きましょう。人あるいは他のどのような物でも形を造り出す為には何者がその責務を担っているにせよ、それが創造される前にその形についての想念パターンを持たねばなりません。人は考える存在です。何故なら想念がその存在の原動力である故に、もし考えることをしなければ、人は自分が自分であることがなくなることでしょう。人は歩くにせよ、食べるにせよ、その前に考えなければなりませんし、如何なることをするにしても想念を指揮者にしなければなりません。そしてこれらの諸想念は過去の体験や他との結合として、あるいは宇宙的印象類としてその者のところにやって来ます。

### 【解説】

新しさを重要とする中で、その最もポイントとなる分野は私達の想念にあるという訳です。

各人の人格を構成するのが、その人が持つ想念のパターンということが出来る訳で、日頃どのような想念を抱くかが重要です。また、これに関連して著者はそれら想念が環境に作用し、それに呼応した状況を創り出す等、常に創造的な機能を有していることを明示しています。

これら私達が日常選択している想念が、本人を形成する訳ですので、その想念が生き生き、活発なものであれば、それを肉体細胞が表現することは極く自然な成り行きです。しかし、その想念は一般的に言って、多くは身勝手に習慣的なものになりやすい為、私達は努めて、毎日を新鮮な想念、新しいアイデア、未知の分野への探求を進めて、創造主が用意して呉れている様々な世界を学ぶことが期待されています。

自己の肉体細胞をその本来の生き生きとした状態に維持する為、私達は想念分野から積極的に新鮮さを保つ工夫が求められています。空を見上げれば、雲が驚くべき速さで流れている等、私達は目くるめく動的な世界に生きており、全ては流転の中の一瞬を過ごしているという訳です。

お知らせ [2012-12-02]

今週月曜日から出張の仕事が入っており、しばらくの間、更新が不定期になるかと思いますが、ご了承下さい。

219 Now let us observe how different types of thoughts manifest. If an angry thought enters the mind the facial expression changes to represent the anger. And if a happy thought is present it expresses, etc., etc. It is no different than a sculptor who molds out of clay a thought that he has in mind. So a thought whatever it may represent is like the sculptor for it molds the facial expression to represent itself. So we as intelligent beings desiring youthful, healthy, well proportioned bodies should always have that type of thought for it will mold the body according to its pattern. And a thought of newness especially along cosmic lines is important if the body is to maintain youthfulness.

219 それでは如何に様々な想念が体現するかを観察することにしましょう。もし怒りの想念が心に入り込むと、顔の表情は怒りを表わす為に変化します。また、楽しい想念が居合わせた場合にはそれはそれこれの表情を表わします。それは彫刻家が心の中で抱く想念を土からかたどるのと違いはありません。ですから想念がどのようなものを表わすにせよ、彫刻家のようなものです。それ自身を表現する顔の表情をかたどるからです。ですから若く、健康で良く調和した肉体を望む知性的存在である私達は常にその種の想念を持つ必要があります。何故なら想念はその想念パターンに従って肉体をかたどるからです。そして特に宇宙的分野に沿っての新規性ある想念は肉体が若さを保つ為には重要です。

### 【解説】

同乗記の中で宇宙の兄弟達が創造主の肖像画をいつも眺めているという記述を覚えている方も多と思います。優れた芸術作品は私達に高い品質の印象を届けますし、私達はそれらの影響を受けて進歩の道を歩むことも可能なのです。

想念が個々人を変化させることは、私達の心が持つ潜在的な表現力を意味する訳ですが、問題はどの種の想念を取り入れるかにあります。広大無限の宇宙は私達に探究心を与えるのと同時に、創造主との距離を縮めるような感覚をもたらすものと思われまますし、人類発展のカギは、狭い地表から抜け出て、広大な宇宙空間に進出することだと思われまます。

優れた想念・印象を積極的に取り入れて、その印象に基づいて行動した結果、得る体験を通じて個人の記憶を蓄え、更には本人からも同種の想念を発する等、印象を通じたサイクルも実現するというものです。私達は印象の表現者であると同時に、他者に対しての想念・印象の発信者でもあります。自らへの影響の他に他者への影響も考え合わせれば、日々取り入れている想念の影響は極めて大きいと言えます。

京都広隆寺や奈良中宮寺の弥勒菩薩の半跏思惟像をはじめとする仏像は、それを見る多くの人々を魅了するものですが、その微笑の奥にどのような想念があるのかを考えて見るもの楽しいのではないかと思います。

220 The masters of the ages taught one cosmic principle - As A Man Thinketh So Is He. We can now see how the people on planet Venus maintain a long and useful life. For they are constantly thinking in terms of newness. And a form 500 years old, of our time, looks youthful and in the prime of life. While here on earth we look older at 40 than they do at 700 years. But we are thinking in terms of age and are governed by habits that are thousands of years old. And you cannot feel young by wearing an old cloak for it will have an influence upon you. An old dress or suit, even though made of very good material, will make you feel old everytime you put it on. So will the old thoughts. We know that new clothing makes us feel younger, and so will new thoughts when we have them continuously.

220 各時代の指導者達は皆、一つの宇宙原理を教えました。人は思った通りの者になるのです。私達は今や金星の人々はどのようにして長く有意義な人生を保っているのかを知ることができます。何故なら彼らは常に新しさの視点で物事を考えているからです。その結果、私達の時間で言う500才の肉体も若々しく生命の全盛期にあるように見えます。一方、ここ地球では私達は40才ですら、彼らが700才で見せる以上に年老いて見えるのです。それでも私達は年令で物事を考え、何千年も古い習慣に支配されています。ですからあなたは古い外套を着ては若さを感じることはできません。それがあなたに影響を与えるからです。とても良い材質で出来ていたとしても、古いドレスや服はそれを着る度にあなたに古い感じを起こさせることでしょう。ですから、古い想念も同様です。私達は新しい衣服があなたを若々しく感じさせることを知っていますし、新しい想念も私達が常に保つならばそれと同様となります。

#### 【解説】

人は日常抱く想念通りの者になるということは、当然の原理とすることが出来ます。想念が最も作用を発揮するのは各自の身体及びその環境です。

心の抱く想念を宇宙本来の生命の息吹に調和したものに保つことが出来れば、全身がスムーズな活動となり、老化が生じないことはアダムスキー氏のコンタクト経験の他にも、各自の体験から理解することが出来る筈です。

自らに取り入れる想念を大切にすることは、60兆個もの配下の細胞を持つ私達一人一人の身体の主人公としての最低限度の義務でもあります。

本文にある「As A Man Thinketh」と同名の本をJames Allen(1864-1912)が記していますが、そのタイトルは日本語訳の本では「原因と結果の法則」と記されているそうです。1902年に執筆されたこの本は自己啓発の書として広く知られています。昔から真理は変わることなく永続しており、今日もまた未来も変わらず続いて行きます。時代を通じて、地球上の様々な地域で真理を伝えようとする者が出現し、同種のポイントを私達に伝えて呉れているということでしょう。

221 But if the new thoughts are going to have the results that we desire they must be given top priority and not mixed with opposite thoughts. For this creates a conflict in the body and the results are anything but good. It is not going to be easy to maintain such thoughts at first, but determination will accomplish the desired results.

221 しかし、もし新しい想念が私達が望む結果を得るという為には、それらの新しい想念は最大限の優先順位を与えられ、対立する想念と混ぜられることがあってはなりません。何故なら、こうすることは体内に葛藤を造り出し、その結果は良いものとは決してならないからです。最初の内はこのように想念を保つことは簡単ではありませんが、決意は望ましい結果を達成することでしょう。

#### 【解説】

私達が必要とする新しい想念の取扱いについて、本項は解説しています。

つまり、仮にこれまでにない新しい発想が浮かんだ場合、私達はそれを従来の常識化した知識と混ぜることなく、それらに最大限の優先権を与えよと、著者は助言している訳です。

私達が宇宙的印象を実現できないでいるのは、その印象を尊重せず、その漏らす内容を聞こうと努力しないからです。従来からの考えと比較吟味してしまうため、身体内で混乱が生じ、一本化されない為だとしている所に注意すべきです。

素直に創造主からのメッセージを受け取り、行動（実行）して新しい体験を得ることを優先すべきという訳です。その為には、心がどのような抵抗を示そうとも、自らが宇宙的印象、創造主のささやきには全幅の信頼を置くことを決意する必要があります。

222 In the first part of the lessons we mentioned group cells that are related to the mind and take orders from the mind. 90% of the other cells take orders from the consciousness. Yet they can all be made to take orders from the consciousness, which they must do eventually if the ego is to survive.

222 教科の最初の部分で私達は心と関係を持ち、心の指令を取り入れる細胞群について述べました。しかし、90%のその他の細胞は意識からの指令を取り入れています。それでも細胞にすべて意識からの指令を取り入れさせることは可能ですし、それはエゴが生きながらえる為に、最終的にしなければならないことです。

### 【解説】

私達は自分（心）の意志によって動く、随意筋とそうでない不随意筋等について知るところですが、本項の意味する所も同様な内容を示しているものと思われます。この心の指令に従う10%の細胞群を訓練し、いち早く意識の指導に従う集団に変貌させなければなりません。

本項で言う10%という割合は、人体の恒常性確保に上からは大きな障害になっていることは間違いのないように思います。

これらの細胞を本来の意識の印象に従わせる為には、大きな努力が必要なことは確かです。味覚や嗅覚を永年楽しませ、快い音と外見の美しさのみを結果の世界に追いつけてきた私達の心は、そうした現象面だけでなく、それらの創造物をもたらしたより高次の印象と想念を味わう努力が必要です。

223 Here is an example of grouped cells. First we will use the ones associated with the mind. The mind is alerted to take on food due to past habits for the body needs fuel. But as stated before, the mind does not know what is to be done with the food when it enters the body. But there is a group that does know, and while the mind is entertaining itself with something else this group goes on with its work. I have used this example for years in lectures and class work, but it illustrates very well, so I will use it again. Once the food enters your body the intelligence independent of the mind goes to work on it. We will class these workers in four groups, each working in behalf of the other.

223 ここで群れになった諸細胞の例をお話しましょう。最初は心に関係した細胞群を取り上げたいと思います。心は過去の習慣の結果、食物を摂取するよう絶えず注意を払っています。肉体が燃料を必要とするからです。しかし、以前述べたように心は食物が肉体に入った後、その食物に何が起るかについては知っていないのです。それでも知る集団が居て、心が何か他のことで楽しんでいる間に、この集団がその仕事に従事します。私はこの例えを講演や教室での講義で何年も使って来ましたが、それでもこの一例は大変よく問題を表わしている為、再び用いることにします。ひとたび食物があなたの体内に入るや、心から独立した知性がその食物に対して働きます。私達はこれらの働き手を各々が他の為に働らく4つの集団に分類することにします。

#### 【解説】

「おいしい食事をしたい」とは誰もが思うものですが、その「おいしい」、「まずい」は、私達の心の構成要素の味覚の評価（裁き）でしかありません。以前、裏庭に水を求めて着陸した宇宙船から出てきた宇宙人から御礼にもらったパンケーキはダンボールのように味気の無いものであったという海外のレポートを読んだことがあります。味覚の支配から私達自身を解放することも宇宙時代に向けての課題です。

一方、人体には飲み込んだ後に各種栄養分を消化吸収、分解する細胞群（消化器系）がその後の作業を行っており、それらが順調に進むことで、私達は心地よく過ごすことが出来る訳です。これら細胞群について著者は実質、4つの集団があると、以下に続く本文で解説しています。

わが国でも体調管理の上から、ダイエットの必要性について説かれていますが、肥満の方を見ると、明らかに食事の量が過大であることが分かります。本人は自身の身体維持の為、心が食事をもっと摂るように促しており、味覚に支配され、満腹になるまで食事を詰め込む生活を続けている訳です。従来から視覚については、課題を知るところですが、味覚についても私達は制御する必要があることが良く分かります。

224 The first group starts the fermentation. The second group makes a perfect blend of the chemicals extracted. The next group eliminates the gases that are produced during the fermentation. Finally the scavengers throw off the waste matter that is left. If this process functions naturally you will never know a sick day. But if the cells related to the mind interfere with the cells that are doing the work, by the mind becoming angry, we know what the uncomfortable results will be.

224 最初の集団は発酵を開始します。二番目は抽出された化学物質の完全な混合を造り上げます。次の集団は発酵の間に生成されたガスを排出します。そして最後は、掃除人達が残った廃棄物を捨て去るのです。もし、このプロセスが自然に機能するなら、あなたは決して具合の悪い日を経験することはないでしょう。しかし、もし心が怒ったりすることによって心に関係している細胞達がこの仕事をしている細胞達の邪魔をすれば、どのような不愉快な結果になるか私達には分かります。

### 【解説】

人体の中の食物の分解過程は、本文で言ういわゆる酸素の無い状況下で各種酵素が作用する「発酵」という過程が行なわれます。この発酵を通じて炭水化物や蛋白質その他が人体の消化器官から分泌される消化酵素、更には体内に生存する多様な微生物の働きにより、栄養素に分解され、吸収されることは私達も既に学んでいる通りです。

一方、やや詳細な話になりますが、本文中にあるガスの排出に関する内容は腸の中でガスを排出しようとする腸の運動のことかどうかは定かではありません。

いずれにしても、各自の経験の通り、感情の起伏によってこれらの作用が滞り、体調不良になることは間違えありません。緊張による下痢や便秘など、よく経験する所です。

私達は自らの身体が最も大事として来ている訳ですから、その状態維持の為に、これらの身体内部の作用を常に注視しておく必要があることは明らかです。言い換えれば、最も身近な学習教材である自らの身体内部の目に見えない様々な働きについてしっかり、意識して置くことが大事だという訳です。

ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第06課 段落225 [2012-12-11]

225 This shows that the cosmic plan is orderly, but the mental is not stable and needs guidance.

225 これは宇宙の計画は整然としているが、心は安定せず、導きを必要としていることを示しています。

### 【解説】

私達一人一人は自らを実験台として、想念と身体の関係を学ぶ必要があります。

それは最初、決して心地よいものではありませんが、本来自らを訓練する上で最も有効な方法です。良い想念を保つことは体内の諸々の生命作用にとっても好都合であり、スムーズな運用を保てることから、その持続期間も大幅に伸びることになります。

一方で、仮に苦痛を伴う体験を得てしまっても何らその原因を分析せず、記憶しようとも思わなければ、貴重な学習の機会を失い、身体は消耗するばかりです。

動植物を含め、自然界に生きるものが、皆、新鮮、活発に生きている様子を見るにつけ、人間のような心の問題が無いとすれば、それらを支える身体は各々十二分に本来の機能を発揮していることが理解出来ます。

226 As stated before, the body is made of trillions of cells, grouped for perfect maintenance and operation. No different than the structure of the cosmos, and the body has all of the cosmic force supporting it. And when the human mind is working in behalf of the cosmic plan, instead of self, it never knows any unpleasant effects. For then it is free from discrimination, judgments, and likes and dislikes.

226 以前に述べたように、肉体は何兆もの細胞から成り立っており、それら細胞は完璧なる維持管理の為にグループ化されています。それらは宇宙の構造と何ら違う所は無く、肉体はそれを支える宇宙の力の全てを持っています。そして人間の心が自身の為でなく、宇宙の計画の為に働いている時は、不愉快な結果を決して経験することはありません。何故なら、その時、人は差別や裁き、好き嫌いから離れているからです。

### 【解説】

私達の身体は60兆個もの細胞から成り立っていることは既に知識としては持っていますが、重要な点はそれら細胞が大宇宙そのままに整然とした調和した関係にあるということです。「汝自身を知れ」という言葉がありますが、それは既に私達自身の中にあらゆる宇宙の要素が組み込まれているということです。

現代の科学も各々の細胞から遺伝分子を抽出し、それらを増幅させて構成を調べたりするようになりましたが、大事な点の一つ一つの細胞や分子原子が各々調和して存在するという点でしょう。これらが本項で言う「宇宙の計画」に基づいて行なわれている所が重要なポイントです。

ある意味、宇宙を貫く大きな意図に従ってあらゆるものが生きている訳ですから、私達の心もそれに従って生きれば、摩擦や抵抗もなく柔軟、スムーズに生きられることとなります。

もちろん、この調和ある力、「宇宙の計画」は差別や裁きの無い創造主の意図であり、その意図を具体的に表現することが私達の役割ということになります。

227 The cells in the toe are different from those in the finger but each group is working with the others to make the body a perfect manifestation. And the same power and guidance lends itself to all alike. This is no different than the cosmic expression in the earth's cell structure. For from the lowest expression in the mineral kingdom and through the millions of nature's manifestations the same power and intelligence is expressing in varying degrees. This law is constant and does not change to favor one form, or a planet, above another.

227 足指の細胞は手の指のそれとは異なりますが、それでも互いのグループは人体を完全な創造の現れにする為、共に働いています。そしてそれと同じ力と導きが万物に等しく授けられています。このことは地球の細胞構造における宇宙の表現と違うものではありません。何故なら、鉱物王国における最低位の表現から、そして何百万もの自然の創造の現れを通じてこれと同じ力と知性が様々な度合で表現しているからです。この法則は不変であり、ある一つの形あるものや惑星の便宜を図る為に他に優って対応を変えることはありません。

### 【解説】

とかく手の指の方が足の指より身近で大事なように思ってしまうますが、どの指も等しく無くてはならないものであることは、各自、体験しているところかと思えます。

人体の各部の細胞群のいずれもが等しく人体を支えている訳で。それは惑星の構造も同じだと本文では解説されています。つまり、私達は地表で生活する為に建物を建てますが、その拠り所となる基礎は各々杭を地中に刺して地殻に支えてもらっている等、地殻の鉱物群は私達の建物をも支えていることに気付く必要があります。

また、私達はこれら地殻を掘り出して、自分達に有用な物質や自分達が好む鉱物（宝石）を得ていますが、一方で捨てられる石や砂が果たしてきた「地球を形成する」という役割について私達は気付く必要があります。

過去に生じた地震の痕跡はこれら地表の下に眠る地殻の構成に現れていることは私達の知るところであり、時々見える斜めに傾いた地層の状態からは、一見動かないように見える地殻が実に活発に活動して来たことがよく分かります。

228 The only difference between man and nature is - nature has no will of its own for as stated before, it is under the will of the All Inclusive Intelligence. Man as the highest expression was endowed with a free will mind, and it is here that he has his trouble. For the mind as an effect guides itself by other effects instead of lending its will to the will of the Cosmos. The reason that man was given a free will mind was that he might learn from The Supreme Intelligence the way and purpose of life. And he is endowed with the potential of becoming like his creator and say as Jesus did, I and the Father are One, and when you look at me you see the Father. The Venusians and other planetarians endeavor to express this daily by willing their minds unto conscious guidance. And we must do this if we are to fulfill our purpose.

228 人と自然の間の唯一の違いは、以前述べたように自然は自身の意志を持たないということであり、それは全てを包む知性の意志の下にあることです。最高位の表現物である人は自由意志の心を与えられており、そのことが人が問題を抱える所となっています。何故なら一つの結果物である心は宇宙の意志に自らの意志を貸し与える代わりに他の結果物で自らを導いているからです。人が自由意志を与えられているのには人は最高位の知性から人生の歩むべき道と目的を習うだろうと期待されているという訳があります。そして人は創造主のようになり得る能力を授けられていますし、イエスが私と父とは一つである、あなたが私を見る時、あなたは父を見ているのだと言ったようにです。金星人達や他の惑星人達は彼らの心を意識の導きに喜んで従わせることによってこのことを表現しようと毎日努力しています。そして私達も自分達の目的を達成するつもりなら、同じことをしなければなりません。

#### 【解説】

自然界にあるもの全て、鉱物から動植物に至るまで、人間を除くあらゆるものは、それ自身の意志を持たず宇宙の英知の下に生きている一方、何故人間が自由意志を与えられたかが説かれています。

自然界の他の生きもの達は自ら学ぶ必要はなく、既に宇宙英知に従った行動をとっている訳ですが、人間は違うというのです。人間は自ら努力して、その生きる目的を学び、創造主の意志に自ら近づくことが期待される為、自ら学ぶ上で必要となる自由意志を与えられたのです。

究極にはイエスの言葉のようになる訳ですが、実はそれ程に完成した人物がイエスという存在であったこと、また金星をはじめとする他の惑星の文明も同様な進化を日々遂げる中で実現していることを本項は説いています。

229 After thousands of years of living as we have, becoming habitual individuals, we have created habitual cells in relation to the mind. And habits do become hungry for their own food. i.e. An alcoholic's mind knows that it is not good for the body to go to extremes, but the habit is the master of the mind. The mind lost the strength of its will and the power of determination to oppose the habit so it continues as a slave to the habit. And this is true of all habits, for most of them operate in extremes. This does not mean that you cannot take a drink or do similar things, for all things are good in moderation. But it does mean that one should be determined to be the master of his life rather than have the habits master him.

229 私達は何千年もの間、このように生き、習慣的な個体となった結果、その心に関連した習慣的な細胞を造り上げてしまいました。そして諸習慣はそれら自身の食物を求めて腹を空かせるようにさえなるのです。即ち、アルコール依存の心はそれが程を越して極端になれば肉体に良くないことを知っていますが、それでも習慣がその心の支配人になっています。心はその習慣に反抗する意志と決心の力を失った為、その習慣の奴隷となり続けるのです。しかもこれは全ての習慣について言えることです。何故なら、それらのほとんどが極端に作用するからです。このことはあなたが一杯飲んだり、類似した事柄を行ったりしてはならないと言うことではありません。何故なら、全ての物事は適度であれば良いことだからです。しかし、人は諸習慣が自分を支配するのではなく、自分が自身の人生の支配人になることを決心すべきことは確かです。

#### 【解説】

「習慣の奴隷」を克服することは私達の最大の課題ですし、私達の多くは毎日を決まりきった生活パターンの中で生きていることも確かです。もちろん一面ではそれは止むを得ない事情ではありますが、惰性で毎日を送ることは厳に慎むべき事柄です。その中であって私達は無作為に時を過ごすことがあってはならず、そのようなことは本来の生命活動とは反するものです。

その結末として、私達は永年の心の指令に仕える細胞群を自らの体内に形成し、今度はそれらが支配者となって、本人の行動を左右する段階に至ると著者は警告しています。アルコール依存や薬物中毒など、極端な例もありますが、私達一人一人類似した細胞群を抱えていることは確かです。

このような習慣細胞の指示に従うことなく、自らの意志でご自身をコントロールし、習慣の奴隷になることなく、あらゆる分野を適度に楽しめと著者はまとめています。まずは習慣性の有無を点検し、毎日新しい側面を探求することです。日々是新とはそのような生活姿勢を言う言葉です。

230 And this can only be done by allowing the consciousness with its unlimited power and knowledge to put the house in order.

230 そしてこれは無限の力と知識を持つ意識にこの家の中を整頓させることによってのみ、なされ得るのです。

### 【解説】

宇宙の意識に身体の中を一度、大掃除してキレイにしてもらおうということでしょう。古い習慣に染まりきった細胞達の波動を一度、リセットさせて、本来の姿に戻す作業が必要な訳です。

これらについては従来、滝に打たれる等の修行がありますが、そのような修行の中には日常習慣や感覚の支配から一度心身を解き放ち、本来の生命の流れに従うきっかけを得るような要素があったのかと気付く次第です。

私達は必ずしも滝行のような極端なことは行なわなくても、日常的にその意義を自覚し、意識から来る助言の印象に100%従うよう、心して置くことがより重要です。

231 Once the mind realizes its weakness that has caused much unpleasantness during its life, it should then be determined, even though it is painful at the beginning, to lend itself to conscious guidance. These obstacles could arise when it tries to do this ; A thought of fear of losing its identity and authority that it has had during its domination even though it encountered many mistakes and uncertainties on its path of self-will. For lacking knowledge, it followed effects with no more knowledge than it had as it repeated mistakes, and alibied for them with a hope of bettering its position instead of correcting the mistakes.

231 ひとたび心がその生涯の間に多くの不愉快な体験をもたらした心の弱さを自覚したならば、心ははじめは苦痛と覚えることがあっても、それ自身を意識の導きに委ねることを決心すべきなのです。これを為そうとする時にはこのような障害が発生することがあり得ます。つまり、例えその自己の意志の道筋において数多くの過ちや不安定状態に遭遇したとしてもその支配の間に得ていた心の独自性と権威を失うことへの不安感です。何故なら心は知識が不足している為に、それ自身と変わらぬ知識しかもたない諸結果物に追従し、過ちを繰り返しており、それら過ちを修正することに代えて自分の地位をより良くしたいと思ってアリバイ作りを行って来たからです。

### 【解説】

私達は先ず、自らの「心」の限界について知ることが必要で、その自覚を踏まえて意識から来る印象に従った行動体になれるよう、一步一步の歩みを始めるということです。

もちろん、その辿る道は心にとっては未知の世界であり、試行錯誤は避けられません。しかし、少しずつでも足掛かりがつかめれば前進出来ることは山登りにも似ています。進むにつれて物事の全容も見えて来る筈です。

これまで私達は失敗を恐れ、結果物として目の前に残るものを唯一の頼りとして、また他人に裏切られないよう注意しながら生きて来ました。また他人から良い評価をされたい為に面子を重視して来ました。しかし、意識主体の生き方は、これらしがらみとは一切関わり無く、新たな幼児となって、意識から学ぶ姿勢をとる必要があるという訳です。

232 This is no different than a mother who refuses to believe that her child can do anything wrong, and will not correct it. Eventually the child suffers with the parent because the parent failed to strengthen the weakness that was showing up in the child. This was caused by the mother's fear of recognizing the weakness in the child. And she added weakness to weakness instead of correcting it. Finally the mother had to face the truth, she could no longer avoid it and it was far more difficult than it would have been in the earlier stages.

232 これは自分の子供が何ら誤ったことをする筈がないと信じて、子供を正そうとしない母親と変わりありません。しかし、最後は子供がその両親に苦しむことになります。何故なら両親はその子供の中の弱さに対して強くすることに失敗したからです。これはその母親が子供の中にある弱さを認めることを恐れていることによってもたらされたのです。そして母親はその弱さを正す代わりに弱さの上に弱さを付け足して来ました。遂には母親はその真実に直面せざるを得ず、もはや避けることは出来ず、それは早期の段階に比べてはるかに困難なことになってしまったのです。

### 【解説】

私達は真の自分自身と自らの心（エゴ）をしっかりと区別し、心（エゴ）の持つ課題に対してしっかりした対応を執ることが重要な訳です。とかく心を放任している私達は、自らの心の示す欲求そのままに行動して来た結果、本来の歩むべき道から大きく外れてしまいました。

しかし、毎朝の目覚めから一日が始まるように、心も眠りの間は一度リセットされ、毎朝ある程度新しい状態からスタートする訳で、是正の機会は毎日あるように思います。基本は本文に書かれているように、本来の私達自身がどのように自分の心と対峙するかの問題であり、本件に関する限り他者は一切係りありません。うまく出来ないからといって誰かに言い訳をしたりする必要もなく、ひたすら自分自身と向き合う中の日々の精進ということになります。

233 Did not Jesus say, he who is trying to save his life shall lose it? Isn't this what the ego is afraid of by giving up its will to consciousness? This is also a lack of faith in the Creator whom we call God. For Jesus also said, he who gives up his life shall find life eternal. Meaning, he who gives the will of the ego unto the will of consciousness shall partake of life eternal. For consciousness is eternal and proceeds all forms. And without it there would be no forms, for an unconscious form is a dead form.

233 イエスは自分の命を救おうとする者はそれを失うとは言わなかったでしょうか？これはエゴがその意志を意識に差し出すことで恐れていることを指すのではないのでしょうか？これはまた、私達が神と呼ぶ創造主に対する私達の信頼の不足でもあります。何故なら、イエスはまた、自分の命を捨てる者は永遠の生命を見出すとも言いました。それはエゴの意志を意識の意志に譲り渡す者は永遠の生命を共にすることになるという意味です。何故なら、意識は永遠であり、万物を先んじているからです。そして意識無しには如何なる形有るものも存在しません。意識の無いものは死んでいるものだからです。

### 【解説】

本項の主旨を言い換えれば、私達はそれ程の覚悟で自分の心（エゴ）を捨て去る決心をする必要があるということでしょう。「全てを捨てる」とは一遍上人が著名ですが、その捨て去ろうとしたものは、必ずしも身に付けていたもの、物品ではなく、私達の心（エゴ）の意思であったように思われます。

意識からそっと寄せられる印象にひたすら従い、素直に行動出来る自分にする為に、私欲を捨て、過去のしがらみを解き払うことによって、私達自身（エゴ）を意識の海の中に解凍させるというイメージかと思えます。

全ての物事に先行して存在し、その結果を創り出す意識なるものの存在と自然に交流できるようになることが私達の願うところです。

お知らせ [2012-12-31]

本日は早くも大晦日。この一年、多くの皆様にご覧戴くことが出来ましたこと、改めて感謝する次第です。

年末年始はいつもとは違う生活パターンになる為、ブログ更新はお休みさせていただきます。

次回の更新は1月7日の予定です。

皆様、良いお年をお迎え下さい。

竹島 正

234 The happiness which man feels within his heart and for which he searches can never be realized until he blends his will with the will of consciousness. Any more than the drop of water, remaining by itself can know the vastness of the ocean. When man realizes this he will know his true identity for the first time. And will no longer live in the shadow of his reality, influenced by every wind that blows. And there will be rejoicing in heaven when the prodigal man returns to the household. But this will take a profound determination on the part of each human, with an unshakable faith. For he will have to give up his egotistical pride and face whatever is presented to him.

234 人が自分の胸の中で感じ、探し求めている幸福は、自分の意志を意識の意志に融合させない限り、決して実感することはありません。孤独であり続けた水の一滴が大洋の広大さを知ることと大差はありません。人がこのことを悟ったなら、その者は初めて真実の主体性を知るでしょう。そして吹きすさぶものもの風に影響され、自身の真実の姿の陰に生きることはしなくなります。そして放蕩息子が家に戻った時には天国では祝賀があることでしょう。しかし、これには個々の人間の側に不動な信頼感を持った上で心からの決心を必要とします。何故なら、如何なるものが現れているかに関わらず自己中心的な自分のプライドとメンツを諦めなければならぬからです。

### 【解説】

意識と融合しない限り、真の平和や幸福はないという訳です。多くの聖人はその状況に達した為に、その行動を通じて聖人たる成果を残したということでしょう。

しかし、一口に自我を捨てると言っても、その実現には各自の努力と工夫が必要です。その中で、とかく私達は自分ほどの道を教えることが出来るとする教師にすがり易いのですが、実際には従っても多くはうまく行かず、逆にその道から外れる結果になってしまうことも多いのです。

このように他人を頼りにすることなく、とにかく自分で納得するまで、観察を続けること、自然を研究することが重要です。その中で自然現象の中に生きる法則を知れば、それに自分を合わせれば良い訳です。

宇宙の中では数え切れない惑星世界があり、各々の中で生命の活動があり、それらと一体になれば、それ以上、望むものはありません。

235 The story of the Prodigal Son in the Bible gives us a good insight as to what must take place. The mind of the prodigal son is a portrayal of all minds. For he, after deciding to return, had to humble himself and cast aside all of his pride, willing to face whatever might come. Knowing full well that some of the household would point fingers at him and remind him of his bad deeds. Yet he knew that their life was not his life. And they had not had the experiences he had gone through, even though they may have had similar ones. Knowing all of this he was still determined to conquer the will of his mind and return to the will of his real self - the consciousness - the Father of all forms.

235 聖書の中の放蕩息子の物語は私達に何が為されるかについて良い洞察力を与えています。放蕩息子の心はあらゆる心を表わす肖像画です。彼が家に戻ることを決心した後は、如何なる事態が来ようとも喜んでそれに直面し、自分を謙虚にし、自分のプライドをことごとく脇に捨てなければならないからです。家の中のある者は彼を指差して彼の悪事を彼に思い出させることも十分知っていたことです。しかし、それでも彼はその者達の人生は彼のとは異なっていたことは分っています。そしてその者達が彼と類似した人生であったとしても彼が通った体験はしなかったであろうこともです。これらの全てを知った上で、彼はそれでも自己の心の意志を克服し、彼の真の自己、意識、万物の父の意志に戻ることを決心したのです。

#### 【解説】

日本語では「放蕩息子」と訳されてきた"Prodigal Son"の"Prodigal"には「浪費」の意味合いがあるということです。つまりは与えられた資源（環境）を長年浪費して来た人間という意味も含まれている訳で、環境汚染はその代表例かと思います。私達は与えられた環境や時間を浪費したまま今日まで、生命の源である「意識」の元に帰ろうとして来なかったということです。

日本語には「改心」という表現がありますが、真に心を改めて生命の源に帰依することが求められています。その為には一人一人の揺るぎない決心が必要で、これまでの悪事や浪費を認め、文字通り心を入れ替える必要があるということです。

236 Upon his arrival home his ego received a surprise. For his father had a banquet prepared for his wandering son and welcomed him with open arms as though nothing had ever happened. For when an ego conquers itself-there is no greater victory and rewards for the efforts are unlimited. And the individual is endowed with all of the needs of life, wanting for nothing.

236 彼が家に着いてみると、彼のエゴは驚きを受けました。何故なら、彼の父親は放浪していた自分の息子の為に祝宴を用意しており、まるで何事も無かったかのように彼を両腕に抱いたからです。それはエゴが自分自身を乗り越えた時、それにまさる勝利は無く、それに至る諸々の努力への報いは限り無いものだからです。そして、各自は生活の必需物の全てを授けられ、何も不足することは無くなります。

### 【解説】

よく聞く聖書のお話です。物語としては良く分かる内容かと思いますが、その本旨は私達にとってどのような内容を示唆しているのかについては、よく考える必要があります。

私達が自らのエゴの限界やそれが仕出かしてしまっただけの誤った行動の数々を悔い改め、新しい生き方を定めて困難な道を進み、やがて生命の全体像を理解するに至った時、私達は自分が本来生まれたばかりの恵まれた状況の有難さを再認識することでしょう。

そしてその中では誰もが自由に豊かに暮らして行ける訳ですが、その物語はそうした創造主を両親とする一大家族の一員として暮らす豊かな生活があることを私達に教えているように思うのです。

もちろん、その生活に入る為には怠惰やわがまま、所有欲等々のエゴの問題を解消しておく必要があり、死さえも苦にならないような生命の根源に対する絶対的な信頼が前提となる訳です。

夜空を見上げると星達と心を通わせられるような心境になれば、着実にそれら素晴らしい生活に一步近づいていることとなります。

237 In the prodigal son there was still one small part that accused itself of wrong doing which was symbolized by the son who had never left the household. For in every individual the original spark remains. That is the only hope for the straying one to be drawn back to his original place. So the small original spark reminded the prodigal son of his deeds. But this was soon overcome by Cosmic Consciousness for it knows no judgment or discrimination. But it takes a great determination to accomplish this victory and lose the self as an ego in the COSMIC SEA OF CONSCIOUSNESS.

237 放蕩息子の内部には家を出たことのない息子として象徴され、誤った行動を叱責した小さな部分が依然として存在します。各個人の中には原始のきらめきが残っているのです。道に迷った者にとってはそれが自分の起源に戻される為の唯一の希望でもあります。ですから小さな原始のきらめきがその放蕩息子に自分の行動を思い出させるのです。しかし、これは宇宙意識によって直ぐにも征服されてしまいます。何故なら宇宙意識は如何なる裁きも差別も知らないからです。しかし、意識の宇宙的大海の中でこの勝利を得て、エゴとしての自己を捨てる事が出来る為には一大決心を必要としています。

### 【解説】

この放蕩息子の物語は私達自身の中で起こっていることを示唆しているように思われます。つまり、家そのものが私達自身であり、その中に私達自身の中のエゴの部分、更には本項で言う家を出たことのないもう一人の息子、更に私達の両親、言い換えれば本シリーズで言う「意識」が暮らしているという訳です。

私達はこれまで、外界に目標を求めて自らの家を出て、外の世界に出て放浪の旅を続けていました。しかし、その放蕩の結果、辿りついた結論は自らの家の中の両親の有難さでありました。

結局は何をするにしてもその基本能力を高める必要がある訳で、自らの生命を授けて呉れた創造主から多くを学ばねばならず、やみくもに家を出てはいけなかった訳です。

このことに気付き、自らの限界を悟った後に、家に戻ると両親は暖かく迎え入れて呉れるということは重要なポイントでしょう。創造主は常に暖かくエゴを捨てた私達を迎え入れて呉れ、惜しみなく愛情を注いでくれるのです。そのことに私達が気付いたことに意識は大いなる喜びを感じて下さると言うことです。

238 This is re-newing the mind and born again, as Jesus said. For one really dies as an ego pride will only to be born in the Will and the Glory of the Cosmos. Like the drop of water that finally becomes the ocean of water by uniting with it, no longer just a drop.

238 これはイエスが言った心の再生であり、生まれ変わります。何故なら、人は実際には一つの自我のプライドとして死ぬと宇宙の意志と栄光の中に生まれ変わることになるからです。ひと粒の水の一滴が大洋と結びつくことによって遂には大洋になり、もはや一滴の水では無くなるのと同様です。

### 【解説】

プライドを捨てて自らを意識から来る印象に従わせることを徹底することは、ある意味それまでの自分が死んで新しい存在に生まれ変わることの意味を意味します。前項にあったように放蕩息子が帰還することはそれまでの自分の過ちを認めて、両親である意識に改めて従うことでもあります。

おそらくこの場合、人格も一変するような人生の一大転機ともなる筈で、真理についての覚醒が生まれる瞬間でもあるのでしょう。

同じものを見ても同じ音を聴いても、感じる内容は実にその本人により大きく異なります。ちなみに毎朝、本シリーズの草稿を考えるのは東京に向かう通勤電車の中なのですが、今の季節、丁度日の出の時間帯になります。東の空から大きなオレンジ色の球体が走る電車の中からも分かる程、目覚しいスピードで昇って行き、私達を含めあらゆる者に朝の光を授けています。そのオレンジ色の輝く球体は何か優しい観音様のように皆の者に暖かさや光を与えて呉れるようです。自分の中に観音様が飛び込んで来るような印象で、大変ありがたく思うものです。もちろん、客観的にはこれらの事象は毎日起こる訳ですが、大事なのはそこから発せられているだろう印象にどれほど、鋭敏になれるかであろうと思います。

ひとたび自我を自ら捨て去って、意識の下で暮らす時、実は毎日が驚くほど色彩豊かで美しさに満ちたものであることが分かるようになるものと思われまます。

239 And it makes no difference how many books you read, or how many religions you embrace, or how many courses you may take and teachers you may have, not any of these will bring this reality to you unless you do as the prodigal son did. Die in the pride of the will and the ego and be reborn in humility and the WILL OF CONSCIOUSNESS.

239 そして貴方が如何に多くの本を読んだかとか、如何に多くの宗教を奉じたか、如何に多くの教科を受講し教師を得たかといった事柄は貴方がその放蕩息子がしたように行わない限り、そのどれひとつもこの現実を貴方にもたらしものではありません。自分の意志のプライドと自我を葬り、謙虚と意識の意志の中に生まれ変わることです。

### 【解説】

自分と真剣に向き合わなければ何をやってもダメだということでしょう。確かに他人（ひと）から話を聞いたり、本を読んだりして、その時は納得したように思えても、振り返って自分自身の心の動きの実態を観たり、対する自分自身の親とも言える意識の働きについて知ろうとする努力がなければ、それは一過性の気分で終わってしまうのではないのでしょうか。

自分自身がこれからどう生きようとしているのか、自我を捨てて、意識の印象に帰依することが何よりも優先すべき問題である訳です。

著者は様々な箇所で人間を家に例えています。その家の中に両親（意識）と暮らしているのが私達なのですが、その本来の家からさまよい出てしまった所に今日の問題がある訳です。なお、家にある窓を私達の心（感覚の心）に例えていること（「生命の科学」第396項）も興味深いものがあります。外界の情報を伝える窓自体が勝手に光景を判断し、それを自分の解釈を加えて着色するところにも問題がある訳です。自分の家でどう暮らして行こうとするのが、問われています。

240 And you do not have to give up anything that you enjoy in life now, but replace the extremes that are indulged in with moderation. And permit your mind to see God manifesting in all forms of life and in every cell that makes up the form. For the life of any form and that of a cell is the life of God expressing in varying degrees through the many forms.

240 そして貴方は現在の生活で楽しんでいるどのようなものも諦める必要は無く、ただ欲しいままにしている極端さを適度さに置き換えるべきなのです。そして貴方の心をして、あらゆる生命の形あるものの中、そしてその形を作り上げている一つ一つの細胞の中に神の現れを見させることです。何故なら如何なる形あるものの命、細胞一つの命も皆、様々な形あるものを通じて多様に表現される神の生命であるからです。

### 【解説】

意識に従う生活の中で、何か特別な制約がある訳ではなく、従来どおりの生活をして良いとしている点に注目です。特別な「行」に専念して、従来の暮らしを捨てるようなことはしなくても良いと教えているのです。更に自分の趣味も極端にならない範囲内で続けて良いとしています。

重要な点は、「あらゆるものに創造主の現れと意図を見よ」ということです。通常、私達の目はものの外観しか認知しませんが、同時に因から来る印象を感知することで、その内部の精妙な生命活動をも知覚できるようになるという訳です。このことを最も重要視して取り組めとしています。

その為には、印象を心が感知する必要があり、先ずは心自体があらゆる存在に対して謙虚になる必要があります。印象を受けるにはその発信者を先ずは受け入れる必要がある訳で、創造主からの印象を受けるには、私達の側に発信元である創造主を受け入れる態勢がなければなりません。

241 Then you will begin to live as the Venusians and others do and discrimination will no longer be a part of your life. When you are able to do this and every one is, your mind shall witness things of far greater beauty and peace than you have ever known. And your body will manifest the evidence of the perfection to be.

241 そうすれば、貴方は金星人達や他の人達のように生活し始めることでしょう。そして、はや差別は貴方の生活の一部になることはないでしょう。貴方がこのことを成し遂げられる時、また誰でもそうですが、これまで知らなかった遥かに偉大な美しさと平安さを目撃することになります。そして貴方の肉体はその完璧さの証しを体現するようになるでしょう。

### 【解説】

このように私達が本来の心のありよう、即ち意識からの印象に頼って生きるようになると、変化が生じるとしてあります。それは本項にあるように、いわゆる美しさに対する感性が高まるという訳です。

状況は各自の背景やこれまでの歩みによって異なりますが、私が個人的体験を基に言えることは、風景や事物、他者に対する感性が高まることに、間違いはありません。他人（ひと）が見落としている美しさや自然の光景に極めて鋭敏になれる気がします。

これらはほんの一端ですが、印象に鋭敏になればなるほど、芸術性の高い暮らしが出来るものと思われ、また身体の健全度も増すものと思います。写真や絵画等の腕前も上がるかも知れません。

242 And all of this is present within you now, like the feeling of how you would like to be treated by others, so just return the same to all forms of life. But do not give up because you do not succeed on the first, second or third try. Just become more determined to master the situation. And the more determined you are the better the results will be.

242 そしてこの全ては、丁度、他の者にそう扱われたいと思う気持ちのように現在の貴方の中に存在しますので、ただ生命のあらゆる形あるものに同じことを返せば良いのです。しかし、貴方が一度や二度、三度の試みでうまく行かなかったからといって諦めてはいけません。その状況に熟達するにはより深く決意すれば良いだけです。そしてより深く決意すればする程、より良い結果が付いて来ることでしょう。

### 【解説】

こうすることで生まれる自身の内側の平安を、自分が意識から授けられたように、他のいわゆる生物、無生物を問わずあらゆるものに与えよということです。

しかし、その努力も最初の内はうまく行かないかも知れないが、それを続けよと言っています。私達は通常、自分の要望を念ずることはあっても、他者に対して自分が望むような幸せを捧げようとはして来なかったことを反省すべきでしょう。奉仕とはそのような行動を示すものです。

これらの生き方が指針になれば、この地上も世の中、次第に良くなって行くことは間違いありません。私達が本講座のような学習を続けることの意義の中には、自身の成長に加えて、私達自身が他者に対して良い影響を及ぼすことが期待されていることがあります。

一つ一つは砂粒ほどの大きさでしかありませんが、それらが互いに影響を及ぼすことで、広大な砂浜全体が輝く存在になるのと同様です。

243 At first it will seem like an impossible task, but everything at one time looked impossible, even learning to walk. But constant diligence brings success. Seldom does man find gold on the surface and so it is with this. Man must dig deep to see reality.

243 最初はそれは不可能な任務のように見えるでしょうが、歩くことを学ぶ時でさえそうであったように何事もかつては不可能に見えたものです。しかし、変わらぬ勤勉さは成功をもたらします。金はめったに地表に見つけることはなく、このことも同様です。人は現実を見る為には深く掘り進めなければなりません。

### 【解説】

一度、本を読んだからといって著者が伝えたかったイメージを正確に掴むことは難しいものです。まして長年暮らしてきた生活を見直して真の自我に気付き、意識の偉大さを実感、その声を聴けるようになるまでには相当の努力が必要でしょう。

しかし、著者はこれは真面目に取り組めば、赤子が歩けるようになるのと同様、必ず実現できるとしています。そもそも私達の生きる目的がそこにある以上、私達は少しぐらいの失敗で諦める訳には行かないのです。

その為には、いたずらに表層的な事象に囚われることなく、物事の本質や深層について理解しようと研究することが重要だという訳です。とりわけ各自の日常的生活の中での心の活動や意識から来る印象類についての観察は重要な所です。観察はしていてもとかく心の抱く時々感情に流され、気が付くと客観性を忘れてることが多々ある訳で、実践は容易ではないのですが、少しずつでも心の動きを観られ、印象にも鋭敏になれる自分であるよう努めることが肝要です。

244 Of what value is a talent if you do not use it? Suppose you have the talent of a great artist and know it, but all you do is to think and dream about it. And never bring it forth into reality which takes action to accomplish, so you never profit from it. You do not even prove to yourself that you could manifest your dreams and make them a reality. So all of your dreams and prayers regarding your talent are still unknown and remain in the dream state. And this will continue until you decide to express your latent ability. For then and then only will you prove to yourself that it is real and livable. And so it is with self development - the potential of all that we have spoken of is within you, but it will not do you or anyone any good as long as you do not bring it forth.

244 もし貴方がその才能を使わないとするなら、才能に何の価値があるでしょう？ 貴方には偉大な芸術家としての才能があったとし、貴方がそれを知っているけれども、貴方はそのことを考え、夢見ているだけの状況を考えて見て下さい。そしてそれを達成するには行動を必要とする現実世界にそれをもたらすことが無かったとすれば、貴方はそれから何らの利益を得ることは有りません。貴方は自分の夢を形に表わし、それらを現実に行うことができるということを自分自身にさえ証明していません。ですから、貴方の才能に関する貴方の夢や祈りの全ては未だ知られることなく、夢の状態に留まっています。そしてこのことは貴方が自分の潜在する能力を表現しようと決意するまで続きます。時として、貴方はそれが本当であり、生きたものであることを自分自身に証明することしかないので。ですから、それは私達がこれまで話して来た貴方の内部にある全ての可能性である自己発達とも同期していますが、それは貴方が現実化させない限り、貴方や誰に対しても良いことをもたらすものではありません。

#### 【解説】

私達各人の内部にはこのように溢れるばかりの才能とそれを授ける英知が備わっている訳ですが、それを現実の形に表現する為には、各自、自らが行動を起こす必要があります。実は英知はそれを期待して才能を授けているのです。

しかし、私達は多くの場合、夢ばかりを語り、それを具体的な行動として現実世界に適用しようとはしないようです。一步踏み出すことには、決意と一段と進んだ"英知への信頼"が必要だからです。行動を通じて新しい体験が生まれ、自らの欠点も明らかになる訳で、行動をして見なければ、新しい展望は掴める筈もありません。

その為には古い習慣を潔く捨てて、常に新しい展望を求めて研鑽を続けることが重要で、新しいテーマに挑戦する姿勢は年齢にかかわらず無く持っていたいものです。

245 You must re-create your ability by manifesting it in your daily life. And then you will prove to yourself that you can live that which you have been consciously aware of. Thereby it will not only serve you, but others also by your example.

245 貴方はそれを日常の生活の中で体現させることによって貴方の能力を再創出させなければいけません。そうすれば、貴方自身に貴方がこれまで意識的に気付いていたことを生き通せることを証明することになるでしょう。そのことによって、貴方に役立つばかりでなく、貴方の事例によって他の者にも役立つことになるでしょう。

### 【解説】

「人間、思い通りの者になれる」とは古今東西、言われている所です。自分が抱く人生のイメージは自ら実証出来ることは大事なポイントです。

その為には、その抱くイメージは常に清廉であるべきで、自らの事例を他者に影響を及ぼす意味からも、優れた模範になるべきことは言うまでもないでしょう。私達が取り組む一人一人の人生は、他者に影響を与えることにより大きな意義があるのです。

しかし、前述のようにその実現の為には、意識への盲目的とも言える信頼と新しい分野に飛び込んで行く勇気も必要ということになります。自ら目指すものを正しく設定すれば、その実現に向けた一步を踏み出したことにもなる訳です。

246 Examples have been used in many ways. i.e. If a dictator wants to dominate his people, he destroys those who, oppose him, as an example to others. If examples can be used in this way, why can't we set a fine example for the world to follow? We can with action and not just words and dreams. And this can be done only by living the things that we know. We must be honest and truthful to our better self before we can be honest and truthful to others. We must trust our consciousness if we expect other conscious entities to trust us.

246 例示というのは様々な方面で用いられて来ました。即ち、独裁者がその人民を支配しようと思うなら、反抗する者を他の者への見せしめとして滅ぼします。仮に例示というものがこのように用いられ得るとすれば、何故私達は世界が従うような素晴らしい例示を打ち立てようとしないのでしょうか。私達は単なる言葉や夢でなく、行動によってそれが出来るのです。そしてこれは私達が知っている事柄を生きることによってのみ、行い得るのです。私達は他の者に対して正直で誠実である前に私達のより良い自己に対して正直で誠実であらねばなりません。他の意識ある存在が私達を信じてくれることを望むなら、私達は私達自身の意識を信頼しなければなりません。

### 【解説】

空に出現する虹のように自然は時々、私達に美しい光景を見せて呉れます。これらは創造の世界の一端を私達に垣間見せているもので、私達はその光景から改めて壮大な創造の力の大きさと美しさを実感するものです。

本講座を学ぶ私達は、既に第6課の終盤に差し掛かっており、著者は私達各々に各自実践して得た内容を他者に示すように求めているのです。各自が周囲の人達に生きる手本を示し、この学習の内容が真理に基づいていることを示して欲しいと願っているのではないのでしょうか。

もちろん、その内容は単に知識としての「生命の科学」ではなく、各自が理解し実践した経験であることが必要です。半歩先に進んだ者が後続の者の為に体験を伝授するという訳です。言い換えれば私達もそろそろ具体的なる応用事例や体験を語るべき段階になりつつあることを自覚すべきなのです。

247 Yet to live this new kind of life among the many who do not, one must have unshakable faith and patience in order to endure. For everyone will not grasp the idea immediately, humanity is very slow to change. But change it must if it is to survive. And pioneers in any field must be strong and determined if good results are to be realized.

247 しかし、この新たな生活を送る為には、そうではない多くの人達の中にあつて、人は耐える為に揺るぎない信頼と忍耐を持たねばなりません。何故なら、誰でもその概念を直ちに掴み取る訳ではなく、人間性とは変化するのに大変遅いからです。しかし、生き延びる為には変化しなければなりません。そして先駆者はどの分野にせよ、良い成果が実現される為には、強く決意しなければなりません。

### 【解説】

この意識の指導、印象に従った生き方は私達にとって初めての分野であり、一般世間の中に生きながらその実践をして行くことは容易なことではありません。まして今日ではTVその他多くのメディアが惰性的な情報を流しており、また一方では激しい競争社会の中で正しい道を生き抜く為には大いなる決断と実行力が求められます。

著者はこのことを良く理解した上で、私達に他の模範となるよう、また後続の者達を導くような存在になることを求めています。生きた実践を示すことが何より重要だからです。

とかく世間の風潮や自身の生活パターンに流されがちの毎日ですが、少なくとも今日一日、新しい発見、新しい試み、新しい体験を行動を通じて身に付け、他者に伝えられるよう秘めた決意をして向き合いたいものです。

248 We must build on a rock foundation and not on shifting sand. So that when diversity and opposition cause a storm in our life we can stand firm and not be swept away because of a weak foundation.

248 私達は転じやすい砂の上では無く、磐石の土台の上に建物を建てなければなりません。それは、多様な変化や反対が私達の生活に嵐をもたらす時、私達が弱い基礎のせいで流される代わりにしっかり建てられる為です。

### 【解説】

何事も基礎が大事であるという訳です。即ち、少しばかりの、理解が浅い丸呑みの知識では先々寄せる世間の荒波に耐えることは出来ません。いたずらにテレパシーやその他の能力のみを志向して行くと、世間の誘惑に立ち向かうことは出来ないものです。

先ずは目に見えない「意識」の存在にどれほど気付き、自らの肉体を存続させて下さっていることに感謝しているかが重要で、その上で自らの心を律する鍛錬が必要でしょう。しかし、これらの鍛錬は自ら求めなくても日常生活を送る中で機会は訪れることになります。様々な誘惑が訪れ、日々試される訳で、それらに対して自分がどのような行動をとり易いかを、先ずは観察し、その実態を学習する必要があります。

その際にポイントとなるのは、「意識」への全幅の信頼と畏れかと思えます。至らない自分を最後まで面倒見てくれるその存在を裏切ることのない人生を送ることだけが進化の道ということになります。

249 The goal we seek to attain should be all that matters and no obstacle should prevent us from attaining it.

249 私達が到達しようとしているゴールは大事なことの全てであるべきであり、如何なる障害も私達がそれを達成することを妨げることがあってはなりません。

### 【解説】

目指す目標は各自異なるものであっても、それら全ては許容され、思うままの発展発達が出来るとしてあります。真の自由意志の発現です。

元来、創造主は各自に様々な才能を与えている訳で、各自の望まれた方向に本来の能力を発揮すべきことは言うまでもありません。また次なる人生の為に下勉強も重要です。

当課は「新しさ、すなわち若返りの推進役」がタイトルになっている通り、日々新たに更新される概念、いわば「生きている」波動全てが私達に語り掛けるヒントに沿って、新しい自分を開拓して行くことを著者は私達に託しているのです。

250 As man is not a man without a memory, then his memory is essential for the continuance of life. And the reason that most people do not remember their past experiences through various lives is because the mind never learned to memorize the important values gained. It has depended upon effects which are momentary and they come and go, especially the ones that we call unimportant that the ego feels are of little value.

## 生命の科学－学習コース

### 第7課

#### 宇宙的記憶

250 人は記憶無くして人ではない以上は、彼の記憶こそ生涯の連続にとってかけがえのないものです。そして、ほとんどの人々が彼らの過去の諸経験を思い出せないのは、心がこれまで一度として獲得した重要な価値を記憶することを学んで来なかった為です。心は時にやって来て、また過ぎ去る諸結果に頼っていて、特にエゴが感じる事柄は私達はほとんど価値がないものと言うことができます。

#### 【解説】

私が私である所以の源は記憶にあると本項は明示しています。正しい適切な想念と行動は正しい（あるべき）記憶を蓄積するでしょうし、また逆もそうなる訳です。

よく言われることの中に同じ場所で同じような状況下に居ても、ある者はそこに美しさを見出したり、感動する場面を見つける等、印象深い体験を得るのに対して、別の者はこれら一切に気付かず過ぎて終わってしまうことがあります。この内、どちらが有益であったかは明瞭でしょう。

私達は日常生活の中でも世間のどうでもよい事柄、即ち自身の永続する記憶として大切にしたい体験と、そうでない物事とがある訳で、自分自身が大切にしたい事柄については十分、自覚して記憶しようと思わなければなりません。

人生経験が生きる過程で次第に豊かになるべきで、私達はこれら体験やそれに関わってくださった方々に感謝する毎日であるべきでしょう。

251 Ordinary routine becomes habitual and governs the ego, but this cannot be called a memory. And unless man cultivates Cosmic memory he becomes nothing.

251 通常の日常仕事は習慣となりエゴを支配しますが、これは記憶とは呼べるものではありません。そして人は宇宙的記憶を養わない限り、無になってしまうのです。

### 【解説】

毎日の生活の中では馴れと惰性が私達を支配しがちです。前課（第6章）では新しさが重要だとして来ましたが、単にマンネリな生活パターンはエゴにとっては居心地の良い一方で、本課で取り組むべき宇宙的記憶の蓄積とは程遠いものです。

よく宇宙兄弟達は旅行をすると同乗記にはありましたが、それは広大な宇宙の各地で繰り広げられる創造の驚異を間近に見て学び、視野を拓ける意義があるものと思われま

しかし、旅行に出ずとも、また一見平凡な生活を営む中でも宇宙的視野は拓げられます。画家の熊谷守一は東京の自宅を一步もでずに庭に来る虫達を観察し、蟻や蝶の絵を描いたことで有名です。毎日出現する太陽や星座、生きもの達の目まぐるしい営みは私達に活発で宇宙的な活動を見せており、私達はそこから如何に深い意味と内容に気付くかが問われています。

毎日、何らかの発見に感動することが、真の宇宙的記憶の蓄積になることは間違いありません。

ご連絡 [2013-01-31]

いつもご覧戴き、ありがとうございます。

都合により、次回更新は週明けになる見込みの為、ご承知置きください。

竹島 正

252 To illustrate this let us use a man who has lost the memory of who he is. We have read of these cases. Some are well to do, hold good positions and have a family. Yet when this man loses the memory of his identity he re-establishes life in another part of the country, marries, has a family and works as a common laborer. If recognized by a former acquaintance he denies that he is the party for he remembers nothing pertaining to his previous life. This means that the first personality is dead to the mind while the body still maintains the identity.

252 このことを例示する為、自身が誰であるかという記憶を失った人を用いることにしましょう。私達はこのような事例を読んだことがあります。ある人は物事がうまく行って、良い地位を得て、家族も持っていました。しかし、この人が自身の正体の記憶を失った後は、他の地方で生活を再建し、結婚して家族を持ち、通常の労働者として働きます。以前の知人に発見されても、彼自身、以前の生活に関することを何も思い出せない為、いっしょにいたことを否定します。このことは心にとって最初の人格性は死んでいる一方、その肉体は依然としてその正体を保持していることを意味します。

### 【解説】

本事例は当時米国であった実例であろうと考えます。一見、希なケースのように思えますが、こと生まれ変わりに当たっては、私達は全く本事例の通りの生活を送っていることが分かります。

即ち、過去に生き、学んだ事柄を活かすことなく、また最初から学び始める必要がある訳です。この原因は記憶にあります。過去生の記憶が十分蓄えられておらず、漫然と生活して来た結果、記憶が蓄積出来なかったのが原因です。折角の知識・経験が永続する記憶として保持されなかった訳です。

どの部分が永続する宇宙的記憶となるのかについては、明言出来ませんが、私自身の体験からはどうやら物事に新鮮さを感じる年少期の記憶は意外に鮮明に残るものが多いようです。反面、新しい事柄に関心を持てなくなった老人の場合、極最近のことが思い出せない等、記憶力低下が目立つようになるように思います。

各自、宇宙的記憶を大切にすることで、これら一般的な記憶力低下も抑えられるように思いますし、意識と融合する中で得た印象経験のみが永続する記憶になるのではないかと考えます。

253 This is a common occurrence to millions of people when it comes to cosmic and ego identity. And is the reason why so few people are aware of their past lives. This shows that in the past as in the present there was a separation of the conscious real self and the personality or ego mind. For as we have stated before, consciousness is the only real eternal part of you. And it is in this consciousness that all activity is registered. Unless a man's mind blends with this consciousness he does lose his identity.

253 これは何百万人の人々にとって問題が宇宙的正体やエゴの正体になれば、一般的出来事となります。またそれは、如何にわずかの人々しか自分の過去生に気付いていないかの理由です。これは過去において今日と同様、意識の真実の自我と個性あるいはエゴの心とが分離していたことを示すものです。何故なら、以前にも述べたように、意識は貴方の唯一の真の永続する部分であるからです。そして全ての活動が登録されるのは、この意識の中になのです。人間の心がこの意識に融合しない限り、人間は自分の正体を失うのです。

### 【解説】

心は永遠なる記憶を運ぶことはないと言明しています。「意識」と称される宇宙的な生命力の源だけが記憶を運ぶという訳です。それはむしろ、私達の記憶が宇宙に刻まれると言った方が良いのかも知れません。

私達の「意識」は「宇宙の意識」の一部であり、そのものでもあります。本書に何度も説明されているように、私達は水の一滴なのですが、それが海と混じり合えば、その内容は海と同じになれることでもあります。私達に割り当てられたその意識が記憶として様々体験を残すという訳です。

私達自身の身体の諸々の働きが意識の作用の現れなのですが、心は通常、自分の関心事に忙しく、その前提となる体内の生命作用に気付かずに過ごしています。意識を知ろうとする心、発心がなければ全てが進まない一方で、それさえ確立していれば、後は時間を掛けてじっくり研究すれば良いように思われます。記憶の無いまま何度も人生をやり直すよりは、その一点に気付いただけでも大きな収穫と言えるように思われます。

254 Yet another person who has alined himself with cosmic consciousness can locate the identity of an individual whose identity is lost to his present ego mind.

254 しかし自身を宇宙意識に従わせた別の人物はそのエゴの心に見失われている自己の正体を指し示すことができます。

### 【解説】

「宇宙意識」に自身に従わせた時、真に永続する自己を発見し、その位置を知ることが出来るとしています。

この場合、「locate」とは「場所を突き止める」とこと、「置く」という語彙がありますが、ここでは前者の訳を採りました。しかし、結果的にはどちらも同じ内容を示すことになりそうです。

真実の自分の姿は容易には分からないものです。その意味ではこの学習講座を通じて学ぶ内容は各自で自身のこれまでの人生も含めた自分自身の真の姿を知り、これから先の有意義な人生の過ごし方に繋げるということになります。この宇宙意識に沿った人生を歩むことを決めた以上は、隠れた才能や新たな出会いの機会が待っているでしょうし、そのチャンスを逃さないよう、やって来るインスピレーションを感知し、またそれらには勇気を持って従うことを日々実践する必要があります。

255 I have had a number of such experiences with others. But it is sometimes difficult to convey to the present individual ego, mind its past experiences and relationships. That is unless the mind of the individual blends with the consciousness of his own being, the all inclusive. This is not easy to do for most people dwell in the field of effects which they call concrete facts. Yet we know that behind each effect is the cause which is not as apparent as the effect.

255 私は他の人々についての数多くの同様な体験事例を持っています。しかし時として現状の各自のエゴの心にその過去の体験やつながりを伝えることは難しいものです。それは各自の心が全ての内包者である自分自身の意識と融合しなければ為し得ないからです。これは確固たる事実と称する結果の分野に居住する大多数の人々にとっては容易なことではありません。しかし、それでも私達は個々の結果の背景にはその結果物のように明らかなとなっていない因なるものがあることを知っています。

### 【解説】

以前、アリス・ポマロンさんがご存命の頃、ボストン郊外のお宅を訪れ、お宅に一泊させて戴いたことがあります。夕食後、ポマロイさんから、アダムスキー氏と最初に出会った時のこととお聞きした内容は今でも鮮明に覚えています。

それはある会合で、初めてポマロイさんがアダムスキー氏に会った時、アダムスキー氏は何度となく、特別な視線でポマロイさんを見たということです。何か、その人物の内側を見通すような鋭いまなざしであったということです。

その事柄は実に本項で著者が述べていることを意味しているものと思われます。つまり、アダムスキー氏はその人物の本質的な事柄を見通せたということではないかと考えます。スペースプログラムと呼ばれる計画にとって重要な役割を担う協力者に対して、本人は気付いていない過去世やその他本質的なものを一瞬の内に見抜いたということでしょう。丁度、イエスが12使徒を選んだようにアダムスキー氏も協力者を選んだという訳です。

宇宙意識の中に溶け込ませてしまえば、あらゆる事柄が見通せることになるということでもあります。

256 So you can see that if the mind does not blend with the consciousness it can be lost in the sea of life. That is why great teachers such as Jesus have stressed, fear not that man that slays the body but the man who slays the soul.

256 ですから貴方には、心が意識と融合しなければ心は人生の海の中で迷子になり得ることが分かるでしょう。それがイエスのような偉大な教師が強調したこと、肉を切る者を恐れるな魂を切る者を恐れよの理由です。

### 【解説】

記憶が大切であることは本課のテーマです。実際に記憶が無くなってしまふことは、自分を見失ってしまうことですが、同様なことは昨今、認知症としても知られているところです。

極端な場合、家族も判別出来なくなることもある訳ですが、そのことに対して最も恐れているのは患者ご自身です。自分がどのように生きて来たか、何をやって来たかが分からなくなる訳で、道に迷った時に似て、困り果ててしまっているのでは無いかと思います。

このことはイエスの時代から警告されていたという訳で、催眠術やその他マインドコントロールと呼ばれる手法が本人の記憶を消し去るようなことがもし、起こされるとすれば、本当に気を付けなければなりません。

心は記憶することは苦手であり、常に紙に書きたいわば、結果の世界に現した原稿を元に人前で話したがるものですが、多くの優れた講演者を見ると、彼らは自分の話す内容を悉く記憶して、台本の無いまま所定の講演をしていることが分かります。かつてアダムスキー氏も小規模の会合では次々に話題が広がり、その度毎に具体的なデータを含んだ内容が話されたと聞きます。アダムスキー氏の場合も、自分が伝えるべき内容を、宇宙のどこかに記憶し、それを意識を通じて、感知しながら、講演活動をされていたように思われます。

257 Let us consider the meaning of this. Man has two souls, the soul of the sense mind, and the soul of consciousness. It is the sense mind that can be slain by lack of memory caused by adhering only to the so-called concrete effects. We can now see that memory is essential in order to have life eternal.

257 この持つ意味を考えて見ましょう。人には二つの魂があります。感覚の心の魂と意識のそれです。いわゆる具体的な結果にのみ追従することで記憶の喪失により滅ぼされ得るのはその感覚の心です。私達は今や記憶が生活を永遠に保つ為に不可欠であることは分っています。

### 【解説】

私達はこれまで、紙に書かれたもの、物体に表現された作品その他の結果物を永続するものとして自分の拠り所として来ました。しかし、それらは実はたまたまその時点で結果の世界に現された創造の結果物であり、変化する世界の中では容易に失われてしまうことに気付く必要があります。

この結果物に依存している心は記憶を蓄えることが出来ず、やがては自分自身を見失ってしまうと本項及び前項は警告しています。むしろ私達は土地や財産その他、成果物（結果）をあまりに大切に出来た結果、本来着目しなければいけない「原因」、即ち「意識」が伝える、形がまだ出来ていない純粹は知識に目が行かなくなってしまうということではないでしょうか。

先日も出張の途中、飛行機の窓から外を眺めていたところ、眼下に無数の雲の塊が広がっていました。もちろん、これらは結果物であり、現状は形あるものなのですが、未来永劫そこに存在することはありません。雲は付近の気流の流れから一時的に形成されたもので、遠からず、元の大気に戻って行く筈です。私達も自らが拠り所としている結果物の中身を良く知って、それら変遷する存在ではなく、それらを現出させている「因」の働きに自らを従わせるよう努めるべきだということです。

258 Jesus blended His sense mind with consciousness and thus He was able to say, I am in the world but not of it, and many other statements that He made in reference to His past. And He could not have maintained these memories had He not blended with consciousness which carries the memories and contains the book of records.

258 イエスは自らの感覚の心を意識と融合させました。それ故にイエスは、私はこの世に居るがこの世の者ではないと言ったり、自身の過去に関連して他の多くの声明を述べる事が出来たのです。そしてイエスは記憶を持ち運び、記録の書を内包する意識に融合しなかったら、これらの記憶を維持することは出来なかったでしょう。

### 【解説】

自身の拠って立つ所を何処に置いているかがポイントであり、過去、多くの聖人がかくも大きな苦痛や困難に対して平穏な心境を保てたのも、自分の本来の場所、即ち宇宙の因とも言える世界をしっかりと持っていたからに他なりません。しかし、読者の中には、それ故に因の世界にのみ懂れてしまうことにも問題があり、イエスの言われたように、肉体は結果の世界にあることも十分に認識しておく必要があります。二つのバランス融合が重要なところですよ。

しかし、こと記憶になると、肉体の部分は本来、あまり得意ではないのかも知れません。私達は確かに脳細胞に記憶する場所があるとされており、記憶力が損なわれると脳が萎縮していることも確かです。しかし、本来的には本項で著者が示しているように、「記憶の書」とも言えるような膨大な知識が意識の中に蓄えられており、そこにアクセスする中で、個別肉体に依存しない記憶を運ぶことが出来るように思われます。

259 To do this one must make the sense mind trust consciousness like trusting God. And this in turn calls for faith, oftentimes called blind faith. To clarify blind faith a little further, we have eyes with which to see but they do not see any more than a window pane can see what is seen through it. It is you who sees through the window, so it is the consciousness of you that sees through the eyes. For when you become unconscious the sense of sight is still there but you no longer can see. The other senses follow the same pattern. So one should realize the importance of conscious seeing, or sense mind cooperation with consciousness if he is to have a cosmic memory of life. For then he can recognize himself through eternity from the pages of memory. This is an important phase if individual life if life eternal is to be earned. And that is what Jesus meant when He said, he who loses his life shall find life eternal.

259 これを成す為には、人は感覚の心を、神を信頼するように、意識を信頼させなければなりません。そしてこのことは次には信頼、即ち、しばしば盲目的信頼と呼ばれるものを必要とします。盲目的信頼というものを少しより明確にする為に見るのに用いる目について述べますが、目は自分が見ているものは窓枠がそれ自身を通じて見ている以上のものを見ている訳ではないのです。窓を通して見ているのは貴方であり、それ故、目を通じて見ているのは貴方の意識なのです。何故なら、貴方が無意識になってしまえば、視覚感覚はそこに未だあっても、貴方はもはや見ることはできません。他の感覚も同じパターンを辿ります。ですから、もし人生における宇宙的記憶を持つようとするなら、人は意識的に見ること、感覚の心が意識と協力することの重要性を理解すべきなのです。何故なら、そうすることで人は記憶のページの中から永遠を通じて自分自身を思い出すことが出来るからです。これは各自の人生が永遠の生命を得ようとするなら、重要な段階となります。また、これはイエスが自分の命を失うものは永遠の命を見い出すだろうと言った時にイエスが意味していたことです。

#### 【解説】

本項はある意味、私達にとって大事なポイントを著者が示しているように思います。

その第一は、「意識」の存在についてです。ここではまず、「意識」という存在を信じることから、その存在に気付くようになれるということが述べられています。信頼が第一歩という訳で、信頼(faith)は信仰という意味でもあります。

また第二は、私達自身と心の関係です。ここでは心を家の窓のような存在であるとしています。私達の本体は家の中、あるいは因の中に居る訳ですが、窓はあくまで外界の世界を中に住む者に正しく伝える意義があります。もちろん窓自体が余計な意見を付け加えるべきではありません。その窓自体は「見る能力」は無く、外の景色を内部に伝える為の役割であるのです。

私達はこのようなパターンを自分の中に当てはめて見て、真実の姿に気づく必要があるということです。

260 We must train the mind to daily recognize a certain amount of cosmic life and this can be done through two phases. One, by someone who is very good at reading Cosmic Records. And the other, by allowing your consciousness to give the revelation to your own sense mind. But to do this your mind must have trust in consciousness. You will know when you have blended the two, for then you will be living in full awareness of cosmic cause and the related effects. i.e. Since I have had the experiences with the Brothers I have been living in two phases of life. One, as I used to live performing my daily duties in a normal manner, but enjoying life more than I did before. While at the same time consciously aware of my experiences and of the individuals that I have met from other worlds. The experiences are as indelible upon my memory as my daily activities.

260 私達は毎日、心を宇宙的生活を幾分でも知覚するように訓練しなければなりませんし、これは2つの面から成すことができます。一つは宇宙的記録を読み取ることがとても上手い人物による方法。他は貴方の意識に貴方自身の感覚の心に啓示を与えることを許すことです。しかし、これを行うには貴方の心が意識を信頼しなければなりません。貴方はその2者が何時融合したかは分かるでしょう。何故ならその時、貴方は宇宙の因とそれに関連した結果の完全な知覚の元に生きているからです。即ち、宇宙の兄弟達との体験を持ってからは、私は二つの生命の面で生きています。一つは私がこれまで生きて来たもので普段通りに私の日常の義務を行い、しかも以前より以上に生活を楽しんでいます。一方、同時に、私自身の体験や私が会った他の世界から来た人物達について意識的に気付いているというものです。その体験は私の日常活動と同様、私の記憶に消えることはありません。

#### 【解説】

本項で述べられているように、本来は前段にあるように良い教師に付くことが早道かも知れませんが、現実には残念ながら多くの偽者がいる以上、堅実な方法は各自、後段にあるように自分で一歩ずつ確かめながら前進することでしょう。

その場合、重要と思われる点は、「毎日」何らかの宇宙的な生き方を取り入れて、自らの心を少しずつ訓練することです。

私達は大変ストレスの多い生活を余儀なくされがちですが、その中でも私の経験上、心を不安から鎮めて、宇宙から来る問題解決のヒントを受け入れることで、意外に早く問題が解決するように思っています。しかし、これは私達が問題を先送りして、漫然と過ごすことでは全くありません。常に問題解決を目指して模索する中で、心がやって来る印象を逃さず、実行することを意味します。

こうする内にも私達は早晩、今まで気付かなかった地球の美しさや働く人々との交流等、よりオープンで感性の増した、決して忘れることのない豊かな人生を歩むことが出来るように思います。

261 In order to obtain a cosmic concept of life all that is necessary is an expansion of the mental conscious awareness. And in this way you become more alert to your actions in both fields. It could be compared to being in a plane or on a high building, for then you become aware of things below as well as above you. You are using the same sense mind, only your field of awareness has expanded. When you are able to do this regardless of where you may be there is no limit to how far you can go in connecting with conscious memories that could reveal many past experiences. And in this way find your true self and live in the sea of eternity.

261 生命の宇宙的概念を得る為に必要となるもの全ては心による意識的な知覚の拡大です。そしてこの方法によって貴方は両者（訳注：因と結果）の分野における貴方の行動についてより多く気付くようになります。それは平原や高い建物の上に居る場合と対比することができます。何故ならその時、貴方は貴方の上空でのものと同時に眼下の物事をも気付くようになるからです。貴方は只、貴方の知覚範囲が広がっただけで、同じ感覚心を用いているのです。貴方がこのことをどこに居るかに関わらず出来るようになれば、多くの過去の体験を呼び起こすことができる意識的記憶に接続する為、如何に遠くに貴方が行こうとも制限はなくなります。そしてこのようにして、貴方の真の自己を見つけて、永遠の海の中で生きて欲しいのです。

#### 【解説】

目指す状態は、このような心の状態を指すのだと本項は極めて明確に示しています。

実際、私達は目先の物事だけに束縛されやすいのですが、そのような結果の世界に囚われている心を解き放って、因にも及ぶ知覚の範囲を拡げるよう求めています。つまり、私自身をも客観的に観察することも必要で、こうした広い視野の中で生活することが重要という訳です。

このように日々生活する中で、私達の感受範囲を広げることは私達の意識を拡大させることでもある訳で、アダムスキー氏が「意識」という言葉を選定したもの、その背景があったからであることが分かります。即ち、宇宙には私達の意識に呼応する「意識」と呼べる存在があり、その絶大なる英知の力を認識し、そこから学ぶことが重要ということになります。

262 This particular phase of life is a major part to be learned and it should not be very hard when the sense mind begins to live with the consciousness instead of acting on its own as it has been doing. And results will be outstanding when the two live as one. This may seem to be a repetition of what has been said before, but repetition becomes a memory.

262 特にこの段階の生活は学習する上での主要な部分であり、感覚の心がこれまでして来たように自分自身が確保しているものを前提として行動する代わりに、意識と共に生き始める時には、過度に行うべきではありません。そしてその両者（訳注：意識と心）が一体となって生活する時、効果は傑出したものになるでしょう。このことはこれまで述べられたことの繰り返しのように見えるかも知れませんが、繰り返すことが記憶になるのです。

### 【解説】

最も大事な点は、私達は自分一人で生きて行くことではなく、常に「意識」を頼りとして行くことだと、本項は説いています。それは心自体が自らの意思をより柔軟なもの、よりオープンで広がったものに解き放つ中で、「意識」を受け入れ、そこから湧き出す印象に従った生活に転換することだとしています。

このように心と意識が一体となって生活を送ることで、格段に人生が変貌するという訳です。決してそれらの成果を求めての精進ではないのですが、結果としてそのような状況になるということでしょう。「生命の科学」の題名の「生命 (Life)」には日本語で言う「生活」の意味も含まれており、このような日々の積み重ねが、永続する記憶にもなると説かれています。

263 A good example of this can be found in two people who decide to join together for life. Each is an individual with habits in his or her way of life, yet after years of life together they not only take on each others habits but they start to look alike. All because they have become aware of one another as though they were one. Even pets, such as dogs and cats etc., oftentimes take on the personality of the master. So we can see that a constant reminder or association becomes an automatic manifestation of the other, where effort is no longer required for the form operates on memory pattern. The most important thing to realize is that the pattern remodeled the personality of the form in likeness of itself. It could be said that the original person is no more as he was, but another has taken his place. For one has absorbed the other and the two become as one.

263 この良い例は生活を共にしようと決意した二人に見ることが出来ます。二人は各々自分の生活の習慣を持った人物でしたが、何年も生活を共にした後、彼らは互いの習慣を身につけるばかりでなく、似始めるのです。彼らが互いを一体のものとして意識していたからに他なりません。犬や猫等のペットでさえ、しばしば飼い主の個性を身につけます。ですから、私達は、絶えざる思い出や交際はやがて（訳注：自分自身へ）自動的に他者を現出させることになるのです。形有るものは記憶パターンによって働くため、もはや努力は必要とされないのです。私達が認識すべき最も重要なことはパターンが自身の似姿に沿って人格を再形成させたということです。それは、元々の人間はもはやかつての者でなく、他の者がその位置をとって代わったということも出来るでしょう。一方が他を吸収して両者が一体となったからです。

#### 【解説】

「似たもの夫婦」という言葉があるように、長年生活を共にすると類似した性格になるという訳です。

即ち、私達についても、心が「意識」を常に意識して、日々生活することで、心が「意識」の影響を受けて進化するという事です。「同行二人」の言葉のように、創造主と「意識」を信頼して毎日を送ることで、私達も本来の神の似姿になれるということでしょう。

そしてその心の変容については、驚く程に大きなものになると本項では指摘しています。

もし、本来の「意識」に心が融合して行くと、もはや過去の自分とは全く異なる人格にもなり得る訳で、本当はそれこそ真の進化なのでしょう。もし、何年年を重ねても、衰えることなく常に新鮮な感性を保ち、新しい課題に取り組んで行けることになれば、心がもはや昔の心で無くなった印です。

264 While we have used two individuals in close association with each other, this can take place where many are represented by one when using the same pattern. This shows that the consciousness whom we call God, is the all inclusive. And as two people are able to become as one through association and even resemble each other, just so, an individual can become one with, and resemble God, when he thinks in terms of God instead of the ego. Yet he retains his individuality, the difference is that his sense mind has blended with conscious consciousness that we call God. The sense mind is able to perform its normal duty as it did in the past but it is aware of the consciousness that gives it power and intelligence to act wisely in the world of effects. The mind will then feel as Jesus felt when He said, I of Myself do nothing, but the Father that worketh through Me does all of the work. This is cosmic consciousness.

264 私達は互いに親密な二人を例にしていましたが、このことは多人数が同じパターンを使用する場合についても一人に代表されるところに起り得ます。これは私達が神と呼ぶ意識は全てを包含することを意味しています。そして二人の人間が交際を通じて一体となり、互いに似て来るまでになるように、丁度そのように各自も自我への代わりに神について考えていれば神と一体になり、神に似て来るのです。しかしそれでもなお、自分の個性を保持しており、違いは自分の感覚心が私達が神と呼ぶ意識的な意識と融合しているということです。感覚心はこれまで同様、通常の任務を実行できますが、その者に結果の世界で賢く行動する為のパワーと知性を与える意識について気付いています。心はその後イエスがこう言った時のように感じることでしょう。私自身は何も成していない、父が私を通じて全ての仕事を成したもうのだ。これが意識的な意識です。

#### 【解説】

前項から述べられているように、私達はどのように生活したら良いのかを示しているのが本項です。

即ち、日々「意識」を意識すること、創造主を意識して生きて行くことにより、私達は自然に創造主と近い関係になれるということです。その場合、何かの「行（ギョウ）」によって一時的に特異な状況になった際に掴んだだけでは心自体が理解した訳ではない為、長続きせず、結局は進歩はないのですが、少しずつ日常的に心が理解しながら進む場合には、二度と後戻りしないしっかりした進化の礎を築くことが出来ます。

想いは通じる訳で、「意識」を意識出来るよう日常のあらゆる場面で意識からの印象を探查するよう心を訓練することによって、「意識」から来る新鮮なる印象、アイデアを得ることが出来ます。自然の中の様々な生きもの達との交流や大自然が織りなす悠久の営みの姿を垣間見ると、この地球の歩みについてもより深く実感出来るものと思われれます。

そのような心の状態が行き着く先には、イエスが示されたように、自らの行動が創造主の意図、意識の意図通りになっているという訳です。

265 Consciousness is the father and the mother of all form creation which conceives and gives birth to the various forms. And within it is the blue print or memory which is ever present that can be reviewed for conformation at any time when the need may arise. But the sense mind cannot do this alone, there must be the combination of the two. For as we know, the sense mind learns from effects and now it must understand the cause producing the effect. The effect is the fulfillment of a cause and the sense mind might not execute it exactly as the cause mind intended it to be, so through misinterpretation a mistake could take place. And this is where the Law Of Grace enters and through this law the sense mind has a chance to realize and correct its mistake. And corrected it must be before progress can be made. And it must be made in behalf of consciousness and not the sense mind. In this way the sense mind is made to do what the better self wants it to do. If this is not done a slight memory might remain but it will be distorted.

265 意識は受胎し様々な形有るものに誕生を授ける全ての形有るものの創造の父であり母です。そしてその中には必要が生じた時に何時でも一致するか吟味できるよう常に出して置かれる青写真もしくは記憶が入っています。しかし、感覚心はこれを一人では出来ません。二者の組合せが必要なのです。何故なら、ご存知のように感覚心は結果から学ぶ者ですが、今や、その結果をつくり出している因を理解しなければならぬからです。結果は一つの因の成就です。感覚心は因の心が意図したようには実行しないかも知れません。そこに誤った解釈を通じて間違いが生じるのです。そしてそこに恩寵の法則が入り、この法則を通じて感覚心はその誤りに気付いて改める機会を得るのです。そして進化を遂げるにはその修正を終えていなければなりません。また、その修正は意識の為に行われなければならない、感覚心の為に成されるべきではありません。このようにして感覚心はそのより良い自己が願うことを為すように仕向けられるのです。これがなされなければ、わずかな記憶が残ったにしてもいずれは歪められて行くことでしょう。

#### 【解説】

具体的な意識の機能の内容について本項は明かしています。つまり「意識」の中には全ての生けるもの達の完全な設計図が備わっており、必要とする際に授けられるという訳です。広大な宇宙の中にある全てのものに対して等しく与えてくれる存在だということです。

しかし、私達はこれまで何一つ「意識」の存在を考慮せず、過ごして来ました。アダムとイブの時代から自由意志を与えた心がこの惜しみなく与えて呉れる「意識」の存在を良いことに、勝手な行動をとってきたということでしょう。

そして当然のことながら、心は時に挫折する訳ですが、そこにも「意識」による恩寵の法則（「Law of Grace」）が働くという訳です。Amazing Graceという曲がありますが、その作曲者ジョン・ニュートンは18世紀に奴隷を買い付ける事業をしていた人物であったと伝えられています。その彼が、嵐に遭遇した船の中で神に祈った結果、奇跡的に危機を脱し、自ら行なって来た罪深い行為を反省し、創造主の恩寵について感銘した時に生まれたのがその曲であったとされています。「意識」の温かみが伝わる一曲と言えるでしょう。

266 One should not be in a hurry to cultivate cosmic memory, for impatience will cause a misapplication of the law. Always remember that consciousness is eternal. Therefore it is not going anywhere, so it is not in a hurry, for in itself it is all inclusive. And by remembering this one will avoid many mistakes.

266 人は宇宙的記憶を培うのに急いではいけません。何故なら、短気は法則の誤用をもたらすからです。常に意識は永遠であることを思い出して下さい。ですから、それは何処に行ってしまうことはなく、急いではいけません。何故なら、それ自身の中に全てが含まれているからです。そしてこのことを覚えていることによって、人は多くの過ちを避けることができます。

#### 【解説】

本項では、著者は私達にやさしく語りかけています。他人を教える立場の者は多くの場合、「これほど教えているのに何故出来ないのか」と思いがちなのですが、こと生命の科学においては、遠大な目標に向かって進んでいる訳で、少しぐらいの遅い歩みでも問題にはなりません。むしろ、その時点での自分の理解が十分でない場合やあせって結果（成果）を急ぐことが問題だということです。

過去生も含めてこれまでの長い歩みに比べれば、今、私達が取り組んでいる状況は格段に素晴らしい状況だという訳です。決して急がず、また歩みを止めずに少しずつ進んで行くことがポイントです。

267 To cultivate eternal memory and become the likeness of God or The Supreme Consciousness, one will have to live it and with it as he does with his life mate or partner. Not thinking of self alone but the other as well, thus blending the two to create a harmonious union. For this is what must be done to blend the sense mind with consciousness. And when it is done the individual will represent God as he was meant to do, in the first place. As a man and wife represent each other, and the memory of their first meeting and all acts from there on are quite permanent and they enjoy life together.

267 永遠の記憶を培い、そして神、即ち至上なる意識の似姿になる為には、人は生涯の友人やパートナーに対するようにそのことを生き、それと共に生きなければなりません。自分のことのみを考えるのではなく、もう一つの存在を考え、この2者を融合して調和的な融合体を造り上げることです。何故なら、これは感覚心を意識に融合させる為に成さねばならないことだからです。そしてこれが成された時には、各人ははじめに意図されたように、神を表現するようになるでしょう。男と妻が互いを表わすように、また彼らの最初の出会いとそれからの全ての行動の記憶が完全に永遠となり、二人が生活をいっしょに楽しむのです。

### 【解説】

「生命の科学」の学習に取り組む多くの方が一様に口にする言葉に、「意識と一体になる」というフレーズがあります。しかし、その意味合いをどのように考えてお話されているかについて理解の深さはまちまちではないでしょうか。実は、本項は具定例を引いて、その取るべき姿勢について私達に示しています。

それは夫婦のように常に傍らに「意識」が居ることを知覚し、「意識」と相談しながら生活することだということです。そのように「意識」と親しく生活することで私達は「意識」と似たものとなり、より充実した人生を歩むことが出来るという訳です。

互いに意識することで両者の関係は近くなるということがポイントで、「同行二人」の真意もそこにあると思います。

268 The marriage of the sense mind and consciousness has been referred to as The Lion and The Lamb lying down together. And when this takes place one is on the way to Eternity, and the Book of Remembrance will be opened unto you as promised in Revelations.

268 感覚心と意識の結婚は共に横たわるライオンと小羊の関係として引用されてきました。そしてこのことが起る時、人は永遠へと続く道の上であり、ヨハネの黙示録に約束されているように記憶の書が貴方に明かされることでしょう。

### 【解説】

注目すべきは「意識と一体になる」という言葉の意味には、私達の心と意識が男女が結婚するのに似ていると著者が示していることです。それほどに心と意識とは密接になるという訳です。

今まで私達は何か意識は宇宙の遠いところにあるように思ってきましたが、実はその存在は私達の大変近くにいつも居るという訳です。その意識による助言を求めれば当然、近くに居る訳ですから、直ちに答えは返って来ることとなります。

そのように考える時、もはや私達に必要なことは他に何も無く、ただ毎日を意識と相談しながら前に進むべきことが分かります。この自覚に立てば、もはや後戻りすることはないように思われます。

269 THE EYES OF GOD, OR CONSCIOUSNESS

We have been taught in our religious faiths that God sees all acts, yet we know that the sense mind does not see the invisible cause back of every effect. This means that we see less than half of what is to be seen. But we as an effect of God have the potential of seeing what God sees. The reason that we do not see as He does is because we do not understand life.

269 神の目、即ち意識

私達は宗教の教義の中で、神は全ての行為を見ておられると教えられて来ましたが、私達は感覚心はあらゆる結果の背後にある見えざる因を見ていないことを知っています。このことは、私達が見るべきものの半分も見えていないことを意味します。しかし、神のひとつの結果である私達は、神が見ていることを見る潜在力を有しています。私達が神が見ておられるように見ない理由は、私達が生命を理解していないからです。

【解説】

折角、本来は美しく調和した世界に住んでいる私達なのですが、その世界（惑星）を支える精妙な因の部分についての見識や洞察力が衰えているため、見るべきものや知るべき事柄の内、半分しか見ていないと本項は説いています。

また、その原因は、私達の心が生命というものについて理解がなっていないからだと言っています。

分かり易く言えば、私達は物体を自分の目で見える波長や光量の範囲で形として見、自分の耳で聞こえる波長と強度の範囲内で音を聞き、自分の好みの味であるかどうかを舌で判断し、自分の好みの香りであるか否かで臭いを判定しています。その内容は実際の姿の半分も把握出来ていないという訳です。

実はその結果すら正当に評価せず、従来の嗜好の延長上にあるものを良しとし、他を受け入れ難いものとして分類する傾向にあるのです。しかし、本来の姿はこのような感覚が把握する以上の内容が生命体には詰まっており、その実像は印象を感知することで初めて把握されます。

あらゆるものに対する心構えとして、自分の心の反応と同時に、その存在の理解について自分の身近に居られる「意識」の助けを借りること、その存在を支えるより深い内容を感知できるよう、少しずつ自らを訓練する必要があるということです。

270 Jesus made the statement, ye have eyes yet see not, and also, the blind lead the blind. Yes, we do have eyes, as your home has windows. And the windows would say if they could speak, through me the forest is pictured. And if I became a mirror I would reflect the forest, but not its life.

270 イエスは、汝は目を持っているが見ていない、また盲人が盲人を導くようなものだと発言（訳注：マタイ15:14）しています。確かに、私達は皆さんの家に窓があるように目を持っています。そして、その窓がもし話すことができたとしたら、私を通してその森が見えるのだと言うことでしょうか。そして、もし、私が鏡になったとすれば、私はその森を映すでしょうが、その生命までは映すことはありません。

### 【解説】

私達は本当の姿は何一つ見ていないのではないのでしょうか。日常暮らしている中で、心は自分が得たイメージで判断し、深い部分の洞察を行なうことはほとんどしていません。その結果、うわべだけの自分の判断で事を済ませているふしがあります。

同じ対象物を一瞥しても、その把握内容は人によって大きく異なります。深い感銘を受ける人もあれば、全く気付かず通り過ぎてしまう人も居るのです。その違いは何処にあるのか。目には同じ光景が映っているのですが、本人に関心がない限り、光景を認識することすらない訳です。

見ているも真実を見えていないという意味では、私達は盲人ということになる訳で、多くの自称指導者が人々を導く姿を見て、イエスはこう嘆いたということでしょうか。私達は一日も早く真の覚醒を遂げて、支援を待つ多くの人々の手助けとなる必要があります。

お知らせ [2013-02-28]

本日、出張先から移動するため、次回の更新は3月4日（月）になる見込みです。

271 The sense of sight is reflecting the effects, but not the life of the effects. It is like the window or mirror. But to have a reflection there must be a cause. So in a way we are half dead, or living only half a life. And Jesus said, let the dead bury the dead. Meaning that the pallbearers bearing the corpse are as dead the corpse. The form within the coffin lies unconscious of life and the ones carrying it are equally unconscious of life in full, or cosmic life. For the corpse lived a mental life as the ones who bear it do and once the consciousness withdraws, the mental is silenced. For it never knew itself as the real part which is the consciousness

271 視覚は結果物を反映していますが、その結果物の持つ生命は反映していません。それは窓や鏡のようなものです。しかし、映像を得るには因がなくてはなりません。ですからある意味、私達は半分死んでいる、或いは生命の内、半分しか生きていないと言えます。また、イエスはこう言いました。死者をして死者を葬らせよと。死体を担いでいる者も死体と同様に死んでいるという意味です。棺の中の肉体は生命の意識は無くなり横たわっていますし、それを運んでいる者達も等しく満ちた生命、宇宙の生命について意識していません。何故なら、その死体はそれを担ぐ者達同様に心による生活を送って来ましたので、ひとたびその意識が退くと、その心は沈黙させられます。何故なら、心は意識である真実の部分に関する自分自身について知らないで来てしまったからです。

#### 【解説】

私達はいずれ死を迎えます。しかし、本項で述べるように「生命 (Life)」というものは死を迎える肉体とは別の存在であると示しているのが、ここで言うイエスの言葉の真意ではないかと思っております。

つまりは、日常生きている私達も、実際には死人と同じであり、本来の生命を生きていない存在になっているという訳です。以前、別の所でアダムスキー氏は「ゾンビ」という表現をしていましたが、それも同様な意味合いかと思えます。

逆に言えば、ひとたび「意識」に頼る生活に入ることが出来れば、今までに味わったことのない、生き生きした生活に変貌するということでもあります。結果物に頼る感覚の心を学ばせ、より深遠なる存在を万物の背後に洞察させることの持つ意義は私達が想像する以上のものになるということです。

272 Some may feel I use the word consciousness too often, yet it is this consciousness that is the real you. It is also back of all creation - the primal force - the most important part in a mental life. For the sense mind must remember its experiences if life is to continue, as consciousness is the recorder of all actions in life. If the sense mind does not associate itself with the consciousness its memory is short for it is not eternal. But as we have said before, it can become eternal by blending with consciousness.

272 中には私が意識という言葉をおよそ多く用いていると感じている人もあるかも知れませんが、真実の貴方はこの意識なのです。それはまた全ての創造の背後にあるもの、原動力であり、精神生活において最も重要な部分です。何故なら、感覚心は生命を継続するつもりならその体験を記憶して置かねばなりません。意識は生命の全ての行動の記録者なのです。もし、感覚心が意識と仲良くならなければ、その記憶は永続しない為、短いものとなるでしょう。しかし、私達がこれまで申し上げたように、心は意識と混じりあうことで永遠のものになり得るのです。

### 【解説】

自己の内側にある「意識」を知らないまま心がさまよい歩く様を見て、宇宙兄弟達は私達をどう導くか、苦心の末にまとめたのがこの「生命の科学」という通信講座だと見るべきでしょう。実はその内容のほとんどが「意識」と心の関係、更には「意識」が宇宙に広がる生命の基本要素であることを伝えています。

日常、私達は形になったものしか認識できない既存の感覚に頼りながら生活していますが、本項に書かれているように、現象の背後にある「意識」に気付かなければ真実の姿は理解出来ません。

この意識については、他の生きものは皆、理解しており、各々生活をエンジョイしている一方、地球では人間だけがあくせく働き、本来臨まれた道を歩むことが出来ないでいるのです。それに対し、著者は私達に繰り返し「意識」の存在を語り、私達に自ら気付くよう促しています。自らの体験を通じて、この基本的な存在である「意識」をひとたび理解することが出来れば、意識から寄せられる印象への感性も増し、生活をよりよいものにすることが出来ます。

273 You may say here, but I am conscious. That is partially true for if you were not you would not be alive. But are you conscious of cosmic consciousness as the Creator whom we call God is ? For this conscious intelligence is aware not only of the cosmos but all the created effects. In other words its records consist of cause and effects. And if we are to fulfill the purpose of our creation we must cultivate the other half of our life which is cosmic consciousness. For this in turn brings life eternal with all of its records.

273 貴方は自分には意識があると言うかも知れません。それは部分的には真実です。何故なら意識が無ければ生きてはいないからです。しかし、私達が神と呼ぶ創造主が意識している程に宇宙意識を意識していますか？何故ならこの意識の知性は宇宙のみならず全ての創造された結果物を知覚しているからです。別の言葉で言えば、その諸記録は因と結果物を含んでいるのです。そしてもし私達が創造された目的を満たそうとするなら、宇宙意識である私達のもう一方の半身を育まねばなりません。こうすることがひいてはそのすべての記録を携えた永遠の生命をもたらすことになるのです。

### 【解説】

少なくとも私達は自分の身体の各部は意識して日常生活を送ることは出来ます。実はその延長線上として更に深い因の領域、肉眼では見えない諸活動についても自ら認識し状況を把握出来る訳で、その意味からも私達は意識という概念について多少は理解しています。

人間、意識が無くなると、本人は死を迎えたのと同様な状況になりますが、それほどに私達が生きて行く中で意識作用は重要であるという訳です。

その意識について、私達は更に深遠なる領域にまで拡大し、深化させる必要があるのです。何故なら、その意識作用は宇宙の生命力や英知の源であり、私達は自らの意識を開拓することで、宇宙的な広がりや永遠の記憶を持つことが出来るからです。

274 And how is this done? It is no different than memorizing things while in school or elsewhere, and is done with repetition until you are sure that it is well impressed upon the sense mind. When this is done you will never forget. But this should be done in the Cosmic Allness, and can be done by seeing with Cosmic Sight or God's eyes.

274 そしてこれはどのようにして成されるのでしょうか？それは物事を学校かその他で覚えるのと何ら変わるものではなく、貴方が感覚心に十分印象づけたと確信するまで繰り返すことで果たされます。これが実行された後、貴方は決して忘れることはないでしょう。しかし、これは宇宙的調和の中で成されるべきであり、宇宙の目、神の目で見ることによって成され得るのです。

### 【解説】

意識に近づくためには日頃から繰り返し心を訓練して少しずつ気付かせるより方法はありません。即ち、一挙に理想の状態に移行するようなことはなく、自らの心を鍛錬する他はないという訳です。

しかし、一端、この方向で心を訓練して行くと、自然に印象に従った行動を執れるようになりますし、受ける印象も良質なものになります。類は類を呼ぶとあるように、どのような印象に同調するかは本人の波長に関連すると思われるからです。

どのような心の持ち方が良い結果を導いたか、あるいはその逆であったかを心に毎回、十分に自覚させ、記憶させて、良い結果をもたらした時の心の持ち方を大切に覚えて置くことです。その心の姿勢を維持すること、記憶することで更に新たな段階に進むことが出来るからです。

275 Do not become too absorbed with labels as they may confuse you. Do not expect the same kind of reaction as you have been accustomed to from the mental side. For when you become aware of the life of a flower you will also be aware of the intelligence that produced the effect. The flower will not speak to you in sounds you are accustomed to but it will react to you as intelligence speaking to intelligence. And all forms can be addressed in the same manner, for you will not be recognizing the form alone, but the intelligence manifesting through the form.

275 レッテルにはあまり没頭しないようにして下さい。それらは貴方を混乱させるかも知れないからです。また、感覚心からの反応に馴れて来たのと同じ種類の反応を期待してはいけません。何故なら貴方が一つの花の生命に気付く時、貴方はまた、その結果（訳注：花）を造り出した知性について気付くようになるからです。その花は貴方に貴方が馴れ親しんだ音で話し掛けることはないでしょうが、知性が知性に話し掛けるように貴方に反応することでしょう。そしてすべての形有るものはこれと同様なやり方で呼び掛けることができます。何故なら貴方は形のみを認識しているのではなく、その形を通して具現している知性を認識しているからです。

### 【解説】

意識に従った生活では何が異なって来るのか、本項は示唆しています。

つまり、意識から来る印象が主役になると、従来のような目や耳で知覚するような反応は少なくなり、静かな印象が行き来する世界になるという訳です。

その世界は私達がこれまで体験したことのない種類のものですが、それは静かな中にも落ち着いたしっとりした感じがあるように思います。これらの印象は丁度、雨上がりの朝のように心地よい静かな空気というようなもので、その中に本来の落ち着いた世界が広がっているものと思います。

私達はこれまで粗雑で喧騒に満ちた世界に生きて来ましたが、これからは物体の中から湧き出る生命力を垣間見ることが出来るようになることでしょう。

276 We have used the flower for everyone loves beautiful flowers. And if the love for it is equal to the love that one has for himself and he acknowledges its intelligence as firmly as he would of another person, with the same feeling, the flower will respond. And this can be observed if it is asked to turn its face from one side to the other. For it will follow your instructions as it follows the Sun. But you must remember at all times that you are consciously talking to an intelligent form.

276 私達は花を誰もが美しい花を愛することから用いて来ました。そしてもし、花に対する愛情が自分自身への愛情と等しければ、そして花の知性を他の人物に抱く感じと同じくらい確信し認めるなら、その花は応答することでしょう。そしてこのことは、片側からもう一方へ花の向きを変えるように求められれば、そのように観察されるでしょう。その花はそれが太陽に従うように貴方の指図に従うようになるからです。しかし、常に憶えておかなければならないのは、貴方は意識を用いて知性ある形に話し掛けているということです。

### 【解説】

昔、何処かで、仏陀が悟りに至った時、周囲の草木や動物達が喜んで仏陀を取り囲み、花びらを広げて祝意を表したこと、また仏陀の歩いた跡には点々と花が咲いたというような物語を読んだ記憶があります。私達の身の回りの動植物は自分達の真の知性に私達が気付いてくれたことを歓迎して、喜び迎え入れてくれるという訳です。

この例は花ばかりではありません。一端、私達が対面する対象物の単に物体として見ることなく、その内部に息づく生命を私達と同様なものとして認識する時、周囲のあらゆるものが、私達に呼応してくれると本項は説いています。まさに天国の光景と言えるでしょう。

私達はこれまで、孤独に思って来ましたが、実際には私達の周囲は互いに意思を交流できる間柄の生き物達で溢れています。園中に暮らせることは歓び以外の何ものでもありません。幼児が楽しげに周囲のあらゆるものを自らと同等な目で見て語らうことの仲に、本項でいう真実も含まれています。また、各地の原住民、インディアン、更には日本人に伝わる、万物に神宿るの思考も、本項と類似した内容を示しているのです。

お知らせ [2013-03-11]

いつもご覧戴き、ありがとうございます。

都合により1週間程、お休みをさせて頂きます。

次回の更新は3月21日頃になる見込みです。

277 Once you have accomplished this, you are not only blending your sense mind with consciousness, but also cultivating a memory. And from here you keep on expanding and include all forms of life by recognizing the cosmic consciousness in each. And you will experience the other half of life which you have not known until this time. As every act is recorded in the cosmic library you will have access to it at any time you will have need for it, the same as the Creator has. This awakened part of you has always been and always will be. The mysteries of life will be replaced by knowledge of life.

277 いったん貴方がこれを達成すれば、貴方は貴方の感覚心を意識に融合させているのみならず、記憶をも育てていることになるのです。そしてここからは貴方は広がり続け、各々に宇宙意識を認識することによって全ての生き物をも包括するようになります。そしてこれまで知らなかったもう半分の生活を体験することでしょう。あらゆる行為が宇宙の図書館に記録されており、貴方は創造主がなさると同様に、必要な時に何時でもそれを利用することができることでしょう。貴方のこの覚醒した部分はこれまでいつも、そしてこれからも常にそうあることでしょう。生命の神秘はこうして生命の知識に置き換えられるのです。

### 【解説】

どうやらこの部分が一連のこの講座の中で最も肝心な所のように思われます。つまりは、私達が向き合う様々な対象物の中にある「意識的」な存在に気付くようになることで、私達自身の意識的部分が育成され、永遠に繋がる人生を歩むことになることと説かれているからです。

この「意識」に気付く生活は当初は大変デリケートで精妙なものです。わずかの従来型の想念が混じっても妨害されますし、本来の方向と外れてしまうことも度々です。しかし、そうした中でも自らの心を万物への感謝や自然の美しさに気付く等によって自らの心を理想の方向に保ち、新しい体験を通じて本項が言う「もう半分の自分」を開拓することです。

進歩は少しずつしか現れませんが、今日掴んだ内容をよく覚えて置き、明日からはその記憶を踏まえて更に前進することが大切だと思います。結果（成果）は後からついて来る訳で、私達は結果を求めて精進する訳ではありません。自らに託された本来の歩むべき道が創造主から用意されており、私達はその道を自らの意思で歩むことが大切な訳です。

278 Your acts should be, regardless of the type of form, as definite as when you are dealing with man. And no doubt should be present in your feeling or act. Feeling in the form of revelations should be definite for feeling is a conscious state of alertness.

278 その際の貴方の行動は、対象の形有るものの類型に関わらず、貴方が他の人間に対する時と同様に明確なものである必要があります。そして如何なる疑いも貴方の印象感覚や行動に在ってはいけません。印象感覚は意識的な警戒状態であるが故に啓示における印象感覚は明確なものでなければならないのです。

### 【解説】

万物に対峙する時、私達はその対象物が私達の言う「生きもの」として「無生物」であるとは関係せず、あたかも他の人間に対するのと同様に具体的に立ち居振る舞いをせよと、本項は述べています。そしてそこには、相手に対して一切の疑いを差し挟んではいけないとし、その行動の基礎となる「印象」は「意識」に繋がるものであり、様々な物質が現出する時と同じ、「警戒の状態」になっていると述べられています。

つまりは私達の身の回りのあらゆる事物に対し、あたかもそれらが人間であるかのように接し、会話する中に眞の意識状態が発現するということを説いている訳です。

このように印象を中心に生活を進めると、あらゆるものと会話し、意思の交流を図ることになる訳で、形あるもの全てと会話する状況になれるということです。

279 We know that animals do not talk our language, yet the one who trains them to do the things that they do must have full confidence in himself as well as the animal. The trainer knows that the animal will do what he commands and this is done through a feeling of his expression. In other words they feel each other. And what can be done by a trainer with an animal can be done by you with any form, providing you have the same feeling that the trainer has towards the animals. Once you develop this part of you, you can be sure that you are making the blend with cosmic consciousness, without limitations or divisions of any nature for you are dealing in the Cosmic Sea Of Life. Intelligently you are the master over the elements. This is your birthright for the Bible says that man was given dominion over all things including death, for then man is born into a new life. But you cannot have these things without practice, and practice means living them daily as much as you can.

279 私達は動物達が私達の言語を話さないことは知っていますが、それでも動物をすべきことをするように訓練する者はその動物にと同様に自分自身にも最大限の確信を持たねばなりません。訓練士は自分が命じる事柄をその動物が行うようになることを知っていますし、これは訓練士の表現する際の印象を通じて行われます。言い換えれば、彼らは互いに感じ合えるのです。そして動物に対する訓練士によって為され得ることは、貴方が訓練士が動物達に抱くのと同じ印象を持つならば、貴方は如何なる形在るものに対しても全く同じことができるのです。一度、貴方が貴方のこの部分を発達させれば、貴方は何らの制限や何らの仕切りも無く宇宙意識と融合し始めていることを確信できるでしょう。何故なら貴方は宇宙の生命の海の中を取扱っているからです。知性的に貴方は各元素に対する主人です。これは貴方の生まれながらの権利です。何故なら聖書は人は死をも含む全ての物事に対する支配権を与えられていると述べているからですし、そうなれば人は新しい人生に生まれることとなります。しかし、貴方はこれらの事を練習無くしては得ることは出来ませんし、練習とは貴方が力の限りそれらを毎日の生活に活かすことを意味しています。

### 【解説】

言葉に頼らず相手に自分の意思を伝えようとすることは、実は大きな意味を持っていると本項では説明しています。身近にはペットとの交流もあるでしょうし、大事にしている植木との関係もあると思われます。それらは言葉によるコミュニケーションでなく、印象による交流であり、相手に印象によって自分の意思を伝えることで、相手が印象でそれに応えるという構図になっています。

大事な点は、このように言語によらないコミュニケーションを中心に据えることが、実は私達が因なる世界に繋がることを意味していて、自分自身をその領域にまで拡大することになると説明していることです。

長らく私達は結果の世界にのみ生きて来ましたが、この印象や想念をベースにしたコミュニケーション能力を育成することが、因にまで自分を広げ、本来の生命活動を享受出来るということになります。自然界における様々なもの達と交流を深めることが如何に大切かが分かります。自然に生きる草木の声を聞きに野原を散策することは楽しみであると同時に、心の訓練の場にもなる筈です。

280 So one could begin to practice on the flower first, but do not be disappointed on the first tries, just be more determined to master the art. Remember the old habits will be in your way until you absorb them into better ones. Wherever you go and whatever you see or do make sure that your mind is aware of the cosmic life and intelligence that is back of all creation. And nothing is free of that life and intelligence any more than you are. For the smallest molecule in the cosmos is just as intelligent and alive as any other form and it serves its purpose. Yet your physical sight does not see the molecule, but your conscious sight can. And once you have made this a part of your life, ills that you may have had, of any nature, will vanish when you correct your mental life.

280 そこで最初は花で練習を始めても良いでしょう。しかし、最初の試みでがっかりせず、只、その技能をマスターすることをより深く決心して下さい。古い習慣は貴方がそれらをより良いものに吸収するまでは進路に居続けることを憶えておいて下さい。貴方が何処に行こうとも、貴方が何を見て、何を為そうとも、貴方の心は全ての創造物の背後にある宇宙の生命と知性に気付いていることを確認することです。そして貴方がそうでないように、如何なるものもその生命と知性から離れていないのです。何故なら宇宙の最小の分子でさえ、他のどのような形有るものと同様に知性があり生きていて、その目的に奉仕しているからです。しかしそれでも貴方の肉体の視覚はその分子を見ることはありません。しかし、貴方の意識の視覚はそれが出来ます。そして一度、貴方が貴方の生活でこの部分を達成すれば、貴方が持っていたかも知れない病気というものは、どのような性質のものであれ、貴方の精神生活を修正する時、消滅することでしょう。

#### 【解説】

私達にとって大事なことは、一度や二度の試みがうまく行かなかったからと言って、本質への努力を諦めてはいけないということでしょう。もとより、何十年、あるいは何百、何千年と続けてきた心の週間は一朝一夕に打ち破れる訳ではないからです。

しかし、私達が何処に居ようと、何を見ようとも、そこには物質を超えた宇宙生命活動があり、そのことに気付く意識的な目が私達に備わっていることを忘れてはなりません。肉眼が明らかに出来ない分子の世界もこの意識の目は見る事が出来、因の世界における目覚しい生命活動を明かしてくれる筈です。

そうした新しい世界を自在に目にすることが出来れば、もはや私達は病をもたらしような肉体内の不調和な状況は消滅し、生命本来の姿に浄化されることは間違いありません。

宇宙を流れる生命波動をご自身の中に導き入れることで、あらゆる物事がうまく回り始めることになる訳で、これは自然がありのままに美しさを表現しているのと同様、極当然のことだと考えます。

281 Remember it was not the mind that created itself, cosmic consciousness was its creator and what it created it can correct and have it function perfectly when the sense mind blends with it. Even old age can be wiped away for that is a concept of the sense mind. We could say that as age came by man, so must youth come by man. The Bible states that as death came by man so, must life come by man, the sense mind. And this can be done when he becomes one with cosmic consciousness for it knows no age, nor time or place. It is always in the prime state of life and all inclusive.

281 覚えておいて欲しいのは自分自身を創ったのは心ではなく、宇宙意識がその創造主だということ、そして創造し生み出したものは正すことが出来、感覚心がそれ（訳注：宇宙意識）と混ざり合う時にはそれ（訳注：自分自身）を完全に機能させることが出来ることです。老化でさえ吹き飛ばすことが出来ます。何故ならそれは感覚心の一つの概念だからです。私達は老齡が人によってもたらされた以上は、若さも人間によってもたらされる筈だと言えるでしょう。聖書は人によつて死がもたらされたからには、命も人即ち感覚心によつてもたらされる筈だと述べています。そしてこのことは人が宇宙意識とひとつになる時になされ得るのです。何故なら宇宙意識は年令を知らず、時間も場所も知らないからです。それは命とすべてを含む中であつてその原始の状態にあり続けているのです。

### 【解説】

前項（280）では花に対する意識の交流についての話がありましたが、更に身近な例は私達自身の身体に対する場合でしょう。即ち、私達の意識が作用する最も身近な対象です。またその作用結果を直ちに見られるのも良いところです。通常、私達は様々な心の誤用によつて肉体を痛めつけていますが、その被害を受けているもの私達自身であり、まさに自業自得の法則の中に生きています。

しかし、一端、これを善い方向に活用すれば、苦しみは消滅し、心身は本来の健やかさを取り戻すことは間違いありません。元来、肉体はそのように創られ、維持されるよう意識によつて統制されているからです。

このような仕組みに対し、私達はあまりにも無知であり、正しい肉体の使用方法を学んで来なかったという訳です。その結果、病気や老化が進行してしまう訳で、私達はまず、宇宙意識の作用について学ぶこと、その精妙な指導の声に耳を絶えず傾けていることです。各自の生命の終りは未熟な心によつてもたらされるからには、その心の変革によつてそれらを永遠の生命に立ち戻させることが出来るという訳です。

282 Here I will endeavor to give a short experience that I had on my Saturn trip. And you can see how well you can place yourself in consciousness with me, and in this way you can see if the trip is as real to you as it was to me when I made it.

282 ここに私は私の土星旅行の際に得た短い体験を伝えようと努力したいと思います。そうすれば貴方は私といっしょに貴方自身を意識の中に上手く置けるかどうか分かるでしょうし、このようにして貴方はその旅行が私がそれを実行した時、私にそうであったように貴方にとっても実際のことであるかが分かることでしょう。

### 【解説】

本項以降で著者は私達にいわゆる「土星旅行」の際に著者が見た光景と得た体験を「意識的に一体になる」手法で、追体験するよう求めています。

よく物語に引き込まれ、その世界に浸ることがありますが、それは意識的に融合した結果、生まれる感覚のように考えます。即ち、書物に書かれた物語であれば、それは著者が執筆時に意識していた世界と同じ状況に読者の意識状態が同調することを意味しているものと思われま

従って、もし意識を自由に動かして様々な世界に移行することが出来れば、居ながらにして遠隔地の出来事や過去や未来についてもある程度、把握することが出来ることでしょう。

一見、何気なく例示されている「土星旅行」ですが、著者アダムスキー氏にとっては、これまでにない大きな意味のある宇宙旅行であったことが分かります。「生命の科学」の学習においても自らの意識の作用を理解する上でも、著者がここで何を伝えようとしているのか、注意深く次項以降を読み解く必要があります。

283 When leaving California I walked into a small scout ship. It took me to a mother ship that was a different type from any I had been in before. There were many things to distract my mind from the purpose of the trip and I was interested, from the mental side of my nature, in all the strange looking instruments. But soon I realized my distraction and organized my faculties, remembering the purpose. This was not easy to do, for the mind is very selfish and wants to eat more than it can digest and by so doing it scatters itself in various directions. But my consciousness told me that on the return trip I would have time to observe all of these things and in the meantime I was to place my mind in unison with my consciousness that I might absorb the important lessons that were to be given.

283 私はカリフォルニアを離れるに際して、1機のスカウトシップに乗り込みました。それで母船まで行ったのですが、その母船はそれまで乗ったものとは異なるタイプのものでした。その旅行の目的から私の気をそらす多くの事物があり、私の心の側からすれば興味がある奇妙な形をした装置類がありました。しかし、直ぐに私は自分が気を散らしていることに気付き、旅行の目的を思い出しながら私の果たすべき機能について整理しました。これは容易なことではありませんでした。何故なら、心は大変自己中心的で消化できる以上のものを食べようとしますし、そうすることによって様々な方向に自分自身を分散させてしまうからです。しかし、私の意識は私に帰還の際にこれらすべての物事を観察する時間があることを教え、そうする内に私はこれから私に与えられる筈のその重要な教科を吸収出来る様、私の意識と調和させることとなったのです。

#### 【解説】

既に多くの読者が知っている「土星旅行」（1962年3月27日から30日）がどのように為されたかが、本項以降に記述されています。この土星旅行なるものは、アダムスキー氏の他の宇宙船同乗の場合と異なり、土星で開催された惑星間会議という特別な意義を持っていた訳です。

また、この時の宇宙船のスピードに関しては、当時の協力者の間でも物議をかもしたことも有名な話です。なお、ちなみにその点に関して、アダムスキー氏は全くの意識による旅行をしたのではないかという疑問に対し、前回の解説欄(282)で、私が会ったエマ・マーチネリ女史から与えられた逸話として、エマがアダムスキー氏にその件を問いただした所、氏は髭剃り用の安全かみそりを持参したと話され、通常の肉体のままの旅行であったことを紹介済です。

さて、この宇宙船は高速で飛行する為の特殊なものであったようです。詳しくは語られませんが、確か「土星旅行記」の中では宇宙船から出た時に、一同の身体が光っていたという記述があったように記憶しています。それ程にその宇宙船の内部は特殊な機能に溢れていたものと思われます。そうした光景が目に見えようになれば、少なくとも私達は自らの意識を浸透させて、著者と同じ状況を垣間見ていることとなります。

284 At this point my feelings were mixed between mental curiosity and the cosmic purpose of the trip. So it was my duty as a mentalist to control myself and know that I meant nothing, but what I was about to learn meant everything. In other words I had to lend myself to my better self which was the conscious teacher, knowing that my personal toys would be there when I needed them.

284 この時点で私の印象は心の好奇心とその旅行の宇宙的目的との間に融合されました。そこでは心主義者として私の為すべきことは自分自身を制御し、私が示すものは何らの意味はなく、私がこれから学ぼうとすることが全てであることを知ることだったのです。言い換えれば、私は意識の教師であるより良い自分自身に自分を委ねなければならなかったのであり、それは必要になった時、私の個人的なおもちゃ（訳注：個人的な興味の対象物）は現れることを知っていたからです。

### 【解説】

自分自身との付き合い方は容易ではありません。与えられた折角の機会でも、単なる浮ついた好奇心に支配されて大事なものを失うことも多いものです。アダムスキー氏にとっても、類似した傾向を持ったことを本項で明かしている訳です。

その場合、舞い上がる心を諭して、より本質的な課題を目指すよう心を指導する意志があれば、後は意識がその後の支援をして呉れるというものです。この意識による支援を頼りに生きることが、重要なポイントということになります。

多くの場合、これらが自動的に行われるようになると、その成果も増すことから、益々意識への信頼も高まり、印象を重視した本来の生き方が実現することになります。

285 When I succeeded in doing this my mind felt that a vast door has been opened to an unlimited vision. And I experienced a full comprehension of things that my mind had never heard before. It was a feeling of no limitation, and everyone, including the ship, seemed to be a part of me. The ship seemed to become a living thing and for the first time I understood how a Captain of an ocean liner feels when his ship is sinking. In many cases he sends the crew away but he stays with the ship. And should he leave the ship he keeps looking back until it is seen no more, and he feels that a part of him went down with the ship. And a part of him did go down with it which he can never forget, for its impressions were so intense. You see the ship's life was also the captain's life as they had lived together so much that they became like two persons, each sharing the others feelings. One was the intelligence of the captain, the ship was the servant, and through this they became as one.

285 私がこのことに成功した時、私の心は何か巨大な扉が無限に続く視野へと開かれているように感じました。そして私はかつて私の心が聞いたことのない、ある完全な物事の理解というものを経験したのです。それは無限の感じであり、誰もが、その宇宙船も含めて私の一部のように思えました。宇宙船は生きているもののように見えましたし、はじめて私は大洋を渡る客船の船長がその船が沈む時にどのように感じるかを理解しました。多くの場合、船長はその船員を退避させますが、彼は船に留まります。また彼が船から退去するにしても、彼は見えなくなるまでその船を振り返って見ていることでしょう。そして、自分の一部が船といっしょに沈んだと感じます。そして彼の一部は実際、それと共に沈んで行き、彼はそれを忘れることは出来ません。その印象がそれほど強烈だったからです。お分かりのように、その船の生命はまたその船長の命でもありました。両者はそれほど長い間共に暮らした為、二人の人物のようになり、互いに他が抱く印象を分かち合っていたからです。その二人とは一人は船長の知性であり、船はその召し使いでした。そしてこれを通じて二人は一体になっていたのです。

#### 【解説】

意識を中心に生活する際の究極の状況が本項で言う一体感なのだと思います。互いが意識レベルで融合する時、両者は一体となり想念も自由に交流でき、互いが感じることを分かち合えることになりま

す。

本項では船と船長の例が語られましたが、これは人と人なら尚のこと互いが一体となって同じ感動を得られることになります。詳しいことは分かりませんが、映画「アバター」では他惑星で住人達が生命の木を前に揃って祈りをする場面がありました。映画の中では何百という人々が一斉に同じ動作となって表現されています。一人一人が一つの細胞の役割を果たし、集団全体が一つの生命体を構成するようなイメージを伝えていました。

意識レベルで互いに融合することの中には、新時代に相応しいより高次元な人間の生き方に通じる要素が備わっているように思います。土星旅行の場合、そのような高速度で宇宙空間を移動する為には、おそらく乗員の全てが意識レベルにおいても一体化する必要があったものと思われます。

286 This is comparable to all form life in relationship to conscious intelligence once man lives the oneness of life. And this is the way that I felt when I was on the ship.

286 これは一度、人が生命の一体性を生きるようになれば全ての形有るものの生命と意識の知性との関係は同様になります。そしてこれが私がその宇宙船にいた時に感じた状況です。

### 【解説】

結局、私達が目指す宇宙生命との一体性は決して難しいものではないのです。全ての生きとし生けるもの達とは同じ「意識」で繋がっている訳で、それを中心に据えて生きていれば、全てが自と他の区別なく、互いの奉仕の中で各々の生命を全う出来るということでしょう。

時、まさに春爛漫の季節を迎えようとしています。櫻や木蓮その他様々な花は皆、その種毎に連動して花を咲かせ、周囲を楽しませています。多くの草木が新芽を出し、花を咲かせるこの季節はまさに生命の絶えざる再生を表します。またその姿を通じて私達に生命の価値を教えるものでもあります。これら多くの生きとし生けるもの達と同じ世界に生きていることに私達は感謝しなければなりません。

287 In the next lesson we will explain this more thoroughly.

287 次の課ではこのことを更に徹底的に説明しましょう。

### 【解説】

誰しも幼年期の記憶の幾つかは鮮やかに覚えているものです。それが何処に起因して記憶に保たれるかについては、その体験が意識レベルまで深まったものであったことが原因と思われま

す。前々項（285）の船と船長の話についても、両者が一心同体のような意識の融合状態にあったためのものですが、諸々のものに自分と区別なく一体化する所に、本学習のポイントがあるように思われま

す。これは芸術の分野では特にそうで、絵画を描く画家が描きつつある一枚の絵の中に自分の意識を没入させるように、意識を自在に移行させ、対象物との自他の区別を無くすことが対象を理解することに繋がるとい

うものです。そういう意味からは、私達は自らの身体や自然界を通じて、最も知るべきは創造主ということになりま

288 In lesson seven we spoke of my experience in the Saturn space ship. And as stated, when I first entered the big ship my mind was attracted to the instruments. But I had to quiet this interest in order to place myself in the realization of conscious awareness that I might be worthy of the primary purpose of this trip. The mind was like a child that wants to ask a lot of questions without listening to the answers. So the sense mind was quieted to listen and not be curious. This was of value for I was ready to listen through the sessions of the Council. But even then the sense mind had questions which I ignored, giving them no expression. So at the end of the Council my mind had no questions, all had been answered.

## 生命の科学—学習コース

### 第8課

#### 宇宙的一体

ジョージ アダムスキー 著

288 第7課では土星の宇宙船での私の体験についてお話しました。既に述べたように、私が初めてその大型宇宙船に乗り込んだ時、私の心はその装置群に興味を引き付けられてしまいました。しかし、私はこの旅行の大事な目的に値するよう、宇宙意識の実感に身を置く為、この興味を鎮めねばなりませんでした。心は答えに耳を貸さずに多くの質問をしたがる子供のようなようでした。ですから、感覚心を静め耳を傾けさせて、好奇心を持たせないようにしました。これは価値があり、私がその評議会の会議を通して聞く準備が出来ました。しかし、それでも感覚心は問い掛けて来ましたが、私は無視して、それらに何らの解説を与えませんでした。その為、評議会の終わりには、私の心は何らの質問を起こしませんでした。全ては回答されていたからです。

#### 【解説】

意識との関係においていつも課題となるのは、心の動きです。一見して心が嫌がるものに対しては拒絶反応を示す一方、本項のように興味を持つ対象に対しては、前後の見境無く自らの関心に突き進んでしまいます。

本項の場合、宇宙旅行の目的は土星で開催される惑星間会議であった訳で、心はそれへの対応に専念すべきことは言うまでもありません。著者アダムスキー氏はその間の心の反応を正直に私達に伝え、心の反応への対応の大切さについて説いている訳です。

こうしたことは日常的にも私達の周囲に起こっている訳で、私達は心を監督しながら、必要な方向へリードし続けねばなりません。有頂天になったり、逆に落胆したり、私達の心は不安定であり、絶

えず本来の方向にリードする必要があるのです。一方、本項に述べられているように、心を鎮めて意識から来る印象を感受するようになると、心の疑問は既に解決し、理解は自ずと進んで来ることが分かります。

289 On the return trip I became interested in the instruments as before. But then the mind was patient and ready to receive the explanation given it by the consciousness. It was not filled with the original curiosity, but a desire for knowledge. Like a child in a classroom who understands without questioning.

289 帰還の旅で私は前と同じようにその装置類に興味を持ちました。しかし、今度は心は忍耐強く意識によって与えられる説明を受け入れる用意ができていました。心は当初の好奇心によってではなく、知識を得たいとする願望によって満たされていたのです。勝手な疑問を差し挟むことなく理解する教室の子供のようにです。

### 【解説】

土星旅行の帰還時の模様を述べた本項ですが、注意深く読むとその時の状況が良く分かります。即ち、この旅行は土星での惑星間会議にアダムスキー氏を出席させるために用意された宇宙船であり、そこには未だ地球人には教えられない様々な先端技術が装備されていたということでしょう。

従って、個別の装置について宇宙人側からの解説は行われなかったように思われます。本文中には「意識によって説明が与えられた」となっていて、宇宙兄弟達からの説明とは記述されていないからです。

しかし、奇妙な形をしている諸機械の機能も、心がじっとその観察を続けていれば、意識からその真相がもたらされることを本項は示唆しているという訳です。

私達地球人に対して、宇宙兄弟達は技術の一つ一つを丁寧に教えることはないように思われます。学び取り、自ら応用するのは地球人の責務であり、重大な岐路にもなる技術の導入についてまで介入することは宇宙の法則に反するということでしょう。核兵器の開発等、その典型です。惑星の事柄は原則、その惑星の住人が責任を持つ必要があります。この生命の科学についての原理は繰り返し教えますが、日常生活への実践応用は全く、各自に委ねられていることも同じです。

290 In that frame of mind I became fully aware of the intricate parts of the instruments and their purpose. And I had the feeling of being a part of each part, and felt my purpose of being in cooperation with others. This was so clear, but I cannot find words to illustrate my feeling. It was so definitely impressed upon me that I cannot forget the experience. Even as I speak of it I enjoy the feeling once again.

290 この心持ちの中で、私はその装置類の入り組んだ部品やそれらの目的を完全に分かるようになりました。そして私は個々の一部であるかの気持になり、他と協力するという私の目的を感じました。それはとても明瞭なものでしたが、その時の私の感じを表現する言葉が見当たりません。それは私にそれほどにはっきりと印象付けられましたので、私はその体験を忘れることはできません。そのことを話す時でさえ、再びその感じを味わうほどです。

### 【解説】

誰にも忘れがたい記憶の場面はあるものですが、本項に書かれている事項は、土星の宇宙船内でアダムスキー氏自身が特別に体験したということで、ある意味、特別なものだと考えます。

普通の私達にとっては、宇宙船に乗ること自体、夢のような出来事なのですが、更にこの場合は、土星からの特別な母船であった訳で、アダムスキー氏自身にとっても珍しい機器に驚くばかりの光景であったことが想像されます。

そうした中で、誰から説明を受けることもないまま、自身の印象のキャッチ力を駆使してその一つ一つに対峙する時、各機器と意識を通じ合わせ、互いに理解出来るような不思議な状況が起こったものと思われれます。物と一体になる体験をその宇宙船の中で得たという訳です。これらの事柄は日本神道の例を引くまでもなく、地球では古来から「語られて」来た訳ですが、他惑星においてはそれらが隅々にまで実践され、具体的には個別宇宙船の機器についても、それを実現するまでの段階に発展しているということだと思えます。

人や物に限らず、対象と真に交流する為には、対象と意識レベルで融合する必要があり、それらの融合体験が自らの意識拡大の原動力になるように思われれますし、その状況を記憶することが大事だと考えています。

291 This is only one of the experiences I remember from the trip, for the association with all that were on the ship was also a feeling of oneness, never to be forgotten. And this union of sense mind and consciousness included the ship which was carrying us. For the molecules, the conscious entities of my form, became one with the conscious molecules of the ship's form. Yet the geometrical pattern of each form was different, and for a different purpose in the field of effects. But the cause was the same, for each form was serving a cosmic purpose.

291 これはその旅行から思い出す体験の一つに過ぎませんし、その船にいる全てとのつながりは、また、決して忘れることのない一体感でもあったからです。そして感覚心と意識との結合は私達を輸送するその船も含むものでした。何故なら、私の体の意識的実体である分子達は船体の意識ある分子達と一つになったからです。各々の体の幾何学上のパターンは異なり、結果の世界において異なる目的のものではありません。しかし、その因は同一です。各々の体は宇宙的目的に奉仕しているからです。

### 【解説】

結局のところ、「一体感」は私達の肉体の分子レベルにおいて意識が融合することに起因することを、本項は説明しています。万物ことごとくに浸透し、存在する「意識」は相互に融合し合う中で認識を共有するものだと思われまます。

一方、こうした状況がどのようにして達成出来たかについては述べられておりません。もちろん、土星旅行の際にはこの状況を促進する何らかの装置類が装備されていたものと思われまますが、著者アダムスキー氏がこのことを本講座の中でこのように繰り返し述べていることに、私達は着目しなければなりません。私達自身、各自は60兆個もの自らの肉体細胞、更にはそれらを構成する分子原子の一つ一つを知覚し、意識してそれらと交流することによって、他の対象物とも同レベルの交流が可能になるということではないかと考えています。

よく言われる言葉に「全身全霊で」という表現がありますが、目標に向かう際には、心だけの浮ついたレベルでなく、自身の身体細胞及びその構成員である細胞の意識等、あらゆるものを総動員して対象と接することで、道が拓けるように思われまます。

292 In other words, I became the part that I wished to understand consciously, by realizing that the part was made by consciousness. For molecules and cells in any form are endowed with consciousness which is the life of the thing. There is not a particle in existence that is not supported by life - or it would not be in existence.

292 言い換えれば、私は私が意識的に理解したいと思う物に対して、その物が意識によって作られていることを実感することで、その一部になったのです。何故なら、如何なる形有るものも分子や細胞にその物の生命である意識が授けられているからです。生命によって支えられていないものは、みじんも無いからです。そうでなければ、それは存在しないでしょう。

### 【解説】

相手を理解する為には意識レベルにおいて相手と融合することが必要だと本項は説いています。

「相手が自分を受け入れているかいないか」、或いは「相手が自分を理解している、或いは理解しようとしているか」は一般的に感受できるものですが、私達は実際にはそれを単に言葉は表情ではなく、「感じ」や「印象」で判別しているように思われます。その根底にあるのが「意識」であり、「意識レベルで相手と融合する」ことで相手を理解し、受け入れることとなります。

こうしたことが日常的に可能になれば、もはや言葉や文字の表現は不要となり、あらゆるものと意識を用いて互いの価値を理解しあえることとなります。

こうした能力は「テレパシー」とも言えますし、創造主の意思を知り、学ぶ学習の機会を得ることにもなる筈です。その為の一步がその基本要素である「意識」の存在とその作用についての学習であると言えるでしょう。

293 Just as you are able to put yourself in another persons shoes and feel exactly as he feels, so you can with all forms. And this procedure is good to practice. It could eliminate many misunderstandings and heartaches. For there is nothing in existence that one cannot be associated with through consciousness. But the sense mind must be willing to be taught by consciousness, for it is the knower and all forms live within the sea of it. And in this sea all phases are blended into one for the perfect manifestation of the Cosmic Whole.

293 丁度、貴方が他人の靴に足を入れてその者が感じるのと全く同様な感じを持つと同じように、貴方は全ての形有るものに対して同様なことを行うことができます。そしてこの過程は練習するのに良いものです。それによって多くの誤解や心痛を取り除くことができますでしょう。何故なら、意識を通して寄り添えないものは何も無いからです。しかし、感覚心は意識によって喜んで教えられなければなりません。意識は知る者であり、全ての形有るものはその海の中で生きているからです。そしてこの海の中に全宇宙の完全なる創造の為、全ての段階が融合されています。

### 【解説】

私達各自はもっと意識を活用すべきだと本項は説いています。これまでも本講座を通じて「意識」について多く語られて来ましたし、心についてもその限界が繰り返し述べられて来ました。その中で私達は自らの心の持つ課題や欠点については比較的良く理解出来ているように思われます。

しかし、肝心の「意識」なるものについては、単に心と対峙する存在という程度しか、私自身も含めて理解出来ていないように思われてなりません。

それに対して本項は、この意識に関係する重要なポイントとして「associate（寄り添う）」という表現を用いていることに先ずは着目したいと思います。即ち「意識を用いる」ことは自らの意識を相手に寄り添うように同化融合させ、相手の状況を知るといった感覚を意味するからです。また「触覚」に似た概念であることにも注目したいところです。

意識を使って、このように相手に同化、寄り添うことで、丁度他人の靴を履いた時のように、印象を感じ取ることが出来るという訳です。本当はこのようなことが真のテレパシー能力というものだと考えられます。私達は、このように目に見えない自らの意識を自在に移行することによって様々な知見を得られるようになるものと思われ、そうすることでますます、意識が宇宙くまなく繋がる共通の生命力であることを自覚するようになるものと思われ。

294 All forms are stages of intelligence. This may not be easy to accept at first for 90% of form life does not have the type of mind that humans have. But they do possess consciousness - the life force of the form, and serve the purpose for which they were created. So once the human mind acknowledges this phase as it does associations with other sense minds, the blend is made.

294 全ての形有るものは知性の諸段階にあります。これは最初、受け入れることは容易ではないかも知れませんが。何故なら形有るものの生命体の90%は人間が持つようなタイプの心を持っていないからです。しかし、彼らは意識、即ち形有るものの生命力を所有しているものであり、それらが創造された目的に奉仕しているのです。ですから、一旦人間の心が他の感覚心との交流と同様に、この段階を認知すれば、融合が起こります。

### 【解説】

今まで、知性ある存在は人間だけで、自然界の他のものは、ただ決められた法則の下、自分の意思や知性は無く、事前にセットされたスケジュールのまま、自動的に生きているのだと私達は見なして来ました。つまり人間だけば考える機能、判断する自由意志を持っているとして来た訳です。それは種を蒔けば、何日後には発芽して、最終的に何時収穫出来るか決まっているという具合です。

しかし、生命の科学においては、本項で言う知性の段階の中で人間はその本来の位置にはなく、生命を理解し実践していないことが指摘されています。むしろ他の生物の方が余程本来の役目を果たしていることが繰り返し述べられています。

その理由の一つが本項に述べられているように、生命全体の9割が私達のような心を持たず、いわば自分の意思を無にして、自然の指導そのままに生きていることが挙げられます。即ち、好き嫌いはもちろん、痛みや苦しみを感ずることなく、為すべきことを為しているということでしょう。

そうした自然本来の生命力の存在が、他の人々との交流を通じて得られるのと同様に自然界の動植物その他あらゆる生命活動の中に実感できるようになれば、意識を通じての融合が出来ることを本項は説いています。

295 In lesson seven we illustrated how two people after a period of association began to look and act alike. This harmonious union can also be cultivated with all life.

295 第7課では如何にして二人の人間がある期間、一緒に過ごすことで外見も行動も似て来ることを説明しました。この調和した和合はまた、全ての生命との間にも培うことができます。

### 【解説】

あらゆる生命体と融合を図ることが出来るとは何と素晴らしいことかと思います。写真家や画家が作品を生み出す際、単に肉眼の観察だけでなく、自身の意識を浸透させて対象物を理解します。その上で最もその存在の特徴が表れる構図を見出し、作品作りに取り組むものと思われれます。こうした一連の作業の中で、いち早く対象物を理解する上で対象物との融合が大事になる訳です。

もちろん、これら外側のものとの融合一体化も重要なのですが、更に大事なものは私達自身の中の細胞はじめ諸々の存在、とりわけ意識の部分です。常に自分とともにあって、必要な知識を授け、助けてもらっている意識には感謝してもし切れるものではありません。その源となる創造主に対して私達は親密な関係を願うばかりであり、その恩に報いる努力を惜しんではならないのです。

296 May I present this in a different way for the purpose of understanding. Recently I was asked, "but what is God like?" It is not easy to describe God, for if a person feels what God is like he cannot find words to express it. But we can study His creation since all manifestations were born out of His consciousness and lives within His consciousness.

296 ここに理解を進める目的から、違った道筋をご提案しましょう。最近、私は「ところで、神とはどのようなものだろうか」と尋ねられました。神を描写するのは容易ではありません。もし、ある人が神がどのようなものかを感じたとしても、それを表現する言葉を見つけることは出来ないからです。しかし、全ての創造物が神の意識から生まれ出て、神の意識の内側で生きている為に、私達は神の創造を学ぶことは出来るのです。

### 【解説】

現代の私達は日常生活の中に創造主への関心や認識を必要としなくなってしまいました。もちろん、中世ヨーロッパのように生活の全てを宗教が取り仕切っていた頃に比べて、生活は楽になり、知識も増えたことは確かです。しかし、科学技術が発展した今日でも創造主が求められる時が存在することも確かです。

それは人間の生命の存続が危機的状況になった時、即ち生死の境であろうと思われれます。その時、人は自らが誕生してからの年月を振り返り、終焉を迎える時とどのように過ごすかの問題になりますが、その際に改めて問われるのは、創造主への回帰です。

即ち、全ての外乱や環境の影響が認識から消えうせる時、出現するのがいつも一緒に居続けて来た自らの内の創造主に繋がる部分ではないかと思われれます。

私事ですが、亡き母から聞いたことです。母の兄が若くして亡くなる時、不思議にも一時的に元気になり、何か花園の夢を見たとのことで、「良かった。良かった。」と言い残して息を引き取ったとのことでした。本講座の観点から言えば、自らの転生先の光景を垣間見て、その美しさをコメントしたものだとして解釈出来ます。

いずれにしても、生死の境のドサクサになって慌てることのないよう、創造主について理解を深めようと日頃から研究、精進することが大事です。

297 There is one thing that is misrepresented, The Creator is not an old man. For consciousness is always in the prime of life, knowing no beginning or ending as far as we are able to detect. And as we know, the space people live this knowledge and enjoy a youthful long life.

297 誤って描かれていることが一つあります。創造主は老人ではありません。何故なら意識は常に生命の全盛期にあり、私達が探る限り、始まりも終わりも無いからです。そして私達が知っているように、宇宙人達はこの知識を生活の中で実行し、若々しい長い生涯を享受しているのです。

### 【解説】

創造主のイメージが各宇宙母船に掲げられていたことは、同乗記に記されているところです。とかく私達は自らの成長とともに肉体が年老いて行くことを理由に、創造主を老人のように描いて来ました。しかし、自然界を見ると、各季節毎に活動のサイクルがあり、一年を通じて生命の再生・復活劇が継続的に行われています。そういう意味からも、創造の原動力は常に活発であり、生き生きしたものであることが分かります。

地面を動き回るアリ達の旺盛な生活力には驚くばかりですが、こうした活発な生命活動を支えている創造主は、それと同種の生き生きした存在であると本項は説いているのです。

この重要な知見について、既に宇宙兄弟達はその生活に活かしているのであり、その結果として明るく充実した長命な生涯を送っていることが重要な所です。私達は彼らを手本として、今度は自分の力で創造主を探り、その真のイメージを確かめる必要があります。

298 When we speak of nature, or nature's laws, there are two phases. One, the forms which nature produces in which we see ageing. And what we call ageing could be a fulfillment of the form's purpose that it may be replaced by a new form. But the law of life, or nature, is the same today as it always has been - in the primal stage. Replacing new forms for the old for continuous service, each for a finer quality of expression as nature is progressive. Always going forward, never retrograding. So here we are witnessing the Creator's Consciousness in action. And since only newness comes out of this consciousness, and not age, then we are shown that the Creator lives in the primal stage all of the time. And all that is created by this consciousness is a manifestation of primal cause.

298 私達が自然或いは自然の諸法則について話す時は、二つの面があります。一つは自然が作り出す形あるものであり、そこには私達は老いを見ます。そして私達が老いと呼ぶものはその形あるものの目的の成就とも言えるものかも知れませんが、それは新しい形と置き換えられるかも知れません。しかし、生命の法則、あるいは自然というものはこれまでずっと今日と同じに、原始の段階であり続けているのです。継続的な奉仕の為にこれら古いものを新しい形に、自然は進化する為、一つ一つをより精緻な資質に置き換えています。常に前進し、決して退化することはありません。ですから、ここに私達は、創造主の意識が行動する様を目撃しているのです。そしてこの意識からは新しさだけしか来ず、老化はありません。そうして私達は創造主は如何なる時も原始の段階で生きていることを知らされるのです。そしてこの意識によって創造されたものは全て原始の因の現れなのです。

#### 【解説】

私達が何処に暮らそうとも、またどのような時代に生きようとも生命の法則は変わることなく、宇宙普遍のままという訳です。

即ち、太古に地球で生きていた者も今日生きている私達も、そして他惑星で生活を続ける宇宙兄弟達も、その生命を支える法則は全く同一のものであり、全ては同じ宇宙の中に生きているということです。

一方、同じ法則下に生きながらも、その応用の誤りや誤解から、具体的な環境状況は大きく異なるものと思われまふ。長年培われた努力の成果は、その土地の文化となってまとまるでしょうし、逆にそこで暮らす人達自体が地域文化の影響の下に暮らしていることも確かです。

本項で最も注目すべきは「老いは成就である」と説いていることです。草花を見れば、種から芽を出し、成長して花を咲かせ、やがて実を付けては枯れるものも多いものです。人間も同じで、誰でもある程度の寿命があり、肉体の衰えが来ることは間違いありません。その際に生きて来た成果として何があるかが問題という訳です。一口で老いは成就と説かれていますが、その持つ意味は深いものがあります。

299 Man's law of discrimination and judgment is non-existent in creation. We are told that the sun shines on the just and unjust alike. And while differences are many in the human mind - in the Creator's consciousness all are necessary parts that make up the Cosmos. And without each part the Cosmos would not be complete. The principle difference between man and his creator is that the Creator understands the purpose of creation and finds no fault with it, while the sense man not understanding consciousness, the real part of himself, lives the mental side of life. Thus he finds fault with the Creator's creation and brings about unpleasant conditions for himself. But when man makes the blend and lives the whole life he will know the purpose of creation, no longer using the law of discrimination which caused the unpleasant conditions.

299 人間の差別と裁きのならわしは創造の中には非存在のものです。私達は太陽は正しい者にも不正な者にも等しく輝くと教えられて来ました。また、人間の心にとっては多くの相違が見えるのですが、創造主の意識の中では全てが宇宙を造り上げる上で必要な部品なのです。そして、これらの部品無しには、宇宙は完全なものとはならないでしょう。人と創造主の間の最も重要な違いは創造主は創造の目的を理解し、それに何らの誤りを見い出さない一方、感覚人は自分自身の真の部分である意識を理解せず、生命の内の心の側を生きているのです。こうして彼は創造主の創造作用にけちを見つけ出し、自分自身に不愉快な状態をもたらしています。しかし、人が融合を達成し全ての生命を生きようになる時、彼はもはやその不愉快な状況をもたらした差別のならわしを用いることをせず、創造の目的を知るようになるでしょう。

#### 【解説】

万物をありのままに見ること、受け入れることが大事だということでしょう。私達は「見る」と同時に「良し悪し、好き嫌い」を即断し、その対象との対応を瞬時に変えています。これらは長年培った感覚心によるもので、同様なことは美味しい食べ物とまずい食事、心地よい音楽と耳障りな雑音等、実に明確に仕分けされています。しかし、これらは本項で言う差別 (discrimination) であり、私達が避けなければならない心の反応です。

餌となる動物を狩る猛獣や猛禽類その他、自然界を見ると決していわゆる心地よい場面だけがある訳ではありませんが、そう言う私達も食用に鳥や家畜を飼い、その肉を毎日のように食している訳で、また、こうした食物循環は自然界の維持に必要でもある訳です。こうした様々な側面を自らの判断を極力排してそのありのままの姿を直視し、生命圏全体の意義を学ぼうとする姿勢が重要だという訳です。

その上で、私達がこの生命圏全体の中で、果たすべき役割を探求することが必要とされています。そこには肉体の生死を越えた生命 (いのち) の意味があるものと思われれます。

300 So if we are to be a perfect manifestation of the Creator we should study nature more than we have, as it is the conscious expression of God. And we should observe and adopt its laws of oneness in the same manner that we adopt each other's habits and even look alike.

300 ですから、私達が創造主の完全なる現れとなるには、これまで以上に自然を研究することです。何故ならそれは神の意識の表現であるからです。そして私達は互いの習慣を取り入れ、姿も似て来るのと同様に、観察し、その一体化の諸法則を取り入れることです。

#### 【解説】

自然観察の好例としては昆虫記のファーブルを挙げることが出来ますし、日本では細密絵本画家の熊田千佳慕、更には画家の熊谷守一を挙げることが出来ます。中でも熊田千佳慕は常に虫の目線で野原を観察し、優れた昆虫達の細密画を描いた画家として有名ですし、熊谷守一も自宅の庭から一歩も外に出ることなく、庭に生きるアリの観察から、躍動感ある優れた絵を残しています。

こうした作家は、皆、自然界の動植物をとことん観察した結果、その対象物と一体化出来、その細部にわたる行動を理解し、その意図を会得したものと思われれます。本項で言う互いに似る程の一体感が生まれる段階まで観察を深めたということだと思えます。

こうした「一体化」の訓練は、野山の生きものに限らず、あらゆる対象に適用することが出来る筈です。人対人の場合でも、カウンセリング手法としても十分役立つ手法ではないかと考えています。相手を理解する為に、その内部で息づく実体を感じ取ることで真の理解が深まるものと思われれます。もちろん、こうしたことは、宇宙兄弟達を理解すること、或いは聖人を理解する上で活用する機会が与えられれば、更に素晴らしく、飛躍的な学習の機会になることは間違いありません。

301 If you cannot do this from nature's point of view, we have another method by which we can do better than we have in the past. As we are supposed to be Christians -let us use the teachings of Jesus and make them a part of our daily life. Or which ever Messiah you are following - practice their teachings so that they become habitual with you. Just as your associate's habits become a part of you. If you will do this you will be amazed at the changes in your life as the many unpleasant things are replaced by understanding. But you must make your sense mind determined to follow the guidance of The All-knowing Consciousness. Then you can say - "I the sense mind do nothing, but the consciousness does all things through me." If we can accomplish this, which we must do, the newness of life will manifest through us. And old age will be replaced by youth. And sickness will be replaced by health. And we will be on the way in making the Earth a Heaven.

301 もし貴方が自然に対する見解の違いからこのことが出来ない時は、これまで行って来た以上に良く出来るもう一つの方法があります。私達はクリスチャンと想定した場合、イエスの教えを用いて私達の日々の生活の一部にするのです。或いは如何なる救世主に貴方が従っているかを問わず、彼ら救世主の教えをそれらが貴方の習慣となる程に実践することです。貴方の仲間の癖が貴方の一部となるようにです。もし貴方がこのことを行うなら、貴方は自分の生活に起る変化に驚くことでしょう。多くの不愉快な事柄が理解に置き換わるからです。しかし、貴方は貴方の感覚心をその全智の意識の導きに従うことを決意させなければなりません。そうすれば、貴方はこう言うことができます。「私、感覚心が何をするのではない。意識が私を通じて全てのことを為さるのだ」と。もし、私達がこれを達成できれば、またそうすべきなのですが、生命の新しさは私達を通じて現れることでしょう。そして老齢は若さに置き換わることでしょう。そして病は健康に置き換わります。そして私達はこの地球を一つの天国に作り上げる道筋にあることでしょう。

#### 【解説】

親しむ対象に私達は同化、一体化し、やがては自らもそのものに類似するというものです。丁度、音叉同士の共鳴、ラジオ受信機と同じように同調するということが一つの真理であるという訳です。

従って、敬愛する聖人達に心を沿わせていれば、自らもそのような要素を持つに至るという訳です。もちろん、その逆も真理なので、日常生活において私達がどのような対象と接しているかについても大事な所です。

以前、何かのテレビ番組で、高野山では弘法大師が今も生き続けているかのように毎日の食事を運び、仕えているという話を伝えておりました。敬愛する師に同化し、師の教えの真理に近づきたいという気持の表れだと思われます。また、同様なことは聖母マリアの像についても言えるものと思われます。先日、旅行先でファチマに現れたという聖母の像が教会にありましたが、それも人々がその像の前に立つ時、かつて聖母と会ったファチマの子供達と同様な心境になることを願って建立されたものと思われます。

私達、地球人には太古の昔から、他惑星から数多くの聖人が訪れ、教えを説いている訳で、それらの教えは当然ながら、共通した内容を持っています。真理は一つであり、訪れた土地や時代により、語る言葉が異なるだけのように思います。本講座は決して宗教を取り扱うものではなく、各自の敬愛する師について言及することはありません。ただ、私達が日頃、それらの教えについて少しずつでも実行実践して自ら、その結果を分析することを求めているのです。

302 Reading these lessons will not do it, but living them will. And when you have done this you will have mastered yourself. And the elements that are here will serve you. For man is the only form that has the potentials of the Father. But he must first recognize consciousness as the Father, and return back from whence he came if he is to fulfill the purpose for which he was created.

302 これらの教科を読むことではそれを達成しません。それらを生きたことが達成させるのです。そして貴方がこのことを達成する時、貴方はご自身を支配したことになるのです。そしてここに存在する元素類は貴方に仕えることでしょう。人間が父の可能性を持つ唯一の形有るものだからです。しかし、人は最初に父として意識を認めなければなりませんし、もし自分が創造された目的を成就するのなら、自分が来た所に戻らなければなりません。

### 【解説】

読むだけでなく、実践実行することが大事ということは、これまでも繰り返し説かれて来たところです。しかし、その実践とはどのようなことを指すのかについて、私達各人は一度、掘り下げて置く必要があると考えています。

私自身、以前も同乗記をはじめとする著作を読み、その素晴らしい宇宙兄弟達の生き方に対し、憧れて来ました。時に触れ、それら著作を読んで来たことは確かです。しかし、その一方で、現実の日常があり、実生活は止む無く別の流れで送っていたことも確かです。本項はそのような状況に対して、警告を与えている訳で、各自が具体的にどのような日常生活を送る覚悟があるかと問うています。

それでは、具体的に何が実践であるかということになります。本講座をはじめとする先人達のアドバイスを良く自分なりに解釈し、それを日常に活かすこと、即ち、読んだら終りとせず、自分の生活の何処に当てはまるかと研究し、心の持ち方を工夫しながら、現れてくる身の回りの事象との関連性、即ち原因と結果の因果関係の法則性に気付くよう、注意深く現実を観察することも実践に当たることでしょう。

もちろん、対人、対物に限らず、良い想念や行動によって働きかけることも実践です。

現実世界に居る私達は、創造主の道具として、他者に対して創造主の想いを伝えることが出来ます。また、そのように自らを通じて創造主の意図が実現出来れば、それは創造主の望むところであり、託された私達本来の目的を果たすことにもなる訳です。

303 Man cannot forever serve his mind - for himself. Or other minds for other men and expect to realize and enjoy a heavenly state of life.

303 人は自分自身の為にも、自分の心に永遠に仕えることはできません。他人の為、他の心に仕えることも同様で、そうすることで悟りを得、天国のような生活を享受することを望むことはできません。

#### 【解説】

私達自身、自分と他人とによらず、いつまでも心に仕えるべきではありません。心を頼りにしては本来の人生を歩むことが出来ないということを本項は示唆しています。既に私達は自らの経験上、心は知識も十分でなく、記憶も曖昧である一方、好き嫌いや恐怖心だけは極めて迅速、強大な力を及ぼしています。長らく私達はこの横暴な心の奴隷として仕えて来ましたが、それでは、人生を無駄に過ごすだけだという訳です。

心に代わって私達が注目しなければならないのは「意識」と呼ばれる覚醒状態という訳です。私達の中に心の影響が消失するにつれて、次第に現れて来るのが印象が行き来する世界、意識の活動です。具体的にはヒラメキや美しさの発見等々、言葉によらない知識を取り扱う機会が増えることです。

その為には、心の反応はさて置いて、更に物事の奥にある法則性や自然の目に見えない動きを察知することに関心を持つべきで、先ずはやって来る印象に対する警戒状態を維持することから始まるものと思われれます。

304 We are all conscious beings and the still small voice which is consciousness keeps impressing us that there is a better way than the mind has promoted. It is not some teacher or preacher, here and there, that can tell us how, but the consciousness that is within each, as it is within him. For it is THIS that has made man aware of a better life for centuries, and it will continue to do so until man's sense mind gives its dominion over to consciousness. And when this happens man will know, for he will never again sense any divisions or feel himself separated from the Creator.

304 私達は皆意識的な存在ですし、意識である小さくかすかな声が私達に心が押し進めているよりも良い方法があると印象づけ続けています。私達にそれがどのようにしてと教えられるのはここその教師や説教者ではありません。それは各自の内側にある意識であり、意識が人の内側にあるからです。何故なら、何世紀にわたって人により良い生活について気付かせて来たのはまさにこれなのです。そして意識は人間の感覚心が意識にその支配権を譲り渡すまで、その援助を続けることでしょう。そしてこのことが起る時、人は理解するのです。何故なら人はそれ以降、決して如何なる分け隔てを感じることは無く、創造主から自身を分離した存在として感じることもないからです。

### 【解説】

私達が自身の未熟な心でこれまでやって来られた理由は、私達自身の内部には意識が常に存在し、必要な活動を続けているからに他なりません。従って心が積極的な活動を停止しても代わりにこの意識の作用が顕在化するだけのことで、心の支配から脱して、宇宙普遍に繋がる意識からの印象に従えば、より良い人生が待っているということになります。

心を監視して、受ける印象が心の反応によるものか、内部の意識から来るものかを峻別して、常に意識の側に耳を傾けることが重要です。はじめの内は、この意識の自覚は難しいかも知れませんが、一つ一つの成功体験から、自分がどのような態度で印象を求めていたかを良く覚えておき、次回にも活かすことだと思えます。そもそも私達が意識の存在についてどのような認識を持っているか、これまでの聖人達がそれについてどのような表現をしていたか等、研究課題は多いものです。

305 The space people live this understanding of life, but they also have a long way to go to attain it. However they have set their foot upon the right path and eventually will accomplish what they have set out to do. While we have promoted various highways and by-ways that have proven to lead everywhere except to the household of the Creator. We can be thankful to the Brothers for giving us the key of consciousness that unites all creation as one with the Creator.

305 宇宙人達は生命に関するこの理解を生活の中で実行していますが、彼らにもまたそれを達成する為の長い道があるのです。しかしながら、彼らは既に正しい道筋に足を乗せており、やがてはその提示したなすべきものを達成することでしょう。一方の私達は（戻るべき）創造主の家庭以外のあらゆる場所に導くものであることが明らかとなった様々な大道や脇道を奨励して来てしまっています。私達は宇宙兄弟達にすべての創造物を創造主と一体化する意識のカギを与えてくれたことに感謝してもよいでしょう。

### 【解説】

本項は、この「生命の科学」講座が生まれた背景と目的を説いています。

私自身、この解説文を書くに当たって、毎朝の通勤途上の空き時間に、1段落ずつ読み返し、そこから得た感想を記している訳ですが、その結果分かったことは、一つ一つの段落は注意深く繋がっていることでした。はからずも著者の思考の道筋を辿るような仕事になっています。

そこには、一段落ずつ著者の思いがあり、他惑星人による工夫された道筋がある訳で、私達は各段落から得るべきものを身に付ける必要があります。

本項によれば、宇宙兄弟達も決してゴールに到達した訳でなく、私達の先を進む先人です。その先人達が私達に残したのがこの講座ということになります。読者の多くが本書の内容に何か物足りない、あるいは具体的な記述が少ないという印象を持つとしたら、それはあくまで本書が、私達の心の姿勢を矯正する為、意識の存在に気付かせる為に記されたものであり、決して必要以上の知識を授ける目的の本ではないことに起因します。

知識は必要ですが、それ以上に知識の源泉の存在とそこから放射されるメッセージを感じ取る能力の開発が第一である訳です。

306 And speaking of the by-ways - as consciousness is the sea of life everything is living within it. And as the Cosmos knows no beginning or ending, we are living in the embrace of a vast structure which has many interesting things in it, and our attention of interest will shift from one thing to another. This could be likened to standing on the top of a very high tower. While facing east things will be seen that are in that direction, and to the west, the same, etc., etc. So when the sense mind is interested in conscious perception it will want to see everything within the household of consciousness. This could become a hazard, for this hunger for knowledge could promote impatience, and confusion would be the result. So the mind must learn self control. And remember it has eternity in which to learn. With this awareness it will gain knowledge step by step in the sequence of events. And there will be no gaps or divisions that cause divisions and mysteries. The interest of the mind should be of such a nature that time is not involved, only learning what each step has to offer. Then when it is time for the next step to be taken the blend will be there without any foreign element that could come from the mind.

306 脇道について言えば、意識は生命の海であり、あらゆるものがその内側にあります。宇宙には始まりも終わりもありませんので、私達はその内側に多くの興味深い物事を持つ広大な構造物に抱かれて生きておりますが、私達の興味は一つのことから他のものに移り変わるものです。これは一つのとても高い塔の頂上に立っていることになぞらえるでしょう。東を向けばその方向にあるものが見えますし、西を向けば、また同様等々です。そのように感覚心が意識的知覚力に関心を持つようになると、心は意識の家庭の中にあるすべてを見たがることでしょう。しかし、これは危険要素に成り得るのです。何故ならこの知識への渴望は性急さを助長し、結果として混乱が生じるだろうからです。ですから心は自制を学ばなければなりません。そして学ぶべきものには永遠があるということを覚えていて下さい。この自覚を持てば、出来事の一連の流れの中で一步一步知識を得て行くことでしょう。そしてそこには分裂や神秘を引き起こす如何なる割れ目や仕切りはないことでしょう。心の興味は時間には巻き込まれず、只一つ一つの段階が授けるべきものを学ぶという性質のものであるべきなのです。そうすれば、次なる段階の時期になった時、心から来る無関係の要素が入り込むことなく、融合が起ることでしょう。

#### 【解説】

一度に学べることは一つということですが、しかし、私達は興味本位から自らの許容範囲以上の事柄を知ろうと知識・情報を求めたがるものです。しかし、その結果は、一つ一つの知識の意味を学ぶことなく、単なる心のレベルの浅い理解の知識に留まるか、それら知識同士が矛盾するように思っ、混乱し、全てを放棄するのが常なのです。

この宇宙問題も1952年11月20日のコンタクト以来、多くの人々を引き付けては来ましたが、年月が経過するにつれ、宇宙兄弟達来訪の真の目的を理解し、その教えを実践しようと志す人は、今では世界広しと言えども限られているように思われます。

心は本項に記されているように新しい、即ち自分が未だ知らない知識には興味があり、消化できる以上の材料を収集したがるか、或いは一切の関心を持たず、自らの習慣的生活の中に安住しているかのいずれかです。

結局、人生の成果としては、何が身に付けられたかということになりますが、身に付ける為には実践による以外にはなく、その為には少しずつ、一步一步の歩みしかないこととなります。

307 One should not question what the consciousness has to reveal before the full revelation comes. And you should fear nothing - for that could cause you to lose the sequence of the lesson. For as we know the mind has been accustomed to fear that which it does not understand, and reject that which is unpleasant, due to the wrong teachings it has been subjected to. But we know that every manifestation fits into every other one, it must be so in order for the Cosmos to be complete. And when this is understood by the mind a beautiful unfoldment will come, each part of the puzzle falling into place to make a complete picture. And it will not reject anything.

307 完全な啓示が来る前に意識が明らかにしようとしていることに疑問を差し挟まないようにしなければなりません。また何物も恐れてはなりません。レッスンの一連の流れを失うことになるからです。私達がよく知っているように、心はこれまで服従させられて来た過った教えのせいで、理解しないものを恐れ、不愉快なものを拒絶することに馴れさせられて来ました。しかし、私達はあらゆる現れが他のもの一つ一つと調和することを知っていますので、それもまた宇宙にとって完全なものになる為には必要であるに違いないのです。そしてこのことを心が理解するや、美しい展開が明らかにされ、ジグソーパズルの各々の一片は完全な絵を作り上げる為の場所に収まることでしょう。そしてそれは何物をも拒絶することはないのです。

#### 【解説】

印象がやって来る途端、せっかちに良し悪しを判断してしまうと、その流れは停止し、再び元の流れはやって来なくなり、本来価値ある内容を掴むことが出来なくなると本項は忠告しています。印象については、とにかくありのままを素直に受け入れることが必要です。

本講座を通じてよく例に挙げられるのは、ジグソーパズルです。その1片が丁度、バラバラに配られるような場合、受け取った本人は注意深く各ピース片が何処に当てはまるのかをその形や色調の特徴を踏まえて考察することでしょう。本来、陰となるピース片もそれがなければ主題のモチーフを映えさせることは出来ません。私達は与えられた環境の意味を深く考え、自分を通じてどのような絵画が表現できるかについて絶えず考えて置く必要があります。

取りあえずはやって来る印象を素直に受け入れて、それが訴えるイメージを逃さないよう、注意深く取り扱うことです。印象をとにかく詮索して、以後の印象の流れを妨げることのないよう、取扱いには注意しなければなりません。このような印象の流れに遭遇したら、その全量を通すことを第一として、勝手な判断をつつしみ、その後を送り手の意思を学び取る姿勢が大切です。

308 Should you become aware of an interference from the sense mind, either through impatience or egotistical effort, discipline it as you would a child. This must be done immediately, for if you don't, something will be missing from the picture which could result in confusion.

308 もしも貴方がせっかち或いは自己中心的な活動から感覚心を通じた干渉を察知した場合は、その心を子供に対する様に躰けることです。これは直ちに行われなければなりません。何故なら、もし貴方がそうしなければ、その全体像から何かが欠落し、その結果、混乱を生じさせ得るからです。

### 【解説】

問題は絶えず生じる心の反応に対してとるべき姿勢です。私達のこれまでの経験から、心は自らの存続に係る問題については、実に深刻に捉えますし、他に為すべき事柄を放り出して次々に問題が拡大する事態を憂慮する訳です。そこには自らの身体は自分（心）が支配しているとの前提に立っていることが背景にあるように思われます。

一方、意識からの印象は精妙なため、余程心が静寂になっていないと捉えられないかも知れません。また、印象が流れて来ても、流入した途端に心が自らの意見でその流れを妨げれば、二度とその流れには遭遇できず、完結するストーリーは把握出来なくなります。よく小説家が長編の作品を描きますが、その際にも同様な印象の流れがあり、作家はひたすら印象の流れを原稿用紙に記すのではないかと思われまます。そうする過程で、本人は印象の流れの経路となって、神の道具となるものと思われまます。

私達はそうした創造主の現れの経路となりたい訳ですが、その為には私達の心をそれに対応できるレベルに引き上げなければなりません。本項で言う子供に対するのと同様にという表現は、自らの心を優しく訓練することを意味します。言ってみれば、意識からの印象は万人に平等、普遍に与えられ、太古の昔から未来永劫、現象世界に放射されている訳で、受信器（心）が対応出来るレベルに進化すれば、より多くの恩恵を享受することが出来ることは言うまでもありません。

309 This portion of the lessons should be firmly adhered to, for in the forthcoming lessons we will venture into the Cosmic Sea of Consciousness. This will bring many revelations according to the individual, and the mind may have a tendency to dislike what it views. i.e. You may see yourself in a million different expressions in past existences, and the mind may tend to discriminate between the scenes, as some will not be flattering according to the mind. In other words, the mind must learn to face reality. For life is not made of just the sweet, as the sour is also in the plan. Yet by putting the sweet and the sour together we get a pleasant combination. It must be this way if man's form and mind are to progress and develop into something finer. Nothing can be omitted if one is to have full knowledge.

309 教科の内、この部分はしっかり固守されなければなりません。何故なら次に来る教科において私達は意識の宇宙的海の中に踏み入れることになるからです。これは個人によっては様々な啓示をもたらすことでしょうし、また心は見たものについて嫌悪を感じる傾向があるかも知れません。即ち、貴方は過去生における何百万もの異なった自分自身を見るかも知れませんが、心は場合によっては自らを楽しませるものではない為、それらの光景を分け隔てる傾向になるかも知れないからです。言い換えれば、心は真実に直面することを学ばねばなりません。生命は単に甘いだけのものから出来ているのではなく、酸っぱいものもその計画には含まれているのです。しかし、甘いものと同時に酸っぱいものを合わせることによって心地よい組み合わせを得るのです。もし、人の身体と心がより繊細なものに進歩し発達するにはこの道でなければならないのです。人が完全なる知識を得るには、何物をも除外出来ないのです。

#### 【解説】

この学習を通じて、これから各自に起こることに対して、しっかり対応を誤らないよう、説いています。私達が感受性を高めるにつれ、様々な記憶も蘇ってくることでしょう。その中には各自の過去生も含まれます。

その中には、目をそむけたくなるような悲惨な体験もあるでしょうし、素晴らしい経験もある筈です。それらが時として蘇る際、その事実を改めて直視し、仮に心が心地よい体験でなくても毛嫌いしてはならないのです。もちろん、私達が進歩の道を歩んでいるとすれば、過去の体験は現状より劣ったものである筈で、そうした事柄についても自身を作り上げたものの一つとして大切に扱うべきなのです。

また、世の中には私達が直接説明出来ない不思議な事象も多く発生します。先日もある方からお借りした本の中に、以前、秋田のキリスト教会のマリア像から涙が出た事例について詳細を記したものがあり、初めて拝見しました。当時（1973年）にその教会の修道女に度々天使が現れ、助言を与えたこと、マリア像から涙が出たこと、ファチマと同じ内容のメッセージを受けたことが記されていました。今日ではマスコミが取り上げることもなくなりましたが、ファチマと類似した奇跡的な事象がかつて秋田で起こっていたということを、初めて知った次第です。

本文にある"revelation (啓示)"とは、上記の天使の出現も含む、様々な「現れ」を意味するものです。学習を続けるにつれ、皆様に様々な意識からの支援の手が差し伸ばされることを意味しています。

310 Let me remind you here again, before we proceed with conscious exploration by the mind, that the sense mind is limited and consciousness is unlimited. And it is the sense mind that will be doing the exploring. The ego or personality, the second part of man, or the effect of consciousness. And as you know, the consciousness is the real you which produces the effect known as the personality which has the potentials and the image of the cosmic man.

310 心による意識的探検に進む前に、ここで再び念を押したいのが、感覚心には制限がありますが、意識には際限が無いということです。そしてその探検を行うのは感覚心であるということです。それはエゴ或いは人格、人の第二の部分、意識の結果物とも言い換えることができます。そして貴方が知っているように、意識とは宇宙的人間の可能性と似姿を持っている人格として知られる、結果物を作り上げる真実の貴方なのです。

### 【解説】

現在、私達は意識の世界を探求しようと志している訳ですが、本項ではそうした探求を進めようとする私達に基本的な心構えを示しています。丁度、広大な宇宙空間に旅立つ者に対するのと同様に、そもそも私達が何を求めて行くべきか、宇宙とはどのようなものを教えるようなものです。

宇宙空間を旅するのと同様、私達が意識的な知覚聴力を高めて行くにつれ、様々な印象や想念に遭遇することになりますが、その時、それらを探求しているのは、私達の心の部分であり、遭遇によって新しい経験を得るのは心なのだと言っています。私達には既に意識部分があり、それらは全てを知る者、全てを支配する存在であるという訳で、言うなれば、全ての要素がその中に実在するということでしょう。

過去、多くの聖人、宇宙の兄弟達が同様の道程を歩み、少しずつ自らの想念を拡げて行ったものと思われます。その同じ探求の道を私達は歩むことになるのだと本項は諭しているのです。

311 A cosmic man is all inclusive, he does not go anywhere for he is everywhere. And your cosmic counterpart will take you on a journey through the household, from room to room, act to act, so that you may understand your inheritance and thereby become one with the whole.

311 宇宙的人間は全てを包含しています。彼は何処にも行くことはありません。何故なら彼は何処にもいるからです。そして貴方の中の宇宙側の相棒は貴方を部屋から部屋に、行動から行動へとその家庭の中を連れ歩くことでしょう。そのようにすることで貴方は自身が受け継いでいるものを理解し、それによって全体と一つになるのです。

#### 【解説】

本文では"cosmic man"を「宇宙的人間」と訳していますが、以後に出て来る"cosmic counterpart（宇宙側の相棒）"も同じ意味で用いられています。言い換えれば私達の中にある宇宙的な部分の相方とも言える存在がそれであり、"counterpart"とは具体的な対応窓口、相棒といった存在です。

私達の内部に存在するこの宇宙的な対応者は常に私達と一緒に居て、しかも全宇宙を包含しているという訳ですから、それ自体、私達が何処に行こうとも、行く先々に見知らぬ場所など無く、全てを知る者と言えます。

また、そのことから、私達にはあらゆるものが授けられており、それらを活用するよう創造主から望まれているという大変、恵まれた存在であることも分かる筈です。あらゆる才能、あらゆる能力はそれら宇宙的相棒を通じて、私達に与えられている訳で、私達は素直にそれを歓び感謝して、より良い生活に活かすことが大切だということでしょう。

その為の唯一の課題は、私達自身の中に常にその相棒が居ることを忘れないことです。

312 All faiths and religions were originally founded on what we call the occult or supernatural. For the supernatural is nothing more than the cause back of all creation - The consciousness that we call God. And while mystery has been created through lack of understanding, in reality there is no mystery. For that which can be known ceases to be a mystery. And the space brothers know that it can be known by using the right approach. They have proven this to some degree.

312 全ての信仰や宗教は元々はいわゆるオカルト（訳注：神秘的なもの）或いは超自然的なものに基礎を置いて来ました。しかし、そこでの超自然的なものとは全ての創造の背後にある因、私達が神と呼ぶ意識であることに過ぎません。そして理解の不足に起因して神秘が造り上げられる一方で、現実にはどこにも神秘はありません。何故なら、理解し得るものは神秘では無くなるからです。そして宇宙兄弟達は正しい取組によってそれが理解するようになることを知っています。彼らはこのことを自身で幾分か立証して来たからです。

### 【解説】

宗教や信仰は未だ現実化していない因の領域についての信頼に根本を置いています。本項で繰り返し述べられている「意識」についても、既存の五感に感知できるもので無い以上、その取り扱い方も類似しがちです。

しかし、本項で指摘されているように、たとえそれらが現在の我々には「超常」「超自然」に分類されるにしても、私達はそれらを単に「神秘」として片付けてはならない訳です。

当初から神秘として一派ひとからげにラベルを貼り付けていては、先に進めないのではないかと考えています。くしくも本講座が「生命の科学学習コース」と名付けられているように、私達はこれら「超常」とも言える「意識」の作用を探求して行かなければなりません。

少しずつですが、自分の感性を拡大して、丁度、7色の虹の更に人の目には映らない光の波長領域にまで、視界を拡大させること、因の領域にまで私達の視野を拡げることが大切だという訳です。

313 We do not want anyone to associate what is to be given with the type of mysticism or occultism that they may have learned to know. For these have divisions and deal with two different ends. One material, the other spiritual, and they have been widely separated by fears and lack of understanding. While we are dealing with reality, as there must be a cause for every effect.

313 私達は誰一人として神秘主義や超自然主義の類いから学ぶかも知れないようなものに関わって欲しくありません。何故なら、それらは分裂を有し、二つの異なる対極を取扱うからです。一つは物質的なもの、他は精神なものです。両者は恐怖心と理解の不足から大きく引き離されてきました。一方、私達は現実を取扱っています。個々の結果には全て因があるに違いないからです。

#### 【解説】

いわゆる神秘主義は、原因と結果を両極に対峙させることに問題があると本項は説明しています。実はその結果、両者の関係を結び付けないが故に、神秘の部分は増長し、現実とは次第に乖離してしまうのではないのでしょうか。

「意識」についても同様に、私達が現実の物質世界との関連を探求して行く中で、不可視である因の存在を学ぶ姿勢が重要となる訳です。言い換えれば、自然界に生じるあらゆる現象は、所定の法則に従い、それを再現している訳で、元来、不思議な要素は無いということでもあります。一つ一つの驚異に驚きながらも、法則の普遍性を学ぶことが重要と思われれます。

私達は、自らが求める「意識」について、その特徴をいち早く掴んで、日常の中にその作用に気付き、感謝したいものです。現実の環境への反映を見れば、その応用の良否、探求の進め方の良否は明らかになる筈です。

314 Once you expand your mind into the womb of consciousness you will be witnessing some of the things of which you may have read or heard pertaining to the mystical fields. But if you have learned your lessons well you will understand what is back of this. And what causes the different effects that are oftentimes produced through the various branches of mystics, or religions. And you will not participate in the confusion in which they find themselves.

314 ひとたび貴方が貴方の心を意識の子宮にまで広げるなら、貴方はこれまで読んだり聞いて来た神秘の領域に属するような物事のいくつかを目撃することでしょう。しかし、もし貴方は自分の教科を良く学んでいれば、この背景にあることを理解することでしょう。そして様々な神秘学派や宗教を通じて何がしばしば異なる結果をもたらしているかも理解することでしょう。そして貴方は彼らが見る混乱に関与することはありません。

### 【解説】

私自身、本項で示されているような体験は少ない為、十分な説明はしにくいのですが、まずは文中の "the womb of consciousness (意識の子宮)" という表現に注目すべきだと考えます。

私達が実際に目にする事象が現実世界に現れるまでには、原子、分子のレベルの様々な段階の準備活動があった筈です。丁度、土に蒔いた種が出芽するまで、その種の中の知性が外の環境条件をどう判断し、発芽に適した条件になっていることを確認し、その上で、芽を成長させる一連の作用が内部で起こっている筈です。その上で、具体的に種の殻が破れて、初めて私達は発芽を知るという訳です。現象の前には実に様々な準備作業があることになります。

同様に現実世界に起こる現象は先ず、因の段階で形成され、その上で現象世界に現れるということでしょう。その段階の意識の作用を感知出来れば、未だ現れない段階でいち早く現象を予知することも出来る訳です。

こうした仕組みを正しく理解することが神秘を生み出さない正しい理解に繋がるということです。

315 Do not be mystified by the different feelings you may experience, for until now millions of cells in the body and brain have had nothing to do. They have been dormant, waiting to be used. Your mental interest in the cosmic self will give them an opportunity to act. And as they go into action you will notice a difference of feeling, a conscious alertness that you did not have in the past. You may even feel a strange, faint pulsation in your head as you put some idle brain cells to work. But in a short time they will blend with others and you will not be aware of their activity. And this will occur from time to time as the need arises for extra cells to go to work. For until now less than half of the cells of the brain have been active.

315 貴方は違った感覚を体験したとしてもまごつかないで下さい。今や身体や頭の中の何百万もの細胞が今迄何もすることがなかったからです。彼らは使われるのを待って休眠していたのです。宇宙的自己への貴方の心の関心が彼らに活動の機会を与えるのです。そして彼らが活動に入る時、貴方は異なる感覚、これまで経験したことのない意識的な警戒状態に気付くことになるでしょう。貴方は何か怠惰な脳細胞を働かせようとする時には頭の中である奇妙でかすかな脈動さえ感じるかも知れません。しかし間もなく彼らは他と融合し、貴方は彼らの活動に気付かなくなることでしょう。そしてこのことは追加の細胞が働くようになる必要性が起る場合に時として起ることでしょう。何故なら、これまで頭脳の細胞の半分以下しか活動していなかったからです。

#### 【解説】

私達が宇宙的自我の部分に関心を持ち始めると、脳細胞も変化が生じ、今まで休眠していた細胞が働き出すこと、その為に従来に無い感覚が生じることがあると、本項は説いています。

残念ながら、本項のような段階の体験を未だ得ていない為、十分な説明は出来ませんが、いわゆる宗教の教祖とされる人物の伝記の多くに、これに相当する事象が語られています。もっとも従来は、これらを本項で指摘されているように神秘体験としてその後の新興宗教に結び付けてしまった事例も多いように思われます。

各自の脳細胞の変化は、私達の心の姿勢に呼応するものであり、心が本来の道程を進めば、自ずと身体各部の細胞もそれに対応した進化を遂げるということでしょう。私達は自らの心の変化が周囲の環境はもとより、自らの身体にこそ最も端的に現れるものだという訳です。

316 I speak of this that you may not think something is wrong and seek help. It is only an expansion of your sense mind activity towards the expression of a full man. Instead of only the effective half as before.

316 私がこのことを話すのは貴方が何か問題が出来たと考えたり、助けを求めたりしないようにする為です。それは完全なる人の体現に向けた貴方の感覚心の活動の拡張作用に過ぎないからです。以前の実質わずか半分であったことから代わってです。

### 【解説】

私達の身体も原因と結果の法則の下にあります。即ち私達の身体各細胞は私達の心境の変化に絶えず呼応した活動をするという訳です。心が拡大発達するということは、肉体の細胞やそれらが形作る各器官も、心境に応じて変化して行くという訳です。

通常、これらの変化は少しずつ起こる訳ですが、毎日の積み重ねはやがて大きな変化を生じることになります。生命本来の生き生きした活動波動に心が鋭敏になり、同調することはその肉体細胞がそれに相応しい若さと、はつらつさを表現することになります。

私達は、自らの身体内のこれら変化にも鋭敏になることで、身体の変化から自らの心の状態を判断することも出来る訳です。どのような環境にあらうとも、穏やかな心境で居られることで身体も健全さを維持できるものです。それらの段階をマスター出来れば、他の者を癒し、本来の穏やかな暮らしを回復させる力量も発揮出来るようになることでしょう。

317 Some people call this pulsation a knocking in the head. Others say it is a code system like dots and dashes, but it is neither. In mystic fields this is considered as messages from the dead, or other planets or planes because they do not know what is taking place and give credit to mysterious forces. When in reality the pulsation is caused by the expansion of the mind cells in a broader field of interest.

317 人々の中にはこの脈動を頭の中のノック音と呼んでいます。他のものはそれを（訳注：無線の）トン・ツーのようなコードシステムだと言いますが、いずれも違います。神秘主義の分野ではこれを死者か、他の惑星或いは他の次元から来るメッセージだと考えられていますが、それは彼らが何が起っているかが分からずに、それを神秘的な力のお蔭としているのです。しかし、実際にはその時、その脈動はより広がった関心の分野に向けて心の細胞が広がることによって引き起こされているのです。

### 【解説】

心が因に目覚めるにつれ、心に直結している細胞群に変化が生じ、本人自身もそれら細胞群の従来にない活動を知覚出来るという訳です。ここで注意したいのは、このような目新しい出来事は自身の肉体的変化であり、神秘的なものではないと明言している点です。いずれにせよ、学習を続けている皆様は遅かれ早かれこのような状況にも出遭うものと思われまじ、その時、かつてこのような身体上の変化が起こるとの記載があったことを思い出して戴ければと思います。

さて、心の発達に呼応して、肉体の内外部が変化することは重要なポイントです。つまりは肉体は心の状況を絶えず反映する仕組みが備わっており、まさに原因と結果の法則が活きている訳です。これについては、聖書に多くの例が記載されています。歩くイエスの後ろで衣に触れることで病が癒えた女性に対し、イエスは「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのだ」と述べたことが伝えられています。（マルコ5：34）「イエスの衣に触れば、直していただける」と信じた、まさに本人の心の決意が自身の肉体も劇的に変貌させたのだとイエスも述べていたということです。

318 Many mystics have employed stimulants of various kinds to promote the knowledge of the unknown. But this is temporary, and many times only a hallucination or a reflection of their desires. This of course is unnatural and does not lead to beneficial knowledge of oneself. And only by knowing and following the natural laws can lasting knowledge be obtained. That is why the words of wisdom, "man know thyself and you shall know all things," have come down through the ages. And are just as true today as when spoken. And if we live these lessons, instead of stumbling in the dark as so many have done, we can go direct to the library of the Cosmos, the house of knowledge, directed by consciousness.

318 多くの神秘主義者は未知の知識を増進しようと様々な興奮剤を採用して来ました。しかし、これは一時的であり、多くの場合は幻覚体験、もしくは彼らの願いの反射でしかありません。これはもちろん、不自然であり、自身の有益な知識に導くものではありません。そして自然の諸法則を知り、従うことによるのみ、永続する知識が得られるのです。それが「人は汝自身を知る、そうすれば全ての物事が分かるはずだ」という知恵の言葉が何世代も通じて伝えられて来た理由です。そしてそれは、その言葉が話された時と全く同様に今日でも真実なのです。そして多くの者がそうであるように暗闇の中でつまづく代わりに、私達がこれらの教科に沿って生きていけば、私達は意識によって指揮された宇宙図書館、知識の家に直接行くことが出来るのです。

#### 【解説】

生命の科学学習講座も後半の第8課になり、そろそろ「意識」への感受力が高まった者に対する助言も記される段階に入っています。しかし、私も含めて人により道程は様々で、ポイントを掴み容易にこの段階に達する方も居るでしょうが、大部分の方は未だ十分な体験を得ていないのかも知れません。

そこで重要なのは、本項の示すところです。即ち、「意識」との交流の時の素晴らしい体験を再取得しようと焦るあまり、薬物を用いたりすることを厳に戒めています。それらは本物ではなく、単なる心の願望が浮き上がる錯覚であり、一時的だと警告しているのです。

それに代えて、自分自身を探求し、自身の中に因の諸活動を探ることを薦めています。もちろん、こうした中で得たご自身の体験は何ものにも代えがたい貴重なものであり、理解を拡げる進化の礎です。

319 Any logical person can see the advantage of going directly to the source of knowledge, the rightful inheritance of each individual. For it is the cosmic household from whence we came. Our space brothers have shown us the importance of a more direct approach to this realization. Now it is up to us to make this a part of our life. Endeavoring to express the real of our self and thus continue through eternity, in many different steps of understanding, in the many forms through which we will everlastingly learn or progress. This is no different than when we build a home here and live and learn in it only to eventually leave it for a still better home. As we progress in knowledge there must be forms to fit this knowledge. Once we learn this the sting of death will be removed. And we will continue to always be the children of the Divine Father, until we become as he is. One consciousness - not the many. Manifesting in varying degrees for various purposes, completing the Cosmic Melody through each form.

319 論理的な人なら誰でも直接、知識の源、各自の正当な相続の恵みの所に行くことが好都合であることが分かります。何故なら、それは私達が生まれ出た宇宙の家庭であるからです。私達の宇宙兄弟達は私達にこの悟りに更に直接的に近付くことの重要性を示して来ました。これからは、このことを私達の生活の一部にすることは私達次第になっています。永遠を通じてのこれらの継続、多くの異なる理解の段階の中、私達がそれを通じて永遠に学び進歩する多くの形有るものの中に私達自身の真実な部分を表現するよう尽力するという事です。これは私達がここに家を建て、そこに住み、その中で学び、遂にはより良い家を求めてそこを去ることと大差はありません。私達が知識に於いて進歩するに連れ、この知識にふさわしい形有るものがある筈です。一度、私達がこれを学べば死の苦しみは取り去られるでしょう。そして私達は常に聖なる父の子供であり続けるでしょう、私達が父になるまではです。多くではなく、一つの意識にです。それは各々の形有るものを通じて宇宙のメロディーを完成させる為、様々な目的で様々な程度に現出することです。

#### 【解説】

この一連の学習は、私達が各々創造の原点に立ち返るといふ遠大なる道程にあります。そういう意味から、単に今生の生涯で完結する筈もなく、来世に続く長い歩みを行くことになることを理解しておく必要があるでしょう。

人間の内部が変化すれば、外側もそれに対応します。しかし、それ以上の進化に対しては、相応しい環境の下、新しい肉体が用意されるということをしかり自覚したいものです。即ち、進歩の道を歩む者に対しては、転生・復活の経路が用意される訳で、もはや死は単なる通過点でしかない訳です。

大事なことは、転生の有無にかかわらずなく、目指す本来の知識の源とのパイプをつなぎ、そこから与えられる直接的な教えを自らが表現者となって現実世界に反映させることだと考えます。創造主の道具に徹することです。

320 But to have this great reward we must remodel our present house and admit the Father of us all into it. Then we as His children obey Him. Knowing He is all knowledge - our consciousness through eternity. For nothing, not even this present house we call our body, or the many planets in the cosmic system, belong to the sense man. He may claim them for the time being through his ignorance and separation from his Father, yet all of these things can be taken away from him and man cannot prevent this from happening. This proves that man owns nothing. He only fools himself when he claims ownership, and satisfies his ego for the moment.

320 しかし、この大きな報酬を得るには、私達は現在の家を改装し、その中に私達全員の父が入るのを認めなければなりません。その後は私達は父の子供達として父に従うだけです。父が全ての知識であり、永遠を通じて私達の意識であることを知っているからです。何故なら、私達が何一つ、自分達の身体と呼ぶ現在の家ですら、また宇宙世界の多くの惑星であっても、感覚人に属するものではありません。感覚人はその無知と自らの父から分離している為に、つかの間、自分のものだと主張するかも知れませんが、これらの全てはその者から取り上げられ、人はこれが起るのを妨げることは出来ません。このことは人は何一つ所有していないことを証明しています。彼は自分が所有権を主張する時、自分自身を騙し、つかの間自分のエゴを満足させているに過ぎないのです。

### 【解説】

私達の心、即ち感覚心 (Sense Man)はいち早く、創造主である全能の父に自分を開放し、家の主人(あるじ)の座を明け渡す必要があることを、本項は説いています。言い換えれば、日々の行動の指針から刻々の態度の全てを従来の「私」でなく、「父」に委ねることが大事という訳です。

所詮、私達の自我の部分は、現状、自分の肉体から諸々の財産、知識に至るまで、自分の所有物を明瞭に自覚していますが、死を迎える状況においては、これら全てのものは自分のものとして保持することは出来ません。全ては私達に授けられたものであり、この世を去る時には元の世界に返却することになります。

しかし、がっかりする必要はないように思われます。「父」は絶えず、受け入れる者に無償、無尽蔵に必要なもの全てを注ぎ込んで呉れる訳で、唯一、父を受け入れることがその条件になるということでしょう。

先日、九十九里(千葉県)のホテルに宿泊した際、早朝、水平線を昇る朝日を見る機会がありました。朝4時半、薄雲の中、水平線から真っ赤な太陽が顔を出すと思うと、ぐんぐんと昇り始め、凧いだ海の真上にまん丸な姿を見せて呉れました。やがて、その太陽は海の上に黄金色に輝く一筋の光の道を示します。その後、太陽は高度を増し、いつものお日様が変わって行きました。

この時、私は日本の国旗、「日の丸」の太陽の赤色の由来が分かったように思いました。それは日の出の時の太陽をシンボル化したものであり、天照大神、その他太陽信仰の民を象徴しているように思った次第です。

さて少し、余談になってしまいましたが、その時、もう一つ感じたことがありました。それは日の出の時、それを拝む者全てに、太陽は輝く光を与え、自らに太陽の力を与えるように思ったこと、また、海の上に水平遙かに続く、光の道を示して呉れたことです。受け入れる者に力と道筋を授けるといふ具体的なシンボルが、毎朝のように自然が見せてくれているという訳です。

321 But there is one thing that God never takes away - the consciousness which the sense mind failed to recognize. For it is the Cosmic Intelligence back of all creation.

321 しかし、神が取り去らないものが一つあります。それは感覚心が存在を認めることが出来なかった「意識」です。何故ならそれは全ての創造物の背後にある宇宙的英知であるからです。

### 【解説】

言い換えれば、どんな時にも、たとえ死を前にしている時も、常に私達と共に有る存在が「意識」であると本項は明かしています。

肉体や諸物は、惑星その他物質世界に帰属する訳で、これらをその世界を超えて移動させることは出来ませんが、「意識」は仮に私が何処に移動しようとも、常に私と随伴し、創造主との仲立ちをしてくれるという訳です。そういう意味では、私達にとって最も信頼を寄せられる存在なのですが、それに気付こうとしない私達こそ、大きな問題があるということでしょう。

「意識」がもたらす創造主の英知によって、私達は行き続けることが出来、日常、意識から来る助言に耳を傾けることで、問題解決を進めることが出来る訳です。その為には、各自こうした自分の守護神とも言える存在からの印象の声を積極的に取り入れて、活用する努力が必要です。

322 In the forthcoming lessons I will venture out into the Cosmos and give you some idea how one may travel through the cosmos without involving the well known, and practiced laws of mysticism that have been used by those who did not know what they were doing.

322 次に続く諸教科では、私は宇宙に飛び出て、良く知られ実践されてはいても、自らは何を行っているか知ることのなかった者達によって使われて来た神秘主義の諸法則には何ら巻き込まれることなく、如何にして人は宇宙を旅することが出来るかについて貴方に幾分かの概念を授けたいと思います。

### 【解説】

この「意識」を自在に用いることが出来れば、人間は居ながらにして宇宙を旅することが出来ると本項で著者は明かしています。1952年の砂漠でのコンタクト以前に、既にアダムスキー氏は「宇宙のパイオニア」を出版していますが、それはこの意識による探検経験に基づくものだと伝えられています。

後年、アダムスキー氏は肉体のままの長距離宇宙旅行であった土星行きについて、肉体による移動は大変だった、意識による旅行の方が楽であったと述懐しています。

さて、本来の人間には、この意識という因に繋がる要素があって、それらは距離に係りなく瞬時に目的地に到達出来ることから、遠隔透視等の能力として知られるところとなっています。しかし、実際には、その多くが何か特殊な霊能力者の持つ超能力として取り扱われる等、一般人の能力開発の道筋には乗っていないのが現状でしょう。

本項では、第9課以降、より具体的にその原理を解説すると、読者に約束しているのです。

ご連絡 [2013-05-28]

いつも、ご覧戴き、ありがとうございます。

都合により、次回更新は5月30日頃になりますので、ご了承下さい。

323 We will study the cell activities, for they not only make up the human form but the cosmic whole. And we will discuss how we can use them in exploring the cosmos.

323 私達は細胞の諸活動を学ぶことになるでしょう。何故なら彼らは人体をだけでなく、全宇宙を構成しているからです。そしてまた私達は如何にすれば宇宙探検にそれらを用いることが出来るかを論じたいと思います。

### 【解説】

本項で「細胞が全宇宙を構成している」と簡潔に記されている訳ですが、著者がどのようなイメージを私達に伝えたいとしていたか、私達は更に深く考察する必要があります。一般的には、個々の細胞と宇宙空間とは何ら関連性がないと私達は考えて来たからです。

残念ながら、このテーマについてアダムスキー氏の講演、その他の記録を知りませんので、以下、私の見解を一例としてお示ししたいと思います。

まず、細胞についてですが、とりあえずは自分の肉体の細胞について考えて見ます。肉体を構成する細胞については、私達は全身くまなくあらゆる場所の器官について、その場所の痛みや痒み、その他の異常状態について把握出来ます。それは人体には神経（或いは触覚の）ネットワークがあり、何処でも誰とでも繋がる仕組みがあるからとも言えますが、意識という概念で言えば、あらゆる箇所に意識を移行させることが出来る訳です。

それら細胞が宇宙を構成しているという概念は、宇宙に存在する他惑星上の生物細胞と自分の細胞とが、関連性を持っていることを意味する訳で、その為には空間を越えて通じるコミュニケーション能力が細胞には存在することが想定されます。

実は、宇宙の中に存在するもの全てが、互いに繋がり、連動した動きを行っていて、それが宇宙全体の調和と方向性を定めるというようなイメージがあるのかも知れないのです。

324 Recently scientists have finally admitted that the cells of any structure are the intelligence of the structure. They are the foundation that has always been, is, and will be, that are grouped for certain purposes.

324 最近になってようやく科学者達はどのような生物形態でも細胞がその知性であることを認めました。それら細胞達はこれまでも、また現在そして将来も基盤であり、各々特定の目的の為にグループ化されています。

### 【解説】

結局は、私達人間も含め、その本質はそれを構成する細胞一つ一つの中にあるという訳です。人体を司る英知は何処にあるかを求めて、解剖して行ったとしても、何か特別な器官を探し当てることはなく、実は全ての要素が小さな細胞の中にあるということでしょう。

細胞自身の中に知性が宿しているとも言えますが、それを支えるのがDNAコードであり、細胞の分化に伴うそれら情報の継承メカニズムです。今日では、各人の持つDNAコードから個人を特定したり、祖先の系譜を辿ったりすることも出来るようになりました。しかし、更に深い知性や記憶がこのコード（符号）の中に蓄えられるところまでは、まだ証明されていません。

しかし、いずれは本項に記されている細胞の驚くべき機能について明かされる時代も来るものと思われ  
ます。日々、私達と共にある各自の身体細胞は一説に60兆個にのぼる数とされており、その一つ一つが持つ本来の知性を活発化出来れば、私達は文字通り、全能の海の中にゆったり暮らすことが出来るに違いないです。

325 May I suggest a scientific experiment which is just as good as any that one may practice. In the June 12, 1964, issue of Life Magazine is an article dealing with color frequency recognized by scientists. It is good for it deals with two phases of development that are quite essential for one's growth. And they are feeling and memory. The experiment is conducted by placing the first three fingers on the different colors while blind-folded. And one is to detect the vibration or frequency emanating from the color, thus being able to name the color. This helps to develop the feeling or touch sensitivity. For frequency or vibration is nothing but a feeling that imposes itself upon the sense mind. One should be very careful about this and once you are able to get the color right endeavor to remember the feeling you get from each color. This will develop a certainty that will stay with you and serve in many fields. And don't forget that a feeling or vibration is actually consciousness alerting the senses.

325 ここで練習するのに丁度良い一つの科学実験をご提案したいと思います。1964年6月12日号の雑誌Lifeに科学者によって存在を認められた色周波数を取扱う記事が出ました。それは人の成長にとって全く不可欠な二つの発達段階を取扱っており、良いものです。なお、その二つとは感じ（訳注：フィーリング）と記憶です。その実験は最初に目隠しをされたまま3本の指をそれぞれ異なる色に置いて行われます。そして色から発せられている振動ないし周波数を探るのです。これは感じや触覚の感受性を発達させるのに役立ちます。何故なら周波数や振動は感覚心にそれ自身の存在を気付かせようとする感じではないからです。これについては人はとても注意して行う必要がありますし、一旦、正しい色を把握できるようになったら、各々から得られた感じを覚えておこうと努力して下さい。これによって以後、貴方にとどまり多くの分野で役立つことでしょう。そして感じや振動とは実際には感覚に警報を発する意識なのだということを忘れないで下さい。

## 【解説】

第8課の最後に著者は一つの具体例として、私達の手指が色の波長も感じ取ることが出来ることを私達に示しています。

もちろん、指の機能には目のような器官はないのですが、細胞の一つ一つは広範囲な波動を感知・認識することが出来るとしている訳です。

このような細胞の波動感知能力は色の判別のみならず、想念についても容易に及ぶものと思われます。よく言われることに、人間の赤ん坊が最も周囲の状況、とりわけ家人の想念状況を感知できるとされることがあります。幼児期の記憶が年老いても明瞭に残るのは、こうした生まれたばかりの細胞の感受力と記憶力が如何に優れているかを物語るものだと考えます。

私達は年を重ねる内に、このような微妙な感性が鈍くなり、無感動・無関心な人間に成り下がってしまいがちです。絶えず自分の肉体の細胞の可能性を広げる努力が重要であり、そうした能力開発の成功体験を数多く持ち、その時の自らの心の姿勢を記憶し、その体験を大切にしなければならないと著者は私達に示しています。

326 We will expand on this in the forthcoming lesson.

326 私達はこれを来るべき教科で詳しく述べることにしましょう。

#### 【解説】

前項（325）では、色を指が識別することが紹介されていました。このことは人間ばかりでなく、昆虫や爬虫類その他の足指は触角は、現状考えられている以上に繊細で、様々な要素を識別出来るものと思われず。

私達の指には触覚があり、圧力や痛み、かゆみ、温熱等を感じる機能がありますが、本講座では、それ以上に視覚や更には想念までも認識できる機能が備わっていることを教えています。言い換えれば、従来の何か正体不明な霊的な要素としては説明せず、具体的な細胞を示し、その機能の一環として解説している訳で、具体的にアプローチするところに本講座の価値があるということだと考えます。

具体的にどのような仕組みが人体や宇宙に備わっているかを明らかにし、その上で各自が自らの肉体と自分の体験を通じて、真理を学び取って欲しいとする著者の念願がそこに息づいています。

ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第09課 段落327 [2013-06-04]

SCIENCE OF LIFE - STUDY COURSE

LESSON NINE

Cosmic And Carnal Cell Activity

By GEORGE ADAMSKI

327 In Lesson Eight we spoke of the scientists acknowledgement on the cells and color. And they now admit that there are living cells in space. I would say, space is an aggregate of living cells from the Brother's point of view.

生命の科学—学習コース

第9課

宇宙的細胞と肉欲的細胞の活動

ジョージアダムスキー著

327 第8課では細胞と色について科学者達が認めたことをお話ししました。今や、彼らは宇宙には生きた細胞が居ると認めています。私としては、宇宙兄弟の見解から宇宙は生きた細胞達の塊だと言いたいところです。

#### 【解説】

著者の言葉そのままに訳せば、「宇宙空間には生きた細胞が居る」ということになります。私達の「常識」では、宇宙空間には大気が無く、真空下でも存在できる鉱物の塊や天体のカケラ等が浮遊しているという程度しか理解がありません。もともと、今日でさえも、ごく限られた宇宙飛行士しかカプセルの中から宇宙を見たことが無い訳で、未だ宇宙の実像について私達の知識は浅はかなものとなっています。

しかし、元来、「細胞」の多くは肉眼で見える筈もない極小のサイズであり、未だに宇宙空間で何が起きているのか、私達は良く知りません。私達の暮らす地球もその「海」の中を移動している訳で、地球自体が宇宙空間の本体と絶えず接触、交流しながら運行しており、実は様々な影響を宇宙空間に与え、また逆に宇宙から影響を受けていることは理解出来ます。

少なくとも、個々の惑星には様々な生きものが棲息している訳で、全体的に見れば、宇宙は生きものの細胞で溢れていると言うことが出来ます。私達が気付かなければいけないのは、これら無数の生きものが一つの共通の形態である「細胞」から成っていることで、この細胞レベルにおいては、種の区別も棲む場所の違いもない共通の機能と知性があるということです。

また、それら細胞間が互いに印象のやりとりが出来るとしたら、素晴らしい世界観、宇宙感が広がります。今日、誰もが持つ「携帯電話」を英語では「cellular phone」と言いますが、その命名の意図の中にこのような要素があったとしたら、命名者は随分と先見の明があったと言えるでしょう。



328 As we stated before, the human body is made of billions of cells, each with a specific mission in life which is carried out in group form. Yet each cell fills its geographic purpose for a structure to be. And remember all of this activity is independent of the sense mind. For it is the cells that bring about the sense mind and sight, hearing, etc., and once the mind realizes this, it looks to the cells for intelligent instructions. And it can communicate with any phase of life here on earth, in space, or on other planets. Even the scientists admit this now.

328 以前にも述べたように、人体は何十億もの細胞から成っており、それぞれの細胞は集合体としての役割を果たすそれぞれ特有の使命を持っています。しかし個々の細胞は構造があるべき姿になる為の地勢上の目的を満たしています。そして、この活動の全ては感覚心とは独立していることを覚えておいて下さい。何故なら、感覚心や視覚、聴覚その他をもたらすのはその細胞達だからですし、心がこのことを悟った後は、心は知性ある教えを求めて細胞に注視するようになります。そうして心はこの地球上や宇宙、或いは他の惑星上の如何なる段階の生命とも意思の交流をすることができるようになります。科学者達でさえ、今やこのことを認めています。

### 【解説】

私達の身体が極小の細胞から成っており、それらが互いに結合して各器官を形成し、全体として機能していることは、私達も知っています。こうして身体を支えることができるのも、各細胞が各々その役割を果たして、体格を維持できているからに他なりません。

各々独立した存在でありながら、全体と調和して自らの役割を果たしている所が重要な部分です。さて、こうした細胞群の活動は私達の心とは独立して機能しています。もしそうでなければ、絶えず動揺する心や毎晩の眠りに就いた後には、身体は活動を停止してしまうことにもなりかねませんが、実際には心とは独立している為、通常は影響を受けにくいという訳です。

本項では、更に心や視覚、聴覚などの元は細胞が生み出したものだと説明しています。言い換えれば、目や耳の感覚器官はこれら細胞の一環として造られていて、問題はそれらの反応を受けて判断するような存在部分であり、心や視覚、聴覚の感覚 (sense) が独立して存在することなのです。

もちろん、私達の心自体が自らの情報源がこれら自身の細胞からもたらされていることを自覚すれば、次第に心は細胞を頼りとするようになり、心のおごりは取り除かれることにもなります。更には、この細胞を通して、距離に関わりなく、宇宙の英知にアクセスできることをも説明している点にも注目したいところです。

329 One who is interested in this, and the student should be, can read the June 1964 issue of Readers Digest, page 195. The scientists say here, supporting my earlier statements, quote; "These traveling enzymes are the voices of other cells calling across intercellular space, swapping information so that the millions of cells gathered to create body parts act in concord in dividing and multiplying, taking their places and assuming special shapes." end quote.

329 これに関心がある人や学生は1964年6月号のリーダーズ・ダイジェスト、195頁を読むべきです。そこに科学者達が私の以前の声明を立証して次のように言っています。「これらの移動する酵素類は何百万もの細胞が集まり、協調して分裂し増殖し、それらの位置を占め、特定の形を造るべく身体の部品を造り上げる為、細胞間の空間を通じて呼び掛け、情報を交換している他の細胞の声なのです。」

### 【解説】

極小の肉体細胞から見れば、人体の各部は宇宙空間のように遠く離れた場所にあるように思われます。その遠くの仲間に自分の意思を如何に伝えるかについて、本項では体内を流れる各種酵素がそのメッセージを務めているという当時の記事を紹介しています。人体において各細胞が互いの状況や意見を伝え合っているという訳です。

そのように細胞が相互に協力し合わなければ広大な身体を維持することなど出来ません。今日、問題となる感覚心も、本来は身体の進む方向や危害を避ける為の役割を持っているのです。

本項で掲載されている記事の内容は、その後も研究が行なわれており、今日ではいわゆる腫瘍マーカー等、血液中の生体因子の濃度を分析することで、体内のどのような部位に腫瘍が発生しつつあるかを調べることが出来、一部は通常の健康診断としても検査されるようになっています。

330 This particular phase has produced the mysteries of the world before this became known as it is today. The mystic groups do not know what takes place when the sense mind connects with the cell intelligence, so they have classified what they receive as coming from the dead.

330 この特定の状態は、今日のようにこのことが知られる前は神秘の世界を造り出していました。神秘主義的な集団は感覚心が細胞の知性と繋がる時に何が起っているかを分らない為、彼らは死者からやって来るかのように分類して来たのです。

#### 【解説】

私達の感受性が高まるにつれて、印象レベルまでの様々な感知範囲が広がる訳ですが、その結果、得たイメージが何処から来るのかが分からない為に、遙か遠い惑星や異次元、霊の世界等々、神秘の世界から来るものと思いがちです。しかし、本項はそれらの多くは、自身の細胞の英知から来るものだと断言しています。まさに灯台元暗しということでしょう。これまで地球では日本神道も含め、霊界その他の神秘を語る教義も多い訳ですが、これらに対して宇宙文明から贈られた「生命の科学」はその点、実に明快に真相を説いています。

重要な点は、仮に更に深い領域があったとしても、実際に私達が日常的にインスピレーションを得、自らの心を制御し、開発する上で重要なのは、先ず自らの細胞の声を聞く姿勢、自らの体内に働く生命の源に絶えず耳を傾けることだと考えます。「汝自身を知れ」という言葉がここでも生きているようです。

331 As near as we can tell, each cosmic cell has a master unit with smaller molecules about it. The early scholars not knowing this, contacting this master cell unit, assumed that the information was coming from a highly developed spiritual guide. But in reality they were getting the impressions from within themselves. As the human body is made of billions of cells, there are billions of master cell units within its structure. And trillions of lesser molecules like a Queen bee with hundreds of workers.

331 出来る限り現実に近いように説明すると、各々の宇宙的細胞には周辺に小さい分子を配した一つのマスターユニット（訳注：統制集団）があると言うことができます。初期の学者達はこのことを知らないまま、このマスターユニット細胞の1団に接触した際、情報が高度に発達した霊的ガイド（訳注：指導霊）からもたらされたものと考えていました。しかし、現実には彼らは彼ら自身の中から印象類を得ていたのです。人体は何十億もの細胞から成り立っていますので、その構造体には何十億ものマスターユニット細胞があります。そして、女王蜂が何百もの働き蜂と居るように、それは何兆もの下位の分子達とともに居るのです。

### 【解説】

細胞については専門外なので、詳しくは存じませんが、重要と思われる事項なので、敢えて私見を述べさせて戴きます。

細胞には「核」があり、その中にはDNAがいわゆる染色体として収められています。どうも著者はこの細胞の中心的存在である「核」を「マスターユニット細胞」と表現しているように思える訳です。

私達の科学レベルでは未だ、明らかにされていませんが、その核の中にはDNAあるいはそれを統括するようなある種の分子集団があり、それが細胞を司っていると解釈出来ます。また、私達の心に印象波を通じて情報を与えるのも、これらの分子群ということでしょう。

こうした情報に心が接することが出来た場合、心は自分にアドバイスを与えてくれる存在を「指導霊」とか「守護霊」とかと想像しがちなのですが、実際にはその多くは自らの細胞から発せられているという訳です。

もともと、細胞が寄せ集まって人体が構成されると説明していますが、そもそもそれを可能とする英知が存在しなければ、細胞は腫瘍のように無秩序に拡大し、本体の肉体を死に追いやる程の本末転倒の増殖しかし得ないことになる筈です。本項は実は一つ一つの細胞の中には、全てを知る分子郡の一団があり、活動を統制しているということを明かしているのです。

332 The master units are cosmic cells that direct all cosmic activity within the body of every form. They could be called, if we were to name them, The Supreme Intelligence, or Father of all creation.

332 このマスターユニット達はあらゆる形あるものの身体の中で全ての宇宙的活動を指令する宇宙的細胞達です。彼らはもし私達が名付けるとしたら、至上なる英知、あるいは全創造物の御父と呼びたいような者達です。

### 【解説】

興味深いことは、著者が本項ではこれまでにないほど、このマスターユニット細胞の重要性について述べていることです。私達自身の肉体各部あるいは細胞の中に、至上なる英知とも言える存在があるということをよくよく理解して置けと説いている訳で、このことはこれまでの宗教・哲学、その他如何なる教えにも出てこない内容であることに私達は注目しなければなりません。

第8課までは、心と意識の関係、意識の持つ機能について学んで来ましたが、本課では肉体各部にある様々な機構とそれを司る英知なるものが、具体的に何処にあって、どのように肉体各部に関わっているかを学ぶこととなります。

また、後で出てきますが、そのような宇宙的な活動を担う細胞達に対して、心に追従する習慣的・惰性的な細胞の散在についても本課で学ぶこととなります。宇宙的細胞と肉欲的細胞のせめぎあいも、心と意識という精神レベルの世界を反映した形で体内で起こっているということでしょう。

333 The lesser workers that form the cells are equal in cosmic principle and are obedient to the direction of the unit instructors. So when the sense mind lends itself to a cosmic impression it is easier for it to receive from the molecules or lesser workers. A scholar of the mysteries not knowing this accepts the impressions as coming from dead entities, for each cell is an entity in its own right. And when impressions are received from master units they are classified as coming from a high, spiritually evolved entity as stated before.

333 細胞群を形作る下位の働き手達は宇宙的原理において平等であり、マスターユニットの教官達に従順です。ですから、感覚心も宇宙的印象に身を委ねるなら、これら分子即ち、下位の働き手達からそれらを受け取ることは容易なのです。神秘学の学者はこのことを知らずに、その印象を死者から来るものと認めて来ました。何故なら個々の細胞はそれ自身の権利を有する存在物であるからです。そしてマスターユニットから印象を受け取った時には、以前述べたようにそれらは高位な、霊的にも進化した存在から来るものとして分類されて来ました。

#### 【解説】

心が宇宙的な印象波動に鋭敏になるにつれて、様々な高次な内容を持つ印象を受け止めることが出来るようになりますが、実際にはその印象のほとんどは自身の肉体細胞から来ることを本項は示しています。

一つ一つの細胞は独立したものである以上、個々の細胞と会話することが出来るようなイメージかと思われれます。また、一方で、これらの細胞はマスターユニット細胞というような宇宙的に極めて知性レベルが高い細胞群の統制化にあり、皆その指令に従順に行動しているとしています。

私達の心が知らないことは数多くある中で、ご自身の肉体細胞は心には左右されず、独自の活動を宇宙根源の英知に沿って行なっている訳です。私達の心が進化を遂げるにつれて、これら身近な細胞達からも、適時適切なるアドバイスが得られるということを実感することが大事な所です。

334 There are cells in the human make up that work in opposition to the cosmic principle. They are habit cells created by the sense mind that are trying to govern themselves by methods of their own.

334 人体の構成の中には宇宙原理に反対して働く細胞群があります。彼らは自分達自身の方法で自らを自立させようとしているもの達で、感覚心によって造り出された習慣的な細胞群です。

### 【解説】

本課で言うマスターユニット細胞のように宇宙英知に直結し、人体を機能させている細胞群があるのに対し、丁度、意識に対抗する感覚心が思い通りにさせる別の細胞群も存在することを本項は明かしています。

習慣細胞とも言えるこれら細胞群は永年の心の指示に従って、私達の日常行動をもたらしているものと思われる。その最も分かり易い例は喫煙や飲酒の習慣ではないかと考えます。ニコチンやアルコールが習慣性を帯びて来ると実は体内でその摂取を望む細胞群が出来上がってしまうことも考えられます。気分が心地よいと感覚心が重い、それに依存するようになると同時に、体内にそれに呼応する細胞群が増殖して、やがては本人自身を支配するようになる程、増殖するという訳です。

しかし、その一方、心が改心し、その支配力を宇宙意識に返上して宇宙的細胞を増やすことが出来れば、体内は本来の細胞に入れ替わるものと思われる。心身ともに健康になるということがどういうことかを教えるのが、本課であると思われる。

335 In the cosmic organization there is no fear, so the fears that all humanity knows come from foreign cells created by the sense mind. There are many foreign cells that cause envy, jealousy, suspicion and etc., that hinder the growth of the individual in becoming one with the cosmic purpose. These are very powerful for they have been given dominion in this world for ages. And they have the sense mind serving them first. But when this is realized and worked with, the chemicals of these cells begin to change in line with the Cosmos.

335 宇宙秩序の中には恐怖は存在しません。それゆえ全人類が知る恐怖の類いは感覚心によって造り上げられたよそものの細胞から来ています。宇宙的な目的と一体になろうとする各個人の成長を妨げる妬みや嫉妬、疑惑等を引き起こす数多くのよそ者細胞が居ます。これらは何世代にわたってこの世界での支配権を与えられて来た為、大変力があります。また、それらには真っ先に仕えるべき存在として感覚心があります。しかし、このことが理解され、努力すれば、これら細胞の化学成分は大宇宙に沿って変化し始めます。

### 【解説】

前項ではアルコール等の依存症にはそれらの摂取を促すような体内の細胞があるのではないかというお話をしましたが、本項では私達の体内には感覚心が創りだした様々な細胞が居ることが述べられています。

まさに敵は身内の中にあつた訳です。感覚心が創りだしたこれらの細胞は既に私達のその他の細胞群と渾然一体となって私達の肉体を支配し、また感覚心は精神レベルを統制してしまっているのかも知れません。

それに対して、このような実態が理解できれば、私達には本来の姿に戻す力は十分に残されている訳で、悪事を悪事と認識した途端にこれら感覚心が創りだした細胞は次第に本来の姿に改質され、従順な細胞になると説かれています。

このような過程は、当然のことながら、他人では出来ない、あくまで本人の任務であり、私達は自分自身と向き合うことが必要な訳です。努力・精進に対する報いと成果も本人に掛かってくるということでしょう。

336 The foreign cells have been cultivated by the sense mind through fear and other phases of unpleasant thoughts against others. They are no different than the foreign cells known as cancer in the human body. And if allowed to continue they multiply the same as a cancer does. And it is a well known fact that they will eventually take over completely.

336 そのよそ者細胞らは感覚心によって恐怖やその他他の者に対する不快な想念を通じて培養されて来ました。それらは人体のガンとして知られているよそ者細胞と何ら異なるものではありません。ですから、もし許容され続けると、それらはガンがそうなるのと同様に増殖を続けます。そしてそれらは遂には全てを乗っ取ってしまうことは周知の事実です。

### 【解説】

自身の身体は自分が創り出しているとも言うことが出来る訳です。生まれたばかりの赤ちゃんは肌も柔らかく、全てが若々しくしなやかです。しかし、年齢を重ねるにつれ、身体各部は硬直化し、輝きを失ってしまいます。通常、「老化」と一口に片付けられてしましますが、実際にはこれら老化の原因の多くが本項で言う感覚心に従う細胞群の占める割合が増えてしまうためだと考えます。

まさに身体の中で宇宙的細胞達が人体維持に奔走している中で、感覚心に従う細胞達が様々な不具合を体内で起こし、その結果、身体あらゆる箇所ですら「老化」が起こっていると見るべきでしょう。

一方、宇宙意識には常に新鮮さ、若さのみがある訳で、それに同調する者は老いを知りません。体内の中で常に新陳代謝がスムーズに行なわれることでしょう。私達全ては永遠なる命を持ちたいと願う訳ですから、その為にも感覚心の傲慢さをいち早く捨てて、全てを宇宙の英知の表現者に成り切るよう、先ずは自身の身体に残る宇宙的細胞達の声に耳を澄ますことから始めたいと思うものです。

337 There are records of mystics who have willed themselves to a spiritual guide and lost their individuality. And the supposed guide was nothing more than foreign cells created by the mind desiring a spiritual leader.

337 これまで自分自身をある霊的な指導者に捧げて自分自身の個性を失った神秘主義者の記録があります。しかし、その指導者と思われた者は、霊的指導者になろうと願っている心によって造り上げられたよそ者細胞達以外の何物でもなかったのです。

### 【解説】

私達が印象類への感性を高めるに当って、注意すべき点を本項は示しています。即ち、私達の心が高次・清明なる状態を保っていないと、前項（336）までに説かれて来たような自身の体内の中の感覚心に従う細胞達が発する印象のみを拾ってしまい、最後は自分を失ってしまうことが起こると警告しています。

もちろん、自分の身体の中の細胞の影響であれば、自業自得であり、誰も他人を責める訳には行きません。ただ、自分の不甲斐なさにこそ焦点を当てるべきでしょう。

しかし、そうは言うものの、生きている限りは、まだ体内には宇宙英知に従って生命活動を支えている優秀なる細胞群が残されている訳で、最後の最後まで希望は十二分に残されているものです。

338 You may say, but can a sense mind create ? Yes, for the mind is an effect of a cause and it carries the same potential. All jealousy, hate, etc., are man's creation, for in the Cosmos we find none of these. And both the normal cells and the abnormal cells keep records of all actions to which the sense mind can go for information when the need arises. Normal cells will give the individual correct information, while the abnormal cells will give misleading information based on past experiences. Both live by multiplication. This is the law of survival, so the abnormal ones will strive to multiply and resent any interference, while the normal ones do not resent or resist interference.

338 貴方は感覚心は創造することができるのですかと言うかも知れません。出来るのです。何故なら心は因の一つの結果であり、それは因と同じ潜在力を携えているからです。全ての嫉妬、嫌悪その他は人の創造結果です。何故なら大宇宙にはこれらのいずれも見出すことはできないからです。そして正常な細胞達と異常な細胞達の両者とも感覚心が必要性が起った時に参照しに行ける為の全ての行動の記録を保持しています。正常な細胞は各自に正しい情報を授けますが、異常な細胞は過去の経験に基づいて誤解させる情報を与えます。両者はともに細胞分裂によって生き延びています。これが生存の法則であり、異常細胞は細胞分裂に励んで如何なる邪魔に対しても腹を立てますが、正常な細胞達は腹を立てたり、妨害に抵抗することはありません。

#### 【解説】

したたかな感覚心が、どのようにして英知を盗み、自らの勢力増強の為、画策しているかを本項は明かしています。生命が備える過去の経験や活動経過を調べて、それを自らの子分を生み出す為に利用する、悪質な存在であることが、本項で暴かれている訳です。

そういう意味では、私達は通常、全ての者が「悪人」である訳ですが、こうした実情を直視すれば、改善の方向性も見えて来ます。どのようにして自然界の他の生きものはこのような「妬み」や「不満」、「悲しみ」に囚われないのか、植物は枝を切られても更に伸びようと境遇に逆らわず、柔軟なる態度を貫いていることにも注目したいところです。

このような自然界の生きもの達がどうしてそれを可能にしているかについて、深く考える必要がありそうです。また、それと同時に私達の身体内部の浄化（みそぎ）についても心を尽くしてその実現を目指し、心身共に清明なる状態を維持すべきことは言うまでもありません。

339 In order to change the abnormal or carnal cells into normal or cosmic cells there must be a chemical change caused by the sense mind accepting the help of the cosmic cells. This is not easily done for the carnal ones through habit do not want to lose their dominion. Sometimes it is necessary for an individual to associate himself with a higher developed person for environment has much to do with development. We can readily see this in the society in which we live, for individuals are molded according to their environment.

339 その異常であり、肉欲的な細胞群を正常即ち宇宙的細胞群に変える為には、宇宙的細胞群の助けを受け入れる感覚心によってもたらされる化学的変化がなければなりません。これは習慣を通じて自らの支配権を失いたくないとする肉欲細胞群にとっては容易なことではありません。時として、高度に発達した人物と接することも必要となります。環境は発達に大きく影響しているからです。私達はこのことを私達が暮らす社会の中で容易に見ることが出来ます。何故なら各自は各々の環境に依りて形成されるからです。

### 【解説】

一度、肉体細胞の中に感覚心に従う細胞群が作られると、それらは習慣に支配され、宇宙的細胞から指導を受けるような受容的態度は示し難いこととなります。

その時、有効なのは、良い指導者に出遭うことだと、本項は述べています。高次な内容と知識を持ち、実践している人と接することで、本人の進化が飛躍的に高まるという訳です。

生前、アダムスキー氏の周囲には多くの求道者・探求者が集まっていたように思われます。各地で少人数のミーティングを開く等、氏はその主な活動をこうした少人数に対する助言と支援活動に充てていたように思われます。コーワーカーと言われた協力者達も、氏との出会いによって生長された方々だと考えます。

現状社会の中で、道を求め、毎日を生きていくのは容易ではありません。各自の歩みの日々の中で、アダムスキー氏亡き後も、氏の説諭を思い出すきっかけとして、本シリーズが皆様のお役に立てればと思うものです。

340 Scientists now reveal that DNA directs all normal cell activity. And the cells are never silent as they travel from one to the other delivering their instructions.

340 科学者達は今やDNAが全ての正常な細胞活動を指導していることを明らかにしています。そして細胞達はそれらの指令を次々に他の者に配達する為、移動するので決して沈黙する存在ではありません。

#### 【解説】

本項では、これまで述べられてきた宇宙的細胞の指令をDNAが担っていることを明かしています。言わば細胞内のDNAを通じて指令が伝達されるという訳です。

私達の身体の中には血球やリンパ細胞等、様々な細胞が全身くまなく循環しています。これら体内を移動する細胞群がメッセンジャーとなって宇宙的細胞からの指令を伝達しているということでしょう。

今日、私達の健康診断でも血液検査が基本的検診手法として行われますが、本来はこうした体内を移動する細胞群をチェックする意味合いもあるのかも知れません。

いずれにしても、絶え間なく身体を巡るこれら細胞群の活躍が無ければ、呼吸に伴う酸素や二酸化炭素の移動一つとっても、私達の生命活動は立ち行かないことは確かです。

341 The cosmic cells are always ready to help the carnal ones but this must be done by the insistence of the sense mind. And the process is no different than training a vicious animal to honor and obey. For through this kind of act the tendencies of viciousness are changed to kindness through chemical changes. The modern tranquilizer drugs do this, but only temporarily. To have a permanent lasting effect the sense mind must submit itself to such a change. During the change there naturally will be a conflict for the carnal cells will not be too willing to change. But the individual must stand firm, paying little attention to the unpleasantness that he will go through during this period, if he is to live a cosmic life instead of a personal existence.

341 宇宙的細胞は常に肉欲細胞を助けようとしています。これは感覚心の強い意志が無ければなりません。そしてその過程は凶暴な動物を貞節と従順にする訓練と変わるところはありません。何故ならこの種の行動を通じて、凶暴な傾向は化学的変化を経て優しさに変化するためです。現代の精神安定剤はこの働きをしますが、それは一時的です。永遠に続く効果を得るには、感覚心は自分をこうした変化に委ねなければなりません。その変化の間には当然、葛藤もあるでしょう。肉欲細胞らは変化することを余り好まないだろうからです。しかし、各自は、個人の存続の代わりに宇宙的生命を生きようとするなら、この期間で体験する不愉快さに少しの関心を払うことなく、しっかりそこに立ち向かわねばなりません。

#### 【解説】

先ずは私達自身の感覚心が、自らの原点に回帰する為に、しっかりした意志を持って、宇宙的細胞から指導を仰ぐことを揺るぎない信念とし、自ら蒔いた肉体細胞が本来の従順な細胞に訓練されることを望む必要があります。

その道程は容易ではないかも知れませんが、自らの日常の行動を通じて、自分自身を観察すれば、その必要性は誰にでも明らかであり、一方、優れた先人の人格と見比べれば、目指す道程は各自にとっても正しいものであることが分かる筈です。

私達は、これまでのおごりや恐怖等、感覚心の特徴をよく見定め、これらを解決する為に、自らの体内の宇宙的細胞の示す指導の声を役立てなければなりません。少しずつですが、肉体各部の細胞も改質され、全身から改善のきざしが見えるようになれば、後はそれを継続するのみということになります。

342 Once this is accomplished freedom will be known. For then the individual can travel the Cosmos, using his body for the transmission of knowledge to those who have not yet learned to travel in this way. This is comparable to our radio, television and wireless that serves mankind today. For the sense mind acts as a receiver and transmitter of knowledge. This is true psychic development, but this phase of what is called (psychic) has never been understood until now.

342 一旦、これが成し遂げられると自由というものが自覚されるでしょう。何故なら、各自は自分の体を使いながら、そのような方法で旅することを学んでいない人達に知識を伝達する為、宇宙を旅することが出来るようになるからです。これは今日、人類に役立っている私達のラジオやテレビ、無線通信に例えることが出来ます。何故なら感覚心は知識の受信器や送信器として働くからです。これが真の心霊的発達なのですが、(心霊)と呼ばれるもののこの段階はこれまで全く理解されて来ませんでした。

### 【解説】

本講座も9課ともなると、大分深い所まで説かれるようになりました。

本項は、私達の感覚心が自らの身体の宇宙的細胞からの知識を感受出来るようになれば、居ながらにして、宇宙を旅することが出来るようになると説いています。宇宙的細胞からの印象に同期することで、丁度私達がテレビを見て、遠い地域の状況を見るように、目の前に遠く離れた宇宙の状況を把握することが出来ると説いているのです。

これらは「心霊現象」と呼ばれてきたものの本当の姿だと明かしている訳で、私達は早晚、遠隔地の様子や今後待ち構える状況を前もって予測することも出来るということでしょう。しかし、大事なことは、これらの能力は、心自体が有するのではなく、自らの肉体の宇宙的細胞からの指導であり、清浄なる肉体細胞と従順なる感覚心がなければ、そのような状況は起こらないということについても注意したいところです。

343 As you can see this true phase depends upon nothing but yourself. And the old interpretations of guides etc., are not involved. And as we stressed throughout the lessons, until now you have been living almost entirely within the realms of the sense mind with half of yourself searching for the other half. In other words longing for the cosmic part known as consciousness. For it is the cosmic one that makes the sense man feel that there is something more to be known. And man will not rest or be content until he finds that other half of himself.

343 お分かりになるように、この本物の局面は貴方自身以外何物も頼りにするものではありません。ですから指導霊等の古い解釈等は含まれていません。また、私達がこれら教科を通じて強調したように、皆さんはこれまでほとんどすべてもう一方の自分を探しながらも、その感覚心の領域内のみ生きて来たのです。言い換えれば、意識として知られる宇宙的部分を切望しながらです。何故なら、感覚人に何か更に知らねばならないものがあると感じさせるのはこの宇宙的半身であるからです。そして人は自分がその自分自身のもう一つの半身を見つけるまでは、落ち着いたり満ち足りることはないでしょう。

#### 【解説】

これまで述べられて来たように、従来の指導霊とか表現されて来たものは、実はそのようなものではなく、本人の肉体内の宇宙的細胞からもたらされている点を、先ずはっきりさせる必要があります。その上で、現実の日常生活の中で私達はそのほとんどを感覚心のみ頼っていて、その範疇にしか生きて来なかったことを自ら自覚することです。

しかし、私達は現状のままで良しとするものではありません。より良い方向に向けて生活姿勢を切り替えたいと思う訳ですが、それを促しているのは、実は本人の宇宙的細胞、宇宙的半身であると説いています。

現状のまま、惰性のままに過ごしている方にとっては、特に問題も感じることもなく、人生を送ってしまうのかも知れません。しかし、何かより良いもの、自らが生まれて来た目的を完遂するために精進したいと思い起こすこと（発心）が持てれば、それ自体、既に宇宙的細胞、宇宙英知の声を聞き始めていることでもあると説いているのです。

344 We read in the Bible; As it is in Heaven so it is on Earth. Or, as it is in consciousness so it must be in the sense mind.

344 聖書にはこのように書いてあります。天に行われるごとく地にも行われますようにと。それはまた、意識に行われるごとく感覚心にも行われますようにとも言えます。

### 【解説】

意識の中で起こっていることを、私達の感覚心の中に反映させることが大切だということでしょう。意識と表裏一体が目的地という訳です。

感覚心が自ら考え出すのではなく、意識から来るアドバイスを無条件に受け入れ、実行することで、宇宙英知の思いが地上に実現することになります。

これまで、この聖書の言葉を私達は、「他の優れた惑星の社会を地球でも実現できますように」と解釈してきました。しかし、イエスが語ったその言葉の本当の意味は、私達自身の心が意識を如何に反映し、再現するかにあると本項は説いています。

345 All normal cells operate as consciousness impressing the sense mind with its potentials. And as the cosmic cells are not a respecter of persons they lend themselves to the sense man even though the man makes a mistake. For he can learn from the lesson and seek the corrective way of executing his impressions. All cells use the language known as telepathy - the language of impressions that come in silence.

345 意識が感覚心にその（訳注：感覚心の）可能性を印象づけることで全ての正常な細胞は動作します。また宇宙的細胞群は個人を尊重する者では無い為、それらは自らを例えその者が過ちを犯すことになっても、感覚心に委ねるのです。何故ならその者はレッスンから学び、自分の得た印象類を実行に移すまでの修正方法を探ることができるからです。全ての細胞はテレパシー、即ち沈黙の内にやって来る印象の言葉として知られる言語を使用しています。

### 【解説】

ただ印象による指導だけでは、本人に潜在能力が無ければその指示通りの行動は出来ません。私達が意識による印象を活かせるのは、私達自身にその能力が備わっているからと考えるべきでしょう。

ここでは「正常な細胞」と表現していますが、これは前項までの「肉欲的細胞」とは異なるものを指しています。これら肉欲的細胞はまだ、身体の一部でしかなく、他方、大半の細胞は各々印象による指導に従って、私達の感覚心とは関わり無く活動を続け、人体を維持しているという訳です。

しかし、私達の感覚心はその印象を感受できたとしても、その解釈を誤り、失敗をよくするものです。それでも、「正常な細胞」達は、惜しみなく私達を支え、感覚心が失敗から経験を学び取り、次に活かすことを願っているのです。

346 There are two avenues of impressions. Those from abnormal or carnal cells created by the mind of distorted nature so well known in this world, and those that come from the normal cells of cosmic nature that give a constant feeling of elevation. The doors to both are open for manifestation and they permeate all space like the television and radio waves do. We live in the sea of them and it is up to the individual to make the choice of which ones he wants. If we want a war picture depicting misery we can tune into that type and live in that environment. Or we can choose a program of beautiful melodies or a performance of kind deed and enjoy that environment. One is of noble life and the other is of abnormal life. And we must remember that all of this is taking place in the sea of life. And we have been given a free will to choose which environment we wish to live in. I do not mean that we should ignore the abnormal actions of any phase. For if we are to know life from its lowest expression to its highest potential we must observe all actions. Then we will understand the cause back of them, observing the law of action and reaction - cause and effect. But we do not have to become the actors. We can watch a prize fight and not become a fighter but we can see how the human mind operates. When we can do this we are better equipped with knowledge and aware of the type of impressions that come upon us which could take over. This is where wisdom begins.

346 印象の経路には二つの道があります。この世の中ではあまりに良く知られているねじれた性質の異常細胞群、即ち肉欲細胞群から来る経路（訳注：複数）と常に高揚する気分にする宇宙的性質の正常細胞群からくる経路（訳注：複数）です。現出に向けての扉（訳注：複数）は両者ともに開いており、それらの印象はテレビやラジオの波のように全ての空間を通過しています。私達はそれら（訳注：印象）の海に生きており、自分がどれを望むのかを選択するのは各自に委ねられています。もし私達が悲惨さを描く戦争の映像を求めるなら、私達はそのタイプのものに同調出来ますし、その環境に生きることが可能です。あるいはまた、私達は美しいメロディーの番組か親切な行為のふるまいを伝える番組を選択し、その環境を楽しむことも出来ます。一方は高貴な生涯であり、他方は異常な生涯です。そして私達が覚えていなければならないのは、この全てが生命の海の中で起っているということです。また、私達はどちらの環境で生きたいかを選ぶ自由意志が与えられています。私は如何なる側面の異常な行為であっても無視すべきと言っているのではありません。私達が生命をその最低の表現から最高の可能性まで理解しようとするなら、私達は全ての行為を観察しなければならないからです。そうすれば、私達は作用と反作用、原因と結果の法則を観察することによって、それらの背後にある因を理解することになるでしょう。しかし、私達はその行為者になる必要はありません。私達は懸賞試合を観戦することが出来ますが、選手にはなれません。しかし、人間の心がどのように働くかを見ることは出来ます。これが出来れば、私達は私達にやって来て自分を支配しかねない印象のタイプに関する十分な知識を身に付け気付くことが出来るようになります。これが知恵の始まりです。

### 【解説】

私達は想念・印象に溢れた海の中で暮らしています。様々な源から発せられた想念は当然のことながら、様々な段階のものがある筈です。また、地球では過去から現在まで多くの悲惨な結果をもたらした戦いがありましたし、そうした状況の中で発せられた想念も多くありますが、一方では自然豊かな環境の中で惑星本来の自然と調和した平和な印象も多く存在します。

こうした中で、私達はどのようにこれら想念・印象を選択して行けばよいのかを本文は分かり易く解説しています。また、私達自身の中でも感覚心に追従する異常細胞と宇宙意識への従順さを保持している正常細胞がある訳で、そこから発する想念のレベルも様々となります。

私達はそれらの実状を先ずはありのままに直視せよとしています。その想念に従って行動するというのではなく、まずその実態を観察せよとしています。こうすることで、それらが原因となってどのような結果を生じさせているかが分かるようになるという訳です。私達は否応無く様々な想念・印象にさらされている訳で、そうした中でどのような取捨選択をすべきかについて、私達に丁寧に説明して呉れているのが、本項です。

347 We are told that Jesus went to a prison and talked to the prisoners. But he was not affected by the environment or impressions that came from the prisoners.

347 イエスは牢獄に行き、囚人達に話をしたとされています。しかし、彼はその環境や囚人達から来る印象類に影響を受けませんでした。

### 【解説】

聖書にはイエスが磔刑に処せられた時、傍らに同様の刑に処せられた盗人とのやり取りが伝えられていますが、イエスは処刑の前に牢獄に連れて行かれたものと思われま

本項は自らが処刑される状況下で、イエスは何らの影響も受けなかったと記されています。私達には到底及ばない強い意志と劣悪な地球の状況に対する哀れみさえ覚えられたものと推察されます。

私達は様々な想念環境の中で暮らしています。自分のみならず他人の感覚心から発せられる言動にも大きく影響を受けがちです。そこに悩みも生じる訳ですが、そうした相手の発する言動と態度に対しても、動揺しない強い信念、私達自身の中にある宇宙的細胞の声こそが唯一、頼れる存在であることを十分に自覚し、つまらぬ影響を受けないよう注意することが必要です。

348 We can use this illustration; A man on a tall building can observe all that is taking place below him. He sees the confusion but is not affected by it nor does he become a part of it. This is what you can do when you observe the actions of sense minds through your consciousness.

348 このような例を用いることが出来ます。高い建物の上にいる者は下で起っていることの全てを観察することが出来ます。彼は混乱を見ますが、それに影響を受けたり、その一部になることはありません。これが感覚心の行動を貴方の意識を通じて観察する際、貴方がなし得る内容です。

### 【解説】

環境からの悪影響を受けない能力を持つことは、地球に生きる私達にとって大変重要なことです。ただでさえ、様々な誘惑や他人を恐怖に陥れるような仕組みがこの惑星の人間社会には出来上がっているからです。

前項（347）はイエスの当時の状況を伝えるものと言えますが、アダムスキー氏がこのようなことを語った背景には、当時イエスの身近に居た人物であったからとも推定できます。

いずれにせよ、私達は自身に湧き起こる想念も含めて、その発するイメージをよく観察し、それらがどのような種類のものかを分析する必要があります。そうする中で、低レベルのものについては、実際それらがどのような作用をもたらしているのか、少し離れた立場で分析・観察することが必要です。原因と結果の関係を学ぶ姿勢です。

しかし、私達は単に観察者だけで終わってはならず、それら現実社会を向上させる上で、何らかの役割を果たしたいものです。それはここまで学んできた者のつとめであり、より高次なる者から私達に期待されているところです。

349 I stated at the beginning of this lesson that space is permeated with cosmic cells. All cells are conscious entities that make up the mind and all forms known and yet to be known. Our scientists recognize this now and our astronauts are being taught how to receive impressions from the living cells in space. These cells do not lend themselves to personal opinions of sense minds. But there is not a moment in life that the sense mind does not receive impressions from the cosmic source. The mind may not be alerted to them because it is preoccupied with its own abnormal conditions, but the impressions are there just the same. The only time that the sense mind becomes aware of them is when it loses its interest in itself. Sometimes this is called meditation or silence, for it is then that thoughts or impressions move before the sense mind at terrific speeds.

349 この教課の冒頭（訳注：327）で宇宙は宇宙的細胞で染み渡っていると述べました。全ての細胞は心や知られている、またまだ知られていないあらゆる形有るものを造り上げる意識的存在なのです。地球の科学者達は今やこのことを認め、宇宙飛行士達は宇宙空間において生きている細胞達から如何にして印象を受けるかを教わっています。これらの細胞達は感覚心達の個人的意見に自らを委ねることはしません。そのかわり、感覚心がその宇宙的源泉から印象類を受信しないことは片時もないのです。心はそれ自身の異常な状況に夢中になっている為、それらに警戒できないのですが、その印象類は全く同様のままそこにあるのです。感覚心がそれらに気付く唯一の時とは、感覚心が自分自身への関心を無くす時です。ある場合にはこれは、瞑想あるいは沈黙と呼ばれます。想念或いは印象が感覚心の前を猛烈なスピードで移動するのはそのような時だからです。

#### 【解説】

本文に記されている「宇宙空間には宇宙的細胞で染み渡っている」ことについて、私達の知識は皆無と  
いってよいでしょう。グレン飛行士の「宇宙ホテル」や同乗記に書かれている様々な活動が、実際の宇  
宙空間では起こっているという訳です。これまで私達は地球を取り巻く宇宙空間は空気もなく、ただ塵  
や惑星のカケラが漂う暗い空間でしかないとの認識でしたが、どうやらそれは間違いのようです。

以前から、宇宙飛行士が宇宙での滞在経験によって、精神性が高まるとの指摘がありましたが、それも  
このことが原因かも知れません。宇宙空間には創造主に直結する様々な要素があるということによ  
う。

本項が書かれた当時、既に宇宙飛行士の訓練カリキュラムの中にテレパシー能力の開発が加えられてい  
たことを本項は明かしています。様々な装置を操作し、所期の目的に任務を遂行する為にも、冷静沈着  
な対応が必要である等、実務面からも宇宙飛行士には自らの感覚心を統制する能力が求められているこ  
とでもあります。

地上に居る私達も含め、感覚心の中には時々刻々、猛スピードで想念・印象が通過しています。それら  
有益な想念をキャッチできれば、私達も進化を遂げることが出来る訳で、自分のことばかりを指向する  
自らの感覚心の関心を消して初めて、これら新鮮な想念・印象に触れることが出来るということです。

350 Here also one must be careful which ones he will give recognition to for abnormal impressions created by cells of that type join and move with the normal ones, just as fast. Like riley water mixing with clear water.

350 ここでもまた、人はどちらに承認を与えるかについて注意しなければなりません。その種の異常細胞で造り上げられた異常な印象類は正常なものに取り付き、一緒になって素早く動くからです。それは、清らかな水に混じる濁り水に似ています。

### 【解説】

私達を取り扱っている印象の領域は、とてもデリケートなもので、一瞬一瞬油断は出来ません。一見、よさそうに思えても実は感覚心のたくらみであることも多いものです。ハトのように穏やかでへビのように賢く観て行く必要があります。

これまで多くの方が実見記や同乗記、更には「テレパシー」「宇宙哲学」「生命の科学」を学んで来たものと思われませんが、私達の関心は長続きせず、残念ながら一時期の好奇心で終わってしまった方も多いうように思われます。

巧妙な私達の心は、隙を見つけては私達を誘惑する訳ですが、私達はそれらの誘いに下ることなく、真相を見極めなければなりません。こうして自らを浄化して行く中で、心身の汚れも取れて行くに違いありません。

351 If the sense mind pays close attention without self opinions it can differentiate between the two. For one will have a personal tinge to it, while the other remains cosmic, like the shades between the riley water and the clear water. And the sense mind with its free will can choose one or the other. The astronauts will have to learn this in order to differentiate between the wishful thinking of the sense mind and cosmic reality.

351 もし感覚心が利己的な意見を持たず注意深い配慮を払えば、その二つを識別することができます。何故なら丁度濁り水と清水との間に陰影が違うように、一方には個人的な色合いがあるでしょうが、他方は宇宙的なままであるからです。そして感覚心は自由意志を持つ為、そのどちらか一方を選ぶことができます。宇宙飛行士達は感覚心の希望的考えと宇宙的現実とを識別する為、このことを学ぶ必要があるでしょう。

### 【解説】

私達は、これまで学んで来たように様々な問題を抱えながらも、感覚心を切り離すことは出来ない訳です。その感覚心を成長させ、本来の姿に戻すことが課題となっています。

本項の場合、本来は自ら蒔いた種ではありますが、それらが源となる誤った想念と宇宙的想念とを区別して、必要な方を採用しなければなりません。その際、私達の感覚心が冷静に見つめれば採用すべき方を選択することが出来るとしています。

やってくる印象類、想念に対して見極める能力が本来の私達には備わっているという訳です。これらのことは、私達の日常でも、宇宙空間で勤務する宇宙飛行士にも同様に起こっており、どのような心境の時に、良い判断が出来たか、よい作品が生まれたかを覚えて置き、次回に繋げることが大切です。

352 As said before, there will never be a time that the sense mind will not be receiving impressions from cosmic consciousness. As it is the knower and creator it cares for its creation, especially the sense mind through which it can express its totality. And the Law Of Grace is used, giving the sense mind an opportunity to unite with it and become one manifestation. We are given this opportunity through re-birth.

352 以前に申し上げたように、感覚心が宇宙意識から印象を受けていない時は一瞬たりとも無いでしょう。宇宙意識が知る者であり創造主である為に、それはその創造物、とりわけ感覚心については感覚心を通じて宇宙意識の完全性を表現できるが故に加護するのです。そして恩寵の法則が用いられ、感覚心に宇宙意識と一体化した現れになる一つの機会が与えられます。私達は生まれ変わりを通じてこの機会を与えられています。

### 【解説】

このように問題のある私達の場合、感覚心なのですが、それがどうして惜しみなく宇宙意識から支援を受け続けることができるのかを、本項は説明しています。親が子供を見守るように、私達は常に宇宙意識から適時適切な支援の想念を賜っているということです。

私達に期待されている行動をとれるよう、本人が受け取るか否かに係らず常に見守り、安らぎを与えてくれる存在に対して、私達は感謝の気持ちを忘れてはなりません。

これらの状況が自動的になされるようになった時、私達は真の意味で生まれ変わるようになります。「意識と一体になる」という表現がありますが、自らの自然な行動が創造主の趣旨に合致したものになる時、因に居る創造主もお喜びになることは間違いありません。

353 Some may ask, what if there is no improvement over a period of time ! It seems under these conditions the sense mind returns to the original state, but it has lost its identity. The normal cells unite with other cosmic cells and the carnal cells are gradually absorbed by the cosmic ones. There will never be a time, once a man learns the other half of himself that he cannot view the Cosmos at will. For then he will be the cosmic self.

353 ある期間経っても進歩が無い場合はどうなるのかとお尋ねになる人もいるでしょう。それは感覚心がもとの状態に戻りますが、感覚心のアイデンティティ（訳注：自分が自分であること、正体）は失われてしまう状況のように思われます。正常な細胞群が他の宇宙的細胞群と団結し、肉欲的細胞群は徐々に宇宙的細胞群に吸収されて行きます。一旦、人が自分自身のもう半分を学べば、意のままに宇宙を見られないようなことは一時も無いでしょう。何故なら、その時、彼は宇宙的自我になっているからです。

### 【解説】

このように宇宙の意識から私達は支援を受け続けて来た訳ですが、それにも限界があるということです。その期限は不明ですが、いつかは感覚心は正体を宇宙的細胞に吸収され、もとの状態に戻ると説かれています。本件についてアダムスキー氏の他の著作では、「記憶が消失する」と述べられていたように思います。即ち、通常は記憶が何らかの経路で死後も運ばれる訳でしょうが、この場合は、完全に個人の記憶が無くなってしまふということを意味するものと思われます。

一方、私達が自らの宇宙的半身に目覚めることが出来れば、自由に宇宙を見る事が出来るとしています。居ながらにして宇宙かなたの状況を感知出来るようになるということでしょう。自分自身、インスピレーションを得る機会が多くなった等の効果が上がっていれば、進歩の道程にあることは間違いありません。

354 The earth and space are of cosmic nature, thus man is not forbidden to view any part, or all, while living here. I am sure the astronauts will have that experience, once they venture into space, providing they are well schooled in receiving impressions. They will have the opportunity to live in two states of life-one the sense mind educated in the world's environment, the other-conscious awareness of living space. They could receive impressions of cosmic space while at the same time their sense minds could be wondering what was transpiring down on earth. They will have a remarkable opportunity to compare earth's knowledge and conscious knowledge. And will be in a position to blend the two into one. For they will be viewing that which cannot be seen with sense sight and that which can be seen with sense sight. And they will know the difference between that which is real and that which is not for the cells of the cosmos will communicate with them through impressions. And the sense mind will transform the information into sound when the astronauts speak to others.

354 地球も宇宙空間ともに宇宙的性質のものであり、人はここに生きている間、その如何なる部分も全体も見ることを禁じられてはおりません。私は宇宙飛行士達がひとたび宇宙に踏み出すや、印象類を感受することを十分訓練されていれば、その体験をするだろうと確信しています。彼らは生命の二つの状況の中で生きるという好機を得ることでしょう。一つは世の中の環境の中で教育されて来た感覚心、もう一つは生きている宇宙空間の意識的気付きです。彼らは宇宙的空間の印象類を受けることができますが、一方では彼らの感覚心は眼下の地球で何が起っているのか知りたいと思うことでしょう。彼らは地球の知識と意識の知識とを比較するという注目すべき好機を得ることになります。そしてこれらの二つを一つに融合する立場に立つことになるでしょう。何故なら、彼らは感覚心では見られないものと感覚心で見られるものを見ることになるからです。そして彼らは真実のものと真実でないものの違いを知ることでしょう。何故なら宇宙の細胞達が印象類を通じて彼らに伝達するからです。そして宇宙飛行士達が他の者に話す時、感覚心はその情報を音声に変換することになります。

### 【解説】

宇宙は印象・想念に満ちているということでしょう。宇宙飛行士達は宇宙に出て、従来地上では体験したことのないような静寂さと同時に活発な印象交流を体験するものと思われます。

そうする中で喧騒の地上における感覚心の活動レベルと宇宙における精妙な想念レベルとの両方を同時に比較できることでしょう。

今日でもなお、まだ民間の宇宙旅行は計画段階ではありますが、早晚、実現するようになれば、資金さえあれば宇宙を垣間見ることが出来るようになります。

私達の存在の原点は宇宙にある訳で、その源泉への憧れは、夜空の星々を見ることによっても育まれるものと思われます。

355 But will the men of the world accept their knowledge when they return? For those who have developed to this stage without being an astronaut are faced with this same doubt.

355 しかし、この世の中の人達は彼らが帰還した時、彼らの知識を受け入れるでしょうか？何故なら宇宙飛行士になることなくこの段階まで発達させて来た者達もこれと同じ疑いに直面するからです。

#### 【解説】

立花隆の「宇宙からの帰還」は当時、いち早く宇宙飛行士の心境の変化を指摘しましたが、多くの宇宙飛行士が精神面で進化を遂げていることは確かです。それほどに宇宙空間に出ることは、本課で言う宇宙的細胞にも近づくことが出来、より力強い印象・想念を宇宙空間から受けることになるものと思われます。それは宇宙を頻繁に旅するとされる他惑星人が進化を飛躍的に遂げている背景でもあることでしょう。

一方、地上に住む現状の私達は、自らの努力でこの宇宙飛行士と同様の体験を得るまでに進歩したいものです。それには自らが何を指すのかを明確にした上で、目標に向かって歩むことです。生命の科学講座もそうした一環として役立てたいものです。

356 Unless man has faith in his fellow-man and the men of experience have the interest of humanity at heart and a desire to have others share their knowledge and experience, people as a whole will not benefit from their knowledge. Not any more than the masses are benefiting from the Space Brothers' knowledge.

356 人が自分の仲間への信頼が無く、体験を有する人達が心中から人類愛に対する関心と自分達の知識と経験を他の者達と分かち合いたいとの願いが無ければ、人々は全体として彼らの知識から恩恵を受けることはないでしょう。宇宙兄弟達の知識から大衆が恩恵を受けることと同じです。

### 【解説】

自ら体験したことを分かち合う気持ちが無ければ、世の中は良くなる筈ありません。2000年前のイエスの来訪もイエスご自身が経験した中で得た真理を、この惑星で苦しむ人々に授ける為の計画であったように思われます。私達の住む地球には、その後も多くの教師が渡って来られ、様々な場所で生きる上で大切な事柄を教えて来ました。

一方、私達が進化する上で大切な事柄や材料（教材）、そしてその可能性は全て私達自身の中にある点が重要なところです。誰に求める訳でもありません。自分自身の中に絶大なる可能性も、また問題点もあるのです。感覚心の制御・訓練の問題は、他人が操作することは出来ませんし、各自の身体内の肉欲細胞はご自身で浄化して行くしか方法はありません。

こうした各自の奮闘はやがて各自の経験となり、後を振り返れば貴重な経験則が得られるものと思われまます。その経験則から得られた本質を後から来る者が役立つよう伝授するというのが、本項の要点です。

357 Faith is the most important factor in life, for all men are not out for themselves and many are interested in the betterment of humanity. Each man must believe in someone and he might just as well believe in the ones who are interested in the betterment of his being, especially in the cosmic field. And he should learn to obey his conscious feelings that constantly remind him of his potentials. We have mentioned cosmic cells and carnal cells and that the cosmic ones are the primal force of all creation. And by multiplying they bring forth the secondary cells which are the offsprings of themselves with all the potentials of the original. This is where the two enter, the carnal man and the cosmic man, for the carnal one is the offspring of the original. And from here man begins to multiply his own ideas and by doing so he loses his cosmic identity in his creation of what we call foreign cells.

357 信頼は生きることに於いて最も重要な要素です。何故なら全ての人が自ら外宇宙に出ることはなく、多くが人類の向上に関心を持っているからです。個々の人間は誰かを信じていることに違いなく、その者はまた、自分の存在の向上、とりわけ宇宙的分野に関心を持つ者を信じています。また、その者は常に自身の可能性を思い出させる自分の意識的フィーリングに従うことを学ばねばなりません。私達はこれまで宇宙的細胞群と肉欲的細胞群について述べて来ましたが、宇宙的細胞群は全ての創造の主要な力であることを述べました。そしてそれらが増殖することによって、それらは元の全ての能力を有するそれら自身の子孫である第二段階の細胞群をもたらします。ここが肉欲的人間と宇宙的人間が入り込む場所となります。肉欲的細胞は原始細胞の子孫であるからです。そしてここから人は自分のアイデアを増殖させ始め、そうすることによってここで私達が言うよそもの細胞なるものを自ら造り出す中で、自らの宇宙的正体を失ってしまうのです。

#### 【解説】

本項はある意味、著者が自らの役割を明かし、あわせて地球の人々に著者の体験から多くを学んで欲しいと述べているものです。

他惑星からの宇宙船に同乗し、宇宙空間の実状をその目で見た経験、更には進化した宇宙人との交流、他惑星への訪問等、著者が得た体験は、単に著者に与えられただけのものではありません。それは広く地球に暮らす人々に伝えられ、学ばれるべき内容のものでした。

アダムスキー氏はこれらの体験を死ぬまで力の限り、人々に伝える一生であったと思われます。私はロチェスターに住んで居られた故シャーウッド氏からアダムスキー氏からの最後のメモを見せてもらったことがあります。疲労困憊の状況下で書かれた筆跡で、当時相当無理して東海岸を巡っていた氏の様子に胸が痛くなった思い出があります。

生命の科学で取り扱っているテーマは実に奥深い内容があり、私達の過去生に遡る問題の本質が解説されていると言えるでしょう。感覚心が自らの子分の細胞を造りだしてしまう結果、肉体内に不調和が生まれ、それが高じて宇宙的正体を見失うという訳です。

この問題の解決には、優れた教師が必要で、その意味で、本文に記された著者の言葉をしっかり受け止め、自分の日常に活かす必要があります。

ご連絡 [2013-07-17]

いつもご覧いただき、ありがとうございます。

都合により、次回の更新は週明け、月曜日以降になる予定です。

竹島 正

358 This is why people feel a division between themselves and the Creator with a great distance between the two, when in reality there is none. This effect known as the carnal man or ego promotes foreign cells through his aggression and they in time cause his body to be anything but healthy and perfect. Thus many types of diseases are brought about by his many unpleasant expressions as we mentioned before. For as we know, as a man thinketh so is he.

358 これが何故人々が自分自身と創造主とがとても大きな距離、離れていると感じる理由です。しかし、実際にはその距離は無いのです。肉欲的人間、或いはエゴとして知られるこの結果物は、その攻撃性を通じてよそ者細胞群を増殖させ、それらはやがてその肉体に健康でも完全無欠とは程遠い状態をもたらします。こうして、多くの病が以前述べたように、その者の多くの不愉快は表現によってもたらされるのです。何故なら、私達が知っているように人は考える通りの者になるからです。

### 【解説】

私達はおそらく誕生した際は、多くは宇宙的細胞で満ちているものと思われませんが、やがて生長するにつれ、エゴや発達した感覚心が造りだす肉欲細胞がはびこるようになるということでしょう。

宇宙的細胞は穏やか、従順で潔い一方、感覚心に従う細胞や利己的、批判的な訳で、人体の不調和を生み出し続けています。こうした中では、宇宙根源と自分とはかけ離れたものだと思うことはある意味、当然です。

よくある事例は、本人は「悪いことだ」と思いつつ、これまでの延長で悪事を続けるというケースです。決して本人は心底、楽しい訳ではないのですが、結局は習慣的細胞が本人の行動を支配してしまっているということでしょう。

私達はこれらの習慣から離別し、もっと自然に生きるよう、自然界の動植物をよく観察して、シンプルな生き方を始める必要があります。絶えず創造主の見守る中で、日常を暮らすという姿勢です。自分の思い通りの自分になることは、日常発する想念の実現力をもっとも身近な例として、誰もが実演できることです。

359 All that a person has to do is to look at the thoughts expressed by man today to see how foreign they are to cosmic principle. And we know how hard it is for a man to accept cosmic principles, showing the vast difference between the two manifestations. This is why he feels that he needs perfection, for the mild conscious feeling is still present as a perfect manifestation. Even though he became foreign to it he feels that there is perfection some where. And this feeling pulls him towards its accomplishment. But man will never reach this state by taking the highways of least resistance. This has been proven through the ages. Only here and there an individual has traveled on the right path, through self will and not yielding to opposition from the masses.

359 人が為さねばならないことの全ては、今日人間によって表わされた想念類が如何に宇宙的原理に縁遠いかを見ることです。そうすれば私達はそれら2つの現れの間にある途方も無い距離が見える等、人間にとって宇宙的原理を受け入れることが如何に困難であるかが分かります。しかし、これが人が完徳を必要とすると感じる理由です。何故なら穏やかな意識の感覚が完全なる現れとしてそこに存在するからです。人がそれに対して異質な存在になったとしても、人は何処かに完徳が存在すると感じているのです。そしてこの感じがその者をして成就に向けて引き寄せます。しかし、人は抵抗の無い道を通ってはこの状態に到達できません。このことは世代を通して証明されています。わずかにあちこちに個人が自己の意志を貫き、大衆からの反感に屈せず、正しい道を旅しているだけです。

#### 【解説】

自分や他人をよく観察すれば、それらの行動が如何に宇宙的な性質のものとかげ離れてしまっているかがよく分かります。これが地球の実情なのです。

従って、それらに異議を唱えることは、イエスの時代の洗礼者ヨハネのように当局から弾圧されたり、多くの人々から反発を受けることもまた、現実でしょう。かつて多くの教師が地球を訪れ歩むべき道を説いた筈でしたが、未だにこの惑星は精神面に関する限り、太古からの状況が続いているという訳です。

しかし、これに対し、実は人間の内側には、本来の目的地が存在すること、そこに向かって歩みたいとする要素が残っていると本項は説いています。それが私達にとっての救いではありますが、その道を歩むことは実は容易ではないとしています。多くの困難や苦痛を伴うその道を少数の個人がここここで、一人歩んでいるというのが実情です。

360 As soon as a man places his foot upon the right path the chemical composition of his cells begin to change towards the goal. The pains and diseases he has had begin to disappear for he is beginning to use his full life force instead of just half of it as he did before. And all the cells of his body begin to take on new life. And the doors of knowledge begin to open wider and wider. And for the first time since he strayed away he will feel the closeness of his Creator.

360 人はその足を正しい道に乗せると直ぐに、自身の細胞群の化学的組成が目的地に向かって変化し始めます。その者が持っていた痛みや病は消えて行きます。何故なら彼は以前のように只半分の生命力を用いることから完全なる生命力を用い始めているからです。そして自身の身体の全ての細胞群は新しい命を身につけ始めるのです。知識の全ての扉がますます広く開き放たれるようになります。そしてその者は自分が道はずれて以来、初めて自分の創造主を身近に感じることでしょう。

### 【解説】

もちろん、身体の中に本来の生命力とは異質な細胞が混在していた訳ですから、健康に良い筈はありません。それが本人の意志でこれまでの生き方を反省し、本来の進むべき道を歩もうと決意した途端、身体の中のこれら異質な細胞に変化が生じ、隣接する宇宙的細胞に従いはじめ、やがては同化して本来の肉体になると説かれています。

全ては本人次第である訳です。少しでも良い方向に一步を印すことが出来れば、心身ともに変化が起こるということです。言い替えれば「病が治った」という事例も多いものと思われそうですが、本項から分かるように、誰かが治してくれたのではなく、本人が自ら変化することで、本来の姿に戻ることが出来たというべきでしょう。

私達はまだ、十分に身体内部に英知を知る宇宙的細胞群を有している訳で、それらを思う存分活躍出来る環境を維持して、自ら造り出してしまった肉欲細胞を本来の性質に変質させることを見届ける必要があります。

361 Remember that each one of us is but a single cell in Cosmic Consciousness and once we become united with this consciousness there will be no limits to the knowledge that we can have. This is what the Brothers are striving for and they are well on the way. They too had to struggle to get started and we have hardly started. But with determination, and using the knowledge they have given to us in the recent years we have the opportunity to travel right behind them. It is up to the individual, what he wants and how well he will use the knowledge at hand.

361 私達一人ひとは宇宙意識の中の一つの細胞に過ぎず、ひとたび私達がこの意識と一体になれば、私達が持つ知識に限りはないことを覚えていて下さい。これは宇宙兄弟達が努力して目指していることであり、彼らはその道筋をしっかりと歩んでいます。彼らもまた、始動には苦闘も必要でしたが、一方の私達は開始すらしていません。しかし、心を決め、彼らが近年私達に授けてくれたこの知識を用いることで、私達には彼らの後について正しい旅をする機会が出来ました。自分が何を望み、如何に手元にあるその知識を用いるかは、個人に委ねられています。

### 【解説】

進化した他惑星人が今なお宇宙意識と一つになって得られる広大な知識を得ることに努力していることに注目すべきでしょう。既にテレパシー能力の開発や巨大な宇宙船の建造をはじめ、平等な社会システムの構築など、私達地球人のはるかに及ばない段階まで到達した人達が、更になお努力するほどに、この宇宙意識の持つ力は広大無辺ということです。

一方の私達は、この歩みをスタート地点で足踏みしている状況ですが、これら優れた先人の後姿を遠くに見ること、その歩んだ道程を本文をはじめ、アダムスキー氏が書き残してくれた教科の中に見出すことで、私達もその道程に沿って歩みだすことが出来ます。

UFO・宇宙問題には様々な要素がありますが、肝心な所はUFOの飛行原理等の問題ではなく、彼ら宇宙人が追い求め続けている、宇宙に遍満する意識との交流、一体化であると言えるでしょう。その知識を自分のものと出来るかどうかは、本人の取組次第という訳です。

362 There is nothing in the Cosmos that we cannot be a part of or know something about.

362 宇宙には私達がその一部になれないものや、それについて知ることが出来ないものは何もありません。

【解説】

広大な宇宙の何処にでも私達は意識の力を用いて行くことが出来、それらの一部になる等、一体化出来ると説かれています。

自らの身体内の宇宙的細胞には距離に係りなくメッセージを伝え、他の細胞と交流できる機能が存在することを示唆しているものと思われます。顕微鏡下で見る小刻みに振動しながら動き回る細胞の生命力の原動力は、この辺にあるのではないかと思われます。生物は何も無い所から、芽を出し花を咲かせ、果実を付ける等、豊かな環境を創り出しますが、それら諸活動はこうした細胞達の絶え間ない奉仕のお蔭でもあります。

私達はこれら精神面の発達を何処か他に求めるのではなく、自らの肉体の中にある宇宙的細胞に求めることが望ましく、その指導に沿って生きること自身も宇宙的要素が強められ、宇宙自体と一体化出来るようになると思われているのです。

363 In lesson ten I will try to illustrate how you can become aware of the things in the cosmic house. And that is the reason I explained entity worship at the beginning of this lesson. Which involves the present uninformed phases of psychism and the true meaning in relation to oneself. So that when the tenth lesson is given you will know the difference in your experiences. And know how to proceed without being involved in mystery, such as present psychics experience.

363 第10課では貴方がどのようにして宇宙の家の中の物達に気付くことが出来るようになるか説明しようと思います。またそれは、この教科（訳注：第9課）のはじめに神聖なる実体物への崇拜（訳注：「宇宙的細胞」と表現されているものを指すと考えられます）を説明した理由でもあります。それは今日の知識の無い神秘主義の段階と自分自身に関連した真の意味との両方を含むものです。ですから、第10課が与えられれば、貴方は自分の体験の中の違いを知ることになるでしょう。そして今日の心霊的体験のような神秘に巻き添えになることなく、どのようにして前進して行くかを知ることになるのです。

### 【解説】

地上で生活しながらも宇宙奥深く存在する事物に気付くことは、どのようにして可能になるのかについて、次の第10課で説かれることとなります。

その前に本課（第9課）では、宇宙的細胞の存在について私達は学んで来ましたが、その宇宙の実体物（本文で言う"entity"）への畏敬の念から、まずは始める必要があるという訳です。

私達の感性が鋭敏になるにつれて、様々な印象類がやって来ますが、その中でも肉欲細胞に由来するものか、宇宙的な細胞からの適切なアドバイスなのかを自ら判別することが重要となります。自らを十分観察出来ていないと、利己心に流される結果にもなりかねません。それらの違いについて特に注意を払い、巧妙な感覚心やそれに従う肉欲細胞からの影響を排除し、正しい道を絶えず念頭に置いて歩む必要があります。

ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第10課 段落364 [2013-07-29]

SCIENCE OF LIFE - STUDY COURSE

LESSON TEN

Conscious Traveling

By GEORGE ADAMSKI

364 In lesson Nine I told you that I was going to illustrate how one can travel consciously to any part of Cosmic Space and learn what is there. And yet not employ any mysticism that is so well known in this world, or give oneself over to some mystical guide that we hear of people doing in the mystic circles. No person dead or alive has a right to enslave you for his or her purpose. The only one you have a right to acknowledge and will yourself to work with is the other half of yourself which is the image and likeness of the Creator or God.

生命の科学—学習コース

第10課

意識による旅行

ジョージ アダムスキー著

364 第9課では私はどのようにして宇宙の如何なる部分にも意識的に旅行出来るようになるか、そしてそこにある物を学ぶことが出来るようになるかを解説しようとして述べました。しかし、それはこの分野で良く知られているような如何なる神秘主義も導入するものでなく、人々が神秘主義グループで行われるような心霊ガイドに自分自身を委ねることも行いません。如何なる者も、それが死者であれ生者であれ、その者の目的の為に貴方を奴隷にする権利など無いのです。只一つ、貴方は悟りを得て創造主、言い替えれば神の似姿である貴方自身のもう一つの半身とともに自分自身を精進させる権利があるのです。

#### 【解説】

本講座の大事な所は、まさに「生命」に対する「科学的なアプローチ」によって、精神活動のレベルアップを図る点にあります。訳が分からないまま、指導者の言うままに神秘体験のみを求めるのは危険であると本講座第10課の冒頭で、著者は私達に注意しています。

頼りにすべきは自分自身、即ち自分の半身であり、自身の中の宇宙的細胞群です。この自身の中にある英知と繋がる微小賢者と交流を深めれば、様々な事柄が明らかになることでしょう。同時にまた、私達の長年の懸案である感覚心やそれに従う異質な細胞群も本来の性質におさまり、心身全体が精妙な性質のものとなる筈です。

そうした上で私達は自らの意識を自身の身体の隅々まで巡らせることはもちろん、自身の領域を超えて遠く宇宙にまで拡げることが出来るという訳です。

365 The Great Book states, "Have no false gods before Me." For the likeness and image is pure consciousness which is identical with the Cosmic One. It is the One that created the body and the sense mind. And the sense mind must make an effort to find its parent if it is going to fulfill the purpose for which it was created, or have life eternal as the parent does. For this is the only way that man can get back to the household of the eternal state and become one with it. Then and then only will he feel unity with all life and not the separation that he does today. The feeling of distance between himself and that which is eternal will vanish.

365 聖書は「わたくしの前に偽りの神を置いてはならない」と述べています。何故なら似姿や像というものは宇宙的存在と同一の純粋な意識であるからです。それは、この肉体や感覚心を造り上げた存在なのです。ですから感覚心は創造された目的、あるいはその両親と同様に永遠の生命を得る目的を成就する為にはその両親を探そうとする努力をしなければなりません。何故なら、このことが人が永遠に続く家庭に戻り、それと一体になる為に戻れる唯一の道だからです。そうすれば時として、人は全生命との一体感を感じ、今日までの疎外感を感じなくなるでしょう。自分と永遠なるものとの間の距離感は消え去るのです。

### 【解説】

偶像を否定する宗教もありますが、これまで私達は仏像をはじめマリア像等、多くの信仰の対象となるような像を建立して来ました。本項ではそれらのイメージ（似姿）は、私達本来が目指す創造主の似姿である以上、そのものには偽りがあってはならないと注意しています。即ち、私達がもしそれらのイメージに心を寄せているとすれば、それは事実上宇宙意識そのものに繋がるものとなりえるからです。

このように私達が優れた像に心を寄せるのは、同乗記に記載のある通り、他惑星人も日常、行っていることであり、身近な存在として創造主を絶えず意識する作用がある筈です。

結局は私達各人は、創造主に近づきその家族の一員となれるよう努力をする中で、遂にはこれまでにない宇宙生命の存在と一体となる感覚が生まれ、以降は自らの行動は宇宙と調和したものになることが出来るということでしょう。

366 As you have already learned in previous lessons, there is a constant chemical change going on, and the identity of one stage is absorbed by the identity of the next stage. So if one is to retain his individual identity through eternity he must lend himself constantly to the changes that are taking place. For personal ego has no place in the cosmic plan but individual identity has. For the individuals make up the cosmos. And by the personal ego allowing itself to be absorbed by the individual, which is sometimes referred to as saving oneself and earning eternal life, it becomes like the drop of water that allowed itself to be absorbed by the ocean of water. It becomes the ocean of water yet it retains its individual identity through its molecular structure. Referring again to the jigsaw puzzle, the piece that could be called personal has now been placed among others that eventually will make the picture. Thereby it loses its personal feeling of separation and takes on the feeling of the whole picture yet an individual part of it.

366 以前の教課で既に学んで来たように、絶えまない化学変化が起っており、一つの段階の正体は次の段階の正体に吸収されて行きます。ですからもし自分の個としての正体を永遠の中で保持したいとするなら、自らを生じている諸変化に委ねなければなりません。何故なら各自のエゴは宇宙の計画の中に占める場所無く、各自の正体だけが場所を有しています。個々が宇宙を造り上げているからです。そして個人のエゴ自身をその個体に吸収させることを許すこと、時に自分を助けだして永遠の命を得ると呼ばれることを行うことで、自身を大洋に吸収させることを許した一滴の水のようになります。それは大洋になりますが、引き続きその分子構造からその個人の正体を保持しています。再びジグソーパズルを引用すれば、個人と呼ばれる一片は今や最終的に絵画を作り上げる他のものの中に配置されています。こうして個人の疎外感を失う代わりに個人はその一部を保持したまま全体の絵画の感じを抱くようになります。

#### 【解説】

自らの身体の中で絶え間なく行われている新陳代謝。この宇宙的变化の中にある私達は絶えず変化して行く定めにあります。その変化に対応していなければ、私達は直ちに時代遅れになってしまいますし、永続性を望むべくもありません。

「古い」の特徴は「固執」に現れているように思います。日頃の化学変化に追従出来なければやがて古びた存在、朽ち果てるものになってしまいます。自然界を見れば、春夏秋冬の移り変わりの中で、自然の活動は永遠に繰り返され、しかも常に新鮮さ、若さを保っている点に驚かされます。

私達の一生はせいぜい90年という時間でしかありません。その一生を地球で過ごした後、この星を去る者も多いことでしょう。一時的に過ごすこの星はそれでも、今後、宇宙の一員として継続維持されて行くものと思われます。

絶えず変化する潮流の中であって、一瞬一瞬を柔軟に生き、自らのエゴを宇宙の流れの中に消失させることを心掛けて生きる時、私達には何ら抵抗がなく、これらの変化の波と一体となり、宇宙全体を自らと同じように感じるようになるものと思われます。

367 You as an individual are a unit of many experiences, even in this life. As an individual you have gone through billions of chemical changes with each absorbing the previous one. So the cosmic identity of you, the individual, has been constant with no divisions. Each succeeding stage of your life was the embodiment of previous stages from the time of your birth to the present day. Every pulse of your being from the day of your conception on into a form have been recorded in the Cosmic Records. No pulse or act was left out. Your form may have a record of from 20 to 90 years in your present earthly life, but in eternity it is less than a thousandth part of a second. Yet you figure the seconds in the earthly time of age and every second some form of newness has taken place. And every second absorbing the previous second by the individual that brought you to this stage of life. But the sense mind does not figure this way. But when it does become one with the consciousness it will be able to review all of the changes that have taken place during its years of life. Yet not for one moment did the individual lose his identity. But the sense mind or personality has been lost many times through its lack of awareness of what it is. The personality changes many times during a life time even to the degree that pictures taken at different ages show very little resemblance to the way one looks now. While the individual consciousness remains the same.

367 一個人としての貴方は、この生涯にあっても多くの経験からなる一単位です。一個人としては貴方は各々がそれ以前のを吸収し、何十億回もの化学変化を遂げています。ですから、貴方の宇宙的正体には分断はありません。貴方の生涯の各々の継続するステージは貴方の誕生から今日に至るまで以前のステージの具体化であったのです。貴方が形有るものとなった受胎の日から一つ一つの鼓動は全て宇宙の記録の中に記載されています。いかなる鼓動或いは行為も漏れることはありません。貴方の形は現在の地球上の生涯の中で20から90年の記録を持っているでしょうが、永遠の中にあっては1秒の1000分の1よりも短いものです。それでも貴方は地球上の時間である秒数を数えており、その秒毎に何らかの新しいことが起っています。また秒毎にそれ以前の秒間がその個人により吸収され、貴方を今日のステージにもたすのです。しかし、感覚心はこのようには描きません。それでも感覚心が意識と一つになる時、それは生涯の間に起ったすべての変化を読み返すことが出来るようになります。それでも一瞬たりとも個人が自分の正体を見失うことはありません。自分が何であるかの知覚が不足している為に、感覚心、或いは人格（訳注：パーソナリティ）は何度も失われるのです。異なる年代で撮られた写真が、今見るのと少しも似ていないように見えるほど、生涯の間には何度となく変化します。一方、個人の意識は同じまま留まります。

## 【解説】

結局は宇宙の中に静止・停滞は無く、絶え間ない変化・活動があるのみです。私達自身についても身体生命活動はもちろん、各自の日常の体験の積み重ねが本人自身を作り上げて行く訳です。そうした中で、私達のエゴ（自我）はとかく自身を見失い混乱して何かの拠り所を絶えず求めて行く訳ですが、そのもうひとつの半身は常に宇宙生命と繋がっていて、自分を見失うことはありません。

人生を歩む過程のあらゆる体験や行動、想念が宇宙には記憶されていると言います。今日ではテレビ番組が全て録画できる機器も出ておりますが、それと同様に各自の想念や行動は全て大宇宙に記録されるという訳です。もちろん、これらの記録は必要の場合にはいつでも再生出来ることは言うまでもありません。

こうして私達は常に変化の途上にある訳ですが、その中で私達自身の自我（エゴ、個性）は変化して行くことは当然です。進化の道を歩む者はますます人格が磨かれその者を取り囲む環境も同時に進化向上して行きますが、逆に自らの感覚心の言うままに暮らしている者は自ら人生を荒んだつまらないものにして退化の道を知らず知らずの内に下っているのです。

368 The effect mind which is the personality, usually follows the law of least resistance and allows itself to be molded into the environment of the word's society. This is why man feels strange to man, even though he is molded into the same type of society. And it is because the ego or sense mind is a stranger to the Cosmic Principle and itself caused through the divisions between individual identity and the ego. The individual acknowledges everything in unison whether visible or invisible to the sense mind, while the sense mind acknowledges only that which it calls concrete form. Yet when questioned the mind admits that there is something behind the concrete manifestations. But it does not like to go on record that there is for fear of what a neighbor or society might think of him. This shows that the individual's identity tried to alert the mind but the mind fears not to go along with society's pattern.

368 結果である心は個性でもありますが、いつも最小の抵抗の法則に従い、自身を世の中の環境の中に鑄込まれることをやむなしとしています。これが人が自分が同じタイプの社会に鑄込まれているにも関わらず、他人に対してよそ者の感じを受ける理由です。そしてそれが、エゴ、即ち感覚心が宇宙原理に対してよそ者であり、それ自身個人の正体とエゴの間の分裂によってもたらされているからです。個人の正体は感覚心に見えているか見えていないかに関わらず全てを調和していることを認知しますが、感覚心は具体的な形を必要とするもののみを認知します。しかも尋ねられると、心は有形の創造の現れの背後に何かがあることを認めます。しかし、心は存在する記録には進んで行きたくありません。何故なら隣人や社会が彼をどのように考えるかを心配するからです。これは個人の正体は心に注意を喚起しようとしませんが、心は社会のパターンに沿って進まないことを恐れていることを示しています。

#### 【解説】

確かに環境に順応すれば変に目立つこともなく、安穩に過ごすことが出来るかも知れません。社会と同様の生活に身を置くことは、現実社会で暮らす多くの人々とうまくやって行けるのかも知れません。しかし、それでは本講座の意義は半減してしまいます。人々をより良い段階に誘導して行く為には自ら進んで生き方を学び、後続の者に伝える必要があります。

また本文に記されているように、一端環境と融合してしまっていると、他人に対してよそ者のように感じるという傾向も確かにあります。自分以外のものに対して警戒するの sensation の特徴です。

私達自身、少しでも生命について考える時間を持つなら、それを生み出す知性の存在やその永久なる活動について、宇宙の記憶の部分まで探求しようと思う訳ですが、反面そうした目に見えない領域への研究は、世間を気にする sensation はしたがないということでしょう。本書は一般社会に暮らす私達が世間に流されず、探求する道が容易ではないことを諭しています。

369 There are very few people in the world that are individualists. And those who are oftimes have a hard time because they do not go along with society and are considered non-conformists. History shows that all great souls in this world were non-conformists for they were individual and endowed with the deeper meaning of life.

369 世の中には自立主義者は極めて少数しか居りません。そして彼らは社会とうまくやっていない為にしばしば困難に直面し、非同調者と見なされて来ました。歴史はこの世の中の全ての偉大な魂は非同調者でした。彼らは独立した個人であり、彼らには生命のより深い意味が授けられていたからです。

### 【解説】

惑星の住人がその惑星の命運を決めていることは確かですが、惰性の生活パターンを繰り返す中であっても、進化の可能性に望みがあるのは、時々現れる改革者、自立した思考の持ち主のお蔭ではないかと考えます。もちろん、本講座の著者であるアダムスキー氏もその一人ですし、過去の歴史を振り返っても、時の人々の常識から離れて、真理を探求して来た人々は数多く存在します。地動説を唱えたコペルニクスやガリレオをはじめとして、ソローやエマーソン等、大衆の志向に媚びない自立した人物が私達の観点を新たなものに変えて来ました。

本講座においても、まだ一般には認識されていない「意識」の働きや「感覚心」の問題等、多くの重要なポイントを説いていますが、それを活かし普及させるのは、それらを学ぶ私達において他にありません。

とかく社会に迎合して安直に生きる道を選びがちですが、その先には何もなく、実りある道筋はこれら数少ない先人達が示した道を各自、少しずつ歩む中で、やがて道も広がり、揺るぎない大通りになって行くものと思われます。

370 Before we proceed with the lesson promised I want everyone to recall that the so-called material world is an effect of the so-called spiritual or invisible side of life. Like an idea that is invisible to those around you until you explain it in words or create the idea into a form for them to see. So it is with all that we know - the invisible supporter of that which is visible. Just recently scientists have learned the process of how to draw upon invisible space for certain materials, as today there are more elements known than there were a few years back. And there are now several precious metals that are too costly to produce on a large scale at this time. But the substance for them was taken out of space, which is invisible. This is a proof that out of the invisible comes the visible and back to invisible. And over and over the process goes on. This should give us support for our next step in viewing and traveling in the Cosmos without the mystical application. But with an extension of our sense mind into the conscious sea of life.

370 お約束した教科に進む前に、私は皆さんにいわゆる物質世界は生命の内、いわゆる精神的ないし目に見えない側の結果の一つであることを思い出して欲しいのです。それは貴方がそれを言葉で説明したり、見える形に造り上げない限り、貴方の回りの人々にとって貴方のアイデアが見えないのと同様です。それは私達が知っている全てについても同様です。目に見えるものに対する目に見えない支持者の存在です。丁度最近、科学者達はある物質について目に見えない空間から引き寄せる手法を学び取りました。数年前より、多くの元素が発見されているからです。そして今や、現時点では大きな規模では造り出すのにあまりにも費用がかかる数種の貴重金属が存在します。しかし、それらの物質は目に見えない宇宙から取り出されました。これは目に見えない所から目に見えるものが出現し、再び目に見えない世界に帰って行く証でもあります。そして何度も何度もその過程は継続します。このことは私達に、次の段階として神秘的な応用によらずに宇宙を眺め、旅する際に支援を与えて呉れるものです。しかし、それは私達の感覚心を生命の意識の海にまで広げることが前提です。

#### 【解説】

私達が暮らすこの物質世界は実は結果に過ぎず、それを支えるのは目に見えない因の世界であると説いています。何か「般若心経」の「空」と呼応するイメージを持たれるのは私一人ではないのではと思う次第です。それ程に実は目に見えない因の世界の働きこそが重要な訳で、それに対応する私達の感覚心や意識等、いわゆる精神面の機能が取り組みの対象となっている訳です。

無から有が生じることは、素粒子実験等でも明らかになりつつあるようですが、本書で言うように空間から様々な原子を取り出すことすら出来るようになるのかも知れません。

このように可能性を秘めた空間ですが、私達は自らの感性を高めてその可能性の海に漕ぎ出す勇気が必要です。大事なことは何事にもそれを支える因の力があり、そのお蔭で結果物の世界が成り立っていることです。私達の暮らすこの地球もその自転速度がわずかに変化しても、甚大な影響がもたらされるでしょうし、その大いなる因の作用が少しでも弱まればこの惑星の存在も危うくなることは間違いありません。

371 And what would be the extension of our mind? A desire for knowledge must be the foundation. I will use a mechanical device as an example. In the early days of astronomy a small optical instrument was constructed to look into space towards the stars. It was a sort of extension of sight through a mechanical device to see and learn more about what was seen as a light. And to try and tell if it was solid, and if so what was on it. As the Moon was the closest large object, it was the first to be observed and mountains and craters were seen on it. The physical sight could not see these, so we could say that this was a mechanical eye which helped to extend knowledge, all because there was a desire to know. For something within man has always told him that there was more to life than this earth. As time passed, progress has been made in an extended view through the instruments. And today the 200 inch telescope on Palomar Mountain is bringing knowledge to man of bodies previously unknown, existing in invisible space. And this is just a beginning for electronic instruments will reveal much more. This is also true through a microscope.

371 そして私達の心の拡張とはどのようなことでしょうか？ 知識に対する願望がその基礎であるに違いありません。一例として機械装置を取り上げようと思います。天文学の初期の頃は、小さな光学装置が星々に向けて宇宙を覗き込む為に組立てられました。それは光体として見られたものについてより大きく見て学ぶ為の機械装置を通じてのある種の視覚の拡張であったのです。また、それが固体であるかどうか、またそうであればその上に何かあるのかについて調べて知らせる為でありました。月は最も近い天体であった為、最初に観測され、月面に山脈やクレーターが観測されました。肉体の視覚はこれらを見ることは出来ませんので、私達はこれを知識を広げるのに役立つ機械的な目と表現することが出来ますし、これら全ては知りたいとする願望があったから出来たことなのです。何故なら人間の内部の何かは常にこの地球以外に生命について更に何かがあると語りかけて来たからです。時が経つにつれ、装置により視界を拡張する為の進歩が為されました。そして今日では、パロマー山の200インチ天体望遠鏡は目に見えない宇宙空間に存在する以前に知られていなかった天体を人類にもたらしめています。これは単なる始まりでしかありません。電子装置は更に多くのものをもたらすことになるからです。これはまた、顕微鏡についても同様に真実です。

#### 【解説】

肉眼では見えない世界も望遠鏡や顕微鏡の助けを借りれば、私達はその内容を知ることが出来ます。先ずはそこはどうなっているのか等、知りたいと思う所から物事が始まり、やがて今日では私達の身近な道具としてそれらの機器を手に入れることが出来るようになりました。

しかし、これら機器の開発についてもう少し考えを深める必要があるようです。それら機器の開発は私達がその実態を見たい、知りたいと思う所に発端があり、開発の結果、機械的な支援を受けることで視力が増したことになります。

同乗記その他に記載がある通り、他惑星人も強力な望遠鏡を有しており、遠距離から地上の人物を観察出来るようですし、偵察用小型円盤でも様々な波動を記録し、伝送することで私達の精神状態を離れた場所から観察することも行われているようです。

これらは肉体の感覚器官を助ける道具な訳ですが、これら道具を通じて私達ははじめて肉眼が明かすことのない世界を見聞きすることが出来、そのような世界が広がっている事実気付くこととなります。人間の感覚を拡げる為に先ずは機器を活用することの必要性を本項は述べているように思います。

372 Could this have all taken place had it not have been for the consciousness of man as his senses were concerned only with themselves? But this consciousness, the invisible part of man, urges the factual man to explore more and more into the cause of form life. As the factual or sense man had disassociated himself from his Cause counterpart the instruments were necessary to bring the invisible back into focus that he might realize that he is only a speck in the Cosmos, but an important one. That his duty is to know about that which is in the Cosmos. And since the consciousness urged the mind to venture into space with instruments man continues to get more and more knowledge about space which has never been known before in this civilization.

372 自分の感覚が自分自身のみに向けられている等、もし人間の意識が作用していなかったとしたら、これらはすべて起っていたでしょうか？ところがこの意識という存在、人間の内の目に見えない部分が現実主義者を形有る生命の因の中、奥深くに探検せよと促しているのです。現実主義者、あるいは感覚人は自分自身を自らの因の相手役から切り離してしまった為、自分が大宇宙の中のしみでしか無く、しかし重要な一つであることを理解するよう目に見えない背景を鮮明にする為に装置が必要になったのです。人間の義務は大宇宙の中に何があるかを知ることです。また意識は装置を携えて心に宇宙を冒険しに出ていくよう促した為、人は宇宙についてより多くの知識を得続けていますが、このことはこの文明以前には無かったことです。

#### 【解説】

先日、テレビでハワイにある日本の国立天文台で精密なアンドロメダ星雲のカラー写真が撮影されたと報じられていましたが、こうした宇宙の理解・探求無くして人類の進化は無いのかも知れません。宇宙を探求する望遠鏡その他は人類に宇宙的な概念を与える大きな役割を担っています。

肉眼では見えない宇宙奥深くに広がる神々しいほどの星の世界を見る時、私達の日頃の取り扱う範囲が如何に狭い範囲に留まっているか、またそれで満足している感覚心とこの大宇宙の英知とが、どれほどのスケールの差があるかをつくづく実感できます。

また一方では、かつての地球文明も栄華を誇るものもあった訳ですが、宇宙に関する限り、現文明はかつてないレベルに到達していると著者は述べています。1952年11月20日、デザートセンターから始まった一連のコンタクト事例は、その後、宇宙開発時代へとつながり、今日では惑星探査計画に発展していますが、それら一連の進化は、他惑星文明によって計画し、実行されたスペースプログラムの一つであるように思われます。

373 This shows that consciousness does not misguide the human mind if it is allowed to guide it, and impressions are received and accepted without modification to suit itself. For this is the only way that consciousness can prove to the mind that its impressions are correct.

373 このことは意識はそれが人間の心を導くことを是認され、印象が人間の心に合うように修正されずに受信され、受け入れられるならば、人間の心を誤った道に導くことがないことを示しています。何故なら、これは意識が心にその印象が正しいことを証明する唯一の道だからです。

#### 【解説】

本項は私達が日常行わなければならない基本的事項を示しています。

即ち、「意識に従う」「意識と一体になる」と、どう声高に叫ぼうとも、その内容は私達の時々刻々の心の有り様が問われているからです。そこに座禅や瞑想の概念が入って来るのですが、基本は自分にやって来る精妙・微妙な印象、インスピレーションに対し、如何に素直に従い、その示す方法に向かって行動するかにあります。一瞬のことなのでやって来る印象に対して判断したり、吟味したりすることでは対応出来ません。即時即応の態勢が望まれるところです。

こうした素直な心を保つことは、大宇宙から贈られる印象に対して、感謝し、無抵抗になり、次第により多くの機会が与えられることになる訳です。

374 But there will never be an instrument made that will reveal all of the Cosmos to man. Consciousness coupled with man's mind is the only way that man will learn about the cosmic whole. For now the instruments that have been used should cause the mind to have confidence, faith and trust in conscious guidance. The mind should have learned through past observations and experiences that that which at one time seemed nonexistent became a reality. For anything that is revealed by conscious impressions is in existence some where. So now the mind should be willing to be guided by consciousness instead of itself as in the past. And accept the things given by Cosmic Consciousness as a reality. For this is the only way that the sense mind can find its other half and become a part of the whole of the Cosmos. Jesus said, blessed are those who do not see yet believe. For the physical eyes cannot see the distances of the Cosmos, but the conscious eyes can.

374 しかし、大宇宙の全てを人間に明らかにする装置は作られることはないでしょう。人間の心と対になった意識だけが唯一、人間が宇宙全体を学ぶ方法なのです。今やこれまで用いられて来た諸装置は心に自信や意識の導きに対する信仰や信頼を持たせている筈です。心は過去の観察や体験を通じて一時期存在しないように見えたものが、現実のものとなることを学んで来た筈です。何故なら意識の印象によって明かされるものは何処かに存在するからです。ですから、今や心はこれまでの自分自信による代わりに意識に喜んで導かれるべきなのです。そして宇宙意識から与えられた物事を現実のものとして受け入れることです。何故ならこれが感覚心がもう一つの自分を見つけ、宇宙全体の一部になる唯一の方法だからです。イエスは言いました、見ないで信じる者は幸いであると。肉体の目は大宇宙の膨大は広がりを見ることは出来ませんが、意識の目はそれが出来るからです。

#### 【解説】

宇宙を知り、学ぶ上で何が必要か、突き詰めて行くと意識に行き着きます。自分の身体から1cmも離れていない空間に意識が充満しており、そこから発せられる印象を通じて意識を理解することになる訳ですが、意識を一度理解し、その存在を確証出来れば今までとは全く異なる人生を歩むことになるのかも知れません。

日々印象に鋭敏になり、その指導を受け入れる態勢が整えば、何ら道具も必要なく、宇宙奥深くに広がる様々な現象をも見ることが出来るものと思われまます。

これら既存の感覚器官によらない知覚力を持つようになれば、私達は進化の道を確認させ、求める段階（ステージ）まで到達することが出来ます。身近にある意識の存在を如何に自覚しているかが重要なポイントという訳です。

375 Let us now do with our sense mind what we did with the instrument thus allowing it to see that which has heretofore been invisible, replacing the instrument with consciousness. And as we believed that which we saw through the telescope let us do the same just as firmly with consciousness.

375 私達がこれまで見えなかったものがその装置を用いて感覚心が見えるようにしたように、今度は感覚心に対してその装置を意識に置き換えましょう。そして私達が望遠鏡を通して見たものを信じたように、意識によって見たものについてしっかり同じように信じることです。

### 【解説】

意識を通じて垣間見る印象には映像を伴ったものも多いようです。将来に起こること、或いは遠く離れた場所で起こっていることを印象によって私達は知ることが出来ます。

これらは国の支配者がその国の将来を思い悩む時などに助言者として多くの霊能者の見識を求め、また古くは神事により、判断を仰いだことにもつながります。未来の状況をいち早く知り、治世に活かそうとした訳です。

一方、今日の私達にとって、意識は未だ十分理解されていないままとされており、その活用法を学ぶ機会も限られています。もっと身近に、もっと親しく私達は意識の存在を実感しなければなりません。本項で述べられているように、意識は宇宙を探求する望遠鏡にも、細胞を探索する顕微鏡にも匹敵する機能があり、私達一人一人は無償でその活用能力を与えられているのです。

376 Do not try to see too much at one time. Use the same method as with the instrument by extending your mind into consciousness little by little. Do not force it, let it be natural. For if we get into the eternal sea of life there is plenty of time. It is much better to have a slow growth than to try and grow fast and miss something that could cause confusion later. Let patience be your foundation and the extension of our mind into consciousness gradual.

376 一度に多くを見ようとしないで下さい。貴方の心を意識の中に広げるに当っては装置を用いる時と同様な方法で少しずつ用いなさい。それを強制してはならず、自然のままにしておきなさい。もし私達が生命の永遠なる海に入るなら、そこには豊富な時間があるからです。努力して急いで成長しようとして後になって混乱を生じるような何かを見落とすよりは、ゆっくりした成長を遂げた方がはるかに良いのです。忍耐を貴方の基礎とし、私達の心を意識の中に拡張させることをゆるやかなものとするのです。

### 【解説】

著者は私達に物事を請求に取り扱わないよう、落ち着いて対応するよう説いています。とかく私達は他人の進歩発展をうらやみ、或いは自らの不甲斐なさを悲観しがちですが、各人これまで歩んできた背景が異なる以上、差異が生じるのは仕方ありません。大事なのは向上心であり、常に自分の理解力を基に行動するという事です。

この「生命の科学」も日本に紹介されてから、半世紀近く経過しようとしています。そういう中でどれほどの人がその真の価値を見出したか、或いはその学習講座の意図に沿って日々取り組みの途にあるのかは不明です。残念ながら、優れた教科と一時期見られても、実践面ではそれほど、行われていないように思います。

とりわけ、「意識」については私達はほとんど学んで来なかったため、どのようなものをイメージしたら良いか分からないということもあるでしょう。しかし、文中の言葉を一つ一つ吟味する中でおのずとそのイメージが掴めるようになり、そうした観点で自然や自らを観察することで、意識なるものの全容が明らかになって来ます。

そうした延長の上に、本項で言う具体的な意識からの印象も感知される訳で、その成果を急ぐ必要はなく、先ずは自らの理解力を磨くことからということでしょう。

377 Remember that consciousness will convey impression to the mind that will seem foreign, like all new things do at first. But let your mind become as a little child listening and observing impressions and pictures that may come without questioning or trying to make a better picture out of the revelations

377 覚えておいて欲しいのは意識は最初、あらゆる新しいものがそうであるように、心にとってよそものに思えるような印象を運んで来ることです。しかし、貴方は疑問を挟んだり、その啓示からより良い全体像を作り出そうとすること無く、心を幼子のようにして、そのやって来る印象と映像に耳を傾け観察させるのです。

### 【解説】

今までと同じ種類の印象であれば、心はスムーズに受け入れます。しかし、多くの場合、それらは長年の心の嗜好に沿ったものであり、価値は無いと言うべきものです。

一方、真に意識から来る印象類は私達にとって馴染みの無いものであり、時には心にとって奇妙なものと映るかも知れません。しかし、それらが伝える事柄は時を越えてもたらされる為、感受した時点では「実現不可能」とか「全く奇抜な」印象しか、心は感じないかも知れません。多くの場合、その印象が現実の目の前に現れるのは何十年か経過した後になることから、その時になってあの時の印象はこのことを示唆していたのだと知ることになる訳です。

このように意識からの印象は私達感覚人にとっては理解出来ないものであることが多く、それに対して疑問を呈したり、吟味検討して拒絶してしまったりは、折角の贈り物を自ら捨てることになってしまいます。先ずはそのありのままを受け止め、将来目前に明かされる光景として大切に記憶することが必要です。

378 You must remember at all times that only a little of the entire picture will be revealed at a time. Again like the jigsaw puzzle, you cannot look at all of the pieces and know where they fit. For the picture must be put together piece by piece and this takes time. Never try to fill in with some of your mental ideas accumulated in this world for they are of personal nature. Do not question for one minute what you receive for that would be like questioning God. And you should know by now which is accumulated knowledge from this world and which are cosmic impressions. Do not be confused for earthly impressions may come also, as many of these to which the mind is accustomed are of Cosmic Nature and may fit into the picture at a given point but perhaps not at present. Due to earthly experiences these ideas sometimes try to crowd into positions before there is a place for them. It is like an artist who gets an impression of red shading, when yellow should be used, with the red to follow.

378 いつも覚えておいて欲しいことは、一度には全体像のほんの一部しか明かされないということです。再度、ジグソーパズルのように、貴方は断片の全てを見ても何処にそれらが当てはまるのか知るという訳には行きません。何故なら絵は小片を一つずつ繋ぎあわせられなければなりませんし、これには時間がかかるのです。決してこの世界で貯えられた貴方の精神的なアイデアを当てはめようとしてはなりません。何故ならそれらは個人的な性質のものだからです。一瞬たりとも貴方が感受したものに疑問を投げかけてはなりません。神を問いただすようなものだからです。また、貴方は今では、どれがこの世からの蓄積された知識で、どれが宇宙的印象かを識別できる筈です。地球的印象も来るでしょうから、混乱しないようにして下さい。何故なら心が慣れているものの多くが宇宙的性質を帯びており、それらもいつか適当な時期にその全体像に当てはまるかも知れませんが、おそらくその時点ではないと思われるからです。地球上の経験から、これらのアイデア達はそれら本来の場所以外に群がろうとします。それは黄色を用いるべき所に赤い陰を付ける印象を受けた画家のようなもので、本来は黄色の後に赤を用いるべきなのです。

#### 【解説】

湧き起こる印象に対してどのように対処すべきかを説いているのが、本項です。注視したいのは印象は一つずつ系統立てて来るようなものでなく、いきなり結果を伝えて来るものも多いようです。凡人には分からない創造主の計らいがそこにある訳で、私達は只ひたすらそれらを大切に受け取り、自分の何処に当てはまるかを考える必要があります。

しかし、当面、その印象の示すところが分からなくても、次々とやって来る印象を覚えて置き、それらを融合する中でより具体的なビジョンとして認識できるようになる筈です。毎回、誠意と感謝を持って印象を受領し、自身の生活に活かすことを模索すべきことは言うまでもありません。

その際にも決して一度に全てを求めるのではなく、また性急な態度も禁物だとも述べられています。一つ一つの印象が正しくてもそれらの適用順序や適用場所を誤れば、本来のビジョンは完結しないからです。

様々な印象を焦ることなく、大切に記憶し、自分が分かる範囲で少しずつ生活に応用して行く姿勢が重要です。

379 Impressions will come in some cases like a still small voice and you will swear that someone is talking to you, but it is your consciousness explaining things in words you are accustomed to. And sometimes with impressions that you cannot find words to express. But when pictures are impressed upon you, especially in color, they are focused by the consciousness on the screen of your mind which is located in your forehead. At least this has been my experience. Perhaps this is the reason for those who do not understand referring to this as the third eye, or all seeing eye. In Buddha statues there is a jewel in the forehead, signifying extended sight, and it forms a triangle between physical sight and itself. Jesus called this, single visioned and single minded. And when he said the renewing of the mind, he meant exactly what we are trying to do here by associating the mind with the consciousness to form a single unit. Where divisions between the two cease to exist. For then man becomes a total man.

379 印象はある場合にはひそかな小さい声としてやって来るでしょうし、貴方は確かに誰かが貴方に話し掛けていていると言うでしょうが、それは貴方の意識が貴方が慣れ親しんだ言葉によって物事を説明しているのです。またある時は貴方が言葉で表せないような印象としてもたらされます。しかし、映像が貴方にもたらされる時、特にそれがカラーである場合は、それらは貴方の額の場所に位置する貴方の心のスクリーンに意識によって投影されているのです。少なくとも、これは私の経験です。おそらく、これは人々が第三の目、或いは全てを見る目として引用することを理解しない理由です。仏像には、額の中に一つの宝石が埋め込まれ、拡張した視覚を象徴しており、それは肉体の視覚とそれ自体で三角形を形成しています。イエスはこれを一つになった目、一つになった心と呼んだのです。そしてイエスが心の復興と言った時、彼はまさしく私達がここで心を意識に親しませ、一つの単位を形成するよう努力していることを意味していたのです。そこでは、両者の間の分裂は消滅します。それ以後、人は完全なる人間になるのです。

#### 【解説】

印象は確かに精妙なものが多く、私達自身捉えられないものも多いのですが、少なくともそれらの示唆する通りに行動しようとする時、極めて良い結果がもたらされることは、これまでの経験上からも確かなことです。

本項では更に進んで、音声によるささやきや映像として表現される段階のものについても言及されています。特に仏像については仏様の額の宝石の意味やイエスの言葉について説かれていますが、その内容は著者が古今東西のあらゆる宗教に関する真実を熟知していることを示すものです。

大切なことは、この日々ひそかに贈られる意識からの印象を大切に受け取り、自らの行動に役立てることであり、肉体の全てをその示す方向に動員し、その示唆するビジョンを実現させることにあると言っても良いでしょう。意識とのパイプが強まれば、その与えられる情報量もまた増えるに違いありません。

お知らせ [2013-08-20]

いつもご覧戴き、ありがとうございます。

都合により、明日からしばらくの間、更新が不定期になりますので、ご了承下さい。

380 One must be very careful to avoid wishful thinking which the mind usually likes to promote. Or imagination which the mind likes to promote in its own favor. For the imagination does promote pictures as there are two phases of impressions. The imaginative mind likes to create freaks such as constructing a man's head with two faces. One in the back and one in the front, but nature does not construct a head like this. I mention this for the impressions and pictures that will come through consciousness will be closely related to imagination. And the mind is quite an expert at this for it has copied its action from consciousness. There must be something genuine before there can be a counterfeit and this is the case with the imagination, so one must be careful.

380 人は心がいつも促進しようとする願望的思考を避けるよう注意深くあらねばなりません。或いはまた心が自身への味方を増やそうとする空想についてもです。何故なら、空想は印象には二つの局面があるようなイメージを促進するからです。空想性を持つ心は顔が二つあるような人間の頭を作り出す等、倒錯物を造り出したがります。顔の一つが後側にもう一つが表側にあるようなものをです。しかし、自然はこのような頭を造り出しません。私はこのことを、意識から来る印象類や映像類は空想にとても近い関係にある為、述べているのです。そして、心は意識からその行動を写し取って来ている為、この点において全くの熟達者なのです。偽者が存在する以前に何か本物があるに違いありませんし、これが空想についての実状です。ですから注意深くあらねばならないのです。

#### 【解説】

私達が意識からの印象を知覚できた場合でも、喜んでばかりは居られないという訳です。

実は、私達の感覚心は長年、意識から与えられる知識を自らの勢力拡大に利用して来ました。肉体が多少の困難があっても意識が良好な状態に復帰させていることを良いことに、好き放題の暮らしを行って来ました。絶えず意識からの情報を自分の地位の向上に利用して来たからです。

ここで意識からの印象を感受する際にも、感覚心がそれに同調して勝手なイメージを似せて作ってしまい、本来のイメージがなかなか把握できなくなるという問題があると著者は警告しています。

印象に対しては文字通り、「虚心坦懐」に対峙し、贈り主の意図を素直に受け入れる態度が肝要で、勝手な心の行動を監視することが重要です。予断や願望を排して、意識を信じて素直に受け止める他に取るべき姿勢はないと言えます。

381 There are not too many people who know the difference between that which is real and the copy. Inventors and artists use this method, and that is how some new inventions that man's imagination thought impossible have come about, for the real is always possible.

381 どちらが本物でどちらが複製物であるかの違いを知る人は多くはありません。発明家や芸術家はこの方法を用いており、それが人間の空想が不可能だと思って来たような新しい発明品が生まれることの次第です。何故なら真実なるものは常に可能なものだからです。

### 【解説】

本項で説かれていることを別の言い方で表現すれば、意識から与えられる印象は全て素晴らしいもの、私達にとって大変役立つアドバイスであることが分かります。自然界にあるあらゆる生きものに生活の糧をお与えになっている存在なのですから、当然の帰結と言うことも出来ますが、私達はこの意識の存在について、よくよく感謝し、その存在に信頼を寄せる必要があります。

これまでに無かったアイデア、生きる上でのヒント等、意識は私達に惜しげなく時々に応じて必要となる様々な知識を与えて呉れています。一方、それに便乗して私達の感覚心が偽物のコピーを作り出し、利用しようと企む訳ですが、所詮、いわゆる「コピー商品」の見分けがつけられれば、より本物が際立つのは自然の成り行きということになります。偽のコピーに惑わされないよう、日頃から本物の印象に親しんでおく必要があるということです。

382 Even though the space people had not come our way, showing that man can travel space, we would have succeeded in doing this sooner or later, accomplished by following the impressions given by consciousness. For man's goal is to blend his mind with consciousness.

382 例え宇宙人が我々の方に来て人間が宇宙を旅行できることを示すことが無かったとしても、私達は意識から与えられる印象類に従うことによって遅かれ早かれこれを為すことが出来たと思われます。人間のゴールはその心を意識に融合させることだからです。

### 【解説】

この項で注目したいのは、本文の最後に述べている部分です。即ち、私達のゴールは意識と融合することにあるとする部分です。

通常表現から言えば、宇宙に進出することだと言うところですが、著者は違っています。意識と融合出来さえすれば、それ以降、あらゆる可能性が実現し、急速な進化が遂げられるとしていることに注目したいところです。

しかし、この意識なるものは実は私達の身体と1センチと離れていない所にあつて、いつも私達を包んでいると言っても良いでしょう。この身近にある頼れる存在に気付けば、他に望むものは何一つありません。常に創造主から愛され、必要物は惜しみなく与えられる、そういう存在に私達はなれるという訳です。

知識のヒントや新しい世界と視界を私達は宇宙に求める訳ですが、私達の感覚心が学習を続ける内に、やがて意識から本物でより鮮明な知識が与えられるに違いありません。

383 At this point your reasoning facilities may enter for one phase of impressions follows the freakish imagination and is destructive, while the other is exhilarating and constructive. So then constructive logic must be employed in order to reach a true evaluation. And this must be independent of personal opinions if you are to know the truth about anything. This is a good policy to follow in living and working with others in every day life.

383 この点において、貴方の推論の才が登場するかも知れません。何故なら、印象類のある段階で尋常で無い空想が後に続き、それは破壊的なのですが、他方では気分を浮き立たせ建設的であるものも続くからです。ですから、その時は真実の評価に到達する為に建設的な論理を用いなければなりません。そしてもし貴方が如何なることにせよ真実を知ろうとするなら、このことが個人的な意見の影響を受けずに行わなければなりません。これは日常生活の中で他人と生活し働く上で従うべき良い方針でもありません。

### 【解説】

最近もつくづく思うのは印象を取り扱う際の精妙さ、難しさです。場合によっては印象を感受したことすら分からず、知らない内にこれまでの惰性的な解釈で済ませてしまう一方、気付かない内に印象に促された行動をした結果、思いも寄らない良好な結果を得たりしているように思います。

本項では著者は印象には2面性があると言っているようですが、私達はその印象に対してあれこれ詮索する傾向がありますが、まずはそれを止めて、より良い面を積極的に取り込むことだということでしょう。

いずれにせよ、私自身としては、とにかく得られた印象については大切に取扱い、要らぬ詮索はせず、その示唆するイメージを尊重すること、速やかに行動することをお勧めしています。もしその結果が思わしくなければ、その印象の解釈に問題があった事例として処理するのみです。

自然界にある生物は全てこれら印象に鋭敏且つ全面的信頼の下に行動している訳ですが、その成果は一度でも顕微鏡下の生きもの達の活発な姿やカメラの接写の画像を見たことがあれば分かって戴けるかと思えます。昆虫や野の生きもの達の生き生きした生活振りはこちらの意識からの印象の取扱いに対する生きた手本であるからです。

384 So now let us proceed with the first step: First your mind must relax, and this can only be done when the mind loses interest in itself in its own behalf. Like a boy who is interested in baseball, but if he wants to learn and see something else he has to put his first interest completely out of his mind and give full attention to that which he is about to learn or see.

384 それでは今から、その第一段階に進みましょう。最初は貴方の心はリラックスしなければなりませんし、これは心が自分自身の利益に関して自分自身への関心を失う時にのみ起こり得るのです。野球に興味を持っている少年に例えれば、もし彼が何か他のことを学び、理解しようとするならには、その最初の興味（訳注：野球）を完全に心の外に追いやって、自分がこれから学ぼう、あるいは理解しようとするに対して全力で注視する必要があります。

### 【解説】

心は何であれ、習慣を好みますし、馴染みのあるものに固執したがるものです。場合によっては、耳（聴覚）に聴覚が気に入った歌やメロディーが長期間消えない場合もあります。何か梵鐘の余韻のような振動が長らく聴覚器官の何処かに残留しているかのようです。

従って、新しい事柄を始める際には、心は自らに残留する過去の振動を消去して、無心で対象に注目すべきだという訳です。少なくとも関心を向けなければ、印象も拾うことは出来ません。星から寄せられる精妙な電波を受信するには、電波望遠鏡のパラボラを目標に向ける必要がある訳です。

その上で何時、印象が飛び込んで来ても、それをキャッチ出来る落ち着いた心境が先ず、第一に必要なということです。

385 For some this will be difficult with their eyes open, for the attention will be distracted by things that are seen, so it will be best to close the eyes in order to focus the full attention on the impressions or pictures that come. At first this should not be done for more than five or ten minutes at a time. And do not expect too much at the beginning.

385 ある者にとっては眼を開けていてはこれが難しいでしょう。見えるものによって注目がそらされてしまうからです。そこでやって来る印象類や映像類に全注目を集める為、眼を閉じることが最も良いと思われれます。最初はこれを一度に5分ないし10分間以上行われるべきではありません。また、最初から多くを期待してはいけません。

### 【解説】

本項は印象は目や耳という既存の感覚器官とは異なるルートでやって来ることを示しています。また、既存の感覚が印象の感受の妨げになることをも示唆しています。しかし、仮に周囲からの音を遮断した暗室内で瞑想していたとしても印象を感受し易くなるというものでもなさそうです。それほど、私達はこれまで印象に鈍感になっていたという訳です。

しかし、著者が説いているように急いで結果（成果）を追い求めることも禁物です。類は類を呼ぶというように、本来の意識からの印象でなく、つまらぬ過去の残留物や同類からの劣る内容の想念に対して門戸を開くようなことにもなるからです。

よく嵐の前に動物が普段と異なる行動をとったり、半年後の降雪を知っているかのように自らの子孫となる卵を例年とは異なる高さに産み付けるカマキリの話等、野生の動物達の将来を見越すかと思われる行動の話は尽きることはありません。彼らは自分の生命を賭けてこれら印象の声に従っている訳で、私達の本件については、決して遊び半分で行うことなく、私達の進路を決める重要な事柄として取り組む必要があります。

386 One should never discourage the mind as it proceeds to gain knowledge. So perhaps it would be best to leave the eyes open and focus the attention on the hands. Through this you will begin to realize what the hands mean to you and what an asset they are to your life. After you have received good impressions of the importance of your hands, close your eyes and see what you will get then. If you are operating properly, without your mind guessing, you should see your hands constructed of thousands of molecules all very active, never stopping to rest for a moment. And you should receive the knowledge of the type of molecules that construct the nails, joints, etc. And you should be able to see the structure of your hand and the movement of energy better than any instrument could show. You can do this to any part of your body, if you want to know how your body functions.

386 人は心が知識を得ようと前進する時、決して心を落胆させてはいけません。ですからこの場合、おそらく両目を開けて両手に注意を集中するのが最も良いと思われます。このことを通じて貴方は両手が貴方にとってどのような意味を持つか、またその両手が貴方の生涯にとってどんなに財産になっているかを理解し始めることでしょう。貴方が貴方の手の重要性について十分な印象を受け取った後に、両目を閉じてその後、何が印象として得られるか観察して下さい。もし、心が空想すること無く貴方が適切に行動しているなら、貴方は貴方の両手が何千もの一瞬たりとも休むことなく全て活動的な分子から構成されていることを見ることでしょう。そして貴方は爪や関節等を作り上げている分子達の知識を受け取ることでしょう。また、貴方は貴方の手の構造やエネルギーの動きについて如何なる装置よりも良く見ることが出来るでしょう。貴方はもし、貴方の肉体がどのような機能を果たしているかを知りたいと思えば、このことを他のどの部位に対して行うことができます。

#### 【解説】

最初はもちろん、単に目を閉じても本来の印象は簡単に感受できる筈もありません。私達の鈍い感性は、これまで活用されなかった為に退化してしまっているということです。

それに対して、身近な研究対象があると本項は説いています。私達各自の手です。手は少し考えただけでも私達の生活に無くてはならないもの、生活の全てが手に依存していると言っても良いほどです。この手を研究する中で、手の細胞達とも印象を通じてコミュニケーションが出来るという訳です。

また、重要なことは、少しくらい成果が出るのが遅いからと言って、がっかりしないことだとも説いています。そのような鈍感になってしまった私の心とは関係なく、体内には無数の細胞達が休むことなく働いて呉れており、それらはひとえに私達各人を支える為であることは間違いありません。こうした細胞群に日々感謝し、彼らとの交流を図りたいとする姿勢が重要なのです。

387 This type of study will create confidence in your advancement that you may not have had until now. And you will know that you are working in the right way. For you will be observing that which the physical eyes cannot see and the spoken word cannot express. And you will begin to understand your body and its functions which are independent of the mind, although related to the whole.

387 この種の学習は貴方がこれまで得たことのない貴方自身の進歩への確信を造り出すことでしょう。そして貴方は正しい道を前進していることがわかることでしょう。何故なら貴方は肉体の目では見えず、話し言葉では表現できないものを見ることになるからです。そして貴方は心とは独立しているが、全体とは関連している貴方の肉体とその機能を理解するようになるからです。

#### 【解説】

どのような側面であれ、少しでも何らかの成果が現れたら、自分の歩んでいる方向に誤りが無いことが分かります。また、その成果を得た際の、あるいはその直前の心境を覚えて置くことも重要です。

感受したかどうか分からないまま、何となくそうしたいような気持ちに従って進んで行ったら良い結果に到達した等々、言葉になる前の段階の「感じ」にどのようにして従うかが重要となるようです。心とは違うルートから精妙なる印象が入ってくるという訳です。

自分の手を活きた教材とすることは、自らの最も頼りとする部位を学び、体内で働く分子達を理解することにも繋がる訳で、その学習を通じて感受性も高められると同時に、身体健康面でも向上することとなり、心身共にあらゆる側面の進歩に結びつくものと思われまます。

388 From here we can expand the mind into the awareness of the conscious sea of life, like we did with the telescope. And on into space, the incubator of all forms. And the more interest you have in invisible space, the more the consciousness will be impressing your mind with that which the eyes do not see. For there is far more activity in the space that you thought of as nothingness, than your mind ever imagined possible. Then you will receive impressions or pictures that you never had before. And revelations as you did with your hands in space activity and the forming of events yet to come.

388 ここから私達は丁度、望遠鏡を用いて行ったように、心を生命の意識の海の知覚へと拡張することができます。そして全ての形あるものの孵卵器である宇宙に向かって広がるのです。そして貴方が目には見えない宇宙への関心が高まるにつれ、意識は益々貴方に目が見ていないことを貴方の心に印象づけることでしょう。何故なら、そこには貴方が皆無だと考えていた宇宙には貴方が想像していた以上に遥かに多くの活動があるからです。そうすると貴方はかつてない印象や映像を受け取ることとなるでしょう。そして貴方が自分の手について得たような啓示が宇宙の活動や物事の形成についてもやって来ることでしょう。

### 【解説】

私達の心を意識の段階まで拡張することが出来れば、その後は意識の世界で活発に活動する様々な要素を印象を通して知ることが出来ると説いています。

心の姿勢、意識に対する信頼が大事であり、少しずつでも意識に親しむことによって、様々な知識が与えられることとなります。印象を信じて行動するとは、そういう態度の下で行われる必要があります。

最初の内は、偶然当たった勘という認識を持つかも知れませんが、私達が本来の進化の道を歩み始めていけば、それらは常時、実現するものとなり、やがてはいわゆるテレパシー能力を身に付けていることになる筈です。

389 I cannot tell you too much of what you might see, for if I did you would be working on what I have told you, instead of getting your own impressions. But after practicing this method for a while you may write me of results. I will then know if you are doing it right or not. You do not need to go outside and look at the sky in order to do this, for you can do it within your room. But do not be discouraged if you do not succeed in the first few tries. For there will be many habitual obstacles that will have to be removed before good results can be obtained.

389 私は貴方がこの後、見るかも知れないことについてあまり多くを語ることは出来ません。もし語れば、貴方は自分自身の印象を得ようとする代わりに、私が話した事柄について努力することになると思うからです。しかし、この方法をしばらく練習した後に、貴方は私に結果について手紙を書くのも良いでしょう。そうすれば、私が貴方が正しい道を進んでいるか、そうでないかを知ることができることとなります。貴方はこれを為すのに、外に出て空を見なければならぬということはありません。貴方はそれを貴方の部屋の中でも出来るからです。しかし、最初の数回の試みで成功しなかったとしてもがっかりしてはいけません。良い結果が得られる前には、取り除かなければならぬ多くの習慣的障害があると思われるからです。

### 【解説】

現在、私達が歩んでいる道が正しいか否かは、結果を見れば一目瞭然の筈です。インスピレーションが数多く湧くようになり、家族も含めてご自身の様々な環境が好転することを少なからず気付くものと思われます。

私達は結果（成果）を目指すものではありませんが、もし本稿で言うように正しい方向に進んでいけば、結果が自ずと付いて来るものと思っていた方が良いでしょう。それはこの宇宙を動かしている大きな法則に沿って生きる者には当然のことながら、発展があり、良い循環（スパイラル）が働くからです。

行く行くは本稿にあるように、私達も居ながらにして宇宙の諸活動を知覚することが出来るようになるということでしょう。また、逆に言えば、著者アダムスキー氏はこれらの能力を有しており、全てを知り、能力を備えた上で、本書を執筆しており、他惑星人も同様であるという訳です。

ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第10課 段落390 [2013-09-03]

390 It took me many years to master this for I did not have the knowledge to work with that you have received in these lessons, regarding the consciousness and the mind.

390 このことをマスターするのに私は多くの年月を要しました。私は意識と心に関係してあなた方がこれらのレッスンで受け取った指針となる知識を持たなかったからです。

【解説】

本項では著者自身、この意識と心については独学で長年月学んで来た中で、ようやく辿りついたものであり、その到達した先には他惑星人とも共通する真理であったことを示唆しています。

つまりは、過去にも一生涯掛けて真理を求め続けた者が掴みかけた宇宙普遍の真理・知識が本講座に散りばめられているという訳です。

もちろん注意すべきは、自ら求め続け、探求を継続して来た者が真理を悟る場合と、書物の字面を読み通してしまう者とは、得る内容は大きく異なります。私達は一つの段落毎にその中に含まれているエッセンスを汲み取り、著者が何をイメージしているかを考えながら、進む必要があるということでしょう。

391 There is one thing to always remember, the consciousness is the all inclusive power and intelligence. And it is the conceiver and creator of all form life. And the mind was created to execute its instructions. The consciousness knows and sees all while the mind does not, and it should be its student. It must learn to obey conscious instructions when it becomes tired of making mistakes

391 いつも覚えていて欲しいことが一つあります。意識は全てを包括する力であり知性だということです。そしてそれは全ての形有るものを産むものであり創造主なのです。そして心はその教えを実行する為に創られたのです。意識は全てを知っており、観ているのですが、一方、心はそうではなく、その生徒であるべきなのです。心は過ちを犯すことに飽きたなら、意識の教えに従うことを学ばねばなりません。

### 【解説】

先日、テレビでBBCの自然科学番組を放映していました。内容は宇宙に関するもので、最近の宇宙天体望遠鏡による細密な星雲の画像が画面いっぱいに広がっていました。その光点の一つ一つが太陽を示していることを考えると、改めて宇宙の広大無辺さを感じ入ったものです。

本項では、その宇宙全体を統一的に支える存在が「意識」であるとしている訳で、私達は改めて各個人（即ち「心」）の小ささと意識の偉大さとの差を感じない訳には行きません。

この宇宙を支える意識が、その内包する各々の創造物に対し、えこひいきすることなく、平等にいつくしむことで、この宇宙がかくも美しく形を保っているということも出来るでしょう。それに引き換え、私達の考えの何と小さなことか、日々の想念レベルとの格差を改めて実感した次第です。

392 We have now laid a good foundation for the next lesson which will take us on an exploration of Cosmic space. And we will see how many will be ready for that journey and go along with us to face reality.

392 私達は今や、私達を宇宙空間の冒険の旅に連れ出してくれる次の課の為の十分な基礎を敷き終わりました。それで、私達はどれ程の人数の者がその旅行への準備が出来ており、真実に直面する為、私達と一緒に進めるか見ることにしましょう。

### 【解説】

意識への感性が高まるにつれ、私達は次第に宇宙的な印象を受け取ることが出来るようになります。これまで私達が学んで来た自分の感覚心の性質や限界、またそれに対する広大無辺な宇宙意識の作用が具体的に目に見える形で私達がようやく認識できる段階に到達したと本項では説かれています。

居ながらにしてそうした宇宙的情報・印象に接することが出来れば、日々の生活はかつてない程に充実したものとなる筈です。

また同時に、未来に起こる事柄についても、少なからず啓示が来るものと思われます。いわゆる意識の世界、因の世界で進行している段階でその来るべき内容を事前に知ることも「宇宙」には含まれているものと思っています。

私達の肉体も含め、結果の世界にあるものは全て、この意識によって支えられ、存在している訳で、意識はそれら被創造物に対して常に慈しみの気持を抱いています。

393 In the last lesson we promised you an expedition into space. So we will take this step and see how well you will perceive this logical procedure.

## 生命の科学－学習コース

### 第 1 1 課

#### 宇宙空間の探検

ジョージ アダムスキー 著

393 前の教課で私達は貴方に宇宙への探検をお約束しました。そこで私達はこの一步を進め貴方が如何にこの論理的な手順を良く理解できるか見ることにしましょう。

#### 【解説】

本項からこれまでの学習の発展段階の一つとして、宇宙の探求、即ち自らの意識を宇宙空間にまで拡大する方法を論理的に学ぶとしています。

これまでもいわゆる「霊能者」と呼ばれる人が様々な時代でこの種の遠隔透視を体験して来ました。私自身は読んだことはありませんが、ダンテやスウェーデンボルグ等が良く知られているところです。しかし、本項で述べられているように、私達は何か訳が分からない「神秘的なもの」として、これら遠隔透視を取り扱っているのではなく、論理的、科学的にそれらの原理を学んで来たと言えるでしょう。

基礎的事項が十分身に付いた後は、毎日少しずつの実践によって各自の能力開発を進めなければなりません。何より実際の生活の中に活かすことが期待されているのです。

394 In the early days the mind felt that space was empty because the physical sight could not see anything in it, yet in recent years with instruments we find that space is active and full of invisible elements out of which forms are created. Consciousness has been trying to convey this to our minds consistently but the mind would not accept it as the sight could not see the invisible manifestations. And only through the instruments has the consciousness been proven right.

394 初期の時代には心は肉眼ではそこに何も見えない故に宇宙空間はからっぽだと感じていましたが、近年では諸装置を用いることによって私達は宇宙空間は活動的であり、形有るものが造り出される目に見えない元素類で満ちあふれていることが分っています。意識はこのことを一貫して私達の心に伝えようと努力して来ましたが、心は目に見えない創造の御わざを見ることが出来ない為にそれを受け入れようとはしなかったのです。そして諸装置を通じることによってのみ、意識が正しかったことが証明されて来ました。

### 【解説】

私達はこれまで長い間、目に見えないものはその存在を信じて来ませんでした。それは一方ではかつての神秘主義の悪弊から、実証、現実主義、物質中心の現代への移行して来たことに他なりません。それにも大きな問題がある訳です。

肉体の既存感覚には捉えられなくても、顕微鏡や望遠鏡、その他の装置類を用いることで、私達は実際には目に見えない世界の重要性を学んで来ました。本講座においても宇宙意識の働き、想念や印象の伝達方法等、宇宙根源に関わる知識や指令が、これら目に見えない要素として働いており、私達はそれに支えられていることを知っています。

未だ私達は宇宙空間における活発な諸活動について多くを知る者ではありませんが、その空間における創造作用の一端は、日々の生活の中でも見ることが出来ます。雲の結晶や湧き起こる雲等、大気圏で起こっている事柄はそのまま、本項が言う宇宙空間の諸活動に繋がるものと言えます。

395 All planets and form bodies are born from the elements of space invisible to sense sight but not to consciousness.

395 全ての惑星と形有る物体は視覚には見えないが、意識には見える宇宙空間の諸元素から生まれています。

### 【解説】

私達の身体も含めて、その由来は宇宙空間に遡ります。また、既に私達が学んでいるように、各分子・原子はそれぞれが体験した記憶を運ぶ為、私達の身体には宇宙の始原にまで遡る様々な記憶が蓄積されているものと思われます。

私達が宇宙空間を見る際、例えば天体望遠鏡での観測の時等、私達はその天体との間にある膨大な宇宙空間にまで考えてはおりません。しかし、本項で言うように宇宙が様々な物質で満ち、丁度創造の揺りかごのような空間であるとすれば、私達はこうした豊かな創造的雰囲気の中に包まれて生きていることが分かります。

その豊かな宇宙空間と「繋がる」ことは地上に生きる私達の生活を豊かなものにする筈です。宇宙空間への探検は私達の生き方に新しい世界観、人生観を与えるものとなることに注目したいところです。

396 Our physical sight is like a window pane through which consciousness sees as spoken of in an earlier lesson, so we will proceed with conscious seeing.

396 私達の肉体の視覚は以前の教課で述べたように、意識がそれを通じて見る窓ガラスのようなものですから、私達は意識的に見ることの学習を進めることにしましょう。

### 【解説】

ガラス窓自体は本来何もない単なる光を通す物質の塊ですが、それを通して外界の景色を見る際に、あたかもガラス窓自体がその光景を現しているように思えてしまう訳です。本来、価値あるものはその景色本体とそれを見る自分の意識である筈です。

日常の私達はこのガラス窓がまずその光景を裁いて、好き嫌いの仕分けをしてしまいます。景色そのものを伝えてはいないのです。そこに既存の感覚の問題点がある訳です。

本来は何ら個人的意見を含まないありのままを身体奥底に伝達するのが感覚の役目であり、伝達者に徹することが大切ということになります。

素直が良いとよく言われますが、その素直さとはこうした窓、感覚が自らの意見を主張せず、得られた印象をそのまま伝達する姿を表現しています。

397 The elements of matter are of various sizes and move through space at terrific speeds similar to a dust storm mixed with layers of gases. From time to time particles unite and when this takes place they gather other particles to themselves through the power of attraction that might be called electromagnetic.

397 その物質の構成要素は様々な大きさを持ち、空気層と混じりあう砂嵐に似た物凄いスピードで宇宙空間を移動します。時としてその粒子群は結合しますが、このことが起るとそれらは電磁気と呼ばれるかも知れない引力によって他の粒子群をそれらに集めます。

### 【解説】

宇宙空間における活発な創造作用の一端を本項は明かしています。

様々な大きさの粒子が、すさまじいスピードで行きかっている状況は私達も星雲が渦を巻くように拡大している光景を望遠鏡が垣間見せてくれることで、多少は理解出来ます。

これらの粒子群が、やがて惑星を造り上げるという訳で、その原動力の親和力、あるいは引力を、著者は電磁氣的な力であると述べています。私達がまだ知らない引力の根本原理について、本項はそれが電磁氣力に由来すると、さりげなく述べている訳です。

宇宙空間を飛び交うこれら粒子の速度について、私達はその実態を知る者ではありませんが、光の速さで直進する素粒子も含め、私達が想像する以上に高速に大きなうねりとなって、これら創造の元となる粒子群が宇宙で活動しているという訳です。

398 In the formation of planets this attraction continues and each added amount calls for a greater compression towards the center. Finally through a combustion within the center of the orb that is to be a planet it is given its own heat or warmth. This heat in turn solidifies the elements, and it also gives birth to the germs or seeds that were dormant in the particles making up the planet. And as a result the plant life, the insects and all form life that we know was borne out of the body of the planet. Our planet earth was born out of space and lives in space and moves through space at the rate of some 1100 miles per hour, so it is logical that all other planets are doing very much the same. Of course they vary in size and some have more of one kind of mineral than others, just as found in different parts of the earth, but they are all made of material found in Cosmic Space.

398 惑星形成過程ではこの引き寄せ作用は続き、各々の積み重なった物体はその中央に向けてより大きな圧縮を呼び起こします。そして遂には惑星となる筈の球体の中心部での燃焼を通じて、惑星自身の熱や暖かみが与えられるのです。この熱は次にその構成要素を固化するとともに、その惑星を作り上げている粒子の中で眠っていた胚や種を発芽させます。そしてその結果、植物や昆虫そして私達が知るあらゆる形有る生命がその惑星の身体から誕生したのです。私達の惑星地球は宇宙から生まれ出て、宇宙の中で生きており、1時間に1100マイル（訳注：時速1770キロ）程の速さで宇宙を移動していますので、他の惑星群も極めて似たように行っているとするのが論理的です。もちろん、それらは大きさは様々で、あるものは地球の異なる部分で見られるように、他に比べてある種の鉱物を多く含んではいますが、それらは全て、宇宙空間で発見される物質から作られているのです。

#### 【解説】

私達の惑星も最後は分解して元の宇宙空間に散らばって行くのではないのでしょうか。その時、地中に眠る植物の種や菌の胞子は、そのまま土の塊とともに宇宙空間に放出され、長い年月、様々な方向に移動した後、再び星の形成という一大イベントに遭遇するや、再び惑星の創造過程に参画するという訳です。

本項では、実にリアルに星々の創造について解説しています。本件について、私達はこれまであまり真剣に考えては来なかった気がします。宇宙の中の創造は聖書の創世記の象徴的記述の段階から、現実の科学的考察を深めて来なかったということでしょう。

著者は本項を通じて、真相はこのようであると具体的に記述していますが、これらの知見は長い間、宇宙をつぶさに観察して来た他惑星人から得たものと思われまます。

このように、惑星創造の過程を学ぶと分かることは、他の惑星と地球とは植生その他において大差は無いということであり、また、同時にこの地球上にある種の多様性はそれぞれ、出身の天体に起因するという点でもあるようです。

399 Can you now see the process in action and how planets were and are created? And can you see how the matter or elements of space have the potential of making all forms found on a planet, like a tree etc? And if your sense mind can perceive what the consciousness is now revealing you are making progress.

399 もう貴方はその活動過程とどのようにして諸惑星が創り出されて来たか、そして創り出されているかが分かるようになりましたか？ また宇宙の物質、或いは諸元素が惑星上に見られる全ての形有るもの、例えば木々その他を創り出す能力をどのように備えているかお分かりになりましたか？ そしてもち貴方の感覚心が意識が現在、明らかにしようとしていることを感知できるなら、貴方は進歩を為しているのです。

### 【解説】

地球上の物質も含めて、宇宙空間にあるもの、即ち万物はおよそ物質の創造の始原から、今日まで各々が体験した記憶を運んでいるとすれば、万物は知識の宝庫であり、その一端に触れるだけでも大変有益な経験を得ることは間違えありません。

微細なる分子・原子のレベルから宇宙の規模にいたるまでのあらゆる活動を支える存在である意識の大きさには私達が言葉では表せないものがあります。その意識から絶え間なく贈られる印象は豊富で、各自にとってタイムリーなものであるでしょうし、それに従うことは私達にとって有益であることは間違えありません。

日々の体験から、印象に従う生き方を薦めることで、如何なる困難にも対処できる者になることが出来ることでしょう。また、同時に人種や民族に至る多様な種の存在は、元来、本項に記されている惑星誕生の経緯にも由来するものと思われれます。そして創造作用にはこれら多様性が互いに調和することを望んでいることも確かです。丁度、豊かな色彩が優れた絵画を構成することと同じです。

400 Cosmic Space or Consciousness knows no beginning or ending as we have said before, so there are planets and other forms in cosmic space without number. By other forms we mean suns, comets, etc., all just as solid as the earth. Now if the earth has produced out of its own body what we see upon it, it stands to reason that all other planets would be similar to the earth and consciousness conveys this to us. They all may differ according to their age as our planet has aged, for at one time there were less than 3 billion people upon it even though civilizations have come and gone. So the development of the people's minds will vary on the different planets the same as they vary in the different parts of this world, but the geometric pattern is not much different on other planets than we find on earth.

400 宇宙空間、或いは宇宙意識は以前申し上げたように始まりも終わりも知りませんので、宇宙空間には無数の惑星や他の形有るものが存在します。その他の形有るものとは、諸太陽や彗星、その他を意味しますが、全ては地球と同様に固体です。そこでもし地球がそれ自身の天体から私達が見るものを創り出したとするなら、それは全ての他の惑星は地球と類似しているとする理由になりますし、意識もこのことを私達に伝えています。それらは皆、私達の惑星が年齢を重ねるようにそれらの年齢に応じて異なるでしょう、何故なら或る時、その上には数々の文明が興隆、衰亡したにも関わらず一時期は30億ほどの人々がいたからです。それゆえ、人々の心の発達がこの世界の異なる場所で違うように、惑星によって異なります。しかし、幾何学的なパターンは惑星によって私達が地球で見るとより大きな差はありません。

#### 【解説】

本書が書かれた1960年代、地球の人口は約30億人でしたが、その後2011年には70億人に達したとされています。著者は本項の中で、過去に様々な文明の興隆、衰退があったとしても、今や30億人も多様な人々がこの地球で暮らしていると述懐しています。

また、恐竜の化石その他が出土することから分かるように、地球始原の昔から様々な生物が地上に現れ、今日の生物相に進化変遷して来ました。これら一連の過程もまた、宇宙普遍の惑星が歩む道であるとしています。

唯一の相違は、他惑星は順調に進化の道を遂げて来た一方で、地球は様々な問題から進化、衰退を繰り返して来た為に遅れが生じているということでしょう。

私達の身の回りを見渡す時、そこは無理解な人間の心の問題はあるものの、その他の要素は、私達が憧れる他の惑星と基本的に何ら変わるものではなく、同様な仏国土の一つであることに気付く必要があるということです。

401 Before starting our excursion to some of the planets that we know about, let us take the position that is sometimes called day dreaming. When this takes place the mind withdraws its interest from the present surroundings and becomes absorbed in the so-called dream. Conscious consciousness draws the mind's attention to itself to such an extent that any one could pass before the one so absorbed and his presence would not be felt. In other words a sort of telecasting connection is made between the consciousness and the mind and time and distance do not mean anything for the mind is interested in the scenes that the consciousness is bringing to it. Many people while reading Inside The Space Ships lived the experience with me and partook of the same exhilarating feeling that I had while describing the scenery and the words of wisdom given to me. This is the state in which one must place himself - the union of mind and consciousness for both are equally real.

401 私達が知っている惑星のいくつかへの旅行を始める前に、時として白日夢と呼ばれている姿勢に就いて見ましょう。これが起る時、心は現実の環境からその関心を引き上げ、いわゆる夢と呼ばれる中に吸収されるようになります。意識的な意識が心の関心を意識自身へそのように引き寄せる為、その者の前を人が通ってもその存在は気付かれない程です。言い替えば、ある種のテレビ放送の回路が意識と心の中に形成され、時間や距離は意味をなさなくなります。何故なら心は意識がもたらす光景に関心を持つからです。多くの人々が「同乗記」を読んでいる間、私と一緒にその体験を生きていましたし、私がその光景や私に与えられた智恵の言葉を表現する間、私が得た心踊る感覚と同じものを共にしたのです。これは人が自分自身を置かなければならない心と意識の統合の状態です。何故なら両者は等しく実在のものだからです。

#### 【解説】

いわゆる「意識と一体化」するとは、本来どのような状況なのか、著者は本項で説明しています。私達の感覚心から雑念は消え、心は意識からもたらされる印象やメッセージにのみ関心を向けています。物事に熱中する際の状況に似ていますが、大事なことはその方向が宇宙源泉である意識に向けられているということです。

芸術家やスポーツ選手が驚異的な活動を行っている際、本人の心は余計な雑念はなく、ひたすら瞬時に来るインスピレーションをそのまま、体現し、行動に移しているということでしょう。そこでは感覚心は意識から来る印象の経路になり切っており、自ら意見を述べるゆとりはありません。こうした状況を如何に容易に作り出すことが出来るかが、私達の能力開発の一つのポイントでもあります。

このことは書物を読む際にも当てはまる訳で、私達は良書を読むことを心掛ける必要があります。一方、世の中にはこの世の墮落を望む者達が感覚心を操ろうと様々なたくらみを企てています。書物やゲームで心が経験したことは、実際、本人がその内容を実行した場合と、経験上大差は無い訳で、私達は自身の中に良質は経験のみを蓄積するよう、読む書物の内容、観るテレビ番組等に注意する必要があります。大昔に、ある方から、例え演劇であっても悪役を演じてはいけない、というお話を伺ったことを思い出します。

お知らせ [2013-09-19]

いつもご覧いただき、ありがとうございます。

都合により、明日の更新はお休みさせていただきます。

402 As an experiment let us go to Saturn. We are now on a solid body very little different from the earth except in circumference, for it is about seven times larger than our planet. The first thing that our mind it attracted to is the slightly different sky than we have known on earth. It is more opalescent than blue due to the rings of Saturn that reflect into the sky. It is almost breath taking in beauty and makes one feel he must be in God's presence. As many of the buildings are white they reflect the same opalescence from the sky, and the snow covered mountains do the same. In certain sections of the planet there are large glaciers and they reflect this coloring intensely as a mirror would. The frequencies of the colors seem to penetrate your being and you feel that you are a different individual than you have known yourself to be. You become consciously aware of that which you see and feel that you are in the Creator's household - the heaven for which you have been searching.

402 一つの実験として土星に行ってみましょう。私達は辺りの環境は別として地球とは私達の地球より7倍も大きい為にほんのわずかの違いしかない固体天体の上に居ます。私達の心を引き付ける最初の事柄はそれが地球で知っているのとはわずかに異なった空です。それは大空の中に反射する土星の輪（訳注：複数）に起因して青色よりも、もっと乳白色をしています。それはあまりの美しさで息も止まる程であり、人をして自分が神の御前に居るに違いないと思わせます。多くの建物は白色である為、それら建物は空からの同じ乳白色を反射しますし、雪を被った山々も同じように乳白色を呈します。土星のある地域では大きな氷河があり、それらは鏡のようにこの色彩を強烈に反射しています。その色彩の波長は貴方の存在を貫くかのように見えますし、貴方は自分自身がこれまで思って来たとは異なる個人であると感じます。貴方は貴方が見るものを意識的に知覚するようになり、貴方がこれまで探して来た天国、即ち創造主の家族の中にいることを感じるようになります。

#### 【解説】

本項では著者は生き生きと土星の上に立った際、著者が見た光景について記しています。特に土星の輪が太陽の光を反射する為に空全体が乳白色を呈する等、現地に行った者でなければ表現出来ない詳細な描写になっていることにも注目したいところです。

この学習講座を学んでいる私達にとって、大事なことは本項の描写から、どれほどの実感が得られるかにあると思われます。もし、本項の描写が起点になって、更に進んだ土星の光景がイメージされるようになれば、私達が意識を頼る心の姿勢に一步近づいたことになるものと思われます。

著者は私達に居ながらにして他の惑星の状況が分かるようになれるよう、人知れず訓練するよう促している訳です。

403 These are the first impressions that consciousness give to the mind. It is all so beautiful that the mind has a tendency to question if it is real, yet it knows that it is walking on solid ground.

403 これらは意識が心に与える最初の印象類です。それは皆、あまりに美しいので心はそれが現実であるか疑う傾向がありますが、それでも心は堅固な地面を歩いていることは知っているのです。

### 【解説】

金星や土星の光景はまさにこのようなものであるでしょう。何よりもそこで暮らす人々の精神レベルが有形無形にその惑星の環境に反映されるからです。おそらくは過去何万年にわたって争いがなく、高度に進化・成長を遂げた人々は自然に作用し、美しい自然環境を持つ惑星を造り上げているに違いありません。

それらの惑星に地球に居ながらにして遠隔透視することは、今後、私達自身にも好影響を与えるものと思われる。

かつては経済の拡大、富の獲得しか目に入らなかった地球ですが、最近では美しい自然の価値が見直されて来ました。とりわけ人々の信仰の山や森林、手付かずの海等、大事にして行こうという認識も広がっています。

縁あって、最近では外国の下水処理の支援業務に従事する機会も増えているのですが、環境を改善する必要性は広くアジアにも広がっています。再び美しい惑星を取り戻す為にも、私達は手本となる他惑星から学ぶ姿勢を忘れてはならないと思っています。

404 And now when we associate with the people a strange thing happens. It seems that everyone is a part of our own being for they seem to see through us and know how we feel and what we are thinking. And we wonder if we are worthy to be here and what they may think about us. But this comes from the habitual mind reaction and soon we feel at ease for we sense that they understand and are accepting us as brothers and sisters and not as strangers. You cannot detect even a trace of jealousy, envy or judgment in them. And when invited to their homes we notice that they share all things equally. This is particularly noticeable among the women for they respect each individual with the same feeling that a mother has for her child. And this is a higher respect than sisters have for each other and their relationship to all is based on the need of the other. The men in turn respect the women with the same feeling that we have on this earth for a Madonna as they are the mothers of men. And the women respect the men equally as high and honor them as the expression of Cosmic Principle-the masculine part of consciousness. And both men and women recognize the consciousness within each form as Cosmic Divinity.

404 そして私達がその人々と交流するや否や、不思議なことが起ります。彼らが私達の内側を見通し、私達がどのように感じ、また何を考えているかを知っているように思えることから、誰もが私達自身の一部のように思えるのです。そして私達は自分達がここに相応しいのか、また彼らが私達をどのように考えているか、疑問に思うものです。しかし、これは習慣的な心の反応から来るものであり、すぐに私達は安らぎを感じます。何故なら私達は彼らは私達を理解し、私達を兄弟姉妹として受け入れており、よそ者とはしていないことを感じ取るからです。貴方は彼らの中に嫉妬や妬みあるいは批判の痕跡も見つけることはできません。そして、彼らの家に招かれる時、私達は彼らが全てのものを等しく分かち合うことに気付きます。これは女性間において特に顕著です。何故なら彼女達は母親が自分の子供に対するのと同じ感じで各個人を尊重しているからです。そしてこれは姉妹が互いを尊重すること以上に高い尊敬の念であり、彼女達の全体への関係は他の者の必要性に基づいているからです。代わって男性は女性達をこの地球で私達が聖母マリアに抱くのと同じ感じを持って尊敬します。彼女達は男性達の母であるからです。そして女性達は男性達を意識の男性部分である宇宙原理の表現者として等しく、高く尊敬し敬意を払います。そして男性も女性も各自の身体の内側に宇宙の神性としての意識の存在を認めているのです。

### 【解説】

土星人社会における人々の生活の一端を本項で著者は紹介しています。進化した惑星では人々はもはや言葉に表さなくても、各自の心に湧いた想念そのものを、その本人と同時に感知してしまうということでしょう。各自が何を考え、どう感じているかが容易に察知されてしまうという訳です。

よく、他惑星に行ってみたいと願う人達も地球では多い訳ですが、未発達な私達が行けば、実は大変厳しい環境になるとも言えるのです。自分自身気付かない段階での劣悪なる想念も相手の方がいち早く察知してしまう訳で、私達にとっては暮らしやすいとは言えないのかも知れません。

私達は各自、自分を発達させ、このような惑星に住むにふさわしいレベルに到達することの方がはるかに大切です。

しかし、地球にあっても、実は多くの人間関係では本項に書かれているように互いに助け合う女性達の姿に似た要素も多くあることも確かです。稲作その他の農業や漁猟において、女性達は互いに助け合って暮らしています。こうした相互扶助は、はるか土星の社会にも繋がる人間の生き方の王道とも言えるでしょう。

405 In their presence one feels that he has been given a new birth in life. For their homes and surroundings are exquisite, a reflection of their consciousness as is everything on their planet. Planet Saturn is a balancer or tribunal planet for our system.

405 彼らの面前にあっては、人は自分が人生で新たな誕生を授かっただと感ずます。彼らの家庭や周囲の物はこの上なく洗練されたものであり、彼らの惑星上のあらゆるものがそうであるように彼らの意識の反映になっているからでず。惑星土星は私達の太陽系の天秤、いわば法廷なのでず。

### 【解説】

そこに暮らす人々の意識が惑星の雰囲気や環境に反映されることは、良く理解できます。地球においても、貧しくても美しい生活の場はこれまでもありましたし、家族が穏やかに生活を送る中には、落ち着いた雰囲気もあるものでず。

本項では、土星について語られていますが、著者自身、実際の場面で体験した彼らの家庭において受けた印象とその影響について私達に伝えています。私達がこれまで体験したことの無いような神々しい雰囲気は何処から来るのかと思つた時、それらが彼らの意識を反映しているものだと、著者は悟つたものと思われず。

人間が放つ想念・印象がその身近なものに吸収、反響して、そのものの振動数を変化させるということでしょう。せつかく戴いた私達の環境を汚さない為にも、私達は日々、良好なる想念を発するよう努めなければなりません。

406 Here I have given you just some of the high spots and not in detail form as you might expect but you can get the details if you succeed in going there consciously. And as I have been taken there physically by space craft I will know if your impressions are correct. And this will indicate how well you are able to travel consciously.

406 ここでは私は貴方に最も重要な部分だけをお話しており、貴方が期待するような詳細には触れておりませんが、貴方はそこに意識的に行くことに成功すればその詳細を得ることが出来ます。また、私はそこには肉体のままで連れて行かれた為、私は貴方の受けた印象類が正しいかが分かるでしょう。そしてこのことは貴方が如何に上手に意識による旅行を出来るようになっているかを示すことでしょうか。

### 【解説】

せつかく練習する以上は、より優れた惑星に向けて意識を働かせたいものです。たとえ当初はうまく行かなくても、その者が宿す想念はその者を形作る訳で、良質な世界を日常意識し続けることは重要です。

生前であれば、著者自らが各自の体験の真偽について診断して呉れた訳でしょうが、著者亡き後は各自で自らの体験を診断しなければなりません。しかし、私自身の意見としては、それらの判別は容易だと考えています。真実は具体的であり、明確なビジョンを伴っているからです。各自が練習する中で、いずれはこうした意識の活用方法を身に付けるものと思われま。

先日も、満月を見る機会がありました。夜半、ホテルの窓から差し込む月の明かりで目が覚めたのですが、静かな宵に独り満月が地上を照らす光景は、私達の身の回りにも、宇宙的とも言える光景が広がっていることをしみじみ感じさせるものでした。

407 Jesus has said that where a man's heart is there he is also. It could be said that where a man's consciousness is there he will be.

407 イエスは言っています。人の心がある所、その者もまた居ると。それはこのようにも言えることでしょう。人の意識のある所、その者もまた居るであろうと。

### 【解説】

以前、知人から植木の世話をする時、大事なのは、たとえ離れていてもその植木のことを思っていることだという話を聞いたことがあります。「星の王子さま」にも似た話があります。このように私達の意識を対象に向けることで実質的にその本人がその場に居るような効果・影響を与えるということを本項は示唆しているように思われます。

そういう意味から言えば、距離に関わり無く自分の意識を対象にまで拡張し、その対象と交流することが出来るという訳です。同時期に複数箇所に師が現れ、教えを説くといったことも起こりえるということです。

まだ、私達が理解できず、私達が知らない自らの潜在能力も多い訳で、その一つ一つを身に付けようとするのが、本講座の趣旨でもあります。

408 Now we will observe Venus and as we do we find a difference here for it is a smaller planet than Saturn and much of the time it is covered with clouds. Although the clouds break here and there and allow the sun to shine through, the air is humid but not oppressive. It is very much like other planets in formation for it has a variety of climates with ice and snow in some parts.

408 今度は私達は金星を観察しましょう。するところでは違いを見い出します。何故なら、それは土星より小さな惑星で、多くの期間、雲に覆われているからです。しかしそれでも、そこここで雲が途切れることで太陽を輝き渡らせますし、大気は湿度を帯びていますが、重苦しくはありません。その構成は他の惑星ととても良く似ています。ある部分には氷や雪もあるような多様性に富んだ気候条件を有しているからです。

### 【解説】

現状の地球の天文学では、金星は到底人間が住めるような惑星とはされていません。アダムスキー氏が会見したオーソンをはじめ、多くの金星人の存在は、地球の既存の支配者にとって、大変都合の悪いものであり、生命存在の可能性を人々から葬り去ろうとこれまで画策して来ましたが、今後もその傾向は続くものと思われます。

一方、こうした中にあっても私達は自身の力で近隣の惑星を自分の意識で遠隔透視することが出来る訳で、これによって私達は真相に近づくことが出来ることとなります。

アダムスキー氏が亡くなってからも、近隣の惑星に関する情報統制は変わることなく続いており、その生命存在に関する情報はひた隠しにされているということでしょう。当局からの情報に左右されることなく、私達自身の意識の力で月や金星の実状を遠隔透視することの方が、早道のように思っています。

ご連絡 [2013-10-02]

いつもご覧いただき、ありがとうございます。

都合により、2～3日程度、更新をお休みしますので、ご了承下さい。

409 Geometrically the people are very much the same as found on earth and other planets but they are interested in a wide scope of things and have very much the same type of environment that we found on Saturn.

409 幾何学的にはその人々は地球や他の惑星で見る人々とほとんど変わる所がありませんが、彼らは物事への幅広い関心を持っていて、土星で見られるのとほとんど変わる所の無い環境を有しています。

### 【解説】

金星については、著者が「金星旅行記」を記していることは多くの読者が既に知るところであろうと思います。温暖でみずみずしい、植物の豊富なその世界の模様は、金星に暮らす氏の亡き妻の実生活とともに詳しく述べられています。

本項は、簡単に金星の人々について触れているだけですが、それでも地球と何ら変わる所のない環境であることや、人体の形状の普遍性について改めて記されています。

2千年前、イエスが傍らに自らと同じく十字架に掛けられた囚人の一人に「あなたは私と一緒にパラダイスに居るだろう」と言った「パラダイス」は、この金星を指すものと思っています。聖書にはその囚人がイエスの本質を理解し、その尊さを認識する等、一定の理解力が備わった時、はじめてより高次の惑星に転生出来ることになるからです。金星は2千年前も現在も、私達が理想とする惑星であるのです。

410 There is just one head of Government with many co-workers who look after the affairs of humanity. And the respect for each other is very much the same as we found on Saturn.

410 そこには人類に関する事柄の世話をする多くの協力者を持つ政府の首長はただ一人存在します。そして互いに尊敬し合うことは土星で見られるのと大変良く似ています。

### 【解説】

本項はいたって単純な金星社会の政府形態を伝えています。究極に進歩した惑星では、実に単純な行政組織になることが分かります。地球では三権分立による互いの拮抗組織や選挙による議員の選出など、実に多量のエネルギーを使いますが、進化した惑星にはそのような必要性はなくなるという訳です。

私達はまだ、進化した惑星社会の実際について十分に知る者ではありませんが、いくつかのサイト（例えば、大橋氏の「宇宙意識への覚醒」<http://blogs.yahoo.co.jp/ohashimiracleexcuseneed2/MYBLOG/yblog.html>）では、より具体的な内容が指摘されています。

おそらくは私達が知る太古の昔から、金星や土星ではこのような政府の形態が続いていたものと思われませんが、それにつけても現状の地球では資源や宗教を巡って国々の争いごとが多い状態が続いており、調和とはほど遠い「弱肉強食」の星になり下がっていることは、皆様ご覧の通りです。

411 As each planet represents some phase of humanity, Venus represents Cosmic Love that binds all things together as one.

411 各々の惑星はそれぞれ人間性の何らかの側面を表現しており、金星は全てのものを一つに結び付ける宇宙の愛を象徴しています。

### 【解説】

金星は愛の惑星だとされています。各々の惑星に住む人間の総体として、その惑星の特徴が現れるということでしょう。これは惑星ばかりでなく、地域についても言えることかも知れません。かつて日本は一部の例外はあったでしょうが、治安は良く、庶民は皆同様に貧しい中でも、互いに助け合って生きていたようです。家の戸締り等、不要な社会でありました。

一方、最近、海外に出る機会が増え、他の国の実情を見ることも多くなりましたが、ある南米の国では、ほとんど全て個人の家の敷地は周りを高さ2mに及ぶ鉄の柵で檻のように取り囲み、自宅を守っています。また、日本では当たり前自動販売機も、壊されたり盗まれる為、設置は皆無です。

実は地球の場合、治安状況は国によってさまざまな訳で、他惑星のレベルに到達するには、まだまだ長い道程を進む必要がありそうです。

人々の持つ宗教が教会の外で実践されない限り、この分野の進展は望めそうにありません。

412 Agriculture and the manufacturing of the necessary commodities is all based on production for use. And all individual talents are given an opportunity to develop and express. Every phase of their expression is extremely artistic and elevating to view as they express love in everything that they do.

412 農業や生活必需品の製造は全て使用に基づいています。また、全ての個人の才能はそれを発展させ表現する機会が与えられています。彼らのあらゆる表現の姿は彼らはその行うこと全てに愛を表現する為、極めて芸術的で高揚させるものとなっています。

### 【解説】

何事によらず、生活や行動のあらゆる場面で美しさを表現することが、金星の美徳と言えるのかも知れませんが、かつての日本文化の中にも、そのような美しさが残っておりまして、アジア各地の少数民族の生活の中には、今日の経済尺度から言えば貧しいとされる中であっても、木製の古民具を大切に使い、豊かな生活文化を営んでいる点では、本項と近い側面もあるものと思われます。

また、本項でさり気なく記されている「全て使用に基づいて」作られるという内容は重要です。地球では使うか使わないかに関わらず大量に生産し、流通販売されているからです。価格を安く設定すれば販売量が増え、採算が合わなければ農作物を廃棄することさえ行われる訳です。消費量に基づく計画的な生産を行うことによって、田畑から不必要な栄養分を搾取することのない農業が行われているということでしょう。

農業と工業がともに芸術にまで高められた姿は、工芸という領域にあらゆる生産物が到達しているとも言えることが出来ます。最近も知人で陶芸の道を進もうとする人が出ましたが、生活用品の中に美を見出す姿勢は、本項で言う金星のスタイルに近いものがあるように思われます。

413 I have now given you a foundation and you may fill in what you will consciously observe on Venus.

413 私はこれで貴方には基礎を授けましたし、その後は貴方が金星を意識で観察するものを埋めて行けば良いでしょう。

### 【解説】

著者は金星に関する一通りの概要を示した後、各自で自らの意識を使って、どのようなイメージが得られるか、応用して見よと説いています。

この意識を用いる訓練は、他の著作においては、山の上から眼下の湖を見て、その水の感触を感じるようにとする訓練もあったように記憶しています。

宵の明星として、ひときわ輝く金星を見て、肉眼が明かすことが出来ない詳細なイメージが心に浮かぶ程に、自らの意識を用いてその惑星を探る試みを行う必要があるということでしょう。

414 Next we will go to Mars, a planet I have not been on physically. Consciously I find the planet rugged, quite commercial and industrial and very similar to earth. Agriculture is in second place for water is scarce in inhabited areas and most of it is dry farming. The water that they have is channeled from the polar caps and melting ice areas. There is plenty of salt water and in recent years they have been converting it for use as we are doing in some places. There are canals of salt water that carry the ships to inland cities where the water is also converted for use. In the early days they tried mixing salt water with fresh water, about a two to one mixture of fresh and salt, but the amount of fresh water was not adequate and the mixture was not good for agriculture.

414 次に私達は火星に行きます。肉体としては行ったことのない惑星です。意識で見ると私にはそれが荒れて、まったくの商業的、工業的な場所であり、地球に大変良く似ていることが見えます。居住地域には水が少ない為、農業は二次的な地位であり、そのほとんどが乾燥農法です。彼らが用いる水は極冠や融解する結氷地域から水路を引いてもたらされます。塩水は豊富にありますし、近年には私達も幾つかの場所で行っているようにそれを変換しています（訳注：例えば逆浸透膜法等により塩水を淡水化し利用していることを指す）。内陸部の都市に船舶を運ぶ塩水の運河がありますし、そこでもその塩水が転換され利用されます。初期の時代には彼らは塩水と淡水を2対1に混合しようとしたましたが、その淡水量では不適切で、その混合水は農業に向かなかったのです。

#### 【解説】

以前、アダムスキー氏が伝えたとする情報の中で、火星については、金星や土星に比較して発達が遅れている面があり、科学技術は発達しているものの、精神面では問題も残されているという話が伝わっています。

今日の情勢については知りませんが、本項で著者が「荒れた rugged」と表現している点が気になるところです。以前から火星探査機から送られて来ている火星表面の荒涼とした写真もあり、地球からの天体望遠鏡の写真からも赤い大地に覆われた惑星の実体が知られているところです。

丁度、仕事で中東地域の上空を飛ぶことも多いのですが、砂漠の中の商業都市、工業地域が火星全体のイメージなのかも知れません。

そういう意味では似た環境、即ち自分達が長年、馴れ親しんだ環境の地域は親近感もあり、場合によっては多くの火星の人達も地球に移り住み始めているということも考えられます。私達が考える以上に、地球には各惑星の人的交流が進行している可能性もあるのかも知れません。

415 Mars also has a population explosion. In another year I have been promised a trip to Mars and when I go I will prove to myself how close my mind has received the impressions given to it by consciousness.

415 火星もまた人口爆発にあっています。別の年に私は火星への旅行を約束されて来ましたので、行った時は私の心が意識によって得られた印象を如何に忠実に受信していたかを自分で確かめようと思っています。

### 【解説】

本項では「火星もまた」とあるように、地球と同様、火星にも人口の急増現象があるということです。

地球では1960年の30億人であった時から、今日2013年には72億人になったとされており、本書が書かれていた当時とは比較にならないほど、一段と大きな課題になっていることが分かります。

同様のことは火星でも起こっているということですが、地球と火星との間には近い発達段階があるのかも知れません。火星の乾燥地帯の起源は良く知りませんが、かつての行き過ぎた工業化が影響しているのかも知れません。

過去の歴史を見ても、人口増に対し、政府が食料や燃料を確保しなければならないという状況の中で、それら資源を巡って多くの争いがあり、また人々の不公平への怒りが戦争へと突き動かして来たことは確かです。

これら経済的な理由で戦い合うことは、今日では惑星自体の破滅に直結するだけに、国境紛争その他に対しては冷静に取り扱って欲しいものだと考えています。

416 A man can consciously travel the Cosmos as I stated before if his mind can trust what consciousness reveals to him. Some of us not knowing how this is done have traveled the Cosmos many times. In some cases it has been during the sleeping hours when we have had dreams that impressed themselves vividly on our waking mind. Especially of strange places where it would be impossible for the mind to promote the dream.

416 人はもし自身の心が意識がその者に明かすことを信じる事が出来れば、私が以前述べたように、宇宙を意識で旅することが出来ます。私達の幾人かはそれがどのようにして行われるかを知らないまま、何度も宇宙を旅して来ました。ある場合は、それは目覚めた心にそれらの事柄を明瞭に印象付ける夢を見る寝ている間に起っていました。特に、心が夢を進めようなど出来ないような見知らぬ場所についてはそれに属します。

### 【解説】

私達が訓練の末に行き着く先は、自らの意志で自由に自分の意識を宇宙に拡げて、遠隔地の状況を把握することが出来るものと思われます。

しかし、それ以前にも知らずにそのような作用を眠っている間、即ち心が自らの意見を持って騒いでいない間に、意識による遠隔透視的な作用を体験していると本項は説いています。

おそらくは多くの方が色彩豊かで印象の強い夢を見たことがあるかと思えます。見知らぬ場所であったり、またある場合には何10年後かに実現する光景である可能性もあるようです。決して夢想するだけの者にはなりたくないのですが、私達はもっと自らの意識、宇宙の意識を信頼して、その導きの手に従うことが必要です。

その遠隔地の光景については、映画「コンタクト」の最後で、遠い宇宙彼方の他の惑星を瞬時に知覚体験した主人公のストーリーを思い起こさせます。

417 We must remember that consciousness is the sea of life within which all forms are living regardless of what they may be. And outside of which there is no life. So when the mind becomes alerted that it is living within that sea and must depend upon the sea of consciousness for its own life then this awareness begins to impress itself upon the mind with new knowledge of various phases of its action and the various types of forms through which it expresses. Like certain fish in the ocean that are alert enough to sense a disturbance, conveyed through the water in which they live.

417 私達は意識はありとあらゆる全ての形有るものがその内側に生きている生命の海であることを覚えていなければなりません。そしてその外側には生命は無いことも。ですから心は自らがその海の内側に生きており、それ自身の命について意識の海に頼らなければならないことに感づくようになると、この気付きは心に対して意識の様々な行動の側面や意識が表現する様々なタイプの生命形態に関する新しい知識を印象により授けようとしはじめます。それは丁度、大洋の中のある魚が自らが住む水を通じて運ばれて来るうねりを感じ取るだけの鋭敏さがあるのと似ています。

### 【解説】

私達は生命の海との言うべき意識の中に生きています。意識こそがあらゆる生命を支える源であり、丁度、私達は海の中に生きる魚のような存在だという訳です。魚が水無しには生きて行けないように、私達は意識の中でしか生きられないということです。

しかし一方で、ただ漫然とその海の中に暮らせているということだけで満足するのは本来の姿ではありません。私達の心が意識から教えられる様々な知識を進んで学ぼうとする姿勢が必要です。

本項で説かれていることは、海の中にある水流のうねりその他を魚が感じ取るように、私達は意識の海の中から寄せられる印象に鋭敏になり、進んで新しい知識を得ようと心掛けることが重要だということです。

## ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第11課 段落418 [2013-10-16]

418 Man can have this same alertness from the conscious sea of life when his mind is aware of its possibilities of receiving impressions from anywhere in the Cosmos. When this phase is understood and used man can be anywhere he wishes to be, either near or far away. For the Real You remember is the consciousness. The mind and the body are instruments which you use.

418 人はその心が宇宙の何処からの印象でも受け取ることが出来ることに気付いた時、その生命の意識の海からこれと同じ覚醒を得ることが出来ます。この側面が理解され応用されると、人は近くにも遠くにも自分が望むどのような所にも身を置くことが出来ます。何故なら、ここが大事なところですが、真実の貴方という存在は意識なのです。心と肉体は貴方が用いる道具です。

### 【解説】

印象への鋭敏さを深めることが出来れば、私達は私達を取り囲む宇宙の意識から無尽蔵に知見を得て、自らの発達や同胞の進歩に大いに役立てることが出来ます。結局は私達の本質は意識なのだと言っています。肉体や心はその道具に過ぎないと著者は究極の要点を私達に教えている訳です。

このような教えの要旨は古来より、秘伝として師から弟子に口頭で伝えられ、受け継がれて来たものです。その境地を得る為に山中に籠っての修行その他が行われて来たものと思われれます。それに対し、私達はより科学的にその原理と道筋を本講座で学び取っているという訳です。

決して肉体を粗末に取り扱って良いと言っている訳ではありません。肉体と意識とを比較して、格段に違うその価値を本項は言っているのです。

## ジョージ・アダムスキー「生命の科学」第11課 段落419 [2013-10-17]

419 Many times when I was teaching in the early thirties a student would be sick and would not be at the class, yet on the following week when they returned he would report that he had not missed the class. For I was at the bedside giving the instructions yet I was not missed in the classroom. I was there before the students giving instruction through my mind and body while at the same time my consciousness was at the bedside of the one who was sick. It is like using two speakers with one microphone. Consciously I was conveying to the mind in my body that which was given to the students. In one place I was a solid form and in the other a thought form.

419 1930年代の初期、私が教えていた時に何度となく一人の生徒が病気になりクラスに出席することが出来ないことがありました。しかしそれでも、翌週にある次の授業にはその生徒は決まって自分は授業を受けられなかったことはないと報告するのです。その理由は私は彼のベッドの脇に居て、教えを授けていたからというのですが、私はクラスに出席しなかった訳ではありませんでした。私は当時は生徒達の前で心と肉体を通じて教えを授けておりましたが、同時に私の意識は病気の一人のベッドの脇に身を置いていたのです。それはマイク1つで2つのスピーカーを使っているのに似ています。意識的に私は私の肉体の中にある心に生徒達に教える事柄を伝えておりました。一つの場所では私は固体として形あるものでしたが、他の場所では想念の形態であったのです。

### 【解説】

もちろん本事例の場合、当該の生徒は相当の感受性を持った人物であり、アダムスキー氏の意識を知覚することが出来たという訳です。

意識の及ぶ範囲には際限が無く、伝えたいと思う意志があれば、距離に関係なく、その者に内容を伝えるということでしょう。もちろん伝える対象にも制限は無いものと思われまます。

そういう意味では万人に慈悲を授ける仏や慈しみを与える聖母等、従来 of 信仰の対象は、そうした宇宙におわす大いなる師からの救いのメッセージを授かりたいという人々の願いを表現したものかと思われまます。

420 And now I will explain what I mean by a thought form. Man is a thought manifestation of consciousness like a shadow is a manifestation of a form. So in the classroom I was manifesting as a solid form and at the bed side I was manifesting as a shadow of that form. A thought form can be sent and felt at any distance while a solid form cannot. This has happened many times even outside of the classroom. When I was lecturing in Pasadena someone would ask my help for a sick friend. I would deliver the lecture on a normal bases and at the same time go to the bedside of the sick person. I did not need to know the person nor the address for consciously I was in both places. When I next met the person that had asked for my help she was happy for the friend had improved immediately and in a short time he was out of bed and well on the road to recovery. My experiences are not limited to sickness alone for I have been able to help out in other types of trouble. These things did not take place during my sleeping hours but when I was active with something else. So this has been my experience with conscious traveling.

420 そしてここで、私が想念の形態と言うことで何を意味したかったかを説明しましょう。影が形あるものの現れであるように、人は意識による想念としての現れです。ですから、その教室の中で私は固体の形態として現れており、ベッドの脇ではその形態の影として現れていたのです。想念の形態は如何なる距離にあっても送られることが出来、感じ取られますが、固体の形態はそれは出来ません。このことは教室の外でも数多く起りました。私がパサデナで教えていた時、誰かが来て病気の友人を助けて欲しいと私に求めて来ました。私は通常の通りのレクチャーを行う一方、同時にその病気の人物のベッドの脇に行ったのです。私にはその人物やその住所知る必要はありません。何故なら意識としては私はその両方の場所に居たからです。次に私の助けを依頼したその人物に会った時、彼女はその友人が直ぐに良くなり、わずかの内にベッドから離れて回復への道程に進むようになったことで喜んでおりました。私の体験は病気に限られてはおりません。他の種類のトラブルから助け出すことが出来たからです。これらの出来事は私の寝ている間には起らず、私が何か他のことで活動している時に起っていました。ですから、これは意識による旅行に関する私の体験であった訳です。

### 【解説】

聖書には弟子達の前に昇天後もイエスが現れ、必要な助言を与えたという記載も多いものです。また最近でも、ファチマ等での聖母出現について私達は知るところです。これらは実は本項で説かれている意識による遠隔移動の具体例なのかも知れません。

大事なことは、本人が望めば、自らの意識はあらゆる場所に瞬時に移動し、見る者の前に姿を現しメッセージを伝えることが出来るということです。また、その現れは本項で言う想念の形態であることもポイントであろうと思われます。即ち、想いはそれを受け入れるあらゆる者の前に現れ、伝えられるという訳です。

よく信仰の場面では祈りが重要視されますが、そうした祈りはこのような作用と効果が秘められているということでしょう。もちろん、より多くの人の祈りは遂には惑星全体にも影響を及ぼす程の力を持つことも容易に想像されます。

421 But when my interest was taken up with flying saucers these experiences ceased. For as Jesus said, you cannot serve two masters without neglecting one of them. But now as I start to teach again I am returning to my original service.

421 しかし、私の関心が空飛ぶ円盤に奪われた時、これらの体験は無くなりました。何故なら、イエスが言ったように貴方は片方を無視しないで二人の主人に仕えることは出来ないからです。しかし、今や私は教えを再び始めましたので、私は元の奉仕に戻りつつあります。

### 【解説】

私達が日頃、何に関心を持っているかが重要な訳です。本項で著者は1950年代以降、空飛ぶ円盤の探求の道を歩むことになりましたが、それ以降は、以前教えていた哲学の分野から一端離れた為、このような体験は持たなくなったと述懐しています。

そして他惑星文明との交流の末、再び哲学の道に戻って来たと正直に述べられています。誠実に生きる上から、時々自分が信じた方向に進むことは良いことだと考えます。著者の場合も宇宙文明の実際や宇宙空間の実像を学ぶことで、新しい視野が啓け、この「生命の科学」その他の講座が生まれました。おそらく、従来の自らの教えに比べて一段と進化した内容にすることが出来たのだと思われま

す。また文中の最後に「service奉仕」と記されていることも重要です。著者にとって、こうした著作やレクチャー活動は決して自分の為に行っている訳ではなく、それを願う万人に自らの知見を授ける奉仕であり、著者にとっては丁度、教会等で聖職者が信者を前に行う説教や儀式に相当する位置付けであったことが分かります。

422 I am only giving my experiences to show that man's innate ability is of his own consciousness and has nothing to do with mysticism. But rather it is an understanding of the law or the other half of oneself - the conscious part. 99% of humanity is living the mental side of life unaware of their conscious ability or conscious consciousness. Consciously you are free to go any place in the Cosmos but mentally you are anchored to one place. As I was anchored to the classroom but consciously I went to where I was needed. And the law is just as real on the conscious side as it is on the mental side. Consciousness is the permanent side while the mental is the changing side of life. Always changing because the mind is learning while consciousness is all knowledge.

422 私は人の生来の能力は自身の意識によるものであり、神秘主義とは一切関係が無いことを示す為に自分の体験を述べているだけです。むしろそれは法則の理解、自身の半身即ち意識の部分の理解と言えます。何故なら99%の人類は自分達の意識上の能力即ち意識的意識について気付かぬまま心の側で生きているからです。意識の上では貴方は宇宙の何処にでも行ける自由がありますが、心の上では貴方は一箇所に錨で繋ぎ止められています。私とその教室に繋ぎ止められていた時でも、意識の上では私は私を必要とする場所に行ったのです。そして法則は心の側でも意識の側でも現実に働きます。意識は永遠の側にありますが、心は人生の変化する側にあるのです。意識は全ての知識である一方、心は学ぶ過程にある為、常に変化しているのです。

#### 【解説】

私達は生来の能力として、これまで私達が想像する以上に自由に生きられるということかと思われま  
す。肉体や心は変遷し、進化を遂げるべきものですが、その根底には生来全ての知識を有する意識があ  
り、私達はその意識なるものに気付くことによって、肉体や心に束縛されることなく、自在に活動す  
ることが出来ると本項は説いています。

重要な点は、この意識を私達は生来の能力として備えているということであり、私達はその能力に気付  
く努力をする必要があるということです。

とにかくこのような私達にとって未知の分野については、何か新しい神秘体験を期待しがちですが、本項  
ではそのような神秘主義を徹底的に排除せよとしています。自らの内側に備わっている意識を学ぶこ  
と、それを応用する等、着実な歩みを求めている訳です。

この歩みの過程で、私達は各々の進化を遂げ、肉体や心もそれを反映したものに変わって行くものと思  
われます。昨日の自分から一歩違う自分になれるよう、一日を送りたいものです。

423 What is meant by entrancement? The accepted idea of this is a misrepresentation of reality in the belief that a master is guiding one as spoken of before. Should such an impression or vision come to you during your development do not be alarmed for your conscious self will have this feeling when viewing other parts of consciousness.

423 忘我とは何を意味するのでしょうか。これについて一般に容認された概念は、以前にも述べたように、師がその者を導くと信じるという現実を誤った表現なのです。貴方の進歩の過程でこのような印象あるいは光景がやって来ることがあったら、怖れないで下さい。何故なら貴方の意識上の自己は意識の他の部分を見るとこのように感じるものだからです。

#### 【解説】

よく「夢中になる」という表現がありますが、そこには感覚心から発する余計な意見はなく、感覚心はひたすら印象を待機するか、印象を実行するのに余念がない状況かと思われ、本項でいう忘我とは更に進んだ状況を指すものと思われ、少なからず各自の進化の過程で現れる現象だとしています。

しかしその際に、これらの現象は自らの意識に関して別の側面を見ている訳であり、怖れる必要はないと説いています。私自身は未だそのような体験を持ちませんが、いわゆる教祖と言われる人達は各々こうした体験を自分流の表現で表し、神秘体験としてしまったものと思われ、

これに対して私達は、そのような場合でも意識に対する自らの知覚力を高める方向で冷静に対処する必要があるという訳です。いずれにせよ、意識について学べば学ぶほど、私達の精神面での活動の範囲は飛躍的に拡大することでしょう。

424 Remember your mind cannot absorb all inclusive consciousness in a moment so it must come in parts or different phases in the beginning until the mind is firmly developed in relationship to consciousness. i.e. A one inch hose will carry one inch of water but when the water comes out through the nozzle it separates into hundreds of drops of various sizes and shapes and each could be labeled as different according to our specifications. But each drop that falls upon vegetation gives moisture and life giving substance to that which it touches. Yet the essence of the drop of water unites with all the other drops of water as a whole, no different than it was in the hose. And the flow of Cosmic Consciousness is like the water in the hose. And it constantly separates itself for the service to be rendered to the lesser manifestations without which they could not live.

424 貴方の心は一度に全てを内在する意識を吸収することは出来ない為に、意識は心が意識との関係において確実に成長するまでは、最初は部分的或いは異なる種々の側面としてやって来るということ覚えておいて下さい。それは即ち、1インチのホースは1インチの水を運びますが、ノズルを通して水が撒かれる時は水は様々な大きさや形の何百もの水滴に分裂します。その一つ一つは私達の分類によれば各々異なるラベルを貼られるのです。しかし、植物に降り注ぐ一つ一つの水滴はそれに触れるものに潤いと命を与える物質を授けます。しかし、水滴の本質は他の水滴と共に全体として統一されており、ホースの中にあった時と何ら違いはありません。そして宇宙意識の流れもホースの中の水のようなものです。それはそれ無しには生きて行けない、より下等な生命の現れに自らを委ねるといふ奉仕の為に自らを絶えず分ち与えているのです。

#### 【解説】

誰でも庭の草花や植木にホースで水撒きしたことはあることでしょう。その際のホースの水と一つ一つの水滴、更にはその水玉を受け取る草木の関係は、丁度、意識から来る印象とそれを受け取る私達との関係と同じだと本項は説明しています。

ホースの先から無数に広がる水滴は、一つ一つ異なる存在のように見えますが、おおもとは同じホースを流れる水です。水滴は一つ一つ異なる輝きを見せるかも知れませんが、その成分は皆共通であり、草木を潤す大切な存在です。

実は意識は、これほど豊かに私達に降り注ぎ、多様性を持った内容が来ると著者は私達に示唆している訳で、私達はふんだんに贈られる恵みの一つ一つを味わい、感謝することを忘れてはなりません。

425 In other words the Cosmic Mother and the Cosmic Father never wean their creation. When the mind does not understand this process it has a tendency to label the effects as the mystics have done. Let me give you an example of how the mind labels things it does not understand. For this we can use the experience of Jesus on the Mount of Transfiguration. His mind at that time was entranced by consciousness for he had given his mental will over to the will of consciousness as he became a listener and observer. And when he did this his face changed to represent the many individual forms through which his mind and consciousness had expressed before and he was fully aware of what was going on. And the disciples that were watching him observed the many changes of facial expressions and told him that to them he had appeared as Moses, etc. His answer to them was, "My life is the life of the many." In other words he had lived all of those stages of life and the consciousness reviewed the stages on the screen of his mind, thus bringing his mental life up to the present stage while the others observed.

425 別の言葉で言えば、宇宙の母と宇宙の父は自分達の創造物を決して乳離れさせることは無いということです。この過程を心が理解しない時、心は神秘主義者達がこれまでして来たようにその結果に偏見のラベルを貼ろうとする傾向になります。ここで心が自分が理解しない事柄に対して如何にラベルを貼ろうとするかの例をお示ししましょう。この目的の為、変容の丘におけるイエスの体験を例に用いることが出来ます。この時、イエスの心は意識によって忘我の状態にありました。イエス自らの心の意志を意識の意志の上に捧げた為、聴く者、観察する者となった為です。そしてイエスがこのことを行う時、その顔はイエスの心と意識が以前表現した多くの個人の顔かたちを再現しはじめたのですが、イエスは何が起っているのかを完璧に気付いていました。そしてイエスを見守っていた弟子達はイエスの表情が多くの変化を起こすのを観察し、イエスにイエスがモーゼやその他のように見えたと話しました。彼らに対するイエスの答えは「私の生涯は多くの生命からなっている」でした。別の言葉で言えば、彼はこれら全ての生涯の各段階を生きて来ており、意識がイエスの心のスクリーンにこれらの段階を回想させ、今日に至るまでのイエスの心の生涯を引き寄せ、それを他の者が見たということです。

### 【解説】

著者アダムスキー氏は一説にイエスの弟子ヨハネであったとされていますが、その説にも符号するように、著者は聖書の内容について他に無い側面から詳しく解説しています。本項もその好例です。

有名なイエスの変容の山の一節ですが、その意味するところは実際、イエスが弟子達の目の前で自らの過去生を意識の力を借りて表現したものであり、改めてこの惑星にとってイエスの存在の偉大さを思うとともに、意識の力が見る見る内に顔の細胞の変化を起こすほどの大きさがあることに驚かされる次第です。

この力を取り入れることが出来れば、あらゆることが可能であり、病気治癒などというものは、本来の（健康）状態に戻すことであり、極めて簡単なことであることが分かります。

このように意識の力を用いること、その力の経路になるほど、私達は意識に頼ることとなり、各自の誕生の目的を達成する方向に近づく一方、本項冒頭にありますように、益々意識に依存することになるという訳です。

お知らせ [2013-10-28]

都合により、明日の更新はお休みします。

竹島 正

426 This is no different than if you were to go back to the day of your birth, entrancing your mind or interesting it with your growth to the present day. Your consciousness would bring to mind the various stages of your development and experiences through which you have gone. And with this would come the many changes of facial expressions. And this is what happened to Jesus at that time for he was having the experience of realization while the disciples were just observing.

426 これは貴方が自分の今日までの成長に対して自分の心を忘我にするか、関心を持たせることによって自分の誕生の日に戻る場合と違いはありません。貴方の意識は様々な貴方の発達段階や貴方が乗り越えた体験類を心にもたらずでしょう。そしてこれと共に多くの表情の変化が生じるのです。そしてこのことがその時、イエスに起りました。彼は弟子達がただ見守る間、その具現化体験をしていたのです。

### 【解説】

前項と同様のことは各自でも出来ると、本項では説かれています。私達がこれまで辿った体験や進歩の道程を自らの心を深く意識と一体化させ、その歩みに同調させる時、意識は過去の体験を蘇らせ、その過程で実際の顔つきも変わると教えています。

おそらくはこの種の回顧は、死を迎える際に誰もが行うべき内容かも知れません。私達は一度は自らの歩みを、川の流れのように辿る必要があるのかと思っています。

自分の体験を生かすことについても、心は意識の力を借りる必要があることも注意すべきところでしょう。過去の記憶そのものが意識に蓄えられる一方、私達の心はせつなに生きており、過去を思い出すにも意識に頼る必要があるという訳です。

また更に大事なことは、少しでも進歩の足跡が見られれば、その方向の歩みを続ければ良いということです。

427 This is the only true entrancement that there is - a Cosmic principle where the mind and consciousness work together. All other phases of so-called entrancement are either illusions, wishful thinking or self hypnotism, especially when your mind is impressed with guides or highly developed souls. Beware when you get a feeling of a so-called guide for there is only one that you can trust and that is consciousness - the other half of yourself.

427 これが唯一存在する真の忘我であり、それは心と意識が共に働く宇宙原理なのです。その他の忘我と呼ばれる側面は、幻覚であったり、願望の想念や自己催眠であるかのいずれかに過ぎません。特に貴方の心が指導霊や高度に発達した霊と出会ったような印象を受けた時はそうです。貴方がいわゆる指導霊のような感じを持った時は気を付けなさい。何故なら貴方が信じられるものは一つしかなく、それは意識、即ち貴方の半身であるからです。

### 【解説】

結局、重要な点は自分の心と自らの意識が一体となって働くことであり、何か他の存在と一体化するような類のものは偽物であるし、避けなければならないと本項は説いています。

言い換えれば「自分でない」他の存在と受け止められるような、いわゆる守護霊のような他の存在については、それらは単なる願望か幻覚であり、あくまで「自身の」中の存在が本物であるということです。

いずれにしても私達は各自、この自分の半身とも言える頼れる存在とともに各々の人生を旅することになります。「同行二人」の真の意味は、この辺りにも表されているように思われます。

428 That is why the Holy Writ says have no false gods before Me. For every form whether it be man or anything else has gone through many experiences and many changes. If we accept life eternal there is just as much eternity in the past as we look forth to in the future. That is why Jesus said, If I was of this world I would fight for it but I am not of this world. If he came to this world is it not logical that we all have come from someplace else? For He made it plain that in the Father's House are many Mansions. But the human mind as an effect cannot know this unless it submits itself to consciousness which is the keeper of the records. And when it does the revelations come.

428 それが聖典が、わたくしをおいて偽りの神があってはならない（訳注：365参照）、と言う理由です。何故なら、あらゆる形有るものはそれが人であれ、何であれ、多くの体験を経ており、多くの変化を遂げて来ているからです。もし、私達が生命を永遠なるものであることを受け入れるなら、私達が未来の中へ前方を見るのと同様に過去にも多くの永遠があることとなります。それがイエスが、もし私がこの世界の者であれがその為に戦うでしょうが、私はこの世界の者ではないのです、と言った理由です。もし、イエスがこの世界に来たとするなら、私達全員もどこからか来たこととするのは論理的ではないでしょうか。イエスはこれを父の家には多くの館があると平易に説明しました。しかし、結果である人間の心はそれら記憶の保持者である意識に自身を委ねない限り、これを知ることは出来ません。そしてそれが行われる時、啓示がやって来るのです。

#### 【解説】

自らの拠り所、信頼を寄せる唯一の対象は意識でなければならず、その他のものは偽物であるということです。

私達自身も過去生も含めて様々な体験を積んでおり、変化し続けている訳で、それらの経験を活かすことが出来れば、今後の進歩にもつなげられる筈です。しかし、私達の感覚心はそのような記憶力がなく、それらの記憶は意識に頼る他ありません。

また、各自の人生の遡りは、地球以外にも及ぶ訳で、その地で自分が見た光景だけでも思い起こせば随分と視野も広がるものと思われまます。

いずれにしても、記憶は各自の意識の中に所蔵されており、意識に自らを委ねてその扉を開ける時、各自に啓示が来るのだと説かれています。

429 This does not include visions and travel only but also what we call telepathy. So you may not only get revelations in the form of visions but the impression of thoughts and what they represent. And remember we have not always been noble characters so some scenes and impressions may not be too pleasant to our present understanding yet they were a part of our development, a part of our life. So they should be accepted as a part of history and not rejected for they are you. How often have we said if I had my life to live over I would do things differently. We grow towards nobility by improving upon our past deeds.

429 この啓示とはイメージや旅行ばかりでなく、私達がテレパシーと呼ぶものも含まれます。ですから貴方はイメージという形式のみでなく、想念やそれらが何を象徴しているかをも含めた啓示を得ることでしょう。そして覚えておいて欲しいのは私達はこれまで常には高潔な性格では無かったので、その光景や印象の中には今日の私達の理解にとって余り心地よいばかりのものではないことも有り得ることですが、それらも私達の発達の一部であり、私達の生涯の一部なのです。ですからそれらは履歴の一部として受け入れるべきであり、拒絶すべきではありません。それらは貴方自身であるからです。私達はこれまで何度、もし自分の人生をやり直すことになるなら、物事を違ったやりかたでするだろうと言って来たことでしょう。私達は私達自身の過去の行為に基づき改善することによって高貴な存在に成長するのです。

#### 【解説】

もちろん過去の自分の記憶に向き合うことは、辛い体験や自ら犯したひどい行為等も当然含まれる訳で、必ずしも心地よいものばかりではない筈です。

しかし、このありのままの自分は受け入れなければなりません。逆に言えば現在の私達はその分、進歩して来たと言うことが出来るというものです。

本文で述べられているように、人は死後、新たな人生において各自異なる側面を体験するものだと言われています。様々な経験を積む中で、人はその奥行きを増し、豊かな知性を会得するということではないでしょうか。そういう意味では、各自の気質や知性の背景には、このような過去の人生経験があると言うことも出来るものと思われまます。

これからも永劫続く人生の歩みの中で意識とのつながりを頼りに、バラエティーある体験をせよと、今後も創造主は私達に様々な機会を与えてくれるものと思われまます。

430 In the eleventh lesson we cautioned you not to leave any of your revelations out which were a part of you. The reason for this is very important for life is like a jigsaw puzzle and no part can be left out if you are to have a complete picture. And if you substitute something for the part you do not like the picture will not be as it should be. As we have lived a life of likes and dislikes this tendency will be present and one must overcome this to have a true picture of life. For should you substitute something to replace the things you did not like you would create a mystery and we want truth and reality.

## 生命の科学—学習コース

### 第12課

#### 総括—継続する進歩の報い

ジョージ・アダムスキー著

430 第11課では私達は貴方に貴方自身の一部である貴方の如何なる啓示も追いやることの無いようにと警告しました。この理由は大変重要なことです。何故なら人生とはジグソーパズルのようなもので、完全な絵を得ようとするなら、如何なる部分も追いやることは出来ないからです。そしてもし貴方が自分が好まない部分を何か他のもので置き換えてしまったら、最終的な絵は本来あるべきものにはならないでしょう。私達は好き嫌いの人生を生きて来ましたので、この傾向が出るでしょうし、人は人生の真の全体像を得る為にこれを克服しなければなりません。何故ならもし貴方が好きで無い物事を何かで置き換えてしまうなら、貴方は一つの神秘を造り出すことになりませんが、私達は真実と現実を求めているのです。

#### 【解説】

「生命の科学」講座のまとめの章として、本課はこれまで説かれていた内容を振り返り、改めてその要旨を整理しています。

その冒頭に記されているのは、前課（第11課）で説かれていた啓示の取扱いについて再度、注意を与えています。つまりは私達が進化を遂げ始めると、意識から来る様々な印象、或は過去の記憶が蘇る訳です。その際、私達の過去の存在レベルから言っても多くは心地よい体験ではないかも知れません。しかし、その時、それから逃げたり、他の関心事に置き換えることをしてはならないと説かれています。

つまり、ありのままを受け入れ、好き嫌いの判断をすることなく、そのものを受け入れよと説いている訳です。それは、こうした内容も含めて自分が成り立っているということでしょう。

このことは私達の感性が鋭敏になる際に必ず通る道であり、その時、嫌悪したり目をそむけたりせず、ありのままを受け入れ、更に先を目指すことだと説かれています。

431 Always remember that the things that we call good, bad, or indifferent are only a misapplication of the law through the lack of understanding. Also all of this took place within the Cosmic Kingdom and not outside of it. Compare yourself to the child within the home who makes mistakes, but through them he learns the right way of doing things. If life is to be understood all of its phases must be faced.

431 常に覚えておいて欲しいのは、私達が良い、悪い、或いは良くも悪くもないと呼んでいる物事は理解の不足から来る法則の誤用でしかないことです。また、これら全てが大宇宙王国の中で起っており、その外で起っているのではないことについてもです。貴方自身を家庭の中の過ちを犯す子供にたとえなさい。子供はその過ちを通じて物事の正しいやりかたを学ぶものです。生命というものを理解しようとするなら、その側面の全てを正視する必要があります。

### 【解説】

私達が普段、「良かった」とか「悪かった」としていること自体、宇宙の法則から外れていることだと説かれています。全ては宇宙の王国の中にある訳で、そこには良し悪しというような判断基準は有り得ないということでしょう。

私達はとかく自らが心地よい結果に終わるものを「良し」とし、不快に思ったり、悲しく思うものを忌み嫌うものです。もちろん地震や台風の被害等、各自の人生に大きく影響し、命まで落とすほどの災害も起こる訳ですが、それさえも宇宙の流れの中のひとコマと受け入れる必要があると説かれているものと思われます。

宇宙という膨大な家の中で、一つ一つ体験を積みながら成長して行く子供に私達はたとえられている所ですが、それは同時に、その子供を両親が暖かく見守っていることをも示唆していることに私達は気付く必要があります。

432 As stated earlier in the course you have a right to make analysis for the purpose of understanding, but not with criticism or belittling. This phase seems so close to the line of analysis that sometimes what we say is taken for criticism or judgment. But your motive is your guard against making this mistake. If your motive is noble with the purpose of understanding you need not worry what the other person may say. And if you make a mistake in analysis acknowledge it. This will prove that your purpose was noble.

432 本講座の初期に述べたように、貴方は批判やけなす態度でなく、理解する目的の為に分析する権利を持っています。この側面は私達が批判や判定と見なされる状況と時として大変近い延長上にあるように見えてしまいます。しかし、貴方の動機はこの過ちを犯すことに対する守り手になります。もし貴方の動機が理解する目的という高貴なものであるなら、他人がどのように言おうとも心配する必要はありません。また、貴方が過ちを犯したならば、それを認めることです。これにより貴方の目的が高貴なものであることが証明されることでしょう。

### 【解説】

実はよく言われることの一つに、アダムスキー哲学やUFOを探求する人の多くが自分以外の人々の生き方や暮らしを批判し、自分達だけが他人の知らない知識を持っていると考えているのではないかということがあります。

確かに、本講座を含め、私達が学ぼうとしている内容は、過去の地球のあらゆる思想・哲学・宗教の根本原理に根ざしたかつてない内容であり、同様に他惑星の文明についても多くの人々が知らされていない知見を得ています。

しかし、各々の人生の状況から、これらの知識を現段階で受け入れられないからと言って、その者の生き方を批判することは誤りであると本項は説いています。重要な点は「分析」にあり、理解することです。もちろん、誤った解釈は直ちに誤りを認めることです。こうして状況を理解し、ある面では共感することも大事なことです。

このような事柄は、実は相手にアドバイスを提案し、少しでも本来の生き方を示唆するよう私達に期待しているからこそ、説かれているように思われます。相手とコミュニケーションしながら、現実を分析して見せ、さり気なく本来の道を示すことを著者は私達に望んでいるという訳です。

433 After centuries of living as society has, habits have become the masters of men's minds. And this has been strengthened by each generation. So, as said before, it is not easy to get rid of them. But we must keep diligently at the task and replace old habits with new knowledge. This is the way to find and know the other half of yourself.

433 この社会が続けた何世紀もの生活の結果、諸習慣は人の心の主人になってしまいました。そしてこのことは世代を経るごとに強化されています。ですから以前に申し上げたように、それらを取り除くことは容易ではありません。しかし、私達はその仕事に精を出し、古い習慣を新しい知識に置き換えなければならないのです。これは貴方自身のもうひとつの半身を見つけ、知る方法なのです。

#### 【解説】

よく聞くアダムスキー氏の言葉に「習慣の奴隷」という表現があります。私達の地球での生き方を忠告している言葉ですが、私達の長年の生活パターンの結果、想念の持ち方、心の姿勢も習慣的パターンを繰り返しながら、時間を過ごしてしまっているという訳です。

しかしその結果は、長年月、肉体細胞の生命活動が不要なストレスや有害物質にさらされる為、老化の急速な進行等が起こり、最後は心自体も衰え、終末を迎えることとなります。

この問題を解決するには、常に自らが造り上げてしまった習慣を打ち破り、新しい心境、新たな発見を求めて自然を探求することです。絶えず学ぶ姿勢、意識からの印象をキャッチしようと探究心を維持し、心を鎮める中で、日常の仕事に当ることにより、少しずつ習慣の殻を脱ぎ捨てる事が出来るものと思われます。

同乗記には、他惑星の人々は実に多くの旅行をすると記されています。私自身、最近はお出張がちな生活が多くなりましたが、旅行先で、日常とは異なる様々な経験や人との出会い、自然環境等々、旅行には心に新鮮さを取り戻す大きな効果があるように思われます。

434 The first lesson dealt with the analysis of life and the awareness of cause and the importance of being aware of cause and effects at the same time. So continue to increase your awareness whether by mental observation or conscious impressions.

434 最初の課では生命の分析や因を知覚すること、更には因と諸結果を同時に気付くことの重要性について取扱いました。ですから、心による観察によってであれ、意識の印象によってであれ、貴方の知覚力を引き続き増強させることが必要です。

### 【解説】

第1課の要点です。

第1課では原因と結果についての観察・洞察が大事であることを学びました。本項ではその短い言葉の中に、絶えず現実世界で起こっていることに関心を持ち、同時にその背後にある要因や意識の作用や働きについて気付くよう努力することが重要であると説かれています。

やはり最もいけないことは、無関心で過ごすことであり、無視することでしょう。自分のことしか関心を持たなければ、こうした知覚力は薄れて行くことは必然です。

私達はこの講座の第1課として、自らの知覚力を整え、意識に遡る感受性を高めることを、先ず最初の課題にすべきなのです。またその為には、心の関与を可能な限り制限して、文字通り「無心」の状態下で自分の内面から湧き起こる意識からの印象に耳を傾け受け入れることが必要で、現実社会を暖かく見守り、その発展を願う姿勢が望まれる所です。

435 In lesson two we explained the mind and its component parts. So see to it that your mind is not purely occupied with outside perceptions. And demand that your mind takes equal interest in being aware of the component parts of your body and its purpose. Ever aware of the marvel of its working and that of all other forms.

435 第2課では私達は心とその構成要素群について説明しました。ですから貴方の心が外部の知覚によって純粹に占められているのではないことに気を付けることです。そして貴方の心に貴方の肉体と構成要素群とその目的について等しく感心を持つことを要求することです。常にその肉体や他の全ての形有るものの驚くべき働きについて気付かなければなりません。

### 【解説】

第2課のまとめです。

この一連の生命の科学の学習を通じて、私達は心が各感覚要素から成り立っていると学んで来ましたが、単純にそれら外部の知覚だけで心が成り立っている訳ではありません。その知覚情報を受け取った後に、自ら判断する自我（エゴ）が存在するという訳です。

この種の取扱いで難しいのは、とりあえずは自らの自我（エゴ）が正しく状況を認識し、必要な是正を行わなければ何事も始まらないことです。まずは自分自身に対して最も身近な存在である自身の身体の働きや自我と係り無く肉体や自身の精神活動を支える為、休み無く働いている肉体細胞の生命活動に気付けと求めています。

こうする過程を通じて、私達は次第に因の領域にまで知覚の範囲を拡げることが出来るということになります。

436 The third lesson was on the application of Cosmic Law. Be sure that you apply this law in your daily life at least to some degree until it becomes the master of your life. See this law in operation in every form, for it motivates all forms.

436 第3課は宇宙的法則の応用についてでした。その宇宙的法則が貴方の生活の支配者になるまでは、貴方が自分の日常生活において少なくともある程度はこの法則を貴方が応用しているということを確認していなければなりません。この法則があらゆる形有るものの中で働いているのを見ることです。何故ならそれは全ての形有るものを突き動かしているからです。

#### 【解説】

宇宙の法則についての私達概念は貧弱です。しかし、私達自身も少なからずその法則を日常的に応用しており、それをマスターするまで、長い時間をかけて進めていくということでしょう。

「法則」については、宇宙あらゆる場所、時間を越えて成立するものであることは確かなことであり、物理学の法則をはじめとして、宇宙空間全域に常に作用しているものと言えます。その宇宙的法則は既に私達の細胞レベルではよく熟知され必要な生命活動に応用されているのですが、肝心の私達の精神活動には心の理解力や知覚力が未熟の為、十分に学ぶことが出来ないでいます。

しかし、手本は最も身近な存在である自身の肉体の生命活動の中に見ることが出来る訳で、私達はまず自身の観察から始めることが出来ます。「汝自身を知れ」という言葉の中には全ての内容は自身の心の課題も含めて、自分自身の探求が重要だということが説かれているように思われます。

437 In lesson four the relationship of all creation was explained from the smallest to the greatest manifestation that one can conceive. See it all interrelated with no divisions, each dependent upon the other.

437 第4課では全ての創造物の関連性が人が知覚出来る最小の創造物から最大の創造物に至るまで説明されました。全てが区切り無く相互に関連しており、各々が他に依存していることを見なければなりません。

### 【解説】

第4課では、宇宙空間のガス状物質があらゆる創造物を造る源であり、そのものは過去から未来永劫、変わらずに創造活動を続けるものだと教えられました。その結果物としての私達の肉体をはじめとするものは、いつか再びその原始の形態に変わるでしょうが、その源は変わることはありません。

同時に私達の経験が各細胞のDNA等に記憶されるのと同様に、各分子原子にも知性があり、記憶を運ぶとすれば、私達は実に多くの経験や知見を既に有していることになります。

こうした意味において、宇宙に存在するものは、互いに文字通り、血肉を分けた兄弟であり、互いの経験を同じくしていることとなります。自らの兄弟としてあらゆるものを受け入れることの大切さは、こうした相互の関連性の理解に根ざしたもののなのです。

438 In lesson five we explained that the intelligence and power of all life comes through consciousness. And also how the Creator is manifesting Himself through all form life.

438 第5課では私達は意識を通じてもたらされる全生命の知性とパワーについて説明しました。またどのようにして創造主が全ての形あるものの生命を通してご自身を現されるのかについても述べたところで

### 【解説】

第5課の中で著者は、私達は三次元である物質世界に生きてると同時に、四次元世界に依存し、その中にも生きてると説いています（第187項）。その四次元世界こそ、意識のことを指している訳です。

世の中には、この種の真理を説く多くのサイトがありますが、皆一見して同様な内容を説きますが、必ずしも全て正しい目的地に導くものではないように懸念しています。本講座の大切なところは、これが他惑星文明から贈られた教材とも言えるものである点にあります。いわば学習過程の生徒が自分で考えながら作成したノートのようなものではなく、全てを知る教師が生徒の為に編み出した教材という訳です。そういう意味では、神秘的な要素は極力取り除いて新たな気持ちでこの「四次元」という表現を受け止めるべきかと思っています。

さて、私達が掴まなければならない意識についてですが、何故著者が「意識」という表現を用いたかについても考える必要がありそうです。目に見えない宇宙に遍満する生命力はこれまで私達が用いて来た「意識」というイメージに最も近い存在であることも背景にある筈です。そういう観点から、私達は自分の意識をこの宇宙の意識に合致させるよう、常に躍動する宇宙の生命力を感じ取り、それに従うよう、自分を訓練し、時間や空間を超越したその存在について学ぶ必要がある訳です。

439 Lesson six was on newness. In order to rejuvenate the body one must rejuvenate the mind first. And this is done when the mind is interested in all new things which is progress.

439 第6課は新しさについてでした。肉体を若返らせる為には、人は先ず心を若返らせねばなりません。そしてこれは心が全ての新しい物事に関心を持つ時に起りますし、それが進歩である訳です。

### 【解説】

他惑星人は年をとらないとは、よく聞く話です。毎日新鮮な気持ちで絶えず新しいことに取り組むこと、探求の道を歩むことが、より健康で快活、明朗な人物を造り上げることになるものと思われます。そこには私達の心のように、本来の宇宙に流れる生命の躍動力を妨げるものがなくなっており、老化ということも起こらないものと思われます。

毎日、毎時間を有意義に過ごすことが、肉体細胞を本来の活発な状態に維持するものと思われます。

それに対して、私達はこれまでの怠惰な性格から抜け出ない為、とかく習慣に流され、新しさを失い、そのことが肉体の老化に直結しています。

従って、老化を防ぐには、まず絶えず新しい側面に関心を持ち、自らの心のしりごみを打破して新しい体験を進んで取り入れることでしょう。これから多くの国が高齢社会に進む訳ですが、いくつになっても健康で活躍できる人々が増えなければなりません。年齢を重ねるにつれ、良くも悪くも長年の蓄積が表に現れるものです。どうか日々の学習の成果が各自の生活に目に見えて現れますよう、心より祈るものです。

440 Lesson seven was on Cosmic memory and the importance of memory in order to benefit from past experiences. The mind is not a good retainer of memory unless it blends with the consciousness where memory is eternal.

440 第7課は宇宙的記憶と過去の体験から恩恵を受ける為の記憶の重要性についてでした。心は記憶が永続する意識と融合しない限り、記憶の良い保持者にはなれないのです。

### 【解説】

記憶というものが如何に大切かは第7課で学んだ通りです。人間形成の上からその人が体験し身につけた知識をもし失うことになれば、人生そのものが無駄になってしまいます。

しかし私達の心は単独では記憶を長期間保持することは出来ない訳で、記憶の源は意識が保持していると説かれていました。意識の中に記憶がある訳で、私達は意識と交流できれば、膨大な宇宙の記憶ともアクセスすることが出来、無尽蔵の知識が得られるものと思われれます。

言い換えれば、その際必要な知見や情報は心が知らなくても意識が必要に応じて提供して呉れるという訳です。ですから意識を信頼し、そこから与えられる印象に鋭敏になることが出来れば心が何ら知識を持たない分野でも、不安なく進んで行けることとなります。

441 Lesson eight is on Cosmic Oneness and how when one may feel separate from another or other forms the feeling comes through lack of knowledge. As Jesus has said, "if you hurt any one of these you have hurt Me." There is no division or separation in the Allness. And if we let the consciousness which is the creator of all forms replace the domination of the mind the feeling of loneliness and separation will vanish. And these feelings will be replaced by the closeness of the Creator or our own Cosmic counterpart.

441 第8課は宇宙的一体性についてであり、人が他人あるいは他の形有るものから分離していると感じる時、その感じは知識の不足から如何にもたらされるかを示しました。イエスが「もし、貴方がこれらの者達のいずれかを傷つけるなら、貴方は私を傷つけたのだ」と言ったようにです。全体性の中にあっては分裂や分離は無いのです。そしてもし私達があらゆる形有るものの創造主である意識を心の支配に置き換えるならば、孤独感や分離感は消え去るでしょう。そしてこれらの感じは創造主あるいは私達自身の宇宙的片割れとの親近感に置き換えられることとなります。

### 【解説】

本項で紹介されたイエスの言葉は、本来、一体感とは宇宙のあらゆるものと自分が繋がっており、自分の身体のように感じる程のレベルまで連動しているものだと私達に説いています。

その理由については第8課で記されている通り、各々を構成する分子・原子レベルにおいて意識が行き渡り、記憶や知性が備わっていることによります。

従って、私達の意識を拡大させ、自分の身体以外の対象とも一体感を持てるように融和的な心境を保つことが出来れば、自ずと宇宙本源から多くの印象がもたらされ、物事の解決策を得ることが出来るように思います。

ご連絡 [2013-11-20]

都合により、次回の更新は週明け、月曜日になる見込みです。

竹島 正

442 Lesson nine is on Cosmic and carnal cell activity. This is like any thing that we construct by using nature's materials to make things suitable for man's use. Through habits of the mind we create carnal cells. For the mind like the Son has the potentials of the Father. When the mind does not give credit to the Father it assumes that it operates on its own. And this brings a separation between the Cosmic Creator and the mental creator through the mis-use of the Cosmic Law. This is why the Father and the Son must work as one. As Jesus said,  $\gamma$  I and the Father are One. I the mind and consciousness are one. Or I of myself do nothing but the Father that worketh through me does all of the work.  $\xi$  Meaning, I the mind do nothing but the consciousness through the mind does it all. For a mind without consciousness is dead.

442 第9課は宇宙的細胞と肉欲的細胞の活動についてです。これは人間の使用に適するように自然の材料を用いて物を私達が作るのに似ています。心の習慣を通じて、私達は肉欲的な細胞を造り上げているのです。何故なら、心は父の潜在力を持つ息子のようなものであるからです。心が父の功績を認めない間は、心は心自身によってそれが動かされていると誤ってしまいます。そして、このことが宇宙の法則の誤用による宇宙の創造主と心による創造者との間に分離を生じさせるのです。これが父と息子が一つになって働かなければならない理由です。イエスが言ったように「私と父は一つ。心である私と意識は一つになっています。あるいは私自身である私は何も行っておらず、私を通して働く父が行っているのです。」つまり、心である私は何も行っておらず、心を通じて意識が全てを行っています。意識無しには心は死んでしまうからです。

#### 【解説】

私達の身体の内、基本的な部分は私達の心の支配の及ばない細胞群で構成されていますが、一方で心に隷属する細胞も心が作り出しているということです。このような細胞が肉体を支配するようになると私達は習慣に隷属し進化の道を外れて行くこととなります。

薬物中毒、アルコール依存症などはこれら心が作り出してしまった細胞群が深く関与しているものと考えます。こうした細胞は他の身体細胞に紛れて全身に分布しているとすれば、物理的な手法で取り除くことは困難であり、心自体の改善こそ目指すべきことです。

本講座で著者が繰り返し述べている内容の一つに心の限界と問題点があります。実際、心は知見を文字に記載し、記録、活用するという方策をとりますが、一方、意識は宇宙を貫く膨大な印象類を保持し、受け入れる者に惜しみなく供給し、その活用を促しています。私達は、自らの心も含めてこれら意識の息子であることを自覚し、他の生きものと同様、印象に従い創造主が望まれている人生を歩みたいと思うものです。

443 Lesson ten is on Cosmic Traveling. Jesus said that wherever a man's heart is there he is also. It means that man is wherever he is consciously aware of being.

443 第10課は宇宙旅行です。イエスは人の心がある所には、その者も居ると述べていました。それはまた、人は意識的にどこに居ようともそこに居ることを知覚することを意味します。

### 【解説】

私達が最も未発達な部分がこの分野と思われれます。また同時に、この分野での人々の言動が多くの誤解を生んでいることも確かです。意識を拡大させ、自由に宇宙空間にまで広がって行くことは、私達に意識との融合することが如何に自身の理解力を増進させるかを示すものです。

海外出張の経験の中でいつも感じるのは、言葉の問題です。この言葉の問題が無ければ、即ち言葉でなく印象で互いに意志を理解することが出来れば、世界中、何処に行っても不便は無い訳で、相手が何を考えているかが分かれば危険もありません。印象を感知出来れば、人間に限らず全ての生きものと理解し合えるということも出来るでしょう。

こうした中であっては、宇宙の何処に行こうと何ら不便は無く、ますます宇宙の探求を楽しむことが出来る筈です。先ずは自分自身で少しずつ肉体の殻から抜け出て、自由な活躍も出来るよう、訓練する必要があるという訳です。

444 Lesson eleven on the exploration of Cosmic Space explains space as consciousness. And how when the mind blends with it it can explore any phase of space. Returning to the statement, where a man's heart is, there he is also, let us analyze the meaning of this. i.e. A person walking into a building can be attracted to one single thing and fail to see the other things in the building. I will use this as an illustration of alertness. Two men enter a tavern for a glass of beer. One is very observant and many things register on his mind such as a large beautiful picture and an attractive lady seated alone at a table. When they have finished their refreshment the two men leave. The observant one commented on the unusual picture and the attractive lady there alone. The other man who had been interested only in the drink had not seen any of these things but his interest was aroused and he suggested that they go back so that he could view them. I use this only to show how two people may travel consciously yet one will see much more than the other.

444 宇宙空間を探検する第11課は意識として宇宙を説明しています。また心が意識と融合する時に心がどのようにして宇宙のあらゆる側面を探検できるかについてもです。人の心がある所、その者もまたそこにあるという声明に戻ってその意味を分析しましょう。即ち、建物の中に歩いて入る人物があるたった一つの事柄に関心を引き付けられていた為、建物の中の他のものを見過ごす場合です。私はこれを警戒状態の例として用いることにします。二人の男が1杯のビールを飲む為、バーに入ります。一人はとても観察力があり、例えば大きな美しい絵があったとか、テーブルに独り魅力的な女性が居たとかという多くの物事がその心に記録されます。二人が一息ついた後、彼らは立ち去ります。観察した男は珍しい絵や一人そこに居た魅力的な女性について話しをしました。一方の男は飲むことしか関心が無く、これらのことのいずれも見えていませんでした。しかし、彼の関心が呼び起こされた為、彼はそれらを見に戻ろうと提案しました。私はこの例を如何に二人の人達が意識的に旅行してもある者はもう一方の者より多くを見るかも知れないことを示す為、用いているのです。

### 【解説】

実は私達を取り巻く空間、宇宙空間は意識そのものであると第11課は説いています。

私達はその意識空間を自由に旅することが出来、事実その初歩段階の行動を時として行っている訳ですが、感受性が鈍い為、多くの有益な知識に気付くことなく終わっているという訳です。

自分自身の意識を身体外部にまで拡大させれば、その周囲の雰囲気や対象物の実態も感知することが出来ます。これまでも宇宙空間に出た宇宙飛行士達が口々に無音、暗黒の宇宙から様々な強い印象を受けたことを地球帰還後に語っており、宇宙空間には地上に比べてより純粋で出力の高い印象が流れていることが分かります。

日常生活において大事なことは、私達は定例的な地上の仕事を済ませる一方、こうした宇宙空間への感受性を同時に高めて置くことです。決して私達は地上の自らの肉体に閉じこもる必要はなく、自らの意識を拡大させ、絶えず宇宙空間に自らの関心を広げて置くことだと考えます。

445 The twelfth lesson is of course the summation of all of the lessons and I hope that all who have taken this course have made it a part of themselves through their sincere effort to understand life. This is but a beginning for each time you restudy the many points given, you will enlarge the development of your Cosmic self. You do not need anything else for you have all of the tools necessary for your continued development.

445 第12課はもちろん、全ての教課のまとめであり、私としてはこのコースを学んだ全員が真面目な努力を通じて、生命を理解しようとするのを自らの一部にして来られたことを願うものです。これはしかし、始まりでしかありません。貴方が再学習する度に多くのポイントが与えられ、貴方は貴方の宇宙的自我の発達を拓けることになるからです。貴方は他に必要なものは一切ありません。貴方は貴方の継続的な発達に必要な道具の全てを持っているからです。

### 【解説】

本項はこの「生命の科学」講座の学び方について重要な助言を私達に与えています。

この種の学習は一度に全てを理解するようなものではありません。人には前世も含めて様々な背景があり、理解の度合いも異なります。

重要なのは、本項で述べられている"restudy (繰り返しの学習)"ということになります。一度読めば身に付くような内容ではなく、一つ一つ自ら理解して行くことが重要であり、いわば生活の一部として、この講座と向き合えと説いている訳です。

それ程に本講座は宇宙の進化した兄弟達によって編み出され、注意深く構成されていると言ってよいでしょう。毎日を考えながら、また自分の感受性や理解力を磨きながら本書の一節ずつを読み返すことが成果を生むと著者は述べています。また、その為に必要な資源、材料は全てご自身の細胞の中に備わっており、外に何かを求める必要は一切無いという点も重要な所です。

446 As things on earth keep on developing it is possible that new knowledge will be coming from time to time from the Space Brothers. So if you choose to be informed you may ask to have your name entered on the list. And also let us know how well you have done with the lessons and what questions you have pertaining to the course. It probably will be impossible to answer your questions individually, but when time permits we will compile a booklet of questions and answers.

446 地球上の物事は発達し続ける為、新しい知識が時々に応じて宇宙兄妹達からもたらされる可能性もあります。ですから、もし貴方がその知らせを受けることを選択する場合は、そのリストに貴方の名前を入れるよう要望されてもよいでしょう。そしてまた、貴方が教課を如何に良く学んだか、また教課に関連してどのような疑問を持ったかについても私達に知らせて欲しいのです。皆様の質問を個別に回答することはおそらく不可能でしょうが、時期が許せば私達は質疑応答の小冊子を編纂することでしょう。

### 【解説】

著者存命中はニュースレターの形で求める人々に時々の最新事情が提供されていました。多くの方がご存知のように日本では日本GAPのニュースレターがそうであった訳です。

しかしながら、今日ではそれら参画していた方々も亡くなり、書物として「生命の科学」が日本においては出版されているに過ぎません。世界でもこの「生命の科学」が一般の書店で購入出来る形で販売されているのは、日本だけだと思われま

す。元来は1課ずつ購入し、学習を行う通信教育の形態であったようですが、私自身、その詳細は知りません。しかし、著者アダムスキー氏はUFO問題と出会う以前からRoyal Order of Tibetその他の名称で、広範囲な実践哲学の啓蒙活動を行ってきた経験があり、本講座もそのような形態をとっているものと思われま

す。そうした中で、多くの生徒諸氏との交流が生まれ、人々の成長に必要な知識をアダムスキー氏は相対で伝授し、助けていたということでしょう。今日では、それらかつての活動は行われていない訳ですが、本講座の価値は変わるものではありません。一人一人が真摯に向き合う中で、自身の中から自ずと答えが湧き上がって来るものだと考えています。互いに学び合うという意味からも、本項のコメント欄に寄稿されることも意義あるものと考えま

447 The Brothers would like to know how many of you have developed sufficiently through this course to organize a group for this study. And in this way you would be helping others, as well as yourself, to understand the self. And by so doing we could have a better world's society.

447 宇宙兄妹達は貴方がたの何人がこの学習コースを通じてこの学習の為のグループを組織するまでに十分発達したかを知りたいと思っています。また、このようにして貴方は自分自身と同時に他人をも助けることになるのです。そしてそのように行動することで、私達はより良い世界社会を得ることが出来るのです。

### 【解説】

結局のところ、私達に期待されている所は、この学習を通じて私達自身が他の多くの人々を組織し、学習の場を形成することにあることが分かります。即ち、一通りの知識と経験を得た後は、今度は他の人々を招き支援する活動を、他惑星の兄弟達が望んでいる訳です。

この意図の中には、道と同じくする者を集め、相互に研鑽すること、体験や知見を分かち合うことによって社会全般への浸透を目指すことがあるでしょう。

私達はもちろん、「サイの角」のように、ただ独りになっても目標とする道を歩む者ですが、一方で、絶えず同行の士を招き入れ、互いに歩む大らかさや優しさも必要です。互いに思う事柄を分かち合うことによって、他人が経験し会得した真理の断片を学ぶことが出来ますし、経験者から有益な助言も得ることが出来ます。グループ学習が本来、重要な意義を持っていることを本項は説明しています。

448 The lessons that you have received have been blessed by the Brothers for each individual's purpose. And they should be honored as an individual gift containing an everlasting avenue of development. For we know that the mind cannot remember all of the phases given and you will have to go back and re-read many things in order for the mind to continue its development.

448 これまで貴方が受け取った講座は各自の目的の為に宇宙兄妹達から祝福されたものです。そしてその講座は永続する進歩の大通りを含んだ個人的な贈り物として敬意を払われるべきものです。私達は心と言うものは与えられた側面の全ては思い出せないことを知っていますので、心はその発達を続ける為には何度となく元に戻って繰り返し読む必要があるでしょう。

### 【解説】

本項はこの講座の発行の目的と意義、更には活用の仕方について明示しています。これまでも繰り返し述べられて来たことですが、本書の中に今後私達が身に付けなければならない全ての要素が含まれており、それらは各人に宇宙兄弟達から贈られた学習書として取り組まなければならない訳です。

言い換えれば、本書以外に必要な資料は無く、本書が説く内容を私達は繰り返し検討し自分で理解、納得することが重要となります。一度に多くの事柄は私達の心は理解することは出来ませんし、忘れ易い特徴を考えれば、少しずつでも繰り返し学習することが重要になります。

そうすることで、私達は知らず知らずの内に少しずつ進歩の道を歩んでいることとなります。多くの方々が再度、この要点を自覚されて、各段落で著者が私達に何を説いているのかを考えながら、読み進まれますことを願うものです。

449 It would be wise for a person to reread at least one page of a lesson a day and live in the awareness of what it contains. And you will be amazed how much more you get than you did at first.

449 1日少なくとも1頁を読み返してそれが含む内容を自覚して過ごすことは賢明なことでしょう。そして貴方は最初に読んだ時より、如何に多くのことを身に付けたかを知って驚くことでしょう。

### 【解説】

私達はこの「生命の科学」を少しずつ内容を精読し、その日1日を内容を考えながら過ごすことだと本項は説いています。毎日僧侶が読経し、一日を始めることと似ています。

自分の生活の中に意識からの印象を受け取り、素直に行動できるよう心を鎮めて日常の仕事に従事する中で、時としてひらめきや悟りの境地が訪れることでしょう。今まで気付かなかった自然の中の美しさや生きもの達の営みについて多くの気付きも生まれ、それ故に人格も形成されて行くものと思われま

す。

そもそもこのような学習を何の為に行うのか、自分にとってどのような意味を持つかを再確認した上で、本講座に向き合う必要もあるでしょう。

450 This series of lessons will be just as good 20 years from now as they are today, for there is no end to their revelations. They can be your guiding posts through the balance of your life. And I do know that most of you want the fullness of life. And I definitely know that you can have it by applying the knowledge within these lessons. Do not be discouraged by a slow progress for a slow progress is a firm growth. I do know that it is not easy at first for many habits have to be changed. But like everything else the finer quality and the most valuable gold is not on the surface. We have to dig for it which is hard work.

450 この一連の講座はこれから20年経っても今日と同様に優れたものであることでしょう。それらがもたらす諸啓示に終わりは無いからです。それらは貴方の生涯のかじ取りにおける案内標に成り得るものです。そして私は貴方がたのほとんどが人生の充実を求めていることは分っています。そして私は貴方がこれらの教課の中に含まれる知識を適用することによりそれを手に入れることができることを確実に知っています。進歩が遅いことでがっかりしないことです。何故ならゆっくりとした進歩はしっかりした成長であるからです。私には最初はそれは容易で無いことは良く分っています。多くの習慣を変えねばならないからです。しかし、他のあらゆるものと同様に、より精緻な性質のものや最も価値のある金は表面にはありません。私達はそれを求めて掘り進めなければならず、その仕事はきつい仕事なのです。

#### 【解説】

本当の意味で人の進化に必要な全ての要点は、本書に漏れなく網羅されており、私達にとって本書は人生を共に歩むに足るだけの豊富な材料を供給してくれるものだと、著者は明言しています。

文字として書かれていることを単に読んだ、或は覚えただけでは理解し身につけたことにはなりません。私達はこれまでの習慣で凝り固まった細胞達を解放し、本来の生命活動を帯びさせるには根気強い取組が必要です。

20年経過しても本来の役割と意義は変わらないと著者が述べている通り、本書の示す内容ははるか先の目標までも視野に入れて記されている訳です。

重要なのは、文字ではありません。その示唆する内容であり、ご自身の体験です。自ら体験することで身に付く知識になる訳で、どんな些細なことでも実践し、その得た結果をその原因となった想念や心境との関連を覚えておくことが重要です。

本講座も時々の拙い私の感想を記している訳ですが、ご覧の皆様も各自、湧き起こるイメージ・心境を書きとめ他の人達と分かち合うことも大切な仕事のように思われます。そういう意味で、本サイトのコメント欄のご活用も歓迎いたします。

451 And so to get the pearl of your being you have to do a lot of digging. This will take courage and determination but it will be a reward of eternal happiness for those who accomplish through perseverance. And I will never dismiss you from my consciousness, nor will the Brothers. We will help you on the road of progress.

451 そして貴方の存在の珠玉を得る為には、貴方は多くを掘り進めなければなりません。これは勇気と決心を必要とするでしょうが、それは忍耐を通して達成する者達に永遠の幸せという報酬となることでしょう。また、私は決して私の意識から貴方を見捨てることはありませんし、宇宙兄妹達もそうすることはありません。私達は貴方を進歩の道筋の上で助けることでしょう。

### 【解説】

本項はこの「生命の科学」学習講座が他惑星文明によってもたらされた地球人への教本であることを明示しています。即ち、イエスをはじめ過去、他惑星から地上に訪れた多くの指導者の教えと同様、同質の内容を教本として編纂されたものだと言ってもよいでしょう。

また更に重要な点は、こうして学ぼうとする者に対して、著者も他惑星の兄弟達も必ず支援すると明かしていることです。アダムスキー氏亡き後も宇宙兄弟達の活動は継続しています。私達各自が問題に当たった時、優しく諭してくれる存在も出現することでしょう。私達は私達にこの教科を授けてくれた人達との交流を願うものです。

世情としては、様々な出来事や争い、主張が地球を覆い尽くすかのように広がっていますが、こうした中にあっても自らを探求し、真の生きる目的を掴もうとする努力に勝るものはありません。

452 May the heart and the consciousness of the Creator manifest in your consciousness. May you walk and talk with Cosmic intelligence. Blessed are those who cannot see or hear mentally yet believe, for of such is the Cosmos. For what the physical sight does not see is the power and intelligence by which we do see and hear.

452 創造主の御心と意識が貴方の意識の中に現れ出ますように。貴方が宇宙の知性と共に歩まれ、語られますように。心で見聞き出来なくても、信じる事が出来る者達は恵みを受けています。何故なら宇宙はそのようなものであるからです。肉眼が見えないとしているものとは私達が現に見聞きする元になっているパワーと知性であるからです。

### 【解説】

本項の「心で見聞き出来なくても信じる事が出来る者達は、……」は、イエスの言葉そのものです。即ち、当時、イエスはこのことを人々に伝えていた訳で、本文の語る意味は大きいものがあります。

私達は、これまでの心による支配から脱出して、心が今まで知覚して来なかった意識の作用、目に見えない宇宙の鼓動を感じ取るよう自らを鎮め、印象に心を開く努力をしなければなりません。そうする中で、自らの行動をそれら印象を表現するものに変貌させ、自らが宇宙からの印象の発現の道、表現の経路とすべきなのです。

それには相当の忍耐と努力が必要ですが、それらを会得しない限り、先には進めません。自らの行動が創造主の意図したものになることが出来れば、人生の目的は達成されたこととなります。

453 So believe in your consciousness as you have in your mind and soon you will walk as one with your cosmic self from which you have been separated all of this time. The cup of the true essence of life is now before you. Drink of it daily and you shall never thirst.

453 ですから貴方は貴方の心に対して来たように、意識を信じることです。そうすれば直ぐにも貴方は自分がこの間ずっと切り離されてきた貴方自身の宇宙的自己と一緒に歩むことになるでしょう。生命の真の真髄の茶碗は貴方の目の前に置かれています。それを毎日飲むことです。そうすれば貴方は決して渇くことはないでしょう。

#### 【解説】

私達の内なる意識に気付き、それを受け入れることが如何に大事なことを、本項は伝えています。私達はこれまで表層的な現象に左右される心に隷属して来た為、長らく忘れられていた意識を各自再発見する必要があります。

毎日を意識とともに歩めば、他に望むものはありません。以後は全ての知識は無尽蔵に意識から授けられることになるからです。私達自身、その正体は何であったかをも知ることが出来る筈です。

この「渇くことのない」生命力の源泉は、遠くイエスの時代にも説かれていた内容でもあり、私達がこれまで様々な人生を通じて求めてきたものでもある訳です。

454 For Cosmic Consciousness is as a fountain that sends its stream upward and then divides into myriads of tiny droplets that fall in all directions and again unite with the body of water in the pool. Thus the knowledge that is embraced within its bosom is ever present to be tapped and used once man unifies his being. And life in its entirety is viewed from the pinnacle of ever increasing understanding.

454 何故なら宇宙意識は水流を上を吹き上げる噴水のようなもので、それは次には無数の小さな水滴に分かれ、あらゆる方向に落ちますが、再び池の水本体と融合します。このようにその奥に包含される知識は、人がその存在を統合するやいつでも取り出され、用いられる為に常に存在しているのです。そして永遠の中における生命の姿は常に増大する理解という尖塔から眺められます。

### 【解説】

陽光の空に吹き上がる噴水の一滴が私達なのかも知れません。噴出した時は生命力に満ち溢れ、新鮮なのですが、やがて時間が経過すると水滴はやがて落下し、大気を吸収するように、次第に汚れにも染まり、遂には元の泉の水面に戻ります。

この一瞬の水滴の旅が私達一人一人の人生であるかのようです。

何ら、その生存の意義に気付かず、一生を終える水滴もあるでしょうが、少なくとも私達は水滴一つ一つが水本来の美しさを保持しており、日の光を美しく反射し、あたりに光輝く宝石と見紛うばかりの美しさを表現できることを知っています。

短い一生ではあっても、その中で与えられた才能、天分を表現し、周囲を照らすことは出来るものと考えます。まずは水滴の一粒を見て、各自の才能、更には水そのものの価値や潜む英知について自ら学ぼうとする意欲が必要です。

455 And man can partake of the joy of the bird in flight. And have a deep appreciation for the intricate delicacy of each thing that grows and blossoms. And marvel at the orderliness of the Cosmos. And as he does he becomes humble and grateful to be a part of so perfect a plan.

455 そして人は飛ぶ鳥の喜びを共にすることが出来ます。また成長し花を咲かせる各々の生き物の入り組んだ優美さに対して深い感謝を持ちます。そして宇宙の秩序に驚嘆するのです。またその者はそうする中で、自分がある一つの完全なる計画の一部であることに対して、謙虚になり、また感謝するようになるのです。

### 【解説】

最近では鳥の写真撮影を趣味としている関係で、野外で鳥を探す機会も多いのですが、自由に大空を飛ぶ鳥達は、私達の憧れでもあります。また、職場の高層階のビルの窓からは、都会に生きるカラス達が目の前に広がるビルの空間を横でガラス越しに見る私を尻目に、自由な飛行を楽しんでいます。

このように宇宙を自在に動き回る鳥達ですが、私達も一度（ひとたび）意識と融合すれば、肉体の置かれた場所に留まることなく、自在に宇宙空間に自らの意識を伸ばし、その快適さを享受出来るという訳です。

また、同時に生きとし生けるもの達の躍動を感じる事が出来ることから、私達自身の身体の細胞の活動状況も含めて、あらゆる生命活動を感じ取る事が出来るものと思われれます。こうした中で、私達はこの宇宙が整然と組み立てられ、私達はその中の一員であることを自覚するのです。

456 When cosmic conscious awareness is achieved life is understood and all effects looked upon as an expression of Cause Consciousness. So work patiently and diligently and you shall indeed know yourself and all life as a whole. A realization of the beauty of the interrelated cosmic picture as each experience falls into place as a part of your life.

456 宇宙意識への気付きが達成されると生命が理解され、全ての結果が因の意識の表現として見られるようになります。ですから、忍耐強く、こつこつ努力することです。そうすれば貴方は本当にご自身を知り、一つの統一体として全生命を知ることになります。それは一つ一つの体験が貴方の生涯の一部として収まる、相互に関連付けられた宇宙的絵画の美しさの悟りです。

### 【解説】

この同じ地球上に立っていても、他惑星人がどのような視点や心境で、世の中を見ているか、本項は丁寧に説明しています。

とかく私達は結果の世界だけを見ているですが、他惑星の兄弟達には様々な事象をもたらしている原因も合わせて見えている訳です。互いの関係、各現象のつながりについて、あたかも高い場所から下界を観察するように、客観的に物が見えるのかと思われます。

宇宙の意識が多少なりとも理解することが出来れば、自然の中の美しさに鋭敏になり、同時にその真の価値についても自覚することになります。身の回りに全てが限りなく輝くような美しさに埋もれていることを知るようになることでしょう。

全ては創造主の意思の下に、本来の生き方を生きている姿を見ることが出来れば、私達の日常は一変するものと思われます。この世の苦しみはこうして解消されるものと思うものです。

Summation ;

457 From the different reports that I have received some of the students have virtually performed miracles through the use of conscious perception.

総括

457 私が受け取った種々の報告からすると、学習者の何人かは意識の知覚を応用することによって事実上、奇跡に近いことを成し遂げています。

### 【解説】

この講座を学び実践することでどのような効果が出ているか、著者が明かしています。UFOの目撃例の追求や過去の歴史の探求だけではUFO飛来の目的は達成出来ていません。

私達は目先の科学技術の追求よりも自分自身の精神面の探求や課題の克服について先ず取組みを求められています。そもそもUFO飛来の目的はそこにあり、かつての偉大な魂の来訪に加えて、防空システムの危険を冒して大気圏内に他惑星の宇宙船が飛来するには、それだけの覚悟と理由があるというものです。

その結果、当時、他惑星人達が地球に残した学習書が本講座である訳で、本気になって学んで行けば、効果が現れるのは当然とも言えます。

しかし、目先の結果が出ないと言って、落胆する必要はありません。私達は長い苦難の人生を経ており、それらの負債を今回の学習で償わない限り、目に見える効果は出る筈もありません。しかし、そうする内にも、いつかは効果は目の前の現実として明らかになり、進歩の成果が表れるものと思われま

458 There is one thing that we must remember, consciousness always was, is, and ever will be expressing through created forms whether of this earth or other planets. For in consciousness ideas are born, myriads of them.

458 私達が覚えておかなければならないことが一つあります。意識はこれまでも、現在も、またこれからもずっとこの地球であれ、他の惑星であれ、創造された形有るものを通じて現れ続けるということですから。何故なら、意識の中には、アイデアが無数に生まれるからです。

### 【解説】

今朝の通勤途上の電車の中で座席に座る幼児とその母親が目にとまりました。その姿は何か私の遠い昔の姿、今となれば半世紀以上も前の状況と似ているような気がしたものです。

あれから長い年月を生きて来られ、今日に至っている訳ですが、思えば様々な出来事や人生の分岐点をくぐりぬげ、何とかここまで来た感じが湧いて来ました。

この間、私を見守ってくれたのは、両親をはじめ多くの方々がありましたが、何よりその進路を導いてくれたのは、本項で言う意識であることは間違いありません。人間の一生を通じてその者に日々、生きる為の助言を行い、必要な環境を整えてくれたのはこの意識なのです。またそういう方策が用意されていなかったら、心単独で人生を生きて行くしかなく、厳しい地球社会ではまともに生き抜くことは困難であったろうと思われます。

一人一人が一日も早くこの目に見えない意識の価値に気付き、その支援を享受して自分らしい人生を表現されることを願うばかりです。

459 The Bible tells us that God was, is, and forever will be and out of this creation has grown the many forms that we see in nature. These ideas can be classed as blueprints or patterns for various purposes, but they can mean nothing as long as they remain as only an idea for action is necessary in order to bring a manifestation.

459 聖書は神はこれまでも、現在も、そして未来永劫に存在し、その創造から私達が自然の中で見る多くの形有るものが成長して来たことを伝えています。これらの概念は様々な目的の為の青写真やパターンとして分類することが出来ますが、それらは一つのアイデアとして留まっている限りは何も意味はありません。現れをもたらすには行動が必要だからです。

### 【解説】

これまで一部の宗教者や信者しか神の存在を認めては来ませんでした。また多くの既存宗教の中には様々な問題があり、目指すべき創造主のイメージを誤って伝えているものも多いように思われます。その結果、中東をはじめとする多くの国で宗教、即ち当事者が想定する神の違いによる争いが大きな問題となっていることは皆様、ご存知の通りです。

一方、本項が言う神とは、実は更に普遍的、宇宙的な存在です。太古から現代、未来に至るまで宇宙全体を支える英知である訳ですが、その作用即ち指導は万物各々に適した内容となっているところが偉大なところであり、暖かい存在でもあるのです。私達がこの存在を自覚しないまま過ごすことは実にもったいないことです。また支援の手を差し伸べて下さる方の目の前を素通りすることは失礼この上ないとも言えるでしょう。

創造主を信頼して、自己の進む方向をその指導の手に委ねること、即ち印象に従う行動をとる度量と創造主への信頼が私達には是非とも必要な要素になっています。

460 Notice that the Creator whom we call God was aware of the ideas in His consciousness but to have the ideas manifest He had to use the elements of the Cosmos in various combinations to bring them into form. As the elements did not have sufficient knowledge to know what kind of form they were to make a command was given by word or frequency to have them form into the desired pattern for a particular manifestation. But the elements did or do have enough intelligence to receive the command that is given.

460 私達が神と呼ぶ創造主は神ご自身の意識の中にあるその創造物に対するアイデア（訳注：「意図」或いは「原型」と訳される場合もある）については気付いておられましたが、そのアイデアを具現化させる為にはそれらを形有るものに変える為、諸々の組合せに宇宙の諸元素を用いなければならなかったことに注意して下さい。諸元素は自分達がどのような形を創ろうとしているのかについて十分な知識を持っていなかった為、個々の創造の現れに対して望ましいパターンにそれら諸元素が形づくられるよう、言葉、あるいは振動によって命令が発せられたのです。しかし、諸元素は与えられる命令を受けるだけの十分な知性は持っておりましたし、現在も持っているのです。

### 【解説】

今の季節（冬）、街路を朝歩いていると様々な形の落ち葉が足元に見えて来ます。それらは役割を終え、本体の木から離れ、その木々は冬支度を終えることとなります。この一つ一つの木の葉はもちろん木々から生まれた訳ですが、1年のサイクルが一区切りの今、風に舞いながら地面に降り積もり、やがて他の生きもの達のシェルターや栄養分として役立つこととなります。

植物の種（しゅ）によって葉の形が異なり、寒暖によって生育の可否も違う訳ですが、同じ種ならば、同様な環境では皆同じ生命のサイクルを紡ぎます。先日も南半球のある都市で高さ30mにも達するようと思われる巨大に成長したゴムの木を見ました。日本では鉢植えにしかない木が、実は環境が適すればそのように大きく成長する潜在能力を持っていることに驚いたものです。

植物の持つ潜在力もまた、本項で言う創造主の贈り物と言えるでしょう。そして何処にあってもそのものに対して創造主が定めた目的を忠実に果たすこと、達成するよう常に努力することにおいて、植物ほど誠実なものはありません。

461 In Genesis we are told that the first Creation was a Void, and without form. That in the second creation forms began to manifest. But we should notice here that the Creator gave a command, or instruction to the spirit which in this case is power, to the small amount of intelligence in the elements to carry out His command. And there had to be intelligence in the elements in order for them to carry out the instructions. You can plainly read in the Holy Writ how the form of a man was created, as well as all things. And there was no doubt in the Creator's consciousness whether a form would manifest or not for there was an absolute assurance that it would. And you can notice that the command was not repeated, it was given once and that was all.

461 創世記で私達は創造の最初は気空であり、形は無かったと伝えられています。そして第二の創造で形が現出し始めたこととされています。しかし、私達はここで、創造主が命令、即ち指示を靈魂、この場合は力である靈魂、そして創造主の命令を実行する為に各元素の中にある微量の知性に対して与えたことに注目すべきなのです。そして、その指示を各々が実行する為に各元素の中には知性が無ければならなかったのです。貴方は聖書の中に万物はもちろん、人間の形がどのようにして造り上げられたのかを率直に読むことが出来ます。そして創造主の意識の中には形あるものが現出するかどうかについて疑念はありませんでした。何故ならそれがそうなるだろうという絶対的な確信があったからです。そして貴方はその命令が繰り返されなかったことに気付かなければなりません。それは一度だけ与えられ、それが全てであったからです。

#### 【解説】

伝えられる宇宙創造の物語における創造主の指示を対する万物の要素との関係について、本項は改めて考察しています。本項の説くところのポイントは、物質側、即ち原子・分子の側にもその創造主の指示を受けるだけの知性と感性があるということでしょう。

また、本文最後に記されているように、創造主の指令は一度だけ行われ、以後は今日までそのままその指令は生きつづけている点も注目したいところです。

即ち、その指令は宇宙の法則となってあまねく宇宙空間に広がり、丁度、梵鐘の音が未永く残響するように宇宙に鳴り響き続けているという訳です。

もちろん、創造主の発した指令が実施的に衰退でもするようなら、創造主は再び何らかのステップを取る筈ですが、創造物達が指令を守り、その意図を汲んだ活動を続ける限りは、創造主は暖かくその者を見守ることは容易に想像出来ます。しかし、その反対に意図した方向とはあまりにもかけ離れた方向に進み、取り戻せない時は、それらを一度破壊して、世の中を立て直すことも創造主の責任と言うことも出来るでしょう。

462 It is this kind of certainty that must prevail within each one of us, knowing that whatever idea we desire will manifest. In other words there must be full confidence in oneself that whatever the idea is, it will be brought forth, not the slightest doubt must enter. Having this type of confidence in whatever one does is having confidence in the Creator and with the Creator there is nothing impossible.

462 私達が願うどのようなアイデアであれそれは現実化することを知った上は、私達各自の中で支配的となるべきものはこの種の確信です。言い換えれば、そのアイデアが何であれ、自分自身の中にそれがもたされるだろうとする完璧な信頼がなければならず、ごくわずかであっても疑念が入り込んではありません。何をやるにせよこの種類の信頼を持っていることは創造主への信頼を持っていることになりまし、創造主と共にあれば、不可能なものは何もありません。

### 【解説】

「想いは実現する」とはよく聞く言葉です。本項は、その本来の意味と動作原理を説いています。

もちろん、私達は神の似姿として創造されており、神と同じように物事を生み出す能力を有しています。この自らの能力に気付くことの重要性を私達はよく自覚しなければならない訳です。

即ち、創造の過程では一切の疑念を挟むことなく創造主への信頼の上に自らの想いを宇宙に解き放つということです。

重要なのは、こうした能力を私達は自身に備えており、創造主に信頼を寄せるように自分自身の中の意識、善なるものが現実世界に発現することのみを願うことです。

463 Now let us review from the beginning of the lessons; First, we will consider the consciousness within which ideas are born. In other words have a conscious blueprint of what the manifested action is to be with full faith and confidence in the ability of consciousness to produce it. Second - you cannot leave the idea in the blueprint and have a manifestation so a command which is the word is given with full confidence in the result. Notice that consciousness is the conceiver and creator of ideas. The Holy Ghost or Spirit is the power and intelligence. And the Son is the manifestation in the Likeness and the Image which the consciousness had and this makes the Trinity. It reads like this in all life - first the consciousness - second the holy ghost or spirit as the religious world has it, and then the manifestation which is the son.

463 それでは教科の最初から復習しましょう。最初、私達はアイデアが生まれる意識について考察することになるでしょう。言い換えれば、現出化させる行動の意識的青写真に対しては、それを造り出す意識の能力に完全なる信頼と確信を持たせることです。第二は、貴方は青写真にアイデアを放置したまま現れを持つことは出来ませんので、言葉である命令が結果への完璧な確信と共に与えられることとなります。意識はアイデアの受胎者であり、創造主であることに注目して下さい。聖なる魂、或いは靈魂と呼ばれるものはパワーであり知性です。そして息子は神の似姿やイメージに向けた創造物であり、これが三位一体を構成します。それは全ての生命においてこう読むことができます。第一に意識、第二に宗教上の言葉が言うように聖なる魂、或いは靈魂、そしてその次に息子である創造の現れです。

#### 【解説】

本項では改めて古来から言われ続けていた創造の仕組みについて解説しています。私達の言う意識の機能が諸々の想念やアイデアを生み出す源泉であること、更にその力を実現させる為の聖霊と呼ばれる原動力、そしてその創造主の似姿をもって生まれた私達についての関係が述べられています。

この中で注目したいのは「言葉」の持つ役割です。古来より日本神道には言霊の思想があったとされています。即ち、言葉には物事を引き寄せ、生み出す力があると信じられて来た訳です。私達もこのように文字に表すことは、想念を言葉で表現することになるのですが、その言葉には創造する力があるとすれば、大いに日常を注意して生活する必要があります。

やたらに言葉にすることは慎み、常に良い面、望ましい方向で言葉を用いる必要がある訳です。まして私達は生来、創造主の似姿としての役割がある以上、質的にも同種の言動をとる責任があるのです。

464 In Cosmic or creative mathematics it would read like this - one and one does not equal two but three. For every time that two principles are put together properly there will be a manifestation which is number three. This also goes back to one - for the three now become as one complete manifestation.

464 宇宙的、或いは創造的な数学では、それはこのように読み取ることになります。即ち1プラス1は2に等しくはなく、3に等しいと。何故なら、二つの原理が適切に協働する時はいつでも、数字で言う3に相当する創造が生まれるからです。このことはまた、一つに還ることでもあります。何故なら今やその3者は一つの完全なる創造の現れになっているからです。

### 【解説】

本項は言うまでもなく、動植物の雌雄の融合による子孫の繁栄についても示すものです。2つの異なる原理とは男性原理と女性原理を示すものであり、男女もしくはプラスとマイナスが協働することで新しい世界、生活が築けるとしています。

この示す内容は各自の日常の生活としては、よく実感出来るものとなっています。協働することで互いをより深く理解し、双方の才能を伸ばすことが出来れば、最高の生活ということが出来ます。

一方、これは男女に関する原理だけではないように思われます。つまり、自分とは異なる想念を持った者と協働して何かを造り上げるような機会についても同様なことが言える訳です。従来無かった概念が生まれ、新しい心境や作品が生み出されるのも、こうした創造作用と言える訳です。

大切なことは、互いに融合し合える柔軟性と包容力ある心境を持つということでもあります。

465 An electric bulb needs the power of both principles, negative and positive, to produce a light. And the feminine and masculine are both needed to bring forth an offspring. This is the law that has and will work through eternity for the reproduction of forms that is everlastingly taking place. There is nothing impossible through this law.

465 電球は明かりを造り出す為にはマイナスとプラスの両方の原理を必要とします。また、子孫をもたらすには女性と男性とが共に必要とされます。これは永続的に続く形有るものの再生産の為、これまでもそしてこれからも永久に作用する法則です。この法則を通じて不可能なものは何一つありません。

### 【解説】

電灯の例も、雌雄による子孫の誕生の例も、これらプラスとマイナスの両面の要素が融合してはじめて現出する創造作用という訳です。元はといえば私達は食料のほとんどを植物から得ていますが、穀類をはじめとする食料は植物の種子や果実であり、植物達のこれら子孫繁栄に向けた創造作用の賜物という訳です。

このように宇宙の創造作用は私達の身近に存在するのですが、日常的に私達はこれら創造作用に気付くことはありません。本講座を自分のものにする為には、少しずつでも身の回りに創造作用を見出し、何よりもご自身の身体や精神作用、日常の行動の中にそれら創造作用を表現するよう努力することが必要です。

ご連絡 [2013-12-27]

本年も長らくご覧戴きありがとうございました。

本日の更新で「生命の科学」第2集目が完結いたしました。

次回更新は年明け6日から、第2集目の「テレパシー」講座を再開する予定です。

皆様、良いお年をお迎えください。

2013年12月27日

竹島正

466 When a mind and consciousness combine in equal proportions man can rebuild his body in perfection of health. And only success can be known through this law.

466 心と意識が等分に結合した時、人はその肉体を完全なる健康状態に再建することができます。またこの法則を通じることによって、ただ成功あるのみです。

「生命の科学」学習講座の最後に記されている一文が本項です。著者が私達に伝えようとした最後の言葉が本項に書かれている「心は意識と協働することではじめて豊かな未来が拓ける」ということです。

目に見えず、耳にも聞こえない想念や印象を授ける不可知な意識の存在を日常どのように感じ取り、その指導に従うかが私達にとっての実践上の課題です。

一方、人々の中には通常の人間の能力から見て考えられないような「奇跡」を遂行する者も居りますし、その者の活動の原理の中には多分にその意識との交流があるものと考えています。芸術家のインスピレーションやその後の作品造りや演奏表現を見ても、到底通常の私達の心では達成出来ないレベルも多いものです。

しかし、一度私達が意識と融合し、自らを宇宙の生命力の源泉が湧き出す経路にまで高め、自身の意思を創造主の意思に委ねれば、私達各々が創造主の華麗な表現者となれる筈です。

本講座はかくも広大で普遍的な役割を秘めており、皆様の引き続きの学習と成果発揮をお祈りするものです。